

# 蒙文通全集

■ 蒙文通 著 ■ 蒙默 編



道教甄微



# 蒙文通全集

五  
道教甄微

■ 蒙文通 著 ■ 蒙 默 編

四川省2013年度重點出版規劃項目  
四川大學「985工程區域歷史與民族研究創新基地」成果



# 目 錄

道教史瑣談 .....	( 1 )
《坐忘論》考 .....	( 15 )
《陳碧虛與陳搏學派》別稿 .....	( 21 )
請撥款刊布近年輯校唐前有關《老子》古佚書 .....	( 23 )
晉唐《老子》古注四十家輯存 .....	( 27 )
附：諸家考略及遺文索引 .....	( 89 )
輯校成玄英《道德經義疏》 .....	( 98 )
校理《老子成玄英疏》叙錄——兼論晉—唐道家之重玄學派 .....	( 98 )
《道德經義疏》序 .....	( 119 )
道德經義疏 上 .....	( 122 )
道德經義疏 下 .....	( 168 )
附錄一：校記 .....	( 222 )
附錄二：敦煌寫本成玄英《老子道德經義疏開題》殘卷 .....	( 226 )
輯校李榮《道德經注》 .....	( 233 )
叙 錄 .....	( 233 )
道德真經注序 .....	( 239 )
道德真經注 上 .....	( 240 )



道德真經注 下	(270)
附：校記	(304)
校理陳景元《老子注》	(306)
校理陳景元《老子注》、《莊子注》叙錄——附論陳碧虛與陳搏學派	(306)
附：陳圖南學譜	(311)
道德經注 開題	(315)
老子論	(318)
道 經	(320)
德 經	(365)
附錄：碧虛真人行事本末	(417)
重編陳景元《莊子注》	(420)
叙	(420)
內篇	
逍遙遊 一	(422)
順化逍遙	(423)
極變逍遙	(424)
无己逍遙	(425)
无功逍遙	(426)
无名逍遙	(427)
適物逍遙	(427)
无爲逍遙	(428)
齊物論 二	(430)
齊 我	(430)
齊 智	(431)
齊是非	(433)
齊 道	(436)
齊 治	(437)
齊 物	(437)
齊死生	(438)



齊同異 .....	(440)
齊 因 .....	(441)
齊 化 .....	(441)
養生主 三 .....	(442)
養性分 .....	(442)
得生理 .....	(442)
遭刑累 .....	(443)
遠樊籠 .....	(444)
釋縣解 .....	(444)
人間世 四 .....	(445)
化 導 .....	(445)
命 使 .....	(448)
師 傳 .....	(449)
不材惡名 .....	(450)
神不矜能 .....	(451)
材致不祥 .....	(452)
疏德養身 .....	(452)
有用致患 .....	(453)
德充符 五 .....	(454)
鑑 道 .....	(454)
遊 內 .....	(455)
務 全 .....	(456)
德 平 .....	(457)
德 忘 .....	(458)
无 情 .....	(459)
大宗師 六 .....	(460)
真人行 .....	(460)
不遷化 .....	(463)
得道妙 .....	(463)



才道相胥 .....	(464)
死生友 .....	(465)
相忘友 .....	(467)
无情死 .....	(468)
遊道域 .....	(469)
坐 忘 .....	(470)
推極委命 .....	(470)
應帝王 七 .....	(472)
不言之教 .....	(472)
无爲之治 .....	(472)
自然之化 .....	(473)
聖人无名 .....	(473)
聖人无常心 .....	(474)
寄 託 .....	(475)
開 兑 .....	(476)
外篇	
駢拇 八 .....	(477)
養正性命 .....	(477)
馬蹏 九 .....	(481)
智慧生僞 .....	(481)
肱篋 十 .....	(484)
絕聖棄智 .....	(484)
刻意 十一 .....	(488)
守純素 .....	(488)
繕性 十二 .....	(490)
恬智相養 .....	(490)
說劍 十三 .....	(493)
神 武 .....	(493)
漁父 十四 .....	(496)

貴 真 .....	(496)
雜篇	
讓王 十五 .....	(499)
治 內 .....	(499)
處 身 .....	(499)
自 得 .....	(500)
高 蹈 .....	(500)
尊 生 .....	(500)
惡 患 .....	(501)
知輕重 .....	(501)
完 身 .....	(502)
遠非義 .....	(503)
遵法度 .....	(503)
守 節 .....	(504)
養 志 .....	(505)
行 修 .....	(505)
趣 高 .....	(505)
樂 道 .....	(506)
羞 辱 .....	(507)
廉 清 .....	(507)
避 世 .....	(508)
盜跖 十六 .....	(510)
率 性 .....	(510)
行 義 .....	(514)
安 處 .....	(516)
在宥 十七 .....	(519)
處无爲之事 .....	(519)
聖人虚心 .....	(520)
清静民正 .....	(522)



无爲民化 .....	(523)
持勝任道 .....	(525)
持後處先 .....	(525)
道无不爲 .....	(526)
天地 十八 .....	(527)
以道均化 .....	(527)
循道爲治 .....	(528)
體道任化 .....	(528)
役心失真 .....	(529)
視聽喪道 .....	(529)
聖人不惑 .....	(530)
明君不愧 .....	(530)
修德復古 .....	(531)
忘形幾道 .....	(531)
不尚賢 .....	(532)
抱朴矯俗 .....	(532)
神人无迹 .....	(533)
均治民足 .....	(534)
至德自治 .....	(534)
忠孝不顯 .....	(535)
民不願惡 .....	(536)
趣舍失性 .....	(536)
天道 十九 .....	(537)
靜 鑒 .....	(537)
有无利用 .....	(538)
本末須道 .....	(539)
堯則天地 .....	(540)
仁義迂闊 .....	(540)
智巧爲竊 .....	(541)

至德不遷 .....	(542)
塵垢書語 .....	(542)
糟魄聖言 .....	(543)
天運 二十 .....	(544)
調攝陰陽 .....	(544)
兼忘天下 .....	(545)
樂和入妙 .....	(545)
道不應時 .....	(547)
受道有器 .....	(547)
大惑易性 .....	(548)
求治則亂 .....	(549)
質 悟 .....	(550)
秋水 二十一 .....	(551)
夸 大 .....	(551)
藏 用 .....	(555)
聖 勇 .....	(555)
曲 見 .....	(556)
養形忘利 .....	(557)
糠粃爵祿 .....	(557)
樂 全 .....	(557)
至樂 二十二 .....	(559)
至樂无爲 .....	(559)
遣情累 .....	(560)
化 空 .....	(561)
兩 謬 .....	(561)
名 實 .....	(562)
化 機 .....	(563)
達生 二十三 .....	(565)
達 生 .....	(565)

專 氣 .....	(566)
一 志 .....	(567)
矜 重 .....	(567)
善 牧 .....	(568)
戒 微 .....	(569)
趣 異 .....	(569)
釋 疑 .....	(570)
不 爭 .....	(571)
習 成 性 .....	(571)
擇 材 .....	(572)
過 巧 .....	(572)
忘 伎 .....	(573)
審 授 .....	(573)
山 木 二 十 四 .....	(575)
顯 晦 在 道 .....	(575)
文 皮 爲 災 .....	(576)
虛 己 免 害 .....	(577)
因 循 成 化 .....	(577)
无 能 遠 禍 .....	(578)
天 屬 相 收 .....	(579)
德 隱 .....	(579)
大 達 .....	(580)
失 照 .....	(581)
自 賢 .....	(582)
田 子 方 二 十 五 .....	(583)
真 寤 .....	(583)
冥 會 .....	(583)
密 移 .....	(584)
才 德 自 然 .....	(585)



踐 言 .....	(586)
內得外豐 .....	(587)
藝精忘形 .....	(588)
詢衆任賢 .....	(588)
有心未妙 .....	(589)
道充不動 .....	(589)
治身保存 .....	(590)
知北遊 二十六 .....	(591)
冲 默 .....	(591)
神 解 .....	(593)
常 道 .....	(593)
可 道 .....	(594)
中 極 .....	(594)
道无不在 .....	(595)
无有一際 .....	(596)
得道秋豪 .....	(597)
淵之又淵 .....	(597)
光景都亡 .....	(598)
守 一 .....	(598)
不先物 .....	(599)
合 境 .....	(599)
背 俗 .....	(600)
庚桑楚 二十七 .....	(601)
去 智 .....	(601)
自 定 .....	(605)
移 是 .....	(607)
禮 僞 .....	(608)
虚 無 .....	(608)
德 性 .....	(609)

拙 僞	(609)
智 籠	(609)
忘形同天	(610)
徐無鬼 二十八	(611)
遷 善	(611)
修 誠	(612)
放 心	(613)
樂 園	(614)
謬 妄	(615)
亡 質	(616)
公 舉	(616)
戒 驕	(617)
鬻 名	(617)
貴 默	(618)
相 形	(619)
外 賢	(620)
偷 安	(621)
自 晦	(622)
棄 數	(623)
則陽 二十九	(625)
抑 進	(625)
止 鬪	(627)
遠 佞	(628)
治 形	(629)
涉 塵	(630)
循 物	(630)
素 定	(631)
究 理	(632)
外物 三十	(635)

无 必 .....	(635)
急 難 .....	(636)
趣 遠 .....	(637)
迹 弊 .....	(637)
矜 驚 .....	(638)
智 困 .....	(639)
无用之用 .....	(640)
流 遁 .....	(640)
内 通 .....	(641)
遠 真 .....	(642)
蕩 性 .....	(642)
忘 荃 .....	(643)
寓言 三十一 .....	(644)
中 道 .....	(644)
時 化 .....	(645)
係 禄 .....	(646)
叙 學 .....	(646)
獨 化 .....	(647)
去 驕 .....	(647)
列禦寇 三十二 .....	(649)
出 異 .....	(649)
自 伐 .....	(650)
内 照 .....	(651)
無 益 .....	(651)
乖 理 .....	(651)
敝 淺 .....	(652)
濫 進 .....	(652)
觀 迹 .....	(653)
察 行 .....	(653)

真 德 .....	(654)
必 達 .....	(654)
竊 祿 .....	(655)
樂 生 .....	(655)
規 葬 .....	(656)
天下 三十三 .....	(657)
儒 道 .....	(657)
墨 教 .....	(658)
明 治 .....	(660)
論 法 .....	(661)
贊 老 .....	(663)
叙 莊 .....	(664)
評 惠 .....	(665)
新校張清夜《陰符發秘》 .....	(668)
新校張清夜《陰符發秘》序 .....	(668)
陰符發秘序 .....	(670)
自 序 .....	(671)
陰符發秘 上卷 .....	(672)
陰符發秘 中卷 .....	(675)
陰符發秘 下卷 .....	(678)
《陰符經》經傳訂正 .....	(682)
附錄一：玄門戒白 .....	(686)
附錄二：青羊宮《陰符經碑》跋 .....	(687)
附錄三：自牧道人別傳 .....	(688)



## 道教史瑣談

道家之學始於晚周，而道教則源於漢末。道家之與道教，初似無大關係，自後世道教徒奉老子為神人，尊老、莊書為經典，道家之與道教遂若不可復分。原其初始，未必然也。道教之始為太平道，而太平道則似源出儒、墨。西漢今文學家夏賀良、甘忠可之流，始作《包元太平經》，是為早期道教經典《太平經》之權輿；蓋本於農民之政治願望而以民俗所奉事之神祇附益之。凡《太平經》所信奉之神如“青童君”之類，舉不見於古載記，亦非漢家祀典所有，故知其為民俗之神（民俗信仰之事，《潛夫論》、《風俗通義》皆略言之）。東漢初年已有“妖賊”，此等農民起義與《太平經》有關否，不可具知，至黃巾則確為太平道，史稱“張角頗有其書（指《太平經》）焉”。由《抱朴子》等書言之，太平道似又與墨家有關<sup>①</sup>，以墨家確為宗教，接近平民，墨固又今文學重要來源之一<sup>②</sup>。唯今之《太平經》已非漢世原書，分析辨證較為難耳。唯其顯為中國傳統思想，尚無印度佛學之滲入（後世道教於教儀、理論皆顯滲有佛教）。湯錫予先生謂：佛教說“自身作業，來生受報（輪回）”，《太平經》則說“子孫受報”，與《周易》同

---

① 《後漢書·襄楷傳》言：《太平經》“以陰陽五行為家，而多巫覡雜語”。今《太平經》與此說符。《神仙傳》列墨子為神仙，且謂著有《五行記》。《抱朴子·遐覽》載墨子著有《枕中五行記》五卷。《神仙傳》又載孫博“晚乃好道，治墨子之術”，封衡有《墨子隱行法》一篇。謂太平道與墨家有關，疑據此。

② 說見《儒家政治思想之發展》、《論墨學源流與儒墨匯合》、《儒家法夏法殷義》。

義，無輪回說<sup>①</sup>。此義最精，亦最顯然者。

張道陵之五斗米道，又稱天師道。於《道藏》，太平道屬太平部，天師道屬正一部，釐然有別。天師道蓋原為西南少數民族之宗教，漢末西南民族向北遷徙，賁人、氐人北入漢中及漢水上游（詳別論）<sup>②</sup>，五斗米道亦於此時入漢中。余研西南少數民族北遷，適以此時林邑、扶南勃興，蓋受其逼迫。《晉書》言：扶南“喪葬、婚姻略同林邑”，而林邑喪葬，“男女皆隨喪至水次，盡哀而止，歸則不哭。每七日然香散花復哭，盡七七而罷。至百日、三年亦如之”。七七、百日、三年之事，中土古代所無（古代三年之喪，二十七月而畢），亦非印度所有。至元魏、北齊之世，君臣已習行之，見於載記。倘林邑、扶南之強，而其教亦入中國，即所謂天師道也。《晉書》又記“五斗叟郝索聚眾為亂”，叟即西南民族之稱，知五斗米教原行於西南少數民族；符籙之事始於張道陵，符籙固非中國漢字也。故余疑其為西南民族之宗教而非漢族之宗教。

神僊之事，晚周已盛。南方（楚）為行氣，稱王喬、赤松；秦為房中，稱容成（此派於東漢時稱彭祖，蓋起於黃君山之說，非其始也）；燕、齊為服食，稱羨門、安期（初為服草木，西漢時已服金石）。余有《晚周僊道分三派考》詳言之<sup>③</sup>。此似皆與老子無關，《莊子》書始有“千二百歲”、“乘彼白雲，至於帝鄉”之說。由莊書論之，殆吐故納新、熊經鳥伸之事（此為行氣派，屈原《遠遊》所言亦此派）。唯《莊子》一書顯非一家之言：有以仁義為美者，有非毀仁義者，有慕長生者，有非短長生者。以《天下篇》言，“生歟、死歟？天地並歟？神明往歟？”又言“上與造物者遊而下與外死生無終始者為友”，知非毀鄙棄長生之說如《刻意》、《繕性》、《至樂》諸篇為莊子之學，而《天道》、《天運》、《天地》諸篇近乎神僊之事者非莊子，則別一道家之學。此神僊三派之事皆與老、莊無關，秦漢言神僊者似亦不及老子，秦始、漢武事極顯然。神僊三派在《漢書·藝文志》中分別亦極明白，且皆不入道家。漢末已祀老子、浮屠於宮中，則老子已顯為神人（司馬談主黃老，言：“神大用則竭，形大勞則敝，形神騷動，欲與天地長久，非所聞也。”此雖以道家與養生為一，但尚未以老子為神）。嚴輯《全漢三

① 參湯先生《讀太平經書所見》，收入《往日雜稿》。

② 見四川大學1938年《周秦民族史》講義附錄《羌氏與賁叟及其北遷》。

③ 載《圖書集刊》第八期，1948年6月四川省立圖書館編輯。

國晉文》內，頗有谷永諸人爭論神仙文字，以至於嵇康、向秀諸人論養生，合而研之，可見其源流。至《抱朴子》，則老子與神僊爲一矣。太平道與天師道人晉後亦漸合爲一。唐、宋注《老子》書中常引《想爾注》，謂張道陵作（敦煌亦出《想爾注》殘卷，存者近半），此與所謂河上公《老子章句》、尹喜《老子內節解》，皆侈言修煉之事。爾後天師道大行，與神僊家、太平道遂若不可復分，以極於寇謙之，而道教之組織、教儀、經典乃大備矣。

今日爲道教史，似可於其哲學理論之外一切姑略置之，或略及之而不必詳悉，一如近世作佛教史僅以思想學說爲主而略其餘。晚周以來之道家，雖不必爲道教，然自魏、晉而後，《老》、《莊》諸書入道教，後之道徒莫不宗之，而爲道教哲學精義之所在，又安可舍《老》、《莊》而言道教。顧道教在中國已近二千年，注《老》、《莊》者亦蜂起翬集，一如歷代儒家之宗仲尼而注五經，其間旨義之同異不可勝究，而言道教史者每混然不分，未能表見各宗各家之面目。吾人讀宋、明《學案》，於周、邵、張、程、朱、陸之宗旨能見之，於陳、王、薛、胡之異同能言之；治先秦諸子者，於墨、孟、荀、韓亦然；治中國佛學者，於三論、瑜伽、天台、華嚴、淨土、禪宗、密宗，亦貴於能分析其異同而批判其得失。若辨淄澠，若判黑白，斯爲足尚，倘於此淆混迷離，亦何貴於思想史。乃道教史之作，於此殆有歉然。余以淺妄，粗涉藩籬，願述其略，至若劉鑑泉先生《道教徵略》<sup>①</sup>所已論及者，不更重複。

歷代道教徒莫不尊老子、注《老子》，故論道教思想當以有關老子之著作爲主。余意《老子》一書，其成蓋晚。黃帝、老子之書，殆皆戰國晚期之作。黃帝書晚作，其事甚明（《漢志》黃帝書有多種，以《隋志》言之，知漢人稱黃老者，指黃帝四篇而言也）。《老子》書蓋取道家言之精要者以爲篇（於道家之結論取其片辭隻語），言多渾淪，含義深富，多針對法家爲說，殆出於戰國法家大行之世。《莊子》書多稱引老聃之言而不見於《老子》，《老子》中之言見於《莊子》者非一，而莊書反不謂之老子，此爲老取之莊，而非莊取之老，蓋後人李耳作書託之老聃耳。太史公故神其事，以李耳即老聃，又以爲即太史儋，又取諸書言老萊子事（如《戰國策》）謂爲老子事，又謂即老萊子，即老子，引“或言數百歲”，斯

① 載《圖書集刊》第七期，1946年10月四川省立圖書館編輯。

皆妄也。凡作經皆戰國晚期事，皆一派學說已臻於圓滿成熟，故後之學者擷其精要而為經，《韓非子》、《管子》書中皆有《法經》，墨家亦有《墨經》。每一學派皆有經，亦且非止一經，《荀子》引道經“人心之危，道心之微”，即是別一道經。儒家六經，亦是戰國末期為之，非孔子刪定（《春秋》或早）。唯《老子》成書亦不能太晚，蓋在荀卿稍前，荀書評老子處皆與二篇旨義符合，《韓非》、《呂覽》所引之文皆在此二篇之中，可以見也。因其書後出，為擷集道家精義之作，故最為足貴。

秦漢問道家之學，司馬談謂“以虛無為本，以因循為用”，此為得其宗旨之全。虛無之說具於《莊子》，而因循之義則田駢、慎到輩主之，於《戰國策》及《天下篇》、《慎子》、《呂覽》諸書可以見之，余別有論述。蓋“因循”者即根據客觀條件之義而反對主觀強持私見之施為，非委靡無為之謂。魏晉之世，王弼、何晏輩乃專尚虛無，故兩漢稱黃老而魏晉稱老莊，迹相似而作用遂大不同。故尋《老子》古義不得不以晚周兩漢之說為主。近世楊樹達先生作《老子古義》，用意略同，然拘於清人考據成規，悉以明文同於《老子》言句者乃取之，而於義理之顯可以釋《老子》者皆遺之，斯為不足。如《老子》“學不學，復衆人之所過，以輔萬物之自然而不敢為”，此以劉向《新序》之說解之最合：意謂人之為學，即是學此“不學而知、不慮而能”者，此即天之所以與我者；衆人之所過，則皆為外鑠而非我固有，“復衆人之所過”即為復人之所固有，故一切適應萬物客觀之自然而無矯揉造作，此亦即因循之義<sup>①</sup>。如言“以其病病，是以不病”，以《莊子》所載“里人有病”釋之最當：《莊子》稱里人有病，鄰人視之，里人雖病，但能將其病狀告其鄰人明確不誤，蓋其知病之知覺實未嘗病。則《老子》之意謂聖人自知其病，以病患為自心之病，故聖人不病而事事皆當<sup>②</sup>。《老子》“貴以其身為天下者，若可以託天下”二句，以子華子對韓昭僖侯說之最契：子華子謂左手攫之則右手廢，右手攫之則左手廢，雖攫而與之天下，人必不為；蓋視其身較天下為貴，貴身重於貴天下之人，然後可以治天下，以譏昭侯勞身焦思以為

① 疑指《新序》五：“故凡學非能益也，達其性也，以全天之所生而勿敗之。是謂善學。”此文又見《呂覽·尊師》。

② 疑指《莊子·庚桑楚》：“里人有病，里人問之，病者能言其病，然其病病者猶未病也。”



一韓國，此可見《老子》之意謂貴其身於天下者然後可託以天下<sup>①</sup>。以古義解古義，惟求義合，何必拘於文句如清代講經之法。於《莊》、《呂》、《淮南》一切之書，求其義之可以釋《老子》者，取之以補楊先生書之未足，則庶幾於得《老子》之本義。惟《老子》爲道家之精要結論，多片詞隻句，文義每渾涵不明，自須以古義釋之。又有因五千刪損過多而義晦者，如今本“知不知上，不知知次”，其原文實爲：“知而不知，上也；不知而知，次也。”意本明顯，不煩訓解。如此之例甚多，能校求一古本，即可是正也。

《老子》書傳本亦爲重要問題之一，今世所見，惟傳奕、范應元（見《正統道藏》及《續古逸叢書》，惟《道藏》有誤字）稱古本，唐刻石經及敦煌寫本，皆不足據。後來校本紛紛，應無一是。武英殿聚珍王弼注本云從《永樂大典》出者，及細校之，乃同於吳草廬本；殆洪武御注據吳本，《大典》當首列御注而王注附其後；謂《大典》爲王本，紀曉嵐輩之誤也；即以聚珍爲王本，畢秋帆之誤也。浙刻王注爲黃以周校，云從華亭張氏本者，殆用《四庫提要》語（張之象《三經晉注》之說），且用覆聚珍本爲據而刪其校語，比原武英殿本且經有脫句，知爲欺人語耳。近時人知王本非王弼原有之經（亦取之日本人說）則是，而謂爲河上公經則又誤，此實本之開元御注之經。六朝時有五千文本，顯依河上本而刪改之，僅存五千文，而實四千九百九十有九文，且多訛誤，道教徒多用此本。開元作注，以五千文句省略，取舊本益二百餘字，於其誤者未能盡改正之。若王弼原本，依謝守灝《混元紀》所述實有五千六七百字（董思靖《道德經集解》即取謝說），則《道藏》所收晁說之刻王注本亦非王之原本，其經文顯依開元注本；謂王本受河上公影響者，實二本同出開元，開元又出五千文本耳。今世凡有三宋刻河上公本，經既非河上之經，章句亦非河上之全。於《羣書治要》、馬總《意林》二書引《老子》文考之，見注爲河上，知經即河上之真，如“知我者希，則我貴矣”，章句義亦符；乃開元本作“則我者貴”，文義亦且不通，此顯爲據五千文本。後來所見王氏、河上之本皆爲“則我者貴”，故知今世所見王、河之本實皆依開元本。唐人石刻及敦煌寫本皆不出五千文及開元御注，自然

<sup>①</sup> 事載《莊子·讓王》，又見《呂覽·審爲》。

全無是處（敦煌亦有別本，同爲訛本，亦不足據）。《河上章句》，於《治要》、《意林》兩書外，唐人書亦恒引之，校現所見三種宋本，於注悉有刪略，亦無一是。唯傅、范二家所稱古本《老子》，此不關汗簡諸書“古文《老子》”事，即謂魏、晉注家古本耳。開元注後，政和御注又依開元，於是唐、宋注家大率依二御注爲本，此五千文本同爲當時之今本，傅、范二家從魏晉之舊，故云古本，然亦終不復見五千七百之舊也<sup>①</sup>。魏晉間爲學術一大變局，王弼、何晏之流講《老子》亦一大變。湯錫予先生《魏晉玄學論稿》於王弼之學闡發精闢，前未曾有，此不詳論。何劭之《王弼傳》（見《三國志·鍾會傳》注及《世說新語·文學篇》注引）述記王學，亦可見王氏之旨要。王《與荀融書》爲王學之本體，而難何晏“聖人無喜怒哀樂”爲王氏之工夫（亦兼本體），蓋此一家之主旨，爲讀王注之綱宗。湯先生對向秀、郭象之學所見亦精，惜未寫出。王注亦多訛脫，予舊有校本，差可研讀。

《道德指歸》非嚴君平作，但不如《四庫提要》依曹學佺《玄羽外編》所云：“近刻乃吳中文士所僞作。”考唐強思齊、宋陳景元所引之文皆同今本，《提要》所云，不攻自破。《漢書》僅言“君平依老子、嚴周之旨，著書十餘萬言”，此君平自有書，但似非今《指歸》。《華陽國志》言：“君平專精大易，耽於老莊……著《指歸》爲道書之宗。”於此知指歸出於永和以前。《漢書·司馬遷傳》顏師古注引晉灼注中有兩處稱“嚴君平曰”，皆見今本《指歸》第七卷；由顏說知晉灼永嘉前人，僅次韋昭之後，是《指歸》爲永嘉前書。《三國志·秦宓傳》言：“嚴君平見黃老作《指歸》。”秦宓、晉灼時不相遠，所見必是一書，則《指歸》漢晉間人所作，故文辭與阮籍之儔相近。皇甫謐爲晉武帝時人，其作《高士傳》僅言“嚴遵閉肆下簾，以著書爲事”，不言著《指歸》，殆士安未見《指歸》之書而秦宓見之，倘此書漢末蜀之隱君子所作，故託於君平，漢末分崩，僅傳於蜀，秦宓、常璩皆蜀人，故得見之耶！嚴、王兩家當同時，或《指歸》稍早，故杜光庭謂其以虛玄爲宗，又謂其“明理（治）國之道”，此猶爲漢世道家，不同於正始清談之風，尚有古人餘意。余嘗輯其佚文以補今本之缺<sup>②</sup>。

① 另詳《王弼老子注初校記》，載《中國歷史文獻研究集刊》第三集。

② 載《圖書集刊》第八期。

《老子河上公章句》自不得爲周、漢古籍，《太平御覽》引嵇康《高士傳》云：“河上公，不知何許人也，謂之丈人，隱德無言，無德（得）而稱焉。安丘先生等從之修其黃、老業。”既云“無言”，則不得有《章句》之作。皇甫士安《高士傳》云：“河上丈人者，不知何國人也，明老子之術，著《老子章句》。”則士安固已見《章句》一書，而嵇康未之見，殆《章句》正出於二氏之間。此書固非深於學之所爲，詞意鄙淺，雜以煉養之術，與左元放、葛仙翁之流爲近。老子之合於神僊，此書當爲之首，後世羽流皆宗之。所謂《老子想爾注》、《老子內節解》之流皆出於此（校其文字異同可知）。余以《羣書治要》、《意林》校之，又以強思齊、顧歡（實李榮）兩家所引校之，知今所傳宋本皆非全。敦煌有寫本殘卷，實未刪之本，惟存者無多。海東舊寫本殆五六種，或可信爲唐人面目，惜未之見。

上述三家，可謂魏、晉間道家三派，斯時名理之論極於一時，分別尋究此一時期道家之學，最可觀。

何晏、王弼以虛無爲說，大倡玄風，干寶、孫盛皆力反清談，而孫作《老聃非大賢論》最有卓識，孫又作《老子疑問反訊》，據《老子》“兩者同出而異名，同謂之玄”，駁舊說及王弼解，謂“宜有欲俱出妙門，同謂之玄，若然以往，復何獨貴於無欲乎！”文見《廣弘明集》，此誠深得老氏之旨，亦中何、王之失，據經文以斥解說之家，殆難答辯。杜光庭記晉、唐注老者六十餘家，總爲六宗，謂“孫登以重玄爲宗，宗旨之中，孫氏爲妙”。杜以孫登爲魏人，殆疑與嵇、阮同時居蘇門之孫登，此爲大謬。注《老》之孫登乃東晉人，見《經典釋文序錄》，即孫盛之侄，“少善名理”，重玄一宗始於孫登，殆即答孫盛之難。杜光庭稱“明重玄之道”十一家，有唐初道士成玄英、李榮。成玄英有《莊子疏》，今存；又有《老子疏》，今佚；李注《老子》，亦僅存《道經》一卷。余從唐、宋注家所引成、李之說裒輯之，合之敦煌殘卷，成、李二家已亡之籍，於今幸有完書<sup>①</sup>。《成疏》云：“有欲之人，惟滯於有，無欲之人，又滯於無，故說一玄以遣雙執……此則遣之又遣，故曰玄之又玄。”《李注》云：“定名曰玄，借玄以遣有無，有無既遣

<sup>①</sup> 輯校成玄英《老子義疏》六卷，1946年由四川省立圖書館石印。輯校李榮《老子注》四卷，1947年由四川省立圖書館石印。

……故曰又玄。”初不解孫登重玄爲何義，及既讀成、李之書，然後知孫登立論之旨。此誠足破安國之《反訊》而再振玄風，然已高出王、何之上。百非雙遣二邊而取中道，則已顯爲釋氏中觀之旨也。正始清談，東晉而下，湮滅不聞，然道家則依然盛行，及觀二孫論後，乃知重玄宗出，清談遂微，宜矣。而道家亦遂與佛氏三論宗有合流之概。鳩摩羅什爲般若一家大師，亦注《老子》，其弟子慧觀、慧嚴亦皆有注。羅什注“損之又損”云：“惡者非也，善者是也，既損其非，又損其是，故曰損之又損，是非俱忘。”般若之學入於道教而義益圓滿，遂冠絕羣倫矣。此宗又解“希、夷、微”之說爲三一訣，亦有大小二孟諸家之說，備見《雲笈七籤》。

晉魏六朝《老子》古注，《經典釋文》所取者少，而存於顧歡《道德經注疏》及李霖《老子取善集》者稍多，其餘諸家亦略有徵引，薈爲一帙，亦有可觀。阮元知顧氏注疏之非齊時顧歡則是，但謂據《玉海》及《郡齋讀書志》“有岷山道士張君相三十家《道德經集解》……頗與是書合，則爲君相所集無疑”。自阮元之說出，劉承幹諸家悉依之，此殆非也。余以顧書稱引者校之，君相三十家僅十七家見於顧書，餘十三家皆無其說，亦無張君相一言。而別有“御曰”，爲開元注；有“想爾”，爲張道陵；有“陳曰”，爲陳嗣古；有“王曰”，多解《河上章句》義，則杜光庭所謂道士王玄辯作《河上公釋義》十卷者；有“榮曰”，以李榮注校之皆合，則爲李榮；此皆溢出張君相三十家之外，則顧氏注疏不得爲張氏《集解》明矣。《唐志》有任真子李榮《道德經集解》四卷，此書所引各家之說皆稱引其姓，獨“榮曰”稱名，則此爲李榮《集解》非張氏《集解》也。李爲唐高宗時蜀之綿州人，余別有考<sup>①</sup>。李霖《取善集》所錄各家古注中有張君相十數條，知李氏所采古注乃爲本之張氏《集解》也。杜光庭謂張爲岷山道士，則亦蜀人。晁氏《讀書志》云“意張爲天寶以後人”，蓋非也。《史記·老子列傳》張守節正義引張君相言“老子是號非名”云云，守節《自序》言“於開元二十四年殺青斯竟”，則君相又開元以前人也。張、李皆蜀人而又略同時，但李榮書唯有己說而無張君相說，張書亦惟有己說，三十家中無李說，而皆有成玄英，斯不可解。以李、張兩《集解》所存古注而輔以他書徵引，依清人之法作《老子新疏》，

<sup>①</sup> 見《輯校〈老子李榮注〉跋》，載《圖書集刊》第八期，1948年6月四川省圖書館編印。

以存六代唐初古義，成氏舊疏，合者取之，亦甚可觀。蓋唐初道家能承六代學術傳統，此作亦媲美於孔、賈之疏經。范應元集注亦存六代古義、古本，可並取之。范爲蜀之果州（南充）人，傅增湘前輩亦未考之<sup>①</sup>。

言佛學史者，論東土大乘之盛，首爲中觀宗（三論宗），繼之者爲天台宗（法華宗），後則爲禪宗。余觀道教之發展亦與此有關。上已述重玄一宗殆擷取般若之精，而唐世坐忘之說昔人顯謂其出於天台，而金、元之全真則禪宗也。《玉潤雜書》言：“道釋二氏，本相矛盾，子微（司馬承禎）乃全本於釋氏，觀七篇叙（《坐忘論》）可見。而《樞》一篇尤簡徑明白，略謂夫欲修道，先去邪僻，端坐內觀，但滅動心，不滅照心，定而慧生，此真慧也。此言與智者所論止觀實相表裏，子微隱天台山玉霄峰，蓋智者所居，知其源流有自。”（節引）此子微之學出於天台，昔人先有其說也。《玉潤雜書》又言：子微作《坐忘論》七篇，又爲《樞》一篇以總其要，而別爲三戒、五時、七候。今《坐忘》七篇具存，獨缺所謂《樞》一篇。曾慥《道樞》有《坐忘論》上、中、下三篇，其中篇則《天隱子》，而上、下兩篇則皆子微《坐忘論》，其上篇適有三戒、五時、七候，下篇有“定心之上，豁然無覆”云云，考之《玉潤》所記，知亦爲《樞》一篇之語，則子微此篇亦可求也。曾慥書《至游子》曰：“吾得《坐忘論》三焉，莫善乎正一。（子微）先生曰：‘吾近得見道士趙堅《坐忘論》七篇。’”知《坐忘論》有三家，正一、天隱、趙堅也。《天隱》書今存《道藏》，乃反不如《諸子彙函》本之完整。趙書則不可具知，乃《道藏》中有趙志堅《道德經講疏》六卷而書不完，杜光庭則謂趙堅作《講疏》六卷，知趙志堅即趙堅，爲唐人，或以爲宋人者誤也。志堅之《疏》言“觀有多法，今略言三；一者有觀，二者空觀，三者真觀”云云，此即智者天台之三觀也。司馬子微七篇，其五曰《真觀》，與志堅同，則《坐忘》源出天台，事更明著。張右史（耒）《送張堅道人歸固始山中序》曰：至柔“教余以養性之妙，其言曰：‘大道甚簡，守心而已，守心無他，守一而已。……是道也，智者得之爲止觀，司馬子微得之爲《坐忘》，皆一道也。……今人忽之，乃苦其形骸，妄想變怪，吞餌金石，去道遠矣。’”是止觀、坐忘，其道無二，固非一人之私言，張至柔之言稍詳。案其全文，與范應元書引朱桃椎之說悉

<sup>①</sup> 疑指傅氏《宋代蜀文輯存》未錄范應元而言。



相合，朱爲唐初人，豈天台之道，朱氏早已入之道家耶！劉鑑泉先生言：“唐以還，道教諸名師皆明藥之非草，長生之非形軀，不言白日昇天矣。”道家言殆至是而一大變，張至柔所言即其義；陳景元諸家亦然，後更論之。至是而內丹事盛，外丹皆在所屏棄，此亦道教之一大變也<sup>①</sup>。

唐代解老之家頗重成、李（重玄宗），而宋代則重陳景元（碧虛子），於徵引之多可以概見。此風會之一變也。楊仲庚言：陳景元“師事天台山鴻濛子張無夢，得老子心印，有《道德經藏室纂微篇》，蓋摭諸家之精華，而參以師傳之秘”。《高道傳》載：張無夢“好清虛，窮《老》、《易》，入華山與劉海蟾、种放結方外友，事陳希夷先生，無夢多得微旨”。始知碧虛之學爲希夷之微旨，三人並博學有文章，此不具論。陳搏（希夷）之學傳之周、邵、劉牧，爲太極，爲先天，爲河圖、洛書，盡人知之，若希夷全爲象數之學；周子於二程，其學若不相同，後人不免以至二程始爲理學之正。此論亦深。至及余校碧虛《老子注》，觀其所常用之詞語，所常用之經傳文句，及其思想旨要，則全同於二程，乃與周、邵之文不類。由碧虛之書，然後知二程之學實爲希夷之傳；周、邵之書拘格於文體（周、邵用文言，二程用語體），不能盡其微意，遂若二程過之耳。以碧虛《老子注》校之理學而研究之，於其同處可以見陳搏之精髓，於其異處亦可見儒、道終有辨，分析其異同而批判其得失，此道教史一大事也。余校碧虛《老子注》，知有先後二本之殊，但僅文辭繁簡不同，無他出入。又從褚伯秀書中輯出碧虛《莊子注》，亦可當完篇<sup>②</sup>。碧虛又注《西昇經》、《度人經》，余亦鈔出其文，可以供研討。劉海蟾下有張伯端、晁文元，皆有著作傳後。文元之言曰：“出世之人，以死生爲晝夜而性如故，是以視死生而無怖。”則長生說亦無取，其遠源所屆，則所謂南宗五祖；然南宗祖《參同》，傳《悟真》，又未必文元之旨，於碧虛亦有別。至葛長庚、彭鶴林，又皆注《老子》，綜合研尋，亦可得見此一大派之宗旨及其演變。

北宋儒學，顯有三派，爲洛學、新學、蜀學，皆於六經有解，各自樹立。洛派唯司馬光注《老子》，二程理學一派則排斥佛、老，至荆公新學、東坡蜀學，

① 另詳《〈坐忘論〉考》。

② 另詳《陳碧虛與陳搏學派》。

皆深入於佛、老，雖不屬於道教，然實為道家之學。南宋道士即多取荆公一派以及朱子之說，其光光相潤，互為影響，所係亦巨，為究道家學術思想者所不可忽。蘇子由作《老子解》，合佛、道為一，東坡最稱其書，此為蜀學，後來林希逸祖之。荆公最信奉佛、老，至舍其金陵居宅為報寧寺，寺宅數十畝，陂池環之二百餘畝，舍田為常產數千畝。見黃潛《報寧寺記》。荆公注《老子》最有精義，其解“三十幅共一轂”章即集中之《老子說》，立義甚辯，余輯其佚文散見羣書所引者寫為二卷，第十一章以前尚為全文<sup>①</sup>。承其流者王雱、呂惠卿、陸佃、劉涇之徒，皆注《老子》，亦有注《莊子》者，稱為崇寧七家或五家。李彥平遺書稱呂吉甫大悟性命之理，故其老、莊二解冠絕諸家。此派著作存者獨多，於褚伯秀等書中亦可得各家《老》、《莊》注，猶為完璧，倘校輯之，所獲亦富。此與政和御注不無關係，唯林靈素輩風斯下矣，不足以玷荆公。劉恕《通鑑外紀自序》謂：本朝“承平日久，人愈怠惰，《莊子》文簡而義明，玄言虛誕而似理，功省易習，陋儒莫不尚之，史學浸微矣”。此言實有所指；則以宋世風習，人好深湛之思，其不入儒家義理之學者，皆折而入於《老》、《莊》，王雱、呂惠卿輩皆並注《莊》、《老》，道原（恕）所憎即此等人，而以為功省易習、人之怠惰，則亦非平允之論。

宋代注《老子》者至多，正統收入《道藏》亦富，其不收入而尚存於今者，以余所知，惟呂知常、范應元二家而已。其不注《老子》而於《老子》之學最有關者，朱元晦也。朱子於《陰符》、《參同》皆有述作，雖不注《老》，而董思靖、范應元各家之注，引用其言實多。朱學盛行一世，影響甚大，可於各家注中輯出朱子之文，更求之《語類》及《大全集》，取其論及《老子》者裒為一帙，其文必豐。南宋道士尊崇朱子既不乏其人，亦可考而尋之。至元、明朱學之裔若趙秉文、薛蕙諸家，亦可附而論之，以見一派之旨。

陳援安先生考河北三道教，述金、元間新道教最悉<sup>②</sup>。三派之中以全真最盛，後來道流大率為此派；雖茅山、正一之流其傳不絕，要為已陳之芻狗，不足言也。全真之初，未必專屬道教，蓋以《金剛》、《道德》、《孝經》為主，此固三

① 載《圖書集刊》第八期，署名馮璧如。馮君時職任四川省圖書館，繕錄之勞，馮居多。

② 詳陳氏《南宋初河北新道教考》。

教合一也。金、元南下，漢族被其壓迫，借宗教以自保，元人尤重宗教，教徒可幸免於奴僕，相聚爲教，自耕而食，以三經爲訓，而存固有之文化，其事如此，鑑泉先生曾言之也。《弇州續稿·書中和集後》謂：“此書於一切丹藥、吐納、《參同》、《悟真》之類，皆指爲旁門小道，而究其指，多出禪門。”唐、宋以來，禪宗既盛，儒者吸取其言爲理學，全真又吸取禪宗、理學以爲道，全真起於北爲北宗，而宋以來之道教存於南宗，北宗言修性，南宗言修命，而事有異。三教之說，溯其源固各不同，不可得而合，其末流相爲取益，又似不可得而分。自以禪入道而義愈精，先唯言煉精、煉氣，而此極於煉神；先唯言修命，而此重於修性；故弇州有談龍之感。此宗李道純、杜道堅之流，亦注《老子》，則北七真一派之旨也。全真於明永樂間始至武當，自張道貴、張守清後，武當一派遂行於兩浙、荆湖、滇蜀，亦兼修清微、正一之法，南北二宗又混而一，則武當非全真之舊矣。清初武當道士入蜀者先後有三人，唯張清夜有著作，余從鄧少琴先生得其《陰符發秘》舊鈔本，禪宗之旨儼然可見。若其《玄門戒白》一篇，已多據南宗爲說矣。

明人注《老》者，《四庫》亦有所著錄，但以書不易求，於《道藏》外余所見者不過四五家，而作注之人所係之宗派亦未易考，故余未能究其學。惟此等書中多引李息齋、吳草廬。吳澄（草廬）事顯，不必論。若焦竑之《老子翼》，即取李說爲多，又多取李卓吾之說，明時姚江一派《老子》之學，此或可以當之。息齋爲李嘉謀，南宋淳熙間進士，《陳止齋集》亦見其人，《魏鶴山集》於《承議郎通判叙州李君墓誌銘》略述息齋事，蜀之雙流人也，亦此足以見一家宗旨。息齋別有《先天道德經注》，書足信否不可知。至清代則考據之學盛行，不復措意義理，《老》、《莊》之書殆少致力訓詁校勘之事，畢沅外，魏源書稍流行。及清末，始有王、郭釋《莊》，惜都無勝義，外此無聞。世與相忘久矣。惟丹經之類清初尚有作者，坊間可見數種，於說理處尚不謬。殆清既入關，碩學之士或自竄於山谷，託迹於二氏，故每有作者。其入於釋者，其人其事尚可知，而入於道者則難稽考，惟方術終爲小道，不過志在冲舉，不論可也。

《四庫提要》言：“後世神怪之迹，多附於道家，原其本始，則至於清靜自持，其後長生之說與神僊家合爲一，而服餌、導引入之，房中一家近於神僊者亦入之，《鴻寶》有書，燒煉入之，張魯之教，符籙入之，北魏寇謙之等又以齋醮

章咒入之，大抵多後附之文，非其本旨。”此亦略舉道教之要，而皆於學說思想之變少所關係。作道教史，僅可涉及，無庸縷陳。惟晉、唐醫學若葛洪、孫思邈之倫，頗相干涉，以服食之術於醫爲近，但應別爲一事，不容混并於宗教。其他廣爲論列、不限於一隅而可資考證者，於晉則《抱朴子》；《雲笈七籤》頗記唐代有關道教事；至曾慥《道樞》，論宋以來事，比之《七籤》所述更爲精要。《神僊傳》一書，於古之僊術亦可考見。《真仙通鑑》亦足以稽源流，誠研羽所不可廢（至於釋氏之注《老》、《莊》者，其事亦可隨有關論題附之，不足專爲論列）。王圻《續文獻通考·方外考》亦足資考證、有裨選述之作。《圖書集成》雖雜湊，清時人最輕視之，以漢學家視之誠無足取，若究論唐宋以後道教事，於此取材，亦多且便也。

余往時稍瀏覽各家《老子》注，因鈔其序跋及有關之文，擬依朱彝尊《經義考》之例作《道德經考》，於各史《藝文》、《經籍志》中考其目，於現存各書中錄其序，其已佚之籍則於各家文集之類求其叙跋之文，此事若徒爲資料、爲糟粕，而實亦爲綱要、爲精華。以儒家言之，秦、漢至于明、清二千餘年，學術之變亦多，派別亦復紛歧，然決未有一派之中曾無人注六經者，於注經之家即足以見各派之宗旨，於《經義考》求之，一部經學史略具於是也。至於道教，何獨不然。未有一派之中而無人注《道德經》者，於此考之，而道教思想之源流派別發展變化亦略具於是也。惟余爲之未竟，亦未及於《莊》、《列》之書，應續爲之，亦應遍及於道家著作。惟道家最駁雜，然其時代皆若可求。若其目見於《隋志》，而文見於《羣書治要》、《意林》者，此隋以前書也。若見稱於《抱朴子》者，此晉以前人書也，如《列子》、《文子》、君平《指歸》之例。《指歸》中恒稱“莊子曰”，此莊子指君平，倘漢末學者采君平之說以作《指歸》，如《文子》、《列子》比耶！至《亢倉》、《關尹》，不見《隋志》、《意林》，則顯爲後來之作。道家之經多出於後代，某時見一經、盛行一經，即足以見此一時之思想與風氣。如《西昇經》，六朝後期道士常注之，唐初道士常用之，此一時也。《陰符經》出於唐之中葉（褚遂良作之說不足信），此又一時也。《常清靜經》出於元而顯於元，自全真派之事也。於此求道教史，考後出一切之經初見何時，亦一要事。倘能爲《道藏》羣籍作一書目提要，正不必期於全部完成，疑則缺之，此亦治道教史之一助也。

青城山煉師易心瑩赴北京道教協會歸，云會中決定分工四川寫道教史，

師以蜀人唯文通等數人知此答之。師過成都，訪余未遇，後青羊宮煉師張覺塵舉以告，余聞之悚然曰：蜀究道家言者，余知唯劉鑑泉先生，惜鑑泉年少於余而早已謝世，其門人惟夏雨膏諸君能紹其學，劉著《道教徵略》，精深博大，其遺稿即夏君整理付余者。余神衰目眊，所學復未充，何足以言此。偶與夏君相遇，談及此，因以余所涉及者質之，夏君謙退，以余言錄筆記中，復寫別紙寄余商訂，乃因其所記，補苴一二，以爲此篇，竟三日乃得成。道教包羅廣博，茲之所論，誠所謂掛一漏萬，即開元、政和兩御注，及乎杜光庭、江澈等之書，胥未道及。以余於書多所未究，或讀之而未能知其要，則皆不敢論，非敢妄有所取舍也。然其派別所系之重者及其統緒，僅就余所涉及略陳應究之目於此，至於擴充補正，是所幸於博學方聞君子。

蒙文通 一九五八．八．三〇

先君此稿寫就，曾命默略事整理，稍有改易。但整理稿於“大躍進科研成果展覽”後，竟爲有心人取去，百尋不得。先君對此嘗莞爾而笑曰：苟斯人誠能讀此，雖取之可也。蓋慨嘆世之鮮治此學者也。《中國哲學》來徵稿，竊欲整理而後付之，然先君既已棄養，懼整理後有失本真，因謹據原稿繕錄標點一過，題爲《道教史瑣談》，於其明顯脫漏筆誤處略增易數字，於《道藏》、《漢志》諸習用省略語，皆一仍其舊，於段落次第稍作調整，並附簡注十數條，冀其能有便讀者，不自審其有當否也。

蒙 默

1979年12月

原載《中國哲學》第四輯（1980年10月），茲據整理。

## 《坐忘論》考

《玉潤雜書》言：“司馬子微作《坐忘論》七篇：一曰《敬信》，二曰《斷緣》，三曰《收心》，四曰《簡事》，五曰《真觀》，六曰《泰定》，七曰《得道》。”又言爲《樞》一篇，以總其要，而別爲三戒：曰《簡緣》，《無欲》，《靜心》。且謂“得道者心有五時，身有七候”云云。《坐忘論》今存《正統藏》，七篇無缺，獨所謂《樞》一篇、三戒、五時、七候則不可見。是仍不可謂無缺也。吳筠《玄綱論》今亦猶存《道藏》中，此皆唐世道家言之足貴者。碧虛子（陳景元）《道德真經藏室纂微篇》卷六引《玄綱論》云：“功欲陰，過欲陽，功陰則能全，過陽則易改。”薛致玄《道德真經藏室纂微手鈔》卷下謂爲《玄綱論·立功改過章》，備引其殆百言。今《玄綱論》無之。是《玄綱論》亦多缺文。《道德真經玄德纂疏》中《道可道章》所引成玄英疏中竄入五百餘言，首尾皆爲《玄綱論》，而中一段不可知者，殆亦《玄綱論》之佚文也。曾慥《道樞》中有《坐忘論》上、中、下三篇，其中篇則司馬子微《天隱子》也，其上、下篇皆子微《坐忘論》，上篇言三戒、五時、七候，知爲《樞》一篇之文。而下篇有：“定心之上，豁然無覆；定心之下，空然無基。”驗之《玉潤》所記，則亦《樞》一篇之文也。然則上下二篇舉凡不見於七篇者，殆皆《樞》一篇之文也。《道樞》載《至游子》曰：“吾得《坐忘論》三焉，莫善乎正一。（司馬子微）先生曰：吾近得見道士趙堅造《坐忘論》七篇，其事廣，其文繁，其意簡，其辭辨。”是《坐忘論》有三：天隱、趙堅、正一三家也。《通志》復有吳筠《坐忘論》一卷，而文無所徵見，

豈鄭氏之誤歟？《天隱書》今存《道藏》，而文有奪佚，翻不如《諸子彙函》之完整。趙《論》不可得見，《道藏》中有趙志堅《道德真經疏義》六卷而不完，《道德真經廣聖義》記箋注六十家有法師趙堅作《講疏》六卷，則志堅即趙堅也。或以趙志堅爲宋人者，誤也。志堅之《疏》云：

觀有多法，今略言三：一者有觀，二者空觀，三者真觀。一有觀者，河上公云：以修道身觀不修道身，孰存孰亡，鄉國天下例然。但以存亡有迹，觀迹以知修與不修，故云有觀。二空觀者。觀身虛幻，無真有處。《定志經》云：要訣當知三界之中，三代皆空，雖有我身，皆應歸空，故云空觀。三真觀者，則依此經爲觀，當觀此身，因何而有，從何而來，是誰之子，四肢百體，以何爲質，氣命精神，以誰爲主，尋《經》觀理，從道流來，初經一氣，次涉陰陽，道布爲精神，元和爲氣命，陰陽爲質緒，大道爲都匠，總此數物，陶冶成身。心是陰陽之精，而爲嗜味之主，神是至道之精，而爲氣命之主，一身之用，無不周矣。諸緣共聚，各有精粗，精者爲賢聖，粗者爲庸愚及諸鳥獸，皆遇然耳。此謂初生，從此以後，則以形相生，有識無情，各自爲種，蓬惡漸起，續以成業，草木無情，種性不易，人獸有識，隨業流轉。以此文理，次第審觀，歷歷分明，知道爲母，道既是母，己即道子，識母知子，應早歸母，故文云：“天下有始，以爲天下母，既得其母，以知其子，既知其子，復守其母。”此誠真理，非明慧不知，故云真觀。以是當須自愛自惜，不墜道風，專心事母，竭誠孝養，不可縱情貪染，輕入死地，將道種性，淪沒三塗，既知有母，不可安然，有意尋求，先須知母所在，作何相貌。今且當觀母之爲物，既不是有，又不是無，來無所從，去無所適，離諸色象，不可以相貌求，出彼空有，不可以方所定。迎不見首，隨不見後，恍惚如失，不知所之。觀母既知神妙莫測，實可尊貴，深憶深思，勤行法則。法則之要，事須異俗，不得住有，不得住無，空無所據，孤然不動，久而又久，不覺怡然如有所得，向心比母，安措之法，虛靜相類，心既類母，與一和同，道至神怡，故如有得，心冥此地，則是弱喪至家，玄珠已得，萬事畢矣，餘何所求！身既如是，次觀家國，乃至天下，上從真聖，下及虻蟲，同母共氣，一法性耳。孔懷兄弟，未獨爲親。故《西昇經》云：“道非獨在我，萬物皆有之，萬物不自知，道自居之。”以身觀身，要在於此。（《道德真經疏義》卷五）

此所云三觀，正佛門天台宗三觀之法。司馬子微《坐忘》之五曰《真觀》，即由此出。趙堅《坐忘論》不可見，然觀於此，而其大要可知也。《玉潤雜書》言：“道釋二氏，本相矛盾，而子微之學，乃全本於釋氏，大抵以戒、定、慧爲宗，觀七篇叙可見。而《樞》所載尤簡徑明白：‘夫欲修道，先去邪僻之行，外事都絕，無以干心，然後端坐內觀，正覺一念起，即須除滅，隨起隨滅，但滅動心，不滅照心，俱冥虛心，不冥有心，不依一物，而心常住，定心之上，豁然無覆，定心之下，曠然無基。’又云：‘善巧方便，惟能入定，發慧遲速，則不由人，勿於定中急急求慧，求則傷定，傷定則無慧，定而慧自生，此真慧也。’此言與智者所論止觀，實相表裏，子微中年隱天台玉霄峰，蓋智者所居，知其源流有自。”然則《坐忘》之旨，出於天台，昔人已先言之。《玉潤》所記，略見曾慥書，而各有詳略，合而觀之，則《樞》一篇之文亦可得其大較也。

張耒《送張堅道人歸固始山中序》：“（至柔）教余以養性之妙，其言曰：大道甚簡，守心而已。守心無他，守一而已。靜一之極，則玄通四達，而真氣應之。大非意之所能測、言之所能盡也，惟得者知之矣。真氣來降，則百疾除而永年矣。……《老子》曰：‘虛其心，實其腹，弱其志，強其骨。’心虛志弱，而腹自實、骨自強矣。是道也，智者得之而爲止觀，司馬子微得之而爲《坐忘》，皆一道也。此皆真人修身之要，而今人忽之，乃苦其形骸，妄想變怪，吞餌金石，去道遠矣。”（《張右史文集》卷五十一）斯則宗子微之論者，其言亦與《玉潤雜書》合，則《坐忘》之與天台同出審矣。

范應元《道德經古本集注》稱朱真人桃椎曰：“道者，氣也；道體者，虛無也；虛無者，自然也；自然者，無爲也；無爲者，心不動也。內心不動，則外境不入。內外安靜，則神定氣和。神定氣和，則元氣自正。元氣自正，則五臟流通。五臟流通，則精液上應。精液上應，則不思五味。五味已絕，則飢渴不生。飢渴不生，則三田自盛，三田自盛，則髓堅骨實，返老還元。如此修養，則真道成矣。”此其爲說，與張至柔所言“養性之妙”最爲符合。朱桃椎，唐初人，不聞有書。范，南宋人，於何得之？《宋史·皇甫坦傳》言：“坦，蜀之夾江人。……高宗召見，問何以修身，曰：心無爲則身安，人主無爲則天下治。復召問以長生久視之術。曰：先禁諸欲，勿令放逸，丹經萬卷，不如守一。”坦自言遇朱桃椎受法，然則范所引朱真人說，當即坦之所傳耶？褚伯秀言：“范應元，蜀之



順慶人。”（《南華真經義海纂微序》）坦爲蜀之夾江人，宜范應元所稱，爲得之皇甫之傳，皆《坐忘》之旨趣也。

晁文元曰：“惟定明者，內覺其身心空，外覺其萬物空，於是諸相既破，無可執無可爭矣。諸有者，幻夢也。……吾嘗坐玉堂見甕人汲水，吾觀空純熟，自無全人，觀汲水者惟一塊之空，自西而東，豈非在幻知幻乎！故曰本無一物，隨之視而起異端焉。學道者必先止念，念起則知之。……故不畏念起，惟畏覺之遲也。覺速止速，此其妙用者歟？吾嘗謂心息相依，息調心靜，念起即覺，覺之即無，此最道之權輿也。……夫未能無念，即用觀空，未能頓空，即用對治。三策次第用之，《莊子》坐忘，達磨壁觀，始學者不能知也。”（《道樞》卷三引《集要》）究文元觀空止念之說，斯亦《坐忘》之道。《蒙齋筆談》言“晁文元迺早年從劉海蟾遊”，豈劉亦以《坐忘》爲教哉？

劉鑑泉先生言：“唐以還道教諸名師，皆明藥之非草，長生之非形軀，不言白日昇天。”（《道教徵略》上）由今觀之，道家自齊、梁而後，已受佛法影響，以不生不死言長生，顯與漢、魏殊致。湯錫予先生論儒家《易》道與《太平經》，皆主積善之家必有餘慶，積不善之家必有餘殃，是以作業爲子孫受報；佛法主三世輪迴，作業爲自身來生受報。隋、唐以還道教諸師，皆信輪迴之說，不以形軀即身成道爲旨要，以不生不死言長生。此爲羅什注《老》以來，道家之一變。道家以三一爲宗，而歸於神與道合，神與道合則不生不死，此余所知於唐、宋道家之說也。隋、唐道士所取於佛法者，爲羅什以來之般若宗，司馬子微後逮於兩宋，道家所取於佛法者爲智者之天台宗。不言白日飛昇，爲隋、唐道教之一變。宋之道教，凡鍾呂傳道所謂，實近於陳圖南之傳，遠紹子微，而經籙外丹之說以衰，此道教之又一變也。余於陳景元《老子注》跋文中已稍言之。至全真教出，殆又不同，李道純《中和集》中《全真活法》一篇，可以概見。其言曰：

全真道人，當行全真之道。所謂全真者，全其本真也。全精、全氣、全神，方謂之全真。纔有欠缺，便不全也。纔有點污，便不真也。全精可以保身，欲全其精，先要身安定，安定則無欲，故精全也。全氣可以養心，欲全其氣，先要心清淨，清淨則無念，故氣全也。全神可以返虛，欲全其神，先要意誠，意誠則心身合而返虛也。是故精、氣、神爲三元藥物，身、心、意爲三元至要。學神僊法，不必多爲，但鍊精、氣、神三寶爲丹頭，三寶會於

中宮，金丹成矣。豈不易知，豈爲難行，難行難知者，邪妄眩惑爾。

《弇州續稿·書中和集後》：“此書於一切內外丹藥吐納伸經之術，如《黃庭》、《參同》、《悟真》之類，皆指以爲傍門小道，而究其大旨，多出禪門。”此數語者直足以挾全真之秘要。蓋北宋之傳，於後對全真稱南宗，前者於佛家取天台，後者於佛家取禪宗，其大較也。自佛法來東土，般若最盛。繼之則天台最盛。又繼之則禪宗最盛。宜道家進展之迹，亦依此三宗。宋之道家，固有異於唐；金、元道家，亦復異於宋。雖茅山正一之流，其傳不絕，要爲已陳之芻狗，大呂之餘音，不足言也。自明以後，釋、道二家皆衰，儒亦漸替。全真教之始至南方，爲武當一派。而武當派自張道貴、張守清後，其教頗行於兩湖、江浙、滇、蜀，而亦兼修正一清微之法，而正一與南、北二宗遂多通而爲一。王圻《續文獻通考》言：“黃房公姓宋名有道，字德芳，號黃房公，時號披雲真人。遇丹陽（馬鈺）授以金丹火候祕訣。李珣字雙玉，蜀之崇慶州人，得黃房公金丹之道，以授張紫瓊。張模，字君範，號紫瓊真人。太虛真人（李珣）授以金丹之道，後以道授緣督子。趙友欽字緣督，得紫瓊授以金丹大道，後以授上陽子。上陽子姓陳（名致虛）字觀吾，得趙友欽金丹妙道，精於其術，有《金丹大要》行世。”王圻所云即出於《金丹大要·總旨篇》，爲上陽所自述。致虛注《參同》、《悟真》，爲南宗要籍，流布最廣。而自云出宋披雲，導源丹陽。果披雲即黃房公，豈此一系與南宗之混，固已久耶？惟陳教友《長春道教源流》則固疑之也。《道教徵略》詳於授受淵源，而於上陽一家，源流既遠，乃忽而不錄，蓋劉先生未見《續通考》耳。故於茲特詳論之也。

求漢以下道家之學，魏、晉諸家固爲重要。至僞託先秦諸子之書，亦未可忽，凡見於《隋志》而不見於《漢志》之書，多屬疑僞。然《羣書治要》中《六韜》、《鬻子》、《鶡冠》、《尉繚》、《三略》之類，所存文字，皆與今世傳本大同。則此類古籍，以爲先秦之言固未必，然又焉得不謂爲隋前之作也。《抱朴子·釋滯》言：“五千文雖出老子，然皆泛論較略耳，至於文子、莊子、關令尹喜之徒，其屬文華，雖祖述黃老，但演其大旨，永無至言。”是文子、關尹之書，更出《抱朴》之前，論魏、晉道家之旨者，又烏可忽諸。陶、葛之書，正足以見一時議論。若《雲笈七籤》之論六朝與唐，曾慥《道樞》之論唐、宋，搜奇拾墜，所益爲多。以下接於南、北宗專集，漢以後道家之學，於此可窺其大致也。至歷代

《道德經》注，尤爲要籍。由今之所存，以推見所亡，大要先後道家思想之變，無不可於老經之注求之者。苟從事於此，雖有遺略，殆亦寡矣。

原載《圖書集刊》第八期（1948年6月成都出版），茲據整理。

## 《陳碧虛與陳搏學派》別稿

伊洛之學，得統於濂溪，而周子之書僅《通書》、《太極》而已。重以邵氏、劉氏之傳，致後人每歎希夷之學僅於象數、圖書焉爾。及讀碧虛之《注》，而後知伊洛所論者，碧虛書殆已有之。程氏言：“吾學雖有所受，天理二字却是自家體貼出來。”而陳氏即每言天理，是其淵源仍有自也。程氏言：“人生而靜以上不容說，纔說時便已不是性也。”陳氏書即舉人生而靜天之性也爲說。此亦見二程之論於碧虛淵源之相關。其異者正亦在此。依是以上探希夷之說，其精神固若可見，而象數圖書者將其餘事也。是二程之於濂溪耳提面命之間，將有超乎《通書》、《太極》者在。二程之學，以有侯、楊諸公《語錄》之編，故能闡發盡致，而濂溪語言不著，文獻無稽。讀程氏書，苟惟致力《易傳》，亦何由盡程氏哉？此余於碧虛書益信伊洛淵源之有自而同異若可知，則希夷之卓絕淵微更有足敬者。蓋希夷、鴻濛、碧虛皆懷博通浩瀚之學，而察理精至有不可以方外少之者。至其於道家言，殆亦有可論者：其本則仍出於重玄而進之於至論，不徒如唐賢之習於膚說，則已鎔陸希聲之傳於一爐而致力於新說。如陳之《自序》言：“此經以重玄爲宗，自然爲體，道德爲用，其要在乎治身治國。”故曰仍出於重玄者此也。隋唐間《道德》、《西昇》二經並重，故成、李《老子》疏注每徵《西昇》，碧虛亦猶是。《正統道藏》有《西昇經集注》六卷，碧虛子作，集韋處玄、徐道邈、冲虛子、李榮、劉仁會五家之說，其《自序》曰：“周之衰也，老子非伏其身而弗見也，非閉其言而不出也，非藏其智而不發也，時命大謬也。已而厭世去

官，將以遜迹當時也。關尹邀迎，請問乙密，於是爲著言若干，其微言奧旨出入五千文之間，紀而成書，曰《西昇記》，莊子多稱其言有在於是者，碧虛子聞其風而悅之，搜遺編於藏室，得注解者凡五家，先校取經之是者，後竄去注經之非者，集成二篇，依舊號曰《老子西昇經》。”所謂“搜遺編於藏室”，正《藏室纂微》爲名之意，是亦陳氏義學不離乎重玄家之一事，而稱引陸氏者特多。陸希聲於唐道家言，猶之儒家言經之有啖、趙，而陳頗取之，故陳氏猶慶曆之有孫復、劉敞，事亦最顯。其《自序》又曰：“若九丹八石，玉醴金液，存真守元，思神歷藏，行氣鍊形，消災辟惡，治鬼養性，絕穀變化，厭固教戒，役使鬼魅，皆老子嘗所經歷救世之術，非至至者也。”則皆鄙而棄之。此寇謙之、陸修靜之徒所有事，若爲希夷之門所不道者。彭耜言：“秦漢方術之士，所謂丹灶奇技，符籙小數，盡舉而歸之道家，此道之緒餘土苴者耳。”正與碧虛之旨合。觀於希夷、鴻濛受詔酬對之際，正其宗風所在，視林靈素輩之術，非能之而不言，殆有不屑者。則已厭上來隋唐之舊轍，而極深研幾於圖書象數，此又新舊道流之一大限也。就《高道傳》言之，劉海蟾正出於希夷，後乃易之以鍾呂傳道無稽之說。而南五祖葛長庚、彭鶴林輩，若皆無系於希夷，且又並希夷而系之於鍾呂。全真既盛之後，而王重陽等七真出於鍾呂之說又興，陳搏之事若存若亡，而鍾呂傳道之說大盛。鍾呂之事，猶釋氏之有惠能，要爲唐宋新舊道教之一大限，而前茅實爲希夷，無所謂鍾呂也。此因究碧虛之書，有足以見之者。碧虛之書於篇端首附以葛次仲之《老子論》，以明孔老之爲一，此宜亦希夷以來之旨，而周邵之所以專致力於儒也。是亦不異於重玄之風，特唐人闡發之精未至是耳！希夷誠乎有開來之功，然猶未棄乎重玄之義，司馬光迄於趙秉文，道屢變而談重玄猶不絕，則臧孟之澤殆亦深耶！

此稿與《圖書集刊》第八期所刊布者“伊洛之學”段略有不同，此稿中論碧虛與程氏之學及碧虛與《西昇經》二事皆被刪改，蓋以所言太簡、論說較疏之故，然亦頗有啓迪之效，故抄存於此。此稿略作於1948年。

## 請撥款刊布近年輯校唐前 有關《老子》古佚書

四川省立圖書館年來整理古籍工作，計校勘《公羊》、《穀梁》、《儀禮》、《周禮》、《爾雅》等書，皆係為四川大學整理板片。又校勘《晉書》、《宋》、《齊》、《梁》、《陳》等七史，因皆係宋眉山刻本，為蜀中重要文獻。他之校勘《史通》、《文心雕龍》、《法書要錄》、《說苑》、《新序》、《古今注》、《博物志》各有關學術古籍凡二十餘種。去秋以來，移一部分工作於《道藏》之整理，計共得書八種，謹條列於後：

（一）**成玄英《老子疏》六卷** 唐成玄英原有《老》、《莊》兩疏，《莊疏》三十卷，黎純齋得南宋本於日本，刻入《古逸叢書》，而《老子疏》則北宋時已佚，或唐末已有殘闕。茲從《正統道藏》強思齊《老子纂疏》、顧歡《老子注疏》中，校知兩家書中之《疏》全然為一，實即《成疏》。再取宋范應元《老子集注》、宋李霖《老子取善集》，合四書所引，除其複重，互為校補，擇善而從，於是《老子成疏》全書復見。巴黎所藏敦煌卷子《老子義疏》殘卷一種，尚存全書五分之一，以與輯本相勘，知輯本已無一遺漏。而敦煌此卷自羅叔言影印流布後，意定為孟智周《疏》，近得美國國會圖書館方面來函商榷此書，又認係唐劉進喜作，皆未考得其實。現全書館中已整理竣事，不煩喋喋致辯也。

（二）**李榮《老子注》四卷** 李榮與成玄英皆唐初道家重玄派中之錚錚者，唐宋《老子》著作中稱引亦富，因並《成疏》同時輯出。《李注》似宋代猶存，

故下及焦竑猶加稱引。《正統道藏》中存上經部分而又不完，奪誤亦多，一依所輯文逐條補正，遂得燦然可觀；下經之《注》亦全部輯出，承巴黎國民圖書館將全部敦煌《老子》著述攝影惠贈，中有無名氏注《老子》殘卷四種，其中三種皆係《李注》之殘卷、其一則《開元御注》之殘卷，以與《李注》輯本相校，復證知輯本爲全書。《成疏》、《李注》輯本皆以得敦煌寫本知爲全書，而敦煌誤文奪句皆藉輯本爲之補正。北平圖書館亦鈔寄敦煌藏卷，皆不能優於輯本，惟輯《李注》於《老子》上經三十七章經注皆佚，爲美中不足，乃巴黎所寄敦煌卷子影片皆係下經，於下經之末竟有上經之三十七章經注全文，皆附於此，遂爲全璧，事固奇也。

（三）《晉唐〈老子〉古注四十家輯存》八卷 《正統道藏》中有顧歡《注疏》，以強思齊《纂疏》校之，其凡稱“《疏》曰”者，即成玄英《疏》，既已錄出，此本阮元定爲張君相《集解》，於《校理成疏叙錄》中已論此本爲李榮《集解》而非張君相。李霖《取善集》中收晉唐人《老子》古注二十餘家，皆在君相《集解》三十家內，又引“君相說”十數條，則李所取者知據君相《集解》也。范應元《老子集注》所引計二十六家，凡韓康伯、李奇、王尚、阮咸、董遇、張嗣輩皆李榮、張君相所無，集而錄之。其陳景元《纂微篇》、董思靖《集解》、趙秉文《集解》、劉惟永《集義》諸所稱引晉唐舊說，片辭隻句，皆備取之，益以陸德明《經典釋文》所引，都得四十餘家，惟原書具在者不錄。研尋古義，備在此也。

（四）嚴君平《〈道德指歸論〉佚文》二卷 《指歸論》原十三卷，《道藏》所存僅後七卷，前六卷則其佚久也。茲以強思齊、陳景元二書所引爲主，張君房《雲笈七籤》、李霖、劉惟永、程永寧諸家亦間引君平說，並輯存之。至下經雖嚴書具在，但文字略有出入，各具短長，亦存之以備較勘。至嚴書下經雖存，但經文既經改竄，凡見於稱引可見原經文者，亦備錄之。強思齊引谷神子裴鉞《注》或混於君平說中，茲隨考訂，悉別出之。

（五）河上公《〈老子章句〉校訂》二卷 《河上公章句》僅有天祿琳瑯藏南宋本，及鐵琴銅劍樓藏南宋本、《正統道藏》本，而世德堂六子本爲最下。兩南宋本文字頗多刊落，時有誤字，茲於唐據張、顧兩家所引，於宋據梁迥序《集注》本，益以諸家徵引之文；至若《羣書治要》、《意林》引《河上公注》皆已及

其半，而《一切經音義》、《文選》李注、《太平御覽》各書所引亦不少，薈集校正，不僅可補兩宋本之訛失，而唐本之舊庶幾見之，增益文句無慮百事。巴黎所藏敦煌卷子《河上公章句》下經幾備，以與校本對看，十符其九，信《河上公章句》以此為最佳之校本也。

（六）《〈老子王弼注〉校訂》二卷、附陸德明《〈老子音義〉校正》一卷

《王注》世無善本，四庫本從張之象《三經晉注》錄出，張本雖有晁、熊兩跋，但誤字奪句全與《正統藏》同，是張所據乃《道藏》本，非宋元舊刊，《道藏》本固有晁、熊二跋也。浙江局刻云據華亭張氏本，亦僅據浙江聚珍本、非依張氏本也。武英殿本校以《永樂大典》，仍不能佳。至《古逸叢書》集唐字《老子王注》，僅依日人宇佐美惠考訂，而日人之本亦不外依於《道藏》。世傳《王注》，不過如此，竟無善本可言。檢《正統道藏》有《老子四家集注》，全載《王注》，未知集者誰氏，首有梁迥序文，作於元符六年，則此獨為北宋本，自高於一切《王注》本，諸本義不安處，此本文句皆異，視浙刻溢出注文頗多，校以劉惟永《集義》所載《王注》，一一能合，洵《王注》之最佳本。茲從《集注》錄出，而以宋人著述所徵《王注》校之，亦間取《道藏》《王注》之是者著於篇。《古文舊書考》云，有嘉禎二年鈔本，則在南宋時，亦將求以校正，俾成《王注》最佳校本。彭耜有《道德經音義》，備取陸氏《釋文》，前此校《釋文》者皆未取彭書，茲校一過，備錄異同，以資考證。

（七）《遂州本〈老子〉校文》一卷 《正統藏》中有《老子次解》一卷，不著撰人名氏，篇首有《序》言：“先者經過遂州，見龍興觀石碑上鐫有《道》《德》二經，與今本又別，字多差錯，事既異同，義皆向背”云云。今以與敦煌所存《老子》十數本校之，知此即所謂張係師本也。此本文僅五千，異字復多，敦煌所寫既多，訛奪難以校正，此為歷久治敦煌《老子》者一大難事。今得此本，則於訛字之與異文，奪文之與省字，一一可辨，正統本訛失，亦得依敦煌辨之，五千字本之真，於此可以復見。

（八）《玄言新記明老部》二卷 隋、唐《志》有《玄言新記道德經》、《玄言新記明莊部》各書，此卷為敦煌卷子本、巴黎國民圖書館所藏，首有敘文，略舉老子事迹及經義大旨，題顏師古名字，豈以此卷為顏監之作。卷中僅言每章相次之故，體同於成玄英《疏》之《序訣》，始《道經》一章終十二章為一卷，



始十三章終廿四章爲二卷，始廿五章終三十七章爲三卷，始《德經》一章終十三章爲第四卷，始十四章爲五卷，第二十章以下闕，似爲疏王弼之注者。日本《見在書目》有“《老子義疏》八卷，王弼”，宜即此書，其爲師古作否，則不能考。陸德明亦疏《王注》，惟卷帙差多，不與此合。此書以前四卷章數計之，則八十一章似爲七卷或八卷也，一一訂其訛奪，刪其羨文，亦庶乎可讀也。下經第二十章以下原闕，《正統道藏》中有趙志堅《道德經疏義》六卷，前三卷已佚，第四卷佚第九章以下，惟第五卷爲完書，第六卷復佚第三十八章以上，此即杜光庭所稱法師趙堅作《講疏》六卷者也，人名書名卷數皆合。惑者不察，列之宋人，誤也。此亦唐人佚著，每章之首亦言相次之故，今爲錄出，合於前編之後，以皆唐人之書而俱不完，特合而存之，以備法式。又強思齊《纂疏》每章前皆有儷文一則，以贊全章宏旨，八十一首完整無闕，念其伏而未發，不可棄置，並爲錄出，以附於前編之後，以《玄言新記明老部》之名固可以被此篇而無嫌也。原文作者不可考，《隋志》有《道德經章門》一卷，劉遺民撰，未審即此篇否？

計右凡輯校《老子》各種著作共八種二十八卷，皆前賢未曾董理，及敦煌舊籍而未能考論者，於研究學術之發展裨益良多，承國內外學人所重視，攝影鈔錄，源源惠賜，僅乃得成，亟待刊布，以惠學林。而四川省政府經費支拙，無款以資印行，先後呈請皆未得復。四川印費刻比京滬低廉，由印局估價全部印成需款二千三百萬元始能藏事，茲謹備呈各情，請由鈞部有關項下酌撥的款，俾得付印，實惠士林，是否有當，敬候鑒核。

此據手稿整理，此稿係於1946年任四川省立圖書館館長時，所擬呈國民政府教育部之報告稿。

# 晉唐《老子》古注四十家輯存

## 第一章

道可道，非常道；

陸云：道，生天地之先。德，道之用也。（陸德明《經典釋文·老子音義》，以下省稱陸）

法師臧宗道又用三一爲聖人應身。所言三一者，一精、二神、三氣。精者靈智慧照之心，神者無方不測之用，氣者色像形相之法。經云：視之不見名曰夷，精也；聽之不聞名曰希，神也；搏之不得名曰微，炁也。總此三法，爲一聖體。此三者不可致詰，故混而爲一也。但老君法體，以三一爲身。身有真應之別，而解者義有三家：第一，散一以爲三，是聖人應，混三以歸一，是聖人真。第二云：三之與一俱是應，非三非一乃是真，爲三爲一俱是名數。第三云：豈有離名數之外，別有無名數之真耶？即此三一非三一是真，非三一而三一是應。非三一（脫“而三一”三字）之應，此應是真應，三一而非三一之真，此真是應真。應真之真不可定言真，真應之應不可定言應，所以非真非應、而應而真。但聖人赴感逗機應物，或寄人間，或生天上，隨方顯見，應變隨時，妙體希夷，卒難詳

究。（強思齊《道德真經玄德纂疏》，以下省稱強）

臧玄靜曰：道以通物，以無爲義。德者不失，以有爲功。道無則能遣物有累，德有則能祛世空惑。（杜光庭《道德真經廣聖義》，以下省稱杜，卷五）

臧玄靜云：智慧爲道體，神通爲道用也。又云：道德一體，而具二義，一而不一，二而不二，二而不二，由一故二、一而不一，由二故一，不可說言。有體無體，有用無用，蓋是無體爲體，體而無體，無用爲用，用而無用。然則無一德非其體，無一用非其功。尋其體也，離空離有，非陰非陽，視聽不得，搏觸莫辨。尋其用也，能權能實，可左可右，以小容大，以大容小，體既無已，故不可思而議之，用又無功，故隨方（不）示見。（杜卷五）

**名可名，非常名。無名天地之始，**

王曰：道雖無名，要能吐氣布化，出於虛無，與天地萬物作於本始也。（顧歡《道德真經注疏》，以下省稱顧）

**有名萬物之母。**

顧曰：有名謂陰陽，無名謂常道。常道無體，故曰無名；陰陽有分，故曰有名。始者取其無先，母者取其有功，無先則本不可尋，有功則其理可說。謂陰陽含氣稟生萬物，長大成熟，如母之養子，故謂之母。（顧）

**故常無欲以觀其妙，**

《節解》曰：謂守虛無也。（顧）

古本及河上、王弼、李若愚、張君相“常無”上並有“故”字。（范應元《老子道德經古本集注》，以下省稱范）

**常有欲以觀其微。**

陸德明云：微，小道也，邊也，微妙也。（陸）

張曰：上達之人，取捨情夷，清虛無欲，神情察照，得道之微妙也。（顧）

**此兩者同出而異名，同謂之玄。**

太平光師曰：有對則名異，絕待則玄同。（趙秉文《道德真經集解》，以下省稱趙；劉惟永《道德真經集義》，以下省稱劉）

**玄之又玄，衆妙之門。**

張陵注《五千文》云：道可道者，謂朝食美也。非常道者，謂暮成屎也。兩者同出而異名，謂人根出溺溺出精也。玄之又玄者，謂鼻與口也。（《廣弘明集·

辨正論》)

顧曰：雖同稟氣於天，蓋人有高卑、氣有清濁，天彌高彌清，地逾卑逾濁。人稟得清氣者則為賢智，稟得濁氣者則為凡愚。賢智無欲觀見其妙，凡愚有欲觀見其微，自然有此。(顧)

光曰：忘玄之玄，則曰玄玄。(趙、劉)

## 第二章

天下皆知美之為美，斯惡已。

顧曰：一切衆生，皆知耽美前境，五欲聲色等諸塵為美。美之不息，必以身為患，斯惡已。(顧)

皆知善之為善，斯不善已。

羅曰：人之受形，皆智愛形而貪名。其所貪惜，無非名善，此善無善，不免諸苦。名雖稱遂，無益於己。(顧)

故有無相生，

肇曰：有無相生，其猶有高必有下。然則有無雖殊，俱未免於有也。此乃言象之所以形，故借出有無之表者以祛之。(趙、劉)

王曰：嗜慾為有心，清虛為無心。(顧)

難易相成，

王曰：抑性為難，從情為易。抑易從難則善，捨難從易則凶，凶悖外顯，故曰相成。(顧)

長短相形，

陸“形”作“較”，云：“校量深淺也。”

王曰：自是為長，非物則短，他亦自是而非彼。(顧)

高下相傾，

陸曰：傾，高下不正貌。(陸)

音聲相和，前後相隨。

王曰：終始相逐，不相遠離。如積善餘慶、積惡餘殃，善惡行於前，吉凶追

其後。(顧)

光曰：此六對者，物之所以不齊，唯喪偶者能同之。(趙、劉)  
是以聖人處無爲之事，

《節解》曰：謂自然也。(顧)

行不言之教

顧歡曰：聖人因天任物，無所造爲，心常凝靜於前，美善處而無爭，故不爲六境之所傾奪。(李霖《道德真經取善集》，以下省稱李)

萬物作焉而不辭。

王弼、楊孚作“萬物作焉而不爲始”。(范)

生而不有，爲而不恃，功成而弗居，夫唯弗居，是以不去。

### 第三章

不尚賢，使民不爭；不貴難得之貨，使民不爲盜；

《節解》曰：謂邪氣不來，盜賊不入，行一握固，則邪氣去也。(顧)

不見可欲，

《節解》曰：謂無爲也。(顧)

使心不亂。

《節解》曰：常存一也。(顧)

是以聖人之治：

《節解》曰：謂治身也。(顧)

虛其心，實其腹；

郭曰：其惡改盡，諸善自生，懷道抱一，神和內足，實其腹也。(顧)

《節解》曰：虛其心，無邪思也。實其腹，閉氣養精也。(顧)

弱其志，強其骨。

陸云：“心虛則志弱也。”(陸)

顧曰：骨以含精，精散則骨弱。保精愛氣，則其骨自強。(顧)

常使民無知無欲，使夫知者不敢爲也。爲無爲則無不治。

孫登同古本，作“則無不爲矣”。（范）

## 第四章

道冲而用之，

《節解》曰：冲者，一也，謂一在身中常行之也。（顧）

或不盈。

《節解》曰：謂守自然也。（顧）

淵兮似萬物之宗。

王弼作“淵會”。（陸）

挫其銳，解其紛，

《節解》曰：謂無恚怒也。（顧）

和其光，

《節解》曰：謂聖人爲道，常和神光也。（顧）

同其塵。湛兮似或存。

郭象曰：存，在也。道湛然安靜，古今不變，終始常一，故曰存。存而無物，故曰似也。（李）

吾不知誰之子，象帝之先。

## 第五章

天地不仁，以萬物爲芻狗；聖人不仁，以百姓爲芻狗。天地之間，其猶橐籥乎？

陸云：橐，無底囊。（陸）

虛而不屈，動而愈出。

“屈”，顧作“掘”，云猶竭也。（陸）

多言數窮，不如守中。

王弼云：理數也。（陸）

顧云：勢數也。（陸）

## 第六章

谷神不死，

陸云：谷，中央無者也。（陸）

孫思邈曰：谷神，虛而靈者也。（趙）

是謂玄牝；玄牝之門，是謂天地根。綿綿若存，用之不勤。

## 第七章

天長地久。

張君相曰：乾剛廣覆，歷古今不傾；坤柔厚載，經終始彌固。（李）

天地所以能長且久者，以其不自生，故能長生。

《節解》曰：天長者，謂泥丸也；地久者，謂丹田也。泥丸至絳宮，丹田上昇，行一上下，無炁流離，百節浸潤，和氣自生，大道畢矣，故曰長生也。（強）

張君相曰：萬物皆自營其生，唯天地但知生育萬物不自營生，施生不自生，是故得長久。（李）

是以聖人後其身而身先，外其身而身存，非以其無私耶？故能成其私。

## 第八章

上善若水，水善利萬物而不爭，處衆人之所惡，故幾於道。

陸云：幾音機，近也。（陸）

居善地，心善淵，與善仁，言善信，

《節解》曰：謂神炁既行形中，萬物合會，故口中甘泉自出，漱咽無已，人

既不知，安能行也。故聖人淡泊行一，則何華不先也。（強）

正善治，事善能，動善時。

《節解》曰：謂聖人事道以治身，去却邪僞，特爲後賢而作軌範。夫此七善者，皆因一行形中，萬神自善也。（強）

夫唯不爭，故無尤。

## 第九章

持而盈之，不如其已。揣而銳之，不可長保。

“銳”，王弼作“稅”。（陸）

《節解》曰：上揣者，謂言語放散；下揣者，謂精神放散。言語放散者則致兵革，精神放散者則頭白齒落。（強）

顧曰：揣，治也。（陸）

金玉滿堂，莫之能守。

王弼、楊孚同古本，“堂”作“室”。（范）

《節解》曰：謂炁血爲金、精爲玉。子能行一，上下開通，腹中雷鳴，支節相扶，目光踴躍與一相應也。（強）

富貴而驕，自遺其咎。功遂身退，天之道。

## 第十章

載營魄抱一，能無離乎？

鍾會曰：載，辭也。經護爲營，形氣爲魄，謂魂魄經護其形氣，使之長存也。（《文選》陸士衡《贈兄車騎一首》注引）

專氣致柔，能嬰兒乎？

《節解》曰：謂抱行元氣不勞也，大道流布若嬰兒也。（顧）

張曰：以爲專精一也。氣，氣息也。致，得也。柔，和也。嬰兒，絕知見



也。夫氣聚而生，氣散而死，人當專精愛氣，得柔和之道，然後內息分別，外絕知道，身不見身，其身亦滅，心不知心，其心亦寂，故曰能如嬰兒。（顧）

滌除玄覽，能無疵乎？愛民治國，能無知乎？

王弼、孫登同古本，作“能無以知乎”。（范）

天門開闔，能無雌乎？

王曰：天有北極之星，在紫微之內宮，內有五德之帝迭王，故門有開闔。闔則爲否，開則爲泰。故春則青帝門開，餘門皆闔，三時皆然。終始五際，謂五德廢興交代之時，時有開闔，代有否泰。聖人處之，常能守雌靜，則不爲終始傾動。治身天門謂鼻口之門，開謂喘息，闔謂呼吸，修生行人，氣息出入，無令耳聞，常能雌靜，自得無爲之道也。（顧）

成玄英《注》云：天門者，心也。雌者，言其主靜而和柔也。（范）

明白四達，能無知乎？

《節解》曰：四達爲知八方也。閉心杜念，萬世長存，子能行之，通於上皇。（顧）

蔡曰：識身命財爲四達，無知謂心無分別也。（顧）

生之，畜之，生而不有。

郭曰：氤氲合化，庶物從生，顯仁藏用，即有氤迹，功不歸己，故曰不有。（顧）  
爲而不恃，長而不宰，

顧曰：道則長而不宰，聖則宰而不割，成就一切，實爲化主，而忘功喪我，故云不宰。（顧）

是謂玄德。

鍾會曰：幽冥晦昧，故稱爲玄。（《文選·遊天台山賦》注引）

張曰：玄，深遠也。德，上德也。歎此忘功聖人，冥於造化，可謂深遠上德也。玄德亦天也，爲而不恃，合天之德也。（顧）

## 第十一章

三十輻共一轂，

嚴、顧等曰：古之作車，象月之致。月有三十日，車有三十輻。夫月之懸天，流行不息，車之輻地，亦運載無停，是故古車以象月也。共一轂者，既三十日共一月，亦三十輻共一轂，欲明諸教雖多，同歸一理，一理雖少，能總諸教。治國論者，衆必宗寡，弱以扶強，故以一轂之寡總諸輻之衆。（顧）

**當其無，有車之用。埏埴以爲器，**

陸云：埏，河上云和也。宋衷注本云：經同。《聲類》云：柔也。《字林》云：長也。又一曰：柔，埏。《方言》云：取也。如淳作繫。（陸）

陸云：埴，河上云土也。司馬云：埴土可以爲器。《釋名》云：埴，職。杜弼云：埴，黏土也。（陸）

**當其無，有器之用。**

《節解》曰：謂古人爲土器不燒鍊，得水則敗爲不成器也。子欲爲道，不入室依時鍊形者，則爲俗人必死也。（顧）

張曰：土有器性，和之以爲器。人有道性，脩之以成道。（顧）

**鑿戶牖以爲室，當其無，有室之用。故有之以爲利，**

《節解》曰：謂有道也。（顧）

**無之以爲用。**

鍾會曰：舉上三事明有無相資，俱不可廢。故有之以爲利，利在於體，無之以爲用，用在於空。故體爲外利，資空用以得成，空爲內用，藉體利以得就。但利用相藉，咸不可亡也。無賴有爲利，有藉無爲用，二法相假。（李）

《節解》曰：謂聖人守一行自然，無所用也。（顧）

顧曰：利，益也。轂中有軸，器中有食，室中有人，身中有神，皆爲物致益，故曰有之以爲利也。然則神之利身，無中之有，有亦不可見，故歸乎無物。神爲存生之利，虛爲致神之用，明道非有非無，無能致用，有能利物，利物在有，致用在無，無謂清虛，有謂神明。有俗學未達，皆師老君全無爲之道，道若全無，於物何益？今明道之爲利，利在用形，無之爲用，以虛容物故也。（顧）

車惠弼曰：修身者，必須以有資空，以空導有，有無資導，心不偏溺，故成人之利用。（李）

## 第十二章

### 五色令人目盲，

《節解》曰：非謂人之目盲欲自有所見。但見玄黃之色，神明出入，乘珠玉之輦，五色光耀，子則不見，是故目盲也。（顧）

陸云：五色，青赤白黑黃也。

### 五音令人耳聾，

《節解》曰：非謂人之耳聾欲自有所聞。但聞鐘鼓之音，不聞神明之聲，故曰耳聾也。（顧）

鳩摩羅什曰：不知即色之空與聲相空，與聾盲何異。（趙）

顧、什等曰：但聞嘈囂在耳，乃曰不聾不知，聲相即空，與聾何異。（顧）

陸云：五音，宮商角徵羽也。（陸）

王曰：若滯音形聲，即傷神敗正，既有惡聲啼吟，即是聾也。（顧）

### 五味令人口爽，

陸云：五味，酸鹹甜辛苦也。爽，差也。

### 馳騁畋獵令人心發狂，

《節解》曰：謂人死歸土，家室相送，婚姻馳走，恍惚悲泣，藏於冢壙之中，送於野田之上，親者狂，疏者哀，故曰若狂。（顧）

難得之貨，令人行妨。是以聖人爲腹不爲目，故去彼取此。

鍾會云：真氣內實，故曰爲腹，嗜欲外除，故曰不爲目，五音令人耳聾，故聖人爲腹不爲目，諸相例也。（李）

## 第十三章

### 寵辱若驚，

簡文云：寵，得也；辱，失也。（陸）

顧云：若，而也。（陸）

**貴大患若身。**

肇云：大患莫若於有身，故滅身以歸無。（趙）

陸云：貴，重也。（陸）

蔡曰：有身者執著我身，不能忘遣，爲身愁苦，憂其勤勞，念其飢寒，即大患。故知執有生累，存身患起，貴我身者與貴大患不殊。故《西昇經》云：身爲惱本，痛癢寒溫，大患之本，起乎存身。（顧）

**何謂寵辱若驚？**

河上本無“若驚”二字，王弼本有。（陸）

**寵爲下，得之若驚，失之若驚，**

《節解》曰：謂得道則萬神皆來，鳴於腹中，與子相見言語，知身五神元氣流馳，故曰得之若驚。失之若驚者，謂失氣亡精，神不行而失一，則頭白齒落而死，衆人所苦哭，上屋呼魂，驚於天神，故曰失之若驚也。（顧）

**是謂寵辱若驚。**

光曰：唯凡聖情盡者無驚。（趙）

**何謂貴大患若身？吾所以有大患者，爲吾有身，及吾無身，吾有何患！**

《節解》曰：忘身而養神，謂之無身。（顧）

“及”字，應吉父作“苟”。（范）

蔡子晃曰：無身者，不可以身爲身，冥乎造化，物我俱忘，患何能及，非是滅壞，其身喚作無身。（李）

**故貴以身爲天下，若可寄天下。愛以身爲天下，若可託天下。**

郭象曰：若乎輕身以赴利，棄我而徇物，則身且不能安，其如天下何？（董思靖《道德真經集解》，以下省稱董）

光曰：物爲身患，身爲道患，忘物則自全，忘身則道備。雖忘外累，貴愛尚存，可寄可託而已。身物俱忘，以道自任，藏天下於天下也。（趙）

## 第十四章

視之不見名曰夷，

鍾會云：夷，滅也，平也。（陸）

王弼、孫登“夷”字作“幾”。（范）

顧云：夷，平也。（陸）

聽之不聞名曰希，搏之不得名曰微。

陸云：希，疏也，靜也。微，細也。（陸）

臧公《三一解》曰：夫言希、夷、微者，謂精、神、氣也。精者，靈智之名；神者，不測之用；氣者，形相之目。總此三法，爲一聖人。不見是精，不聞是神，不得是氣。既不見、不聞、不得，即應云無色、無聲、無形，何爲乃言希、夷、微耶？明至道雖言無色，不遂絕無，若絕無者，遂同太虛，即成斷見。今明不色而色，不聲而聲，不形而形，故云夷、希、微也，所謂三一者也。（成玄英《道德真經義疏》，以下省稱成）

此三者不可致詰，故混而爲一。

大孟法師解云：三一之法，以妙有爲體，有而未形，故謂之妙，在理以動，故言爲一，經云道生一，又云布氣生長，裁成靡素，兼三爲用，即一爲本。（《雲笈七籤》卷四十九，以下省稱《七籤》卷四九）

孟法師云：言三言一，不四不二者，以言言一即成三也。今謂明義，各自有宜，少多非爲定准，如六通四達，豈止三耶？若教之所興，無乖此說。然三義所異，不可定分；亦一體雖同，不容定混。混亦不混，故義別成三；分不定分，故體混爲一，混三爲一，三則不三；分一爲三，一則不一；不三而三，不一而一。斯則三是不三之三，一是不一之一。不三之三，非直非三，亦非非三；不一之一，非止非一，亦非非一，此合重玄之致也。（《七籤》卷四九）

孟法師云：用則分三，本則常一。（《七籤》卷四九）

孟法師云：涉學所宗，三一爲本，故七部九結，皆有圖術。（《七籤》卷四九）

宋法師解云：有總有別，總體者三一，即精、神、氣也。別體者精有三智，謂道、實、權；神有三宮，謂上、中、下；氣有三別，謂玄、元、始。（《七籤》卷四九）

徐素法師云：是妙極之理，大智慧源，圓神不測，布氣生長，裁成靡素，兼三爲義，即一爲體。（《七籤》卷四九）

玄靖法師解云：夫妙一之體，絕乎言相，非質非空，且應且寂。（《七籤》卷四九）

其上不皦，其下不昧，繩繩不可名。

梁帝云：繩，無涯際之貌。（陸）

顧曰：無窮不可序。或曰寬急。（陸）

《節解》曰：謂道入皮膚骨節之中，故曰繩繩不可名也。（顧）

復歸於無物。

鍾會曰：光而不耀，濁而不昧，繩繩乎其無繫，汜汜乎其無薄也，微妙難名，終歸於無物。（《文選·頭陀寺碑文》注）

是謂無狀之狀，無物之象，是謂惚恍。迎之不見其首，

王曰：象者，形而非也，謂儀貌可道，雖無物而應物有象。欲言有也，不見其形，欲言無也，物由之以生成。（顧）

顧曰：其來未兆，倏爾不見，故言迎之不見其首。（顧）

隨之不見其後，

顧曰：其去無迹，混然無際。（顧）

執古之道，以御今之有，

王曰：古今雖異，其道恒存，執之者方能御物。（顧）

能知古始，是謂道紀。

王曰：守古無爲之道，制御今之有爲之世，鎮此躁動之俗，反古淳素之始，陶鍊變化，是得道綱紀也。（顧）

## 第十五章

古之善爲士者，微妙玄通，深不可識。

靈仙曰：道無不通名善，事無不達爲士，前章執古御今，此則御今引古。  
(李)

夫唯不可識，故強爲之容。豫兮若冬涉川，猶兮若畏四鄰。

《想爾》曰：豫，猶豫行止之貌，常當畏敬也。冬涉川者，恐懼也。畏四鄰，不敢爲非，恐鄰里知之，此遵道奉戒之人謙謹如此也。(顧)

王曰：四鄰謂生死老病也，亦是四魔，人不持戒，好犯非法，爲四魔所錄，是以小心猶當慎密、閑靜似畏人知也。(顧)

儼兮其若容，

顧曰：恭斂之貌也。言聖人恭斂，無爲無事，若爲客對主人，不敢輕躁，常和而不唱。(顧)

涣兮若冰之將釋，

松靈曰：外雖矜莊若衆，內恒和暢放散，無復滯著，渙然如凝冰消散也。  
(顧)

敦兮其若樸，曠兮其若谷，混兮其若濁。孰能濁以靜之徐清，

王弼作“孰能濁以靜之而徐清”。(范)

顧曰：濁者，昏昧之貌，謂其昧智韜明不任聽察，如水之濁無所鑒見也。  
(顧)

王曰：藏精匿照，外不異物，渾同波塵，故曰若濁。凡上七事，皆人君之德。《傳》曰：人君含垢，天之道也。得道之君，其斯之謂。若就行人論者，渾謂和雜也，濁謂有爲也，雖心潔素而渾沌有爲之中與塵不異也。所言以靜之徐清者，喻於水，水濁止而靜之，徐徐自清也；心亂息緣，漸漸而清正也。(顧)

孰能安以久動之徐生。

王曰：渾波則濁，徐靜則清，危躁則死，安靜則生。志人知濁之可清，故同波而後化，體危之可安，故徐動以教生。非體道善化，誰能如此，故曰孰能。生



化微妙，非速疾可成，必須心專行密，積勤累代，不日求以得，故曰徐生。（顧）  
保此道者不欲盈，夫唯不盈，故能蔽不新成。

盧曰：此猶解前徐清之義。和俗而後靜，徐以守其清，安身而後動，徐以全其生。（顧）

## 第十六章

致虛極，守靜篤，

鍾會曰：致，至也。除情慮，至虛極也。心常寂，守靜篤也。（李）

盧曰：致情慮，致虛極也。而心恒寂，守靜篤也。（顧）

光曰：虛爲有待，致虛極者絕其待，絕其待則即有而虛。靜爲動偶，守靜篤者忘其偶，忘其偶則即動而靜，故虛靜不至者無以明道。（趙）

萬物並作，吾以觀復。

顧曰：夫靜觀其反真。（顧）

王曰：生生之體，性本湛然，但受納有形，六情外動，言行云爲，妄作招禍。至人觀其本性，知可化而復，故云觀其復。（顧）

光曰：物先無物，物從無而並作。（趙）

夫物芸芸，各復歸其根。

光曰：夫物芸芸，如水作波，各歸其根，如波復水。（趙）

歸根曰靜，

顧曰：草木零落，歸根則靜，人物變化，反真則安。（顧）

光曰：道爲動靜之根，根非動靜，非動靜者，靜之至也。（趙）

是謂復命。復命曰常，

何晏曰：復命當使不死，是道之所常。（顧）

盧曰：能知復命常理者，則是見道之明者也。（顧）

知常曰明，

王曰：常道難知，故知之曰明。（顧）

不知常，妄作凶。

孫登曰：不能歸根守靜，則天命失常，是其凶也。（李，顧無“歸根”二字）

顧曰：不知道言知，謂之妄作，妄作之人，失道故凶。（顧）

知常容，容乃公，公乃王，王乃天，天乃道，道乃久，沒身不殆。

盧裕曰：久，長久也。謂量等太虛，無來無去，心冥主極，不生不滅，冥混自然，不可分別，既與此理契會，義說爲久。（李）

## 第十七章

太上，下知有之。

《節解》曰：謂上知泥丸，下知丹田，牡牝會絳宮，閉心握固，元氣流行，耳聞神聲，下知腹鳴，行一御之，即有鐘鼓之聲。（強）

顧云：太上，太古上德之人也。（陸）

其次親而譽之。

《節解》曰：親之者謂魂，譽之者謂魄。（強）

顧曰：此中古也，云去道漸遠，封言著相，其德可見。親愛生上，則親信於下，下則稱譽於上，其功可言，則康歌載路。（顧）

其次畏之，其次侮之。信不足焉，有不信焉。猶兮其貴言，功成身遂，百姓皆謂我自然。

“猶”，王弼作“悠”。孫登、張憑、杜弼俱作“由”。（陸）

王曰：化不由言，冥功潛被，物各逍遙，擊壤自得，日用不知，欣賴無主，莫識所爲，故皆謂我自然。（顧）

## 第十八章

大道廢，有仁義；智慧出，有大僞；

王曰：大道之時，無知無欲，物皆懷德，外用不顯。道功既息，權詐茲興，飭智驚愚，耀才動俗，樸散淳離，姦情並作，故曰大僞。（顧）

六親不和，有孝慈；

鍾會曰：若九族皆睦，則愛敬無施，六親不和，則孝慈斯著。（李）

國家昏亂，有忠臣。

王弼“忠”作“貞”。（范）

## 第十九章

絕聖棄智，民利百倍。

鍾會曰：絕制作之聖，棄謀慮之智，人當反樸還淳，故其利百倍。作者之謂聖，創物之謂智，聖智之人，制作法度，創立政令，欲禁姦止暴，豈知法出姦生、令下詐起，民失性命之真，日趨滯競之域，若絕棄法令，則民反常復樸，其利豈止百倍而已。《莊子》曰：掊擊聖人，縱舍盜賊，而天下始治矣。（李）

絕仁棄義，民復孝慈；絕巧棄利，盜賊無有。此三者以爲文不足，故令有所屬。

“令”，王弼作平聲。（范）

見素抱樸，少私寡欲。

## 第二十章

絕學無憂。

《節解》曰：謂去諸經書還行一也。（顧）

肇曰：習學謂之聞，絕學謂之鄰，過此二者，謂之真過。（趙）

光曰：未絕學者計善惡，期於有用，此有用之小用也。絕學者知道，一生死，齊得喪，無往而不適，故無憂，此無用之大用也。（趙）

唯之與阿，相去幾何？善之與惡，相去若何？人之所畏，不可不畏。荒兮其未央哉，衆人熙熙，如享太牢，

“享”，王弼作“亨”。（陸）

陸云：亨，殺煮也。（陸）

如春登臺。我獨怕兮其未兆，如嬰兒之未孩。

“孩”，臧玄靜作“咳”。（范）

僂僂兮若無所歸。

此句王弼作“僂僂兮其若不足似無所歸”。（范）

陸云：僂僂，一本曰損益也，敗也，欺也。（陸）

衆人皆有餘，而我獨若遺。我愚人之心也哉！沌沌兮，俗人昭昭，我獨若昏。

王弼作“俗人皆昭昭”。（范）

俗人察察，我獨悶悶。澹兮其若海，颺兮若無止。

“忽”，王弼作“澹”，“漂”作“颺”。（范、陸）

《簡文》“漂”作“飄”。（范、陸）

衆人皆有以，而我獨頑似鄙，我獨異於人而貴食母。

## 第二十一章

孔德之容，

鍾云：容，法也。（陸）

簡文云：容，狀也。（陸）

唯道是從。道之爲物，唯恍唯惚。

顧歡曰：欲言定有，而無色無聲，言其定無，而有信有精，以其體不可定，故曰唯恍唯惚。如此觀察，名爲從順於道，所以得。（李，顧無末十三字。）

惚兮恍兮，其中有象，恍兮惚兮，其中有物。

王弼作“芴兮芒兮，中有象兮，芒兮芴兮，中有物兮”。（范）

窈兮冥兮，其中有精。

楊孚“窈”作“幽”。（范）

《節解》曰：謂腦中元氣化爲精也。（顧）

其精甚真，

顧曰：言至道之精虛，至真無假。（顧）

其中有信，

《節解》曰：謂精也。精不化，血不藏，則爲真人，一行形中，其中有信。  
(顧)

自古及今，其名不去。

王弼作“自今及古。”(范)

《節解》曰：名者，謂道也。聖人不死，其名常存。(顧)

以閱衆甫，吾何以知衆甫之狀哉，以此。

“然哉”，王弼作“狀哉”。(陸)

光曰：道本無名無形，既假德以形，道則曰象、曰物、曰精、曰閱，衆甫之始，此德之容而道之見也。(趙)

## 第二十二章

曲則全，

車惠弼曰：此是行，言能却曲柔和，逶迤順物，物無損害，內保己身，性命完全。(李)

枉則直；

“直”，王弼作“正”。(范)

窪則盈，

顧云：窪，洿也。(陸)

弊則新，少則得，多則惑。

《節解》曰：俗人多思念，多所欲，行無可信，故惑也。(顧)

是以聖人抱一爲天下式。

《節解》曰：謂念一行道守身中也。(顧)

不自見故明，不自是故彰，不自伐故有功，不自矜故長。夫唯不爭，故天下莫能與爭。古之所謂曲則全者豈虛言哉！誠全而歸之。

鍾會曰：誠能守曲，全必歸之。(李)

## 第二十三章

希言自然。

顧曰：希，少也。人能愛氣少言，則行合自然。（顧、李）

王曰：希言靜默，則合自然之道。（顧）

陸曰：希，疏也，靜也。（范）

光曰：希言者，言而不得所言之迹，則言而未嘗言，合自然道喙鳴而已。  
（趙）

故飄風不終朝，驟雨不終日。

顧曰：天健地順，神氣獨絕，爲此暴疾，猶不能竟日終朝，何況凡夫，朝生夕死，多言害物，其可久乎？（顧）

盧曰：形之大者莫過乎天地，氣之廣者莫極乎陰陽。陰陽相擊，天地交錯，風驚雨驟，猶不能久，而況人之細小，處天地之間，爲於多言，速滅可知。（顧）

王曰：山澤相通，爲於飄風，陰氣噴擊，作於驟雨。陰陽失節，則驚風驟雨，人失中和，則爲暴疾，殘身喪實，不可常行，驚暴非恒，自然難久，故曰不終朝也。（顧）

蔡曰：夫天以陽氣下降，散而爲風；地以陰氣上騰，蒸而爲雨。（顧）  
孰爲此者，天地，天地尚不能久，而況於人乎？故從事於道者，道者同於道。

蔡曰：若舉事皆從於道，道則得之，則同道之用也。（顧）

王曰：順教反俗，所爲從於道，兼忘衆累，與空虛合體，謂之同道，道則應之。（顧）

德者同於德，失者同於失。

肇曰：真者同真，僞者同僞，靈照冥諧，一彼實相，無得無失，無淨無穢，明與無明等也。（趙）

趙曰：此章談道妙，當從僧肇。然文義不相連屬，試爲之說曰：希言自然，談道本也，道德之失而後有仁、義、禮、智。苟從事於道矣，孰爲得失。但後世至誠，不足有不信者，如飄風驟雨而豈能以終日哉！（趙）

蔡子晃曰：有爲躁競，執教生迷，名爲失，既爲同失，不能虚心冥會而言道失者，獨失道也。（李）

同於道者，道亦樂得之；同於德者，德亦樂得之；同於失者，失亦樂得之。信不足焉，有不信焉。

鍾會曰：我信不足於道，道亦不信應我，所以兩相失。只是同於道者道得之，信於道者道信之，同於失者道失之，信不足有不信也。（李）

## 第二十四章

企者不立，

“跂”，王弼作“企”。（陸）

跨者不行，自見者不明，自是者不彰，自伐者無功，

顧歡曰：興功濟物，而自取其名，名既屬己，則功不在物。（李）

自矜者不長。

郭象曰：矜誇自恃，不解忘物，衆所不與，故不長也。（李）

其在道也，曰餘食贅行。

陸曰：贅，疣贅也。（陸）

物或惡之，故有道者不處。

## 第二十五章

有物混成，先天地生。

羅什曰：妙理常存，名爲有物，萬道不能分，故曰混成。（李）

光曰：道不可分曰混，亡功曰成，無始曰先，無物之物先天地而獨存者也。（趙）

寂兮寥兮，

“寥”，王弼作“寞”。（范）

“寔”，鍾會作“颺”，云：空疏無質也。（陸）

**獨立不改，**

鍾會曰：廓然無偶，故曰獨立，古今常一，是曰不改。（李）

光曰：絕待曰獨立，真常曰不改。（趙）

**周行而不殆，**

鍾會曰：道無不在名曰周行，所在皆通故無危殆。（李）

《節解》：謂聖人行一於身，周流四支百節九竅百脉之中，故曰周行不殆也。

（顧）

陸云：殆，危也。（陸）

**可以爲天下母。**

《節解》曰：謂守道含一爲天下母。（顧）

**吾不知其名，字之曰道，強爲之名曰大。**

王弼作“故強字之曰道，強爲之名大”。（范）

光曰：不涉數量曰大。（趙）

**大曰逝，逝曰遠，遠曰反。**

孫登曰：萬物逝行，皆有停性之處，此道逝行，尋之彌遠，莫究其源。（李）

顧歡曰：逝，往也。諸物雖大，大有極住。此道之大，往行無際，本無住盡之處。（李）

光曰：孤運無往曰逝，近極絕待曰遠，即近而彌遠、即遠而彌近曰反。（趙）

**故道大、天大、地大、王亦大，域中有四大，而王居其一焉。**

《節解》曰：謂肺大、心大、肝大、脾大，腎水生一也，而王處一，即脾氣主布四方行一也。（顧）

**人法地，地法天，天法道，道法自然。**

鍾會曰：莫知所出，故曰自然。（《文選·答臨淄侯》注）

阮籍《通〈老子〉論》曰：道法自然，《易》謂之太極，《春秋》謂之元，《老子》謂之道也。（《文選·游天台山賦》注）

光曰：三才法道，末不離本，自然即道也。遣，道之強名，表重玄之極則也。（趙）



## 第二十六章

重爲輕根，靜爲躁君。是以聖人終日行不離輜重，雖有榮觀，燕處超然。

簡文云：宴處，謂靜思之所宴居也。（陸）

“燕”，王弼作“宴”。（范）

奈何萬乘之主而以身輕天下。

《節解》曰：謂輕死也，雖貴爲天子，當守一長生。見而不學，故爲輕身，然後沒命，雖有玉柙金縷，何益於身。（顧）

陸云：萬乘之主，謂天子也。（陸）

輕則失本，躁則失君。

“臣”，王弼作“本”。（陸、范）

陸云：躁則失君，謂失君位。（陸）

《節解》曰：謂思慮煩躁之士不得長生。（顧）

松靈仙曰：心若動亂，即損於妙神，神即君也。（李）

## 第二十七章

善行無轍迹，

鍾會曰：善行道者，功名不顯。（李）

“轍”，王弼作“徹”。梁云：應車邊，今作彳邊者，古字少也。（陸）

盧裕曰：順道而行，迹不殊物，故無轍迹。（李）

光曰：乘以尻輪，御以神馬，此無時而發，彼無處而到，安有轍迹。（趙）

善言無瑕謫，

陸云：瑕，疵過也。謫，譴責也。（陸）

光曰：至人於言，喙鳴鍾應，不存實義，即夢說夢，即言忘言，復何瑕謫。（趙）

善計不用籌策，

“計”，王弼作“數”。（范）

光曰：即塵了地，即滴竟海，即道窮物，以一知萬，何假籌算。（趙）

善閉無關楗而不可開，

《節解》曰：謂閉氣握固，上閉天牝，下閉地牡，故曰無關楗。（顧）

陸云：楗，距門也。（陸）

善結無繩約而不可解。

《節解》曰：謂結持魂魄也。聖人抱魂持魄，故曰不可解也。（顧）

顧歡曰：結之以道，雖無繩而自固，結之以物，雖約而不堅。故以威約人，雖三軍而可離，以道結志，雖匹夫而難奪。（李）

是以聖人常善救人，故無棄人，

蔡子晃曰：利物爲善，弘濟爲救，救羣生於十方，即之本土。運善常以冥被，惠澤均平，含土蒙益，反流會通。（李）

常善救物，故無棄物，是謂襲明。故善人者，不善人之師；不善人者，善人之資。不貴其師，不愛其資，雖智大迷，是謂要妙。

光曰：病在藥存，病瘳藥遣，藥病雙遣，人法兩忘，大悟如迷，方爲要妙。（趙）

## 第二十八章

知其雄，守其雌，爲天下谿。

《節解》曰：雄者，魂也；雌者，魄也。謂神出入在身，故行一之士，法守自然，握固閉氣，抱持魂魄也。（顧）

爲天下谿，常德不離，復歸於嬰兒。

《節解》曰：谿者，口也。謂行一閉氣，湛然無爲，子則不老，復還嬰兒也。（顧）

知其白，守其黑，爲天下式。爲天下式，常德不忒。

《節解》曰：謂道行一，以仙爲天下式。（顧）

顧云：忒，差也，爽也。（陸）

復歸於無極。

羅什曰：忒謂爽失也。若能去智守愚。動與機合，德行相應，爲物楷式，顯則成行，隱復歸道，道本不窮，故成無極。一是智慧無極，二是慧命無極。（李）

《節解》曰：謂常守生行一，無極也。（顧）

知其榮，守其辱，爲天下谷。爲天下谷，常德乃足，復歸於樸。

《節解》曰：謂守自然也。（顧）

松靈仙曰：足，充足也；復者，反歸也；樸者，真本也。始自知雄，終乎守辱，三行既備，爲道之要。又如虛谷，罄無所容，所以常道上德，於是乃足，故得反歸真空，與道合體，故云復歸於樸。（李）

樸散則爲器。

鍾會曰：樸，道也。守則爲質樸之道，散則爲養神之器。（李）

聖人用之則爲官長，故大制不割。

“不割”，王弼作“無割”。（范）

## 第二十九章

將欲取天下而爲之，吾見其不得已。

臧玄靜曰：將是方將，欲是輒欲，謂人方將輒欲力取天下，有爲治之。（李）  
天下神器，不可爲也。

“天下”之上阮籍有“夫”字。（范）

爲者敗之，執者失之。故物或行、或隨、或歛、或吹、或強、或羸、或挫、或隳。

“或強、或剝、或培、或墮”，嚴遵、王弼、傅奕、阮籍同古本。河上公改“噤”作“响”、改“剝”作“羸”、改“培”作“載”、改“墮”作“隳”。（范）

陸云：挫，搗也；隳，毀也。（陸）

是以聖人去甚、去奢、去泰。

## 第三十章

以道佐人主者，不以兵强天下。

《節解》曰：謂口謂兵也。口言失則兵革至，精神踴躍，魂魄相加，神明恍惚，則去其身矣。（顧）

《內解》：身心者，即是三業六根，兵也。（成）

其事好還。

《節解》曰：謂安心、定意、行一，乃還其身也。（顧）

師之所處，荆棘生焉，大軍之後，必有凶年。

陸云：凶年，天應惡氣，災害五穀，盡傷人也。（陸）

善有果而已，不敢以取强。果而勿矜，果而勿伐，果而勿驕，果而不得已。果而勿强，物壯則老，是謂不道，不道早已。

## 第三十一章

夫佳兵者，不祥之器。

《節解》曰：謂輕言者皆不活其身，身危則亡其器，此爲不祥之器也。（顧）

《內解》：即三毒六根之兵，若磨銳諸根，而貪取塵境者，不善之行也。（成）

陸云：佳，善也。

物或惡之，故有道者不處。君子居則貴左，用兵則貴右。

顧歡曰：左，陽也。陽道主生，故平居貴之。右，陰也。陰道主殺，故用兵則貴之。（李）

兵者，不祥之器，非君子之器。

《節解》曰：謂口致兵革之言也，陰强則殺身之斧也，故曰不祥之器也。（顧）

不得已而用之，恬澹爲上，勝而不美。

張君相曰：不亂曰恬，夷心曰惔。（李）

而美之者，是樂殺人。夫樂殺人者，則不可以得志於天下矣。吉事尚左，凶事尚右；偏將軍居左，上將軍居右。

王曰：動則威刑，闔外專殺，自任之道。故言爲上，以殺主陰，雖上而居右。（顧）

言以喪禮處之，殺人之衆，以悲哀泣之。

羊祜曰：明非所樂也。（李）

王曰：一夫吁嗟，王道爲之傾覆，一里違和，陰陽爲之改度。鄒衍降霜，杞妻城毀，匹夫嫠婦，猶感天地，而況橫尸巨野，散骨長源，肉飼鳥鳶，血流絳草，愍彼殘傷，曷得不喪。（顧）

戰勝則以喪禮處之。

## 第三十二章

道常無名，樸雖小，天下莫能臣也。

“不敢”，王弼作“莫能”。（陸）

侯王若能守之，萬物將自賓。

“侯王”，梁武帝作“王侯”。（陸）

天地相合，以降甘露，民莫之令而自均。始制有名，名亦既有，夫亦將知止，知止所以不殆。

王弼、馬誕“天”字作“夫”、“知之”作“知止”。（范）

蔡子晃曰：若能知止，有名之末，復歸無名之本。此則不死不生，所以不危殆也。（李）

譬道之在天下，猶川谷之與江海。

盧裕曰：川谷歸海，海亦不召，百姓歸道，道本不謀。（李）

## 第三十三章

知人者智，自知者明，勝人者力，自勝者強。

顧曰：才幹勝人，不過有力，有力之人，必有其敵，有其敵者，則強弱未定。今以性制情，謂之自勝。自勝之人，無敵於己；無敵於己者，可謂強矣。（顧）

知足者富，強行者有志，

《節解》曰：謂晝夜行道而不休息也。（顧）

不失其所者久，

《節解》曰：謂不失其一也。（顧）

死而不亡者壽。

《節解》曰：謂人尸解者，死而後生也。（顧）

什曰：在生而不生曰久，在死而不死曰壽。（趙）

## 第三十四章

大道汎兮，其可左右。

光曰：其可，不可也。大道不可以固必求，不可以對待取。（趙）

萬物恃之而生而不辭，功成不名有，衣養萬物而不為主。

“愛養”，王弼、馬誕作“衣被”。（范、陸）

蔡子晃曰：衣被者，覆育也，雖覆育萬物故不為主，似若微小。（李）

常無欲可名於小，萬物歸焉而不為主，

王弼作“萬物歸之而不知主”。（范）

可名為大，以其終不自為大，故能成其大。

王弼作“以其終不自為大”，河上本云“是以聖人終不為大也”。（陸）

## 第三十五章

執大象，天下往，往而不害，安平太。

盧裕曰：以虛受人，何害之有。無害於物，則泰然安平。（李）

車惠弼曰：若往於生死，有累憂悲，斯則有害；若往大道，無爲安樂，此則無害。而言安平泰者，不爲生死所遷名爲安，諸法不二名爲平，無爲安樂名爲泰。（李）樂與餌，過客止，道之出口，淡乎其無味。

“出口”，王弼作“出言”。（范）

視之不足見，聽之不足聞，用之不足既。

## 第三十六章

將欲歛之，必固張之；

“歛”，王弼作“儉”，簡文作“歛”。（陸）

儉，顧云：閉塞也。（陸）

將欲弱之，必固強之；將欲廢之，必固興之；將欲奪之，必固與之；

王弼“奪”作“取”。（范）

是謂微明，柔弱勝剛強。

鍾會曰：欲制剛強，示乎柔弱，先張後歛，勝負可知。（李）

魚不可脫於淵，國之利器不可以示人。

## 第三十七章

道常無爲而無不爲。

蔡曰：道體凝動，真際不動，故曰無爲。應物而動，物無不用，故曰而無不

爲。(顧)

侯王若能守之，萬物將自化。

杜曰：德能伏物，道在則尊，皇王守道，不令自均，公侯懷德，不嚴而化。  
(顧)

羅什、《內解》曰：心得一空，資用不失，萬物從化，伏邪歸正。(顧)  
化而欲作，吾將鎮之以無名之樸。

顧曰：作，謂僞生也。言侯王守道，物皆從化，忽有人從安化中欲生詐僞之心者，老君言我將以道鎮之。又曰混沌其心，令無分別也。又曰無名之樸者，教戒是也。(顧)

無名之樸，夫亦將無欲，不欲以靜，天下將自定。

王弼“不欲”作“無欲”，“無名之樸”句不重。簡文作“不欲。”(陸)

## 第三十八章

上德不德，是以有德；

鍾會曰：體神妙以存化者上德也。(《文選·安陸昭王碑文》注)

王弼曰：有德則遣其失，不德則遣其得。(范)

王、顧等云：有德則遣其失，不德則遣其得。(董)

陸云：德者得也，道生萬物，有得獲有，故名《德經》。(陸)

下德不失德，是以無德。上德無爲而無以爲，

王嗣、王弼、郭雲作“上德無爲而無不爲”。(范)

顧歡曰：言上德之化，處無爲之事，行不言之教，其迹不彰，故曰無爲。爲既無迹，心亦無欲，故曰無以爲。(李)

下德爲之而有以爲。

王嗣、王弼、郭雲作“下德爲之而無以爲”。(范)

上仁爲之而無以爲，上義爲之而有以爲，上禮爲之而莫之應，則攘臂而扔之。

盧曰：玉帛之禮，以爲行聘之端，故曰上。爵命有度，故曰爲之。禮節煩多，玉帛斯竭，下不供上，故曰而莫之應。以不應故刑罰行焉。(顧)



“仍”，王弼作“扔”。（陸、范）

陸曰：應，應對，如字。扔，引也，因也。《字林》云：就也，數也，原也。（陸）

吳筠曰：禮智者，制亂之大妨也；道德者，撫亂之宏綱也。然道爲禮之本，禮爲道之末，執本者易而固，持末者難而危，故人主以道爲心，以德爲體，以仁義爲車服，以禮智爲冠冕，則垂拱而天下化矣。若尚禮智而忘道德者，所謂有容飾而無心靈，雖乾乾夕惕而天下弊矣。（李）

故失道而後德，失德而後仁，失仁而後義，失義而後禮。夫禮者忠信之薄而亂之首，前識者道之華而愚之首。

顧曰：前識者，謂不待研求也。夫清靜虛妙，則深不可識，無色無象，其道自真。若夫辭說辯瞻，儀形煥炳，相好森羅，在前可識，此非至真之實，乃是大道之華而愚之始。夫愚人始化，未見真實，故以前識引其愚、道華化其始也。序家云，此釋最爲勝。（顧）

是以大丈夫處其厚不居其薄，處其實不居其華，故去彼取此。

顧歡曰：道德爲厚，禮法爲薄，清虛爲實，聲色爲華，去彼華薄，取此厚實。（《後漢書·朱穆傳》注）

## 第三十九章

昔之得一者，

鍾會曰：一，亦道也。（《文選·頭陀寺碑文》注）

天得一以清，

《節解》曰：謂泥丸在人頭中，清氣下灌，故曰以清。（顧）

顧歡曰：天者純陽之氣，得一故輕清於上。（李）

地得一以寧，

《節解》曰：謂丹田不淫不亂，精神居其身，故曰寧也。（顧）

顧歡曰：地者純陰之質，得一故安靜處下。（李）

神得一以靈，

《節解》曰：神謂心也，心爲神靈五藏之主，故曰以靈。（顧）

谷得一以盈，

《節解》曰：谷謂口也，口爲華池宮，能致醴泉，故曰以盈。（顧）

郭象曰：谷，川谷也。谷川得一，故能泉源流潤，溪壑盈滿。（李）

萬物得一以生，

《節解》曰：謂萬物異形，皆共得一以生，故曰以生。（顧）

張君相曰：有識無情，總號萬物，同稟一道，以得生成。（李）

侯王得一以爲天下貞。

《節解》曰：謂脾也。位處中黃，以一制化四方，故曰以正。（顧）

“侯王”，王弼作“王侯”。“正”，王弼、郭雲同作“貞”。（范）

其致之。

《內解》云：通是一人，而有六種行門也。（成）

《節解》曰：謂天、地、人、神靈、水泉、萬物，各共一以成，故曰其致之也。（顧）

天無以清將恐裂，

《節解》曰：謂泥丸不得一，則腦枯、頭白、齒落，故曰裂。（顧）

地無以寧將恐發，

《節解》曰：謂丹田不得一，則精氣發泄，故曰恐發也。（顧）

神無以靈將恐歇，

《節解》曰：謂心亂不守一，則身空、早老，故曰恐歇。（顧）

谷無以盈將恐竭，

《節解》曰：謂口失其一，則華池不津液，故曰竭也。（顧）

萬物無以生將恐滅，侯王無以貴高將恐蹶。故貴以賤爲本，

《節解》曰：謂人求長生，當以元氣爲母，故曰本也。（顧）

高以下爲基。

《節解》曰：謂道人養精補腦，當用丹田爲主，故爲基也。（顧）

孫登曰：九重之臺，起於壘土，百仞之高，元乎一簣，以況尊貴“以”卑下爲基。（李）

顧曰：夫言高以下爲基者，貴非自貴，由乎賤者所崇；高非自高，緣於下者

所載。然則貴因賤立，得不以賤爲本乎？是以智者務本，故居謙而不危，愚者殉末，故窮高而自墜。（顧）

是以侯王自謂孤寡不穀，

顧歡曰：孤是無父之稱，寡是偏喪之名。不穀者，不善也，謂“德”非“物”宗，不能總衆之辭。凡此三者，皆人之所賤，而侯王自以爲稱，豈非以賤爲本乎？（李、顧）

此非以賤爲本耶？非乎？

王弼作“是其以賤爲本也，非歟！”（范）

《節解》曰：非謂其道是元一歟！（顧）

顧歡曰：非者，詳問之辭，言侯王以孤寡不穀自目，明其以賤爲本。（李）

故致數譽無譽，

《想爾注》曰：故致數譽，俗人貪名譽也。無譽，不欲俗人無有不欲名譽者也。（杜卷三一）

《節解》曰：謂道真無名，抱一守內不外求，故曰無譽也。（顧，原錯在第五十四章）

“車”，王弼作“譽”。（陸）

王、盧曰：夫言車者，以衆材合成，乃名車也。君以衆人共載，乃成君也。然無材，車何以爲有？無人，君何以爲高？故愛車者當須重材，寶元者當須守人也。（顧，原錯在第五十四章）

陸云：譽，毀譽也。（陸）

蔡曰：所言譽者，毀譽也。言有道王侯卑以自牧，既忘貴賤，亦一毀譽。故人數數譽揚，言其有德，亦不以爲貴；數數毀敗，言其無道，亦不以爲賤。（顧）

顧曰：言行人君子善以道德功行建立身心，無德可彰，無迹可顯，則深根固蒂不爲是非欲惡之所抽拔也。（顧）

不欲碌碌如玉，珞珞如石。

“落”，王弼作“珞”。（陸）

## 第四十章

反者道之動，

吳子云：天地之生禽鳥也，猶衣之以毛羽，供之以蟲粒，況於人乎？衣食者雖養生之所切，亦可委心任運，豈在躁求乎？不能體道全生委心順命者，是謂執其生而失於道矣。若能祛躁求之妄，安順命之懷，體彼恬愉，生可全矣。理國者，任物之性，順天之時，息苛暴以惠人，輕賦徭而育物，無拓土開疆之欲，自戢五兵，無崇臺峻宇之奢，自清庶務，躋生靈於壽域，斯可謂反俗順道乎？（杜卷三二）

弱者道之用。天下之物生於有，有生於無。

吳子曰：修道之士，道與俗反。自老而反壯，自壯而反嬰，自嬰而得道，此所謂捨其粗有、歸其妙無、還元復本也。世人不能察道之元、窮道之本，自人（人）於死，淪化隨時，故可傷矣。聖人憫之，設以權教，使去奢從儉、去僞從真，去有欲有爲，行無爲無欲，徇此權教，漸階實門，默契真修，可以得道矣。以權實化俗，理亦然哉！（杜卷三二）

## 第四十一章

上士聞道，勤而行之。

吳先生曰：上士不教而自知，下士雖教而不移，神道設教，爲中士耳。夫中士語之以善則遷善，導之以惡則趣惡，故教之所設，爲中士之可上可下也。太上之旨，誘以多方，教以善道，俾其遷革漸脫愚迷，俾有向風進善之門，則所謂人無棄人矣。上士既悟之於自然，故勤行不怠也。（杜卷三二）

中士聞道，若存若亡。下士聞道，大笑之。

志琮曰：下士聞於妙道，無相無名，不來不去，非生非滅，既不信從，翻生違背，所以拊掌大笑，謂爲虛誕。（李）

不笑不足以爲道。

羊祜曰：下愚昏昧，貴華賤實，上道深奧，虛無清遠，不爲淺識所笑，不足爲深遠之至。（李）

故建言有之：

王弼、孫登“之”下有“曰”字。（范）

明道若昧，

志琮曰：內有智慧爲明，外無炫耀爲昧。（李）

進道若退，夷道若類。

“類”，王弼作“類”。（陸）

“類”，簡文云：疵也。（陸）

上德若谷，大白若辱，廣德若不足，

孫登曰：其德深廣，則通疏見遠，遺略小節，智如不足。故良賈深藏若虛，君子盛德容貌若愚。（李，陳景元《道德真經藏室纂微》，以下省稱陳）

志琮曰：夫上德功濟十方，莊嚴萬物，德化無窮，名之爲廣，雖云有德，恒自若無德，即無德，故云不足。（李）

建德若偷，

王弼作“若偷”。（范）

車惠弼曰：聖人建立衆德，濟度羣生，妙用潛流，不令人覺，故云若偷。（李）

吳筠曰：功欲陰，過欲陽，功陰則能全，過陽則易改。（陳）

質真若渝，大方無隅，大器晚成，

董遇作“若搖”。（范）

《節解》曰：謂守一不待老則得道。（顧）

陶弘景曰：積德道成，謂之大器，非日可就，故曰晚成。（李）

大音希聲，

志琮曰：希聲者，猶無聲也。夫聖人一音說法，遍滿十方，發蟄開蒙，導凡誘俗。雖復教滿十方，即言恒寂，教即無教，言即無言，以此之義，名曰希聲。（李）

大象無形。

鍾會曰：無象不應，謂之大象，既無體狀，豈有形容。（李）

道隱無名，夫唯道善貸且成。

王弼作“且善成”，多一“善”字。（范）

顧歡曰：先與後得謂之貸，物得成道謂之成，成之則歸道，道得之也。（李）

志琮曰：今凡夫之生，是道以生貸汝，汝應悟生復歸於道，何乃執生爲生，而不反本邪？（李）

## 第四十二章

道生一，

孫登注曰：妙一宅於太虛之內，玄化資於至道之用，故因其所由謂之生。（《初學記》卷二三）

一生二，二生三，三生萬物。

鍾會曰：散而爲萬物也。（《文選·遊天台山賦》注）

榮曰：道生一，虛中動氣，故曰道生，元氣未分，故言一也。一生二，清濁分，陰陽著也。二生三，運二氣三方。三生萬物，圓天覆於上，方地載於下，人生（《榮注》作“主”）統於中，何物不生也。（顧）

萬物負陰而抱陽，

陳曰：陰陽，道之妙用也，負則在外，抱則在內。（顧）

沖氣以爲和。

榮曰：陽氣熱，孤亦不能生物，陰氣寒，單亦不足成形，因大道以通之，借沖氣以和之，所以得生也。（顧）

人之所惡，唯孤寡不穀，而王公以爲稱，故物或損之而益，或益之而損，人之所教，我亦教之。

王弼作“人之所以教我，而亦我之所以教人”。（范）

強梁者不得其死，吾將以爲教父。

顧曰：言此強梁之士，既不得其死，我即爲其立教，說斯無爲道德，作爲其敦學之本父也。（顧）

## 第四十三章

天下之至柔，馳騁天下之至堅，無有入無間，

車曰：言水之與風本无質相，金石骨髓亦无間隙。風之與水已能縱入，行之所至，至妙之道，本自無形，煩腦結陋，又無間竅，道之妙惠，早已入訖。原其結縛之由，要其頑執之本，投其悟解之藥，開其真性之機，此即无有人无間也。（顧）

吾是以知無爲之有益。不言之教，無爲之益，

孫曰：柔能破剛，無能遣有，以是知無爲之教大益於人。（顧）

天下希及之。

顧曰：則天玄默，而風俗自移，故曰不言之教。法道无爲，人物自化，故言无爲之益。（顧、李）

## 第四十四章

名與身孰親？身與貨孰多？得與亡孰病？是故甚愛必大費，

劉進喜曰：貪欲無厭謂甚愛，欲甚喪身故云大費。（李）

多藏必厚亡。知足不辱，知止不殆，可以長久。

## 第四十五章

大成若缺，其用不弊。大盈若冲，其用不窮。

“大盈若冲”，郭雲、王弼作“大滿若盅”。（范）

羅什曰：智無不積爲滿，空而能正曰冲。言大滿之人能忘其滿，雖滿若虛，虛則不竭，用能如此，則無窮極。（李）

**大直若屈，**

羅什曰：理正無邪曰直，隨物曲成爲屈。（李）

陸云：屈，僞也。（陸）

**大巧若拙，**

劉進喜曰：匹成萬物，爐錘羣生，有大功巧而忘功用，晦迹同凡，故曰拙也。（李）

**大辯若訥。**

羅什曰：智無不周爲大辯，非法不說故稱訥。（李）

**躁勝寒，靜勝熱，**

《節解》曰：靜勝熱，謂其無爲則精神守一。（強）

顧曰：物極則反，動極則靜，靜極則動，從此而觀，盛極則衰，衰極則盛，人間諸法，例皆如此，既非常保，何所貪求。是以聖人不取不求，無得無失，而五種大行自清自靜，不爲寒熱所侵，始爲天下之正主云云。（顧）

**清靜爲天下正。**

《節解》曰：謂得道入深山，行清靜，守自然，則爲真人也。（強，顧無“道”字）

## 第四十六章

**天下有道，却走馬以糞。**

陸云：却，除也。（陸）

**天下無道，戎馬生於郊。罪莫大於可欲，**

王弼無“罪莫大於可欲”句。（陸）

張君相曰：前境美麗，稱可欲心，故言可欲。然境能適心，是起罪之緣，緣境不止，必獲大罪。（李）

**禍莫大於不知足，咎莫大於欲得。**

大孟曰：得中求取而又得，又不厭得中，故更欲得。心既無涯，必招大咎。此言無道之徒，縱性任情，殃咎斯至，存亡俱累。罰止一身，罪也；下及子孫，



禍也；上誤祖先，咎也。（李）

故知足之足常足矣。

## 第四十七章

不出戶，知天下；不窺牖，見天道。

車惠弼曰：行人虛懷內靜，不馳心於世俗末役，思於攀緣，以真炤僞，事無不悉也。（李）

其出彌遠，其知彌少。

“少”，王弼作“尠”。（范）

蔡子晃曰：明無道者不能察已知人，馳心逐境，雖復出戶遠遊，境界窺牖，瞻望星辰，其於知見甚爲寡少，以其捨己而求於外也。（李）

是以聖人不行而知，不見而名，不爲而成。

光曰：情封即滯，理契即神。（趙）

## 第四十八章

爲學日益，爲道日損，損之又損，以至於無爲，無爲而不爲。

“而”，王弼、陳韶作“則”。（范）

羅什曰：損之者，無羸而不遣，遣之至乎忘惡；然後無細而不去，去之至乎忘善。惡者非也，善者是也。既損其非，又損其是，故曰損之又損。是非俱忘，情欲既斷，德與道合，至於無爲。己雖無爲，任萬物之自爲，故無不爲也。（李）  
取天下常以無事，及其有事，不足以取天下。

## 第四十九章

聖人無常心，以百姓心爲心。

《節解》曰：謂知道行氣，以神爲心，則流布百節。百節、百神、百名，共於形中，故曰以百姓心爲心也。（顧）

劉進喜曰：百姓者，衆人之總稱也。然聖人無心，有感斯應，應隨物感，故以百姓爲心，既無心應，亦無不應。（李）

善者吾善之，不善者吾亦善之，德善。

《節解》曰：謂行一養神，神和形柔，邪去正存，骨堅髓填，故曰德善矣。（顧）

信者吾信之，不信者吾亦信之，德信。

《節解》曰：謂人信一也。一亦信人，人不信一，一由人生，故道常得其信也。（顧）

聖人在天下，歛歛爲天下渾其心。

“怵怵”，王弼作“歛歛”，一本作“慄慄”。（陸）

顧云：慄慄，危懼貌。（陸）

蔡子晃曰：以無分別之教，混有分別之心，衆心既有善不善，有信不信，有分別二見，聖人皆善皆信，究竟玄同，故云渾。（李）

百姓皆注其耳目，聖人皆孩之。

“孩”，王弼作“咳”。（陸）

## 第五十章

出生入死。

蔡子晃曰：夫衆生失無爲之靜本，造有爲之穢業，出沒隱現，生死輪迴，所以從無適有，名曰出生，自有歸無，名爲入死也。（李）

生之徒十有三，死之徒十有三，

孫登曰：天地之物，有生之類，順理者寡，逆理者衆，故十分之中，順理者三耳。夫生不以道，死不以理，順生者少，逆死者多，故死之中，順命者三耳。（陳）

人之生動之死地十有三。夫何故？以其生生之厚。蓋聞善攝生者，陸行不遇兕虎，

《內解》者言：平居安靜，不爲煩惱所加也。（成）

入軍不被甲兵，

《內解》者言：縱入塵境，亦不爲色等所傷也。（成）

兕無所投其角，虎無所措其爪，兵無所容其刃，夫何故？以其無死地。

《節解》曰：謂聖人懷精神，守一行氣，握固胎息，故使此物不害之道處其心，真氣俱存，故無刑殺之地也。（顧）

羅什曰：地猶生也，以其攝生無生，故三毒不能傷害。（李）

## 第五十一章

道生之，德畜之，物形之，勢成之，是以萬物莫不尊道而貴德。道之尊，德之貴，夫莫之爵常自然。故道生之，德畜之，長之，育之，亭之，毒之，養之，覆之。

“成之”、“熟之”、“養之”，王弼、李奇作“亭之”、“毒之”、“蓋之”。（陸、范）

陸云：亭，如字，別也。（陸）

生而不有，爲而不恃，長而不宰，是謂玄德。

鍾會曰：幽冥晦昧，故稱爲玄。（《文選·遊天台山賦》注）

車曰：道爲陽極，陽即天也，天以運動，所以生萬物。德爲陰極，陰即地也，地以包含，所以畜萬物。受炁曰生，養形曰畜，所云一切萬物之形勢。成之者因其業勢而成就之，業勢應合爲人，即爲作人形而成就之。（顧）

蔡曰：爲諸衆生，作四時之勢，成就萬物，此說在前。（顧）

光曰：道若恃宰，則道外有物，非玄德也。（趙）

## 第五十二章

天下有始，以爲天下母。

蔡曰：始，本也。言一切衆生，沉淪五慾，不知根本，隨流逐末，漂浪生死，故老君舉本示之。明天下有清虛炁爲道德，爲汝根本。且始則无先，母則有功，取其生物，故稱始也；育之功，遂稱母也。（顧）

既知其母，復知其子；既知其子，復守其母，

蔡曰：既知己是道子，從而得生，則須守清靜无爲，復歸其母，便與道同也。（顧）

沒身不殆。塞其兑，

“兑”，簡文云：言也。（陸）

閉其門，終身不勤。開其兑，濟其事，終身不敝。

裴處恩曰：開其五欲之門，濟其六塵之事，心神內疲，耳目外困，終身勞倦也。（李）

見小曰明，守柔曰强，

張君相曰：順道無違曰柔，始終不損曰强。（李）

用其光，復歸其明，無遺身殃，是謂習常。

顧歡曰：若開其兑，濟其事，殃咎必至，至非外禍，是自與身殃。（李）

## 第五十三章

使我介然有知，行於大道，

《節解》曰：吾夙夜介介心念守一於身也。（顧）

王及羅什二家云：介，小也。我小有所知，則便行於大道也。（顧）

肇曰：有所知，則有所不知，聖心無知，故無所不知。小知，大知之賊也。

（趙）

唯施是畏。大道甚夷，而民好徑。

《節解》曰：謂人好邪僞行妄徑也。（顧）

陸云：徑，邪徑。（陸）

朝甚除，

顧歡曰：除，修也。好徑之人，唯以修朝爲善也。（李）

田甚蕪，

《節解》曰：謂人不修其一，朝夕自飾而生病，故心荒穢也。（顧）

顧歡曰：草長曰蕪。蕪，荒廢也。夫峻宇雕牆，窮侈極麗，則人力凋盡，田蕪荒廢。內明徇名好利，棄少求多，道業不修，丹田荒廢也。（李）

倉甚虛，

《節解》曰：謂不守固其一，則五藏空乏，故曰虛也。（顧）

服文綵，帶利劍，

《節解》曰：謂好華服於身，一去邪來。帶利劍，仗刃備，爲鬼邪所病。（顧）

厭飲食。財貨有餘，是謂盜夸。

《節解》曰：謂好其甘肥以養其容，一去其中，百病並生，乃以資貨備於死喪也。（顧）

羅什曰：取非其有曰盜，貴己之能曰夸。（李）

非道也哉！

《節解》曰：謂人不行一，但念好服美食，可以爲盜賊，不能止病却死，故非道也。（顧）

## 第五十四章

善建者不拔，

《節解》曰：言行人君子善以道德建立身心，無德可彰，無迹可顯，則深根固蒂，不爲是非欲惡之所抽拔。若建者伐德求名，顯功希報，美善既彰，冥功不著，終爲無常業障之所抽拔。故《淮南子》曰：善建者相貌：金鋼，火能銷之；

火熱，水能滅之；水流，土能塞之；木強，斧能伐之。唯是建於無建者，不可拔也。（李）

“不拔”，顧云：私。（陸）

善抱者不脫，子孫以祭祀不輟。修之於身，其德乃真；

杜弼曰：明以近修遠，立身以道，不拔不脫，固蒂深根，以此修身，真德在己也。（李）

修之於家，其德乃餘，修之於鄉，其德乃長；修之於國，其德乃豐；修之於天下，其德乃普。故以身觀身，以家觀家，以鄉觀鄉，以國觀國，以天下觀天下。吾何知天下之然哉？以此。

## 第五十五章

含德之厚，比於赤子。蜂蠆虺蛇不螫，猛獸不據，攫鳥不搏。

“毒蟲不螫”，王弼作“蜂蠆虺蛇不螫”。（陸）

張君相曰：毒蟲，蜂蠆蛇虺之類，以氣害人爲螫；猛獸，虎兇之類，以足踐人爲據；攫鳥，雕鶚之類，以爪傷人爲搏。赤子無傷物之心，故不爲此等諸物所害。且毒蟲喻嗔，猛獸喻癡，攫鳥喻貪，赤子絕此三惡，故不爲三毒所傷。含德之人，慈忍久就，內不生嗔，故言毒蟲不螫；喜捨既成，貪愛亦盡，故喻攫鳥不搏；常有明智，永絕癡惑，故言猛獸不據。（李）

骨弱筋柔而握固，未知牝牡之合而全作，

“峻”，王弼作“全”。本一作“腴”，《說文》云：赤子陰也。（陸）

精之至也。終日號而不嗶，

“啞”，王弼作“嗶”。（陸）

陸云：不嗶，氣逆也，當作噫。（陸）

和之至也。知和曰常，知常曰明。

松靈仙曰：和是不二之中。夫道一相無相，不爲生死所傾動，故名曰常，能知此常，則智慧日明也。（李）

益生曰祥，

孫登曰：生生之厚，動之妖祥。（李）  
心使氣曰強。物壯則老，謂之不道，不道早已。

## 第五十六章

知者不言，

《節解》曰：謂一不可說也。（顧）

顧歡曰：明道則忘言，存言則失道，道可默契，不可口說。故莊云：道無問，問無應。（顧）

言者不知。

《節解》曰：謂說者不知一也。（顧）

塞其兌，閉其門，

《節解》曰：謂閉塞九竅固精守氣也。（顧）

挫其銳，解其紛，和其光，同其塵，

裴處恩曰：光，智也；塵，愚也。衆生飾智以耀人，縱愚以染患，聖人和光不耀，同其塵也。（顧，李引作“和其光，令光不耀，同其塵，令塵不染”）

是謂玄同。

光曰：知者不言，言而不言，實在忘言。言者不知，目擊未當，況言議乎？體道絕待、不得所同之迹曰玄同。（趙）

故不可得而親，不可得而疏，不可得而利，不可得而害，不可得而貴，不可得而賤，故爲天下貴。

## 第五十七章

以正治國，以奇用兵，

《節解》曰：謂治身者正於心，不以口兵自傷也。國，身也。（顧）

顧歡曰：奇者，變詐也。臨難制變，兵不厭詐，三略、九奇、九攻、百勝，

此上將軍師靜難息寇，武之功也。（李）

以無事取天下。吾何以知其然哉？以此。天下多忌諱而民彌貧。

《節解》曰：謂有爲也。（顧）

民多利器，國家滋昏。

王弼作“民多智惠而衰事滋起”。（范）

人多伎巧，奇物滋起。法令滋彰，盜賊多有。

陳曰：亦自然之理也。多忌諱則失取捨之和也，多利器則權在下也，多伎巧則蕩心之所生也，滋法令則弊倖之興不可革也。（顧）

榮曰：珍好之物爲法物也，多貴金玉，盜賊斯起也，亦言法所以息盜盜更多，禮所以整亂亂斯作。（顧）

故聖人云：我無爲而民自化，

《節解》曰：謂守自然則元氣流行也。（顧）

我無事而民自富，

《節解》曰：謂人無事則形氣精神血脈充溢也。（顧）

《類解》曰：心既無爲，迹又無事，四民樂業，百姓豐饒，此反天下多忌諱而民彌貧。（李）

我好靜而民自正，

羊祜曰：我動則民邪，我靜則民正，此反人多利器、國家滋昏。（李）

《節解》曰：謂人虛心不邪念則氣存形中也。（顧）

我無欲而民自樸。

《節解》曰：謂人無情欲，守一堅固，則精氣淳厚不衰耗也。（顧）

## 第五十八章

其政悶悶，其民淳淳，其政察察，其民缺缺。禍兮福之所倚，福兮禍之所伏，孰知其極。

孫登曰：孰，誰也；極，盡也。夫禍福相因，倚伏無定，禍因福至，福假禍來，孰知其盡也。（李）



其無正，正復爲奇，善復爲妖。

《節解》曰：謂人得道之福，不能守一，輒有驕盈，邪意復生也。（顧）

顧曰：設欲爲善，乃爲妖孽，名聲之善也。（顧）

人之迷，其日固久。

《節解》曰：謂世之人不能守其一，惑於邪僞，失福得禍，從來久遠，非獨今日也。（顧）

是以聖人方而不割，

《節解》曰：方，謂一之正道也，守之當堅，行之當久，無復以邪自傷割也。（顧）

顧歡曰：方正其身，妖奇自隔，不以其方割彼從我也。（李）

廉而不剝，

“害”，王弼作“剝”。（陸）

《節解》曰：廉謂氣之清也，不可以穢濁妨道行也。（顧）

直而不肆，

《節解》曰：謂一之功平，隨心委曲，不可以繩墨爲正。（顧）

光而不耀。

《節解》曰：光謂神明流通，內潤形中，不須火燭爲耀也。（顧）

## 第五十九章

治人、事天莫若嗇。夫唯嗇，是謂早服。

“服”，王弼、孫登作“復”。（范）

早服謂之重積德，

《節解》曰：謂姦邪伏匿者，皆由重一而積氣也。（顧）

重積德則無不克，

《節解》曰：謂重一氣積，邪除病愈，故無不克勝也。（顧）

無不克則莫知其極，

《節解》曰：謂一行身中，邪除病愈，莫知盡極，則其命長存。（顧）

莫知其極，可以有國。有國之母，可以長久，是謂深根固柢，長生久視之道。

## 第六十章

治大國若烹小鮮。

“鮮”，孫登作“鱗”。（范）

以道蒞天下，其鬼不神。

顧曰：神者，靈效之謂也。以道居位臨理天下則太平，太平之代，鬼魅不敢神。以道修身，則真照得一，得一之士，尸魄不靈。（顧）

非其鬼不神，其神不傷人。

《節解》曰：非謂鬼無神也。道在人身，故神不傷人也。（顧）

非其神不傷人，聖人亦不傷人。

諸本皆作“亦”字，唯張係師及陸先生本作“之”字。（強引《成疏》）

《節解》曰：謂人行治道，與神明合，內無陰過，故鬼神不能傷也，外無陽罪，故聖人不能刑也。又行之一，天神在外，衛身在裏，護形元氣混沌，皆其治身己之所行。上法於天，頭戴日月光明，星辰列宿，皆在身中，精神呼吸，食玉英也。（顧）

劉進喜曰：神者，效驗靈也。非此鬼無靈效，但人君用道，鬼乃福祐於人，不能傷害於物。（李）

夫兩不相傷，故德交歸焉。

## 第六十一章

大國者下流，天下之交，

《節解》曰：泥丸爲大國，口爲小國，口承上下灌丹田，丹田則地郊也。（顧）

天下之牝。牝常以靜勝牡，以靜爲下。故大國以下小國則取小國，

顧歡曰：夫大國謙以虛，則小國悅以服，服之是爲取彼小國也。（李）

小國以下大國則取大國，

《節解》曰：謂泥丸居上爲大國，丹田處下爲小國，行一之道，閉氣嚥液，下流丹田。液化爲血，血化爲精，精化爲氣，胎息引之，還補其腦，推而行之，雲布四海，故上取下聚也。小國自知卑下，守分雌柔，聚於大國之中，欽風慕義也。（顧）

盧裕曰：取其容己也。（李）

故或下以取，或下而取。大國不過欲兼畜人，小國不過欲入事人，

劉進喜曰：小國用柔者，更無餘心，不過欲入大國之中，慕德接事。（李）

夫兩者各得其所，大者宜爲下。

《節解》曰：兩者，謂泥丸、丹田也。泥丸欲氣昇，丹田欲氣降，共成一神也。（顧）

劉仁會曰：恃大恐自高，故特以爲戒也。（李）

## 第六十二章

道者，萬物之奧，

陸云：奧，暖也。（陸）

善人之寶，不善人之所保。美言可以市，尊行可以加人。人之不善，何棄之有？

孫登曰：夫美言可以奪衆貨之價，尊行可以加衆人之上，夫道之出言，淡乎無味，聖人處無爲之事，行不言之教，豈華詞以說百姓之耳、飾行以耀萬物之目哉！（顧、李）

顧曰：皎潔修名，謂之尊行，自尊於行者，可以加勝於人，殊非至也。（顧）

故立天子、置三公，

顧歡曰：樹君立輔，論道經邦，欲以率道天下、教化不善人也。（李）

雖有拱璧以先駟馬，不如坐進此道也。古之所以貴此道者何？

顧歡曰：古之所以貴寶此道者，其意何耶？問其所由也。（李）

不曰以求得，

顧曰：無假遠索，日日求之。但行積於身、得之於心，玄悟在我也。（顧）有罪以免耶？故爲天下貴。

羅什等曰：迴向善道，以免諸惡。（顧）

## 第六十三章

爲無爲，

《節解》曰：謂爲一者不爲身也。（顧）

事無事，

《節解》曰：謂事一者不事人也。（顧）

味無味。

劉進喜曰：爲無爲，修道業也；事無事，見道相；味無味，達道理。（李）大小多少，報怨以德。圖難於其易，爲大於其細。天下難事，必作於易；天下大事，必作於細。是以聖人終不爲大，故能成其大。夫輕諾必寡信，

《節解》曰：謂人輕諾者，失自矜之實也。（顧）

多易必多難，

羅什曰：輕而不修，報之必重也。（李）

是以聖猶難之，故終無難矣。

劉仁會曰：慮而後動，終無悔吝，聖人猶爾，況非聖乎？（李）

## 第六十四章

其安易恃，其未兆易謀，其脆易泮，

“破”，王弼作“判”。（范）

其微易散。爲之於未有，治之於未亂。合抱之木生於毫末，九層之臺起於累土，千里之行始於足下。爲者敗之。執者失之，是以聖人無爲故無敗，無執故無失。民之從事，常於幾成而敗之，慎終如始，則無敗事。是以聖人欲不欲，不貴難得

之貨，學不學，復衆人之所過，以輔萬物之自然而不敢爲。

盧裕曰：輔，佐也。人生而靜，物之性也，以無學無欲輔佐萬物之自然，使各遂其性而不敢爲。（李）

## 第六十五章

古之善爲道者，非以明民，將以愚之。民之難治，以其智多，故以智治國國之賊，

盧裕曰：捨道任智，大僞生焉。僞生於下，智出於上，上下相蒙，爲害大矣。（李）

不以智治國國之福。知此兩者亦稽式。

《節解》曰：謂去智守愚，則病除氣盛，此治身之法式也。（顧）

“楷”，王弼作“稽”。（陸）

常知稽式，是謂玄德，玄德深矣遠矣，與物反矣。

《節解》曰：謂一之深遠，乃在太清，降下絳宮，人子形中，物皆枯死，子獨長生，故與物化反也。（顧）

劉仁會曰：玄德難測故曰深，無往不備故曰遠，棄智任愚，故曰與物反也。（李）

然后乃至大順。

鍾會曰：反俗以入道，然乃至於大順也。（《文選·養生論》注）

顧歡曰：雖與俗爲反，而於道爲順。（李）

## 第六十六章

江海所以能爲百谷王者，以其善下之，故能爲百穀王。

顧歡曰：江海處下，故百谷宗之；王者居謙，則萬物歸之。（李）

是以聖人欲上民，必以言下之；欲先民必以身後之。是以聖人處上而民不重，處

前而民不害，是以天下樂推而不厭。以其不爭，故天下莫能與之爭。

羅什曰：心形既空，孰能與無物者爭。（李）

## 第六十七章

天下皆謂我道大，似不肖。

顧等曰：不與物同，故云不肖。言老君道尊德貴，誠可以爲大，然則晦迹同塵，隱顯不測，不似智不似愚，故言不肖。（顧）

杜弼曰：肖，似也。不與物同，故曰不肖。（李）

夫唯大，故似不肖。若肖，久矣其細也夫！

顧等曰：大聖人之故無所似也。若形有定質，智有常分，的有所似，則道有封執，此乃細碎之人，豈虛妙之大聖乎？（顧）

我有三寶，持而保之，一曰慈，二曰儉，

顧歡曰：寶精愛氣，不爲奢費。（李）

三曰不敢爲天下先。

《節解》曰：謂人形中有精氣神等，寶而藏之，可持以生也。（顧）

顧歡曰：履謙居後，不爲物先。（李）

夫慈故能勇，儉故能廣，

顧歡曰：治身愛氣，則性命自延，治國愛人，則德化自廣。（李）

不敢爲天下先，故能成器長。今捨慈且勇，捨儉且廣，捨後且先，死矣。

顧歡曰：棄捨慈悲，且爲勇敢，謂負氣輕死，以不懼爲勇。不寶其氣而捨散其精，不愛其人而廣用其力，捨其後已，但爲人先，所行如此，動入死地。（李）  
夫慈以戰則勝，

《內解》：即是六根兵馬，對於大塵，不爲塵沒，故獲勝捷。（成）

以守則固，

《內解》：以慈心自守清虛，則道心堅固不可拔也。（成）

天將救之，以慈衛之。

## 第六十八章

善爲士者不武，

盧裕曰：士者，將帥。不武，謂不以武凌人。（李）

善戰者不怒，

《節解》曰：謂閉口和精，萬神喜悅也。（顧）

善勝敵者不與，

《節解》曰：謂以口行一，萬鬼自伏，故曰不爭。（顧）

劉仁會曰：德感物賓故曰勝敵，兵刃不交故曰不爭。（李）

善用人者爲之下。是謂不爭之德，是謂用人之力，

張曰：悅以使人，人忘其勞。（顧）

是謂配天古之極，

## 第六十九章

用兵者有言：吾不敢爲主而爲客，

《節解》曰：上兵謂口也，下兵謂陰也。口言妄則自傷，故言謙讓也；輕用陰則喪精，故不敢爲唱而爲和也。（顧）

顧歡曰：在國先舉、在陣先動爲主。和而不唱、迫而後動爲客。先舉先動，驕盈必危。今欲順天應人，以自保全，既不先舉，是不爲主，不得已而用，是故爲客。（李）

不敢進寸而退尺。是謂行無行，

張君相曰：兵由彼起，我實不行，應物而動，雖行無行。（李）

攘無臂，

《節解》曰：攘臂所以表怒，善戰不怒，故若無臂可攘也。（顧）

仍無敵，

顧歡曰：仍，引也。人既服德，則班師振旅，雖欲引敵，無敵可引。（李）  
執無兵。禍莫大於輕敵。

《節解》曰：謂自恣交接者，則有喪禍之災。（顧）  
輕敵則幾喪吾寶。

《節解》曰：寶謂精氣也，輕敵數戰，則亡失精神也。（顧）  
故抗兵相加，哀者勝矣。

## 第七十章

吾言甚易知、甚易行，天下莫能知、莫能行。言有宗，事有君。

顧曰：宗，本也；君，主也。言雖殊塗，同本虛無，事雖異趨，同主靜樸。  
（顧）

蔡曰：言以無言爲宗，事以無事爲主。（顧）  
夫唯無知，是以不我知。知我者希，則我者貴。是以聖人被褐懷玉。

《節解》曰：謂聖人貴道德而賤其形，衣皮帶毛，含一抱元，不貪官爵，內養神明，以精爲玉，以氣爲金，故能變化，昇入紫宮。（顧）

顧曰：褐者麤賤之服，玉是精貴之寶，凡庸之人，心實不知，外假明哲，羊質虎皮，是乃德之病。（顧）

## 第七十一章

知不知上，不知知病。

《節解》曰：謂不明於道，但明於俗，不知食氣，而知食味，故病也。（顧）  
光曰：道不屬知，不屬不知，知是妄覺，不知是無計。然知道了，反如不知，則終日知而知不涉緣，即爲保道之真知，故尚矣。未明其道，從無立知，穿鑿涉緣，故病。（趙）  
夫唯病病，是以不病，聖人不病，以其病病，是以不病。



顧曰：凡庸之人，妄執強知之病，以自分別，往而不返，良可歎息。其唯聖人，真知妙本，洞遣言教，獨能以其慈仁，哀憫衆生強知之病，蓋以其自無病也。（顧）

## 第七十二章

民不畏威則大威至。無狎其所居，

《節解》曰：謂無狹健在俗間，深山廣澤可著性也。（顧）

無厭其所生。

《節解》曰：謂厭生死者故行一，愛氣惜精，爲生之寶。（顧）

夫唯不厭，是以不厭。

顧歡曰：人不厭生，生不厭人，人不棄道，道不棄人，故曰生與人相保，人與道相得。（李）

是以聖人自知不自見，自愛不自貴。

劉進喜曰：保養真性，不輕染欲，自愛也。謙卑靜退，先物後己，不自貴也。（李）

故去彼取此。

顧歡曰：去彼見貴，則威罰外消，取此知愛，則生道內足。（李）

## 第七十三章

勇於敢則殺，

《節解》曰：謂貪爲交接陰陽，欲得快心，生往死還，此曰勇也。輕道慢神，則致自夭，此曰敢也。二者皆自殺也。（顧）

羅什曰：心定所行，果而望得，真去邪來，遂獲其罪，故言殺。（李）

顧歡曰：不懼曰勇，必果曰敢，謂見威不懼，必果無回，強梁使氣，殺身之術。（李）

勇於不敢則活。

羅什曰：行柔弱，惟善是與，則獲其利。言活，活，長生也。若進心虛淡，不敢貪染，則長生。（李）

顧歡曰：謂獨立不懼，不敢有爲，守柔盡順，活身之道。（李）

此兩者或利或害。天之所惡，孰知其故，是以聖人猶難之。

《節解》曰：謂天常惡其勇敢，愛其怯弱，含生愛氣，誰知天意也。（顧）

天之道，不爭而善勝，

《節解》曰：天道貴和也。（顧）

不言而善應，

孫曰：所謂不言而善應者，天道不言而善自應也，明夫善應者不在多言也。（顧）

盧曰：寂寞無聲，故曰不言；有感則報，故曰善應。（顧）

劉仁會曰：寂寞無聲，故曰不言；有感則報，故言善應。（李）

不召而自來，繹然而善謀。

“繹”，梁王尚、鍾會、孫登、張嗣作“坦”，平大貌。（陸）

蔡子晃曰：雖坦蕩平夷，善能謀圖，善惡毫分不差。（李）

天網恢恢，疏而不失。

## 第七十四章

民不畏死，奈何以死懼之。

《節解》曰：謂人不求生，快意於情慾，聞善不修，知惡不改，何識益乎？（顧）

顧歡曰：奈何，猶如何也。道德陵夷，刑罰深酷，則生不足懷，死不足畏。人不畏死，本由刑政之苛，如不慕大德以生人，更設嚴刑以懼物，民將抵冒而終不化，修己奢淫，則精窮氣竭，萬神交落，動之死地，不能制情遣慾，更爲險行驚神。（李）

若使民常畏死，而爲奇者吾得執而殺之，孰敢？常有司殺者殺。

《節解》曰：謂口也；在口左爲司陰，口右爲司殺。殺人有陰過，則司陰白之於上天，考人魂魄。人有惡言，則司殺白之於司命，司命記之，罪滿則殺之也。（顧）

**夫代司殺者，是代大匠斲。**

《節解》曰：謂天道賞善罰惡，治人之身，若大匠作器，善者則成，惡者則敗也。（顧）

**夫代大匠斲者，希有不傷手矣！**

《節解》曰：謂人治身，各有優劣，若工匠斲器，而有巧拙，巧者則器成形，拙者則少不自害也。（顧）

## 第七十五章

**民之飢，以其上食稅之多，**

《節解》曰：飢謂氣不足也。氣所以不足者，坐口嗜美味也。食多謂實畜積爲僻，故防禦百端也。（顧）

**是以飢。民之難治，以其上之有爲，是以難治。**

《節解》曰：百姓謂百脈也，所以盈縮不和平，由口不含一，唇乾液竭，故脈失精泄也。（顧）

劉進喜曰：有爲則政煩，無爲則事簡，簡則易從，煩則難治，六情難制，由一心之有爲。（李）

**民之輕死，以其求生之厚，**

《節解》曰：謂人所以不顧其死者，由養形太厚，恣其口腹，失其生道，故死也。（顧）

**是以輕死。夫唯無以生爲者，是賢於貴生。**

《節解》曰：謂夫獨能憂生於未生，憂形於未形，但念無爲舍自然者，此乃爲賢貴道安其生也。（顧）

## 第七十六章

人之生也柔弱，其死也堅強。萬物草木之生也柔脆，其死也枯槁。故堅強者死之徒，柔弱者生之徒，是以兵強則不勝。

《節解》曰：兵謂口也，口強爲人所窮，陰強爲女所侵也。（顧）

木強則共。強大處下，柔弱處上。

《節解》曰：謂髮以柔弱爲人所戴，體骨堅強爲人所勞。

## 第七十七章

天之道，其猶張弓與？高者抑之，下者舉之，有餘者損之，不足者補之。

張君相曰：用弓之道，高者恐過，故抑之令不高；下者不及，故舉之令不下。不下、不高，中前期也。爲行之道，亦務中平，太高則衆所不容，傷下則非議所聚，抑高舉下，合理源也。（李）

天之道，損有餘而補不足，人之道則不然，損不足以奉有餘。孰能有餘以奉天下，唯有道者。是以聖人爲而不恃，功成而不處，其不欲見賢。

羅什曰：得此虛通而無思無慮，豈有心智而欲貴己之賢，能不恃其爲，無自伐之心，不居其功，無自滿之志，恃爲處功則見賢，見賢則是以有餘自奉，招損之道也。（李）

## 第七十八章

天下莫柔弱於水，

“天下柔弱莫過於水”，王弼作“天下莫柔弱於水”。（陸）

張曰：以爲天下萬事，凡事不同，以柔弱言之，莫過於水，以喻道行謙柔，

和淖隨物，通生浸潤如水也。（顧）

而攻堅强者莫之能勝，

《節解》曰：水者，內即口中津液也，漱而嚥之，則能攻邪破惡，徹於骨髓，若麴蘖之消米，方藥無復能先也。（顧）

其無以易之。弱之勝強，柔之勝剛，天下莫不知，莫能行。

《節解》曰：謂人含精飲氣，統御血脈，百姓日用而不知。（顧）

是以聖人云：受國之垢，是謂社稷主；

《節解》曰：謂人形以左魂爲社，右魄爲稷，御一氣以爲君主也。（顧）

受國不祥，是謂天下王。

《節解》曰：國謂形也，言一出入脾中，化滓變液，去故受新，以養五神，故王於藏府者也。（顧）

正言若反。

《節解》曰：謂俗人所欲者，以鮮潔爲尊，香美爲上，而道以受垢爲主，處下爲王，言一與人反也。（顧）

## 第七十九章

和大怨，必有餘怨，安可以爲善。

《節解》曰：謂口也，言唱必有和，人能行道，道來應之，唱人以善，善人和之，則無有餘怨也。今時之人，好行邪想，邪想從之，呼召邪鬼，鬼來應之，唱人以惡，惡人和之，安能得爲善也。（顧）

是以聖人執左契，而不責於人。

《節解》曰：左契，陽德也。言聖人不和大怨，但自修德，不行責過於人。（顧）

有德司契，無德司徹。

《節解》曰：謂人行道德，司命賜算，人行其惡，司殺徹其籍，此之謂也。（顧）

天道無親，常與善人。

## 第八十章

小國寡民，

臧玄靜曰：土地不多爲小國，士卒不衆爲寡民。（李）

故有什伯之器而不用，

《節解》曰：小國謂形中，什伯謂五藏，心與腎爲什，肝與肺爲伯，閉口行氣，則什伯氣盛而無不用。（顧）

使民重死而不遠徙，雖有舟車無所乘之，

張曰：所言有舟輿無所乘之者，且無爲之世，山無蹊隧，澤無舟梁，本絕往來，何所乘用！（顧）

雖有甲兵無所陳之，

顧曰：兵以討逆，武以靜亂，上既行道，下乃好德，自然從化，何事陳兵！（顧）

張君相曰：兵以討逆，武以靜亂，上既行道，下乃好德，自然從化，何事陳兵。內明舟輿以喻小乘，甲兵以喻小智，行人心安，實相廢而不用。（李）

使人復結繩而用之。

《節解》曰：謂人有道，氣自流行，爲形中之用，如結繩之信也。（顧）

甘其食，美其服，

《節解》曰：謂甘食其氣，美服其道也。（顧）

安其居，樂其俗，

《節解》曰：謂安形樂神，抱腹而歌吟也。（顧）

鄰國相望，雞犬之聲相聞，民至老死不相往來。

《節解》曰：鄰國者，兩耳也，兩耳相望，保其安也。使神氣各有所守，不來往相干，故至老常能聰明也。（顧）

## 第八十一章

信言不美，美言不信。

《節解》曰：謂信道言者則不美於俗事，美俗事者則不信於道言也。（顧）

善者不辯，辯者不善。知者不博，博者不知。聖人不積，既以爲人己愈有，既以與人己愈多。天之道，利而不害；

盧裕曰：人道利於此者或害於彼，天道均平，故有利無害。（李）

顧歡曰：善者得道以成，惡者得道以化，同歸乎一，利而無害。（李）

聖人之道，爲而不爭。

陸云：爭，爭鬪之爭。（陸）

上《古注四十家輯存》一帙，係就先君未竟遺稿補輯整理而成。遺稿略作於1948年，僅就陸德明《經典釋文》、李霖《取善集》、趙秉文《集解》、劉惟永《集義》、董思靖《集解》、范應元《古本集注》諸書所引各家遺文鈎稽排比鈔爲一帙，原擬書名爲《老子古注補》，蓋以補任真子李榮《道德經集解》也。緣先君以題名顧歡之《道德真經注疏》非顧歡所作，而爲李榮之《集解》，說詳《輯校老子李榮注跋》，此不贅引，故遺稿於顧書所引各家一無所錄，殆即《跋》文所謂“錄出以補任真子之書”者也。後以此任真之書全錄《河上公注》及成玄英《疏》，河公之《注》既已另行校訂，成公之《疏》亦復別輯單行，而此書所引復又不完，且此書雖有《正統道藏》本及嘉業堂刻本，然皆非易得之物，無寧將晉唐各家并輯爲一帙之爲愈也。故又將該書所引各家取其姓氏批注於遺稿眉端，如“王”、“顧”、“節解”、“王”、“張”、“羅”之類，所擬書名亦易爲《晉唐〈老子〉古注四十家輯存》。此次整理即遵後一方案，除就顧書進行補輯外，又從他書輯得若干條。除原書尚存之河上公、王弼、陸希聲、王真、李約各家外，計得晉唐遺文四十七家、近六百條。以各家所用經文不同，難於統一，本輯姑用《正統道藏》中之《王弼注》本爲正文，各家注文分別列於所釋經文句下。又另對所輯各家略作考釋，並將各家遺文章次附索引於後，以便檢閱。

魏晉而還，《老》學大盛，詮解注釋之多，幾與五經之家相媲。自《隋書·經籍志》、《經典釋文·序錄》所載，及杜光庭《道德真經廣聖義·序》所錄，魏晉以下至唐開元《御注》、《御疏》，凡八九十家。此時不僅注家衆多，且其流派亦盛。杜光庭謂：松靈仙人、孫登、陶隱居、顧歡，皆明理身之道；羅什、圖澄、梁武帝、竇略，皆明事理因果之道；孟智周、臧玄靜、褚粦、劉進喜、成玄英、蔡子晃、黃玄頤、李榮、車玄弼、張惠超、黎元興，皆明重玄之道；何晏、鍾會、杜元凱、王輔嗣、張嗣、羊祜、盧裕、劉仁會，皆明虛無理家理國之道（《廣聖義》卷五《宗趣指歸》），而張系師、葛仙公者流之言仙道者尚未及焉。誠所謂百家爭鳴流派紛陳蔚爲大觀者也。然自唐宋而後不數百年間，除河、王、陸、李數家之書流傳後世外，嚴遵之《指歸》、李榮之《注》，皆佚其半，今茲所輯四十七家遺文見於唐後諸書者，或僅數條、十數條、數十條不等，其逾百條者止《節解》一家而已。他之四十餘家則已無可考見，凋殘零落，至可憫歎。然僅此存者，於數百年間三教並轡之軌，互相滲透之迹，羽流依旁《老》書之情狀，《成疏》、《李注》立論之淵源，皆可以窺見一斑，則於研尋《老子》古說者不無裨益焉。

蒙默 整理後記

1999年2月



## 附：諸家考略及遺文索引

《老子節解》 《隋書·經籍志》（以下省稱《隋志》）道家著錄《老子節解》二卷，不著撰人。陸德明《經典釋文序錄》（以下省稱《釋文序錄》）《老子》有《節解》二卷，自注：“不詳作者，或云老子所作，一云河上公所作。”《唐書·經籍志》及《新唐書·藝文志》（以下省稱兩《唐志》）皆著錄《節解》二卷，並無撰人。杜光庭《道德真經廣聖義·序》（以下省稱《杜序》）著錄《節解》上下，“老君尹喜解”《宋史·藝文志》著錄葛玄《老子道德經節解》二卷。張君相三十家《道德經集解》列“十七《節解》”，在杜弼後、張憑前。是《節解》撰人時代自來無定說，老君、尹喜之說固不可信，河上之說亦不可據。案《節解》遺文皆屬仙法長生之道，河上《章句》亦主行氣、愛精、養神以求長生，與《節解》頗為相近，河公既為《章句》，似不當再作《節解》。案道家自三張而後轉入神道，則《節解》之作上不得早於漢末，下不能晚於陳隋，謂葛玄，或得其實。遺文見以下各章：1、2、3、4、7、8、9、10、11、12、13、14、17、20、21、22、25、26、27、28、30、31、33、39、41、45、49、50、53、54、56、57、58、59、60、61、63、65、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、78、79、80、81。

《內解》 《隋志》著錄“梁有老子《道德》二卷，巨生《解》，亡”。《釋文序錄》有巨生《內解》二卷，自注云：“不詳何人。”當為一書。文廷式《補晉書藝文志》云：“《真誥·握真輔第一》‘張生頓首’，注云‘又見系師注《老子內解》，皆稱‘巨生稽首’。此‘巨生’或即‘臣生’之誤。”案“系師”為張魯，是《內解》或為張魯所作。《杜序》以為“尹喜以內修之旨解經”。尹喜之說不可從，“內修之旨”則得其實也。李霖《道德真經取善集》引有《類解》一條，或即《內解》之誤，姑附於此。遺文見下列各章：30、31、37、39、50、57、67。

**想爾** 《釋文序錄》著錄《想余注》二卷，自注：“不詳何人，一云張魯，或云劉表。”《隋志》不載。《杜序》作《想爾》二卷，自注：“三天法師張道陵所注。”諸書所引皆作“想爾”，殆“想余”爲“想爾”之訛。然究爲張陵或張魯所作則莫能定。唐初釋法琳《辯正論》已有張道陵注五千文之說，且引其文，是此說起源亦早，或是此書始作於陵而完稿於魯。敦煌所出《想爾注》殘卷（始第三章終第二十七章）饒宗頤先生已有《老子想爾注校箋》行世，然所輯佚文略有漏遺，故本輯仍存此一家，敦煌殘卷則不錄也。遺文見下列各章：1、15、39、60。

**王弼** 魏人，附《三國志·鍾會傳》，注引《弼傳》：“弼注《老子》。”《隋志》、《釋文序錄》並皆著錄，書今存。然坊本經、注皆有訛誤竄亂，已非其舊，今錄其爲唐宋人所見者，以供校核。《三十家集解》列“三王弼”。遺文見下列各章：1、2、4、5、9、10、13、14、15、17、18、19、20、21、22、24、25、26、27、28、29、32、34、35、36、37、38、39、41、42、45、46、47、48、49、51、55、57、59、64、65、78。

**何晏** 三國魏人，附《三國志·曹爽傳》。《隋志》著錄：“梁有《老子道德論》二卷，何晏撰，亡。”晏作《道德論》亦見《世說新語·文學篇》。《杜序》著何晏名，不載書名卷數。《唐志》同《隋志》《新唐志》著錄“何晏《講疏》四卷，又《道德問》二卷。與隋、唐志不同，《通志·藝文略》又祇載《道德論》二卷，疑《新志》有誤。《三十家集解》列“四何晏”。遺文見下列各章：16。

**郭象** 《晉書》有傳，載其注《莊子》，書今存，然不載注《老子》事。《隋志》、《釋文序錄》亦未著錄。《杜序》載郭象一家，但無書名卷數。《三十家集解》列“五郭象”。遺文見下列各章：3、4、10、13、24、39。

**鍾會** 三國魏人，《魏志》有傳，但祇載其父繇著《老子訓》，不載會注《老子》事。然《隋志》、《釋文序錄》皆著錄：“《老子道德經》二卷，鍾會注。”兩《唐志》同。《杜序》有鍾會一家，無書名卷數。《三十家集解》列“六鍾會”。遺文見下列各章：10、11、12、14、16、18、19、21、22、23、25、27、28、36、38、39、41、42、51、65、73。

**羊祜** 魏晉時人，《晉書》有傳，載其“著《老子傳》”。《隋志》著錄“梁有《老子道德經》二卷，晉太傅羊祜《解》”。《釋文序錄》著錄“羊祜《解釋》四卷”，兩《唐志》皆著錄“羊祜《注》二卷，又《解釋》四卷”。《杜序》載“羊

祐《注》四卷”，又略不同。《三十家集解》列“八羊祐”。遺文見下列各章：31、41、57。

**孫登** 東晉人，附《晉書·孫楚傳》，謂其：“少善名理，注《老子》行於世。”《隋志》著錄孫登《道德經注》二卷，《音》一卷。《釋文序錄》著錄孫登《集注》二卷，自注：“字仲山，太原中都人，東晉尚書郎。”《杜序》有隱士孫登一家，無書名卷數，謂登：“字公和，魏文、明二帝時人。”此蓋涉與嵇阮同時之前一孫登而誤。《三十家集解》列“七孫登”，在羊祐前，亦誤。兩《唐志》皆有孫登《老子注》二卷。遺文見下列各章：3、10、14、16、17、25、39、41、42、43、50、55、58、59、60、62、73。

**鳩摩羅什** 《杜序》有沙門羅什一家，謂“本西胡人，苻堅時自玉門關入中國，《注》二卷”。《出三藏記集》、《高僧傳》、《晉書》皆有羅什傳，為佛教名德，然並不載其注《老子》事；《隋志》、《釋文序錄》亦未著錄，而兩《唐志》又皆載羅什《注》二卷，故或疑其為偽書。然就其遺文論之，則與什公之論畢竟空義相合，似又不可謂必非什公之作也。《三十家集解》列“九羅什”遺文見下列各章：2、12、25、28、33、37、45、48、50、53、62、63、66、73、77。

**僧肇** 羅什弟子，亦佛門名德。《杜序》謂“沙門僧肇，晉時人，《注》四卷”。然《隋志》及《釋文序錄》皆未著錄，且兩《唐志》亦不載，獨金時趙秉文《道德真經集解》引用數條。而其遺文又有同於偽託僧肇之《寶藏論》者，學者因謂肇公之《老子注》亦為偽書。然其書當偽在唐世宗門盛行之際，姑錄存之。遺文見下列各章：2、13、20、23、53。

**陶弘景** 南朝齊梁間人，《杜序》謂“梁隱居陶弘景，武帝時人，《注》四卷”。《梁書》、《南史》皆有傳，然並不載注《老子》事。《隋志》、《釋文序錄》亦未著錄。而兩《唐志》並著陶《老子注》四卷，《三十家集解》列“十三陶弘景”。遺文見下列各章：41。

**盧景裕** 《魏書·儒林傳》有傳，稱其嘗注《老子》。《隋志》著錄“《老子道德經》二卷，盧景裕撰”。《新唐志》著錄“盧景裕、梁曠等注《老子》二卷”。《杜序》有“范陽盧裕，後魏國子博士，《注》二卷”。李霖《取善集》亦作盧裕，顧歡《注疏》多引盧曰，《三十家集解》列“十盧裕”，當皆景裕也。遺文見下列各章：15、16、23、27、32、35、38、39、61、64、65、68、73、81。

**劉仁會** 《杜序》“後魏伊州梁縣人，《注》二卷”。《隋志》、《釋文序錄》皆未著錄。兩《唐志》亦不載。《三十家集解》列“十一劉仁會”。遺文見下列各章：61、63、65、68、73。

**顧歡** 《南齊書》有傳，謂“刪撰老氏，獻《治綱》一卷”。《隋志》著錄《義綱》一卷、《義疏》一卷；《釋文序錄》著錄顧歡《堂誥》四卷，自注：“一作《老子義疏》。”《義綱》或即《治綱》，當為《堂誥》之一篇，兩《唐志》著錄“顧歡《道德經義疏》四卷、《義疏治綱》一卷”。《杜序》稱《注》四卷。《三十家集解》列“十二顧歡”。《正統藏》有顧歡《注疏》八卷，大量引用開元《御注》及成玄英《疏》，顯不得為歡書。阮元《四庫未收書目提要》以為張君相《道德經集解》。然該書所引各家，與《晁公武讀書志》所列君相書三十家不同，當亦非君相之書，顧書所引各家皆稱其姓，而於李榮獨稱“榮曰”，宜為李榮《集解》。遺文見下列各章：1、2、3、5、9、10、11、13、14、15、16、17、21、23、24、25、28、31、33、36、37、38、39、41、42、43、45、49、52、53、56、57、58、60、61、62、65、66、67、69、70、71、72、73、74、80、81。倫敦大英博物館藏敦煌寫本中有歡《義疏》殘卷（S·四四三〇）起七十章至八十章共一三二行，與遺文相合。唯字迹多不清，釋讀為難，讀者可自查閱。

**松靈仙人** 《杜序》有松靈仙人一家，謂“隱青溪山，無名氏年代”，亦不載書名卷數。隋、唐《志》及《釋文》並皆不載。《三十家集解》列“十四松靈仙”，在顧歡、陶弘景之後，裴處恩、杜弼之前，當亦南北朝人。遺文見下列各章：15、26、28、55。

**裴處恩** 《杜序》：“晉人，河東裴處恩，《注》二卷。”然《隋志》、《釋文序錄》並未著錄，兩《唐志》亦不載，《三十家集解》列“十五裴處恩”，序杜弼前、松靈仙後。遺文見下列各章：52、56。

**杜弼** 《北齊書》有傳，謂“中山人，性好名理，採味玄宗，注《老子道德經》二卷”，並載其上書表。《隋志》未著錄，《釋文序錄》云：“北學有杜弼《注》。”不言卷數。《杜序》謂弼《注》二卷，與《傳》合，然以弼“秦人，京兆”，則誤。《三十家集解》列“十六杜弼”。遺文見下列各章：17、37、54、67。

**張憑** 《晉書》有傳，簡文帝歎為“勃宰理窟”者也。《釋文序錄》著錄張憑《老子注》二卷，自注：“字長宗，吳人，東晉司徒左長史。”《隋志》著錄

“梁有《老子道德經》二卷，張憑注，亡”。兩《唐志》並著錄“《老子》二卷，張憑注”。《杜序》謂“宋人，河南張憑，字長宗，明帝太常博士”。時代、籍貫、仕履皆誤；又謂“《老子注》四卷”，亦與諸書不同。《三十家集解》列“十八張憑”。遺文見下章：17。

**梁武帝** 《梁書》有本紀，載其“造制旨《老子講疏》”。《隋志》有《講疏》六卷，《釋文序錄》亦著武帝一家，但無書名卷數。兩《唐志》並著錄“梁武帝《講疏》四卷，又《講疏》六卷”。《杜序》但稱“《注》四卷，證以因果爲義”。《金樓子·著書篇》有《孝子義疏》十卷，當爲《老子講疏》之訛。敦煌寫本出《講疏》三章，亦足珍也，此不錄。遺文見下列各章：14、27、32。

**梁簡文帝** 《梁書》有本紀，稱其“善言玄理，所著《老子義》二十卷行於世”。《釋文序錄》著梁武帝父子，無書名卷數。《隋志》著錄“《老子私記》十卷，梁簡文帝撰”。兩《唐志》同。《杜序》稱“梁簡文帝蕭綱，作《道德經述義》十卷”，書名又異。遺文見下列各章：13、20、21、26、36、37、41、52。

**張嗣** 《杜序》：“清河張嗣《注》四卷，無年代。”《隋志》著錄“梁有《老子道德經》張嗣《注》二卷，亡”。是嗣當在梁前。《釋文序錄》著錄張嗣《注》二卷，序東晉西中郎將、豫州刺史袁真後，張憑前，宜亦東晉人。《三十家集解》列“十九張嗣”。遺文見下列各章：73。

**大孟** 《杜序》謂“梁道士孟安排，號大孟。作《經義》二卷”。或謂孟安排乃纂《道教義樞》者，爲唐高宗武后時人，不得爲梁道士。《道學傳》載：“梁武帝天監二年，置大小道正，平昌孟景翼時爲大道正。”是大孟當爲景翼。《隋志》著錄“梁有《老子》孟氏《注》二卷”。姚振宗疑即大孟。《三十家集解》列“二十一大孟”。《雲笈七籤》及李霖《取善集》並引大孟。遺文見下列各章：14、46。

**孟法師** 《雲笈七籤》卷四十九《玄門大論三一訣》並引大孟法師及孟法師，是此孟法師當即小孟。《杜序》：“梁道士孟智周，號小孟，《注》二卷。”《隋志》著錄“《老子義疏》五卷，孟智周私記”。新《唐志》同，舊《唐志》作四卷。《三十家集解》列“二十二小孟”。遺文見下列各章：14。

**臧玄靜** 《杜序》云：“梁道士臧玄靜，字道宗，作《疏》四卷。”然《隋志》、《釋文序錄》皆未著錄，兩《唐志》亦不載。《三十家集解》列“二十臧玄

靜”。《七籤》卷五載王遠知“從宗道先生臧矜（《唐書·王遠知傳》作臧兢）傳諸秘法”。是矜爲名，玄靜（或作靖）爲字，宗道則號也。《七籤》卷六又稱臧靖法師從太平周法師諱智響者稟業。“周智響”當爲“孟智周”之誤，即小孟也。故《杜序》又稱“孟智周、臧玄靜皆明重玄之道”，“孟智周、臧玄靜以道德爲宗”。是玄靜宜爲智周弟子。成玄英《義疏》獨舉“臧公”，宜成又爲臧氏弟子。臧氏遺文見下列各章：1、14、20、29、80。

**宋法師** 《御覽》六六六引《道學傳》：“宋文同字文明，吳郡人，梁簡文時。”《杜序》稱“法師宗文明，作《義泉》五卷”。“宗”當爲“宋”之誤。《隋志》、《釋文序錄》、兩《唐志》皆未著錄。《三十家集解》列“二十四宋文明”。遺文見下列各章：14。

**劉進喜** 《杜序》載：“隋道士劉進喜，作《疏》六卷。”《隋志》、《釋文序錄》、《舊唐志》並未著錄。《新唐志》載道士劉進喜《老子通諸論》一卷、又《顯正論》一卷，惟不載《老子疏》。《三十家集解》列“二十六劉進喜”。遺文見下列各章：44、45、49、60、61、63、72、75。

**蔡子晃** 其人與著作皆不詳。《三十家集解》列“二十七蔡子晃”序劉進喜後、成玄英前。杜光庭《廣聖義》卷五《宗趣指歸》序蔡在成玄英後、黃玄蹟、李榮前，《集古今佛道論衡》載道士蔡晃講道論“獨秀時英”，參與貞觀十二年御前抗論。當亦唐初人。遺文見下列各章：10、13、23、27、32、34、37、39、47、49、50、51、52、70、73。

**成玄英** 《舊唐志》著錄《老子》二卷，成玄英注。《新唐志》載：“道士成玄英注《老子道德經》二卷，又《開題序訣義疏》七卷，《莊子》三十卷，《疏》十二卷。”自注：“玄英字子實，陝州人，隱居東海。貞觀五年，召至京師，永徽中流郁州。書成，道士元慶遣文學賈鼎就授大義，嵩高山人李利涉爲序。唯《老子注》、《莊子疏》著錄。”《杜序》云“道士成玄英作《講疏》六卷”，書名、卷數皆又不同。《三十家集解》列“二十八成玄英”。《莊子疏》今存，《老子疏》亦另輯得完書，《老子注》佚，唯得遺文二條，見下列各章：10、57。

**車惠弼** 《杜序》：“道士車弼，作《疏》七卷”。序任真子李榮前。《三十家集解》列“二十九車惠弼”。序成玄英後，當亦與成、李同在太宗、高宗時。其書兩《唐志》未見著錄，遺文見下列各章：11、22、35、41、43、47、51。

**張君相** 《杜序》：“岷山道士張君相，《集解》四卷。”兩《唐志》作張道相《集注》四卷。晁公武《讀書志》及王應麟《玉海》俱載岷山道士張君相《三十家道德經集解》。《宋志》作“《老子道德經三十家》六卷，唐道士張君相《集解》”。是君相即道相，《集解》即《集注》也。《史記·老子列傳》張守節《正義》引張君相云云，則君相乃開元前人。《三十家集解》共集二十九家，而君相自為一家也。遺文見以下各章：1、7、10、11、13、39、46、52、55、68、69、77、78、80。

**王曰** 顧歡《注疏》多引“王曰”，皆與王弼不同，多言仙道，疑即《杜序》所稱“道士王玄辯作《河公釋義》十卷”者，唯此《釋義》兩《唐志》皆未著錄。《杜序》列玄辯在魏徵、傅奕後，李榮、成玄英前，宜亦唐太宗、高宗時人。遺文見下列各章：1、2、10、12、14、15、16、17、18、23、31、38、39、53。

**徐素法師** 《七籤》卷四九引“徐素法師”。《杜序》有“道士徐邈《注》四卷”。未知是一人否？而徐邈即王遠知弟子徐道邈。遺文見下列各章：14。

**李榮** 唐初綿州巴西人，《杜序》載任真子李榮《注》上下二卷，已另別輯成書。顧歡《注疏》所引“榮曰”共三條，與榮《注》全同，唯編排稍異，或似別是一書。兩《唐志》載有任真子《集解》四卷，或顧書即任真子《集解》，故書中獨稱“榮曰”。謹錄存於此，見下列各章：42、57。

**太平光師** 姓氏、時代、著作皆不詳，唯見引於趙秉文《集解》，第一章初引稱“太平光師曰”，以下皆祇稱“光曰”。或以“光曰”為司馬光，然與司馬光《道德經論》無一同者，此說非是。遺文見下列各章：1、2、13、16、21、23、25、27、34、47、51、56、71。

**孫思邈** 兩《唐書》皆有傳，謂其“善談《莊》、《老》及百家之說，自注《老子》、《莊子》，撰《千金方》三十卷，行於代”。《千金方》今存，唯所注《老》、《莊》，唐宋時皆未見著錄。遺文一條見下章：6。

**吳筠** 兩《唐書》皆有傳：入嵩山依潘師正為道士，傳正一之法，大曆三年卒，有《文集》二十卷（今《道藏》僅存三卷）。兩《唐志》皆著錄其《神仙可學論》及《玄綱論》，今並存《道藏》，唯不見其注《老子》事。權德輿謂：“近古遊方外言六義者，先生實主盟焉。”故杜光庭以“吳子”、“吳先生”稱之。遺文見下列各章：38、40、41。

**陳曰** 顧歡《注疏》引“陳曰”，不著其名。阮元以爲“陳榮”，然唐道家學者祇任真子李榮，而無陳榮，阮說誤。此“陳曰”或當爲陳嗣古，兩《唐志》皆載陳嗣古《老子注》二卷，殆爲唐人。遺文一條見下章：42。

**志琮** 年代著作不詳。《隋志》：“梁有《老子幽易》五卷，又《老子志》一卷，山琮撰，亡。”未知“志琮”即此“山琮”否？唯山琮亦僅見於此，始末不詳。遺文見下章：41。

**陸德明** 陳末唐初人，兩《唐書》有傳。著有《經典釋文》，今存，中有《老子音義》一卷。《新唐志》著錄《老子疏》十五卷，今佚。遺文見下列各章：1、2、5、6、8、11、12、13、14、20、23、24、26、27、29、30、31、38、39、45、46、51、53、54、55、62、81。

**楊孚** 《隋志》地理類著錄“《異物志》一卷，後漢議郎楊孚撰”。明區大任《百越先賢志》謂：“孚字孝元，南海人，章帝朝舉賢良對策上第，拜議郎。……著爲《南裔異物志》。後爲臨海太守；復著《臨海水土記》，世服孚高識，不徒博雅。”然東漢無臨海郡，臨海初置在孫亮太平二年，上距章帝末已百七十餘年，大任之說顯誤。且亦不載孚傳《老子》事。范應元《古本集注》三引揚孚，未知其即此後漢議郎否？遺說見下列各章：2、9、21。

**陳韶** 見范應元《古本集注》引，其人無考。疑爲程韶之誤。以范書固嘗誤“臧玄靜”爲“張玄靜”也。《釋文序錄》載：“程韶《集解》二卷，鉅鹿人，東晉郎中。”《隋志》著錄“梁有《老子》二卷，晉郎中程韶《集解》，亡”。《唐志》亦著錄程韶《集解》二卷。遺文見下列各章：48。

**王尚** 《釋文序錄》著錄“王尚《述》二卷”，自注：“字君曾，琅邪人，東晉江州刺史。”《隋志》：“梁有東晉江州刺史王尚述《注》二卷，亡。”當是一人。兩《唐志》有王尚《注》二卷，是《隋志》誤以“尚述”爲名。遺文見下列各章：73。

**李奇** 年代著作皆不詳。顏師古注《漢書》引李奇，《叙例》謂奇南陽人，序鄧展、文穎前，當亦東漢末人。遺文見下列各章：51。

**應吉甫** 應貞字吉甫，魏晉間人，《晉書》有傳，謂其“善談論，以才學稱”。然不載其有關《老子》事。《弘明集》載宋昭之《難顧道士〈夷夏論〉》云：“昔應吉甫齊孔老於前，吾賢又均李釋於後。”是吉甫或有關涉《老子》之論著。



遺文見下章：13。

**阮籍** 魏晉間人，附《三國志·王粲傳》，《晉書》有傳，稱其“博覽羣籍，尤好《老》、《莊》”。與嵇康等齊名，“曠達不羈，不拘禮俗”。著有《達莊論》、《道德論》及《通老子論》。遺文見下列各章：25、29。

**董遇** 《三國志·王肅傳》注引《魏略》有遇傳，漢魏間人，“遇善治《老子》，爲作訓注”。《釋文序錄》、《隋志》、兩《唐志》皆未著錄，當是亡佚已久，遺文見下章：41。

## 輯校成玄英《道德經義疏》

### 校理《老子成玄英疏》叙錄

——兼論晉—唐道家之重玄學派

成玄英並疏《老》、《莊》，《莊疏》明時僅唐伯虎猶藏北宋本，以傳於錢遵王，後不可得見，《道藏》中幸尚有之。黎莚齋於海東得南宋本《莊疏》殘帙，補以《道藏》本（此據楊惺吾說。森立之謂據坊本補，非是），刻之《古逸叢書》，稱為海內之球璧。至《老疏》則《道藏》未之見，海東未之聞，知其絕迹於天壤者久矣。彭耜鶴林述《道德經集注》，於《雜說》卷上言：“廣川董道《藏書志》云：‘唐道士張道相集注《道德經》七卷，凡三十家。’按《志》稱道相《集注》四卷，而董所收乃有七卷，恐後人之所增也。我朝崇寧中再校定道藏經典，此書藏中已不復見，其餘諸家僅玄宗、河上公、嚴遵、陸希聲四注，及傅奕古本耳。外李榮、李約、賈清夷各有注說，王顧等奉命撰《疏》，杜光庭又從而為《廣聖義》，亦皆唐人，並見藏室。”由彭所論，則成公《老疏》宋世已無存者（焦氏《老子翼》引前文，不言出彭氏《集注》，直云廣川董道《藏書志》，致彭氏之說，幾混於董氏文中，意不可通，故此詳記之）。今存《正統道藏》，《老子》

舊疏有二：一爲強思齊《玄德纂疏》，一爲顧歡《注疏》。阮元云：“顧歡，齊時人，《唐書·藝文志》有《道德經義疏》四卷，不特書名、卷數均與此不合，不應齊時人而先引及陶弘景、成玄英諸人。惟晁公武《讀書志》、王應麟《玉海》有岷山道士張君相《三十家〈道德經〉集解》，今以其言考之，頗與是書合，則爲君相所集無疑。至書中兼有引唐玄宗《御疏》（爲《注》非《疏》），又爲後人所羈入，而稱‘陳曰’、‘榮曰’者，殆杜光庭所云任真子陳榮也。”（言陳榮，誤）自阮氏之說出，言者殆皆以顧歡書爲君相書也。然君相《集解》四卷，今《顧注》乃有八卷，書名卷數益爲不合。劉承幹謂：“君相《集解》三十家，今本祇有十五家，又有缺佚也。”然就宋李霖《道德經取善集》言之，李引‘張君相曰’凡十數條，殆君相《集解》文也，乃無一事見於顧氏《疏》中，則此疏顯非君相《集解》。更以晁氏書所稱君相書三十家考之，其云：“一河公、二嚴遵、四何晏、五郭象、七孫登、九羅什、十盧裕、十二顧歡、十四松靈仙、十五裴處恩、十六杜弼、十七節解、十八張憑、二十六劉進喜、二十七蔡子晃、二十八成玄英、二十九車惠弼。”凡十七家，此見於《顧疏》者也。其云：“三王弼、六鍾會、八羊祜、十一劉仁會、十三陶弘景、十九張嗣、二十臧玄靜、二十一大孟、二十二小孟、二十三寶略、二十四宋文明、二十五褚粲。”並張君相自爲一家，凡十三家，《顧疏》都無其說。若如劉氏說爲佚缺，則不應佚者若是之多，幾及其半。復就《顧疏》所引二十一家言之，內“御曰”則開元所注也，有“想爾”則張道陵也，有“陳曰”則陳嗣古也，有“王曰”，非《王弼注》，而皆爲解《河上公注》者，則杜光庭所謂道士王玄辯作《河上公釋義》十卷者也。有“榮曰”以《強疏》所引李榮《注》校之，皆能符合，則李榮也。此溢出張氏書者凡五家，則不可如阮氏徒以後人羈入爲解也。知阮、劉說均未備，此殆別一家書，不得謂即君相書也。凡顧書所徵引皆舉姓氏或書名，獨李榮之說稱“榮曰”，知是書爲李榮之所作也。《唐志》有李榮《集解》四卷、《注》二卷，則顧書顯爲李榮《集解》而非張君相書。今《李注》殘卷存《道藏》中，不分章，顧書亦不分章，是同爲一家之作無疑。惟書名、卷數仍不能合，謂顧書爲張書固非，若徑謂即李書，亦覺未當也。豈今之顧書，爲後之道家取李榮之《集解》以爲注，而更取成玄英之《義疏》以爲疏。盧照鄰有《贈道士李榮詩》：“敷誠歸帝闕，應詔在明君。”與李榮《上〈道德經注〉表》自言：“猥以擁腫之性，再奉渙汗之言，遂得

揮玉柄於紫庭，聽金章於丹陛。”語意正合。知盧所稱即此李榮也。《大唐新語》卷十三《諧謔》稱：“總章中，興善寺爲火災所焚，尊像蕩盡，東明觀道士李榮詠之曰：道善何曾善，云興遂不興，如來燒亦盡，唯有一羣僧。然聲稱從此而減。”總章爲唐高宗年號，亦見李正與同時也。《舊唐書·儒學傳》言：“羅道棕每與太學助教康國安、道士李榮等講論，爲時所稱。”又言：道棕“於貞觀上書忤旨”，“高宗末官至太學博士”。時亦相當。正即一人，所謂任真子李榮者也。惟李榮書題元天觀道士，劉肅書稱東明觀道士爲異，當是住二觀先後不同，或是劉氏傳聞之誤，固無礙其爲一人也。是李在總章先已聲稱早著，遂應詔赴闕，知其成書，更在以前，未必能下及開元，並取《御注》，固不能無疑也。

《唐書·藝文志》有陳庭玉《老子疏》，無卷數，自注云：“開元二十年上，授校書郎。”唐疏之傳於後者，強、御、杜三家外，僅陳氏一《疏》，宋明之間，猶屢見著錄，王圻《續文獻通考》尚著有是書，知明世猶有存者。此之《顧疏》，亦《道藏》中唐疏僅存之一，應《顧疏》即陳庭玉《疏》，當收入《道藏》之際，誤繫之顧歡耳。馬夷初先生以爲《顧疏》即是《成疏》，當是未詳究成公書之體制，惟見其間《成疏》文多，遂率爾謂即成書也；以顧書即《成疏》，此固賢於阮元輩之所論，然終有未諦。以《強疏》考之，凡顧書刪《成疏》處，每以與《集解》他家義複，尤以與河上義複則刪《成疏》爲最顯，足明顧書爲有取《成疏》而作，安得謂即是成書也。《新唐書·藝文志》云：“成玄英，隱居東海，貞觀五年召見，永徽中流郁州。”《唐選舉志》言：“開元七年，注《老子道德經》成，詔天下藏其書。”是貞觀之初，成公之書已就，故得詔見，開元之初，諒已僊化，今《顧疏》備采《御注》，成公安能爲之？且顧本正文與成公出入亦多，安得以顧本即成本？唯謂《顧疏》即是陳庭玉《疏》，成於開元二十年，故得取及《御注》，至明猶存，故得刊入《道藏》，庶幾近之耳。又彭氏所言至宋猶存各家，有賈清夷，而賈大隱又有《述義》十一卷，亦疏類也，是顧歡注《疏》者亦或可定爲賈氏之書。但海東古籍有瀧川君山本《老子》，欄外雜引諸書，每徵賈大隱《述義》，而文皆不見於顧書，則亦未必爲賈作也。要之，此書之集，或陳或李，抑別一道流，均未可知，唯決非君相、非即《成疏》，則可斷言。至其徑題顧歡作者，應自有故。此書雖采衆家之注，究以取河上之《注》成公之《疏》爲最備，河上之《注》固爲六朝以來羽流所宗，成公之《疏》亦爲有唐一代之魁

製，然考之顧氏遺文，實頗申河上之說。杜光庭列六十家箋注，別爲五道五宗：曰“陶隱居、顧歡皆明理身之道”。又曰“顧歡以無爲爲宗”。宜此書編者，爲宗顧氏學派之徒，於衆家之中特題顧歡等著，編者未敢自名，於是徒留顧歡之名，致失編者姓字。安有書中明徵“顧曰”，而反誤以全書爲景怡之作乎？則仍舊稱爲顧之《注疏》亦無不可。隋唐道宗之盛，源於二孟，稱爲梁朝道士。顧爲南齊人，《弘明集》稱爲顧道士，宜孟氏之傳，出於顧氏，而道士之傳此爲最早，誠以景怡所造之宏也。李榮《集解》而曰顧歡述者，其以此歟！顧書所采，凡二十餘家，劉承幹君云十五家，亦不審之言也。

強、顧兩《疏》，皆據《成疏》而作，徒有纂輯之功，未嘗附以己意，編輯之際，復未精析文義，故排比多未適當，往往經文居後，而疏反居前，兩書皆然。唐代原爲疏自單行，故疏首皆先牒經文，次伸疏說，強、顧皆匯經於疏，於疏首牒文每刊削不盡，適爲冗累，而強本尤甚，以是知強、顧兩氏皆出以粗疏，編次之際，強尤草草，於同一疏注之文，又不免重出，猶爲非是。然即以此故，《成疏》原來面目藉以保全。采掇之際，兩書於《成疏》雖各有所遺，然以二書相校，所未取者皆不過百分之一耳；而顧所刊落，備在強書，強之所遺，亦顧書畢具，相互補足，頓還舊觀。其有訛倒羨奪，參相校正，亦得文從理順，煥若神明。其偶有強本有疑，又適爲顧書所遺，無從校正者，殆亦僅矣。要不過白璧微瑕，益增其美，宋槧唐寫，奪句誤文，皆所不免，況此沉薶千載舊籍，一旦忽顯，欲其無一字之疑，豈可得哉？近世敦煌重出舊籍，羅叔言氏編爲《古籍叢殘》，中有《老子義疏》一種，余校錄《成疏》既竟，復因方叔軒氏假得鳴沙影本校之，原帙強半損失，始六十章“治大國若烹小脰”，盡八十一章至卷終，幸有完書。羅氏不考，疑爲梁道士孟智周《疏》。及細讀之，竟是《成疏》原帙之僅存者。亟以與余校錄本相照，則余從顧、強兩本校錄者，知其不佚一字，而唐寫之奪誤乃累累不勝數也。每有疏文全句亦奪者，僅“小脰”疏“河公本作小鮮”一事，爲顧、強所遺。蓋《成疏》原多校語，強本多遺之，而賴顧本以補其缺，至顧本有遺者，定無可據以彌此憾也。但以《成疏》六卷計之，鳴沙所存猶過五之一，以相勘校，僅佚此一事，而強、顧所存校語不見於鳴沙本者，如“百仞之高”河公作“千里”，“備衆人之所過”河公“備”作“復”，“以我大不笑”河公“笑”作“肖”，乃有三事，奪句奪字又復累見，則不能謂鳴沙爲勝也。舊

書傳寫既久，異同自多。凡強、顧兩本，十九皆同，唯顧本文句多淵雅，而強本異文反失之俗近。中復有顧、強所引《成疏》文皆完備，而又各迥異者二事，豈成公先後本原有殊耶？抑後之傳者致誤耶？強本具載序次科文，《治大國章》科文即與鳴沙本異，疑強爲後定，知傳本固不同也。今則定其是者用之，錄中仍用顧本爲主，至與強本異同，則唯存之校記中耳。宋世李霖作《道德真經取善集》，中采《成疏》十數條，亦大同強引，而小有出入，頗同強本與顧本稍遠；僅《佳兵章》疏多出顧、強兩本“吉謂朝禮，凶謂喪禮”二句；他復有絕異者二條，復一條中而異其後半，餘則文或爲李所刪改，以便徵引，今亦概不引用，亦唯於校記中存之。凡李霖、鳴沙二本，皆於強書爲近，尤以鳴沙奪誤每與強同，知其顯爲出於一系，皆賴顧本以正之。余既疑顧書出於陳氏，陳書成於開元，文能古絮，殆傳寫既廣，同異滋多，不可遽珍奇文，改此完帙也。強書作於乾德，以顧本衡之，或失之冗近，以知鳴沙寫本，不得以“治”字缺筆，遽依羅氏定爲高宗時寫本也。元槧明寫，每存宋諱，豈可依以定爲宋代舊物耶？論傳本先後，義有進於缺筆者，不得泥於膠柱刻舟之說也。《成疏》“聖人亦不傷人”，顧本疏云：“諸本作‘亦’字，張係及陸先生本作‘之’字。”強引疏作“張係師”，甄鸞《笑道論》七云：“張陵子衡爲係師，衡子魯爲嗣師。”知“係師”亦僅稱“張係”，敦煌寫本“係師”作“係天”，殆以涉“天師”字而誤，則寫本不足據明矣。《隋志》、《陸序》皆有晉張嗣注《老子》二卷，知即嗣師張魯，亦僅稱“張嗣”，亦考《老》之家所宜究知者也。陸先生謂陸修靜也，或謂陸德明，誤，姑附及之。《唐書·藝文志》載：“道士成玄英注《老子道德經》二卷，《開題序訣義疏》七卷，玄英字子實，陝州人。”杜光庭言道士成玄英作《講疏》六卷，知成公《經疏》六卷，其一卷則所謂《開題》者也。《隋書·經籍志》有《老子序次》一卷，葛仙公撰。《唐書·藝文志》有葛洪《老子道德經序訣》二卷，侯康《補三國藝文志》稱：“《初學記》二十三、《御覽》六百六十七引《道德經序訣》。”檢《初學記》引《序訣》文云：“周時復託神李母剖左腋而生，生即皓然，號曰老子。”此文全符葛玄《河上公注老子序》之第一節，杜光庭《廣聖義》引葛仙公《序訣》云：“河上公者，莫知其姓名也，漢孝文皇帝時，結草爲菴於河之濱。”此全符《葛序》之第二節。自世德堂諸本，已佚去第二節，僅存前一節耳，惟宋本尚存第二節。《御覽》引《叙訣》云：“尹喜知紫氣西邁，齋戒想見道

真，及老子度關，授二篇經義。”此文唯《道藏》中《道德真經集注》所載葛玄《序》之第三節，與此文符，則三節皆《序訣》也。僅《四家集注》本備有此文，他本皆佚之。《集注》四家，惟有梁迴《序》，蔣錫昌君定爲文如海作，然杜光庭引文如海說，知文爲唐人，蓋劍南道士也，不能取及王雱，今不從其說。近發見敦煌本有《老子序訣》，即此三節文字，知此葛玄三《序》，即《序訣》文也。《序訣》第二節文中有：“余注是經以來，千七百餘年，凡傳三人，連子四矣。”杜光庭《廣聖義》引此文，復徵成玄英法師解云：“三人者，務光、羨門子高、丘子是也。”知成書稱《序訣》云者，當依葛氏《序訣》爲稱，杜引成釋三人，即《序訣·成疏》之佚文也。《唐志》言葛洪《序訣》二卷，“洪”或“玄”之誤。以第三節末有“道士鄭思遠曰”云云一段，鄭思遠即鄭隱，爲玄之弟子，師所作書而弟子繫辭於後，爲事之常。倘爲葛洪之書，洪爲鄭之弟子，不應洪書而師反附於後，又不應爲葛洪徵引師言而斥言道士。蓋洪於《抱朴子·內篇》，言必稱“先師鄭君”，如彼嚴敬，故知言葛洪撰者，《唐志》之誤也。然僅此三文，不應書有二卷，考《隋志》引《梁錄》有《老子序次》一卷葛仙公撰，今強本每章之下，皆言相次之義，如《易》之《序卦》，則《序訣》原名《序次》，備言八十一章相次之義。每一章中，又開爲數別，式如釋家科判。合此錄之，則二卷之本，可以復觀。強本備載《序訣》之文於每章之首，所謂顧本者則不載，且不分章，然顧本《不尚賢章》“使心不亂”下，引《成疏》有衍文“獨顯聖人虛懷利物”八字，以強本校之，乃下段《序訣》科文也。又《人之生也章》，顧本《成疏》衍“辯其勝劣”四字，以強本校之，亦下節《序訣》科文也。乃知強本仍爲《成疏》舊式，顧削落不盡，致留此迹，故茲校錄《成疏》，仍依強本，備列《序訣》，旋以校鳴沙寫本，幸得相同。李翹亦謂顧本即是成本，見顧不分章，即以爲成本原不分章，至爲疏略。蓋成本具載《序訣》，章復開數別，何云不分章耶？成於篇首科判文中云：“其委曲玄旨，具在《開題》義中。”是《開題》別自爲書，《道藏》中有薛致元《開題科文疏》五卷，首開二十題，皆爲有關老子及書之事義，若《周易孔疏》首之八論，杜光庭《廣聖義》篇首亦如此，知《成疏》稱《開題》，即杜薛二家文所由仿，惟以文既全佚，莫可考耳，其舊宜別有一卷，而《序訣》原爲二卷，則以散入各章，不復自爲卷也。強本每章之首，皆有儷文以讀全章宏旨，不知爲誰氏所爲，殆《隋志》所著《道德經章門》也，鳴沙寫本

無之，則不可定爲成公之作。茲亦別錄其文，重其爲唐人舊章，與葛公三《序》，別爲一卷，而七卷六卷之說，在昔六卷爲經疏，一卷爲《開題》，茲則一卷爲《章門》也。今鳴沙寫本於末卷云“卷第五”者，諒爲鈔者筆誤，或後來分卷略有改易，羅氏翻據誤文謂符《孟疏》卷帙，良非允論。惜《葛序疏文》及《開題》所論竟不可考，杜氏《廣聖義》、《宋史·藝文志》並云《成疏》六卷，豈首卷之佚更又早耶？《圖書集成》以《葛玄序》首節爲葛氏《節解序》，未知何據，至又載《河上公自序》一篇，則益不可信，惟其文已見於歸震川《評注》本，姑附卷首之末，以博異聞。考之《金樓子·立言篇》，實引《河上公序》，是河公固自有序，持以校歸本之序，文各不同，終未可信也。

强本《道可道章第一》“名可名非常名”句疏文，“思與希微通”下多出九十餘字，首再牒經文“非常名”三字，次爲解釋，於義爲複，校之李榮《注》本，全與相同，則此原爲《李注》，强本校讎不精，誤入《成疏》也。强本《天下有道章第四十六》“戎馬生於郊”句疏文，“故云生郊也”下重牒經文“天下無道戎馬生於郊”，復別爲之釋，凡百二十餘字，文不類《成疏》，當是强氏別引《節解》之文，校寫脫《節解》之名而誤入《成疏》也，以强引《節解》者凡有多處，此釋全爲《節解》一家之義，固有可言。《大成若缺章第四十五》“大成若缺”句疏下有“謂目光也”凡二十二字，亦當爲《節解》，而非《成疏》，文與義皆不類。此三事皆義之顯者，不可不刪，故徑刪之。又《視之章第十四》“故混而爲一”，疏云：“又解此真應兩身，作三乘義釋，具在《開題》卷中。”而强書經首於“道可道”句下引《御疏》下有“法師臧宗道又用三一之聖人應身”云云，殆三百言，正言真應兩身義，文非《開元御注》所有，殆即《成疏》、《開題》卷中之文，强公姑附之《御注》耳。强本“道可道”《成疏》自“夫道者何也”始，至“奚死生之能累乎己也”殆五百四十言，爲顧本《成疏》所無，與疏首段文義亦不貫，殆即《序訣》所云“境智相會，故稱道德，其委曲玄旨，具在《開題》義中”者也，强亦取此《開題》之文，姑附之成公疏中耳。此皆《開題》文之略可見者，而猥入疏中，亦徑刪之，而備錄其文於後，以俟讀者有所考正。《佳兵章第三十一》“殺人衆多，以悲哀泣之”句疏後“一解殺謂敵人”云云，凡三十八字，其爲《成疏》與否不敢定，則姑仍舊存之。《序訣》謂：“上卷三十七章大分三別：第一，一章，標道宗致。第二，三十五章，廣明道法。第三，一



章，總結指歸。下經一卷四十四章，大分三別：第一，一章，正開德宗。第二，四十二章，廣明德義。第三，一章，總結前旨。”顧本已刪《序訣》，文無可徵，強本備存《序訣》於小注中，不免因致缺佚，今考究全書，上經僅存《道常章》《序訣》云：“此一章即是第三大段文，正明結會。”下經則存：“《昔之章》即是第二大段文第一章，正廣明德義。”“《信言章》即是第三大段文，總結前旨。”存者三事，而佚者亦三事，依其體例，上經應補“《道可道章》即是第一大段文，標道宗致”。次補“《天下章》即是第二大段文第一章，正廣明道法”。下經應補“《上德章》即是第一大段文，正開德宗”。此關全書大體，事有可徵，不可不補，茲徑補之，俾綱紀秩然，以便觀省。唯《不尚賢章第三序訣》徑自“就此一章”起，佚去文首此章次前之故數句，已不可補。《載營魄章第十》“明白四達而無爲”句疏，後隔一墨圍，出：“又解云：四達者達三界及道境。”成公每於疏竟，別出又解，更伸一義，校者於此衍一墨圍，遂若又解爲他家之文，茲謹刪去墨圍，仍合又解於成公之疏，亦記之於此。又《有物渾成章第二十五》“先天地生”句疏云：“渾成之道，在天地先生，還是不先先、不生生義也。”疑本作：“不先之先、不生之生義也。”應是奪兩“之”字，或是奪兩“而”字，以無別本可據，不徑補也。《孔德之容章第二十一》“道之爲物”疏：“非物故一不一，而物故不一一也。”應是：“故一而不一，故不一而一也。”強、顧並同，無二“而”字，則以成公文句實然，乃知不可徑補也。《天下章第五十二》“天下有始以可爲天下母”句，依疏文應刪下“天下”二字，以無他本可據，亦不徑刪。“兵者不祥之器”疏“致兵革之主”，“致”上疑奪二字，“道生一，一生二”疏“有三才”，“有”上疑奪一字，皆以無別本可補，皆空格缺之。“守柔曰強”，他之敦煌本中“守”有作“用”字者，《成疏》正作“用”字，不依以改正者，以例不依此敦煌一本以校成書，或亦《成疏》以“用”釋“守”，不可徑改也。《聖人無常心章》“百姓皆注其耳目”，據疏“注”當作“淫”，以無他本可據，故亦不改。《上善若水章》疏云“善有二種”，強本誤“善”爲“水”，顧本無徵，諒是涉上“水”字而誤，致義不可通，雖無他本可依，謹以文義定之，徑改爲“善”，惟此一字爲據義改正者，亦僅著之。《善行無轍迹章》“善結無繩約而不可解”句疏：“就伏心文，有文尸三解，解有九品。”“文尸三解”，義不可通，疑是“聞、思、修三解”以音讀相近而誤，然無他本可據，亦不敢徑改；全書中以文誤致義不可解

者，僅此一事，亦著錄於此。至顧本《道常無名章》、《知人者智章》、《大道汎兮章》三章，所錄《成疏》凡二十三條，完全無缺，強本所錄則不過七條，強用《成疏》例視顧本爲備，此三章乃微少若是，殆強所據《成疏》已先有缺佚也。強本此七條中，即有二條與顧本《成疏》迥異，即“衣被萬物”、“萬物歸之”二句疏文，在全部顧、強所錄《成疏》中，此最爲特異，以他之疏文皆兩相符會，僅文字小有出入，亦有彼此刪損不同者，未有疏文全不相似若此之甚者，豈強氏本取之他家，而校者不慎，誤以爲《成疏》耶？其文義亦不全可解，或又殘佚之餘，後來者以意補之耳，知其不足據也。初校《成疏》，以強爲藍本，以顧校之，故於此二條皆仍強本，而備存顧文以俟考；三復校訂，知仍應從顧本，而姑別存強本異文可也。至李霖本所取《成疏》中有異文三條，以強、顧兩本相校，此三處文字，皆強、顧相同，獨李爲異，則又李書誤以他家注說而冒成名也。顧本始《天地不仁章》至《持而盈之章》凡五章，徒有經文，諸家注說全缺，此五章之經，亦後人據他本補之，以顧書原爲損字本，後人不曉，誤據不損本補之，此其顯然可察者。乃顧本之缺者，強本《成疏》適不缺，強氏所據《成疏》之已缺者，又適在顧書不缺之中，是成書之得不終爲殘佚之餘，倖而獲全者，誠亦僅矣。顧書之缺，在書成之後，強本《成疏》之缺，在強氏之先，益知西華一《疏》在宋崇寧中已無存，在唐乾德中已不完，千餘年後，茲乃再顯，且經文、疏文字字從唐本出，非有鬼物呵護，安能致此。唐人義疏之作，實有多家，陸德明《經典釋文》，復爲羣經及《老》、《莊》書並作音義。今西華《莊疏》猶在，余因之有迹求《老疏》之事。茲考老氏《成疏》佚而復得，而唐人經疏若《論語》，若《爾雅》，若《孝經》，竟渺不可尋，益見舊書淪落者多，良可歎息。而西華《老疏》，沉晦既久，竟可再見，何期玄珠赤水，罔象得之，此亦事之至奇，可偶而不可恒者耶？將亦神爲之助，固有非人力者在而非余所克致也。

既已三校《成疏》，錄成清本，以巴黎所藏敦煌卷子頗有《老子》無姓氏者注及疏義，思以影片致之，俾得四校，期成定本，道遠不可驟得，乃以餘暇，考求西華所用經本之舊，完成一家之學。以《老》書傳本，同異滋多，吾友蔣君錫昌先予治《老》二十餘年，爲《老子校詁》一書，既精且博，所取各本，都八十四家，唐人石刻凡有其五，乃無一同者，其惑繁可概見也。茲校《成疏》，據顧、強兩本，疏首先牒經文，強本猶存過半，未經刪落，依此牒文以勘強、顧之經，

多不能合，是知《成疏》雖存，而《成疏》所依之經則不可復覩，言顧書即爲《成疏》者，益證其不得爲確論也。反覆疏及牒文，求之蔣校，再三考索，始決《成疏》之經，與唐遂州龍興觀《道德經碑》十同八九，最爲相近。遂州爲今蜀之遂寧，碑已久佚，惟《道藏》中《道德經次解》據以爲訓，頗詳論之。杜光庭言：“唐朝道士張惠超、黎元興皆明重玄之道。”又言：“臧、陶、顧、孟，霞舉於南朝，任、黎、二張，星羅於西蜀。”據杜所叙箋注六十餘家，則有成都道士黎元興，作《注義》四卷；道士張惠超，作《志玄疏》二卷；通義郡道士任太玄，作《注》二卷；岷山道士張君相作《集解》四卷；此所謂星羅西蜀之四家也。通義郡爲今之眉山，天寶初曰通義郡，乾元初復曰眉州，知任爲眉山人，在天寶之後、而乾元之前也。重玄一宗，創肇江東，入唐後猶餘響於西蜀，遂州本獨與西華合者，一宗之傳，淵源固有自也。遂州本與《成疏》偶異尚十之一二，殆亦任真本與西華本之比，各有取舍，勢固不得盡合。爰依《次解》遂本，而以《成疏》牒經異者改之，《成疏》無明文可決者，則一仍遂本，則又知《成疏》牒經之文，亦頗有後人誤改以就顧、強二本者，非傳寫之誤，即校勘者誤據顧、強以改成，殆淺嘗學問者之爲也。尋繹疏義，足驗牒文之失，自可依疏以正之，往往還與遂州本合，則又校書之一快也。亦有牒文與疏違異，而牒文仍與遂州本合者，則仍舊存之而已。亦有牒文與遂州本合，而疏則又經誤改以就顧、強之本者，則徑改疏文，俾仍與遂州相合。其又有牒文、疏說自相同而皆與遂州本異者，則別求諸他家之本合於西華者用之，以徑易遂本，乃知唐易州龍興觀《道德經碑》大同西華、遂州二本，凡西華之與遂州異者，皆得與易州本合，足爲據驗。蔣君之校自勤，惟徒勘經本異同，不詳注家立義，漏此一例，猶爲千慮之一失耶？復就羅氏敦煌影本覈之，則茲校爲例之得失自亦可見，而益知所以求近真之方，蓋以易州輔遂州之不足，而於《成疏》皆可合也。於是西華一疏之舊，隱然若可見者，惟遂州、易州、敦煌亦未免於奪誤，不盡可依，仍當斷以疏義，覈之衆家，考論碑本，左右采獲而尋究之，經文止於五千，雖視疏爲約，而校事之難，乃倍於疏也，是又安敢言取舍改易一一之悉當乎？既以遂州本爲主以校成書，而後知前之疑疏文尚有三數處佚奪不可復補者，證之遂本皆經無此句，始喜《成疏》之決爲完璧而無憾也。凡遂州本經文視他本刪損者計有十事：爲第二章“生而不有”，第三十章“大軍之後，必有凶年”，第六十一章“以靜爲下”，六十

三章“是以聖人終不爲大，故能成其大”，七十一章“夫唯病病，是以不病”，七十三章“是以聖人猶難之”，凡此六事，皆西華無疏，而校之遂州本，皆經無其句，他本之略同遂州本者，惟易州本，亦無“大軍之後必有凶年”及“是以聖人猶難之”二事，此則易州本略近遂本之迹也。他若遂州本無二十一章“其精甚真”，五十五章“知常曰明”，及七十八章“是以聖人”，此三事雖遂本所無，而西華則有疏，明成公經自有此句，校之易州本亦有此句，與《成疏》同。第三章“爲無爲則無不治”，遂有“爲無爲”句，而《成疏》牒文無之，校以易州本亦無之，此易州能輔遂州之不足而可以求合於西華者也。三十四章“常無欲可名於小”，遂本無“常無欲”三字，易州本有，《成疏》無考，則徑從遂州，以茲校原主遂州，不輕以易州改遂州也。十四章“是謂惚恍”，《次解》經文有此句，而後附《道經異同字》，舉不同者六十九處，所列則無此句，此顯屬《次解》之誤，自爲矛盾。《老子翼》云“龍興碑無此句”，當是據所列不同六十九處而言。蔣君錫昌云：“《次解》此句實有，而焦氏謂無者，諦視未審之故，不足據也。”蓋蔣依《次解》經本，焦依後附異同，不能相非，惟《成疏》實有此句，遂州本既不可定，易州則固有之，足爲考定成本之據，此亦以示易州輔遂州之列也。其他文字同異多少，率依此爲例，以求合於西華之舊，期於字字有據，倘所謂不中不遠者乎。蓋自張係師本出，刪損經字，以求合於五千之數，書益佶屈，句讀爲難，因有刪字本及不刪字本之殊，而羽客者流，實多依損字本爲說，遂州、易州、西華皆是，茲之所校，但以求復西華面目，若云柱下之舊，誠所未遑論也。晉唐注《老》其遺說猶可考見者四十餘家，既思別輯爲書，以補任真《集解》而存之，待諸言《老》者之自擇，以輔《成疏》立義之未諦，而各本文字同異，亦將於《補注》中擇要存之，以待言《老》者之去取，或差足匡《成疏》經本所未安，而爲治西華書者之一助。任真亦據損字本者，擬再依不損本章益其句，句益其字，以復其舊。蓋既存別家之義，不得不兼存別家之經，經注相扶，而義始有歸也。凡所增易，皆墨圍其外，以識別之，庶無傷重玄一宗之舊，亦可藉以尋《老經》之真，若云折衷是正，則以待諸賢哲，今則僅以篤守家法爲主，未敢有所放論也。茲理成書，疏依顧氏，而校以強氏，經依遂州，而校以易州，凡所是正，未必皆審，然字字皆從唐本出，而心力所及，亦止於是也。念唐人九經之本，孔、賈之《疏》，陸氏《音義》，皆與顏監定本有異，自宋以《音》、《疏》二者合

於單注本，爰有八行本、十行本《注疏》，疏本、注本原非一源，故一書之間，矛盾迭出，今茲推求成經，於事既繁，於《補注》亦並著各家經文異同，爲工尤拙，然比於宋世校經之草率，庶鮮貽誚於將來。

《成疏》惟出經文，不牒注說，知不據注爲疏，與其作《莊子疏》同。六朝唐宋雖主河上者多，然《成疏》多違河義，又每顯駁河公之本，不肯曲從其說；亦不符於王義，知亦不據輔嗣；《唐志》成公自有《道德經注》二卷，殆於古人皆不欲依之也。至其持義，則有可言。六代注《老》顯有二派：王弼則專研玄理，河上則備言仙道，成則總此二派，不偏一隅，每疏文義竟，復起《內解》，《內解》皆仙術也。考隋、唐兩《志》，陸、杜兩《序》均有《節解》，或云尹喜所撰，或云河上公作，唯《宋志》謂葛玄作，當得其實。或復稱“內節解”，按《節解》遺文，皆屬仙法，成稱《內解》者，殆承葛氏之緒，蓋以葛等爲內、王等爲外也，《成疏》固內外兼舉者也。《河上公注》究爲何氏所爲，亦有可尋。由葛玄《節解》言之，最爲近似。考之嵇康《高士傳》云：“河上公，不知何許人也，謂之丈人，隱德無言，無得而稱焉，安丘先生等從之修其黃老業。”而皇甫謐《高士傳》云：“河上丈人者，不知何國人也，明老子之術，自匿姓名，居河之湄，著《老子章句》，故世號曰河上丈人，隱身修道，老而不虧，傳業於安期生，爲道家之宗焉。”《嵇傳》之河上丈人“隱德無言”，是明不見有《老子章句》；《皇傳》謂其作《老子章句》，是焉得謂無言耶？宜《河上章句》爲出於叔夜之後，而在皇氏之先，故葛仙公得序其書也。仙公《序》論河上公事，稚川即依之以著《神仙傳》，殆由左元放而來，仙道以葛氏爲一大派，正始之風既盛，神仙家不願《老子》獨爲玄宗所奪，因託史遷之河上公書，正以抑人揚己耳。《序訣》末道士鄭思遠曰：“余家師葛仙公，受太極真人徐來勤《道德經》上下二卷，仙公曩者所好，加親見真人，教以口訣，云此大道之祖宗也，誦詠萬遍，夷心注玄者，皆必昇仙，尤尊是書，日夕朝拜。”所云“教以口訣”，所云“尤尊是書”，顯指《河上章句》，以《道德經》原爲顯書，不俟徐授也。豈於時實有隱士徐來勤者，出此《河上章句》本耶？是則《河上章句》者，魏晉間方士徐來勤之所作也。《雲笈七籤》每稱徐來勤，勤、勒自係字誤，徐稱太極真人，葛稱太極左仙公，殆皆仙者也，知《河上章句》者，誠不得爲周漢之作，其出於魏晉殆無疑也。斯則徐、王兩《注》，對壘抗行，《成疏》并此二家，聯驂並轡，匯於一

帙。又成氏之疏，每別伸義云“治身者”，考杜光庭以“嚴君平等爲明理國之道，孫登、顧歡等爲明理身之道，羅什、圖澄明事理因果，何晏、鍾會明虛極無爲，臧靜玄明重玄之道，梁武帝以非有非無爲宗”。知成重言“治身”者，以疏“理國”之義已竟，而又別伸治身之義也。或並言治身治國，則又合嚴遵、顧歡輩於一轍也。疏中嘗稱臧公或臧上人，固以同主重玄，示其宗仰，然又未嘗不屢言即事即理、非有非無，則亦旁取羅公、參之蕭老，是其搜羅宏富，兼該者多，六代勝言，猶寄於此。今以顧書所存、李霖所采六朝舊注核之，成書若自爲疏，而實多襲魏晉以來之說，是則熊、皇、孔、賈疏經舊轍，自爲一家之書，而實綜羣儒之說，先師遺義，尤藉保存，不專臧氏一家之學也。“百仞之高”一文，成公即據孫登之本，所謂“孫登以重玄爲宗，宗旨之中，孫氏爲妙”者也。稽之晉唐注家，鍾會、何晏、羊祜、郭象之徒，致精於玄宗，義近於王弼，葛玄、顧歡、張氏、王玄辯，兼明仙道，說朋於河上，顧、王之《疏》，更顯依河公之《注》，斯其較著者也。羅什、圖澄皆注《老子》，其信否未可知，而惠琳、惠觀、惠嚴皆有《老子注》，《陸序》稱爲“宋世沙門”，則釋氏注《老》，先有其事，故《老》家亦沿而用釋，觀、嚴兩師，又皆什公弟子，自裴處恩、梁武父子、大小二孟以來，皆以四句、百非爲說，以暢重玄、三一之義，接踵釋氏，隋、唐道士劉進喜、蔡子晃之屬，亦其流也。成公之疏，不舍仙家之術，更參釋氏之文，上承臧、孟，近接車、蔡，重玄一宗，於是極盛，萃六代之英菁、而垂三唐之楷則者也。顧注“田甚蕪”云：“內明道德不修，丹田荒蕪。”則兼綜王、葛二派，並取羅公，以下開二孟，則顧氏之業，不其偉歟！疑二孟之業，即出顧氏，以釋言玄，斯爲最著，以下逮成、李，此李榮《集解》所由徑題顧氏者也。重玄之論，即暢於此，源遠流長，自爲足貴。盧裕、劉仁會徒襲魏晉之餘風，李約、陸希聲但爲宋元之前響，皆不足重；而西華一《疏》，更集重玄之大成，綜六代之奧論，《疏》成而道士王元慶邀文學賈鼎就受大義，以其書誠爲不可及也。李榮在高宗朝，應略後於成公，榮或即成公之徒，未可知也。故強思齊亦頗取其文，與《成疏》同入《纂疏》，以二家義說，最爲相近，文亦每同，蓋李之爲說，亦多取六朝舊訓，入己注中，亦成公法也。惟李氏之書，僅存其半，獨賴強帙，猶可補其佚缺，因並校之，俾唐初勝義，幸足研尋。至陸希聲、李約輩之書，雖同爲唐作，但殊類啖、趙說經，義自別出，希聲、李約二家爲近，與任真、西華之宗遠



矣，不復及之。自白雲霽混此李榮於宋之李息齋嘉謀，殊爲違誤。李嘉謀，南宋初人，見《陳止齋集》，又《魏鶴山大全集》有《李嘉猷墓誌》，亦兼及嘉謀事。嘉謀別有《先天道德經注》，見於《道藏》，自號息齋，錢竹汀不知此息齋爲嘉謀，乃誤以爲元之李息齋。元人李息齋，又別一人，名衍，不容相混。以踵訛者衆，聊復陳之。《雲笈七籤》卷六《三洞經教部》“第二太平者三一爲宗”云：太平洞極之經一百四十四卷，自宋梁以來，求者不得，陳祚開基，至宣帝立乃命太平周法師諱智響往取此經，“帝因法師得此經，故號法師爲太平法師，即臧靖法師之所稟業也”。此臧靖即臧玄靜，則太平法師應即孟智周，而誤爲周智耳，是臧靜實從孟智周稟業，此其傳承之僅可考者。又“第三者重玄爲宗”云：太玄道經二百七十卷，既說有三時，玄靖法師開爲三部。知孟、臧於道宗造述之宏也。《雲笈七籤》卷五《經教相承部》云：“王遠知，曇首之子，入華陽事貞白先生（陶弘景），又從宗道先生臧矜，傳諸秘訣，貞觀九年敕潤州於茅山置太平觀，並度七人。”王遠知而下次潘師正，次司馬承貞，次李含光，傳承有緒。云“臧矜”者，即是臧靖，宗道，即玄靜字也。杜氏謂：“孟智周、臧玄靜皆明重玄之道。”又云：“孟智周、臧玄靜以道德爲宗。”孟、臧學術無往不同，故知周智響者決是孟智周之誤文。成玄英獨舉臧靖說，稱之曰臧上人或臧公，宜成爲臧之弟子，與王遠知同顯於貞觀之初。若李榮者倘又成公之徒，此其淵源之略可探尋者也。

反覆重玄之言，即據又玄爲說，西華書謂：“有欲之人，唯滯於有，無欲之人，又滯於無，故說一玄，以遣雙執。又恐行者滯於此玄，今說又玄，以祛後病。既而非但不滯於滯，亦乃不滯於不滯，此則遣之又遣，故曰玄之又玄。”任真子言：“定名曰玄，借玄以遣有無，有無既遣，玄亦自喪，故曰又玄，又玄者三翻不足言其極，四句未可致其源，寥廓無端，虛通不礙。”尋二家之文，重玄之義，不外乎此也。詳究羅什之解“損之又損”謂：“損之者無羸而不遣，損之至乎忘惡，然後無細而不去，去之至乎忘善，惡者非也，善者是也，既損其非，又損其是，故曰損之又損，是非俱忘，情欲既斷，德與道合，至於無爲，己雖無爲，任物之自爲，故無不爲也。”究乎注《老》之家，雙遣二邊之訓，莫先於羅什，雖未必即什公之書，要所宗實不離其義，重玄之妙，雖肇乎孫登，而三翻之式，實始乎羅什，言《老》之別開一面，究源乎此也。杜氏稱：“梁竇略《注》四卷，與武帝、羅什所宗無異。”又稱：“羅什、梁武、竇略，皆明事理因果之

道。”又稱：“梁武帝以非有非無爲宗。”梁武之言，無所考見，由非有非無之義以論，蓋與羅什之說不殊，釋氏之解入於羽流，殆自梁世而大倡其風也。成氏疏中每言即事即理、非有非無，殆其緒也。顧歡之說，遺文尚多，其釋“唯恍唯惚”，謂：“欲言定有，而無聲無色，欲言定無，而有精有信，以其體不可定，故云恍惚。”是亦羅什、梁武之朋，非遽異也。其釋“有之以爲利，無之以爲用”，謂：“轂中有軸，器中有食，室中有人，身中有神，皆爲物致益，故曰有之以爲利也。然則神之利身，無中之有，有亦不可見，故歸乎無物。神爲存生之利，虛爲致神之用，明道非有非無，無能致用，有能利物，利物在有，致用在無，無謂清虛，有謂神明。而俗學未達，皆師老君全無之道，道若全無，於物何益，今明道之爲利，利在用形，無之爲用，以虛容物故也。”顧氏以無爲爲宗，於是可見其概。孫盛以來《疑問反訊》之作，景怡可謂能塞其難也，斯亦重玄之教也。杜氏言：“孟智周、臧玄靜以道德爲宗。”《廣聖義》五云：臧玄靜曰：“道者通物，以無爲義，德者不失，以有爲功；道無則能遺物有累，德有則能祛世空惑。”又稱臧玄靜云：“智慧爲道體，神通爲道用也。”又云：“道德一體，而具二義，一而不一，二而不二。二而不二，由一故二，一而不一，由二故一，不可說言。有體無體，有用無用，蓋是無體爲體，體而無體，無用爲用，用而無用。然則無一德非其體，無一用非其功。尋其體也，離空離有，非陰非陽，視聽不得，搏觸莫辨。尋其用也，能權能實，可左可右，以小容大，以大容小，體既無已，故不可思而議之，用又無功，故隨方（不）示見。”此以道德爲宗之大較，正亦不越乎重玄之軌。至嚴君平之以虛玄爲宗者，唯以君平一家兼統何、王之徒耳。自王弼、何晏，及於君平，陳義虛薄，空穴來風，致招詬難。齊梁而後，孟、臧之徒以重玄爲說，始益深遠也。尋諸雙遣之說，雖資於釋氏，而究之《呂覽》之論園道、《淮南》之釋無爲，知重玄之說最符老氏古義。而王、何清談，翻成戲論，孟、臧勝義，方協至言，固《呂覽》、《淮南》之舊軌，何嫌釋氏之藉範也。孫盛《老子疑問反訊》謂：“《道經》云：‘故常無欲以觀其妙，故常有欲以觀其微，此兩者同出而異名，同謂之玄，玄之又玄，衆妙之門。’舊說及王弼解，妙謂始，微謂終，夫觀始要終，觀妙知著，達人之鑒也。既以欲澄神昭其妙始……何以復須有欲得其終乎？宜有欲俱出妙門，同謂之玄，若然以往，復何獨貴於無欲乎？”此正正始虛無之說，而安國力排之者，亦王、何之徒所難置答者也。孫盛爲孫統



之從弟，而登則統之子也，是知重玄之說，實由“有欲俱出妙門，同謂之玄”之難詰而啓之也，此《疑問反訊》之作，翻有暢道家之精旨，適爲攻錯之他山者也。杜光庭言：“河上公云：道者，空也；王輔嗣云：道者，虛無之謂也；惑者或謂常道乃至上德，實是虛無。今明‘是以有德’，此則除其無病，故經云：‘杳冥中有精。’此是一往相翻，聞名遺病，及其進悟，義則更深，明道之爲無，亦無此無，德之爲有，亦無此有，斯則無有無無，執病都盡，乃契重玄，方爲雙絕。”是證重玄之道，即對虛無之談，此正孫盛所由興難。李榮言：“魏晉英儒，滯玄通於有無之際。”而孫登以來，齊梁道士專主重玄之論，所由益深者也。陸希聲曰：“王弼以爲聖人與道合體，老氏未能體道，故阮籍謂之上賢亞聖之人，蓋同於輔嗣。”又曰：“王、何失老氏之道，而流於虛無放誕，皆老氏之罪人也。”正以見正始清談未達《老書》微旨，故於老氏亦有微詞，賴重玄之說出，而後老以益尊，其所繫之巨如此；由杜、陸之言，益見齊梁羽流之說，與魏晉白衣之論，迥爲殊致也。重玄之說，倡於孫登，《陸序》：“孫登《集注》二卷，字仲山，太原中都人，東晉尚書郎。”杜以孫登爲隱士，字公和，魏文、明二帝時人，此涉與嵇、阮同時前一孫登而致誤者也。

西華疏中，每言“三一”，知此一系，以“重玄”爲道，以“三一”爲歸。成於疏“希、夷、微”，舉臧公《三一解》云：“夫言希、夷、微者，所謂精、神、氣也。精者靈智之名，神者不測之用，氣者形相之目，總此三法，爲一聖人。不見是精，不聞是神，不得是氣，既不見、不聞、不得，即應云無色、無聲、無形，何爲乃言希、夷、微耶？明至道雖言無色，不遂絕無，若絕無者，遂同太虛，即成斷見，今明不色而色，不聲而聲，不形而形，故云希、夷、微也，所謂三一者也。”又云：“真而應，即散一以爲三，應而真，即混三以爲一，一三三一，不一不異，故不可致詰也。……此真應兩身，作三乘義釋。”此三一義之大較也。《雲笈七籤·玄門大論三一訣》稱孟法師云：“言三言一、不四不二者，以言言一即成三也。……然三義雖異，不可定分；亦一體雖同，不可定混；混亦不混，故義別成三；分不定分，故體混爲一；混三爲一，三則不三；分一爲三，一則不一；不三而三，不一而一。斯則三是不三之三，一是不一之一；不三之三，非直非三，亦非非三；不一之一，非止非一，亦非非一。此合重玄之致也。”又稱“出體之義略有四家”：一者大孟法師解云：“三一之法，以妙有爲體，有而

未形，故謂之妙，在理以動，故言爲一。引經言道生一。又云布氣生長，貸（當作裁）成靡素，兼三爲用，即一爲本。”此大孟法師者，孟安排也。前所謂孟法師者，小孟孟智周也。皆見杜光庭《序》。二者宋法師解云：“有總有別，總體者三一，即精、神、氣也。別體者精有三智，謂道、實、權；神有三宮，謂上、中、下；氣有三別，謂玄、元、始。”此所謂宋法師者，蓋宋文明也。《御覽》卷六六六引《道學傳》言：“宋文同字文明，吳郡人，梁簡文時。”《杜序》作宗文明，疑杜誤。三者徐素法師云：“是妙極之理，大智慧源，圓神不測，布氣生長，裁成靡素，兼三爲義，即一爲體。”此所謂徐素者，未知與杜所稱徐邈爲一人否？徐邈即徐道邈也。四者玄靖法師解云：“夫妙一之體，絕乎言相，非質非空，且應且寂。”此玄靖者應即臧玄靜也。又稱孟法師云：“用則分三，本則常一。”又孟法師云：“涉學所宗，三一爲本，故七部九結皆有圖術。”及所謂“義有九條，用有五迹”者，皆廣如《七籤》所列，重玄、三一，一宗勝諦，略備於斯。《纂疏》云：“法師臧宗道（杜作道宗，即玄靖字也）又用三一爲聖人應身。所言三一者，一精、二神、三氣……總此三法，爲一聖體。此三者不可致詰，故混而爲一也。但老君法體，以三一爲身，自有應真之別，而解者義有三家：第一，散一以爲三，是聖人應，混三以歸一，是聖人真。第二云：三之與一俱是應，非三非一乃是真，爲三爲一俱是名數。第三云：豈有名數之外，別有無名數之真耶？即此三一非三一是真，非三一而三一是應，非三一（疑脫“而三一”三字）之應，此應是真應三一而非三一之真，此真是應真，應真之真，不可定言真，真應之應，不可定言應，所以非真非應，而應而真。”此則西華所謂“又解此真應兩身，作三乘義釋”者也。蓋以聖人之果，示入教之行。任真子曰：“希、夷、微三者，俱非聲色，並絕形名，有無不足詰，長短莫能議，混沌無分，寄名爲一。一不自一，由三故一，三不自三，由一故三。由一故三，三是一三，由三故一，一是三一。一是三一，一不成一，三是一三，三不成三。三不成三則無三，一不成一則無一，無一無三，自協忘言之理，執三執一，翻滯玄通之教也。”皆廣辯三一，以合重玄之致。前經言：“恍惚中有物，惚恍中有象，窈冥中有精。”《成疏》言：“中有物即是神，妙物爲名者也。雖復非無非有，而有而無，故是妙也。中有象即是氣，雖復非象非色，而爲色爲象，故是氣也。言道不物而物、不象而象也。中有精即精智也，精靈智照，神功不測，真精無雜，實非虛假。於三一之中，偏

重舉精者，欲明精是氣色神用之本也。”臧公三一之說，用之以說希、夷、微，成公復用之以說恍惚窈冥，此固相承之道。《雲笈七籤》廣說有《三一九宮法》、《三一服氣法》等，而事益宏矣。然三一之說雖盛，而義更有進者，何晏之釋“復命曰常”云：“復命當使不死，是道之所常。”是長生不死之說，非但《河上章句》、《仙公節解》專以此爲言，即正始名士如平叔、竹林名士如叔夜，胥亦遊心於此。而羅什之注，亦有是言，其注“以其無死地”，固曰：“以其攝生無生，故三毒不能傷害。”其注“勇於不敢則活”，則曰：“活，長生也，若進心虛淡、不敢貪染則長生。”是羅公亦未始廢長生之義。惟松靈仙之注“知常曰明”，謂：“不爲生死所傾動，故名曰常。能知此常，則智慧日明也。”松靈無名氏年代，不可具論。而重玄之勝流，於此則有彰著之論。蔡子晃之釋“知止不殆”曰：“若能知止有名之末，復歸無名之本，此則不生不死，所謂不危殆也。”車惠弼之釋“往而不害安平泰”曰：“若往於生死，有累憂悲，斯則有害。若往於大道，無爲安樂，此則無害。而言安平泰者，不爲生死所遷名爲安，諸法不二名爲平，無爲安樂名爲泰。”李榮之釋“天下之物生於有，有生於無”曰：“迷者失道，不識本元，聖人垂教，明於祖始，若能歸道，超生死而出有無，必其昏俗，淪有無而繫生死，形神合而見相，故言生於有，形神散而無體，故言生於無。”成公闡發此義，更爲累見，其疏“使我介然有知，行於大道，唯施是畏”云：“夫至道虛通，妙絕分別，在假不假，居真不真，真假性齊，生死一貫，入九幽而不昧，出三界而不明。”皆陳義深遠，以爲道超死生之外，而徹存亡之中，此重玄一宗，所以超越魏晉而抗衡儒釋者也。唐以來道家名德，皆不言白日飛昇，明長生之非形軀，其義豈無由耶？

杜氏《廣聖義》言：“梁朝道士孟智周、臧玄靜，陳朝道士褚綽，隋朝道士劉進喜，唐朝道士成玄英、蔡子晃、黃玄鑿、李榮、車玄弼、張惠超、黎元興，皆明重玄之道，何晏、鍾會、杜元凱、王輔嗣、張嗣、羊祜、盧裕、劉仁會，皆明虛極無爲理家理國之道。”此知說《老》之家義有多途，考其大較，二宗而已。正始以還，玄風盛於江左，梁陳以降，清談遂息，竟不可振者，正以重玄一倡，卑視魏晉，河公、輔嗣，並遭譏彈，孟、臧之宗既張，遂奪河、王之席，駕而上之也。此宗悉屬羽流，前者並是白衣，道士一派，於是遂以完成。重玄之宗十一家，說義之可考者尚有七家，唐人自成玄英、李榮外，惟蔡子晃、車玄弼二家頗

有佚文可見，李霖《取善集》取蔡說八事，車說五事。顧《注疏》實本李榮《集解》，中徵“蔡曰”者十事，“車曰”者二事，是二家並在李榮之前，宜與成公爲並時也。《史記·老子列傳》正義引張君相云：“老子者，是號非名。老，考也；子，孳也。考校（原作教，依《廣聖義校改》）衆理，達成聖孳，乃孳生萬物，善化濟物無遺也。”（杜光庭言：“老者，以考校衆聖爲名；子者，以孳生萬物爲義。”即據張說。）《正義序》云：“於開元二十四年殺青斯竟。”則君相書成應在開元以上。晁氏《讀書志》意張爲天寶以後人，未必然也。張爲《三十家集解》，二十六劉進喜，二十七蔡子晃，二十八成玄英，二十九車惠弼，是蔡、車又更在張氏前也。《杜序》言劉爲隋朝道士，《大唐新語》十一言：“高祖幸國學，命道士劉進嘉講《老子》。”“喜”疑“嘉”字之誤。足知重玄之盛，並在唐初，吳筠爲《注》在開元間，爲說已異。雖下至杜、強，猶不廢重玄之義，而比之陳、隋之風，則已替矣。杜氏以盧景裕、劉仁會同於王、何之道，固知北朝解《老》，猶習魏晉之遺，重玄雖盛，不過江東，未嘗行於河北。此宗始於梁陳，盛於唐初，若是而已。天寶以後，流風餘韻，猶存蜀中，任太玄、黎元興之流是也。李白《送蜀僧晏入中京》詩有“黃金獅子乘高座，白玉麈尾談重玄”之句，是是時蜀中倡重玄者猶多。《昇玄經》：“仙人竇子明問法師：‘三一之談，當復云何？既爲一而復言三。’法師曰：‘雖三常一，故名三一，三一者向道初門，未入真境，得見一分，未能捨三全一，是未離三，雖未離三，少能見一，故名三一。’子明曰：‘此一者何所有也？’答曰：‘無所有而有。’”《蜀中廣記》言：“竇子明，江油人，入圖山學道，故名竇圖山。”是又三一重玄之緒，皆流播兩川也。至淵源重玄一派而注訓《老經》者，亦有可言。王遠知從宗道先生臧矜稟業，《茅山志》正作臧矜，當即臧玄靜，以玄靜字宗道也。遠知門下有徐道邈，《杜序》所稱道士徐邈作《老子注》四卷是也。與徐同門者又有潘師正，潘門下有吳筠，亦作《老子玄綱論》，所謂宗元先生也。與吳同門者有司馬承禎，授薛季昌，《杜序》所謂衡嶽道士薛季昌作《老子金繩》十卷、《事數》一卷是也。與薛同門者有李含光，亦說《老子》，見《新唐藝文志》，有《學記》、有《義略》也。自薛而下次田虛應，次馮惟良，次應夷節，劉處靜撰《靈寶三師記》，即田、馮、應三人，杜光庭爲應氏弟子，撰《道德經廣聖義》，號廣成先生。杜序《玄德纂疏》言：“弘農強思齊，字默起，卅歲侍先師金仙觀，講論大德。”是強亦應氏之徒，賜號

玄德大師，故書稱《道德經玄德纂疏》也。《杜序》重玄宗有黃玄曠，杜別作《洞淵神咒經·序》，則稱黃氏而下次韋善俊，次葉法善，次尹愔，則又《杜序》所稱肅明觀主尹愔作《老子新義》十五卷者也。此並唐之道士詮解《老書》，其學術淵源有關重玄者也。其爲書或存或否，杜氏多不繫之於重玄派，倘旨義不定相同也。其若學本於唐而訓釋《老子》者，若劉海蟾一系，次張伯端，次石泰，次薛道光，次陳楠，次白玉蟾，作《道德經寶章》，授彭耜，作《道德經集注》，此亦淵源甚久、師承有自者也。至若陳搏有弟子張無夢，號鴻濛子，次有陳景元，作《道德經藏室纂微》，以著其師說，次有薛致玄作《藏室纂微開題科文疏》五卷，及《手鈔》二卷，祖述陳氏，此皆唐代道家餘緒而顯於宋者。解《老》之家，重玄一宗之外，惟是二書所繫至巨。又若蔣宗英，實爲司馬承禎二十六傳，其弟子有杜道堅，作《道德玄經原旨》，趙松雪嘗師之。自杜氏而下，遂入於元，次張德懋，次趙嗣樸，次周德方，此皆源於重玄而流播較久，其傳授皆有可徵，而宗旨亦漸變，於上來諸家述作，其義皆可考而知也。

余既略研《老子》，因發現成玄英《疏》之可重，幸其書尚可整理以成完帙，遂竭力校訂，以畢其役，以李榮《注》與《成疏》相輔，亦並校錄，遂得二書。二書固有突過前賢處，然漏失亦時有之，謝無量師深於《老》、《易》，囑宜並輯古注，以見源流，且補成書之不足。於是以顧歡本所收舊注即是李榮《集解》，以此爲主，以強氏《纂疏》所采益之，並以自宋以下如李霖《取善集》等所引六代唐人之說，錄出以爲《補注》，並及唐人佚說者，以顧本、《強疏》皆取唐人說也。李約、陸希聲、傅奕、杜光庭、《開元御注》、《御疏》六書不取者，以原書具在，自易檢尋，無俟更出。《河上公注》爲各家所宗，且顧歡、王玄辯二氏，實依河公爲說，故並校之；以顧、強兩本校宋梁迥《集注》本、《道藏》本、涵芬樓影宋本、天祿琳琅影宋本、世德堂本，詳爲校記附之。嚴遵《指歸》今存者僅其後半，然校以唐宋人所徵引，悉在其間，知爲舊書，非明代人妄作也，因采輯舊所徵引者以見其缺卷之梗概，其復見今本者亦僅存之，以資校理，別爲《嚴氏指歸拾遺》二卷。王輔嗣《注》，以宋、明以往，抑於河公，不爲世重，故鮮善本，晁以道求之久而後得，於政和間刻之，乾道間熊克再刻之，《正統道藏》本亦據熊刻，張之象又刻熊本，近所行者，但此本耳。茲取上各本，再以武英殿聚珍本校之，以其原出《永樂大典》，梁迥《集注》本備取《王注》，亦宋本也，

並據以讎校，俾《王注》有善本；陸氏《音義》本據《王注》而作，並校《音義》附之。《成疏》之《老子》文大同遂州本，乃遂州本復有訛奪，近姜亮夫君所得巴黎藏敦煌寫《老子》，與遂本同源，足資校正，復作《遂州本老子校文》一卷，以與《成疏》相輔。從《強疏》別輯《老子章門》一卷，並存於後。《老子》一書舊解勝義略具於此也，俾世之治道家言者得以覽觀焉。凡得書共八種，次第刊之，以就正於博物君子：

《老子成玄英疏》六卷

《老子李榮注》四卷

《老子古注補》八卷

《老子指歸拾遺》二卷

《老子河上公章句校本》四卷

《老子王弼注附音義校正》二卷

《遂州本老子校文》一卷

《老子章門》一卷

民國三十四年十二月蒙文通識於四川省立圖書館

《成疏》、《李注》所據經本，原無章次，遂州本亦然，茲校印各籍，謹注章次於書眉，以便檢閱，未敢闖入文中。後日復印，當改注章次於書耳，以從宋人刻書之式。

三十五年五月 文通又識

## 《道德經義疏》序

有守於抗日戰期中，受命典蜀學政，以四川爲復興基礎，而文化事業類多未備，爰首建圖書、博物、科學各館，以鹽亭蒙文通君治學精勤，任以柱下之守，邦之人士咸慶得人。維時蜀與國內外交通既阻，求書匪易，值亦漸昂，而公帑尤奇絀，有守勉力爲助，三四年間，幸聚書四五萬冊，雖全部庋藏未臻美富，然固已竭其綿力。此中艱苦，人所難知，多以收藏善本爲詢者，蒙君笑曰：善本豈易得哉，余惟日坐其間新勘善本耳。蓋每得世所稱明清精刻，蒙君恒以未盡美善爲憾，日偕館中諸子以舊本舊鈔與羣籍相檢校，數年之中，所校書計二十餘種，以《史通》、《文心雕龍》爲最精，以《書苑菁華》、《墨池編》校《法書要錄》爲尤貴。緣《墨池》、《書苑》同出《要錄》，三書皆無善本，蒙君用相互校，復參之類書文集，是正羨奪，易其訛誤，然後三書胥有精本，斯則有關學術，非獨勘校之勤也。今歲秋間，蒙君復從《道藏》唐人著述中，輯得唐西華法師成玄英《老子義疏》，則更爲奇迹。夫《成疏》之亡已千餘載，唐之末季或已不完，僅強思齊《玄德纂疏》頗多徵引，因強書以驗顧歡《注疏》之稱“疏曰”者，亦成氏疏也。自宋李霖《取善集》等以下，或亦頗存成說。蒙君參合輯錄，除其複重者泰半，而成氏之《疏》復有完籍，錢君賓四見而歎曰：有清二百年間，所輯逸書率多殘帙，何意今日竟得全編，非治學精勤者惡能獲此。蓋蒙君初從唐人著述中校出是《疏》，輯錄成帙，疑若完整，猶未敢必其無所佚漏，嗣以羅叔言影印敦煌唐寫《老子義疏》殘本一卷，與所輯本相校，竟輯本優於唐寫，始決成書之爲完璧也。又蒙君既校《成疏》略竟，乃復知成公之經與強、顧諸家所據經皆不能合，深惜西華之《疏》雖備而西華之經竟亡，爰更取《老子》異本數十種勘之，最後始決唐遂、易二州龍興觀《道德經碑》最與成公經合，爰據遂碑以求成公之經，偶有違者更以易碑輔之，即無一不符。凡《成疏》之章損其句、句損其字若



有闕佚者，二碑皆與相同，然後知成公之《疏》爲完疏、二碑之經亦完經，而校經之難又倍蓰於校疏也。於是西華此書經與疏字字皆從唐出，以云善本，則其超於宋槧明鈔不已遠乎？豈僅得不傳之籍於千載之後而已哉！先是博物館長馮君漢驥既發掘王建永陵，爲世所貴，今蒙君茲考亦可抗顏行，兩館諸同志固能無慙於職司，而有守年來殷勤輔導之意庶亦差足自慰耶！雖然，千載沉霾之籍得之自不易，校之亦大難，謂宜多求異本，虛心從事，一字苟益，賢於球璧，吾聞巴黎所藏敦煌古籍《老子疏》皆有寫本，每章之首備言各章相次之故，正與《成疏》合，殆即成書。羅氏影印敦煌此《疏》時，未檢《道藏》，乃誤疑其爲孟智周書，則巴黎之各卷當亦不能定爲誰作。今者《成疏》既顯，可以持校，或即從敦煌寫本而證《成疏》早有完書，未可知也。吾曾託法人李佳樂爲致巴黎此疏五卷影片，欲校茲輯，徒以交通阻滯，未可遽得，或當期諸異日。今《成疏》一卷中始四章至九章，適爲顧本缺卷，僅賴強本輯錄疏文，而三卷始三十二章至三十四章，則強本所徵《成疏》已有佚缺，又僅賴顧本爲輯取之據，故此數章文多疑異，更觀此本《序訣》之文，即復顯有訛奪，是安可必新輯之疏定無一誤耶？昔阮伯元於《道藏》中得成公《莊子疏》及《老子》顧歡《注疏》，定爲張道相《集解》，俱寫呈進，並列於四庫未收書中，則阮氏既識顧書中有《成疏》矣，是殆由強思齊而決之，知阮氏亦爲合研強、顧兩書者。今蒙君亦由二家書中察見成書之全，與阮氏術同，然阮氏不先輯出《成疏》完帙而留待蒙君者，或未嘗詳審疏文，疑其殘缺故弗致力耶！阮氏一問未達者，蒙君以考校之精勤而得之。又阮氏定顧歡《注疏》爲張道相《集解》，蒙君獨定顧書爲李榮《集解》，所考論皆視阮爲精密。夫前以考校偶疏致此巨大發現遺之後人，茲苟不慎，顧以今日之疏復遺後人以口實耶！今蒙君所據顧、強二家書爲正統《道藏》，嘗聞海內所存尚有北宋藏、有金藏、有元藏，明初復有南藏，皆在正統之前，又阮氏進呈未收書多得之天一閣，《老子顧歡注疏》、《莊子成疏》天一閣所藏皆明時鈔本，於後嘉業堂所刻《宛委別藏》中存之顧歡書，應皆出天一閣，胥足正正統《道藏》，而爲今者此書校勘之助。願徐徐求得，博考復校，俾此書益臻完善，又不但一巴黎寫本已也。蒙君別有《校理成玄英老子義疏叙錄》數萬言，載《圖書集刊》第七期，附闡重玄之妙義，細繹老氏之墜緒，茲不詳述，但舉有裨此書校事者論之。《叙錄》中依甄鸞《笑道論》定張係師爲張衡，以損字本五千文出於此，爲成公



及遂州碑之所據。余按《登真隱訣》云：隱居云：《老子道德經》有玄師楊真人手書張鎮南古本。鎮南即係師魯，係師內經有四千九百九十九字，由來闕一，是作三十幅應作卅幅，蓋易省文耳，非正體也。茲所陳義或足爲蒙君之一助而復小異。甄鸞爲北周人，隱居值梁武世，殆南北所傳又各殊耶！宜更考之。此書方將付印，余適有倫敦之行，未觀厥成。然蒙君固告余此書爲其尊人君弼先生手錄，漬石時苟有一字之誤，不憚改印全頁，其精美可以想見。他日書成問世，方將與學林共賞之，固不獨有守一人之快也。歲在旃蒙作噩相月資中郭有守序。

## 道德經義疏 上

西華法師成玄英疏

此經是三教之冠冕，衆經之領袖，大無不包，細無不入，窮理盡性，不可思議，所以題稱“道德”。道是虛無之理境，德是志忘之妙智；境能發智，智能剋境，境智相會，故稱道德。其委曲玄旨，具在開題義中。今就上卷三十七章，大分三別：第一，一章，標道宗致。第二，三十五章，廣明道法。第三，一章，總結指歸。

《道可道章》即是第一大段，標道宗致。就此章中，又開四別：第一，略標理教；第二，汎明本迹；第三，顯二觀不同；第四，會重玄之致。

第一，略標理教。

**道可道，非常道。**

道以虛通爲義，常以湛寂得名，所謂無極大道，是衆生之正性也。而言可道者，即是名言，謂可稱之法也。雖復稱可道，宜隨機愜當，而有聲有說，非真常凝寂之道也。常道者，不可以名言辯，不可以心慮知，妙絕希夷，理窮恍惚，故知言象之表，方契凝常真寂之道。可道可說者，非常道也。

**名可名，非常名。**

名者，教也。前言可道，盛明於理，今言可名，次顯於教。真理既絕於言象，至教亦超於聲說，理既常道不可道，教亦可名非常名，欲明理教教理不一不異也。然至道深玄，不可涯量，非無非有，不斷不常；而義有抑揚，教存漸頓，所以立常以破可，故言可道非常道。至論造極處無可無不可，亦非常非不常，故《玉京經》云：無可無不可，思與希微通。

第二，汎明本迹。

**無名，天地始；**

始，本也。虛無至道，陶甄萬物，二儀三景，何莫由斯，故指此無名，爲物

之本。道本無名，是知不可言說明矣。

**有名，萬物母。**

有名，迹也。重玄之道，本自無名，從本降迹，稱謂斯起。所以聖人因無名立有名，寄有名詮無名者，方欲子育衆生，令其歸本，慈悲鞠養，有同母儀。

第三，顯二觀不同。

**常無欲觀其妙，**

妙，精微也。觀，照察己身也。言人常能無欲無爲、至虛至靜者，即能近鑒己身之妙道，遠鑒至理之精微也。

**常有欲觀其微。**

微，歸也。欲，情染也，所境也。言人不能無爲恬澹、觀妙守真，而妄起貪求、肆情染滯者，適見世境之有，未體即有之空，所以不察妙理之精微，唯覩死生之歸趣也。前明無名有名之優劣，此顯無欲有欲之勝負也。

第四，會重玄之致。

**此兩者同出而異名。**

兩，謂無欲、有欲二觀也。同出，謂同出一道也。異名者，微妙別也。原夫所觀之境唯一，能觀之智有殊，二觀既其不同，微妙所以名異。

**同謂之玄。**

玄者深遠之義，亦是不滯之名。有無二心，微妙兩觀，源乎一道，同出異名，異名一道，謂之深遠。深遠之玄，理歸無滯，既不滯有，亦不滯無，二俱不滯，故謂之玄。

**玄之又玄，**

有欲之人，唯滯於有，無欲之士，又滯於無，故說一玄，以遣雙執，又恐行者滯於此玄，今說又玄，更祛後病，既而非但不滯於滯，亦乃不滯於不滯，此則遣之又遣，故曰玄之又玄。

**衆妙之門。**

妙，要妙也。門，法門也。前以一中之玄，遣二偏之執，二偏之病既除，一中之藥還遣，唯藥與病一時俱消，此乃妙極精微、窮理盡性，豈獨群聖之戶牖，抑亦衆妙之法門。

（以上第一章）

《天下皆知章》即是第二大段第一章，廣明道法。此章所以次前章者，前章明有無二觀，竈妙不同，故次此章，即顯無爲之能，有爲之弊。就此章中，義分爲兩：第一，明凡情執滯，顛倒生迷。第二，顯聖智虛凝，忘功濟物。

第一，明凡情執滯，顛倒生迷。就此章中，又開二別：初兩句汎美善，舉體不真。後六句三雙，明諸法無實。初汎辨美善，舉體不真。

**天下皆知美之爲美，斯惡已。**

天下者，世間之總名也。皆，咸、悉也。美，悅愛也。《上元經》云：諸天之下，諸地之上，其中人物，名曰世間。言一切蒼生莫不耽滯諸塵、妄執美惡。違其心者，遂起憎嫌，名之爲惡；順其意者，必生愛染，名之爲美。不知諸法，即有即空，美惡既空，何憎何愛。故莊子云：毛嬙、嬋姬，人之所美，魚見之深入，鳥見之高飛。又云：美者自美，吾不知其美；惡者自惡，吾不知其惡。以斯所驗，豈有美惡哉？故知世間執美爲美，此即惡矣。

**皆知善之爲善，斯不善已。**

言凡鄙之流，迷於真理，非但耽淫聲色，抑乃貪著名譽，求名喪身，利己害物，不知名善，舉體虛妄，故下文云：名與身孰親？莊云：爲善無近名。又云：其所矜惜，無非名善者也。是知矜名執善，於理不減，唯當忘善惡而居中，方會無爲之致也。後明諸法無實。

**有無相生。**

有無二名，相因而立，推窮理性，即體而空，既知有無相生，足明萬法無實。

**難易相成。**

空心慧觀，無易無難，分別執情，有難有易，是知難易二法，相互而成。

**長短相形。**

以長形長則無長，以短比短則無短，故知長短相形而有者也。

**高下相傾。**

傾，奪也。夫有高則有下，無下則無高，何者？夫以尺比寸，尺即爲高，以尺比丈，尺即爲下。向者之高，今之成下，故知高下竟無定相，更相傾奪，所以皆空也。

音聲相和。

夫宮商絲竹，相和而成，推求性相，即體皆寂，以況萬有，虛假亦然。

先後相隨。

夫以今望昔，所以有今，以昔望今，所以名昔。而今自非今，何能有昔，昔自非昔，豈有今哉？既其無昔無今，何先何後？是有先有後者，三時相隨，而竟無實體也。

第二，顯聖智虛凝，忘功濟物。

是以聖人治，

是以，連上之辭也。聖人者，體道契真之人也。亦言聖者正也，能自正己，兼能正他，故名爲聖。治，理也。即此聖人，慈悲救物，轉無爲之妙法，治有欲之蒼生，所治近指上文，能治屬在於下，仍前以發後，故云聖人治也。

處無爲之事，

言聖人寂而動、動而寂。寂而動，無爲而能涉事；動而寂，處事不廢無爲。斯乃無爲即爲，爲即無爲，豈有市朝山谷之殊、拱默當塗之隔耶？故言處無爲之事也。

行不言之教。

妙體真源，絕於言象。雖復虛寂，而施化無方，豈唯真不乖應，抑亦語不妨默，既而出處語默，其致一焉。端拱寂然，而言滿天下，豈曰杜口而稱不言哉？故莊子云：言而足者則終日言而盡道，言而不足者則終日言而盡物。

萬物作而不爲始。

萬物者，一切群生也。作，感動也。始，先也。聖人無心，有感斯應，譬彼明鏡，方茲虛谷，感而後應，不爲物先。故莊子云：常和而不唱也。

爲而不恃，

爲，施化也。恃，怙賴也。夫聖人虛懷，逗機利物，自他平等，物我兼忘，雖有大功，終不恃賴，忘其功也。

成功不處。

覆載萬物，功格天地，照燭蒼生，光逾日月，而推功於物，不處其德也。

夫唯不處，是以不去。

夫者，語端。唯之言獨。夫能造化天地，亭毒含靈，有大至功，而推功於物

者，其唯聖人乎？只爲能忘其功，而至功彌遠，聖德斯在，是以不去。

（以上第二章）

就此一章分爲三別：第一，汎舉三不，以戒行人。第二，獨顯聖人，虛懷利物。第三，重敕學人，令忘知會道。

第一，汎舉三不，以戒行人。

**不尚賢，使民不爭。**

尚，貴也。賢，能也。非謂君王不尚賢人，直是行人撝謙、先物後己，不自貴尚而賤人也。而言不爭者，若人人自貴而賤物，則浮競互彰，各各退己而先人，則爭忿自息。故云不爭也。

**不貴難得之貨，使民不盜。**

難得之貨，謂隋珠荆璧、垂棘照車也，若使普天貴寶，則盜賊斯生，率土賤珍，則濫竊不起，故言不盜。

**不見可欲，使心不亂。**

可欲者，即是世間一切前境色聲等法，可貪求染愛之物也。而言不見者，非杜耳目以避之也。妙體塵境虛幻，竟無可欲之法，推窮根塵，不合故也。既無可欲之境，故恣耳目之見聞，而心恒虛寂，故言不亂也。故《西昇經》云：譬如鏡中影，可見不可取。又云：欲視亦無所見，欲聽亦無所聞，前不盜不爭是別，今不見可欲是總，遣三業及一切法也。

第二，獨顯聖人，虛懷利物。

**聖人治：虛其心，**

聖人治，同前釋。既外無可欲之境，內無能欲之心，心境兩忘，故即心無心也，前既境幻，後又心虛也。

**實其腹，**

雖復即心無心，而實有靈照，乃言妙體虛寂，而赴感無差，德充於內，故言實其腹也。

**弱其志，**

既內懷實智，而外弘接物，處俗同塵、柔弱退己也。

**強其骨。**

骨，譬內也。言聖人雖復外示和光而內恒寂泊，欲明動不傷寂，應不離真，故言強其骨也。

第三，重勅學人，令忘知會道。

常使民無知無欲，

知者，分別之名；欲者，貪求之目。言聖人常以空慧，利益蒼生，令倒置之徒，息分別之心，捨貪求之欲也。

使知者不敢不爲，

前既捨有欲得無欲，復恐無欲之人滯於空見，以無欲爲道。而言不敢不爲者，即遣無欲也，恐執此不爲，故繼以不敢也。

則無不治。

治，正也。行人但能先遣有欲、後遣無欲者，此則雙遣二邊，妙體一道，物我齊觀，境智兩忘，以斯爲治，理無不正也。

（以上第三章）

《道冲章》所以次前章者，前章既令忘智會道，妙體一中，故次此章即明至道以中爲用。就此一章，義開四別。第一，明雖復以中爲用，應須遣中。第二，顯聖智虛凝，爲物宗匠。第三，示韜光晦迹，俯應下凡。第四，結歎聖人，超於萬象之首。

第一，明雖復以中爲用，應須遣中。

道冲而用之，又不盈。

冲，中也。言聖人施化，爲用多端，切當而言，莫先中道，故云道冲而用之，此明以中爲用也。而言又不盈者，盈，滿也。向一中之道，破二偏之執，二偏既除，一中還遣。今恐執教之人，住於一中，自爲滿盈，言不盈者，即是遣中之義。

第二，顯聖智虛凝，爲物宗匠。

淵似萬物宗。

淵，止水也。以況聖人。言止水能鑒於人，聖智能照萬法，故大匠取則於止水，衆生宗極於聖人。而言似者，明無宗而宗，宗不定宗也。故莊子云：人莫鑒於流水，而必鑒於止水。又云：止水爲澄爲淵，宗則《大宗師》義也。

第三，示韜光晦迹，俯應下凡。

挫其銳，解其忿。

挫，止也。銳，進也。既重玄行足，自利道圓，爲物師宗，故此下明利他也。體知物境虛幻，令進求之人息於貪競也。而言解忿者，忿，嗔怒也。解，釋散也。夫忿懣生乎違順，違順起乎妄心，聖人達違順之兩空，體妄心之非有，故能誘導蒼生令歸真實，釋散其懷而破嗔癡也。

和其光，

光，智照也。言聖人智慧光明，與日月齊照，而韜光晦迹，共凡智相和，聖德潛被，不曜於物，故下文云光而不曜。

同其塵。

塵則色聲等六塵也，猶如世間塵土，能點穢淨物色聲等法，能汙染清行，故名爲塵也。而言同者，聖人降世逢時，晦迹應凡，既韜彼智光，亦混茲塵穢，色聲無別，眼耳固同，處塵不染，所以爲異也。

湛似常存。

湛，凝寂也。似，不定也。言聖人雖復和同光塵，而神凝姑射，動不乖寂，故云常存。而言似者，明非應非寂，而寂而應，寂不定寂、應不定應也。

第四，結歎聖人，超於萬象之首。

吾不知誰子，象帝之先。

吾，老君自稱也。言此即寂即應之聖道，不知從誰而生，故言誰子也。象，似也。帝，天也。既能生天生地，似如天地之先也。故莊子云：神鬼神帝，生明天地。又云：先天地生而不爲老。然至道幽玄，寂寥恍惚，不生不滅，不先不後，而今言先者，欲明先而不先、不先而先，故加以象也。

（以上第四章）

《天地章》所以次前者，前章明虛玄至道，超萬象之先，故次此章，顯忘功（用）聖人與二儀合德。即此章中，義開三別：第一，舉聖人天地，施化忘功。第二，寄橐籥兩器，顯明妙用。第三，斥多聞博學，不如體真。

第一，舉聖人天地，施化忘功。

天地不仁，以萬物爲芻狗。



仁，恩也。芻狗，草狗也。莊云已陳之芻狗。且圓穹在上，方峙在下，二儀覆載，亭毒群生，有大至功，而言不仁者，視萬物如一狗也。何者？夫芻狗之爲物，但有狗名，而無狗實也。況一切萬物，虛幻亦然，莫不相與皆空，故無恩報之可責也。

**聖人不仁，以百姓爲芻狗。**

聖人者，與天地合其德，與日月齊其明，故能空心利物，功侔造化，所以先舉天地，次顯聖人。聖人雖拯救蒼生，竟不見能化所化，亦同芻狗，虛幻無實也。前舉二儀，徧該無識，故稱萬物。後顯聖人，意在有情，故言百姓。非是不化無識爲有識，能稟教故也。

第二，寄橐籥兩器，以明妙用。

**天地間，其猶橐籥。**

橐，韜袋也。籥，簫管也。夫天地聖人，虚心利物，譬彼笙管，方茲韜袋。虚心之義，繼在下文。

**虛而不屈，動而愈出。**

屈，竭也。橐籥內空，故出聲氣不竭，亦猶天地無心，故能生化無窮也。動而愈出者，言橐籥動則聲氣生，聖人應則經教出也。

第三，斥多聞博學，不如體真。

**多聞數窮，不如守中。**

多聞，博瞻也。數窮，多言也。博學多言，唯益世智，既不體道，理歸於窮。中，一道也，多聞適足有爲，守中即長生久視。以此格量，故不如守中也。故莊子云：文滅質，博溺心。又陽朱云：隣人以多歧亡羊，學者以多方喪道也。

（以上第五章）

《谷神章》所以次前者，前章正明多聞博識，不如守中，故次此章明只爲守中，故得谷神不死。就此章中，義分兩別：第一，顯虛玄至道，能生立二儀。第二，明不斷不常，而用無勞倦。

第一，顯虛玄至道，能生立二儀。

**谷神不死，**

谷，空虛也。神，靈智也。河上公言：谷，養也，言蒼生流浪生死，皆由著

欲故也。若能導養精神，如彼空谷，虛容無滯，則不復生死也。

是謂玄牝。

是謂，仍上辭也。玄，不滯之名。牝，以雌柔爲義。欲明養神如谷，令其不死者，無過靜退雌柔，虛容不滯也。

玄牝門，天地根。

言此深玄不滯之道，雌虛柔靜之法，能開導萬物、生化兩儀，故云根也。

第二，明不斷不常，而用無勞倦。

綿綿若存，

綿綿，微細不斷貌也。若，似也。存，有也。若言神空，則是斷見；若言神有，則是常見。前說神空，故得不死，仍恐學者心滯此空，今言若存，即治於斷也。又恐學人心溺於有，故繼似字，以治於常也。

用之不勤。

即用此非無非有之行、不常不斷之心，而爲修道之要術者，甚不勤苦而契真也。故《西昇經》云：動則有載劫，自惟甚苦勤，吾學無所學，乃能明自然。

（以上第六章）

《天地長久章》所以次前者，前章明虛玄至道，能安立二儀，故次此章，即託於二儀而爲修習之法。就此章內，文有三重：第一，正舉二儀，假設問答。第二，略顯聖智修營之能。第三，結歎聖人獨成尊貴。

第一，正舉二儀，假設問答。

天地長久。

二儀雖大，猶有劫盡之期，然就形相之中，稍爲賒遠，故舉天地以況聖人。

天地所以能長久者，

假設疑旨，發明其義。

以其不自生，

假答前問，釋其所由。言天地但施生於萬物，不營己之生也。

故能長久。

結釋也。

第二，略顯聖智修營之能。

是以聖人後其身而身先，外其身而身存。

是以，仍上以合喻也。聖人，即與天地合德者也，舉其高行，楷模群有也。後其身，先度物也；而身先，超三界也。外其身，隳肢體也；而身存，得長生也。

第三，結歎聖人獨成尊貴。

此其無尸，故能成其尸。

尸，主也。言聖人觀物我虛幻，名實俱空，故能後己先人，忘我濟物，故無主也。而言成其尸者，結歎聖人也。只為德合二儀，芻狗百姓，故獨居三界之尊，成天人之化主也。

（以上第七章）

《上善章》所以次前者，前章略明忘我之行，未顯功能，故次此章，廣舉忘我之人，有殊能妙用。就此一章，義開三別：第一，正標上善，法喻兩陳。第二，汎舉三能，廣明七德。第三，結歎柔弱，所以無疵。

第一，正標上善，法喻兩陳。

上善若水。

善有二種，一執，二忘。此是忘善，故稱為上。水有多種利用，故偕況之。利用功能，具列於下：

第二，汎舉三能，廣明七德。

水善利萬物，

言水在天為霧露，在地為泉源，津潤沾洽，利物弘多，以此功能，故況聖德，聖德應感，善功機權，方便開化，其義如水，故以為喻也。

又不爭。

水性柔和，不與物爭，方圓任器，壅決隨人，上善之行，應物亦爾。

處眾人之所惡，

所惡者卑下之地，卑下之地，水則居之。言眾人皆捨下趣高，憍慢陵物，上善獨去高取下，柔和靜退。

故幾於道。

幾，近也，言行此三能，故近於道。三能已了，次明七德。

居善地。

水性趣下，以下爲安，上善好謙，以謙爲吉。故用卑下，而爲善地，所謂處乎不競之地。

心善淵。

淵，止水也。言止水清潔泓澄，淵深難測。上善心源虛遠，靜照亦然。故淵靜則鑒人，心虛則照物。

與善仁。

仁，恩也。言水性霑濡，惠潤於物，聖德慈救，恩被蒼生，慈救則不隔怨親，霑濡則豈揀淨穢。

言善信。

信，實也。水能澄鑒儀貌，妍醜不欺，聖言證理，信如符契。亦言海水三潮，不失時候，況聖智逗機，不遺三品。

正善治。

水性平而無僻，聖心正而治邪，莊云：平中准，大匠取則焉。

事善能。

水性多能，隨事利益，聖智虛察，順物成功。

動善時。

水冬凝夏釋，流結隨時，況聖智虛忘，感來則應，觀機動寂，不失事宜，出處默語，不二而一。

第三，結歎柔弱，所以無疵。

夫唯不爭故無尤。

夫唯，義同前釋。唯水與聖，獨以不爭爲能虛柔順，故無尤過也。

（以上第八章）

《持而章》所以次前者，前章廣明上善，虛己利他，故次此章，即顯有欲下凡，自貽伊譴，欲示去取，所以次之。就此一章，義開三別：第一，明執心有欲，多致傾危。第二，明富貴驕矜，必遭禍害。第三，謙柔靜退，方合天道。

第一，明執心有欲，多致傾危。

持而盈之，不若其已。

持，執也。盈，滿也。已，止也。言不能靜退謙虛，恒欲執求盈滿，誇矜我大，意在陵人，必致傾危，不如止而行也。故莊子云：卮滿則傾危。又《書》云：滿招損，謙受益。

揣而銳之，不可長保。

揣，磨也。銳，利也。夫揣劍磨刀，雖利必損，況勵己陵物，寧不困乎？又揣摩心智，唯欲貪求，其為傷害，甚於戈戟，物我皆讎，故不可長保。

第二，明富貴驕矜，必遭禍害。

金玉滿堂，莫之能守。

欲甚神倦，財富形勞，身心既困，莫能守也。又積不能散，必招巨盜，內懷憂戚，外周樓疏，身死則泮，故莫之能守。

富貴而驕，自遺其咎。

咎，釁也。遺，與也。夫處富貴，應須濟物，不能謙遜，反更驕盈，自致危亡，豈關他與！

第三，謙柔靜退，方合天道。

功成名遂身退，天之道。

天者，自然之謂也。夫日中則昃，月滿則虧，虧必盈，極則反，數其然也。所以佐世之功成、富貴之名遂者，必須守分知足，謙柔靜退，處不競之地，遠害全身。能如是者，深合天真之道也。功成名遂者，謂身退隱行，行自然也。

（以上第九章）

《載營魄》所以次前者，前章略顯驕矜之過、謙退之德，其於修習法門猶自未具，故次此一章，即廣明內外兩行，次第功能。就此一章，義分三別：第一，明拘魂制魄，守一內修。第二，廣顯治國利他之行。第三，結歎達道忘功之美。

第一，明拘魂制魄，守一內修。

載營魄，

載，運也。營魄是陽神，欲人之善；魄是陰神，欲人之惡。故魂營營然而好生。魄，泊也，欲人之泊著生死。又魂性雄健，好受喜怒；魄性雌柔，好受驚

怖。驚怖喜怒，皆損精神，故修道之初，先須拘魂制魄，使不馳動也。

**抱一，能無離。**

抱，守也。一，三一也。離，散也。既能拘魂制魄，次須守三一之神，虛夷凝靜，令不離散也。

**專氣致柔，能嬰兒。**

專，精專也。氣，道氣也。致，得也。柔，和也，只爲專精道氣，致得柔和之理，故如嬰兒之無欲也。

**滌除玄覽，能無知。**

滌，洗也。除，遣也。覽，察也。疵，病也。滌蕩六府，除遣五情，使神氣虛玄，故能覽察妙理，內外清夷，而無疵病也。然後身無所爲、心無所取，不爲有生，不爲無滅，以此而用，豈有疵病，此明自利也。

第二，廣顯治國利他之行。

**愛人治國而無知。**

前既自利道圓，此下應須接物，接物之行，莫先治國愛民。知，分別智也。慈悲覆養，是曰愛民，布政行化，名爲治國。夫治國者，須示淳朴，教以無爲，杜彼邪奸，塞茲分別。如此，則擊壤之風斯返，結繩之政可追，故下文云：以智治國國之賊，不以智治國國之德。

**明白四達而無爲。**

明以能照得名，白以潔素受稱，四者四方，達者無礙。言聖人空慧明白，妙達玄理，智無不照，境無不通。故略舉四方，足明八極，且寂而能應，所以四達，應不乖寂，恒自無爲也。又解云：四達者達三界及道境也。

**天地開闔而爲雌。**

河上公本作“天門”。闔，閉也。雌，靜也。天地開闔，謂劫運成壞也。言聖人混迹二儀之中，不爲三災所及，雖劫有廢興，而心恒虛靜。故莊子云：大浸稽天而不溺，大旱金石流土山焦而不熱。

**生之，畜之。**

言聖人自利道圓，利他德滿，故能生化群品，畜養含靈。故下文云：道生之，德畜之，物形之。

**生而不有，爲而不恃，**

雖復陶鑄萬物，亨毒三才，妙體真空，故無蒼生之可化；爲而不恃，豈有功用之可稱。只爲無蒼生之可化，故施爲利物亦無恩造之可恃也。

長而不宰。

宰，主也。聖人長養群生，實爲化主，而忘功喪我，故云不宰。

第三，結歎達道忘功之美。

是謂玄德。

玄言深遠，德乃上德。歎此忘功聖人冥於造化，可謂深玄上德也。

（以上第十章）

《三十輻章》所以次前者，前章雖顯自利利他，內外二行，其於空有兩慧猶自未圓，故次此章，具明資導之義。就此一章，義分爲兩：第一，汎舉三事，以況有無。第二，的辨有無，顯明資導。

第一，汎舉三事，以況有無。

三十輻共一轂，當其無，有車之用。

《周禮·考工記》云：三十輻象三十日以成一月也。當其無者，箱轂內空也。只爲空能容物，故有車用，以況學人心空，故能運載蒼生也。又車是假名，諸緣和合，而成此車，細析推尋，徧體虛幻，況一切諸法亦復如是。

埏埴以爲器，當其無，有器之用。

《考工記》云：埏，和也。埴，粘土也。和粘水土，燒以成器，器中空無，故得盛受，以況學人心空，故能容物。

鑿戶牖以爲室，當其無，有室之用。

穿鑿戶牖以爲室屋，室中空無，故得居處，況學人心空，故能覆物，又穿鑿戶牖，通人往來，況根竅虛通，故能用而無滯。車等三物，其義相類，所以重出者，車則動而不靜，室則靜而不動，器則亦動亦靜，有此三異，故重出之。

第二，的辨有無，顯明資導。

有之以爲利，無之以爲用。

無賴有以爲利，有藉無以爲用，二法相假，故成車等也。言學人必須以有資空，以空導有，有無資導，心不偏溺，故成學人之利用也。

（以上第十一章）

《五色章》所以次前者，前章汎舉車器，欲顯假法不真，故次此章，正辨色聲，以明實法，虛幻相對，所以次之。就此一章，義開三別：第一，顯塵能敗根，應須厭離。第二，明根染塵境，勸令靜息。第三，舉聖戒凡，示其取捨。

第一，顯塵能敗根，應須厭離。

### 五色令人目盲。

五色者，謂青、黃、赤、白、黑也。言人不能內照真源，而外逐塵境，雖見異空之色，乃曰非盲，不覩即色是空，與盲何別？

### 五音令人耳聾。

五音者，宮、商、角、徵、羽也。心耽絲竹，耳滯宮商，不能返聽希聲，故曰聾也。莊子云：非唯形骸有聾盲，夫智亦有之。

### 五味令人口爽。

五味者，甘、苦、辛、酸、鹹也。爽，差失也。耽貪醪醴，咀嚼膾腥，不能味道談玄，故曰口爽也。

第二，明根染塵境，勸令靜息。

### 馳騁田獵，令人心發狂。

馳騁，猶奔驟也。言田獵之夫貪逐禽獸，快心放蕩，有類狂人倒置之徒，欲心逐境，速如馳騁，狂如田獵。莊子云：失性有五：一曰五色亂目，使目不明等是也。

### 難得之貨，令人行妨。

謂趙璧隋珠、珍貴佳麗之物也。貪著愛玩，為生死之因，於修道行中，大為妨礙。

第三，舉聖戒凡，示其取捨。

### 是以聖人爲腹不爲目，

是以，仍上文也。聖人，即舉聖戒凡也。腹，內也；目，外也。懷道抱德，充滿於內，故為腹也。內視無色，返聽無聲，諸根空淨，不染塵境，故不為目也。故去彼取此。

去彼耳目之盲聾，取此為腹之實智。

（以上第十二章）



《寵辱章》所以次前者，前章正辯根塵等法，舉體不真，故次此章，明身及榮華適爲患本。就此一章，分爲三別：第一，總言寵辱，貴患不殊。第二，假設疑問，辯其所以。第三，格量貴愛，顯其得失。

第一，總言寵辱，貴患不殊。

### 寵辱若驚。

寵爲榮愛之名，辱是戮耻之稱。若，如也。驚，恐也。言人得寵則逸豫喜歡，遭辱則怵惕憂患。故得寵心驚喜，遭辱心驚怖，喜怖雖異，爲驚即同，故言若也。然喜怖之情，皆非真性者也。是以達者譬窮通於寒暑，比榮辱於儻來，生死不撓於神，有何貴賤之能驚也。

### 貴大患若身。

貴謂爵位也，亦是自貴己身也。大患謂煩惱老病等也。言凡夫但知矜貴此身，而惡大患，不知大患即是我身，多求資養，終歸滅壞，故貴身即是貴患，惡患即可惡身，爲貴與大患，俱以身爲本，故言若也。

第二，假設疑問，辯其所以。

### 何謂寵辱？

假設疑問也。

### 寵爲下，得之若驚，失之若驚。

解釋其義也。世情顛倒，以寵爲上，惠心觀照，足爲鄙下。何者？爲得寵心驚喜，失寵心驚怖，此之兩驚，本由一寵，故足爲下也。

### 是謂寵辱若驚。

結成寵辱之義。

### 何謂貴大患若身？

假設問。

### 吾所以有大患，爲吾有身。

此答前問也。執著我身，不能忘遣，爲身愁毒，即是大患。故知貴我身者，與貴患不殊也。故《西昇經》云：身爲惱本，痛癢寒溫。吾拘於身，知爲大患，即其事也。

### 及吾無身，吾有何患！

只爲有身，所以有患，身既無矣，患豈有焉？故我無身，患將安託？所言無

者，坐忘喪我，墮體離形，即身無身，非是滅壞，而稱無也。

第三，格量貴愛，顯其得失。

故貴以身爲天下，若可寄天下。

不知身是大患，矜而貴之，自貴其身，恒欲陵物，如此之人，適可暫寓於世間，不得久視於天下。

愛以身爲天下，若可託天下。

寄是暫時寄寓，託謂永相付託，言能保愛己身，不輕馳騖，謙以自牧，雌而順物者，則可以託付於天下。故《德經》云：自愛不自貴也。

（以上第十三章）

《視之章》所以次前者，前章正舉身爲大患，戒勿耽貪，此章則顯妙體希夷，勸令修學，先病後藥，所以次之。今就此章，義分爲六：第一，明不一而一，散一爲三。第二，明不三而三，混三歸一。第三，明道非愚智，妙絕名言。第四，明體非色聲，而無方應物。第五，明非無非有，不古不今。第六，明而古而今，爲綱爲紀。

第一，明不一而一，散一爲三。

視之不見名曰夷。

夷，平也。言至道微妙，體非五色，不可以眼識求，故視之不見。若其有色，色則參差，只爲無色，故夷然平等也。

聽之不聞名曰希。

希，簡少也。體非宮商，不可以耳根聽，故曰希也。

搏之不得名曰微。

搏，觸也。微，妙也。言體非形質，不可搏觸而得，故曰微也。又臧公《三一解》曰：夫言希、夷、微者，謂精、神、氣也。精者靈智之名，神者不測之用，氣者形相之目。總此三法，爲一聖人。不見是精，不聞是神，不得是氣，既不見、不聞、不得，即應云無色、無聲、無形，何爲乃言希、夷、微耶？明至道雖言無色，不遂絕無，若絕無者，遂同太虛，即成斷見。今明不色而色、不聲而聲、不形而形，故云夷、希、微也。所謂三一者也。

第二，明不三而三，混三歸一。

此三者不可致詰，故混而爲一。

三者即夷、希、微也。致，得也。詰，責也。混，合也。真而應，即散一以爲三，應而真，即混三以歸一。一三三一，不一不異，故不可致詰也。又解：此真應兩身，作三乘義釋，具在開題義中。

第三，明道非愚智，妙絕名言。

其上不皦，其下不昧。

皦，明也。昧，暗也。言至道幽微，非愚非智。昇三清之上，不益其明，墜九幽之下，不加其闇，所謂不增不減，其在茲乎！

繩繩不可名，

繩繩，正直也。猶繩墨之義也。言聖人既能自正，復能正他，故云繩繩。不可執名求理，故不可名也。又解：繩繩，運動之貌也。言至道運轉天地，陶鑄生靈，而視聽莫尋，故不可名也。

復歸於無物。

復歸者還源也，無物者妙本也。夫應機降迹，即可見可聞，復本歸根，即無名無相，故言復歸於無物也。

第四，明體非色聲，而無方應物。

是無狀之狀，無物之象。

狀貌形象，妙本希夷，故稱無狀無物。迹能生化，故云之狀之象。

是謂惚恍。

惚恍，不定貌也。妙本非有，應迹非無，非有非無，而無而有，有無不定，故言惚恍。

第五，明非無非有，不古不今。

迎不見其首，

明道非古無始也。

隨不見其後。

明道非今無終也。

第六，明而古而今，爲綱爲紀。

執古之道，以御今之有。

執，持也。言聖人持太古無名之道，調御今之有生也。

能知古始，是謂道紀。

古始，即無名之道也。若知無始無終，而終而始，不今不古，而古而今，用斯古道，以御今世者，可謂至道之綱紀也。

（以上第十四章）

《古之章》所以次前者，前章正舉所修之境希夷，此章即明能修之智難識，境智相會，所以次之。今就此章，義開三別：第一，明能修之人，智德深遠。第二，強爲容貌，令物依修。第三，顯動寂不殊，故能虛會。

第一，明能修之人，智德深遠。

古之善爲士者，

古，昔也。善者惡相對也。爲者修學也。前章明執古御今，此章即御今引古，故援昔善修道之士，以軌則學人也。

微妙玄通，深不可識。

微妙是能修之智，玄通是所修之境，境智相會，能所俱深，不可以心識知，故歎之也。

第二，強爲容貌，令物依修。

夫唯不可識，故強爲之容。

容者形貌也。獨此不可識之聖智，甚堪軌物，方欲引接群品，故於無形之理，而強爲修學之容。

豫若冬涉川。

豫，猶豫也。猶豫，怖懼也。言修道行人，懼於世境，如冬涉川冰，心地惶怖，恐陷溺也，此明意業淨。

猶若畏四鄰。

又畏塵境，如人犯罪，慎密恐畏四鄰間里知聞也。此明口業淨。

儼若客。

儼，矜莊貌。《禮記》云：儼若思。言學人應須斂勵身心，勿得放縱，猶如賓對主人，不可輕躁，此明身業淨。

渙若冰將釋。

渙，解散也。如前修學，智惠增明，惑染消散，如彼冬冰之逢春日也。

敦若樸。

敦，淳厚也。樸，素質也。前既三業清淨，惑累消除，故能德行淳和，去華歸實也。

曠若谷。

塵累斯盡，心靈虛白，故道德寬曠，包容如谷也。

混若濁。

混，合也，和雜也。濁，有爲也。雖復心靈潔素，障累久消，而混沌有爲之中，與塵濁不異也。

第三，顯動寂不殊，故能虛會。

濁以靜之徐清，

徐，緩也。雖復處有欲之中，同事利物，而在染不染，心恒安靜閑放而清虛也。前則雖清而能混濁，此則處濁不廢清閑。明動而寂也。

安以動之徐生，

雖復安靜，即靜而動，雖復應物而動，心恒閑放，而生化群品也。明寂而動也。

保此道者不欲盈。

保，持也。盈，滿也。言持此動寂不殊一中道者，不欲住中而盈滿也。此遣中也。

夫唯不盈，能敝復成。

獨此遣中聖人，於有爲敝濁之內，復能慈救蒼生，成大功德，此重結成也。

（以上第十五章）

《致虛極章》所以次前者，前章正明境智相會，故能妙極重玄，故次此章，顯出重玄道果。今就此章，義分三別：第一，略標道果，令物起修。第二，勸返本還源，歸根復命。第三，示從小入大，妙契虛玄。

第一，略標道果，令物起修。

致虛極，守篤靜。

致，得也。虛極，道果也。篤，中也。言人欲得虛玄極妙之果者，須靜心守一中之道，則可得也。

第二，勸令返本還源，歸根復命。

萬物並作，吾以觀其復。

作，動用也。言一切衆生並皆云爲取捨，貪逐前境，以老君聖智觀之，悉復在妙本，雖動而寂也。

夫物芸芸，各歸其根。

芸芸，衆多貌也。言衆生所以不能同於聖人雖動不動、用而無心者，只爲芸芸馳競不息也，若能返本歸根，即同於聖照，此勸之也。

歸根曰靜。

但能返本還源，馳競之心自息。

靜曰復命。

命者，真性惠命也。既屏息囂塵，心神凝寂，故復於真性、反於惠命。

復命曰常。

反於性命，凝然湛然，不復生死，因之曰常。

知常曰明。

既知反會真常之理者，則智惠明照，無幽不燭。

不知常，妄作凶。

不知性修反德，而會於真常之道者，則恒起妄心，隨境造業，動之死地，所作皆凶也。

第三，示從小入大，妙契虛玄。

知常容，

體知凝常一中之道，悟達順兩空，故能容物也。

容能公，

公，平正也。既能包容庶物，所以公正無私也。

公能王，

王，往也。只爲包容萬物，公正無私，所以作大法王，爲蒼生之所歸往也。

王能天，

既作法王化主，爲物所歸，復能蔭覆含靈，同於旻昊也。

天能道，

既合上天、覆物平等，又同大道，生化無窮。

道能久，

量等太虛，無來無去，心冥至道，不滅不生，既與此理相符，故義說爲久。

沒身不殆。

沒，滅也。殆，危也。匿端滅迹，謂之沒身，應感赴機，謂之不殆。又解：迹有興廢，故言沒身，本無生滅，故言不殆。

（以上第十六章）

《太上章》所以次前者，前章明至極妙本，勸物起修，故次此章，顯應感隨時，從本降迹。就此章中，分爲二別：第一，明根性不同，機悟差異。

第二，歎至德潛運，知若不知。

第一，明根性不同，機悟差異。

太上，下知有之。

太上即是玄天教主太上大道君也。言道君在玉京之上、金闕之中，凝神遐想，爲常應之處，利根之人，機性明敏，深悟妙本凝寂，體絕形名，從本降迹，故有位號，不執相生解，故言下知有之，知有太上名號之所由也。

其次親之譽之。

中根之人，機神稍闇，不能忘言證理，必須執相修學，所以耽著經教，親愛筌蹄，依文生解，共相譽讚也。

其次畏之侮之。

侮，欺也。下機之人，性情愚鈍，縱心逐境，耽滯日深，唯畏世上威刑，不懼冥司考責，所以欺侮聖言，毀謗不信，故《德經》云：下士聞道大笑之也。

信不足，有不信。

良由下機障重，信根不足，故疑毀聖文，有不信之罪也。

猶其貴言。

猶其貴重世俗浮僞之言，故不信至道真實之教，是以迷惑日久，罪障滋深也。

第二，歎至德潛被，日用不知。

功成事遂，百姓謂我自然。

亭毒之功成，育養之事遂，而至德潛被，成功弗居，故百姓日用而不知，皆

謂我自然得如此，不知荷聖恩也。

（以上第十七章）

《大道章》所以次前者，前章正明從本降迹，應感隨機，故次此章，即明應迹既興，妙本斯隱。就此章內，義有三重：第一，明大道不行，仁義方顯。第二，明以智治物，是矯詐之源。第三，辨忠孝之興，因乎爲亂。

第一，明大道不行，仁義方顯。

**大道廢，有仁義。**

即是太上之教廢也。言大道之世，五德不彰，仁義既興，淳樸斯廢。故莊子云：散道德以爲仁義，聖人之罪也。又云：相煦以濕，相濡以沫，不如相忘於江湖。

第二，明以智治物，是矯詐之源。

**智惠出，有大僞。**

智惠，聖智也。上以聖智治物，法令滋彰，下則詐僞百端，以避刑網，還竊聖智，以爲僞具。智之害物，備在莊文。

第三，辨忠孝之興，因乎爲亂。

**六親不和，有孝慈。**

六親謂父子兄弟夫妻也。淳和之世，偏愛不彰，六紀失序，孝慈方著，是以周德既衰，澆競斯起，致彼曾閔之徒，顯其高行也。

**國家昏亂，有忠臣。**

萬乘之主，以四海爲家，故言國家。但至治之時，忠誠不見，昏亂之世，貞節斯彰。是以龍逢名芳於夏桀，比干譽美於商紂也。

（以上第十八章）

《絕聖章》所以次前者，前章明大道既廢，即聖智互興，故次此章，勸絕聖智，反歸至道。今就此章中，義分三別：第一，明棄絕聖智，利益甚多，以示初學。第二，總歎大乘，非下機能悟。第三，略開要門，進示初學。

第一，明棄絕聖智，利益甚多，以示初學。



**絕聖棄智，民利百倍。**

絕有名之聖，棄分別之智，人皆反本，爲利極多，言百倍者，舉其大數。故莊子云：魯酒薄而邯鄲圍，聖人生而大盜起。又田成子以聖智而竊齊國是也。

**絕仁棄義，民復孝慈。**

絕偏尚之仁，棄執迹之義，人皆率性，無復矜矯，孝出天理，慈任自然，反於淳古，故言民復。莊子云：仁義者先王之蘧廬，已陳之之芻狗。又云：削曾史之行，天下皆仁也。

**絕巧棄利，盜賊無有。**

絕異端之巧，棄貪求之利，物各守分，故無濫竊。莊子云：斲工倕之指，天下皆巧也。

第二，總歎大乘，非下機能悟。

**此三者爲文不足。**

三者謂前三絕也。此文是頓教大乘上士所學，其理深遠，不足以教下機也。

第三，略開要門，進示初學。

**故令有所屬。**

屬謂屬著付屬也。言下機之人，未堪大教，故有所屬著，方進學心，所屬之文，即下之四行也。

**見素，抱朴，少私，寡欲。**

見素，去華也。抱樸，歸實也。少私，公正也。寡欲，息貪也。

（以上第十九章）

《絕學章》所以次前者，前章棄絕聖智，以明遣累，故次此章，遣於因果，爲因能生果，所以次之。就此一章，分爲五別：第一，勸令絕學，示美惡不殊。第二，的指妄塵，不可耽染。第三，汎列衆生耽染之狀。第四，對辨聖人之悟，以治凡鄙之迷。第五，獨顯聖人，偏能用道。

第一，勸令絕學，示美惡不殊。

**絕學無憂。**

憂，累患也。絕有相之學，會無爲之理，患累斯盡，故無憂也。

**唯之與阿，相去幾何？**

唯，敬諾也。阿，慢應也。《禮記》云：先生召，無諾。幾何者，非遠也。言世人不達違順，妄生喜怒，聞唯則喜，聞阿則嗔，不知唯阿兩聲，出乎一口，相去非遠，故言幾何。

**善之與惡，相去何若？**

順意爲善，違心名惡，逮順既空，善惡安寄？且唯阿出自一口，善惡源乎一心，忘者知其不殊，執者肝膽楚越，然有爲之學，迷執者多，是非善惡之中，喜怒唯阿之內，適爲患累之本，絕之所以無憂，此兩對略舉執學須絕之狀也。

第二，的指妄塵，不可耽染。

**人之所畏，不可不畏。**

行人所畏，謂生死及諸塵也。不可不畏，必汝溺也。前令絕學，示善惡皆空，恐滯斯文，遂染塵境，故發此句，以戒之也。

第三，汎列衆生耽染之狀。

**莽其未央。**

河上公本作“荒”，諸家云莽。莽是眇莽，歎其久遠。央是盡義，嗟其未息。言衆生染滯之心，其日固久，執著情篤，未有休息。

**衆人熙熙，如享太牢，如春登臺。**

言耽染者衆，故云衆人，即衆生之別稱也。熙熙，悅樂也。享，燕享也。太牢，牛羊豕也。言衆生欣愛聲色，情染極深，如飢人享太牢之饌，悅美之甚；又如春日登臺，眺望林野，暢適其心也。

第四，對辨聖人之悟，以治凡鄙之迷。

**我魄未兆。**

我，老君自稱也。魄，寂也。兆，狀也。言聖人雖處塵俗，而心知寂魄，不爲前境所牽，故都無攀緣之萌狀也。

**若嬰兒未孩，魁無所歸。**

嬰兒，赤子也。孩，笑也。魁，寬大也。歸，住著也。言聖人動不乖寂，處染不染，如彼嬰兒未能孩笑之時，心形俱淨。又智慧魁弘，器量宏博，譬彼虛舟，而無住止也。

**衆人皆有餘，我獨若遺。**

衆生滯有，故耽染有餘，聖智體空，獨遺棄不取也。

我愚人之心純純。

純純，不雜也。聖智虛白，純粹精專，如彼愚人，心無分別也。

俗人昭昭，我獨若昏。

流俗之人，心靈闇昧，昭然分別，自眩其能。聖智虛通，明如日月，而輶光匿曜，故若昏也。

俗人察察，我獨悶悶。

察察機速，是分別之心；悶悶寬緩，是無分別之智。但俗心滯有，伺察是非，妄生迫遽，聖智冥無，體知虛幻，恒自閑靜。

忽若晦，寂無所止。

河上本作“海”。晦者闇也。止，住也。聖智實明，而忽忽如闇，欲顯光而不曜，故發此言。雖復同塵，而恒自凝寂，又不住此寂，故無所住止也。

衆人皆有以，我獨頑似鄙。

衆人滯於欲境，未嘗休息，雖復取捨不同，同有所以。聖人妙體虛假，曾無分別，既不見是，亦不知非，類彼頑愚，若茲鄙陋。

第五，獨顯聖人，偏能用道。

我獨異於人，而貴食母。

食，用也。母，道也。人皆照察而分別，我獨忽晦而忘懷，分別故愛染於色聲，忘懷故貴用於真道，所以爲異也。

（以上第二十章）

《孔德章》所以次前者，前章明絕學聖人貴用真道，故次此章，廣顯此人盛德容貌。就此一章，文有四重：第一，明能證之人，契道容貌。第二，顯所證之道，非有非無。第三，明此聖人以三一爲體。第四，明道無來無去，而知始知終。

第一，明能證之人，契道容貌。

孔德之容，唯道是從。

孔，甚也，大也。容，貌相也。甚大之德，容貌若何？唯從於道，即是其相。又解：容，包容也。大德妙契，故能虛容，動止施爲，獨從於道，出處語默皆是道場。

第二，顯所證之道，非有非無。

**道之爲物，惟恍惟惚。**

言至道之爲物也，不有而有，雖有不有，不無而無，雖無不無，有無不定，故言恍惚。所以言物者，欲明道不離物，物不離道，道外無物，物外無道，用即道物，體即物道。亦明悟即物道，迷即道物。道物不一不異，而異而一，不一而一，而物而道，一而不一，非道非物，非物故一不一，而物故不一一也。

第三，明此聖人以三一爲體。

**恍惚中有物，惚恍中有象。**

中有物，即是神。神，妙物爲名也。雖復非無非有，而有而無，故是妙也。中有象，即是氣，雖復非象非色，而爲色爲象，故是氣也。言道種種變現，故不物而物、不象而象也。

**窈冥中有精。**

窈冥，深遠也。有精，即精智也。言道雖窈冥恍惚，而甚有精靈，智照無方，神功不測也。

**其精甚真。**

言真精無雜，實非虛假，於三一之中，偏重舉精者，欲明精是氣色、神用之本也。

**其中有信。**

言道無心，有感斯應，信若四時，必無差爽。

第四，明道無來無去，而知始知終。

**自古及今，其名不去。**

時乃有古有今，而道竟無來無去，既名不去，足顯不來，文略故也。

**以閱終甫。**

閱，覽也。甫，始也。至道雖復無來無去，亦而來而去，故能覽察古今，應乎終始也。

**吾何以知終甫之然？以此。**

此假設問也。老君云：我何以知始終之事乎？只用此真精純信之道、恍惚窈冥之法，故知之也。

（以上第二十一章）

《曲則章》所以次前者，前章舉孔德容貌，於教未周，故次此章，重顯孔德行能，以爲物範。就此一章，文開四別：第一，舉因地四行，以示謙和。第二，明妙體一中，爲物楷式。第三，彰果上四德，對顯前行。第四，援引古實，結歎曲全。

第一，舉因地四行，以示謙和。

曲則全。

屈曲隨順，不忤物情，柔弱謙和，全我生道。故莊子云：吾行却曲，無傷吾足。此一句忘違順也。

枉則正。

枉，濫也。體知枉直不二，故能受於毀謗，而不伸其冤枉，翻覆正直也。此一句忘毀譽。

窪則盈。

窪，下也。謙卑遜讓，退己處下，不與物競，故德行盈滿也。此一句忘高下。

弊則新。

弊，辱也。能處鄙惡弊辱，而不貪榮寵，即其德日新。此一句忘榮辱也。

第二，明妙體一中，爲物楷式。

少則得，多則惑。

少者謂前曲全等行，不見高下，處一中也。多謂滯於違順等法，不離二偏也。體一中則得，滯二偏故惑也。

是以聖人抱一爲天下式。

是以，仍上辭也。抱，守持也。式，法則也。言聖人持此一中之道，軌範群生，故爲天下修學之楷模也。

第三，彰果上四德，對顯前行。

不自見故明。

物我皆空，不見有我身相，故智慧明照也。

不自是故彰。

自他平等，不是己而非物，故其德行顯著。

不自伐故有功。

伐，取也。雖復亨毒群生，而芻狗百姓，推功於物，故有大功也。

不自矜故長。

只爲推功於物，不自矜誇，故德行長達也。

夫唯不爭，故天下莫能與爭。

此即歎美四德之人妙達達順，謙以自牧，不與物爭，故天下群品無能與不爭者爭也。

第四，援引古實，結歎曲全。

古之所謂曲則全，豈虛語？故成全而歸之。

昔人所謂屈曲柔順以全其道，此語有實，諒非虛言，但能依教修行，不與物爭，則大成全德，物歸於己也。

（以上第二十二章）

《希言章》所以次前章者，前章正舉曲全四德，令物依修，故次此章，廣明諸行。就此章內，文有四重：第一，明體教忘言，故能會理。第二，明執心躁競，所以無常。第三，結成忘言之得。第四，正結執教之失。

第一，明體教忘言，故能會理。

希言自然。

希，簡少也。希言猶忘言也。自然者，重玄之極道也。欲明至道絕言，言即乖理，唯當忘言遣教，適可契會虛玄也。

第二，明執心躁競，所以無常。

飄風不終朝，驟雨不終日。

飄疾之風，驟暴之雨，曾不崇朝，何能竟日。譬滯言之士，執教生迷，妄爲躁行，以求速報，既乖至理，不可久長。故取譬飄風，方之驟雨，日是朝之總，朝是日之別，別則譬念念之新，總則喻百年之壽，通是無常也。

孰爲此？天地。天地尚不能久，而況於人。

孰，誰也。假問誰爲此風雨，答云是天地。二儀生化，有大神力，飄風驟雨，尚不能久，況凡夫而爲躁行，其可久乎？

第三，結成忘言之得。

故從事而道者，道得之。

從，隨順也。事，世物也。言至德之人即事即理，即道即物，故隨順世事，而恒自虛通，此猶是孔德唯道是從之義。道得之者，只爲即事即理，所以境智兩冥、能所相會，道得之，猶得道也。

同於德者，德得之。

道既是常道，德即是上德。體教忘言，爲行於上德，上德亦自然符應而相會也。道是德之體，德是道之用，就體言道，就用言德，故有二文也。

第四，正結執教之失。

同於失者，道失之。

有爲躁競，執教生迷，既而爲行同於失理之人，所以不能虛心冥會，而言道失者，猶失道也。故《西昇經》云：宿世不學問，今復與失鄰也。

信不足，有不信。

不能忘言而執言求理，雖名信道，於理未足，所以執言滯教，未達真源，故於重玄之境，有不信之心也。

（以上第二十三章）

《跂者章》所以次前章者，前章正舉躁競之人，執教之失，故次此章，重明其義。就此一章，義有三別：第一，舉跨跂兩惑，近繼驟雨前章。第二，重辨四迷，遠對曲全四德。第三，舉譬，勸令厭捨。

第一，舉跨跂兩惑，近繼驟雨前章。

跂者不久。

跂，慕羨也。言躁競之夫，心非懷道，不能任真守素，而分外羨欲，然物有素分，不可希跂，既乖其道，豈得久長。

跨者不行。

跨，謂矜傲也。修道之夫，應須謙遜。方乃跨誕矜傲於人，以此爲懷，不可行道。故《莊子》云：寄鸚鵡以息跂。又云：權勢不久，則夸者悲。

第二，重辨四迷，遠對曲全四德。

自見不明。

不能忘我，自見有身，此乃昏愚，非明智也。

自是不彰。

心恒自是，口每誹他，物共蔽之，故其德不顯也。

自伐無功。

凡有所爲，輒自伐取其功，物皆不與，故無功績。

自矜不長。

矜誇自高，驕慢陵物，此乃愚短，其德豈長乎！

第三，舉譬，勸令厭捨。

其在道曰：餘食贅行。

餘食猶殘食也。贅，附生之肉也。莊子云：附贅懸疣也。言矜誇自是之人，其在道行，實猶殘食贅病，甚可厭賤也。

物或惡之，故有道不處。

贅是無用之肉，誇是無用之行，世間人物咸惡見之，故懷道之士，豈處心於誇贅之行乎！

（以上第二十四章）

《有物章》所以次前章者，前章汎舉矜誇，勸其厭捨，故次此章，顯道之體狀，令物起修。夫設教處方，必先病後藥，藥病相對，所以次之。今就此章，義開爲五：第一，顯道之體狀，妙絕形聲。第二，明本無稱謂，降迹立名。第三，明引物向方，歸根反本。第四，舉域中四大，令物依修。第五，示自淺之深，漸皆圓極。

第一，顯道之體狀，妙絕形聲。

有物混成，先天地生。

有物者道也。道非有而有，非物而物，混沌不分，而能生成庶品。亦明不混而混，雖混而成，不成而成，雖成而混，即此混成之道，在天地先生，還是不先、不生生之義也。故莊子云：神鬼神帝，生天生地。又云：在天地之先而不爲老。

寂寥，獨立不改。

寂，無聲也。寥，無形也。獨立，無待對也。不改，無遷變也。言道體窈冥，形聲斯絕，既無因待，亦不改變，此乃獨獨，非待獨也。

周行不殆，可爲天地母。



道無不在，名曰周行，所在皆通，故無危殆。開化陰陽，安立天地，亭毒群品，子育含靈，生之畜之，故可爲母。

第二，明本無稱謂，降迹立名。

吾不知其名，字之曰道。

道本無名，不可以智知道名，即初章云無名天地始也。取其有通生之德，故字之曰道，即初章云有名萬物母也。

強爲之名曰大。

體無涯際，故名爲大，不大爲大，故稱爲強。夫名以召體，字以表德，道即是用，大即是體，故名大而字道也。人皆先名後字，今乃先字後名者，欲表道與俗反也。故不同而同，有名有字，同而不同，先字後名也。

第三，明引物向方，歸根返本。

大曰逝。

逝，往也。有大力用，能運致衆生往至聖境也。

逝曰遠。

超凌三界，遠適三清也。

遠曰返。

返，還也。既自利道圓，遠之聖境，故能返還界內，慈救蒼生。又解：迷時以三清爲三界，悟則即三界是三清。故返在塵俗之中，即是大羅天上。

第四，舉域中四大，令物依修。

道大，天大，地大，王大。

道大，無不包也。天大，無不覆也。地大，無不載也。王大，無不制也。

域中四大，而王居其一。

境域之中，有此四大，王有化被之德，故繼二儀而居一數也。莊子云：夫道未始有封。而此言域中者，欲明不域而域，雖域不域，不域而域，義說域中，雖域不域，包羅無外也。

第五，示自淺之深，漸階圓極。

人法地。

人，王也。必須法地安靜，靜爲行先，定能生惠也。故下章云：躁則失君。

地法天。

既靜如地，次須法天清虛，覆育無私也。又天有三光，喻人有惠照；地是定門，天是惠門也。

**天法道。**

既能如天，次須法道虛通、包容萬物也。

**道法自然。**

既能如道，次須法自然之妙理，所謂重玄之域也。道是迹，自然是本，以本收迹，故義言法也。又解：道性自然，更無所法，體絕修學，故言法自然也。

（以上第二十五章）

《重爲章》所以次前者，前章明人法於地，表學道以靜爲先，故次此章，即格量靜躁。就此章內，文有三重：第一，正辨輕躁之劣、重靜之勝。第二，明重靜之人動不乖寂。第三，明輕躁之者亡國喪身。

第一，正辨輕躁之劣、重靜之勝。

**重爲輕根。**

譬重爲樹根，輕爲花葉，輕者凋落，重者長存。此戒行人勿得輕躁。故《書》云：君子不重則不威。

**靜爲躁君。**

靜則無爲，躁則有欲，有欲生死，無爲長存，靜能制動，故爲君也。

第二，明重靜之人動不乖寂。

**是以君子終日行，不離輜重。**

是以，仍前生後文也。輜，靜也。言君子達人終日行化、同塵處世，而不離重靜，此即動而寂也。

**雖有榮觀，燕處超然。**

言重靜之人雖有榮華之宮觀，燕寢之處所，而遊心虛澹，超然物外，不以爲娛，處染不染也。

第三，明輕躁之者亡國喪身。

**奈何萬乘之主，以身輕天下。**

奈何猶如何也。王畿千里、戎馬萬乘之君，應須重靜。乃恣情淫教，厚賦繁徭，禽荒色荒，輕忽宇內，哀歎之甚，故云奈何。

輕則失臣，躁則失君。

恣情放欲，輕躁日甚，外則亡國，內則危身。忠良竄匿，失臣也。宗廟傾覆，失君也。

（以上第二十六章）

《善行章》所以次前者，前章正明重靜聖人動不乖寂，故次此章，廣顯此人行能功用。就此章內，文有四重：第一，明重靜之人三業清淨。第二，明重靜之人結願堅固，六根解脫。第三，明降迹慈救，應物無遺。第四，示師資之道，修學之妙。

第一，明重靜之人三業清淨。

**善行無轍迹，**

以無行為行，行無行相，故云善行。妙契所修，境智冥會，故無轍之可見也。此明身業淨。

**善言無瑕謫。**

不言之言，言而不言；終日言，未嘗言，亦未嘗不言，故謂之善言也。莊子云：言而足者，則終日而盡道也。瑕，疵也。謫，過責也。語默不異，故無口過之責也。本又作的字，謂聖人之言，既無的當無所之詣。此明口業淨。

**善計不用籌算。**

妙悟諸法，同一虛假，不捨虛假，即假體真，無勞算計，劃然明了。此明意業淨。

第二，明重靜之人，結願堅固，六根解脫。

**善閉無關鍵不可開。**

外無可欲之境，內無能欲之心，恣根起用，用而無染，斯則不閉而閉，雖閉不閉，無勞關鍵，故不可開也。此明六根解脫。

**善結無繩約不可解。**

上士達人，先物後己，發大弘願，化度衆生，誓心堅固，結契無爽，既非世之繩索約束，故不可解也。然誓心多端，要不過五：一者發心，二者伏心，三者知真心，四者出離心，五者無上心。第一發心者，謂發自然道意，入於法門也。第二伏心者，謂伏諸障惑也。就伏心文，有文尸三解，解有三品，總成九品，通

前發心，爲十轉行也。第三知真心者，有九品，即生彼九宮也。第四出離心者，有三品，即生彼三清，所謂仙真聖也。第五無上心者，謂直登道果，乃至大羅也。善結者結此五種心，始終無替也。此明結願堅固。

第三，明降迹慈救，應物無遺。

是以聖人常善救人，而無棄人。

聖人即是前三業清淨、六根解脫之人也，爲能發弘誓願，救度衆生，故常在世間，有感斯應，慈善平等，終不遺棄也。

常善救物，而無棄物。

先舉人者，表恩被有情，後舉物者，示仁覃無識。亦言救人直據黔首，救物援及四生也。

是謂襲明。

襲，承也，用也。此即結歎常善聖人，利物無棄，可謂承用聖明之道也。

第四，示師資之道，修學之妙。

故善人，不善人之師。

善人，即向來襲明之人也。言此人恒懷大心，先物後己，引導衆生，允當宗匠。

不善人，善人之資。

資，用也，亦是助益之義。言善人恒在有中，化導群品，即用不善之類，而爲福田，以彼衆生，益成我德故也。

不貴其師，不愛其資。

不貴其師，無能化也；不愛其資，無所化也。前以聖導凡，勸令修學，今明凡聖平等，故遣師資，斯則從淺至深，漸階衆妙也。

雖知大迷，此謂要妙。

師資兩忘，聖凡一揆，俗智分別，雖似大迷，據理而言，實成要妙。

（以上第二十七章）

《知雄章》所以次前者，前章明善行之士，常善救人，其於救物之方，猶自未顯，故次此章，略示其要。就此章中，文開四別：第一，明去剛取柔，是行人要徑。第二，勸遣明歸闇，爲學道楷模。第三，示守辱忘榮，歸

根反本。第四，顯匠成庶品，利物忘功。

第一，明去剛取柔，是行人要徑。

**知其雄，守其雌，爲天下蹊。**

蹊，徑也。雄陽是剛躁之名，雌陰是柔靜之義，知雄躁剛猛適歸死滅，雌柔靜退必致長生。故棄雄而守雌，可爲天下之要逕。

**常德不離，復歸於嬰兒。**

離，散也。嬰兒譬無分別智也。言人常能守靜，則其德不散，故能復歸於本性，歸無分別智也。

第二，勸遣明歸闇，爲學道楷模。

**知其白，守其黑，爲天下式。**

白，昭明也。黑，暗昧也。式，法也。自顯明白，眩曜於人，人必挫之。良非智者，韜光晦迹，退守暗昧，不忤於物，故是德人。能知白黑利害者，可爲修學之洪範也。

**常德不忒，復歸於無極。**

忒，差也。無極，道也。常能棄明守暗，其德不差忒，復我清虛，歸於至道。

第三，示守辱忘榮，歸根反本。

**知其榮，守其辱，爲天下谷。**

榮，寵貴也。辱，卑賤也。處於榮貴，遂起驕奢，而福善禍淫，忽然凋落，此之榮寵，翻爲禍基。若知倚伏不常，貴爲禍始，應須自戒，勿爲放逸，處於榮華，恒如卑賤。故貴以賤爲本，高以下爲基，是以知榮守辱，天下歸湊，譬彼川谷，包納虛容也。

**常德乃足，復歸於樸。**

樸，真本也。始自知雄，終乎守辱，三種修學，爲道之要。又如虛谷，罄無不容，所以常道上德於是乃足，故能復於真空，歸於妙本也。

第四，顯匠成庶品，利物忘功。

**樸散爲器，聖人用爲官長。**

散，布分也。器，用也。官，君主也。長，師宗也。既能反樸還淳，歸於妙本，次須從本降迹，以救蒼生，布此淳樸，而爲化用。故《西昇經》云：道遂散布分，既而爲君以馭世，爲師以導俗，聖人即用斯樸，散而爲馭導之方也。

是以大制不割。

至聖神力，不可思議，三界內外，無不制伏，主領弘普，故稱大制。而亭毒群品，陶鑄生靈，推功於物，不爲宰主，故云不割。割，宰斷也。

（以上第二十八章）

《將欲章》所以次前者，前章正明忘功利物，爲國主師匠，故次此章，即顯治國治身利物之術。就此章內，文有三重：第一，明有欲有爲，敗身毀國。第二，舉有爲之相，示諸法無常。第三，對顯聖人，妙能捨離。

第一，明有欲有爲，敗身毀國。

將欲取天下而爲之，吾見其不得已。

方欲攝取天下蒼生而爲化主者，必須虛心忘欲，若以有爲取之，纔欲攝化，而不得之狀已彰也。

天下神器不可爲。

含識之類，悉有精靈，並堪受道，故名神器，亦是帝位也。若無爲安靜，即品物咸亨，必有爲擾動，即群生失性，故不可爲也。

爲者敗之，執者失之。

滯溺有爲，則敗亡身命；執心貪欲，則失國喪邦。

第二，舉有爲之相，示諸法無常。

夫物或行或隨。

夫物，萬物也。或，不定也。行，由己也。隨，從他也。言物或先時由己，後即從他。此明權勢不定也。

或噓或吹。

噓氣溫，喻富貴也。吹氣寒，喻貧賤也。言物有先貴後賤、先富後貧，猶如朱夏赫曦，玄冬凜冽，天既炎涼不定，人亦貴賤何常。

或強或羸。

夫強盛者，不久當衰，故下文云物壯則老。《西昇經》云：盛者必衰。此明盛衰不定也。

或接或隳。

河上本作“或載”，此作“或接”。夫接者連續也。隳，廢敗也。連續謂之

成，廢敗謂之壞，此明安危不定。故莊子云：其成也，毀也。舉此八法不定，以表萬物無常。故治國治身者，不可以有爲封執而取之也。

第三，對顯聖人，妙能捨離。

是以聖人去甚、去奢、去泰。

懷道聖人，妙體虛假，故不執上之八法，而能去下之三事：甚則美其聲色，奢則麗其服玩，泰則廣其宮室。去此三惑，處於一中，治國則祚曆遐延，治身則長生久視也。

（以上第二十九章）

《以道章》所以次前者，前章正明爲君蒞物不可執滯有爲，故次此章，即明爲臣輔君亦須去兵用道。就此一章，義開三別：第一，明佐時用道，決定息兵。第二，明用道之人，果無矜伐。第三，明有爲乖道，必致危亡。

第一，明佐時用道，決定息兵。

以道佐人主者，不以兵強天下。

以，用也。佐，輔也。人主，君王也。言用正道輔佐君王者，當偃武修文，導之以德，不可盛用強兵逞暴天下。《內解》：身心者，即是三業六根兵也。

其事好還。

還，返也，報也。言外用兵刃，即有怨敵之仇，內用三毒，還招三塗之報，此事必爾，故云好還。

師之所處荊棘生。

師，軍衆也。言兵馬所行之處，害人損物，但有荊棘穢草，不生禾稼也。亦猶欲心馳騁之處，但增惡業，不生善惠。

善者果而已，不以取強。

果，決定也。已，止也。言修道善人，決定止此暴心，而不用兵也。

果而勿驕，果而勿矜，果而勿伐。

驕謂慢上，矜謂誇下，修道之夫，撝謙遜讓，不用自取強暴驕慢於人，亦須決定雌柔，不用矜夸於物。伐，取也。推功於物，不自取也。

果而不得已。

如堯攻叆支，禹攻有扈，事不得已，非樂兵伐。

第二，明用道之人，果無矜伐。

是果而勿強。

結成以前，決定不用強兵之行也。

第三，明有爲乖道，必致危亡。

物壯則老。

炎極則涼，理之常數，物壯則老，其義必然。

謂之非道，非道早已。

物壯則老，兵強則衰，既不謙柔，故非真道，應須止息，而勿行也。

（以上第三十章）

《佳兵章》所以次前者，前章雖明息兵用道，而於用道之義未弘，故次此章，明用道匡時，須資權實兩智。就此一章，義開四別：第一，明兵強欲盛，有道不爲。第二，顯應物隨時，二智優劣。第三，明權不喪實，應不離真。第四，汎舉軍法，以明實智之勝。

第一，明兵強欲盛，有道不爲。

夫佳兵者不祥之器。

佳，麗也。祥，善也。雖復霜戈耀日，寶劍輝天，此乃凶荒之具，非太平之器也。《內解》：即三毒六根之兵，若磨銳諸根，而貪取塵境者，不善之行也。

物或惡之，故有道不處。

一切人物，皆畏於兵而惡貪，故有道行人，不處心於兵戈及貪欲。

第二，顯應物隨時，二智優劣。

君子居則貴左，用兵則貴右。

有君人子物之德爲君子。左，陽也，主吉主生。右，陰也，主凶主殺。言君子平居之世，則貴左用文，荒亂之時，則貴右用武。喻行人實智則貴長生，權智有時而殺。故《度人經》云：千千截首，萬萬剪形也。

兵者不祥之器，非君子之器，不得已而用之。

叠前來文，重顯兵是不祥之器，非君子善人之器，必須夷凶拯難，不得已而用之。權智亦爾。□□致兵革之主，陰強爲殺身之斧，故曰不祥之器也。

第三，明權不喪實，應不離真。



恬澹爲上，故不美。

恬澹，無爲也。君子心尚無爲，故雖用兵，不以爲美也。喻行人雖用權智，而以實道爲上，應不離真也。

若美必樂之，是樂殺人，夫樂之者，不可得意於天下。

若以佳兵爲美，即是愛樂干戈，則殺人也。樂殺之夫，天下共疾，讎閱既多，不可得意。

第四，汎舉軍法，以明實智之勝。

吉事尚左，喪禮尚右，偏將軍處左，上將軍處右，言以喪禮處之。

左是吉位，右是喪位，今偏小之將居於左邊，上大將軍處其右者，欲明雖復專命，即以死喪之禮而安處之。

殺人衆多，以悲哀泣之。

兵戈行處，屠害必多，故上將悲哀，愍其傷害。既非用道，恐濫無辜。亦解：殺謂敵人，衆謂士卒，傷己德薄，不能以道化人而害無辜，則心悲愍而泣之，明非所樂也。

戰勝以喪禮處之。

君子善人，貴能用道，事不獲已，方動兵戈。雖戰勝前敵，不以爲善，故素服而哭，仍以喪禮葬之。既其武不足文，足明權不及實，治國則不得已而用武，應化則不得已而行權，以此格量，故知權劣實勝也。

（以上第三十一章）

《道常章》所以次前者，前章明佳兵不祥，故有道不處，此章明侯王守道，則萬物自賓。就此章中，自分爲四：第一，標無名將以明道。第二，舉守道而能降瑞。第三，始制下廣其制用。第四，譬道下將以結成。

第一，標無名將以明道。

道常無名。

虛通之理，常湛然凝然，非聲非色，無名無字，寂然獨立，超四句之端，恍惚希夷，離百非之外，豈得以言象求，安可以心智測。故下文云天地始。又云吾不知其名也。

樸雖小，天下不敢臣。

樸，淳素也。小，微妙也。言淳樸之道，其自細微，而能開化陰陽，亭毒群品，百姓日用而不知，亦未敢自臣我有道者也。又云：物無貴賤，道在則尊。故巢父、許由、王倪、齧缺，此之數子，皆以窮爲匹夫，而天子不得臣，諸侯不得友，即其事也。

**王侯若能守，萬物將自賓。**

言君王若能修守至道，殊方異域自來賓伏而歸化也。

第二，舉道而能降瑞。

**天地相合，以降甘露。**

夫與天地合其德、陰陽合其序者，故致四時玉燭，七曜無愆，靈瑞嘉祥，芝英甘露，國無虛用，不亦宜乎！

**人莫之令而自均。**

均，平也。莫，無也。德合二儀，明齊三景，百姓無待教令而自太平；道力不可思議，守之致有此益也。

第三，始制下廣其制用。

**始制有名，名亦既有。**

因無名以立有名，寄有名以明無名，方欲引導群迷，令其悟解也。

**夫亦將知止。**

道無稱謂，降迹立名，意在引物向方，歸根反本，既知寄言詮理，應須止名求實，不可滯執筌蹄，失於魚兔。

**知止不殆。**

筌蹄既忘，妙理斯得，止名會實，故無危殆。

第四，譬道下將以結成。

**譬道在天下，猶川谷與江海。**

江海善下，爲百川之所共湊；聖道虛容，爲衆生之所歸往。故下文云：江海所以能爲百谷王者，以其善下也。

（以上第三十二章）

《知人章》所以次前者，前章明君王守道，則萬物自賓，此章明所賓服有道之君。此一章內，物有三句：具一意連次而來，遂分爲四：第一，明自

知，自知則明了。第二，明自勝，自勝則全強。第三，明知足強行，安貧樂道。第四，結其死而不亡，善其不違天理。

第一，明自知，自知則明了。

**知人者智。**

謂照達前境，鑒人機性，大小深淺，無不悉知。此是他心智。

**自知者明。**

自知己身，宿命善惡，三代報應，無不明了。此是宿命智。

第二，明自勝，自勝則全強。

**勝人者有力。**

智力勝人，威能制物，所以降伏天魔，剪除異道。此是降魔智。

**自勝者強。**

自能克服己心，制諸累欲，累欲不起，智慧日損。此是斷惑智。

第三，明知足強行，安貧樂道。

**知足者富。**

守分知足，無復貪求，非直財賄不貧，亦乃道德豐富。又解：並鑒有無，則萬境俱照，智無不足，故受富名。此是知足智。

**強行者有志。**

志，節操也。志力既強，即發弘誓願，務在先人後己，外身濟物，至乎道場，終無退轉。

第四，結其死而不亡，善其不違天理。

**不失其所者久。**

應機赴感，隨病與藥，咸使得宜，不失其所。以斯接物，久而強固。

**死而不亡者壽。**

行願具足，內外道圓，理當不死不生，無夭無壽，而今言死而不亡壽者，欲明死而不死、不壽而壽也。應身遷謝，名之爲死，聖體常在，義說爲壽。

（以上第三十三章）

《大道章》所以次前者，前章明賓服有道之君，由能自知自勝，此章明能成光大之業，皆爲法道忘功。就此門中，分爲三別：第一，標大道汎兮，

示左右略無封畛。第二，功成不有，明小大難與爲名。第三，舉聖人不貴其身，以全光大之業。

第一，標大道汎兮，示左右略無封畛。

**大道汎，其可左右。**

汎，汎無係也，亦普遍之名。言大道虛玄，汎然無著，慈悲普遍，感而遂通，雖復非陰非陽，而應乎左右，欲明方圓任物，罄無不宜。故莊子云：有左有右，有義有倫。

**萬物恃以生而不辭。**

一切萬物，恃賴至道而得生成。慈救善誘，終不辭憚也。又云：物亦不謝生於自然。

第二，功成不有，明小大難與爲名。

**功成不名有。**

生化群品，至功潛被，而歸功於物，故不有功名。

**衣被萬物不爲主，可名於小。**

衣被萬物，陶鑄生靈，而神潛被，不爲主宰，既俯就於物，宜稱其小，此不小而小也。

**萬物歸之不爲主，可名於大。**

大海虛谷，百川競湊，至道寥廓，萬物歸之。不主之義，已如前釋，物既仰歸於道，宜受大名，此即不大而大也。

第三，舉聖人不貴其身，以全光大之業。

**聖人終不爲大，故能成其大。**

明體道聖人忘我存物，靜退謙柔，終不爲大，只爲先物後己，忘功忘大，故爲衆生之長，獨居三界之尊，而戒其大也。

（以上第三十四章）

《大象章》所以次前者，前章無方之用，利物忘功，故次此章，顯忘功之人，爲物所歸往。就此章內，文有三重：第一，明物之歸依，皆獲利益。第二，舉樂餌爲譬，表理教虛玄。第三，示非色非聲，而妙用無盡。

第一，明物之歸依，皆獲利益。

執大象，天下往。

執，持也。此不執而執，執無所執。大象猶大道之法象也，即前章忘大之聖人，持無形之大象，常善救物，為天下歸往也。莊子云：王駘立不教，坐不議，虛而往，實而歸，宣尼將引天下歸之是也。

往而不害，安平太。

太，大也。言蒼生往至聖所，皆獲利益，而無損害。所獲之利，即是安平等大乘之法也。不害則明其拔苦，安平則語其與樂。

第二，舉樂餌為譬，表理教虛玄。

樂與餌，過客止。

樂，絲竹宮商也。餌，飲食滋味也。樂有聲可悅。餌有味可翫，可樂可翫，故暫過之客，逢必止住耽愛也。

道出言，澹無味。

至道虛寂，其體希夷，所以出言，澹然無味，非如樂餌，可翫可悅，故音樂有聲，行者為之止住，道言無味，學者罕見留心。嗟乎聖人，迷妄之甚，但知淫聽有聲之聲，誰能咀嚼無味之味耶！深歎愚徒，故有斯譬。

第三，示非色非聲，而妙用無盡。

視不足見。

至道窈冥，妙絕形色，非如銷鑪等法，故不可以眼識求。

聽不足聞。

大音希聲，體非商角，豈如鐘鼓，可以耳聞，聖道出言，其例亦爾。

用不可既。

既，盡也。至道之言，澹然虛遠，非聲非色，絕視絕聽。若鏡之心，物來斯照，如谷之響，感而遂通。是知無用之用，其用難盡。

（以上第三十五章）

《將欲歛之章》所以次前者，前章正明忘功大聖，為物歸依，故次此章，即顯忘功之人，權道方便。夫聖應多途，逗機匪一，或隨緣而敷小教，或起感而闡大乘，故有真應兩身，權實二智，用權以籠下士，持實以度上機。就權實之中，非無優劣，今之此章，略申斯義。就此一章，義開三別：第一，

明權道利物，增治法門。第二，格量二智，明權不及實。第三，舉譬，明權道不可示人。

第一，明權道利物，增治法門。

**將欲歛之，必固張之。**

歛，合也，歛也。將欲行權，攝化群品，令其歛歛不爲貪染者，必先開張縱任、極其奢淫，然後歛之。昔者老君西入闕賓化胡之日，初恣其凶悖，然後化之以道是也。其委曲逗留，具在《文始內傳》。

**將欲弱之，必固強之。**

欲令歸道柔弱，必先極其強大，然後示以雌柔。

**將欲廢之，必固興之。**

欲廢其殘獷者，必固恣其凶暴，凶暴既極，可以廢之。即胡王肆其猛毒，燒溺老君，水火既不爲災，然後爲其說法是也。

**將欲奪之，必固與之。**

先恣其惡，名曰與之，後令歸善，名曰奪之。故老君先示凡迹，所以恣其剛戾，後見神通，於是胡人降伏，方得奪其凶惡，令歸善道。此四對義勢相似，只言初淺後深耳。上機之人，聞實即悟，下根之人，要假於權。此則增法除妄也。  
**是謂微明。**

上來權道，雖復微密，而甚有明驗也。又云：微，隱密也。明，智慧也。言此權道是隱密明智也。

第二，格量二智，明權不及實。

**柔弱勝剛強。**

柔弱，實智也。剛強，權智也。欲教化衆生，故須權智。確論二智，實智勝權也。

第三，舉譬，明權道不可示人。

**魚不可脫於淵，國有利器，不可示人。**

脫，失也。利器，權柄也。魚藏於水，權隱於心，故物莫之害也。魚失水即爲物所擒，權示人即爲人所制，故不可以示人也。

（以上第三十六章）

《道常無爲章》即是第三段文，正明結會。就此章內，文開兩別：第一，結道宗，明寂而常動。第二，結學人宗，顯妙極重玄。

第一，結道宗，明寂而常動。

**道常無爲，而無不爲。**

凝常之道，寂爾無爲，從體起用，應物施化，故曰而無不爲。前句是本，後句是迹，此明本迹迹本、寂動動寂之義也。

**侯王若能守，萬物當自化。**

萬乘之主，五等之君，若能守持此道者，八荒萬國自然從化。行人亦爾，所以偏舉王侯者，明君王爲化，利物弘多也。

第二，結學人宗，顯妙極重玄。

**化而欲作，吾將鎮之以無名之樸。**

作，起修也。樸，道也。言衆生初從化起修者，必有心欲於果報也。既起斯欲，即須以無名樸素之道安鎮其心，令不染有，此以空遣有也。

**無名之樸，亦將不欲。**

非但不得欲於有法，亦不得欲於此無名之樸也。前以無遣有，此則以有遣無，有無雙離，一中道也。

**不欲以靜，天下自正。**

靜，息也。前以無名遣有，次以不欲遣無。有無既遣，不欲還息，不欲既除，一中斯泯。此則遣之又遣，玄之又玄，所謂探幽索隱、窮理盡性者也。既而一切諸法無非正真，稊稗瓦甓，悉皆至道。

故云天下自正。此一句結衆妙之門也。

（以上第三十七章）

## 道德經義疏 下

西華法師成玄英疏

上經明道，下經辨德。上經亦具明道德，但以道爲正，以德爲傍；下經亦具明道德，然以道爲傍，以德爲正。據傍正爲論，故有《道德經》上、下。此經一卷，凡四十四章，一經大分，義開三別：第一，一章，正開德宗。第二，四十二章，廣明德義。第三，一章，總結前旨也。

《上德章》即是第一大段，正開德宗。就此章中，又開四別：第一，顯上下二德，妄執不同。第二，辨仁義禮之德，明澆淳世異。第三，明去本之末，勸令息末崇本。第四，斥禮爲浮僞之始，示其取捨向方。

第一，顯上下二德，妄執不同。

**上德不德，是以有德。**

上者高勝，是超出之名。德者得也，以尅獲爲義。言上德之人，妙契道境，境智冥會，得失兼忘。得失兼忘，故言不德。境智冥會，故言有德。有德則遣其失，不德則遣其得也。

**下德不失德，是以無德。**

證未造極，故稱爲下，執德不忘，故言不失，未能冥會，故無德也。

**上德無爲而無以爲。**

以，用也。上德無爲，至本凝寂，而無以爲，迹用虛妙。此明無爲而爲、爲即無爲也。

**下德爲之而有以爲。**

心不忘德，故稱爲之，迹仍有事，故言有爲。

第二，辨仁義禮之德，明澆淳世異。

**上仁爲之而無以爲。**



仁，慈悲也。有心覆育，故言爲之；不責恩報，故言無以爲。確論上仁不及下德，對義仁勝，故稱無以爲。三寶之中，以慈爲首，故五德之內，亦以仁爲先。

上義爲之而有以爲。

義主止惡裁非，即經中戒律是也。然戒律之起，本被下機，事涉有爲，未階虛妙，故言爲之而有以爲也。

上禮爲之而莫之應。

禮尚威儀，即經中教齋威儀等是也。且至道冲寂，大象無形，今乃賤素貴華、重文輕質，不崇恬淡，惟尚威儀，雖爲漸教法門，而未能與理相應，非但內乖於道，而乃外亦不能應物，故言爲之而莫之應。

則攘臂而仍之。

仍，因也。禮尚往來，更相責望，因其禮薄，即攘臂怒之，欲明上禮爲教之弊。故莊子云：魯酒薄而邯鄲圍，即其事也。

第三，明去本之末，勸令息末崇本。

故失道而後德。

德，上德也。衆生感衰，道化斯隱，應物隨時，下德方見。

失德而後仁。

德化漸替，仁恩繼之。

失仁而後義。

仁慈不行，厥義方起。

失義而後禮。

自道喪淳漓，於斯爲極，不能止惡，方事節文，雖復強作威儀，而浮僞已甚。

第四，斥禮爲浮僞之始，示其取捨向方。

夫禮者，忠信之薄而亂之首。

徒自外彰文飾，未是情發於衷，既非信實之厚，適足忠誠之薄，不懲浮悖之源，更資昏亂之首。

前識者道之華而愚之始。

不知而強知曰前識，識在知前也。言此前識之人，於修道行中，甚爲華僞，

既非大智慧源，乃是愚癡之始。

是以大丈夫處其厚、不處其薄。

丈，長也。夫，扶也。謂有勇猛慈救之智，堪爲群品之長，以扶護蒼生也。其志弘普，故稱大丈夫。大丈夫當懷道德之厚，豈處禮義之薄耶！

居其實、不居其華。

達道之人，方外之士，當留情於淳樸之實，豈處心於前識之華。

故去彼取此。

去彼華薄，則是絕仁棄義，取此實厚，則是返樸還淳，且上德聖人，體無分別，豈有心於彼此、情係於去取者乎？蓋明不去而去，雖去不去，亦不取而取，雖取不取，非去之而去、取之而取者也。去取既爾，彼此亦然。

（以上第三十八章）

《昔之章》即是第二大段第一章，正廣明德義。就此章內，義分有三：第一，舉得一之能，示其有益。第二，明失一之弊，顯其必損。第三，明用道謙虛，結成得一之義。

第一，舉得一之能，示其有益。

昔之得一者。

昔，古也。一，道也。言曩昔劫初，得道之者，所得之狀，具列下文，斯則御今而引古也。

天得一以清。

稟得道之氣，故積陽成天，清浮在上也。

地得一以寧。

同稟一道，故凝陰成地，寧靜於下。

神得一以靈。

神道處陰，幽冥難測，由其得一，故靈智無方。故《莊子》云：神鬼神帝，生天生地也。

谷得一以盈。

谷，川谷也。言谷得一，故能泉源流潤，溪壑盈滿。

萬物得一以生。

有識無情，通號萬物，同稟一道，故得生成。

王侯得一以爲天下政。

帝王公侯莫不稟道爲化，只以無爲得一，故能布政天下，放勳文命是也。

其致之。

致，得也。通結前六事，咸得一道也。若作《內解》者，通是一人，而有六種行門也。

第二，明失一之弊，顯其必損。

天無以清將恐裂。

以，用也。無，不也。裂，壞也。言天不能用道清虛，則日月悖蝕，星辰失度，災變屢彰，恐當坼裂。

地無以寧將恐發。

發，變動也。言地不能用道寧靜，則恐有崩淪之災，昔岐山崩、三川震是也。

神無以靈將恐歇。

歇，廢也。神不依道，則智用愚殆，既無靈驗，恐將廢歇也。

谷無以盈將恐竭。

竭，塞也。言川谷乖一，災否斯起，致泉源枯竭，流注不通也。

萬物無以生將恐滅。

一切萬物，得一而生，若喪道乖真，則死滅俄頃。

王侯無以貴高將恐蹶。

蹶，敗也。君王不能用道守貴，而乖理悖德，將恐神器顛覆，社稷傾危，夏桀殷紂，即其人也。

第三，明用道謙虛，結成得一之義。

故貴以賤爲本。

貴，尊高也。賤，卑下也。得一之君，故能謙下，失道之主，必致驕矜，故知驕矜是賤下之基，謙卑是尊高之本，校量得失，故有斯戒。

高以下爲基。

九重之臺，起於累土，百仞之高，原乎一簣，以況尊貴卑下爲基。

是以王侯自謂孤寡不穀，此其以賤爲本耶？非乎？

不穀猶不善也。王侯貴人，智慧聰達，體知傲是喪身之本，謙爲貴盛之基，

故能俯接下凡，以卑自牧，乃稱孤寡不穀，豈非以賤爲本耶？而言非乎者，蓋是嗟歎假問之辭云爾。

**故致數輿無輿。**

輿，車也。箱輻輳輶，假合而成，徒有車名，數即無實，五物四大，爲幻亦然。所以身既浮虛，貴將安寄？是故處貴，應須謙下。

**不欲碌碌如玉，落落如石。**

玉，貴也。石，賤也。碌碌，少也。落落，多也。若內惑於身、外迷於物者，則賤物而貴身也。今既數車無車，即悟物我虛幻，故能自他平等、貴賤不殊，離形去智，冥於至道，所以不欲碌碌如玉之可貴，落落如石之可賤也。

（以上第三十九章）

《反者章》所以次前者，前章正明得一之人謙虛用道，故次此章，即明此人，從本降迹，俯應蒼生。就此一章，義開三別：第一，明慈悲救物，反聖同凡。第二，明雖復教迹多端，無過柔弱。第三，明二儀萬象，從道而生。

第一，明慈悲救物，反聖同凡。

**反者道之動。**

反，還也。動，悲也。得道聖人超凌三界，但以慈悲救物，反入三羅，混迹有中，赴機應化，故上經云遠曰反。

第二，明雖復教迹多端，無過柔弱。

**弱者道之用。**

逗機設教，抑乃多端，欲論切當，無過柔弱。故即以此柔弱爲化用之先也。

第三，明二儀萬象，從道而生。

**天下之物生於有，有生於無。**

有，應道也，所謂元一之氣也。元一妙本，所謂冥寂之地也。言天地萬物，皆從應道有法而生。即此應道，從妙本而起，元乎妙本，即至無也。

（以上第四十章）

《上士章》所以次前者，前章明應道虛玄，本迹俱妙，故次此章，即明

上士能悟，非下士所聞。今就此章，義開三別：第一，明三人聞道，機性不同。第二，辨體道之人，韜光匿耀。第三，歎道功能，生成庶品。

第一，明三人聞道，機性不同。

**上士聞道，勤而行之。**

上機之士，智慧聰達，一聞至道，即悟萬法皆空，所以勤苦修學，遂無疑怠。

**中士聞道，若存若亡。**

中機智闇，照理不明。雖復聞道，未能妙悟，若斂情歸定，即時得空心，纔得世塵，即滯於有境，與奪不定，故云存亡。

**下士聞道，大笑之。**

下機之人，根性愚鈍，聞真道玄遠，至言宏博，心既不悟，謂爲虛誕，遂生誹謗，拊掌笑之。

**不笑不足以爲道。**

不爲凡人所笑，不足稱爲聖道。

**建言有之。**

建，立也。言上士所行之道，建在下文有之，即明道若昧等是也。

第二，辨體道之人，韜光匿耀。

**明道若昧。**

昧，闇也。照達真道之人，晦迹同俗，不顯其明，若愚闇也。

**進道若退。**

大學之人，不見其迹，內雖進修，外若衰退。

**夷道若類。**

夷，平也。證太平等道修行之人，知一切衆生，與己同體，不見愚智之別，等差一類也。

**上德若谷。**

勝上道德之人，與太虛等量，故能包容萬物，若彼空谷也。本亦作俗字者，言能忘德不異囂俗也。

**大白若辱。**

白，潔淨也。辱，汙染也。言大潔白高行之人，和光同塵，不曜於物，故能混迹揚波，若汙辱也。故東方先生潔其道而穢其迹，即斯義也。

**廣德若不足。**

廣，大也。言懷大德之士，體道虛忘，故內至有餘而外若不足。《老子傳》云：良賈深藏若虛，盛德容貌若愚。

**建德若偷。**

偷，盜也。言建立大德之人，藏名隱迹，如彼偷竊，不用人知。故上經云：猶若畏四鄰。

**質真若渝。**

質，實也。渝，變也。言素質體真之士，寂而動，真而應，變見無常，故若渝也。

**大方無隅。**

隅，角也。言體道大方之人，因循順物，不守節操，不立隅角，所謂上達節也。

**大器晚成。**

瑚璉九鼎，非一朝可成，喻大學之人，豈近心能證，必須累劫修研，方致虛極，即任公子釣鰲是也。

**大音希聲。**

希，猶無也。至道大音，寂乎無響，自妙本降迹，而聲無聲也。師曠聽之而不聞其聲也，瓊聲震乎宇宙，欲明即迹即本，故言大音希聲。

**大象無形。**

大道之象，象而無形，無形而形，離朱視之而莫見其形也。色象遍乎虛空，欲明即有而無，故云大象無形也。

**道隱無名。**

至道妙本，幽隱窈冥，非形器之所測量，豈名言之能詮辯也。

第三，歎道功能，生成庶品。

**夫唯道善貸且成。**

貸，借也。獨此無名之道，有大慈悲，故能俯救衆生，借其善力，亭毒群品，生化三才，種種方便，趣令成就也。

（以上第四十一章）

《道生章》所以次前者，前章明大道權應，善貸生成，故次此章，即明

所生之物，無由次第。就此一章，義開三別：第一，明權道應化，生物所由。第二，顯出物情，勸修中順。第三，廣辨柔弱，爲學之先。

第一，明權道應化，生物所由。

**道生一，一生二，二生三，三生萬物。**

一，元氣也。二，陰陽也。三，天地人也。萬物，一切有識無情也。言至道妙本，體絕形名，從本降迹，肇生元氣。又從元氣，變生陰陽。於是陽氣清浮昇而爲天，陰氣沉濁降而爲地。二氣昇降，和氣爲人。□有三才，次生萬物，欲明道能善貸，次第列之。

第二，顯出物情，勸修中順。

**萬物負陰而抱陽。**

負，背也。抱，向也。陽，生也。陰，死也。言一切萬物，有識無情，莫不背陰向陽，好生惡死，然惡死不遂免死，好生未嘗得生，聖人愍之，故此下爲說長生之術也。

**冲氣以爲和。**

冲，中也。和，順也。言人欲得不死者，必須處心中正，謙和柔弱，此則長生也。故下文云：剛强者死之徒、柔弱者生之徒是也。

第三，廣辨柔弱，爲學之先。

**人之所惡，唯孤寡不穀，而王公以爲名。**

孤獨鰥寡，乃不善之事，以此爲惡，人之常情。而王公貴人用斯自牧，足明貴以賤爲本，高以下爲基，以勸修行之人，必須處心謙順。

**故物或損之而益，益之而損。**

謙卑柔弱，損己濟物，物必歸之，故生道獲全，矜誇傲誕，益己凌物，物必挫之，故致危敗。危敗是損，全生是益，損益之驗，其義盡然。故言損之而益，益之而損也。

**人之所教，亦我義教之。**

言俗人儒教，亦尚謙柔，我之法門，本崇靜退，然儒俗謙柔，猶懷封執，我之靜退，貴在虛忘，所以爲異也。

**強梁者不得其死，吾將以爲教父。**

強梁猶剛躁也。父，始也。言強梁之人，必當夭折，不得依於天命，壽終而

死也。老君雖復闡法多端，教門匪一，而每說柔弱爲善，剛強爲惡，以此切當，將爲學道之先。父亦本也。

（以上第四十二章）

《天下章》所以次前者，前章明柔弱之教，爲學道之先，故次此章，重顯柔弱之能、無爲之益。就此章內，文有三重：第一，舉譬，明柔勝剛劣。第二，明柔弱之行，能入無間。第三，結歎無爲是希有之教。

第一，舉譬，明柔勝剛劣。

天下之至柔，馳騁天下之至堅。

至柔，水也。至堅，金也。馳騁，是攻擊貫穿之義也。言水至柔，能攻金石之堅，喻無爲至弱，能破有爲之累。故下文云：天下至柔莫過於水，攻堅强者莫之能先。

第二，明柔弱之行，能入無間。

無有入無間。

間，隙也。言顛倒之流，見空爲有，達觀之士，即有而空，故言無有也。入，契會也。有爲龐疏故有隙，無爲微密故無間，既而即有即無，故能入無間之妙理也。

是以知無爲之有益。

柔能破剛，無能遣有，是以知無爲之教，大益修行之人。

第三，結歎無爲是希有之教。

不言之教，無爲之益，天下希及之。

所謂不言，非關杜口，在理既即有即無，在教亦即言即默。即言即默，故名不言之教，即有即無，故名無爲之益。益既不益而益，而教豈教而教哉？斯乃窮理盡性，蓋世之談，世間名教，罕能逮者，故言天下希及之。

（以上第四十三章）

《名與身孰親章》所以次前者，前章歎美柔弱，爲道之樞機，故次此章，明知足捨貪，是修真之要術。就此章內，文有三重：第一，假設三問，料簡得失。第二，明耽著名利，損智敗身。第三，明知足捨貪，可以長久。



第一，假設三問，料簡得失。

**名與身孰親？**

身，內也，實也。名，外也，賓也。孰，誰也。世人皆求外喪內，貪名忘實。何者？夫令譽芳名，本爲身也，身既爲名致死，名竟何所施爲？老君愍茲顛倒，故問之云：名之與身，誰是汝親乎？而汝貪名忘身耶？以斯格量，親疏可見。故莊子云：伯夷死名於首陽之下也。

**身與貨孰多？**

夫資貨者，本爲我身，迷惑之徒，喪身徇貨。故老君責言：汝去貨存身利多耶？聚貨喪身利多耶？故莊子云：盜跖死利於東陵之上。

**得與亡孰病？**

夫多貪得財必喪己，少欲亡貨則存身。然則得是喪己之徵，亡是存身之驗，喪己可以爲病，存身可以爲藥。世間翻以得爲適，以亡爲病者，不亦謬乎？故教主云：得之與亡，定誰是病耶？

第二，明耽著名利，損智敗身。

**是故甚愛必大費。**

費，損也。爲是義故，甚愛名譽之人，必勞形怵心，費神損智。此一句解名也。

**多藏必厚亡。**

夫多藏賄貨於府庫者，必有劫盜之患，非但喪失財物，亦乃害及己身，其爲敗亡，禍必深厚，故《書》云：匹夫無罪，懷玉其辜。莊云：大儒臚傳曰：青青之麥，生於陵陂，生不布施，死何含珠爲？於是以金鏈控其頤，徐別其類，無傷口中珠是也。此一句解貨。

第三，明知足捨貪，可以長久。

**故知足不辱。**

體知財賄虛假，守分不貪，清廉知足，故無耻辱。此一句結貨。

**知止不殆。**

既悟名譽非真，所以止而不著，全身遠害，故無危殆。上經云：名亦既有，夫亦將知止。此一句結名。

**可以長久。**

知止於名，知足於貨，忘名忘利，則可長可久。此一句總結名利。

（以上第四十四章）

《大成章》所以次前者，前章舉知足知止於修學之道未圓，故次此章，顯大滿大成，以示虛忘。就此一章，義開三別：第一，汎辨五大，為學行楷模。第二，舉譬，明躁劣靜勝。第三，結釋靜之功能。

第一，汎辨五大，為學行楷模。

### 大成若缺，其用不弊。

言行業大成就之人，能忘其成，故雖大成，如似缺少不足也。只為能忘其成，故終日資用而無弊損。是以莊子云：小成隱道也。夫成者不缺，缺者不成。而今成而似缺者，忘缺忘成故也。不見成而異缺，故如缺而實成，不見缺而異成，故大成而似缺也。

### 大滿若冲，其用不窮。

冲，虛也。窮，盡也。言道德大滿之人，能忘其滿，故雖滿如似空虛無物也。只為忘滿冲虛，故能利用無竭也。夫滿者不虛，虛者不滿，今滿而虛者，欲明忘滿忘虛，故能即滿即虛、滿而若虛也。

### 大直若屈。

屈，曲也。大直質素之人，不顯直相，故能混迹同塵、委曲隨物，故若屈也。是知直躬小直也。

### 大巧若拙。

匠成萬物，爐錘群生，有大功巧，而忘巧用，晦迹同凡，故若拙也。莊子云：刻雕衆形，而不為巧。是知工倕小巧也。

### 大辯若訥。

妙能剖析真宗，詮量玄極者，言所不能言也。不同世間口才捷利，故若謇訥也。莊子云：不言之辯。亦云：大辯不言。是知楊墨小辯也。

第二，舉譬，明躁劣靜勝。

### 躁勝寒，靜勝熱。

躁，陽也。靜，陰也。勝，極也。言四時運轉，陰極陽生，陽極陰起。陰起，故一切凋落，陽生，故庶物咸盛。喻靜是長生之本，躁是死滅之原，以勸行

人去躁歸靜也。又解云：從本降迹，即躁勝寒，息迹歸本，即靜勝熱，以明動靜適時也。

第三，結釋靜之功能。

**清靜爲天下正。**

清虛寧靜，可以自利利他，以正治邪，故爲天下正。此則結釋靜勝躁優劣之義也。

（以上第四十五章）

《天下有道章》所以次前者，前章舉靜躁兩行，勝負不同，故次此章，顯有道無道，優劣亦異。就此章內，文有四重：第一，明有道之君，無爲虛靜。第二，明無道之主，躁競貪求。第三，廣顯躁競之心，咎釁彌重。第四，示知足之美，以勸行人。

第一，明有道之君，無爲虛靜。

**天下有道，却走馬以糞。**

言有道之君，莅於天下，干戈靜息，偃武修文，宇內清夷，無爲而治。故能却馳走之馬，以糞農畝，治身者却六根兵馬，以道糞心。故孟子曰：人皆以糞糞其田，而莫知以學糞其心也。

第二，明無道之主，躁競貪求。

**天下無道，戎馬生於郊。**

郭外曰郊。無道之君，臨於海內，禽荒色荒，四方不靜，多貪境土，好行征伐，遂使軍戎兵馬出生郊外。治身者言，躁競之夫，心不懷道，縱於六根兵馬，馳騁塵境之中，內不覽真，恒緣外物，故云生於郊也。

第三，廣顯躁競之心，咎釁彌重。

**罪莫大於可欲。**

罪者摧也。言爲苦之所摧逼也。可欲，境也。言前境美麗，稱可欲之心，故言可欲也。然境能逼心，是起罪之緣。以戒行人不可染境也。故上經云：不見可欲，使心不亂。

**禍莫大於不知足。**

禍，即罪之深重者也。言心貪前境，不知厭足，害人損物，爲罪日深，非唯

災及一身，亦乃禍延三族。

**咎莫甚於欲得。**

咎，考責也。欲得之心，略無涯際，其爲咎責，莫甚於斯。格量深淺，禍重咎輕，欲備顯物情，故具彰三釁也。

第四，示知足之美，以勸行人。

**故知足之足，常足。**

守分不貪，於行便足，恒無闕少，故言常足。欲明貪競之類，遭遇禍殃，知足之人，恒居安泰，先病後藥，故述此文。

（以上第四十六章）

《不出戶章》所以次前者，前章正辨有道之人知足，不知足者無道，故次此章，即明有道者照而不由於心，無道者由心而不能照。就此一章，義開三別：第一，明聖人虛鑒，照不由心。第二，明凡人由心，而不能照。第三，重結虛照之人，寂而能動。

第一，明聖人虛鑒，照不由心。

**不出戶，知天下。**

戶者謂知覺攀緣分別等門也。有道之人，虛懷內靜，不馳心於世境，而天下之事悉知，此以真照俗也。

**不窺牖，見天道。**

窺，覘視也。牖，根竅也。天道，自然之理也。隳體坐忘，不窺根竅，而真心內朗，覩見自然之道，此以智照真也。戶通來去，譬從真照俗，牖牖內明，喻反照真源也。

第二，明凡人由心，而不能照。

**其出彌遠，其知彌少。**

顛倒之夫，不能照理，其心逐境彌遠而無厭，其知淺近闇昧而少鑒。

第三，重結虛照之人，寂而能動。

**是以聖人不行而知。**

不行者心不緣歷前境，而知者能體知諸法實相必竟空寂，譬懸鏡高堂，物來斯照，照而無心也。故莊子云：聖人不由心而照之於天矣。此一句解不出戶知

天下。

不見而名。

不見者了知諸法虛幻，無可見之物也。而名者能正名百物、垂迹顯教也。不見而名，不應而應，名而不見，應而不應也。此一句解不窺牖見天道也。

不爲而成。

不爲者凝神寂泊、妙絕於有爲也。而成者能施化群品、成就學人。此明寂而動也。

（以上第四十七章）

《爲學章》所以次前者，前章正明凡聖二心緣照差異，故次此章，即明道俗兩學損益不同。就此一章，義分三別：第一，明道俗兩學，損益有殊。第二，辨次第虛妄，以階玄極。第三，明有事無事，得失不同。

第一，明道俗兩學，損益有殊。

爲學日益。

爲，修營也。學，俗學也。言修俗學之人，銳情分別，故累欲日增也。

爲道日損。

爲道猶修道也。言修道之士，虛夷恬淡，所以智德漸明、累惑日損也。

第二，辨次第虛妄，以階玄極。

損之又損之，以至於無爲。

爲學之人，執於有欲，爲道之士，又滯無爲。雖復深淺不同，而二俱有患，今欲祛此兩執，故有再損之文，既而前損損有，後損損無，二偏雙遣，以至於一中之無爲也。

無爲無所不爲。

即寂而動，即體而用，故無所不爲也。上經云：道常無爲無不爲。

第三，明有事無事，得失不同。

取天下常以無事。

取，攝化也。言攝取宇內蒼生令其歸善者，常以無事無爲而化之也。雖復應物施爲，而心未嘗有事，此即動而寂也。故莊子云：孰弊弊焉以物爲事乎！及其有事，不足以取天下。

及其心未虛忘，以事爲事，而有事者，斯則事異無事，無事異事，動異於寂，寂乖於動，如此之人，不足以攝化天下。

（以上第四十八章）

《聖人無常心章》所以次前者，前章明即事無事，雖應無心，故次此章，即顯聖人無心，而能赴感。就此章內，文有三重：第一，明聖人無常心，有感斯應。第二，明善救蒼生，而無棄捨。第三，顯衆生耽染，故聖起慈悲。

第一，明聖人無常心，有感斯應。

**聖人無常心，以百姓心爲心。**

體道洞忘，虛懷絕慮，與死灰均其寂泊，故無心也。百姓，衆生也。然聖人無心，有感斯應，應隨物感，故以百姓心爲心。心既無心，而應亦不應也。

第二，明善救蒼生，而無棄捨。

**善者吾善之，不善者吾亦善之，得善。**

善者，謂無欲修學之士；不善者，謂有爲滯境之人。普以平等勝教化之，令其得善，此則以百姓心爲心之義也。

**信者吾信之，不信者吾亦信之，得信。**

信謂聞經愛樂，不信謂不樂道文。聖人以空行慈悲，平等救度，不問信與不信，皆令得益，而普發信心也。故紫微夫人曰：信者得失之關鍵。又經云：信者學道之樞機也。問曰：聖人無心，有感必應，不應不感，不感不應者，故信者方教，不信者不教。而今信與不信，一種教之，亦應感與不感，一種皆應。答曰：應有通有別，如治在玄都玉京，而恒救三界，此則通應，善、信是也。至如胡人有感，紫氣西浮，授尹生道德之文，此則別應。若別應則待別感，通應則尋常慈照。故上經云：常善救人，而無棄人。

第三，顯衆生耽染，故聖起慈悲。

**聖人在天下，惻惻。**

惻惻，勤懼之貌也。言無心赴感之聖人，其在天下也，恒布大慈，拯救蒼生，恐其沒溺，故惻惻而勤懼也。

**爲天下混其心。**

混沌，無分別也。言凡夫感情滯境，妄生去取。聖人欲混沌其心，令無分

別。勤懼之義，即斯謂也。

百姓皆注其耳目。

河上作“注”，諸本作“淫”。淫者，染滯也。顛倒之徒，迷沒世境，縱恣耳目，滯著色聲，既而漂浪長流，愆非日積。聖人愍其迷困，故顯其病，而六根之中，偏舉兩者，欲明此二爲患最深。故《西昇經》云：耳目色聲，爲子孫愆。然舉此二根，諸根可悉，爲文略故也。

聖人皆孩之。

衆生妄淫耳目，淪沒愛河，聖人勤懼慈救，義同赤子，哀其無識，如嬰兒之可愍。

（以上第四十九章）

《出生入死章》所以次前者，前章明凡淫耳目，妄混其心，故次此章，即明皆有生死，凡溺生死，義味相接，所以次之。就此一章，義開四別：第一，正標凡聖，示妄執不同。第二，假設問答，辨其所以。第三，顯善攝生之人，不爲三毒所害。第四，重設疑問，歎美結成。

第一，正標凡聖，示妄執不同。

出生入死。

出生者超凌三界，出離死生；入死者沉淪三塗，沒溺生死。若解生死義者，從無出有，以釋生爲生，自有還無，以釋滅爲死也。

生之徒十有三，死之徒十有三。

徒，類也。十三，謂四關九竅。言九竅四關凡聖俱有，聖人不執身爲身，忘懷迷執，故能出三界；凡夫爲執迷是非，心恒起滅，因斯迷倒，故入六道。入六道則死之類，出三界則生之徒也。

人之生，動之死地，十有三。

凡人之生，動即適死地者，蓋爲執此十有三徒，染滯前境故也。

第二，假設問答，辨其所以。

夫何故？

假設疑問，以生後答。

以其生生之厚。

言人不能體道忘生，而執生爲有，多積物產，厚資此生，而營生過當，故動之死地。此一句答前問意也。

第三，顯善攝生之人，不爲三毒所害。

**蓋聞善攝生者，**

蓋，不盡之辭。蓋聞猶竊聞也。攝，衛也，養也。言善攝衛養生之人，淡泊虛夷，不染塵境。攝衛之美，自顯下文。

**陸行不遇兕虎，**

陸，平地也。兕，毒獸，一角，形如野牛，色青。言善攝生之人，不爲毒獸所觸。《內解》者言：平居安靜，不爲煩惱所加。

**入軍不被甲兵。**

言攝生之人，縱入軍陳，亦不爲干戈所害。《內解》者言：縱入塵境，亦不爲色等所傷也。

**兕無所駐其角，虎無所措其爪，兵無所容其刃。**

諸本言駐。駐，立也。措，安也。兕遇物則觸，喻癡也。虎性躁暴，喻嗔也。兵刃銳利，能傷於人，喻貪也。言善攝生者妙體真空，故雖處世間，而不爲三毒所害。

第四，重設疑問，歎美結成。

**夫何故？**

假設疑問，有何事故，得致如是。

**以其無死地。**

夫見有身者，故以身爲死地。今善攝生之人，忘於身相，即身無身，故無地之可死也。既無死地，三毒何所加乎？此答前問意也。

（以上第五十章）

《道生之章》所以次前者，前章正標善攝生人，能設虛假。就此一章，義開四別：第一，明道德應化，生育黎元。第二，明勸示衆生，尊道貴德。第三，廣顯虛通，慈悲生化。第四，結成玄德，利物忘功。

第一，明道德應化，生育黎元。

**道生之，德畜之。**



至道虛玄，通生萬物，上德慈救，畜養群生。故云道生之、德畜之也。  
物形之，勢成之。

物形，言稟道而有形質。此釋道生之也。勢成，言以德化導，陶瑩心靈，令行業淳熟，而成就也。此釋德畜之也。

第二，明勸示衆生，尊道貴德。  
是以萬物莫不尊道而貴德。

道德育覆，具如前旨，蒼生荷賴，日用不知。是以勸示令其崇尚。  
道尊德貴，夫莫之爵而常自然。

世上尊榮，必須品秩，所以非久；而道德尊貴，無關爵命，故常自然。  
第三，廣顯虛通，慈悲生化。

故道生之畜之，

重疊前文，以生後句。而直舉道不言德者，明德不爽道，而文略也。故《西昇經》云：道德混沌，玄妙同也。

長之育之，

長之者，謂增其善芽；育之者，謂進其功行也。

成之熟之，

成熟者，謂以無上妙法瑩飾物心，令其道果成就、德業淳熟。此猶疊前語，來生後文也。

養之覆之，

養覆者，養謂酬其果報，覆謂蔭以大慈也。以上四雙，明利物之德，以下三句，明能遣其功也。

第四，結成玄德，利物忘功。

生而不有，

雖復能生萬物，實無物之可生，芻狗群情，故即生而不有。有既有而不有，生亦生而不生。此遣道生之也。

爲而不恃，

既生成萬物，不有其生，施爲法教，於何可恃。此遣德畜之也。

長而不宰，

長養蒼生，功侔造化，而能所俱幻，誰其宰乎？此遣長之等四雙也。

是謂玄德。

是，則指於上句。謂，則言及下文。玄者，深遠之名，德以證護爲義。指前體道之士，利物忘功，以法聖人，可謂玄德。

（以上第五十一章）

《天下章》所以次前者，前章正明道能生化，利物忘功，故次此章，即顯道爲始母，勸令修習。今就此章，義分四別：第一，明道爲始母，勸物起修。第二，顯修習之方，閉塞之妙。第三，汎舉空有定慧，解行法門。第四，明晦迹韜光，能繼常道。

第一，明道爲始母，勸物起修。

天下有始，以爲天下母。

始，道本也。母，道迹也。夫玄道妙本，大智慧源，超絕名言，離諸色象，天下萬物，皆從此生。今汎言天下者，欲令行人識根知本。故上經云：無名天地始也。以爲母者，言從本降迹，導引蒼生，長之育之，如母愛子。故上經云：有名萬物母。

既得其母，以知其子；

夫本能生迹，迹能生物也。既知道大慈能引接凡庶者，即是我母，即知我身，即是道子，從道而生故也。經云：虛無自然，是真父母。

既知其子，復守其母，沒身不殆。

既知我是道子，應須歸復守其母也。但能歸根守母，體道會真，迹雖有沒有存，而本無危無殆，何者？夫道能生物，道即是本，物從道生，物即是末，而本能攝末，所以須歸，母能生子，所以須守。守母則久視長存，歸本則沒身不殆，故勸之也。《西昇經》云：常能養母，身乃長久。

第二，顯修習之方，閉塞之妙。

塞其兌，閉其門。

上雖勸其母，猶未示其修守之方，故次下文，具顯守復方術，即塞閉等是也。兌，口也。而六根之中，偏舉兌者，明口既是三業，又霑六根，爲罪多也。門，五門也。閉口門，不著色聲香味觸諸塵境也。前舉兌是根之別，此言門是根之總也。但閉塞之義有兩：一者，斷情忍色，棲託山林，或却掃閉門，不見可

欲。二者，體知六塵虛幻，根亦不真，內無能染之心，外無可染之境，既而恣目之所見，極耳之所聞，而恒處道場，不乖真境，豈曰杜耳掩目而稱閉塞哉？蓋不然乎！見無可見之相，聽無定實之聲，視聽本不馳心，斯乃閉塞之妙也。

**終身不勤。**

勤，勞苦也。夫學道多端，行門匪一，或靜心而避塵境，或即境而體真源，深淺糾紛，實唯多種。故《西昇經》云：動則有載劫，自唯甚苦勤也。但能依前閉塞，即境而真，心性寬閑，而無勞倦，可以盡年終命而不勤苦也。

**開其兌，濟其事，終身不救。**

及愚者爲之，即開其眼耳等根，濟於色聲等事，終身耽染，沒命貪淫，縱使大聖大慈，良亦目擊不能救度之也。

第三，汎舉空有定慧，解行法門。

**見小日明。**

見，觀照也。小，微細之名也，即至妙之理也。言行人但能照於妙境，智慧日日增明，故上經云：觀其妙也。

**用柔日強。**

既能見小，即智慧增明，復能用道謙和柔弱，故其德業日日強盛也。夫學道之初，有定有慧，有行有解，見小即是慧解之門，用柔即是定行之術。故六度之中，即有行有解，前五為行，後一為解，解則是慧是空，行則兼空兼有，而以空導有、以有資空，欲明資導之能，故言用柔、見小也。

第四，明晦迹韜光，能繼常道。

**用其光，復歸其明。**

光，智照也。既空有行圓，故能慧照於物也。雖復用光照物，即照而忘，韜光晦迹，歸明於昧，故云復歸其明也。下文云光而不耀。莊子云：滑疑之曜，聖人之所圖也。

**無遺身殃，是謂襲常。**

既即照而忘，行圓德備，諸累已盡，無復遺餘之殃咎也。亦云：遺，與也。無復與身之殃釁也。行業圓備，諸累復盡，傳經主教，允屬其人，故指此人，可謂承襲常道、紹隆真教也。

（以上第五十二章）

《使我章》所以次前者，前章正明忘照之人，能繼真常之道，故次此章，歎真常之道，甚自平夷，介然起知，即乖至理。就此章內，義分三別：第一，明道體希夷，妙絕分別。第二，明不懷道者，饕餮多貪。第三，指此貪竊之人，乖於至理。

第一，明道體希夷，妙絕分別。

**使我介然有知，行於大道，唯施是畏。**

使我者，假設之辭也。知，分別也。介然，微小也。言正真之道甚至平夷，假使我微介起心，以知行道者，此即妄起攀緣，乃爲流動，深不可也。何者？夫至道虛通，妙絕分別，在假不假，居真不真，真假性齊，死生一貫，入九幽而不昧，出三界而不明，履危嶮而常安，臨大難而無懼，故無畏也。今乃起心分別，乖於至道，諸所施爲，動之死地，故可畏也。

**大道甚夷，民甚好徑。**

夷，平正也。徑，邪道也。言至理平等，甚無分別，顛倒之類，背正向邪，遂使大道陵遲，小成孔熾也。

第二，明不懷道者，饕餮多貪。

**朝甚除，**

失道之君，好行邪徑，不崇樸素，唯尚華侈，既而除去故宇，更起新宮，雕楹刻桷，窮乎綺麗。

**田甚蕪，**

徭役既繁，農夫喪業，遂使東臯不作、南畝荒蕪。

**倉甚虛，**

稼穡有限，國費無貲，杼柚其空，倉廩斯罄。

**服文綵，帶利劍，厭飲食。**

黼黻文繡，以麗其身，干將鏌鋌，以衛其命。醪醴膾腥，以爽其口，不崇上德，不恤下人，嗟乎饕餮，一至於此。

**資貨有餘。**

輕躁荒淫，於政不足，重賦百姓，積斂有餘。

第三，指此貪竊之人，乖於至理。

**是謂盜誇，非道也哉！**

多賦多斂，如盜如賊，既蓄既積，且矜且誇，乖理悖德，謂之非道。若作行人道心解者，朝甚除，無善功也；田甚蕪，心荒廢也；倉甚虛，無道德也；服文綵，好飾辭也；帶利劍，貪心銳也；厭飲食，耽滋味也；資貨有餘，積不散也。

（以上第五十三章）

《善建章》所以次前者，前章正明貪染之人乖失常道，故次此章，即明善建之士契理合真，欲勸物起修，所以相次。就此章中，義分三別：第一，明善建之人，道光後嗣。第二，明自利利他，其德增廣。第三，格量利害，以勗學人。

第一，明善建之人，道光後嗣。

**善建不拔。**

建，立也。拔，傾也。善能建立道心之人，志願堅固，直至道場，不可傾拔也。

**善抱不脫。**

抱，持也。脫，失也。前句發心，此句起行也。言善持真行之人，一得永得，終無差失也。

**子孫祭祀不輟。**

輟，絕也。善抱之士，與理相應，既而持此真行，傳諸來葉，猶如元始傳於太上，徐真授於葛仙，師資相襲，長為教主，譬彼傳燈，明明不絕。故《西昇經》云：學爾教爾，不失道真。又解：言善建之人，樹德深重，積善多慶，逮乎子孫，遂使家門隆盛，宗廟延永。

第二，明自利利他，其德增廣。

**修之身，其德能真，**

以前之學行，修營其身，既而能所相應，道德真實也。

**修之家，其德有餘。**

修身獨善，以明自利，修家兼濟，明於利物，化其家門，並令修道，功行漸博，故言有餘。昔天師修學，舉家得仙，鷄鳴天上，犬吠雲中是也。

**修之鄉，其德能長。**

修家及鄉，自狹之廣，化功更博，其德優長。

**修之國，其德能豐。**

五等諸侯，清虛修道，遂致域中寧謐，境內無虞，豈非賢聖之君德行豐贍者也。

**修之天下，其德能普。**

九五之君，用道而治，端拱玄默，天下太平，是以萬國來朝，四夷款服，澤無不被，其德能普。

第三，格量利害，以勗學人。

故以身觀身，以家觀家，以鄉觀鄉，以國觀國，以天下觀天下，吾何以知天下之然，以此。

夫堯舜所以昇平者，有道故也。桀紂所以淫亂者，無道故也。是知以修道之身觀不修道身，以有道天下觀無道天下，乃至家國利害，斷可知矣。故老君假設云：我何以知天下成敗之事乎？只以此格量，足為龜鏡矣。

（以上第五十四章）

《含德章》所以次前者，前章明修道利物，體道合真，故次此章，即指此人為含德之厚。就此章中，義分四別：第一，舉嬰兒為喻，表三毒不加。第二，明體道虛忘，故三業清淨。第三，歎善美含德、知和體常。第四，對顯執心，所作乖道。

第一，舉嬰兒為喻，表三毒不加。

**含德之厚，比於赤子。**

含懷道德，甚至淳厚，欲表其狀，故取譬嬰兒，嬰兒之行，具列於下。

**毒蟲不螫，攫鳥猛獸不搏。**

毒蟲，蛇虺類也。攫鳥，鷹鷂類也。猛獸，兕虎類也。螫，行毒也。搏，擊觸也。言赤子不犯前境，故不遭三物所加。喻含德妙達違從，故不為三毒所害也。

第二，明體道虛忘，故三業清淨。

**骨弱筋柔而握固。**

言赤子筋骨柔弱，手握堅固，喻含德心性柔弱，順物謙和。雖復混迹同塵，而靈府潔白，在染不染，故言握固。此一句明意業淨。

未知牝牡之合而峻作，精之至。

《字林》云：峻，小兒陰也。言赤子初生，未解雄雌交合之道，而陰恒怒作，乃精氣滿實之至也。況含德體道淳和，無爲虛泊，雖復揚波處俗，聞見色聲，而妙悟真空，不見和合之相，蓋精粹之至也，此一句明身業淨也。

終日號而不嗁，和之至。

言赤子終日啼號而聲不嘶嗁者，爲無心作聲、和氣不散也。況含德妙達真宗，故能說無所說，雖復辯周萬物而不乖於無言也。此一句明口業淨。

第三，歎善美含德、知和體常。

知和曰常。

知此不言之言是淳和之理者，乃曰體於真常之道也。

知常曰明。

知於真常之道，是曰智慧明照也。

第四，對顯執心，所作乖道。

益生日詳。

詳，多也。凡惑之人，不體生無生相，多貪世利，厚益其生，所以煩惱障累日日增廣也。

心使氣日強。

心，神也。氣，身也。物情顛倒，觸類生迷，豈知萬境皆空，寧識一身是幻；既而以神使形，驅馳勞役，是以生死之業日日強盛也。

物壯則老，是謂非道。

夫盛者必衰，物壯則老，是知益生使氣足驗無常，既曰無常，故非真道。非道早已。

已，止也。既能悟識無常，既非真道，應須早已止而勿爲也。

（以上第五十五章）

《知者章》所以次前者，前章明含德體常，益生失道，故次此章，即顯含德忘言，益生執教。就此一章，義開四別：第一，明至道虛寂，妙絕名言。第二，明斷服有心，次第修習。第三，明同塵晦迹，與理相應。第四，明妙達從違，故爲尊貴。

第一，明至道虛寂，妙絕名言。

知者不言。

知道之士，達於妙理，知理無言說，所以不言。故莊子云：道無問，問無應即無爲。謂是也。

言者不知。

封滯名言，執言求理，理超言象，所以不知。故莊子云：有問道而應之者，不知道也。知與黃帝是也。

第二，明斷服有心，次第修習。

塞其兌，閉其門，挫其銳，解其忿，和其光，同其塵。

塞其兌，息言論也。閉其門，制六情也。挫其銳，止貪競也。解其忿，釋恚怒也。和其光，接愚俗也。同其塵，混世事也。上來數句，前已具釋，今略帖文，不復詳辯，所以重言者，明此數句於學問切當，故再出之耳。

第三，明同塵晦迹，與理相應。

是謂玄同。

前既斷伏身心，次則和光晦迹，所以行圓德滿，故與玄理符同。

第四，明妙達從違，故爲尊貴。

故不可得親，不可得疏；

道契重玄，境智雙絕，既兩忘乎物我，亦一觀乎親疏。

不可得利，不可得害；

夫利害者，與乎存亡也。死生無變於己，況利害之間乎？故莊子云：不就利、不違害也。

不可得貴，不可得賤。

夫貴賤者，與乎榮辱也。既毀譽不動，寵辱莫驚，故不可以貴賤語其心也。

故爲天下貴。

既遣蕩乎親疏，又虛忘乎利害，毀譽不關其慮，貴賤莫介乎懷，故蒼生荷戴而不辭，群品樂推而不厭，是以天下人間尊而貴之也。

（以上第五十六章）

《以政章》所以次前者，前章明體道之人，天下之所尊，故次此章，即



明應爲帝王以示治化之方。就此章中，義開四別：第一，明權實二智用捨不同。第二，明攝化蒼生，莫先無事。第三，假設疑問，廣辯有爲。第四，援引聖人，顯無爲之美。

第一，明權實二智用捨不同。

**以政治國。**

以，用也。政，謂名教法律也。治，輯理也。夫聖人御世，接物隨機，運權道以行兵，用實智以治國，此則偃武修文用實之時也。

**以奇用兵。**

奇，譎詐也。剋定禍亂，應須用兵，兵不厭詐，以資奇譎，此則偃文修武用權之世也。

第二，明攝化蒼生，莫先無事。

**以無事取天下。**

文武之道，應物隨時，譬彼蓬廬，方茲芻狗，執而不遣，更增其弊。未若無爲無事，凝神姑射之中，不武不文，垂拱廟堂之上。以斯化物，物無疵癘，用此治民，民歌擊壤，攝取之妙，其在茲乎！

第三，假設疑問，廣辯有爲。

**吾何以知天下之然？以此。**

教主假設云：我何以知攝化天下必須無事乎？用此下文觀之，則知之也。

**天下多忌諱而民彌貧。**

忌諱，猶禁制也。刑法嚴酷，罹罪者衆，民不安業，所以彌貧。治身者不能率性任真，而篤於禁忌，內無道德，故彌貧也。此一句解以政。

**民多利器，國家滋昏。**

利器，干戈也。滋，甚也。昏亂之世，不崇文德，唯事戈矛，傷害既多，荒亂日甚。治身者銳情貪欲，心喪神昏。此一句解用兵也。

**民多智巧，奇物滋起。**

知巧，謂機心也。奇物，謂戰具也。言在上好武，下必順之，故各起異端，競獻知巧，野戰攻城，機械非一，多呈奇物，以取洪勳。治身者多知巧詐，貪取前境，分別之心，日益其弊。此一句重釋用兵。

**法物滋彰，盜賊多有。**

法物，猶法令。言刑名彰著，法令滋繁，有布凝脂，無開三面，不堪苛虐，逃竄者多，因生濫竊，盜賊斯起。所謂政之愈巧，避之愈密。此一句重釋以政。

第四，援引聖人，顯無爲之美。

故聖人云：我無爲民自化。

主上虛淡無爲，下民自化，改惡從善。老君自是聖人，摛謙託諸他聖。故莊子云：寓言十九也。

我無事民自富。

心既無爲，迹又無事，四民各業，六合同歡，輕徭薄賦，不富何爲！

我好靜民自正。

在上好靜，不擾於民，民稟淳風，自歸正道。

我無欲民自樸。

君上寡欲少私，清廉潔素，則百姓知足守分歸於淳樸也。自聖人以下數句，並釋無事取天下之義。

（以上第五十七章）

《其政章》所以次前者，前章明有道之君，無爲而治，無道之主，法令滋繁，故次此章，廣辯有道之治悶悶，無道之化察察，義味相接，所以次之。就此一章，分爲四別：第一，明寬急二治，損益不同。第二，明禍福兩徒，倚伏無定。第三，歎凡迷日久，非適今生。第四，顯聖人忘功，韜光晦曜。

第一，明寬急二治，損益不同。

其政悶悶，其民淳淳。

悶悶，寬裕也。淳淳，質樸也。言君上無爲，布政寬裕，下民從化，皆多淳樸也。

其政察察，其民缺缺。

察察，嚴速也。缺缺，零落也。上好有爲，爲政迫遽，民遭其暴，故多零落也。夫治身者，亦宜虛忘寬簡，不得執心急速也。

第二，明禍福兩徒，倚伏無定。

禍，福之所倚；福，禍之所伏。

倚，因也。伏，匿也。言悶悶則致福，察察則招禍，此之二事，近由一心。福則倚在禍中，禍則伏在福內，其則不遠也。

**孰知其極，其無正。**

孰，誰也。言禍福之徵，起乎善惡，業既不定，報亦隨之。所以輪轉三羅，迴還六道，千變萬化，誰知其極乎？唯上士達人，忘我濟物，體茲正道，悟彼重玄，不爲善惡之因，故無禍福之報。莊子云：禍亦不至，福亦不來，禍福無有，惡有人災。今所以輪轉無極者，爲其不懷正道故也。

第三，歎凡迷日久，非適今生。

**正復爲奇。**

奇，虛詐也。假使有心學於正道者，則執正爲正，未解忘遣，不與實性相應，故爲虛詐也。

**善復爲祆。**

縱爲善者，猶執名言，既乖正理，適爲祆孽。故莊子云：爲聲爲名，爲祆爲孽。

**人之迷，其日固久。**

言凡鄙之人，所以爲祆爲奇者，以其愚癡迷惑故也。此之迷惑，其日固久，抑乃無始，豈曰今生。《西昇經》云：如是迷來久。

第四，顯聖人忘功，韜光晦曜。

**是以聖人方而不割。**

聖人體道方正，軌則蒼生，隨機引誘，因循任物，終不宰割，使從己也。此則舉聖戒凡，令其修學。

**廉而不穢。**

妙體物境空幻，無可貪取，非關卓爾清廉，避世之穢害也。斯則淨穢雙遣，貪廉兩忘，不廉而廉，穢而不穢。故莊子云：大廉不慊。又云：廉清不信。

**直而不肆。**

肆，申也。素質雅正，體無邪諂，而曲從於物，不申己直。故前章云：大直若屈也。

**光而不耀。**

智慧光明，無幽不照，而韜光晦迹，不炫於物，忘其照也。莊子云：滑疑之

耀，聖人圖而域之也。

（以上第五十八章）

《治人章》所以次前章者，前章正明用道而治，以致淳和，故次此章，重明治人事天，無過用道。就此章內，文有四重：第一，明攝化蒼生，莫先用道。第二，明雖復用道，必須積行累功。第三，明積行累功，可爲化主。第四，明深根寧極，久視長存。

第一，明攝化蒼生，莫先用道。

**治人事天莫若式。**

天，自然也。式，法也。莫若，猶無過也。言上合天道，下化黎元者，無過用無爲之法也。

**夫唯式，是以早伏。**

歎此無爲之法，獨能自利利他，用之治身，則制諸魔試，用之治國，則遠荒歸伏。

第二，明雖復用道，必須積行累功。

**早伏謂之重積德。**

重，深重也。積，累積也。言欲內制魔試，外伏遐蕃者，必須積累功行，其德深重，方可遠伏也。

**重積德則無不克。**

克，勝也。亦言得也。言累積功行，其德深重，自利利他，無所喪失，內外制伏，無不獲勝也。

**無不克，莫知其極。**

能所相應，理無不契，道深功遠，莫能知其窮極者也。

第三，明積行累功，可爲化主。

**能知其極，可以有國。**

既理無不契，深遠無極，故可以有國莅民，爲王侯化主也。

**有國之母，可以長久。**

既爲帝王國主，慈育蒼生，視物如子，故云之母。德行雖高，功成不處，無爲虛淡，故可長久。

第四，明深根寧極，久視長存。

**深根固蒂，長生久視之道。**

根，本也。蒂，迹也。根能生蒂，以譬本能生迹。迹而本曰深根，本而迹曰固蒂。夫根不深則傾危，蒂不固則零落。只為根深所以長生，蒂固所以久視。此明有國聖人本迹俱妙。故結云長生久視之道。視，明照也。

（以上第五十九章）

《治大國章》所以次前者，前章正明積行累功可為化主，故次此章，即顯化主用道無為。就此一章，分為三別：第一，舉譬，明用道之能。第二，正說，示降伏魔試。第三，明幽顯守分，德惠相歸。

第一，舉譬，明用道之能。

**治大國若烹小腥。**

烹，煮也。腥，魚也。河公作“鮮”字，亦魚也。言煮小魚，撓之則糜爛，任置即自全，喻理國無為即太平，躁動則荒亂。

第二，正說，示降伏魔試。

**以道莅天下，其鬼不神。**

莅，臨也。言用正道以臨天下者，使邪魅之鬼不敢為妖孽之患也。

**非其鬼不神，其神不傷人。**

神，靈驗也。非此鬼無靈驗也，但福祐於人，不損傷於物也。治身者鬼以諂曲為義，即是擾動邪淫之心也。言以正道治身，諂媚之心不能傷於正行。從心使動，即為真照，故不傷人也。

**非其神不傷人，聖人之不傷人。**

諸本皆作“亦”字，唯張係師及陸先生本作“之”字，然之、亦二字相似，故誤作亦字，今用之為是。言非此鬼之不傷物，但為聖人以道莅天下，能制伏邪惡，故鬼不復傷害於人。力在聖治，故云聖人之不傷人也。治身者言非但動心不能傷行，為以聖智制伏，故雖動而不傷寂也。

第三，明幽顯守分，德惠相歸。

**天兩不相傷，故德交歸。**

兩，謂鬼處於陰、人處於陽，幽顯得所，不相傷害，而各守其分，兩無讎

聞，遂乃人施德於鬼，鬼恩惠於人，恩德往來，故交相歸附也。治身者攝動歸寂，以成己行，從寂起動，以應蒼生，動不乖寂，故無傷害，所以內外兩行，交歸於己也。既即動即寂，何所攝耶！今明不攝而攝，不應而應，非應之而應者也。

（以上第六十章）

《大國章》所以次前者，前章明用道無爲，而能降伏魔試，故次此章，即明用道接物，守靜謙和，就此一章，義開三別：第一，明接物謙和，以靜攝躁。第二，明小大守分，各用雌柔。第三，明高者抑之，以息跨企。

第一，明接物謙和，以靜攝躁。

**大國者下流，天下之郊。**

大國即萬乘之邦。郊，郭外也。之，往也。言大國虛容，譬於江海。江海處衆流之下，故百川競注。大國用道謙柔，故萬邦歸往，朝宗慕義，滿於郊郭也。本亦作“交”字者，言大國行謙，故與小國交會也。

**天下之郊牝，常以靜勝牡。**

天下之郊，牝前文以生後句也。牝，雌靜也。牡，雄躁也。言大國所以能令諸國款附而交會者，常用謙和雌靜，故能勝於雄躁也。若用剛躁，則不能致也。是知治身治國，莫不以柔順爲先也。

第二，明小大守分，各用雌柔。

**故大國以下小國，則取小國。**

以，用也。下，謙遜也。取，攝化也。言聖人君臨大國，善用謙柔，故能攝化萬邦，遐邇款附，重譯來貢，不亦宜乎！

**小國以下大國，則聚大國。**

小國自知卑下，守分雌柔，聚於大國之中，欽風慕義也。

**故或下而取，或下而聚。**

或，不定也。言小國用柔，故聚於大國。大國用下，故取得萬國之歡心，用下則同，聚取斯別，故言或也。

**夫大國不過欲兼畜人，小國不過欲入事人。**

大國所以用謙者，更無餘意，不過欲兼愛畜養小國；小國用柔者，亦無餘

心，不過欲入大國之中，慕德接事也。

第三，明高者抑之，以息跨企。

夫兩者各得其所欲，故大者宜爲下。

兩者，謂大小二國。兼畜入事，各遂其心，雖復大小俱用柔和，而大宜偏行謙下。何者？夫物必以大輕小，未嘗以小陵大，故令大者爲下，此則高者抑之之義也。

（以上第六十一章）

《道者章》所以次前者，前章正明守靜謙和、接物用道，故次此章，即顯道體冲奧，令物歸依。就此一章，義開四別：第一，顯道能包容，勸物珍重。第二，明不棄愚鄙，恒布大慈。第三，料簡利害，以明勝負。第四，假設疑問，歎道功能。

第一，顯道能包容，勸物珍重。

道者萬物之奧。

道者，虛通之妙理，衆生之正性也。奧，深密也，亦府藏也。言道能生成萬有，囊括百靈，大無不包，故爲萬物府藏也。

善人之寶，

修道善人，達見真情，得玄珠於赤水，故能寶而貴之。

不善人所不保。

保，守持也。流俗之人，耽滯物境，性情浮競，豈能守持哉！

美言可以市，尊行可以加人。

不善之人，心行澆薄，言多佞美，好爲飾辭，猶如市井，更相覓利，又不能柔弱撝謙，後身先物，方自尊高已行，加陵於人。不善之徒，言行如是，其於道也，不亦遠乎！

第二，明不棄愚鄙，恒布大慈。

人之不善，奚棄之有。

奚，何也。言聖道冥通，救物弘普，縱使衆生不善，何有棄心，明慈救覆被，接濟無遺。

故立天子、置三公。

既能接物無遺，宜設濟世之法。故立天子以統萬機，置三公坐而論道，調理陰陽，緝熙治政，意在舟航庶品，亭毒群生。自開辟以來，真君出世，體道權應，而爲帝王，所以上象三清，而置僚署也。

第三，料簡利害，以明勝負。

**雖有拱璧以先駟馬，不如坐進此道。**

拱璧，即拱把之璧，圓全大璧也。駟馬，一乘之車也。古者召士，必先齋拱璧，後遣駟馬。言縱有高蓋全璧，富貴榮華，亦不如無爲坐忘，進修此道。何者？夫修道可以長生，富貴適爲大患。故廣成子云：人生處世，如雲翔空，氛藹俄爾。以此格量，不如遠矣。

第四，假設疑問，歎道功能。

**古之所以貴此道者何？不日求以得，有罪以免，故爲天下貴。**

言曩者聖人，所以珍貴此道者何耶？只爲不經一日求之則得。此言悟者目擊道存，迷者累劫不會也。假使無始以來，生死罪譴，一得還源，可以頓免，有此神力，不可思議，故爲天下人間之所尊貴也。

（以上第六十二章）

《爲無爲章》所以次前者，前章正明勸物歸依，有罪以免，故次此章，即顯歸依之術、免罪之方。就此一章，義開三別：第一，明動不乖寂，是歸依之方。第二，明制伏初心，是免罪之術。第三，戒凡舉聖，以勗行人。

第一，明動不乖寂，是歸依之方。

**爲無爲，**

妙契心源，不失真照，照達有爲即無爲也。故無爲即爲，爲即無爲也。

**事無事，**

事者，色聲物境，一切諸事也。妙體真宗，照不乖寂，雖涉事有，而即有體空，內則雖照而無心，外則雖涉而無事也。

**味無味。**

味者，染著之謂也。根塵兩空，境智雙寂，雖復取染而無滯也。

**大小多少，報怨以德。**

怨，罪懟也。報，酬償也。言無始以來，大小之罪，多少之業，令盡滅除，



頓償使了者，必須用前爲事味等三種德心觀之，則三世皆空，萬法虛淨，物我冥一，何懟之有。故前章云：有罪以免耶，斯之謂也。

第二，明制伏初心，是免罪之術。

**圖難於易，**

圖，謀度也。難，罪報也。易，初心也。言欲謀圖遣却惡道之艱難者，必須觀察初心，心既無作，則無報也。

**爲大於細。**

細，小也。爲巨釁者，本乎微小，此明欲滅惡果，先須遣因也。

**天下難事必作於易，大事必作於小。**

作，起也。夫天下艱難罪報，必起自易心。言一念初心，造業甚易也。故重考大殃必起於小，從微至著，漸成巨累。所以欲除惡報，先制初心。

第三，戒凡舉聖，以勗行人。

**夫輕諾必寡信。**

此起喻也。諾，然許也。寡，少也。夫輕易許諾於人者，必少信實。故後則貽於寡信之責也。

**多易必多難。**

此合喻也。夫輕易然許，則致寡信之責，亦猶輕易爲罪，必招八難之殃。故修道之士，應須凝重，不可輕率也。

**是以聖人猶難之，故終無難。**

猶，尚也。體道聖人，實無難易，而尚難罪不爲，故無艱難之責，況在凡俗而縱情乎！此舉聖戒凡也。故郭注《莊子》云：聖人雖入火不熱，而未嘗蹈火。又云：遠火而非逃熱。即斯義也。

（以上第六十三章）

《其安章》所以次前者，前章雖明滅罪之術，於行未圓，故次此章，重顯其義。就此章內，義開四別：第一，法說，令制伏初心。第二，舉喻，明罪從微起。第三，明衆生迷執，乖理喪真。第四，引聖證成，示其學趣。

第一，法說，令制伏初心。

**其安易持。**

安，靜也。持，守也。言行人靈府寂泊，未起攀緣。如此之時。甚易修守也。

**其未兆易謀。**

兆，狀也。謀，圖也。其次雖起心緣取，而於境未有形狀，即宜攝心歸靜，於業未成，故易謀慮也。

**其脆易破，其微易散。**

脆，虛軟也。猶如果瓜，結實未堅，虛脆易破，初心起染，亦復如是，結業微淺，故易除散也。

**爲之於未有。**

爲，修學也。言行人修守，當在未有緣染之時。此解其安易持也。

**治之於未亂。**

亂者謂結業已成，爲業所牽，精神昏亂也。今明心雖起染，於境未見，當爾之時，易爲治理。此解其未兆易謀也。

第二，舉喻，明罪從微起。

**合抱之木，生於毫末。**

夫百圍大木，生於毫微，喻三塗重疊，原乎一念，而以木爲喻者，言木從小至大，遂能蔭蔽日光，譬染心從微至著，亦能覆蓋真性也。若推此樹，起自虛無，即空而言，樹亦非有，爲四塵所成故也。煩惱爲義，起自虛無，即空而言，亦非有也。

**九重之臺，起於累土。**

重猶級也。言九級之臺，起於一簣之土，喻九夜之禍，起於一念染心，勗諸學者，深宜戒慎。

**百仞之高，起於足下。**

河上本作“千里”，此言百仞。七尺曰仞，夫陟百仞之高岑，發自初步，履八門之苦難，起自染心。前寄九重，明結業已成，此託百仞，況方造未息也。

第三，明衆生迷執，乖理喪真。

**爲者敗之，執者失之。**

至道虛玄，無爲無執，凡情顛倒，有執有爲，爲即危亡，故言敗之，執乖實當，故言失之。

第四，引聖證成，示其學趣。

是以聖人無爲故無敗，無執故無失。

聖人體道無爲，故無墮敗，虛忘不執，故不喪其真。

民之從事，常於幾成而敗之。

幾，近也。凡人從於有爲之務，執心躁進，分別取捨，曾無遠見，每欲近成，有始無卒，故多敗也。《書》云：靡不有初，鮮克有終。

慎終如始，則無敗事。

此戒慎學人，令道心堅固，始終若一，豈有敗乎？六度之中，終當第四也。

是以聖人欲不欲，不貴難得之貨。

聖人靈照自天，不同凡智，了知諸境空幻，不見可欲之物，故於欲中，即不見欲相，既於欲不欲，何玉帛之可貴乎？

學不學，備衆人之所過。

又達真假無差，故能忘學，學即不學，不學即學，學異不學，不學異學。故《西昇經》云：吾學無所學，乃能明自然。河上本作“復”，諸家作“備”。備，防也。衆人執滯有爲，不能忘學，故說學不學者，以防衆生之過患也。

以輔萬物之自然而不敢爲。

輔，助也，導也。言一切衆生皆稟自然正性，迷惑妄執，喪道乖真。今聖人欲持學不學之方，引導令其歸本。但聖人窮理盡性，亦無爲無不爲。今言聖人不爲者，示欲輔導群生，復彼自然之性，故言不敢爲也。

（以上第六十四章）

《古之章》所以次前者，前章舉聖人忘學，而能輔導衆生，故次此章，即顯忘學之人，濟物之行。就此章內，義分有三：第一，引古證今，用遣分別。第二，料簡勝劣，以爲楷模。第三，反俗合真，示其妙趣。

第一，引古證今，用遣分別。

古之善爲道者，非以明人，將以愚之。

爲道，猶修道也。言古昔善修道之士，實智內明，無幽不燭，外若愚昧，不曜於人，閉智塞聰，韜光晦迹也。

人之難治，以其多智。

治，理也。智，分別也。言衆生所以難理者，爲心多分別，不能虛忘，故難化也。

第二，料簡勝劣，以爲楷模。

故以智治國國之賊，不以智治國國之德。

若用明察俗，以智治物者，既乖淳和，又同賊害。而無欲無爲，至虛至靜，忘心遣智，尸居玄默，以斯馭世者，其唯上德乎？以此格量，勝劣可見，治國既爾，身亦宜然。

知此兩者亦楷式。

兩者，謂前文智與不智也。能知用智爲賊、不智爲德者，則可爲修身之楷模、治國之洪範也。

常知楷式，是謂玄德。

常能知無分別爲治身之楷式者，可謂深玄之大德也。

第三，反俗合真，示其妙趣。

玄德深遠與物反。

冥真契道，謂之玄德。窮源極際，謂之深遠。深遠之智，智乖於俗，故與物反。

然後乃至大順。

順有兩種：一順於理，二順於俗。順理則契於妙本，順俗則同塵降迹。問曰：前言反物，後言順俗，前反後順，文豈類乎？答曰：前言反者，此明不反而反，後言順者，亦不順而順。不順而順，順不乖反；不反而反，反不乖順，亦何所嫌耶！問曰：經稱大順，順亦有大小乎？答曰：夫以順對違，雖順而小。今不順不違，而違而順，順不異違，違不乖順，所以出處語默唯道是從，和光同塵而恒順於理，不問順與不順，不順與順，一時皆順。是故無順無不順，亦能順能不順，乃至非順非不順，故名爲大順。

（以上第六十五章）

《江海章》所以次前者，前章正明玄德之人反俗順道，故次此章，廣顯順道之行。就此一章，義開三別：第一，舉譬，以表虛忘。第二，法說，用彰謙退。第三，結歎柔弱之能。

第一，舉譬，以表虛忘。

**江海所以能爲百谷王者，以其善下之。**

王，往也。百谷，猶百川也。言江海所以爲百川之所歸往者，以其善居窪下之地也。人能退身謙下、虛柔容物者，亦爲蒼生之所歸往也。

**故能百谷王。**

此結成其義，故經云海爲百川王也。

第二，法說，用彰謙退。

**是以聖人欲上人，以其言下之。**

欲令一切衆生居己之上，所以言貌柔和，恒自謙下。

**欲先人，以其身後之。**

欲令衆生在己先度，所以退身居物之後。故經云：一切未得度，我常不有望。前則處下而反高，此則守退而翻進也。

**是以處上而民不重，**

聖人恬淡無爲，少思寡欲，故處民之上爲君，而使輕徭薄賦，無重勞也。又解云：聖人恩覃於萬物，故百姓荷戴而不辭也。

**處前而民不害。**

處物之前，而爲君主，遂使民歌擊壤，宇內清夷，利物弘多，而無損害。又解云：聖德遐曠，百姓樂推，懷荷恩澤，豈敢傷害。

第三，結歎柔弱之能。

**是以天下樂推而不厭，以其無爭，故天下莫能與之爭。**

所以百姓樂推在前而不厭倦者，只爲善能謙和，不與物爭故也。既違順平等、是非永息，誰復與不爭者爭乎？故天下莫能與之爭也。

（以上第六十六章）

《天下章》所以次前者，前章正明善能謙下，翻得處高，故次此章，廣辨功能，具陳三寶。就此章內，義有五重：第一，示不矜誇，故能高大。第二，具陳三寶，令物歸依。第三，重叠三寶，歎其功用。第四，行乖三寶，淪溺死生。第五，總歎大慈，功能勝妙。

第一，示不矜誇，故能高大。

天下皆以我大，不笑。

河上本作“肖”，諸家云笑。笑者，言老君體達自然，妙果圖極，故天下蒼生莫不尊之爲大聖也。何意得如此耶？只爲接物謙和，不矜誇嗤笑於物，故致然也。

夫唯大，故不笑，若笑，久其小。

獨由聖德高大，故不誇笑於物，若其誇笑，久是群小也。河公本作“肖”字，云不肖猶不善，言衆生不能履於善道者，皆爲我大故也。獨由憍慢我大，所以不善，若能履行善道者，久當卑小謙退也。

第二，具陳三寶，令物歸依。

我有三寶，寶而持之。

老君所以聖德高大，獨不誇笑於物者，爲歸依三寶，寶重而守持之，故能然也。

一曰慈，

愍念蒼生，拔苦與樂，此道寶也。

二曰儉，

少欲知足，守分不貪，此經寶也。

三曰不敢爲天下先。

謙撝柔弱，先物後己，退身度人，此師寶也。

第三，重叠三寶，歎其功用。

夫慈故能勇。

內韞大慈，外弘接物，所以勇入三界，俯救蒼生。

儉故能廣，

諸法虛幻，捨而不貪，儉素清高，故其德廣大。

不敢爲天下先，故能成器長。

只爲勇救蒼生，退身度物，故居界外，則獨處玉京，爲衆聖之長，降世則位居九五，爲神器之尊。

第四，行乖三寶，淪溺死生。

今捨其慈且勇，

捨去慈悲，且好行剛勇。

捨其儉且廣，

棄其儉素，而廣貪於物。

捨其後且先，

忘退後之心，起趨先之行。

死矣。

總結上三捨，既行乖三寶，適淪溺三塗，故言死矣。

第五，總歎大慈，功能勝妙。

夫慈以陳則勝，

以大慈之心，臨於戰陣，士卒感恩，所以勝捷。《內解》：即是六根兵馬，對於六塵，不爲塵沒，故獲勝也。

以守則固，

用慈守衛，百姓同心，是以牢固。《內解》：以慈心自守虛靜，則道心堅固，不可拔也。

天將救之，以慈衛之。

天尊大道，救度行慈之人，還用慈悲，俯相衛護也。故三寶之內，以慈爲先，四等之中，用慈爲首，是知慈之爲義，其大矣哉！

（以上第六十七章）

《古之章》所以次前者，前章具陳三寶，歎美大慈，故次此章，即顯能持三寶之人，會於古之極道。就此一章，義開三別：第一，援引古實，以勗行人。第二，略舉三善，顯其勝行。第三，結成極道，歎美功能。

第一，援引古實，以勗行人。

古之善爲士者不武，

言古者善修道之士，靜退無爲，不捨慈而爲武勇也。

第二，略舉三善，顯其勝行。

善戰不怒，

善達前境虛幻，故能制敵於未萌，妙體違順兩空，是以心無喜怒也。

善勝敵不爭，

不爲塵染，名曰勝敵，既無喜怒，何所爭耶？

善用人爲下。

夫能行謙下者，必爲物之所歸，故能役用於人也。

第三，結成極道，歎美功能。

是謂不爭之德，

不與物爭，故能成己之德，此結善勝敵不爭也。

是謂用人之力，

謙下雌柔，不用於物，物必歸之，而爲己用，此結善用人爲下也。

是謂配天古之極。

配，合也。天，自然也。極，道果也。言善修道之士，妙體真空，達於違順，不與物爭，故能合至理之自然，契古始之極道，此總結成也。

（以上第六十八章）

《用兵章》所以次前者，前章明守持三寶之人，能會古之極道，故次此章，即明此人，雙遣空有，不捨大慈。就此一章，義開四別：第一，明接物運權，示根塵總幻。第二，重辨前義，以顯真空。第三，明捨慈之人，輕敵失道。第四，明涉境運智，無出大慈。

第一，明接物運權，示根塵總幻。

用兵有言，

用兵，謂用權智，攝化蒼生，亦是行人用六根涉於塵境，有言者有用兵之法，言在下文也。

吾不敢爲主而爲客，

主者，我身也。客者，前塵也。言根塵兩空，物我俱幻，既無我身之能緣，亦無前塵之可染也。

不敢進寸而退尺。

進，取也。退，捨也。寸少以況無，尺多以況有也。既而境智雙遣，根塵兩幻，體茲中一，離彼二偏，故無無爲之可取，亦無有爲之可捨也。

第二，重辨前義，以顯真空。

是謂行無行，

既遣蕩有無，又洞忘境觀，故以無行爲行也。

攘無臂，



隳肢體，故無臂可攘。

執無兵，

離行去智，故無兵可用。

仍無敵，

物境空幻，無敵可因。

第三，明捨慈之人，輕敵失道。

禍莫大於侮敵，

侮，輕陵也。敵，前境也。輕染諸塵，致三塗之報，故成大禍也。

侮敵則幾亡吾寶。

幾，盡也。寶則前章三寶也。捨慈而勇，謂之侮敵，招於巨釁，故盡喪三寶也。

第四，明涉境運智，無出大慈。

故抗兵相若，則哀者勝。

若，當也。哀，慈也。抗，舉也。言根塵相逼，舉眼色等相當也。仍以大慈之心，虛察前境，則能所兩空、物我清靜，一切諸法，皆成勝妙之境也。

（以上第六十九章）

《吾言章》所以次前者，前章正明接物運權，示真空之道，故次此章，即明所說之教，歎物不能知。就此一章，文開二別：第一，歎至教易知，而凡不能解。第二，舉聖人妙達，故外蔽內明。

第一，歎至教易知，而凡不能解。

吾言甚易知，甚易行。

吾言，即前章是也。所學非染，此則易知也；行無行相，甚易行也。

天下莫能知，莫能行。

莫，無也。老君之言，甚易知甚易行，而天下衆生，昏迷愚鈍，無能知至言虛妙，依教而行者也。

言有宗，事有君。

言，經教也。君，天子也。至言雖廣，宗之者重玄；世事雖繁，統之者君主。舉此旨要，以表易知。

夫唯無知，是以不吾知。

不吾知，猶不知吾也。唯彼衆生，無知頑鈍，故不能知我之至言也。

知我者希，

凡情浮淺，蒙昧者多，體知聖教，甚自希少也。

則我者貴。

則，法也。依我經教，則而行之，證於聖果，所以爲貴。

第二，舉聖人妙達，故外蔽內明。

是以聖人被褐懷玉。

知於聖言，則於聖教，解行具足，故成聖人。褐是野人之服，玉是珍貴之寶；外迹同塵，被褐也。內心虛靜，懷玉也。懷玉也，迹處俗而恒真；被褐也，心虛凝而接物。

（以上第七十章）

《知不知章》所以次前者，前章明聖人知道，故外蔽內明，故次此章，明雖復能知，而無知相。就此一章，義分二別：第一，明迹本本迹，顯應物隨機。第二，明寂應應迹，彰聖心無累。

第一，明迹本本迹，顯應物隨機。

知不知，上。

聖人妙契重玄，迹不乖本，洞忘虛遠，知則無知，至本虛凝，故稱爲上。故莊子云：孰知子之不知耶？曰：吾惡乎知之也。

不知知，病。

自本降迹，無知而知，涉世救苦，故稱爲病。

第二，明寂應應寂，彰聖心無累。

是以聖人不病，

聖人能所兩忘，境智雙遣，玄鑒洞照，御氣乘雲，本迹虛夷，有何病累。

以其病病，是以不病。

聖人無知覺之疵，而凡庸有分別之病，爲病衆生之病，所以降迹同凡，說法闡教，志存救溺，既而不病而病、病而不病，故云不病也。

（以上第七十一章）

《民不畏威章》所以次前者，前章明聖心忘知，而能應物之病，故次此章，即顯治病之術、愈病之方。就此一章，義分三別：第一，明凡不畏威，必招惡報。第二，勸處心寬裕，方會真源。第三，明舉聖證成，示其取捨。

第一，明凡不畏威，必遭惡報。

**民不畏威，則大威至。**

威，謂威刑，即諸經戒科目是也。大威，即三塗惡趣，北都羅酆之刑法也。言凡夫不憚經戒，妄造諸惡者，則風刀大刑必將至也。

第二，勸處心寬裕，方會真源。

**無狹其所居，無厭其所生。**

厭，捨也。狹，局也。居，安處也。所生，心也。言修道行人，必須處心無係，不得域情狹劣、厭離所生。何者？夫身雖虛幻，而是受道之器，不用耽愛，亦不可厭憎。故耽愛則滯於有爲，厭憎則溺於空見。不耽不厭，處中而忘中，乃真學道者也。

**夫唯不厭，是以不厭。**

唯被所修之境，非空非有，故能修之智亦不愛不憎、境智相符，是以不厭也。

第三，明舉聖證成，示其取捨。

**故聖人自知不自見，**

智符道境，了達真源，故自知也。四大假合，坐忘隳體，不自見也。

**自愛不自貴。**

保養真性，不輕染欲，故自愛也。謙卑靜退，先物後己，不自貴也。

**故去彼取此。**

去彼自見自貴，取此自知自愛。欲示物鑒戒，故寄去取而爲言也。

（以上第七十二章）

《勇於敢章》所以次前者，前章明無知衆生，不畏威刑，淪溺三塗，故次此章，重明此人，勇進有爲，故歸流生死。就此一章，義開三別：第一，明凡聖二行，利害不同。第二，明福善禍淫，出乎天理。第三，結天網寬大，而報應無差。

第一，明凡聖二行，利害不同。

勇於敢則殺，勇於不敢則活。

勇，猛進也。敢，果決也。殺，死滅也。活，長生也。言進心果決，貪於世事，則死滅也。若進心虛淡，不敢貪染，即長生也。

此兩者或利或害。

或，不定也。兩，謂敢與不敢也。言進心不敢，則得長生，故利；進心貪染，歸於死滅，故害也。

第二，明福善禍淫，出乎天理。

天之所惡，孰知其故。

天然之理，福善禍淫，推窮報應，莫知其宰。

天之道不爭而善勝。

自然之道，不與物爭，而謙退卑己者，必獲於善勝之報也。

不言而善應，

禍福之報，其猶影響，不待言辭，而善惡必應。

不召而自來，

善惡報應，隨其行業，不待呼召，而必自來也。

不言而善謀。

謀，計數也。言幽冥之理，無勞言說，而善能計算功過，毫分無失也。

第三，結天網寬大，而報應無差。

天網恢恢，疏而不失。

恢恢，寬大也。網，憲法也。言天尊自然之網，甚自寬大疏遠，而業無大小，功過酬報，終無差失也。

（以上第七十三章）

《民不畏死章》所以次前者，前章明衆生不畏威刑，必遭天網，故次此章，明於天網，自有冥司。就此一章，義開四別：第一，明衆生障重，不懼威刑。第二，明爲罪既深，必招苦報。第三，明此苦報，自有冥司。第四，明強代冥司，反獲其咎。

第一，明衆生障重，不懼威刑。

民不畏死，奈何以死懼之。

此斥凡情迷惑，染滯深重，貪逐前境，不憚死生。雖復經戒嚴明，曾無恐懼，故發奈何之歎，深哀痛之。

第二，明爲罪既深，必招苦報。

**若使常不畏死而爲奇者，吾執得而殺之，孰敢？**

貪欲之心，日生奇詐，堅執顛倒，遂以爲常者，冥司捕獲，執而殺之，風刀考楚，經文明證，若有性識之夫，誰復敢造罪耶？

第三，明此苦報，自有冥司。

**常有司殺者殺。**

此之刑網，自有宰牧，即三官九署，百二十曹，及北都羅酆泉曲之府。八難五府，各有司存。

第四，明強代冥司，反獲其咎。

**夫代司殺者，是代大匠斲，夫代大匠斲，希有不傷其手。**

衆生造業，各招其報，刑辟苦楚，自有冥司，無識之人，師心專輒，強代冥司，而行誅戮者，何異庸拙之士，代匠運斤。夫拙士運斤，工非其任，豈唯所作不成，抑乃反傷其手。強代司殺，其義亦然，非徒濫職，翻獲其釁也。

（以上第七十四章）

《人之飢章》所以次前者，前章正明衆生爲罪既深，必招苦報，故次此章，即明所以獲斯苦報，爲耽著有爲，故此章中，具明有爲之狀。就此一章，義開三別：第一，明衆生所以無德，爲耽染有爲。第二，明衆生所以殘年，爲資生太甚。第三，示忘生之美，以勗行人。

第一，明衆生所以無德，爲耽染有爲。

**人之飢，以其上食稅之多，是以飢。**

飢，謂內無德也。上，心也。心爲五臟百行之主，故稱爲上也。稅，聚斂也。食，滋味也。言行人所以不懷者，爲心緣前境，多貪滋味故也。是以飢，結前義也。

**百姓之難治，以其上有爲，是以難治。**

所以百姓馳驚、紛然難理者，只爲心耽有爲故也。心若無爲，則諸行易治也。是知萬境唯在一心，是以難治，結前也。

第二，明衆生所以殘年，爲資生太甚。

**人之輕死，以其生生之厚，是以輕死。**

行人所以不終天年，而輕入死地者，以其迷情顛倒，未能悟達，不知物我俱幻，即生無生，既而多貪六塵、厚資四大故也。是以輕死，結前義也。

第三，示忘生之美，以勗行人。

**夫唯無以生爲者，是賢於貴生。**

賢，善也。玄悟之士，非色滅空，嗒焉坐忘，而生無生相，是以膾炙榮利，厭穢風塵，故獨不以生爲生者，是善能攝衛貴生之人也。

（以上第七十五章）

《人之生章》所以次前者，前章明生生之人，翻致輕死，忘生之者，反獲長生，故次此章，明柔弱之類必獲長生，剛強之徒體歸死滅。欲料簡勝劣，所以次之。就此一章，義分三別：第一，雙舉二喻，以況剛柔。第二，合喻，辯其勝劣。第三，法喻並陳，重結其義。

第一，雙舉二喻，以況剛柔。

**人之生柔弱，其死堅強。萬物草木之生柔脆，其死枯槁。**

言人生存有命，則枝節柔弱，及其死也，則骨肉堅強。草木之類，生時軟脆，及其死也，條柯枯槁。所以生而柔軟者，和氣存也；死而堅強者，和氣離也。舉此有識無識爲喻者，意在勗勵學人，令去剛用柔也。

第二，合喻，辯其勝劣。

**故堅強者死之徒，柔弱者生之徒。**

徒，類也。是知行剛強者，乖於和理，故與死爲類；行柔弱者，順於和氣，故與生爲徒。此合喻也。

第三，法喻並陳，重結其義，

**是以兵強則不勝，木強則共。**

兵謂三毒六根也。言人縱恣六情，強暴前境，而貪取無厭者，必遭重殃大禍，故不勝也。譬樹木麓強，故枝條共壓其上，亦猶梁棟宏壯，故椽瓦共壓其上也。

**故堅強居下，柔弱處上。**

堅強之木居下，柔弱之條處上，故知堅強之人居九幽之下，柔弱之士處三清

之上也。

（以上第七十六章）

《天之道章》所以次前者，前章正辯剛柔勝劣，以勸行人，故次此章，重明剛柔損益，以進修學。就此章內，義分三別：第一，起譬，略示高下。第二，正說，廣明損益。第三，舉聖，結成其義。

第一，起譬，略示高下。

天之道，其猶張弓！高者抑之，下者舉之。

猶，喻也。自然之道，喻若張弓。舉下使高，抑高令下，高下調適，方可運箭。

第二，正說，廣明損益。

有餘者損之，不足者與之。

傲慢有餘者，必招損敗；謙和不足者，與其福善。天道如是，故似張弓。

天之道，損有餘補不足。

福善禍淫，自然之理，仍前生後，重出此文。

人道則不然，損不足奉有餘。

人間世道，好行浮僞，趨勢競利，違天背理，割損貧賤之不足，供奉富貴之有餘。

孰能有餘以奉天下，唯有道者。

孰者誰也。言誰能有餘財德以施天下蒼生乎？唯當體道之人獨能濟物？故下文云：聖人不積。而言奉者，示謙也。

第三，舉聖，結成其義。

是以聖人爲而不恃，成功不處，其不欲示賢爾。

體道聖人，常善救物，雖復財德兩施而不恃其勞，有大至功而功成不處者，意在撝謙退己，推功於物，韜光晦迹，不欲示見己之賢能也。

（以上第七十七章）

《天下柔弱章》所以次前者，前章對辯剛柔，具陳損益，故次此章，舉水爲喻，重顯柔弱之能。就此一章，義開三別：第一，起譬，明剛劣柔勝。

第二，合喻，歎凡不能行。第三，舉聖證成，示其正道。

第一，起譬，明剛劣柔勝。

天下柔弱莫過於水，而攻堅強莫之能先。

物性柔弱，無過於水；天下堅強，莫先金石。然水雖柔弱，利用無窮，攻擊堅強，莫在先者。無爲破有，其義亦然。

其無以易之。

言水能攻堅，百王不易之事；無爲破有，萬代不刊之術。

第二，合喻，歎凡不能行。

故柔勝剛，弱勝強，天下莫不知、莫能行。

水能攻於金石，故知柔弱勝於剛強，此乃愚智同知，而舉世無能依行者也。

第三，舉聖證成，示其正道。

是以聖人受國之垢，是謂社稷主。

國，邦域也。垢，辱也。言體道之士，處於人世，謙退柔弱，達於違從，身受屈辱，而不與物爭，故堪爲社稷之主，以牧蒼生也。

受國不祥，是謂天下王。

不祥，猶不善也。言聖人靈鑒虛通，達於善惡，若有不祥之事，輒自躬責，引過歸己，此可爲天下君王也。昔成湯自翦，千里來雲，即其事也。前言社稷，可寄諸侯，後舉天下，宜屬天子。

正言若反。

當理正言，似如反俗，何者？俗皆好善好榮，而今乃受垢辱不善，故若反也。而言若者，欲明不反而反，雖反不反。雖反不反，恒順於俗，不反而反，順俗而真。欲示反不定反，故加若也。上文云：玄德深遠與物反，然後乃至大順，即其義也。

（以上第七十八章）

《和大怨章》所以次前者，前章廣明剛強柔弱，其於至極，猶未洞忘，故次此章，蓋即遣前玄以彰重玄之致。就此章中，義開三別：第一，雖離二邊，未階極道。第二，明聖人虛會，妙契重玄。第三，辯有德無德，忘執之異。



第一，雖離二邊，未階極道。

和大怨，必有餘怨。

怨，懟也。即是有無美惡等一切待對之法也。言行人雖捨有無，得非有非無，和二邊爲中一，而猶是前玄，未體於重玄理也。此雖無待，未能無不待，此是待獨，未能獨獨，故有餘對。

安可以爲善。

安，何也。言雖遣二邊，未忘中一，故何可盡善也。

第二，明聖人虛會，妙契重玄。

是以聖人執左契不責於人。

契，信也，合也。左，陽也，生也。言體道聖人，境智冥符，能所俱會，超茲四句，離彼百非，故得久視長生。義言執左，此即不執而執也，猶如帝王握於左契，所以徵攝萬機，聖人妙契環中，故能匡御億兆。而言不責者，聖人雖復匡御衆生，而忘其德，芻狗百姓，故不責其恩報。

第三，辯有德無德，忘執之異。

故有德司契，無德司徹。

司，主也。徹，迹也。言上德之人，主意妙契，不執名言；無德之者，猶滯筌蹄，未能洞遣，迹既不泯，故言同徹也。

天道無親，常與善人。

天真之理，何有親疏，上善之人，自然符會，即向執左契，不責於人者是也。

（以上第七十九章）

《小國章》所以次前者，前章雖顯二玄之教，於行未圓，故次此章，正明從小入大。就此章內，文有四重：第一，明小學之人，不染塵境。第二，明虛心證理，捨教忘筌。第三，明反古還淳，和光同俗。第四，明體真會道，妙絕往來。

第一，明小學之人，不染塵境。

小國寡民，使有什伯之器而不用。

國，域也。謂域心住空，故言小國。即小乘寡欲之人，亦是謙小寡欲之行。器即六根十惡之兵器也。根雖有六，用乃無窮。言什伯者，舉其大數。而不用

者，言靜息諸根，不染塵境也。

**使民重死而不遠徙。**

諸行重靜，知足守分，故得終其天年，而不遠逐前境也。

第二，明虛心證理，捨教忘筌。

**雖有舟輿，無所乘之。**

舟輿，謂三乘教法也。舟在於水，能濟渡，喻教能舟航萬物、度於生死海也。故《西昇經》云：久曠生死海，隔絕貪愛流。輿處於陸，能輪轉，喻教能轉凡成聖也。得理忘言，故能遺教而不用也。

**雖有甲兵，無所陳之。**

雖有身心兵甲，隳體坐忘，物境既空，何所陳設？此一句復結前什伯之器而不用也。

**使人復結繩而用之。**

既虛心證理，捨教忘筌，故寄結繩，示其反本。此一句復結前雖有舟輿無所乘之也。

第三，明反古還淳，和光同俗。

**甘其食，美其服。**

甘其食，味至道也。美其服，德瑩身也。

**安其居，樂其俗。**

安其居，所在皆安，動而寂也。樂其俗，和光人世，寂而動也。

第四，明體真會道，妙絕往來。

**鄰國相望。**

鄰，近也。國，謂生死之域與道境也。言此二域，近在內心，故言相望也。

**鷄狗之聲相聞。**

鷄以司晨，狗以警夜，譬一切言教，警長昏之夜，伺智慧之晨也。此之言教，近詮一心，故云相聞也。

**使民至老不相往來。**

會理體真，即俗即道，既不從生死而來，亦無道境可往，二域既一，故不相往來，二際無際也。

（以上第八十章）

《信言章》即是第三大段，總結前旨，就此章內，義分有三：第一，明上德之人，妙絕言辯。第二，明上德之人，財德兩施。第三，總結上德，利物忘功。

第一，明上德之人，妙絕言辯。

**信言不美，美言不信。**

信，實也。美，浮艷也。言上德之人，冥真契道，所說言教，實而不華；浮艷之言，俗中小說，既乖至理，所以不信。故莊子云：犬不以善吠爲良，人不以善言爲賢也。

**知者不博，博者不知。**

知道之人，忘言絕學，所以不博；博學之士，耽滯名教，所以不知。故《西昇經》云：世人徒知有天地萬物，不知己之所由生，是大不知。又云：子能知一，萬事畢。莊子云：文滅質，博溺心。

**善者不辯，辯者不善。**

辯，別也。善體至道之人，指馬天地，故無可分別也。儒墨是非，堅執分別者，良由未證善道故也。

第二，明上德之人，財德兩施。

**聖人不積。**

積，聚也。言聖人有財惠物，有德教人，故不積也。

**既以爲人已愈有，**

既，盡也。爲，施化也。言己所有道德，盡持教人，而心無鄙吝，德彌高遠，故言愈有。此德施也。

**既以與人已愈多。**

所有財寶，盡持施散，而果報彌廣，故云愈多。此財施也。

第三，總結上德，利物忘功。

**天之道利而不害。**

天然之道，生成萬物，利益弘多，有何損害。

**聖人之道爲而不爭。**

聖人上德，法道虛通，施爲至教，化被群品，謙以自牧，成功不居，推功於物，故言不爭也。

（以上第八十一章）

上成玄英《道德經義疏》一編，係先君於1944年至1945年間所輯校者。1946年5月由四川省立圖書館用連史紙石印。印紙通高三十一公分，框高二十分公分又半，寬十三公分。四面單邊，烏墨行欄，每頁八行，行十七字。大黑口，上魚尾，魚尾下印書名、卷次，下印頁碼。深灰紙扣皮，雙白絲綫裝訂。全書由先大父君弼公泐藥紙漬石，彭雲生先生署簽，謝無量太夫子書內封面。次以楊正芳先生摹繪宋李公麟《九歌·國殤》圖，背面篆書“抗日戰役期中，校輯老子成疏，竣工之日，適逢勝利，唯兵不祥，群生芻狗，拳願國殤穀魄，早證三清，並禱永弭甲兵。天下安泰”四十八字，亦正芳先生手書。次郭有守《序》，楊正蕙先生書。全書分爲六卷，前三卷末各附《成疏》衍文、異文、疑文數事。先君另撰《校理〈老子成玄英疏〉叙錄》一篇，叙輯校始末與重玄學派源委及其要義，長二萬餘言，載《圖書集刊》第七期，與《成疏》一并发行，據敦煌《成疏》殘卷，書雖分章並有章題，然章章相連而未分隔，亦未將章題另標；且將《序訣》與經文相接，《義疏》則小字雙行列於當句下。輯校本將序訣、經文、義疏各自提行另寫，序訣低二格，經文頂格，義疏低一格，仍列於經文當句下，不再作小字雙行。並另注章次於書眉，以便檢閱。嗣先君以此法爲未善，擬“後日復印，當改注章次於書耳，以從宋人刻書之式”。今茲整理，改綫裝爲平裝，謹據《開題》所言分上下二卷，不再分六卷，序訣、經文、義疏仍依綫裝格式，三者並列。以無書耳可注，乃按其分章，於每章間空一行，並注其章次於每章末行括弧內，以示非原本所有，徒便紬繹而已。又將《叙錄》納於書內，列於編首，並據先君於自用本上之批語隨文改正。又嚴君平《道德指歸論》佚文已別輯另行，且自有《序言》，於輯錄撰述等事，皆有論列，故刪去《叙錄》中論《指歸》部分。原前三卷各卷所附《成疏》衍文、異文、疑文各條亦並移附編末作爲《校記》，並於各條注明章次。又於整理中見原校尚有未竟者四事，蓋亦智者千慮之一，故亦徑改，而作《校記補》以說明之。所改雖僅三字，然係擅改先人之書，不可不記其緣由也。又原輯校本之書簽、內封、《國殤圖》及篆書記事，雖皆精美之作，皆以不便印刷，不得已而並皆割愛。

據《新唐書·藝文志》，《成疏》全稱應爲“成玄英《老子道德經開題序訣義疏》”，計七卷；杜光庭《道德經廣聖義序》言成玄英作《講疏》六卷，先君因以爲其另一卷則所謂《開題序訣》也；且以強氏《道德經玄德纂疏》所引《成疏》既已備載《序訣》，則《開題》當係別自爲書。核以巴黎國民圖書館所

藏敦煌寫本，《序訣義疏》及《開題》並皆存有殘卷，與先君所忖度者兩相符合。《序訣義疏》今已輯為完帙，而《開題》則首尾並殘，竟不可補；所存略二千五百餘言，大體尚可籀讀，除載老子氏姓及降生年代、生平事迹外，其釋道德、重玄、三一諸義旨，並與《義疏》相合。且《開題》以釋題義為主，故其闡述論辨每詳於《義疏》；其“法體”段所載臧宗道論“三一”義，與強氏《纂疏》所引全同，強氏殆取自《開題》也；先君疑強引奪“而三一”三字，亦以寫本而得確證。其“宗體”段論漢唐間說《老》流派，亦為杜氏《廣聖義序》論“宗趣指歸”所拈取；其“文數”段論《老子》文止五千，亦證先君之以省字本校《成疏》經文之非臆測。是《開題》者誠如先君所言有若《周易孔疏》之首八論及杜氏《廣聖義》之前五卷，而為《成疏》之總綱焉，然而先君當時固未嘗見此殘卷也。《序訣義疏》中一再申言“委曲玄旨，具在開題義中”，是《開題》之與《序訣義疏》實相依倚而不可或離也。茲謹據影本，校其訛奪，粗為句讀，附錄編後，雖為殘卷，亦可以供研讀《成疏》者參究也。

蒙默 整理後記

1998年5月

## 附錄一：校記

《道可道章》（第一章）“道可道，非常道”下，強本引《成疏》：“夫道者何也？虛無之系，造化之根，神明之本，天地之源。其大無外，其微無內，浩曠無端，杳冥無對，至幽靡察而大明垂光，至靜無心而品物有方，混漠無形，寂寥無聲。萬象以之生，五音以之成，生者有極，成者心虧，生生成成，今古不移，此之謂道者也。元氣太虛之先，寂寥何有？至精感激，而真一生焉。真一運神，而元氣自化。元氣者，無中之有，有中之無，廣不可量，微不可察，氤氲漸著，混茫無倪，萬象之端，兆朕於此。於是清通澄朗之氣，浮而爲天，濁滯煩昧之氣，積而爲地，平和柔順之氣，結爲人倫，錯謬剛戾之氣，散爲雜類。自一氣之所育，播萬殊而種分。既涉化機，遷變罔極，然則生天地人物之形者，元氣也。授天地人物之霸者，神明也。故乾坤統天地，精魂御人物，氣有陰陽之革，神無寒暑之變。雖群動糾紛，不可勝紀，滅而復生，終而復始，而道德之體，神明之心，應感不窮，未嘗疲於動用之境矣。道重說，包億萬之天而不爲大，貫秋毫之末而不爲小，先虛無而不爲始，後天地而不爲終，昇積陽而不爲明，淪重陰而不爲晦。本無神也，虛極而神生，本無氣也，神運而氣化，氣本無質，凝委而成形，形本無情，動用而虧性，形成性動，去道彌遠。故溺於生死，遷於陰陽，不能自止，非道存而忘也。故道能自無而生有，豈不能使有同於無乎？有同於無，則有不滅矣。故生我者道，滅我者情，苟忘其情，則全乎性，性全則形全，形全則氣全，氣全則神全，神全則道全。故道全則神王，神王則氣霸，氣霸則形超，形超則性徹。性徹者，反覆流通，與道爲一，可使有爲無，可使虛爲實。吾將與造物者爲儔，奚死生之累乎已也？可道爲體，可名爲用。”上五百餘言，原在“衆生之正性也”後，而顧本無之，文義亦不相屬，殆爲《開題》中文，強公取附此疏耳。故徑刪出而錄存於此，以備考論。

《天地長久章》（第七章）“此其無尸”句，別本“此”皆作“以”，今依強本《成疏》牒文作“此”，或是誤字，姑仍之，蓋闕之義也。

《上善章》（第八章）“水善利萬物”句，強本引疏文“善功機權”。“功”疑爲“巧”字之誤，以無他證，未敢徑改。俟異日更從善本正之。

《絕學章》（第二十章）強本《成疏》牒文“我魄未兆”，疏云：“魄，寂也。”又牒文“嬰兒未孩”，疏云：“孩，笑也。”是成本經文應“魄”作“泊”，“孩”作“咳”，方與疏義相符，宜牒文有誤，但遂州本亦作“魄”作“孩”，因未敢改。抑成公意，假“魄”爲“泊”，而“孩”“咳”爲古今字也。

《大道章》（第三十四章）“衣被萬物不爲主，可名於小”句下，強本引《成疏》云：“衣被者，覆育也。雖覆育萬物而匿德藏名，泊然無形，故不可爲主，似若微小，以是聲義，言不小也。”又“萬物歸之不爲主，可名於大”句下，強本引《成疏》云：“道能生長，爲物所歸，譬彼大海，方茲虛谷，雖物所歸，不爲物主，既不爲物主，可名大耶？言不可名大。”二段皆與顧本所引全不相似，疑爲強氏取他家之說，而舊校者不慎，誤以爲《成疏》，茲姑以異文存之俟考。

《大象章》（第三十五章）《序訣》云：“前章無方之用。”“章”下應奪“明”字，或“舉”字，或“正明”二字，以全書之例可以推知，因無別本可校，未敢徑補。究缺一字或二字亦不可知，因亦未缺，以易滋誦讀之疑，爰附識於此。

《大成章》（第四十五章）“大成若缺”句下強本引《成疏》有云：“謂目光也。閉目內視，致神明也。若月之缺而復盛，故曰缺。”按此文之上，強、顧所引相同，於義已足，強本多此數語，殆衍文也。

《天下有道章》（第四十六章）“戎馬生於郊”句下，強本引《成疏》有云：“謂午也，正陽之精生於午，午者馬也。故心欲東則東，欲西則西，欲南則南，欲北則北。心有四方，晝夜所見，夜寐則夢。心中有道，則正氣流行，支體滋潤，髮膚玄長，故却走馬以糞之。心無道則生淫亂，戎馬走於四郊，邪脉致以害身，故曰戎馬生於郊。”按此文上強、顧所引相同，於義已足。強本復牒“天下無道戎馬生於郊”，又多出此段疏文，疑非《成疏》所有，姑存俟考。

《出生入死章》（第五十章）“陸行不遇兕虎，入軍不被甲兵”句下，李霖《取善集》引《成疏》云：“此明三毒不能傷害，若攝生無生，則害不能害。既內無三毒，則外三毒不傷。是以陸行不遇虎兕，入軍不被甲兵也。何者？夫虎主

嗔，兇主癡，兵主貪。”按強、顧二本皆未引此文。此文雖與《成疏》之意相合，然置於此處，似不若置於章末之爲愈也。

《治大國章》（第六十章）強本引《序訣》作：“《治大國章》所以次前者，前章明理人儉愛則萬物早服，此章明早服不擾則其德交歸。文分爲三：第一，初舉理國之喻，不可有爲。第二，明及鬼神，兩無傷害。第三，結歎交歸之德，以勸有國之君。”按此文與敦煌寫本全不相同，且此文第三分亦與後文《序訣》不合，自相抵牾，故輯本改用敦煌寫本，而存此文俟考。

《用兵章》（第六十九章）“侮敵則幾喪吾寶”句下，李霖《取善集》引《成疏》云：“幾，盡也。輕敵則好勇而不慈，廣貪而失儉，好進而不退，盡失前三寶。”此與強、顧所引意雖同而文則異，且成經作“侮敵”而此作“輕敵”不同，或當爲異家之文也。

《民不畏威章》（第七十二章）“民不畏威則大威至”句下，李霖《取善集》引《成疏》云：“內明威刑也，所謂經戒科律。大威即三塗惡趣北都羅酆之刑也。言一切衆生未解真理，愛樂世法，輕而行之，則冥中大刑必將至矣。”按強、顧所引自相同，與此意同而文略異，誠所謂異文也。存此待考。

#### 校記補：

《以道章》（第三十章）“果而不得已”句下，強引《成疏》作“堯攻有苗”，顧引作“堯攻藁支”。先君輯校《成疏》係以強引爲藍本而校以顧本，此處乃取顧本作“堯攻藁支”。然“藁支”一名，僅見《莊子·人間世》，且不知地望所在，令讀者費解。茲附強本異文存此。

《天下章》（第五十二章）“用柔曰強”句，“用”字原輯校本據遂州本作“守”。然疏中一言“用道謙和柔弱”，再言“用柔即是定行之術”，三言“故言用柔見小也”。是“守”字當作“用”，且他之敦煌寫本亦有作“用柔”者。先君當日以不依此本校改《成疏》經文，且疑係《成疏》以“用”釋“守”，故不徑改，蓋慎之也。今案敦煌寫本《老子李榮注》殘卷，此處亦作“用柔”，而成、李經文，固先君以爲“一系之傳，固不相遠”（《輯校老子李榮注叙錄》）者，是此“守柔”顯當改作“用柔”。茲據改。

《古之章》（第六十八章）“善戰者不怒”句，敦煌寫本《成疏》殘卷無“者”字，輯校本下二句作“善勝敵不爭，善用人爲下”，並無“者”字，敦煌《李榮



注》殘卷並無三“者”字。唯遂州本三句並有“者”字。輯校本僅此一句有“者”字者，當原輯校時，據《纂疏》、遂本有三“者”字，後據敦煌《成疏》、《李注》進行校改，此蓋校改之偶未盡者，故徑刪去。

《民之飢章》（第七十五章）“民之飢”句，敦煌《成疏》、《李注》及遂州本，“民”字並作“人”，茲亦據改。

## 附錄二：敦煌寫本成玄英《老子 道德經義疏開題》殘卷

……如內內（衍一“內”字）有有（衍一“有”字）終，則終不成終，□□□□（殘四字）則始始不不成成始始（讀爲則始不成始，始不成始），所以無始，終不成終，是故無終。故《玄妙內篇》云：“老子不生不滅，無始無終。”《序訣》云：“老子之號，因玄而出，在天地之先，無衰老之期，故曰老子。”據教而言，有此三解，約理而辯，只自是一。據教即是逗機，故《西昇》云：“智亦不獨生，皆須對因緣。”對緣之義，何止在三，趣有三機，而作三理，若其得理，既不滯三，亦不執一。

第二，名氏者，案《文始內傳》云：尹憇稽首，敢問大人姓名。吾姓字眇眇，非可備說。今姓李，名耳，字伯陽，外字老聃（“聃”之異體，下同）。（此處疑有奪文）而有胎，經八十一年，曾逍遙李樹之下，思聞清風以祛塵，或乃剖左掖而生老子。仙童玉女，手執香花，侍衛左右，玄妙即指樹云：“此可爲汝姓。”《神仙傳》云：“老子生而能言，自指李樹爲姓。”《上元經》云：“李母晝卧，見五色珠大如彈丸，自天而下，因而吞之，遂即有胎。”陸先生云：“老子初生，却行九步，因即能言。”但內外經書，說者非一，今不具載。名耳者，老子耳無輪郭，顯示異相，因以爲名也。字伯陽者，伯，長也；陽，生也。言聖人應世，利益弘多，方欲長養黎元，生成庶品，故《經》云“生之畜之，長之育之”也。外自（爲“字”字之訛）聃者，言舌（疑當作“耳”）聃聃然，既長且廣，所以字聃也。《史記》云：“老子之子名宗，仕魏，封於段干。宗之子汪（《史記》作“注”），汪之子名宮，宮玄孫瑕（《史記》作“假”），瑕子解，仕漢爲膠西王太傅。”

第三，法體者，案《九天生神經》云：“聖人以玄天爲始，三氣爲體。”言同

三天之妙氣也。臧宗道又用三一爲聖人應身。所言三一者，一精、二神、三氣也。精者靈智慧照之心，神者無方不測之用，氣者色象形相之法。《經》云：視之不見名曰夷，精也；聽之不聞名曰希，神也；博（當作“搏”）之不得名曰微，氣也。摠（總之異體）此三法，爲一聖體。《經》云（強氏《纂疏》引無此二字）“此三者不可致詰，故混而爲一”也。但老君（強引此下有“諸體”二字）以三一爲身，身有真應之別，而解者義有三家！第一云：散一以爲三，是聖人應，混三以歸一，是聖人真。第二云：三之與一俱是應，非三非一乃是真，爲三（據強引此處奪“爲”字）一俱是（據強引此處奪“名”字）數故也（強引無“故也”二字）。第三（此當奪“云”字），豈有離名數之外，別有無名數之真耶？即此三一非三一是真，非三一而三一是應，非三一而三一（強引奪此三字）之應，此應是真應，三一而非三一之真，此真是應應真真（讀爲“是應真，應真”）之真，不可定言真，真應之應，不可定言應，所以非真非應、而應而真。但聖人赴感逗機應物，或寄人間，或生天上，隨方顯見，相好不同。故《玄昇經》云：“於彼淨土，相好嚴儀，處此多惚（或爲“忽”、“摠”之異體），形同下斯。”源夫能天能人者，豈天人之所能哉？必非天非人，故能天能人耳。且妙體希夷，卒難詳究。今直據周時一應論老君容貌者，案葛抱朴引《朱韜王札》（疑當作“玉札”）云：“老子黃色，美眉，廣顙，長耳，大目，疏齒，方口，厚脣，額有參午達理，日角月玄，鼻有雙骨，耳有三門，足蹈二五，手挹十文。”此是託神李母，下爲周師之相也。雖復真應不同，而俱以自然爲體。故莊云：“常因自然而不益生。”《序訣》云：“老子體自然而然，生乎太無之先也。”

第四，時節者，案葛洪《神仙傳》云：“老子以伏羲時林（據下文此字當爲“爲”字之誤）鬱華，神農時爲緣因，祝融時爲傅豫，黃帝時爲廣成子，而逗機赴感，應變隨時，顯晦無方。”今不詳載。故《序訣》云：“世人謂老子當始於周代，老子之號始於無數之劫，甚窈窕冥冥，眇邈久遠。”又云：“開闢以前，復下爲國師，代代不休，人莫能知之。”是知老君出世，非止於周明矣。但前劫遐曠，存而不論，今且據在周託生時節者，案劉向、嵇康、皇甫謐並云：生於殷末，爲文王師。《序訣》云：“老子以上皇元年，太歲丁卯，十二月丙午，下爲周師。”既爲文王作師，理當生於殷末，故下爲周師，即殷之丁卯歲也。案《文始內傳》、仙公《序訣》皆云老子以“無極元年，太歲癸丑，五月壬午，去周西度（《序訣》

此處有“關”字)。而解者多云是幽王時出關，此未可依準。何者？今檢幽王庚申年立，十一年爲犬戎所滅。十一年內，並無癸丑。以前七年癸丑，乃是宣王之時。又《國語》云：“幽王二年，三川震，岐山崩，伯陽父曰：周將亡矣，不過十年。”若以宣王時出關者，則不應見三川震、岐山崩也。尋平王宜咎，東遷洛邑，以辛未歲立，立卅三年方次癸丑。案《玉緯》云：是此時出關也。臧玄靜云：西出壘（疑當作“隴”）關，猶據幽王在長安之歲，恐當謬也。故《出塞記》云：西出函函谷關關（讀爲“西出函谷關，函谷關”）今在陝西桃林縣南十里，有故關門是也。又尋漢文以前，宜云元年、二年，未有別號；漢武之世，方號元鼎、元朔。今《序訣》云：“老子以上皇元年下爲周師，至無極元年去周西度”者，此兼取人間世代配諸天年號，理非流俗所知，例如經中朱靈、開皇等號也。《出塞記》及《玄妙內傳》、《文始內傳》並云：“關令尹喜預瞻見紫雲西還，知有通人當過。即以其年十二月廿五日，老子乘青牛薄板車，徐甲爲御到關也。至廿八日中，授喜《道德經》上下卷。臨去之時，又說《西昇》，事畢，乃示見門（此當爲下“通”字之缺，當作“神”）通，騰空數丈，存亡恍惚，老少無恒，於是適彼蜀（“蜀”之異體）賓，逗機行化。”故皇甫謐云：老子西之流沙，作浮屠經，以化戎俗也。《文始內傳》又云：老子出關，周流八十一國，後至蜀賓化胡也。自紫氣浮關，青牛西度，老君覆還東夏，凡有三時：一者尋仲尼，以周靈王廿一年庚戌歲十月庚子夜生，仍師於老君，伏膺問道。故《史記》云：“吾今日見老子，其猶龍乎？”又《家語》云：“周之老聃，吾之師也。”二者被（“赧”之異體）王時，授干室《太平經》，並百八十戒（疑爲“戒”字），治國治身修養要訣。三者漢安時於蜀，授天師正一明威之教，於時蕭鼓雲駕浮空而下，自稱周之柱史，太上所遣，但神功不測，應感無方，或見聖容，或示凡迹，千變萬化，不可思議，豈得以朝菌之齡、語大椿之壽哉？尋內外經典，證據極多，皆云西化戎夷，竟無死迹。唯莊周云：老聃死，秦侯弔之者，斯假設之辭耳。欲明生死之道均齊，凡聖之理泯一，猶如鴻蒙雲將之談，蓋寓言也。今雍州醵（“醵”之異體）屋（“屋”誤字）有樓觀者，即是尹真人之故宅，宅南有山阜名老子陵，俗傳云是老君墓，何誣之甚也。然墓者埋葬也，老君既無死迹，豈有墓乎？當是於此山上西昇輕舉，後人追記聖德，因號曰老子陵。且老君在周隱身卑位，縱爲陵墓，理亦不高。今檢此陵，上聳數千尺，周迴數百步，假使帝王國力，恐未能然，固

非塚墓明矣。

第五，方所者，案《玄妙內篇》、《出塞記》、葛稚川、皇甫謐並云：老君生於陳國苦縣瀨鄉曲仁里，渦水之陰。而說者或云楚國，或云楚縣，或稱陳群（“郡”字之誤），或稱豫州者，尋楚以熊繹為始封之君，其地運（或為“連”之誤）楚，故稱楚國。又春秋之日，縣大而郡小，以郡屬縣，故云楚縣。但陳則太皞（“皞”之異體）之墟，都於菀丘之側。案禹別九州，則豫州之分，故稱豫州。又武王伐紂，封舜後胡公滿以備三恪，故稱陳國。逯（“逮”之異體）漢高祖滅秦，仍改陳國為淮陽郡，則郡大縣小，故有陽夏、寧平、苦、柘四縣屬淮陽也。至後漢章帝，又改淮陽為陳郡。雖復時代遷賁（“賁”字異體），名號不同，其於處所，祇自是一。漢桓帝夢見老子，乃詔陳相邊韶於老君生處建碑立祠，祠側即有李母廟虛無堂，左帶靈溪，右環渦水，前後顯敞（“敞”字之誤），寔惟勝地。唐貞觀十一年，有詔以皇家宗祏系自老君，給廟戶廿人，修葺院宇。皇甫謐云：老子是楚之相人者，今廟北有相城，故知相是地名非官號也。

後顯所說正法，又開為五：第一道德，第二釋經，第三宗體，第四文數，第五章卷。

第一，道德者，道是圓通之妙境，德是至（《義疏》作“志”）忘之聖智，非境無以導智，非智無以照境，境智相會，故稱道德。然境智智境不一不異，而異而一。故《西昇》云：“道德混沌，玄妙同也。”且自來解道，亓（當為“極”之借字）有不同，今泛舉大綱，義開五別：第一依訓釋。第二依義釋。第三待對釋。第四所表釋。第五無方釋。

第一，依訓釋者，道，無也；德，有也。故輔嗣云：道，無（《廣聖義序》作王輔嗣云：“道者無之謂也。”）。又解云：道，道也；德，德也。今明道之為名，窮理盡性，不可復加，故非訓釋之所能盡，直置道以道為義，義自多合，不繁曲碎，更為他解，故宣尼《易》須、晉二卦云：須，須也。晉，晉也。（按：《易》作：“需，須也。”“晉，進也。”）

第二，依義釋者，道以虛通為義，德以尅獲受名。為道能通物，物能得道故也。篤論道物，亦不一不異。故《經》云：“道之為物，唯恍惚唯（此二字誤倒）。”又莊云：“言而足則終日言而盡道，言而不足則終日言而盡物也。”

第三，對待釋者，道以德爲義，德以道爲義，非道無以通德，非德無以顯道故也。又解云：道以物爲義，德以喪爲義，皆相顯對（“對”上疑奪“待”字）故也。

第四，所表釋者，道以不道爲義，德以不德爲義，所以說道以彰於不道，所以說德以表於不德。故《經》云：“上德不德，是以有德。”莊云：“不言之辯，不道之道，若有能此之謂天府。”嚴君平云：“不道之道，不德之德，正之無也（《雲笈七籤》引作“政之元也”）。”是知說道說德，以表於不道不德也。

第五，無方釋者，耶（疑當作邪）教正言，悉應自然，稊稗凡（“瓦”字之誤）斲，無非至道，所以道無不在，所在皆通，隨物方圓，曾無執滯，故莊云：“夫道未始有對。”言未始有常也。

第二，釋經者，尋三洞尊文，七部玄教，討其題目，僉號曰經。是知經者法教之摠名，至人之洪軌（“範”字之誤），經之爲義大矣哉！蓋羣品之舟航（“航”字之誤）者也。但經乃多種，大略有三：一者五德三元，凝空雲篆，垂芒八角，妙氣之文。二者空林紫筆，金蘭（“簡”字別體）玉字，苞以鳳文之縕，藏於七寶玄臺，或在山洞之中，或在諸天之上。三者蘭策（“策”字俗寫）繩紙，篆隸（“隸”字異體）隨時，傳授流通，見行於世。雖復有此三迹，龐（“粗”之別體）妙不同，而皆是聖言，並詮至理，咸能治病，悉名良藥。但經義訓，訓亦多塗，舉其樞要，略爲四釋：所言四者，一由、二徑（通“徑”）、三法、四常。

第一訓由者，言三世天尊、十方太上，莫不因由此經而得成道。

第二訓徑者，言能開通萬物，導達四（《廣聖義》作“衆”，“四”或“衆”之別體）生，作學者之津梁，寔修真之要徑。

第三訓法者，旨趣玄妙，能所精微，可以軌則蒼生、楷模衆聖也。

第四訓常者，言非但理致深遠，湛寂凝然，抑亦萬代百王不刊之術。具斯四義，故稱爲經也。言序訣者，序，述也；訣，斷也。叙述聖人之旨，訣斷學者之疑也。《祕（“禮”之異體）記》云：“作者之謂聖，述者之謂明。”仙公有聖明之德，故作《序（此處疑奪“訣”字）》以述經旨。

第三，宗體者，夫釋義解經，宜識其宗致，然古今注疏，玄情各別，而嚴君平《旨歸》（應作“指歸”），以玄虛爲宗，頗（“顧”字別字）徵君《堂誥》，以

無爲爲宗，孟智周、臧玄靜以道德爲宗，梁武帝以非有非無爲宗，晉世孫登，云託重玄以寄宗。雖復衆家不同，今以孫氏爲正，以重玄爲宗，無爲爲體。所言玄者，深遠之名，亦是不滯之義；言至深至遠，不滯不著，既不滯有，亦不滯無，豈唯不滯於滯，亦乃不滯於不滯，百非四句，都無所滯，乃曰重玄。故《經》云：“玄之又玄，衆妙之門。”《隱訣頌》云：“玄玄至道，宗上德體，洪無也。而言無爲者，鏡像蒼生，芻狗萬物，雖復揮斥八極，而神氣無變，故爲則無爲，無爲則無（此下疑奪“不爲”二字），豈曰拱呬（疑“默”字之訛）而稱無爲哉？”故《經》云：“損之又損之，以至於無爲。”又云：“道常無爲而無不爲。”《序訣》云：“無爲之文，汙（“汙”字之訛）之不辱，飾之不榮。”

第四，文數者，尋青牛發軔，紫氣浮關，真人尹氏，親承聖旨，當爾之日，止授五千文，故《序訣》云：“於是作道德二篇上下經焉。”是知五千之文，先有定數，後人流傳，亟生改易。案河上古本，長五百四十餘字，多是兮、乎、者、也，蓋逗機應物，故文飾其辭耳。但高士逸人，多尚其業，好異之徒，例皆添糅，遂使魚目亂珠，玉石無辨。太極左仙公欲崇本抑末，乃示以本文止五千字。故《序訣》云：“吾已於諸天校定得聖人本文者乎？”今所講論，多依葛本，其葛本字體亦有訛濫，事由鈔寫差錯，豈關仙公所爲？至若以愚爲娛，以佞爲喘，如斯之文，愚所未喻，唯當研尋玄旨，擇善而從，無容膠柱刻船，域心固執。頃諸學者搜簡定數，云少一字不滿五千，解者不同，而罕得厥中，或言闕此一字，因象太一之無；或云少此一字，以明絕言之理。斯並苟爲異端，妄生仰度，竊尋經意，豈其然乎？只是經中卅幅也，且古者三十分爲二文，今時卅，摠爲一字，有此離合，故少一字也。

第五，章卷者，此一部妙經，五千奧典，上下二卷，八十一章，各有表明，咸資法象，豈徒然哉！良有以也。故八十一章，象太陽之極數，上下二卷，法兩儀之生育，是以上經明道以法天，下經明德以法地，而天數奇，故上經有三十七章，地數偶，放下經有卅四章。《經》云：“有物混成，先天地生。”莊云：“神鬼神帝，生天生地。”《西昇》云：“太（據《西昇經》，“太”作“大”，“大”下有“道”字）曠蕩，無不制圍。”知至道虛空，括囊無外，豈止陰陽天地而已，今明立教利物，故寄之兩……

以上據《藏外道書》影巴黎國民圖書館藏 P·2353 號卷子校點（亦參《敦煌寶藏》）。《藏外道書》又另影倫敦大英博物館藏 S·5887 號卷子，亦學者所擬為成玄英《道德經開題序訣義疏》者。唯此卷僅存十三行一百六十餘字，且破損特甚，竟無一完行，亦無一完句，竟不可校讀，唯尚可略知其為疏釋仙公《序訣》之末數句而已，故不遑錄。

蒙默又記



## 輯校李榮《道德經注》

### 叙 錄

《正統道藏》有唐道士強思齊《道德經玄德纂疏》，又有顧歡《道德經注疏》，兩書中引成玄英《疏》頗富，合而輯之，此無彼有，互為補正，《成疏》之亡殆千年，至是疑有完編也。自餘李霖《道德經取善集》、范應元《道德經集注》，皆每徵引《成疏》，悉取以相讎校，亦時得異同。敦煌秘籍之出，於今數十年，每有殘卷佚篇，莫知作者，取羅叔言影印《老子義疏》閱之，定羅所印固《成疏》也。以寫本校輯本，然後知茲之所輯，確為完書。凡寫本之訛奪，皆可一一以輯本補正。至羅氏疑此殘卷為孟智周《疏》，或又疑為劉進喜者，茲皆不必論也。因輯校《成疏》之故，見凡引成說諸籍，皆引李榮《注》，因並輯之。李榮《老子注》，見於唐宋《志》，今惟《正統道藏》中有《李注》殘卷，僅《道經》而又不完，且多羨奪誤字，《德經》則久佚也。今此輯本二篇皆備，亦庶幾足以補之，倘又得一完書也。爰以輯本《道經》之注，校之正統殘本，凡改四十六字，補五十七字，刪十一字，而《李注》條然可誦矣。惟正統本原闕第三十七《道常無為而無不為》一章，茲所輯錄，亦適未見。則《李注》幾有完書而復不得完。《道經》之注有輯本、有正統本，可資校勘；《德經》之注，則徒輯本，其間仍多疑誤，無可據以是正，固皆此

書之憾也。因念成、李二家，名重唐代，以故徵引特多，今敦煌寫本《老疏》羅氏所影印者，余既考知其爲成公之書，則敦煌他之寫本稱爲無名氏注《老子》者凡四種，倘即《李注》之佚歟？因函巴黎訪之，且告以《成疏》復見事。復別函余君讓之，探詢北平圖書館所藏敦煌本。旋得余君復書，謂果如余所懸想，確爲《李注》，且允代爲鈔寄。而巴黎所贈敦煌《老》卷影本全部適至，無名氏《老注》三種在焉，驗之其一爲《開元御注》，其他二種爲李注《德經》之後卷。以此敦煌本校余輯《李注》，擇善取之，凡改二十四字，補八字，刪一字，而敦煌訛文奪句，或且並經、注皆奪之，其誤則不可枚數也。乃正統殘本所佚第三十七章經注全文，皆存於此本《德經》之末，於是佚亡已將千載之《李注》，遂亦爲完璧，固可異耶！昔孫淵如校《晏子春秋》，以章計之，知闕其一，後於《御覽》所引得之。茲校《李注》，事殆又奇，孫氏未可獨傲於前也。於時北平圖書館所藏《李注》亦鈔成寄至，而適爲《德經》李注之前卷，復依之補三十九字，刪八字，改十四字，於是先所疑者，皆凍解冰釋。自餘李霖《取善集》、顧歡《注疏》、焦竑《老子翼》，於《李注》皆有徵引，一皆取校，惟無多益耳。竊怪正統、敦煌所存，一爲《道經》，一爲《德經》；巴黎、北平所寄，一爲《德經》前卷，一爲《德經》後卷，事之巧合，乃至於此；正統所闕《上經》一章，敦煌於《下經》之末補出之，宇宙間之詭奇，竟有如是者，非鬼物呵護，曷克臻此。前校《成疏》既竟，以得敦煌本而後知《疏》爲完《疏》，茲校《李注》，又以得敦煌本而後定《注》爲完《注》。凡敦煌本奪誤，皆可由輯本正之。敦煌寫卷舊皆不知作者，由今論之，一爲成氏，一爲李氏，皆鑿鑿不待論，此固爲古今之一快耶？羅氏所印敦煌本《成疏》，僅存全書五分之一，而《李注》則巴黎、北平所寄敦煌本，已及全書之半，則校《李注》之幸，又遠過《成疏》也。前校《成疏》，於成公之《經》，致力摸索，僅乃成之。茲校《李注》，以《道經》有正統本，《德經》有敦煌本，經文皆具，即有誤奪，而大較可知，以校余所定成公之《經》，頗能符合，殆一系之傳，固不相遠，亦更足驗前定成《經》，尚無大失。而正統本《李注》經文，每與注違，則爲後之樸野羽流妄依他本改易者，皆爲之是正，俾復其舊，得與注合，蓋亦事之不可不然者。凡經之與注，所改正者，皆有明據，其去取皆斟酌數四乃得定，當別爲校記，備著異同，詳其所以，或得或失，將與學林共見之。

李注《上經》末所闕一章，敦煌寫本於《下經》之末出之，此事最奇，殆別

有其故。考董思靖《道德經集解》稱：“劉歆《七略》云：‘劉向定著二篇八十一章。’而葛洪等又加增益，乃云天以四時成，故《上經》四九三十六章，地以五行成，故《下經》五九四十五章，通應九九之數。”此所云葛洪等又加損益，敦煌卷子張係師五千文本，前有太極左仙公葛玄名刪損之本，後人託之張、葛，此五九、四九之說，云“葛等損益”，當亦後人之所託也。惟四九、五九之分，不可具知。今本《上經》三十七章，《下經》四十四章，移《上經》一章於《下經》，亦可符於葛氏之說，豈唐世李榮注本《道常無爲而無不爲》一章，原移《下經》之末，即以此耶？以無確據，固未敢意爲之說也。後於唐杜光庭《道德經廣聖義》卷三十，見杜云：“或有移《上經》末章居下卷之末，以取上卷四九三十六章法陽，下卷五九四十五章法陰，此亦後人妄爲，其意穿鑿，將恐乖失玄聖之旨也。”依此，則唐代《李注》傳本，真所謂後人妄爲者也。《廣聖義》引《道德玄叙》言：“開元二十一年，頒下其所分別上卷四九三十六章法春夏秋冬，下卷五九四十五章法金木水火土。”知四九、五九之說出於開元，李榮作《注》遠在開元之先，則李本之改易，又開元後人移之也。故五千文之本，雖已見於《登真隱訣》，遠在梁世，而唐時所寫五千文本，究無移《上經》末章於《下經》末者，是董思靖所云者，究爲開元後人託之葛氏耳。惟開元頒下之本，仍與移一章本不同，董道《藏書志》云：“唐玄宗既注《老子》，始改定章句爲《道德經》，凡言道者類之上卷，言德者類之下卷，刻石渦口老子廟中。”是開元之本，悉亂舊次，非僅一章，如《李注》本者。江袤言：“昔於藏書家見古文《老子》，次序先後，與今篇章不倫，疑後人析之也。”此當即開元本也。《唐書·司馬承禎傳》言：“帝命以三體寫《老子》，刊正文句。”此宜江袤所見古文《老子》所自出。董氏所云“刻之渦口”者，固即司馬承禎之所書也。董思靖言：“司馬子微三體寫本，有五千三百八十字。”而世傳五千文本，次第皆無改易，知復爲二本。雖皆託之葛氏，其先後實不同。開元以前有五千文本，而無改定章次本，四九、五九之說肇於開元，後人更依其說，乃移《上經》末章於《下經》之末，又非開元之舊，故杜光庭徑斥爲後人妄爲。唐世《李注》傳本雖如此，知非任真之舊，茲者《注》爲新輯，則不得依妄改之本，以爲任真實然，故仍以第三十七章經注，還之《上經》之末，庶乎任真之舊貫也。

李榮時地，亦略可考。《唐志》有《道德經集解》二卷任真子注。杜光庭《廣聖義》云：“任真子李榮注《道德經》上下二卷。”知任真子爲李榮，惟均未

言李榮爲唐何時人，其郡望亦不著。《廣聖義》又云：“唐朝道士成玄英、蔡子晃、黃玄蹟、李榮、車惠弼，皆明重玄之道。”是榮之時代僅次於成公。《玉海》言：“張君相《道德經三十家集解》，第二十七蔡子晃，二十八成玄英，二十九車惠弼。”所言略與杜同。張守節《史記·老子列傳》正義引張君相云：“老子是號非名云云。”而《正義·自序》言：“於開元二十四年，殺青斯竟。”則張君相書應在開元以前，而李、車諸人又在張君相前也。《郡齋讀書志》意張爲天寶後人，誤也。求之於道家言李榮之可知者如此。更於唐初史乘求之。《舊唐書·儒學傳》稱：“羅道憺每與太學助教康國安、道士李榮等講論，爲時所稱。”又言：“道憺於貞觀上書忤旨，高宗末官至太學博士。”宜李榮即高宗時人。《大唐新語》十三《諧謔》稱：“京師僧道常爭二教優劣，遞相非斥。總章中，興善寺爲火所災，尊像蕩盡，東明觀道士李榮詠之曰：‘道善何曾善，云興遂不興。如來燒亦盡，惟有一群僧。’時人雖賞榮詩，然聲稱從此而減。”總章爲高宗年號，是李榮當總章之先，譽名早播，故與道憺、國安爲時所稱。今正統藏本李榮《道德經注》殘卷，首題元天觀道士，與此稱東明觀道士不合，當是李榮先後住二觀不同，或是劉肅作《新語》傳聞有誤，不礙其爲一人也。惟明白雲齋《道藏目錄詳注》於《道德經義解》下注云：“九天觀道士息齋李榮注。”《丁丙善本書室藏書志》言：《道德經義解》四卷，息齋道人解，即徵《藏目》爲說，云“榮字嘉謀，宋時人，行事無所考”，此真踵訛襲謬之說，元天觀道士爲唐之李榮，而息齋道人爲宋之李嘉謀，二人固不相涉，誤混爲一，則自白雲齋書爲始，道家記述每誤，若此之比，非特一事，不足深論也。

李榮行事更於初唐人集部中究之，盧照隣《幽憂子集》有《贈道士李榮詩》云：“敷誠歸帝闕，應詔佐明君。”此李榮之應徵入長安也。李榮《上道德經注表》云：“猥以擁腫之性，再奉渙汗之言，遂得揮玉柄於紫庭，聽金章於丹陛。”與盧贈詩語意正合，是李之交遊，皆一代重名。復於《駱賓王集》得《代女道士王靈妃贈道士李榮詩》，輕麗綺旎，此與《盧集》之李榮應是一人，即爲此《老子注》者，然竟亦不能得其故實，倘亦文人薄戲之爲乎？代王靈妃詩有云：“不能京兆畫蛾眉，翻向成都騁驄引。”又云：“爲想三春斜邪路，莫辭九折邛關道。”是任真子李榮者，殆蜀人也。何意昔人諧戲之作，翻足爲今日考論之資。考《朝野僉載》言：“盧照隣弱冠拜鄧王府典籤，後爲益州新都尉，秩滿婆娑蜀中，放

曠詩酒。”觀照隣《幽憂子集》中，頗多益州、梓州、綿州之作，則其《贈李榮道士詩》，或即為在蜀中之作，故詩云：“獨有南冠客，耿耿泣離羣。”是固客遊中語也。又駱賓王蓋亦曾遊蜀者，集中有《秋日於益州李長史宅序》，又有《憶蜀地佳人》，皆其遊蜀之證。至李榮為蜀何地人，則不可知。遍檢志乘，於梓州、益州、綿州求之尤力，旋於《綿陽縣志》中見云：“舊志載唐駙馬蔣曜《登富樂山別李道士榮詩》云：“珠闕崑山遠，銀宮漲海懸。送君從此路，城郭幾千年。”云云，此詩《全唐詩》失載，《志》又據鄭樵《通志·藝文略》有李榮《道德經注》，云“當即此人”。則李榮者綿州人也。惟蔣曜不可考，《唐會要》記載唐室尚主人姓名無蔣曜者，則以唐之《實錄》，後多零落不完，固為書之未備。惟《唐書·蔣乂傳》：“乂二子係、仲，係子曙耀之，咸通末由進士第官至起居郎。”蔣仲相宣宗，曙以世族，宜尚主者，《傳》稱：“曙以黃巢之亂，絕意仕進，隱居沉痛，中和二年表請為道士，許之。”若蔣曜即此蔣耀之，則與曜同時者固別有一道士李榮，非住東明觀號任真子者也。及求之《唐詩紀事》十三言：“薛曜尚城陽公主。”而《唐會要》六紀公主事云：“太宗二十一女，城陽公主初降杜荷。”亦不言薛曜。《全唐文》亦言“薛曜尚城陽公主”，則《綿陽志》云唐駙馬蔣曜者，殆薛曜之誤文歟？《舊唐書·薛收傳》云：“元超子曜，亦以文學知名，聖曆中修《三教珠英》，官至正諫大夫。”《新唐書·宰相世系表》云：“元超相高宗，子曜字昇華，給事中，襲汾陰男。”聖曆為武后年號，薛曜固與盧、駱同時。《王子安集》有《秋夜於綿州羣官席別薛昇華序》，知昇華適官綿州，其事正合。則蔣曜決薛之誤，而登富樂山贈別之李榮，宜即盧、駱集中之李榮，無足疑者。是任真子者誠蜀之綿州人也。余於《校成疏叙錄》中論重玄後多在蜀，茲又知李榮亦即蜀中之為重玄論者也。友人鄧君少琴亦於《全唐詩》第十二函第八冊《諧謔》中得李榮《興善寺詩》，即《大唐新語》所著，而注云：“榮巴西人也。”與此考正合。《全唐詩》所云，必有所本，惟未知所據耳。《全唐詩》亦記僧法軌與李榮互謔云：“法軌形容短小，開講時李榮與論議往復數番，軌有舊作詩詠榮，於高座上誦云：‘姓李應須禮，言榮遂不榮。’未及得道下句，榮應聲接云：‘身長三尺半，頭毛猶未生。’四座伏其辨捷。”於此遺事，合前詩觀之，亦足見榮之風趣。至榮所著書別有《莊子注》，其佚文已不可考。又有《西昇經注》，宋碧虛子陳景元《西昇經集注》中頗引其文，惟非全帙，知榮誠富於著述者也。

《唐志》原有李榮《老子集解》四卷，今不可見。正統藏有顧歡《老子注疏》，阮元云：“顧歡齊時人，《唐志》有《義疏》四卷，不特書名卷數均與不合，不應顧爲齊時人，而先引及陶弘景、成玄英諸人。惟晁公武《讀書志》、王應麟《玉海》有岷山道士張君相《三十家道德經集解》，今以其言考之，頗與是書合，則爲君相所集無疑。至書中兼有唐玄宗《御注》，又爲後人所羈入。”自阮氏之書出，言者殆皆以顧歡書爲君相書。劉翰怡嘉業堂刻本《跋》云：“君相《集解》三十家，今本祇有十五家，又有缺佚也。”然就顧書論之，晁氏所舉三十家，其可見者凡有十七家，劉云十五家，誤。其不可見者十三家，是闕佚者幾及其半，復別有御曰，則開元也；有想爾，則張道陵也；有陳曰，宜陳嗣古也；有王曰，非王弼，而爲解《河上公注》者，則杜光庭所謂“道士王玄辯作《河上公釋義》十卷”者也；有榮曰，以李榮《注》校之，一一能合，則任真子也。溢出張氏三十家外者凡五家，則不可以阮氏以後人羈入爲解也。其與君相書之異同，若是其遠，安得定爲即君相書！李霖《道德經取善集》中引張君相曰凡十數條，殆皆君相《集解》文也，乃無一見於顧書中者，是顧書之非張氏《集解》又審也。今顧氏書中徵引各家，皆舉姓氏或書名，獨任真之說稱榮曰，知是書爲李榮之作，乃李之《集解》，非張之《集解》。李霖書既取張君相說，所集晉唐人注凡二十餘家，宜亦采之張氏，則求張書宜於李霖之《取善集》，以校顧歡之書，而君相、任真兩家異同可立見也。惟李榮書不能下及開元《御注》，倘後之羽流以李榮之《集解》爲注，而以成玄英之《疏》爲疏，並以開元之《注》入之也。竊意《成疏》、《御注》、《李注》，既有全書，則宜剔出任其別行。顧本始“天地不仁”至“持而盈之”凡五章徒有經文，注說全缺，是李榮《集解》久非完書。李、張皆唐初人，一爲綿州道士，一爲岷山道士，是宜取張氏《集解》之存於《取善集》者，錄出以附於任真之書。宋之范應元《古本集注》，亦存晉唐人說二十許家，亦應附之。褚伯秀言范爲蜀之順慶人，乃《老經》古注之存，皆以蜀人著述，事亦足喜。因以余所散見晉唐舊注舉以附之，都四十餘家，欲自託於驥尾之附，凡所增益，悉謂之補，以別於原書，而各注其所自出，以資考按，於治《老子》書者，或有裨焉。

蒙文通識

民國三十六年七月二十日

## 道德真經注序

道士臣榮言：榮聞冥寂先天，絡天無以昭其景；混成有物，周物不足洞其微。此則超繫象而玄玄，邈筌蹄而杳杳。運陶鈞之邃迹，理歸虛應；恢匠導之幽路，義在靈圖。是以瀨鄉仙錄，神交帝象之先；苦縣真宗，慶發皇靈之首。五千垂裕，玄風表於配天；雙柱流禎，紫氣彰於御極。伏惟陛下玉宸纂聖，金闕應圖，榮光泛皎鏡之波，祥烟霏獻壽之嶽。嬉神汾水，撫洪鈞而獨化；問道河濱，施上仁而不宰。靈洞真文，躬勞聖敬，仙都秘牒，親紆睿覽，凝黃庭而體妙，浴玄牝以流謙。故霓裳息有待之風，鯤海截無爲之化。謹案經文：“是以聖人治，處無爲之事，行不言之教。”又云：“聖人治，虛其心，實其腹。”前後靈證，有若合符，今古師資，不詳幽旨。當由皇靈未覩，聖德凝寂，今天啓之心，昭然顯著。實所謂兆太平之玄化，發揮百代之前；勒無爲之至功，摘祥千載之後。豈止河圖錄籍，空傳漢后之名；昌戶丹書，纔表姬文之字。其言澹而妙，其理幽而遠。亦猶仰之於羲和，六虛均照；濡之於上善，萬物斯洽。是以往之賢俊，爭探深隱。魏晉英儒，滯玄通於有無之際；齊梁道士，違懲勸於非迹之域。雷同者望之而霧委，唯事談空；迷方者仰之以雲蒸，確乎執有。或復但爲上機，則略而不備；苟存小識，則繁而未簡。遂使此經一部，注有百家，薰蕕亂警於仙風，涇渭混流於慧海。佐時導俗，時有關於玄關；徹有洞空，乍未開於虛鑰。臣榮迹齒玄肆，名參丹籙，漱清流而心非止水，抗幽石而鑒殊懸鏡。淹流丹桂，夙徹耳於薰風；舞詠青溪，空曝背於唐日。猥以擁腫之性，再奉渙汗之言，遂得揮玉柄於紫庭，聽金章於丹陛，亟參高論，未展幽誠。以夫巨壑三山，泛麟洲而未測；通泉九井，仰龍德以如存。敢罄庸愚，輒爲注解，自惟夕惕，竊喜朝聞。然纖蠡議海，信阻量於鰲波；而嶽鎮干雲，庶成功於蟻壤。寧髣髴於衆妙，希罔象於玄珠。塵黷旒宸，懼深水谷，無任惶恐之至，謹表以聞。謹言。



## 道德真經注 上

元天觀道士 李榮 注

**道可道，非常道。**

道者，虛極之理也。夫論虛極之理，不可以有無分其象，不可以上下格其真，是則玄玄非前識之所識，至至豈俗知而得知，所謂妙矣難思、深不可識也。聖人欲坦茲玄路，開以教門，借圓通之名，目虛極之理，以理可名，稱之可道，故曰吾不知其名，字之曰道。非常道者，非是人間常俗之道也。人間常俗之道，貴之以禮義，尚之以浮華，喪身以成名，忘己以徇利，失道後德，此教方行。今既去仁義之華，取道德之實，息澆薄之行，歸淳厚之源，反彼恒情，故曰非常道也。

**名可名，非常名。**

名者，大道之稱號也。吾強爲之名曰大。夫名非孤立，必因體來，字不獨生，皆由德立，理體運之不壅，包之無極，遂以大道之名，詔於大道之體，令物曉之，故曰名可名也。非常名者，非常俗榮華之虛名也。所以斥之於非常者，欲令去無常以歸真常也。名有因起，緣有漸頓，開之以方便，捨無常以契真常，陳之於究竟，本無非常之可捨，亦無真常之可取，何但非常，亦非無常，既非無常，常亦無常，亦非非常非無常也。

**無名天地始，有名萬物母。**

道玄德妙，理絕有無，有無既絕，名稱斯遣。然則虛通之用，於何不可，是以非無而無，無名爲兩儀之本始也；非有而有，有名爲萬物之父母焉；道生德畜，其斯之謂乎！

**常無欲以觀其妙，常有欲以觀其微。**

人之受生，咸資始於道德，同稟氣於陰陽，而皎昧異其靈，靜躁殊其性。若



也夷心寂路，濯志玄津，可欲不足亂其神，紛銳無能滑其意，靈臺皎而靜，玄鏡湛而明，則可以照希微、通要妙，此無欲行也。若未能遺識，情在有封，馳騖於是非，躁競於聲色，但歸有爲之事迹，豈識無爲之理本，此有欲行也。微，迹也，歸也，來也。此謂依道德以爲行，觀妙理以入環中，失虛靜以爲非，染羶法而流微來也。

此兩者同出而異名，

近而言之，有欲無欲兩者也。此謂人也共受五常之質，俱懷方寸之心，同也。黜聰明而恬澹，洞徹道源，則稱於妙，競前識而紛紜，迷淪俗境，則稱於微，此異名也。遠而言之，聖人欲暢清虛之理，遂以道德爲宗，是以此之一章，盛明斯義。雙標道德，故言兩者，混沌理一，所以云同。自靜之動，從體起用故言出，通生之功著道也，畜養之義彰德也，道德殊號，是曰異名也。

同謂之玄。

虛寂之道，深妙之德，恍惚非易測，冥默本難言，無能名也，寄曰同玄。玄之妙也，無物可逮，唯道與德，可與言玄，故曰玄德深遠，至道玄寂。

玄之又玄，衆妙之門。

道德杳冥，理超於言象，真宗虛湛，事絕於有無。寄言象之外，託有無之表，以通幽路，故曰玄之。猶恐迷方者膠柱，失理者守株，即滯此玄，以爲真道，故極言之，非有無之表，定名曰玄。借玄以遣有無，有無既遣，玄亦自喪，故曰又玄。又玄者，三翻不足言其極，四句未可致其源，寥廓無端，虛通不礙，總萬象之樞要，開百靈之戶牖，達斯趣者，衆妙之門。

（以上第一章）

天下皆知美之爲美，斯惡已；

美，樂也。言人之稟性，咸不能以道爲娛，而以欲爲樂。樂不可極，樂極則哀來；欲不可縱，縱欲則傷性；故曰人皆以色聲滋味爲上樂，不知色聲滋味禍之大樸。既爲禍樸，復爲哀本，滅性傷身，斯惡已也。

皆知善之爲善，斯不善已。

天下地上，君子小人，並寡能虛心虛己，而各縱欲縱情，情性之愛，雖復不同，各任性情，同有所愛。愛名則以名爲善，愛利則以利爲善，以利爲善，求利

不以其道，以名爲善，徇名以致亡身。稱情雖以爲善，亡身是爲不善，故伯夷死名於首陽之上，盜跖死利於東陵之下，此斯不善已也。

故有無相生，

天下之物生於有，有生於無，從無出有，自有歸無，故曰相生。

難易相成，

天下難事，必作於易，難起於易，易成難也；易由於難，難成易也。

長短相形，

夫物離之則無大無小，聚之則有短有長，太山秋毫之相殊，白鶴青鳧之脛異，故知忘之則無大無小，存之則有短有長也。

高下相傾，

傾，危也。夫水所以載舟，亦所以覆舟。高以下爲基，下亦危於高也。下之賤也，猶乃危高，高之貴焉，誠能滅下。失道則高下相危，得道則君臣俱泰。

音聲相和，

上之化下，猶風之靡草，下之從上，猶響之應聲，譬之宮商，更相唱和。夫調高則絃絕，上躁則下急，是知五聲和則八音克諧，其政和則其人歡悅，故曰王者人之師，而下取則。

先後相隨。

君先而臣隨，父先而子隨，故爲君父者，不得輕躁而失道，必宜重靜以契德也。

是以聖人治，處無爲之事，行不言之教，萬物作而不辭。

緬觀萬古，或澆或淳，遐覽百王，時步時驟。未有紀尊號於金簡，昭聖錄於玉篇。皇上應千年之運，隆七百之基，不用干戈，樂推無厭。是以宗聖遠彰於未兆，先定於無形，故言是以聖人治，處無爲之事也。猛士上將，承威以定四方，宰輔阿衡，論道而清百揆，化不以言，故云行不言之教也。作者，芸芸動作也。四民各安其業，萬物不失其真，任化自然，無所辭謝。

生而不有，

付之於獨化，日用而不知也。

爲而不恃，

以萬物爲芻狗，不恃德以爲功。

成功不居。

雖有榮觀，宴處超然，遠之問道軼於襄城，凝神邈於姑射也。

夫唯不居，是以不去。

至道彌綸於宇宙，上德範圍於兩儀，雖忘功用，百姓戴之，垂拱而清九野，無爲而朝萬國，凝神常湛，故言不去也。

（以上第二章）

不尚賢，使民不爭；

王道蕩蕩，無偏無黨，貴賤將玉石同塗，賢者與愚人共貫，此大道之化，無爭者也。夫賢當於位，賞須以功，愚受於役，罰須以過，若賞賢過度，則極以驕奢，役愚越分，則困於貧窶，驕奢者必欺侮，獸窮者亦能鬪，則忿爭生也。是以日月曜彩，不爲賢不肖易光，天地覆載，不爲善不善改度也。

不貴難得之貨，使民不爲盜；

棄十城之璧，擲千金之珠，視如瓦礫，豈有盜乎？

不見可欲，使心不亂。

耳不聞鄭衛絲竹之聲，眼不見褒姒妲己之色，洗心潔己，遺情去欲，豈有亂乎？

是以聖人治：

皇上積德積仁，盡善盡美，老君欲重揚聖德，故再言之也。

虛其心，

除嗜慾，絕是非，遺萬慮，存真一。

實其腹，

道實於懷，德充於內。

弱其志，

心志柔弱，順道無違。

強其骨。

唯道集虛，虛心懷道，道在物無害者，得成仙骨自強。

常使民無知無欲，使知者不敢爲，則無不治。

上扇無爲之風，下行淳樸之化，下從於上，上下皆安，則無不化之也。

（以上第三章）

**道冲而用之，或不盈，**

冲，中也。盈，滿也。道非偏物，用必在中，天道惡盈，滿必招損，故曰不盈。盈必有虧，無必有有，中和之道，不盈不虧，非有非無。有無既非，盈虧亦非，借彼中道之藥，以破兩邊之病。病除藥遣，偏去中忘，都無所有，此亦不盈之義。

**深乎萬物宗。**

海深故百谷朝而歸之，道深故萬物宗而奉之。

**挫其銳，**

前識傷性，長惡害人，銳也。虛懷忘己，以道折之，挫也。

**解其忿，**

可欲亂正，得失滑心，忿也。遣彼忘我，遠欲制情，解也。

**和其光，同其塵，湛然常存。**

光而不耀，涅而不緇，和而不眩於體，同而不累其真，故知湛然清靜而常存也。

**吾不知誰子，象帝之先。**

道深甚奧，虛無之淵，迎隨之所不能知，終始惡乎而可定，故言不知誰子。開自然之治，闢之以三才，運造化之功，羅之以萬有，考之事用，在天帝之先，象天也。

（以上第四章）

**天地不仁，以萬物爲芻狗；**

長短相形，是非相對，理自然也。仁，愛也。有愛則有憎，天地無心，絕於憎愛，以無愛故，故曰不仁。芻狗者，結草爲狗，古人祝所用，已而棄之。言人於芻狗，用之不以爲愛，棄之不以爲憎，喻明天地暖然若春氣之自和，生者不以爲仁，淒然若秋霜之自降，殺者不以爲義。

**聖人不仁，以百姓爲芻狗。**

聖人無心，與天地合德，不仁芻狗，義可知矣。雖恩沾草木，澤被豚魚，宣風闡化，必先於人，故云百姓也。

**天地之間，其猶橐籥，虛而不屈，動而愈出。**

橐，排橐。籥，樂管。屈，竭也。間，中也。夫橐籥中空，故能出聲氣而不竭；天地中空，故能生品物而無盡。言人若能虚心空身，運用智德，無窮極也。多言數窮，不如守中。

窮，困也。若言當理，滿天下而無過，言而不中，亦出口而禍人，禍云人也。是困窮然禍福在當與不當，得失非多與不多。今言多則數窮，欲戒多言之失，勸以守中之得，使無滯教，內契忘言也。

（以上第五章）

谷神不死，是謂玄牝。

河上以爲養神，乃是思存之法；輔嗣言谷中之無，此則譬喻之義。雖真賢之高見，皆指事之說也。今則約理，嘗試言之：谷，空也。玄，道也。牝，靜也。夫有身有神，則有生有死，有生有死，不可言道，流動常無，豈得言靜。若能空其形神，喪於物我，出無根、氣聚不以爲生，入無竅、氣散不以爲死，不死不生，此則谷神之道也。生死無常，浮動之物也。幽深雌靜，湛然不動，玄牝之義也。

玄牝門，天地根。

道之靜也，無形無相，及其動也，生地生天，氣象從此而出，名之曰門。天地因之得生，號之曰根也。

綿綿若存，用之不勤。

綿綿，微妙也。玄牝之道，不生不滅，雌靜之理，非存非亡，欲言有也，不見其形，欲言亡也，萬物以生，不盛不衰，不常不斷，故曰綿綿也。勤者苦也，得玄牝之道，運用無窮，無爲逸樂，故曰不勤也。

（以上第六章）

天長地久，天地所以能長久者，以其不自生，故能長久。

日月迴薄，虧昃之運難停，陰陽慘舒，寒暑之期易往，萬物於焉不足，兩儀所以獨長。故標天地之德，問乎長久之由，莫不本彼無心、不自營生也。言人若能法天地以無心，不自營以厚養，仙骨冠金石以長存，惠命絡方圓而永固。若不能泯是非以契道，遺情欲以凝真，聲色聾盲於耳目，香味困爽於鼻口，形勞於

外，心疲於內，則百年同於朝露，千金齊於暮槿，故曰人之輕死，以其生生之厚，是以輕死也。

是以聖人後其身而身先，外其身而身存。

忘情息機者少，逐欲乖真者多，唯聖人能行此行，謙退以居物後，德尊所以居先，存道於是外身，身存自與道合也。

以其無私，故能成其私。

凡情幽滯，靈識不通，無至公之心，有偏私之行，尊己而加物，厚身而薄人，欲先而不能超物，須存而報體已亡，聖人無心欲居物先，自然在先，無情欲得存固，自然存固，故曰成其私也。

（以上第七章）

上善若水，水善利萬物又不爭，處衆人之所惡，故幾於道。

理本深遠，難可測知，善人修道，行亦微妙，故借於水，以爲喻焉。水能潤物，道能濟人，故言善利。水則決壅任人，道則大順平等，故言不爭。物多惡下，人多愛上，今水流趣下，道行謙退，故言處惡。幾者近也，水性與道相近，故取以爲譬焉。

居善地，

水不擇地，隨處俱流，行道之人，所居皆善也。

心善淵，

水心靜而明，人心虛而鑒也。

與善仁，

水洽於物，仁惠於俗。

言善信，

水之鑑物，妍醜不失其形，仁者爲言，終始不乖其實。

正善治，

太平莫盛於停水，無偏不越於善人。

事善能，

水之無用不成，君子何爲不可。

動善時。

水冬凝夏溢，不差其節，君子相時而動，不失其宜也。

夫唯不爭，故無尤。

水本無心，人能虛己，不與物爭，自然無過也。

（以上第八章）

持而盈之，不若其已；

欹器滿而必傾，奢侈極而必敗，若欲不傾不敗，唯有不驕不盈。

揣而銳之，不可長保。

尊則議，廉則挫，銳意出羣，爲人所辱，難長保也。

金玉滿堂，莫之能守；

金玉無趾，自爾流行，水火之災，莫之能却，盜賊之來，難可防守。是知貪而聚者失理也，積而散者合道也。

富貴而驕，自遺其咎。

積貨不能散，乘貴以陵人，咎自內生，非自外得。

功成名遂身退，天之道。

陰陽遞代，涼燠推遷，物之恒理，天之常道。若貪榮不退，必致危亡。二疏所以見機，四皓於焉長往，達於物理，合於天道也。

（以上第九章）

載營魄抱一能無離，

載，運也。營，護也。魄，身神也。一，道也。人者神之車，故言載。身清則魂魄安，心濁則真神遠，絕慮以守神，故言營。灰心無二，故言一。智將道合，神與形同，故曰無離。

專氣致柔能嬰兒，

一身心則純和不散，專氣也。得長生之道，致柔也。未識陰陽之合，無復是非之情，能嬰兒也。

滌除玄覽能無疵，

浴玄流以洗心，滌也。蕩靈風以遣累，除也。內外圓靜，同水鏡之清凝，表裏貞明，絕珠玉之瑕類也。

**愛人治國能無爲，**

居上不能自化，必藉於人，化物理人，事資安靜。但有爲而躁動者傷物也，無爲而安靜者愛人也。

**天門開闔能爲雌，**

天有四時之門，青門開而暄，赤門開而熱，白門開而涼，黑門開而寒。今之小人，暑雨祁寒，皆生怨嗟，此不能靜也。闔，閉也。一門開三門閉。雌，靜也。聖人神凝於太漠，智寂於虛玄，死生否泰不能驚，水火寒熱不能動。

**明白四達能無知。**

聖人智周萬物，明齊兩曜，四方皆照，爲四達也。照而常寂，光而不耀，遺識混心，能無知也。

**生之畜之，**

道生之，德畜之，聖人同道德之生畜，長黔黎於淳化，養庶類於自然。

**生而不有，爲而不恃，長而不宰，是謂玄德。**

忘功德也，是謂玄德。上德不德，是以有德，忘德之德，深而且遠，故言玄也。

（以上第十章）

**三十輻共一轂，當其無，有車之用。**

輻，外也。轂，內也。內轂空故外輻湊之，聖人虚心，億兆歸之。無者，空虛也。車形雖有，賴無爲用，若車無空處，其用不成，今用本由空，故曰當其無有車之用。借此爲譬，以況理教。教具文字爲有也，理絕名言爲無也，教之行也，因理而明，理之詮焉，由教而顯。理因教顯，無教理無所寄，教藉理明，無理教何所說。既知理教之相由，足體有無之爲用。

**埴埴以爲器，當其無，有器之用。**

作器必須和泥，泥調則器可用。修身理宜鍊行，行潔則道可成。埴，和也。埴，土也。

**鑿戶牖以爲室，當其無，有室之用。**

爲室內不空虛，外無戶牖，其爲用也，不亦難乎！爲道內既闇昧，外復聾瞽，以此求道，理豈易乎！室開戶牖，有用也；人生慧解，道成之。



有之以爲利，無之以爲用。

單有而無無，有不得爲利，單無而無有，無不得爲用。明有因無以爲利，無因有以爲用，既識有無之相因，自知羸妙之相藉也。

（以上第十一章）

五色令人目盲，五音令人耳聾，五味令人口爽；

目雖能見，耽色不已喪其明；耳雖能聞，淫聲不倦失其聽；口雖能嘗，察味莫窮乖其養。爽，失也。然盲以不見爲義，聾以不聞爲義，有目而不見真人大聖，盲也；有耳不聞希聲之廣樂，微妙之靈音，聾也；口以知味爲用，若貪俗味，失於道味，故言爽也。

馳騁田獵，令人心發狂；

縱之於畋漁，太康失業；獵之於名聲，張毅發病。身亡國失，狂之大也。

難得之貨，令人行妨。

美色重寶，難得也；以此亂心，傷行也。

是以聖人爲腹不爲目，故去彼取此。

虚心而內實，爲腹也。反聽而不盲，不爲目也。有累之業遣去也，無爲之道來取也。

（以上第十二章）

寵辱若驚，

官高而慮危，賤極而多耻，皆懼也。

貴大患若身。

夫外其身者，得失難駭，貴其身者，寵辱易驚。若也貴身，即有大患，故言貴大患若身也。

何謂寵辱？

起問。

寵爲下，

釋答也。寵爲貴，應言上，辱爲賤，應言下，今說寵則知有辱，言下自明於上，不能具出，略舉也。若依文而解，俗愛榮華，以寵爲上，居上近危，榮來辱

及，寵乃爲下。

得之若驚，失之若驚，

寵則榮來，辱便枯至，得之與失，並悉皆驚，唯虛澹之人，不駭其慮。

是謂寵辱若驚。

此結上義也。

何謂貴大患若身？

問也。

吾所以有大患，爲吾有身。

解也。有身滯榮悴之病，兼生死之災，故云大患也。

及我無身，吾有何患。

虛己忘心，無身也。是非患累，起在於身，身苟忘也，則死生不能累，寵辱不能驚，何患之有！

故貴以身爲天下，若可寄天下；愛以身爲天下，若可託天下。

太上貴德不貴身，明王愛人不愛己，苟能知此，則可以長久也。若貴身而賤物，愛己以憎人，不能同天地之不仁，齊日月而均照，則寄託而已。

（以上第十三章）

視之不見名曰夷，

道遠乎哉？眼所不見，聖人體之，獨見曉焉，名之曰夷。夷，平也。大道甚夷，坦然善謀也。

聽之不聞名曰希，

大音希聲，耳所不聞，聖人洞之，獨聞和焉，名之曰希。玄教難遇，希言自然也。

搏之不得名曰微。

大象無形，難可搏觸，聖人玄悟，了達虛無，故言微。微者，機也，無也。動而應物，機也；妙絕有名，無也。

此三者不可致詰，故混而爲一。

希、夷、微，三者也，俱非聲色，並絕形名，有無不足詰，長短莫能議，混沌無分，寄名爲一。一不自一，由三故一，三不自三，由一故三。由一故三，三

是一三，由三故一，一是三一。一是三一，一不成一，三是一三，三不成三。三不成三則無三，一不成一則無一，無一無三，自叶忘言之理，執三執一，翻滯玄通之教也。

**其上不皦，其下不昧，乘乘不可名，復歸於無物。**

皦，明也。昧，闇也。乘乘猶泛泛也。乘物以遊，而無繫也。言乎至道不皦不昧，不可以明闇名，非色非聲，不可以視聽得，希夷之理既寂，三一之致亦空，以超群有，故曰歸無。無無所有，何所歸復，須知無物，無物亦無，此則玄之又玄，遣之又遣也。

**是謂無狀之狀，無物之象，是謂惚恍。**

超有物而歸無物，無物亦無；絕視聽而契希夷，希夷還寂。恐迷塗之未悟，但執無形，示失路之有歸，更開有象。無狀之狀，此乃從體起用；無物之象，斯為息應還真。息應還真，攝迹歸本也；從體起用，自寂之動也。自寂之動，語其無也，俄然而有；攝迹歸本，言其有也，忽爾而無。忽爾而無，無非定無；恍然而有，有非定有；有無惚恍，無能名焉。

**迎之不見其首，隨之不見其後。**

有也，有前可接；無也，無後可追。迎之不見非有，隨之不見非無也。

**執古之道，以御今之有。**

御，正也。古道無為，正也；今道有為，邪也。聖人持無為之道，以正有為，息澆薄之風，反淳和之化也。

**能知古始，是謂道紀。**

玄古之道難知，無為之風罕悟，上御下以正，下從上以敬，則得道之綱要。

（以上第十四章）

**古之善為士者，微妙玄通，深不可識。**

昔之道者難行也，古之智士能修也。道乃機微要妙，玄寂虛通，行亦極細窮微，不滯無壅，行與道合，不測難知。不可以言言，言之者非道，不可以識識，識之者乖真，故云不可識。

**夫唯不可識，故強為之容；**

容，相貌也。夫道既難思，行亦叵識，恐來人無因體道，學者不知立行，下

文略舉容相，以勸勗也。

豫若冬涉川，

履薄冰者恐陷，在浮生者慮危，兢兢不敢爲非，勤勤唯知進道也。

猶若畏四隣，

處俗行惡，驚隣保以覺知，志道從善，懼幽明以彈糾也。

儼若容，

爲容唯事安然，修道不宜妄動。

渙若冰將釋，

春日麗而冰釋，玄風舉而累銷。

敦若樸，

厚而不薄，實而不華。

曠若谷，

谷之虛也，容物而應聲，心之虛也，懷道而濟俗。

混若濁。

心無分別，混也。與俗和同，濁也。懷玉無染，握珠自明，似濁也。

孰能濁以靜之徐清，孰能安以動之徐生。

安，靜也。徐，漸也。夫息動於心而神自靜，莫撓於水而濁自清，行之者少，故曰誰能。

保此道者不欲盈，

上來廣陳道行，以勸學人，人能守之，自得清靜，義存謙退，不事滿盈。

夫唯不盈，能弊復成。

立身者不至滿盈，匡輔務存忠正，雖老而還少，在弊如更新。學道者虛心遺於聲色，澡慮蕩於紛累，雖於朽身弊俗，復得成於真道也。

（以上第十五章）

致虛極，守靜篤。

其性靜而貞，其行清而遠，守之厚者，可得虛極之道。

萬物並作，

凡物常人，不能守無爲以安靜，爲情而動作，去真以從僞，失本而逐末也。

吾以觀其復。

復，本也。凡人失本而逐末，離淳以入澆，聖人抑末而崇本，反澆以還樸也。

夫物芸芸，各歸其根。

物亦人也，根亦本也，言人以一心攀緣萬境，其事非一，故曰芸芸。聖人皆勸以反本，故言各歸其根也。

歸根曰靜，

在末所以輪迴，反本寂然不動也。

靜曰復命。

近而為語，強梁不得其死，名之中夭，虛靜保其天年，是謂復命。遠而言之，動則有生有死，失於真性，靜則不死不生，復於慧命也。

復命曰常，

有死有生故斷，不死不生故常。

知常曰明。

迷斯理者闇，悟此道者明。

不知常，妄作凶。

知常信道，所行皆善，天祐人助，故云吉。背道從邪，縱情任意，觸塗妄作，所為失當，人誅鬼責，故云凶也。

知常容，

知常達理，量等虛空，無所不包，故曰容也。

容能公，

正而無私。

公能王，

偏私不堪宰物，公正自可君臨也。

王能天，

無心廣覆，運行以時。

天能道，

與天合德，共道齊真，疏通無滯，動皆合理。

道能久，

道則自古以固存，聖則永享無期壽也。

沒身不殆。

沒，終也。與天爲期，與道同久，終於此身，永無危殆也。

（以上第十六章）

太上，下知有之；

太上，謂上德之君。德既不德，名亦難名，但以大人在上，寄言太上，而上懷道德，於下無所須，下皆自足，於上無所奉，君臣上下，知有而已。

其次，親之譽之；

下德之君，有爲迹起，未能忘言，上則親信於臣下，下則稱譽於君上。

其次，畏之侮之。

不能因萬物之化，任自然之性，設刑法以威之，故言畏。令繁而下欺。故言侮。此下古之化也。

信不足，有不信。

夫爲上也，化之以道，示之以信，上能信下，下亦信上，上若不能信下，下亦不信於上。

猶其貴言。

此中古之時也，未能忘言，借言傳意，更相親譽，是以重言。

功成事遂，百姓謂我自然。

帝皇之道隆，功成也；無爲之風著，事遂也。前歷明三古，言失道後德，自淳至澆，後重結之，欲示絕仁棄義，反澆還淳也。道淺易覩，德高難見，今聖化既深，神功莫測，日用不知，故言自然。

（以上第十七章）

大道廢，有仁義；

夫重玄之境，氣象不能移，至虛之理，空有未足議，迎隨不得，何始何終乎！盛衰無變，何廢何興乎！純粹之日，彼此不隔於親疏，靜泰之辰，上下不彰於貴賤。自然符會，未待結繩，蹈乎大方，寧資書契。時冥至一，故言道興。行偏愛之仁，用裁非之義，澆薄斯作，不能行道，故言道廢。時有澆淳，道無

興廢。

**智慧出，有大僞；**

昏昏默默，道之極也；昧昧晦晦，行之至也。未能光而不耀，去知與故，飾智慧以驚愚，競是非以先物，是非迭起，姦巧互生，盜跖履之以爲道，田成乘之而竊國，斯大僞也。

**六親不和，有孝慈；**

父子兄弟夫妻，六親也。彼此相混，是非不作，長短相形，好惡斯起，和以不和標稱，孝因不孝立名也。

**國家昏亂，有忠臣。**

義農之時，未聞股肱之節，桀紂之日，始稱關比之賢。故知旭日麗天，星宿無以照其景，時雨降矣，浸灌無以著其功。若君昏於上，臣亂於下，有能內輔其君，外靜於寇，忠名顯矣。

（以上第十八章）

**絕聖棄智，人利百倍；**

聖者，凡情之所仰；智者，愚人之所求。非智無以照機，非聖何能宰物，今言棄絕，所未聞也。夫聖人合道，道本無名，名生而物迷，言聖不及於忘聖，智出而僞起，用智不及於忘智，故須絕棄也。然聖生則盜起，智用乃賊來，今言棄絕，盜賊不起，其利實多，略言百倍也。

**絕仁棄義，人復孝慈；**

仁以愛物，義以讓人，雖曰立人之道，實亦矯人之情，今棄矯情之仁義，歸天性之孝慈也。

**絕巧棄利，盜賊無有。**

擺工倕之指，息機械之心，絕巧也。擲玉毀珠，棄利也。但盜賊之行，規之以利，棄寶無利，寧有盜乎？

**此三者爲文不足，故令有所屬。**

文，教也。屬，繼也。夫大人之設教也，莫不修凡以成聖，從愚以歸智，去害而之利，今皆棄之，於教不足。未知學者何所措心，是故繼以後文，示令立行也。

見素抱樸，少私寡欲。

樸，本也。萬境無染，見素也。守一不移，抱樸也。公而不黨，少私也。以性制情，寡欲也。

（以上第十九章）

絕學無憂。

夫志無爲之道，則學無所學。混之以愚智，則得失未聞。忘之於進退，則榮悴不驚。抱自然之道，寧有憂乎？存有爲之業者，學非爲己。懸頭刺股，所競者名。映雪聚螢，所爭者利。懼榮名之不立，驚厚利之未來。以此存心，憂患生矣。

唯之與阿，相去幾何？美之與惡，相去何若？

禮對爲唯，野應曰阿，稱心爲美，乖意爲惡。幾何，言不遠也。體道則百慮俱遺，任真則萬塗皆適，實亦無逆無順，不美不惡。然有爲強生分別，偏私妄起愛憎，不留心於道德之鄉，唯貴人以華薄之禮。愜心謂之爲是，不問賢與不賢，潤己稱之曰能，未論智與不智。此則智者翻闇於不智，賢者倒愚於不賢，故曰相去幾何也。亦言人性自然已足，益之則憂，夫進智以徇美，與飾僞以爲惡，事雖不同，失性均也，故曰相去幾何也。

人之所畏，不可不畏，莽其未央。

水火可畏，不畏必遭於燒溺，豺狼可畏，不畏終遇於損傷。故知人行愛憎而不已，歸茲損敗，貪名利而無息，致此危亡。今流俗滯之有年，溺之忘反，悠悠莽莽，欲出無期。

衆人熙熙，如享太牢，如登春臺。

熙熙，悅樂也。太牢，味也。春臺，色也。言流俗衆人，務學以規名聲，縱情以昏色味。悅之以目，不知盲之有時，適之以口，不知爽之有日。逐慾老而愈溢，勞形困而不休。仍自欣欣，以爲悅樂。

我怕未兆，若嬰兒未孩，乘乘無所歸。

聖人言衆人馳驚於有爲之境，爲聲色之所動，我澹泊於無爲之端，香味不能惑。猶如赤子，未識牝牡之合，不知淫佚之情，心無所在，豈定有歸也。

衆人皆有餘，我獨若遺。

俗人於清虛而不足，在昏濁而有餘，積財貨以爲外累，肆情欲以增內垢。聖



人塵埃無染，俗事都捐，故曰若遺也。

我愚人之心純純。

俗人愚也，自以爲智，惑於情慾，穢亂日以至。聖人大智若愚，形神虛靜，純白日以生。

俗人昭昭，

不知強言知，內明於心，外曜於物，自言了了，故曰昭昭。

我獨若昏。

知如不知，如將闇也。

俗人察察，

銳情於是非之境，專心於得失之路也。

我獨悶悶。

遺心識自無分別，忘善惡故曰悶悶。

淡若海，漂無所止。

德宇恢恢，心臺淡淡，猶如大海，風動波隨，漂泊東西，終無定止。

衆人皆有以，

用有爲也。

我獨頑似鄙。

若愚人之所知，同賤者之不飾。

我欲異於人而貴食母。

食，用也。母，道也。人皆得意，未假以言，物既失理，聖人設教。自春臺以下，並是衆生有爲之病，聖人隨病救之，皆用無爲之藥，救有爲之病，有無不同，故言異也。凡夫滯俗，聖人用道，故言食母也。

（以上第二十章）

孔德之容，唯道是從。

孔，甚也，大也。道，理也，德也。物無不包，故言容也。動皆順理，故言從也。亦言大德不由他至，唯從道來也。

道之爲物，唯悅唯惚。

未知道是何物，而令德從，明夫大道幽玄，深不可識，語其無也，則有物混

成，言其有焉，則復歸無物。歸無物而不有，言有物而不無，有無非常，存亡不定，故言恍惚。

恍惚中有象，惚恍中有物。

非有非無之真，極玄極奧之道，剖一元而開三象，和二氣而生萬物也。

杳冥中有精，其精甚真。

至理唯一故言精，妙體無變故言真。

其中有信。

寂乎無象，感而遂通，福善禍淫，影響斯在。

自古及今，其名不去，以閱衆甫。

閱，簡也。甫，始也。愚者無知，凡情有滯，謂杳冥之理，本絕因緣，恍惚之中，元無果報，遂令行善者有怠，長惡者不悛，未識精而有靈，豈知真而有實。言其中有信，欲照理非虛，爲救衆生，開方設教，從終至始，簡其善惡之因，自古及今，閱其邪正之行，忠孝者賞之以爵，過忒者罰之以刑，含貫空有，彌羅宇宙，體既獨立而常存，名亦湛然而不去。

吾何以知終甫之然，以此。

我何以得知大道自古及今，從終至始，簡閱於物，分別於人，度脫四生，三代不失，但以觀之於見在，足知過去未來也。

（以上第二十一章）

曲則全，枉則正，窪則盈，弊則新，少則得，多則惑。

外順於物，內養於神，物我無傷，全也。屈己從人，身不失道，正也。謙退處下，窪也。混而不濁，新也。理本是一故言少，忘言契理故言得；有爲萬境，群典百端，故言多也；逐欲情亂，滯教生迷，故言惑也。

是以聖人抱一爲天下式。

一，道也。聖人懷道，故言抱一。動皆合理，可以軌物，故言式也。

不自見故明，不自是故彰，不自伐故有功，不自矜故長。

去分別而遺識，智慧自明。捐物我以全真，道德自彰。取其功而反失，誇其德而不長也。

夫唯不爭，故天下莫能與爭。

以我爲是，指他爲非，不能順人，唯知道物，而起於爭。聖人屈曲從物，豁蕩是非，不爭功名，與物無競，故天下雖大，誰能爭乎？

古之所謂曲則全者，豈虛言哉？誠全而歸之。

聖不自專，寄言古昔，枉正少得，不是虛言，誠全歸身，皆爲實錄也。

（以上第二十二章）

希言自然。

希，少也。多言數窮，少言合道，故曰自然。道則非無非有，理亦非少非多，欲明多言之失真，故借少言而合道。

飄風不終朝，驟雨不終日。

迅風暴雨，尚不竟日終朝，輕躁多言，豈得全身遠害。少言合理，則十日兩五日風也；多言有損，則狂風暴雨也。

孰爲此？

起問。

天地。

解也。

天地尚不能久，而況於人。

此舉大以明小也。

故從於道者，道亦得之；

道者，清虛無爲。救人濟物，若舉事皆從於道，道亦得之。

同於德者，德亦得之；

德者，畜養於物，潤益於人，人能行同於德，德亦得人也。

同於失者，道失之。

不能行同道德，體存仁義，共惡者之爲非，同罪人之受罰也。

信不足，有不信。

同於道者道得之，信於道者道信之，同於失者道失之，信不足，有不信也。

（以上第二十三章）

企者不久，跨者不行。

跨，越也。徐行緩步，其行久也。企踵越分，行不久也。喻明謙卑退讓者，可久長也；跨企矜伐者，自危亡也。

自見不明，自是不彰，自伐無功，自矜不長。

此非君子之行，豈是忘懷之士。

其在道曰餘食贅行。物或惡之，故有道者不處。

殘食之餘，不可以薦饗，跨企之行，不可以進道。昏亂者愛斯行之爲是，乃安之；達理者惡此道之爲非，故不處也。

（以上第二十四章）

有物混成，先天地生。

有物者道也，名之曰道，故言有物。然道之爲物，唯恍唯惚，不可以有無議，不可以陰陽辯，混沌無形，自然而成，故曰混成。自然之理，運之以變化，無形之內，開之以氣象，原其本則先天地生也。

寂漠獨立不改，周行不殆，可以爲天下母。

混成之道，先天地生。聽之不聞，則寂寥無響。搏之不得，則澹漠無形。喪偶而無對，故言獨立；湛然而常存，故言不改。無處不在，周行也；用之不勤，不殆也；覆載生畜，母之義也。

吾不知其名，字之曰道，強爲之名曰大。

夫有形者立稱，無象者絕名，約通生而爲用，字之曰道；無一法而不包，名之曰大；理本無名，無名而名，謂之強也。

大曰逝，逝曰遠，遠曰返。

逝，往也。即大求之而不得，往也。就往追之而不及，遠也。體之近在於身，故謂之返也。

故道大，天大，地大，王亦大。

道尊德貴，彌羅無外。天能廣覆，無隔於貴賤。地能厚載，不擇於妍媸。帝王控制通貫於遠近，字育普均於貧富，用各有主，歷言大也。

域中有四大，而王居其一。

寰寓之表，自可絕言，形象之中，理當稱謂。羅之雖具萬品，究之唯有四大。大名既一，用義難殊。欲勸帝王抱式於道德、取則於天地也。

人法地，地法天，天法道，道法自然。

夫爲人主者，靜與陰同德，其載無私，法地也；動與陽同波，其覆公正，法天也；清虛無爲，運行不滯，動皆合理，法道也；聖人無欲非存於有事，虛己理絕於經營，任物義歸於獨化，法自然也。此是法於天地，非天地以相法也。

（以上第二十五章）

**重爲輕根，靜爲躁君。**

大小俱輕，不能爲於根本，上下皆躁，豈可爲於君主？是以一輕一重，輕者以重爲根，一躁一靜，躁者以靜爲主。故無爲重靜者，君之德也；有爲輕躁者，臣之事也。上下各司其業，爲君必須重靜也。

**是以君子終日行不離輜重。**

有道之主，君人子物，務於重靜，不爲輕躁。舉不失道，動不離靜，是以行必輜重，居必攝衛，不至危亡，由重靜也。

**雖有榮觀，燕處超然。**

聖人所貴者大道，所寶者重靜，雖有瑤臺瓊室之麗館，身之所託者虛寂，嬋姬飛燕之美御，心之所遊者無爲。情欲不足以累身，華屋未能以惑己，物無累者，故曰超然。

**奈何萬乘之主，以身輕天下。**

千金之子，坐不垂堂，萬乘之君，豈宜妄動。

**輕則失臣，躁則失君。**

前明重靜則超然無累，今明輕躁則必致有損，無累則上下俱安，有損則君臣皆失也。

（以上第二十六章）

**善行無轍迹，**

七香流水之車，動之者有轍，千里浮雲之馬，躍之者有迹。不疾而速，雲駟不蹶地，不行而至，鳳鳥本無迹。言聖人垂拱廟堂，不遍周王之轍，賢士銷聲丘壑，不削孔丘之迹也。

**善言無瑕謫，**

言必有中，千里應之，非法不言，有何過也。

**善計不用籌策，**

籌策者以算物數，以道觀之，物無不盡，道非於數，寧用籌策也。

**善閉無關鍵不可開，**

門以關鍵，有閉有開，若能以道制之，無開無閉。是以理國者以道，百姓無以窺竈，修身者以道，聲色無由開鑿。

**善結無繩約不可解。**

有繩之者，有縛有解，以道控制於四方，善結也；萬國共戴於一人，不解也。修身者必契於道，故言善結，抱一無離，不可解也。

**是以聖人常善救人，而無棄人；**

一物失所，慮軫納隍，視之如子，寧有棄乎？真聖演經以開化，赴感以導凡，以道濟之，曾無遺棄。

**常善救物，而無棄物。**

始終用道故言常，慶及萬方故言善，德能廣濟故言救，通言一切故言物。

**是謂襲明。**

善行五者，人物兼濟，承道而用，是謂襲明。

**善人，不善人之師；不善人，善人之資。**

行與道合，德能利物，善人也。人之儀表，物之楷模，師也。闇者求明，明者不求於闇，受之以作役，具之以束脩，資也。

**不貴其師，不愛其資，雖知大迷，此謂要妙。**

尊師重道，貴也。仁惠善誘，愛也。師資之義，當貴愛也。若師不愛於資，壅玄流而不潤，資不貴於師，失惠路而難反，悟之者要妙，昏之者大迷也。

（以上第二十七章）

**知其雄，守其雌，爲天下谿。**

不諂不驕，在於中平，君子之行也。不靜不躁，處於中和，入道之基也。故知懷雄猛之心者，未可全真，抱雌柔之性者，不能志道。今知性雄而守雌，則不躁不速，亦知性雌而守雄，則不靜不遲。不滯兩邊，自合中道。然行雄猛者衆，守雌柔者少，故喻明谿壑處下，衆流歸之，人士謙退，道德歸之。

常德不離，復歸於嬰兒。

內無分別，絕是非，赤子之行也。若常能守靜，恒與德合，是不離也。小則無情，大則有欲，去大時之有識，反小日之無知，故曰復歸也。

知其白，守其黑，爲天下式。

大白若辱，大智若愚，晦以安身，斯爲法式。

常德不忒，復歸於無極。

忒，差也。不以智耀人，不爲名害己，內雖潔白，外實同塵，立身者受祿無窮，修道者成真無極。

知其榮，守其辱，爲天下谷。

有官有爵，榮也。無位無名，辱也。能知居顯不驕，而守卑辱，可謂包含一切，爲天下谷。

常德乃足，復歸於樸。

在貴如賤，處榮若辱，真常之德，自然滿足。常德反歸，故言復樸也。

樸散爲器，聖人以爲官長，是以大制無割。

一氣未分，樸也。三才有位，器也。自無形以開有象，故言散樸以爲器。天尊地卑之體既著，君貴臣賤之體亦明，樹之以君，故云官長；統御萬國，故言大制；上能子育，下獲不傷，故言無割。亦明聖人開不言之教，此即散樸爲器也；作真仙之主，爲官長也；以道攝物，物無不歸，大制也；慈能被物，物得以全，無割也。

（以上第二十八章）

將欲取天下而爲之，吾見其不得已。

夫無爲無事，可以攝天下也；若以有事有爲，吾見其不得已也。

天下神器不可爲，爲者敗之，執者失之。

若乃興天下之善，不私其利，除天下之害，不處其功，四海沐德以飲和，萬物從化以樂俗，可以安大寶、守神器，若不知有爲之非，而執之以爲是，則敗失也。

夫物或行或隨，或噓或吹，或強或羸，或接或隳。

夫有爲之法，有前可行，有後可隨，一溫一寒，一盛一衰，聚之則接，散之

則隳。若行有爲，雖成必敗，若用無爲，能弊復成也。

是以聖人去甚、去奢、去泰。

奢泰者即有爲之事也。逐欲爲甚，心存侈靡爲奢，極樂無厭曰泰。聖人虛心知足，去甚也；見素抱樸，去奢也；忘歡而後樂足，去泰也。

（以上第二十九章）

以道佐人主者，不以兵強天下，其事好還。

忠臣輔於君上，賢相理於陰陽，以道勝於海內，不以兵強天下。下之事上，猶以道佐，上自有道，寧專用兵。以道則彼此各安，用兵則互相侵伐，一來一往，故曰好還也。

師之所處荆棘生。

嘉禾不得植，荆棘所以生，此用兵之過也。

故善者果而已，不以取強。

能用爲善，殺敵爲果，賊來侵我，所以除之。不以國大兵強，專用爲是也。

果而勿矜，果而勿伐，果而勿驕，果而不得已。

自大爲矜；取功爲伐；好勝不已，示賢於敵，謂之驕。故曰義兵王，應兵勝，忿兵死，驕兵滅。善用兵者，決定果敢，不矜不忿，不貪不驕，迫不得已，從後應之。義在除敵救人，亦非恃力好戰矣。

是果而勿強。

必定能不驕不矜，行不得已者，是果而勿強也。

物壯則老，謂之非道，非道早已。

少而必長，盛而必衰，此物壯則老也。明以兵爲強者，兵敗而必弱，故言非道也。是道可以常行，非道理宜先止也。

（以上第三十章）

夫佳兵者，不祥之器，物或惡之，故有道者不處。

精飾爲佳；祥，善也。兵者動有亡國失人之患，故言不善。存者人之所愛，亡者物之所惡，有道之主，不處好兵也。

君子居則貴左，用兵則貴右。



經天曰文，止戈爲武，其爲用也，彼此實齊。禮樂所以並行，水火故宜難廢，用須得理，動必以時，是以平居好生，以左爲重，行兵主殺，以右爲貴也。兵者不祥之器，非君子之器。

兵雖可用，多有損傷，是爪牙之所司、非元首之器用。  
不得已而用之，恬淡爲上，故不美。

恬淡，靜也。王者用師，有征無戰，動不失靜，故言恬淡，不好用兵，不以爲美也。

若美之者，是樂殺人，夫樂殺人者，不可得志於天下。

君者，人之父母，美兵好殺，非謂養人。  
吉事尚左，凶事尚右。

陽道貴生所以吉，陰道貴殺故云凶也。  
是以偏將軍居左，上將軍居右。

偏將副軍不當殺，故居左；上將闖外以行誅，故居右。  
殺人衆多，以悲哀泣之，戰勝以喪禮處之。

兵之所用，義在救人，哀其失道，悲其過殺。古者以慈用兵，貴之以德，賤之以器，剋敵之後，將軍素服主喪，行禮受弔也。

（以上第三十一章）

道常無名，樸雖小，天下不敢臣。

有名之物，並悉無常，今謂無名，理歸常道。樸，本也。臣，賤也。常道妙本，非大非小，非大而能大，雖大不可貴，非小而能小，雖小不可賤。

王侯若能守，萬物將自賓。

天王諸侯若能抱道，遐邇人物，自然賓服也。  
天地相合，以降甘露。

守道則功格四表，無爲則乾坤交泰，非唯天地相合，抑亦德合天地。德合天地，既知甘露降，亦知醴泉出，此有道之化也。

人莫之令而自均。

上如標枝，下如野鹿，不須教令，自然太平也。  
始制有名，名亦既有，天亦將知止。

自本自根，生天生地，始制有名也。既得其子，以知其母，子之依母，天之理也，故言知止也。

**知止不殆。**

子依母，物無傷害，人依道，理無危殆。

**譬道在天下，猶川谷與江海。**

川谷上源而不竭，必以江海爲本，以江海爲本，復本而歸江海。明人從道而生，還須歸道，今不知歸，失於本也。亦言人有道，物歸之，如川谷歸江海也。

（以上第三十二章）

**知人者智，自知者明。**

聞而知之謂之聖，見而知之謂之智，然則外難知者人也，內難知者己也。今鑒人而知善惡，智也；照己而知得失，明也。知善就君子，如染芳蘭，知惡遠小人，如去鮑肆。知得盡之以忠貞，知失除之以悔吝，此乃明智也。若乃清重玄之路，照虛寂之門，知人者識萬境之皆空，自知者體一身之非有。一身非有，內豈貪於名利，萬境皆空，外何染於聲色，內外清靜故曰明，物我皆通故言智。

**勝人者有力，自勝者強。**

夫用力者，力大則勝人，用德者，德高則伏物。進德修業，自强不息，不溺於非，斯自勝也。修道者忘懷則外物無害，故曰勝人；虛心而仙骨日強，故言自勝也。

**知足者富，強行者有志。**

知分之人，樂一瓢而爲富，貪利之者，積百萬而爲貧。飾躬勵己爲強行，信道彌篤爲有志也。

**不失其所者久。**

上乘所說，本以教人，依教修行，不乖其理也。欲言不失其所，理國者用之，則國祚長久，修身者用之，則性命長久。

**死而不亡者壽。**

國王有道，天清地靜，人安神泰，無復傾危。設令時遇災衰，運逢屯否，居危而得安，處否而常泰，以保於萬壽，故言死而不亡者壽。修道者以百年將盡之身，獲萬劫無期之壽，此亦死而不亡也。然物則有生有死，人則有存有亡者，皆爲天也。道則不生而能示生，雖生而不存；不死而能示死，雖死而不亡。不存不

亡，故云壽也。但存亡既泯，壽夭亦遺。

（以上第三十三章）

**大道汎其可左右，**

夫虛舟汎而不繫，大道汎而玄通，不繫者不滯而西東，玄通者寧封於左右。是以入毫芒而遺小，彌宇宙而忘大，隱見非一，靈化難常，物無不應，何爲不可也。

**萬物恃之以生而不辭。**

物之得生，皆賴大道，道則信之以獨化，物則稱之於自然，能生者不以爲功，所生者不以爲德，真之至理，不相辭謝也。

**成功不名有，**

道之生，物得以生，成功也。能所皆忘，故不名有也。

**衣被萬物不爲主，可名於小；**

生育普均，覆載無二，衣被也。長而不宰，不爲主也。可名於小，言不小也。

**萬物歸之不爲主，可名於大。**

萬象輪迴，不出無形之表，品彙終始，會依虛寂之中，故曰歸之。可名於大，言不大也。

**是以聖人終不爲大，故能成其大。**

聖人同大道之停育，齊至理以忘功，不滯空有之端，寧拘小大之域，必定忘於小大，故言終不爲大。執則成小，忘則爲大，不大而大，故言成其大也。

（以上第三十四章）

**執大象，天下往。**

大象無形，無形者虛無之大道。執，專也、持也。能持身於玄德之境，專心於幽寂之門，有道則物歸，故言天下往也。

**往而不害，安平泰。**

油雲布而萬物潤，膏雨降而百草滋，但以被微物而有益，是知歸大道而無害。無害之理，其致云何？身神不動曰安，死生泯然曰平，彼此玄通曰泰也。

**樂與餌，過客止。**

五音之聲，樂也。八珍之味，餌也。百年寄身，過客也。止，留也，依也。歸往於道，可以平泰。物情不悟，少能依止。乃留心於絲竹，以此暢情，依身於蘭桂，用茲適口，不能執象，欲泰難乎！

**道出言，淡無味。**

繁華者，物情之所悅；虛寂者，人性不能安。情悅謂之爲美，不安呼之爲淡也。

**視不足見，聽不足聞，用不可既。**

既，盡也。目所見者色，炫之於青黃；耳所聞者聲，惑之於宮徵；心所貪者利，昏之於珍寶。寶雖爲利，用有盡也；聲雖可悅，聾不遠也；色雖可愛，盲在近也。故知止樂餌者，有斯患也。然恬淡無爲之道，視雖不能見，致之者洞視無不明；聽雖不能聞，契之者洞聽而更聰；心雖不能計，會之者運用而不盡。道俗之好如彼，利害之塗如此。

（以上第三十五章）

**將欲歛之，必固張之；**

將欲塞兌而閉門，愚夫不服，縱其開兌而濟事，困而後已。

**將欲弱之，必固強之；**

將欲息其雄猛之心，縱其剛強之志，柔弱生之徒，剛強死之徒，苦至當止也。

**將欲廢之，必固興之；**

欲衰而更盛，物極而自反。

**將欲奪之，必固與之。**

欲奪其惡，惡行不除，惡積滅身，臨時自悟。

**是謂微明。**

上之權道，觀之則未似，施教究理，則極有潛資；甚自微妙分明，歷然有益，故謂微明。八十一章，廣陳化道而凡情有繫，所執不同，以實示之而不從，將權化之令知返，玄教深遠，左右宜之。權釋辯於前，實解彰於後。欲歛斂之，開經化之；欲弱俗情，強其仙骨；欲廢邪志，與之正道；欲奪惡行，與之善業。柔弱勝剛強。

權道順之而不違，故言柔弱，必竟能制於剛強，故言勝也。

**魚不可脫於淵，國之利器不可以示人。**

脫，失也。魚之游泳，事藉於江湖，聖人大寶，理資於利器。魚不可以失水，失水則魚亡；利器不可以示人，示人則危殆。故曰人可使由之，不可使知之。是知執權之道，不易其人。

（以上第三十六章）

**道常無爲而無不爲。**

至道玄寂，真際不動，道常無爲也。應物斯動，化被萬方，隨類見形，於何不有，種種方便，而無不爲也。無爲而爲，則寂不常寂，爲而不爲，則動不常動。動不常動，息動以歸寂，寂不常寂，從寂而起動。寂既動也，不成於寂，動復寂焉，不成於動。至理爲語，不動不寂，爲化衆生，能動能寂。須知動與不動，非動非不動，宜識此爲非爲，非爲非不爲也。

**王侯若能守，萬物將自化。**

德能伏物，道在則尊，皇王守道，不令自均，公侯懷德，不嚴自化。

**化而欲作，吾將鎮之以無名之樸。**

作，起也。言有不能從化，欲起有爲之心，當以無名之樸鎮之，有爲之心自息，保道畜常，見素抱樸也。

**無名之樸，亦將不欲，**

理本定虛，體非無有，無真無俗，何捨何取。但以起有欲之心者是病，以聖人將無名之樸爲藥，藥本除病，病去藥亡，故云無名之樸亦將不欲也。亦言無名之樸者何哉？不欲是也。

**無欲以靜，天下自正。**

用智理國國之賊，有爲撓物物恒動，在上若能無欲守靜，百姓不須整理而自齊，萬國無煩教令而自正也。內明若捨茲有累，歸彼無名，有歸還成有欲，若其有欲，則非安靜，則失正道。今不見有累之可捨，不見無名之可取，取捨既忘，則情欲不起，情欲不起，自然安靜，無心欲合於道，云將正道相合，故云天下自正也。

（以上第三十七章）

## 道德真經注 下

元天觀道士 李榮 注

上德不德，是以有德。

明古之皇道，宅太虛以爲心，凝至一而爲體，不言均天地之化，無事成萬物之功，未規揖讓之名，豈有干戈之爭，雖復處宗處極，而乃非爭非名，無爲自然，故云上德。爲而不恃，成功不居，故云不德。畜養萬物，物得以成，故云有德。內明德與道合，厥義可尊，故云上德。道既無象，德亦虛玄，韜光藏用，故云不德。雖藏於用，無用之用用矣，乃韜於光，不耀之光光矣，有用有光，濟人濟物，故云是以有德。

下德不失德，是以無德。

道德之風，幾乎將失，仁義之化，殆欲斯興，文字既彰，澆漓漸矣，故云下德。以德爲德，以功爲功，恃德伐功，故云不失德。執言有德，不及無爲，故云是以無德。內明體同虛寂者德之上，事有紛累者德之下，封執在心，故云不失德。執者失之，是以無德也。

上德無爲而無以爲。

以，用也。上用無爲以化下，下用無爲以事上也。

下德爲之而有以爲。

上用有爲以導下，下亦以有爲以事上，何者？草則逐風以西東，影則隨形而曲直，故知君海內者不可以多事，理歸虛靜，訓弟子者不可以非禮，義存忠孝也。

上仁爲之而無以爲，上義爲之而有以爲。

兼愛博施，仁也。賞善罰惡，義也。恒其道德，其宜上也。上德下德，亦澆淳之化有殊，無爲有爲，明得失之政斯別。下德之稱有爲者，是上德之劣也，上

仁之稱無爲者，是上義之優也。

上禮爲之而莫之應，則攘臂而仍之。

禮經三百，威儀三千，以此教人，故曰爲之。禮煩則亂，下不能行，故云而莫之應。可謂信不足有不信，相信自可忘言，不信則生忿爭，是以揮拳攘臂，更相牽引。

故失道而後德，失德而後仁，失仁而後義，失義而後禮。

玄古淳和，物情誠實，人皆自足，不假仁義以煦濡，家悉無爲，各懷道德以游泳。爻象不作，教迹未興，混親疏，忘貴賤，此則太上下知，大道之化也。此風既散，謚號乃興，畜養之義行焉，成濟之功見矣。聖人潛被，黎首自安，此上德之化也。親惠情生，汎愛功起，親則有所不普，愛則有所不同，澆風以漸也。親愛不足以化俗，賞罰於是理人，又喪賞罰之義，廢仁義之禮，教之以折旋，行之以玉帛，而君欺於上，臣誑於下，淳源已遠，澆浮孔熾也。

夫禮者忠信之薄而亂之首。

人皆敦厚，各懷忠信，亦無煩曲禮。但忠信已薄，澆浮更厚，惑亂滋甚。以禮理之，賤質貴文，轉增邪亂，故言亂始也。

前識者道之華而愚之始。

道德者，道之實也。仁義者，道之華也。先知仁義者，識華不識實也。夫明者自然合理，闇者方俟師教，知禮非上智之基，乃是下愚之始。

是以大丈夫處其厚不處其薄，居其實不居其華，故去彼取此。

散樸以爲器，原其始也至淳，失道而後德，要其終也澆薄。是以仁非本性，義異自然，信不由衷，禮飾於外，是非戰爭，奸巧紛紜，父子失慈孝之心，君臣乖忠義之道。於是大聖老君，痛時命之大謬，愍至道之崩淪，欲抑末而崇本，息澆以歸淳，故舉大丈夫經國理家，修身立行，必須取此道德之厚實，去彼仁義之華薄，則捐俗禮、歸真道。

（以上第三十八章）

昔之得一者，天得一以清，地得一以寧，神得一以靈，谷得一以盈，萬物得一以生，王侯得一以爲天下正。

一，元氣也。未分無二，故言一也。天地雖大，所稟者元一，萬物雖富，所

資者冲和，王侯雖貴，所賴者真道。是以清澄以廣覆，寧靜以厚載，變化以精靈，虛豁以盈滿，安樂以全生，無爲而正定，何以致其然，皆得於一道也。

其致之。

道無興廢，物有得失，得之者益如前，失之者損如後也。

天無以清將恐裂，地無以寧將恐發，神無以靈將恐歇，谷無以盈將恐竭，萬物無以生將恐滅，王侯無以貴將恐蹶。

真一之道，不可失也。失之：成象恐之於破裂，成形恐之於動發，不測將恐以歇絕，虛間將恐以枯竭，生靈將恐以死滅，尊貴將恐於顛蹶也。

故貴以賤爲本，

此則國以人爲本，亦言從賤以至貴也。

高以下爲基，

九重之臺，起於累土。

是以王侯自謂孤、寡、不穀。

孤、寡、不穀，王侯之謙稱，此亦不忘於本。

此其以賤爲本耶？非？

言貴實以賤爲本。

故致數譽無譽。

王侯實貴，而以賤爲名者，此有道之君也。歌謠頌德，不以爲譽，此則數譽無譽。懸謗從諫，不以爲毀，此則數毀無毀也。明體道君子，外寵辱得失不驚心，忘毀譽喜愠不形色也。

不欲碌碌如玉，落落如石。

玉碌碌，少故貴；石落落，多故賤。賤者人所惡，貴者物所攻，俱不安也。處貴而謙退，不欲如玉之被攻，在賤而思齊，不欲如石之被棄，得之以一，處之以中，唯上與下無不安也。

（以上第三十九章）

反者道之動，弱者道之用。

道以柔弱爲用，動皆反俗；俗以剛強在心，舉皆失道也。

天下之物生於有，有生於無。



有者，天地也，天地有形故稱有。天覆地載，物得以生，故言生於有。無者，道也，道非形相，理本清虛，故曰無。天地從道生，有生於無也。故曰虛者天地之根，無者萬物之源。迷者失道，不識本元，聖人垂教，明於祖始。若能歸道，超生死而出有無，必其昏俗，淪有無而繫生死。形神合而見相，故言生於有，形神散而無體，故言生於無。

（以上第四十章）

### 上士聞道，勤而行之。

信道彌篤，強行有志，寒暑變而不革其心，金石銷而不移其操，始終常一，確乎不拔，勤行也。

### 中士聞道，若存若亡。

素絲無恒，逐玄黃而改色，中士不定，隨好惡而異心，聞真道存身以安國，則存道而忘俗，見財色悅性以娛情，則存俗而忘道。

### 下士聞道，大笑之。

心迷得失，知近不知遠，情昏真偽，識淺不識深，但悅塵垢之小行，反笑清虛之大道也。

### 不笑不足以爲道。

道深甚奧，上士之所難知，微妙玄通，下愚故非易識，今笑之不能令真使混濁，適足彰道之清遠也。

### 是以建言有之。

物情不一，取捨異心，聖人設法，無教無不教，凡情向背，有信有不信之也。

### 明道若昧，

智無不周，明也；光而不耀，昧也。

### 進道若退，

聞道勤行，進也；大成若缺，退也。

### 夷道若類，

緬平一等，夷道也；和光同塵，若類也。

### 上德若谷，

無不容也。

大白若辱，

廉而不穢，大白也；混而似濁，若辱也。

廣德若不足，

大滿若冲也。

建德若偷，

潛行密被。

質真若渝，

渝，變也。性無染濁，體實常存，質真也。忘死生，合變化，若渝也。

大方無隅，

寰寓有象，有方也；至道無形，無隅也。

太器晚成，

積習生常，美成在久，故知修心修行，非一朝一日可以致也。

大音希聲，

鴻鐘應節而鳴，玄教隨機而作也。

大象無形，道隱無名。

虛無羅於有象，故言大象。大象無象，故曰無形。形不可覩，故言道隱。絕於稱謂，故曰無名也。

夫唯道，善貸生。

夫進而若退，進無進也。若退而進，退無退也。明若昧，非明也；昧若明，非昧也。至真之道，非進非退，非明非昧，無色無聲，無形無名。雖復無名，亦何名而不立；雖復無象，亦何象而不見。是故布氣施化，貸生於萬有，爲而不恃，付之於自然也。

（以上第四十一章）

道生一，

虛中動氣，故曰道生，元氣未分，故言一也。

一生二，

清濁分，陰陽著也。

二生三，

運二氣，構三才。

三生萬物。

圓天覆於上，方地載於下，人主統於中，何物不生也。

萬物負陰而抱陽，冲氣以爲和。

陽氣熱，孤亦不能生物；陰氣寒，單亦不足成形。故因大道以通之，借冲氣以和之，所以得生也。

人之所惡，唯孤、寡、不穀，而王公以自名。

抱冲和之氣，無好無惡，失一元之道，有愛有憎，但敦富貴之名，不悅孤、寡之稱，唯有道王公，卑以自牧，義存謙退，以此爲名也。

故物或損之而益，或益之而損。

有道以富貴而稱孤、寡，損也。謙光日新，益也。無德處貴，自以爲益，材下位高，必至傾覆，損也。

人之所教，

人間所行之教，理歸仁義，事在剛強，然剛強者死之類，仁義者道之華。

亦我義教之。

欲使去剛強而存柔弱，遠仁義而安道德也。亦言聖人是於能教，衆生是於所教，以能教所，緣教得宜，義者宜也。

強梁者不得其死，吾將以爲教父。

不從君父之命，不順聖人之教，貪榮而守勝，尊己以凌人，強梁也。違科犯法，不盡天年，中道而夭，不得其死也。物皆合道，聖人元不設教，凡情失理，化主所以興言。由仁義之華，彰道德之實，因強梁之性，演柔弱之法。父，本也，以強梁爲教之本也。

（以上第四十二章）

天下之至柔，馳騁天下之至堅。

有象之至柔者，水也；無形之至柔者，道也。水至柔而能銷金穿石，破彼堅強，道至柔而能遣彼忘我，破茲固執。言人若能鑒之於水，體之於道，足能洞之於人我。經之於丘山，微妙玄通，都無滯礙，此謂馳騁之至堅也。

無有入無間。

水無有礙，道無有形，有間無間，無處不入。

是以知無爲之有益。

道無形，物得成，聖無爲，人得化，此乃無爲之益也。

不言之教，無爲之益，

前稱無爲之益，未知何曰無爲？行不言之教，教即忘言；任因循之事，事即無事。君安於上，臣悅於下，此無爲之益也。

天下希及之。

行有爲者多，及無爲者少也。

（以上第四十三章）

名與身孰親？身與貨孰多，得與亡孰病？

名者外之稱譽，貨者俗之財帛，身爲忠孝之本，抑亦道德之基。理須外名利，存身神，反無爲，修至道。而弱喪者不反，逐欲者失真，遂爲名以殺身，因財而害己，迷淪者衆，聖人憫之。故詳問云：爲得名得利爲病，爲失名失利爲病。俗以得名利爲善，而得之則身亡；失之爲惡，亡之則己立。得失病利，誰能定乎亡失也。

是故甚愛必大費，

爲名以殺身，斯大費。

多藏必厚亡。

爲財以傷己，斯厚亡。

知足不辱，

不分外以求名，遠耻辱也。

知止不殆，

不非理以規財，無危殆也。

可以長久。

外之於名利，遠之於危殆，理國可以長存，修身可以久視。

（以上第四十四章）

大成若缺，其用不弊。

道圓德備，名曰大成。猶如不足，故云若缺。然大壑酌之而不竭，明鏡應之而忘疲，不弊也。

**大滿若冲，其用不窮。**

四達有是而俱照，六通無幽而不燭，斯大滿也。不以照爲照，不以盈爲盈，若冲也。用不以心，故無極也。

**大直若屈，**

冥同正道，大直也；以欲從人，若屈也。

**大巧若拙，**

匠成萬物，大巧也；似不能爲，若拙也。

**大辯若訥，**

談天暢理，大辯也；言即無言，若訥也。

**躁勝寒，靜勝熱，**

陰陽二氣，遞相爲用，陽氣躁而熱，陰氣靜而寒，陽氣盛則熱勝而寒劣，陰氣盛則靜勝而躁劣，此則氣序遷移，互爲勝劣。夫大成若缺、大滿若冲，則盛無盛也；其用不弊，其用不窮，則衰無衰也。不盛不衰，不寒不熱，遺成而不敗，忘勝而無劣也。

**清靜爲天下正。**

爲陰陽之所寒熱者，未清也；爲生死之所流動者，不靜也。明聖人生死無變於己，寒熱不累於身，清靜也。有輪轉處生死，皆爲邪也；無輪轉絕生死，爲天下正也。

（以上第四十五章）

**天下有道，却走馬以糞；**

君上有道，除奔命之馬，臣下無爲，糞乘田之業，修真者去馳騁之浮情，糞身神以道德，務學者絕飄蕩之懈惰，糞心靈以藝文。

**天下無道，戎馬生於郊。**

生，起也。不用道而修文，專飾兵而好武，四郊多壘，五兵斯起，戎馬生於郊也。內明心王無道，馳六識之馬，遍萬境之中，得失紛紜，是非交爭。

罪莫大於可欲，禍莫大於不知足，咎莫甚於欲得。

有道之人，遺情去欲，罪禍自除。無識之徒，縱性任心，殃咎斯至。善積成慶，幽顯咸享，惡積成殃，存亡俱累。罰止一身，罪也；下及子孫，禍也；上誤祖先，咎也。

故知足之足常足。

除可欲則外無所求，清本性則內無所之，故言知足。動皆合道，事無不足，之足也。無不足之時，常足也。

（以上第四十六章）

不出戶，知天下；

觀之以道，則理無不達，照之以智，則事無不知，所謂不行而知者也。

不窺牖，見天道；

二景麗天，五星耿漢，寧須窺牖，方始見乎？內明窺牖者，穿鑿求解也。天道者，自然之理也。不假筌蹄得魚兔，無勞言教悟至理，此不窺牖見天道也。

其出彌遠，其知彌少。

迹周於宇宙，未識山川，覽遍於經籍，寧知至理，此謂無知也。

是以聖人不行而知，

獨悟也。

不見而名，

玄覽也。

不爲而成。

自然就也。

（以上第四十七章）

爲學日益，

增之以卷軸，長之以見聞，利之以名聲，加之以嗜欲也。

爲道日損。

行不言之教，文理雙忘，體虛玄之道，物我同遣，爲無爲則百爲兼喪，事無事則萬事都損，豈唯矯盈奢侈也。

損之又損之，以至於無爲。

捨有歸無，損之者也，有去無忘，又損之也。理冥真寂，至無爲也。

**無爲而無不爲。**

夫欲去有累，所以歸無爲。而惑者聞無爲，兀然常拱手，以死灰爲大道，土塊爲至心，恐其封執無爲，不能懸解，故云無爲而無不爲也。無爲而無不爲，非無爲也；有爲而歸無爲，非有爲也。此則爲學爲道，道學皆忘，唯動與寂，寂動俱息也。

**取天下常以無事，及其有事，不足以取天下。**

取，攝也。忘則無捨無不捨，用則有可有不可。若以無爲攝天下，無有而不可，皆可也。若以有事取天下，無有而得可，皆不可也。

（以上第四十八章）

**聖人無心，以百姓心爲心。**

君上無心於有爲，任百姓之自化，聖人無情以分別，逐萬有而感通。

**善者吾善之，不善者吾亦善之，得善。**

若有心分別，有善有不善。有善有不善，不得以爲善。今既無心分別，非唯善於善，亦善於不善，亦善則與不善皆善，是以謂之得善也。

**信者吾信之，不信者吾亦信之，得信。**

信，順也。物情既有可有不可，從事則有順有不順。有順有不順，不得以俱順。今聖人無可無不可，皆可；無順無不順，皆順。是以名爲大順也。

**聖人在天下，惻惻爲天下混其心。**

惻惻，不住也。凡情分別，見善見不善，有信有不信，聖人惻惻不住，泛泛隨機，混其分別之心，齊其是非之意也。

**百姓皆注其耳目，聖人皆孩之。**

百姓不能以性制情，而乃縱心逐欲，注耳目於聲色，專鼻口於香味，因茲惑惑，以此聾盲。聖人逐病行醫，隨機闡教，因心救物，說已化他，乃云我止如嬰孩赤子，不知聲色悅於耳目也。

（以上第四十九章）

**出生入死。**

從幽至顯，名曰出生，自有歸無，稱之入死。

生之徒十有三，死之徒十有三。

九竅四關，爲十三也。若能絕欲，則爲生之類，必其放蕩，則爲死之徒也。人之生，動之死地十有三。

所以流至死地者，由十有三種造過。

夫何故？以其生生之厚。

何爲得至於死地，言用之九竅，運之四關，多取有爲之死業，愛養無常之生身，厚過其分，動之死地也。

蓋聞善攝生者，陸行不遇兇虎，入軍不被甲兵。

不能養性，內爲情欲之所傷，外爲毒蟲之所害。善攝生者，不耽染，性不傷，無毒心，物無害也。

兇無所駐其角，虎無所措其爪，兵無所容其刃。

言養生以道，積善以行，是前顯不與惡遇，今明雖遇無傷也。

夫何故？以其無死地。

夫生我者神，殺我者心，我殺由心，心爲死地。若能灰心息慮，不構有爲，無死地也。

（以上第五十章）

道生之，德畜之，物形之，孰成之。

至道運而無壅，何適而不能，玄德動而不滯，何事而不可。今約事分用，通生則理歸於道，長畜則義在於德，生畜於物，物各有形，既秀而實曰熟，生畜俱全曰成也。

是以萬物莫不尊道而貴德。

父母所生，天地覆載，誠可尊也。今道德恩隆於父母，功蓋於天地，理當尊貴也。

道尊德貴，夫莫之爵而常自然。

道德虛忘，自然尊貴，非由爵命，方見敬重也。

故道生之，德畜之，長之育之，成之熟之，養之覆之。

此廣明道德生畜之義也。進益曰長，撫恤曰育，構立曰成，圓足曰熟，資給



曰養，衣被曰覆也。

生而不有，爲而不恃，長而不宰，是謂玄德。

夫伐其功者，非至功也；恃其德者，非大德也。今既生既長，不恃不宰，深妙之德也。

（以上第五十一章）

天下有始，以爲天下母。

道爲物本，故云始；德能畜養，故云母也。

既得其母，以知其子。

道德生畜，母之義也；物從道生，子可知也。

既知其子，復守其母，沒身不殆。

子從親生，必須孝於親；物從道生，必須守於道。子孝於母，母慈於子，通天地，感神明，物無傷也。人守於道，道愛於人，積功行，著幽顯，物無害者，故言不殆也。此明母子相守，本末相收，能行此者，家國安也。

塞其兌，閉其門，終身不勤。

掩目閉口，外患不生，既無疲勞，又絕勤苦，會無名之始，歸有名之母，修身之道也。

開其兌，濟其事，終身不救。

失道滯俗，去本求末，通六情之兌，開五欲之門，雖成有累之事，終失無爲之道，亡沒此身，難可救拔。

見小曰明，用柔曰強。

禍亂初起爲小，預能防患曰明，順道無違曰柔，始終不損曰強。

用其光，復歸其明，無遺身殃。

智能照機，以之防禍，用其光也。覩見未萌，皎然無失，內視反照，復歸其明也。己不罹患，無與身殃也。

是謂襲常。

放情極慾，違本徇末，患難斯至，歸無常也。塞兌閉門，守母依始，潔身入道，襲圓常也。

（以上第五十二章）

**使我介然有知，行於大道，唯施是畏。**

老君傷時王不從夷路，唯履嶮途：服文綵而帶利劍，厭飲食而積貨財，農田荒穢，倉廩空虚。此乃盜誇之人，豈知純粹之行。若使我微知政事，必行無爲之大道，不涉有爲之小徑，有所施爲之事，尤畏不行也。

**大道甚夷，其人好徑。**

正道平而易，邪徑險而難，理國者多履其難，修身者少從其易，斥無道。

**朝甚除，田甚蕪，**

彫牆峻宇，除故造新，下人妨農，良田蕪穢。徇名好利，棄少求多，道業不修，丹田荒廢。

**倉甚虛，**

年登則廩實，農廢則倉虛，行薄則業虛，德充則道實也。

**服文綵，帶利劍，**

損素以事華，賤文而貴武，修真者內不存於道德，外唯飾以威儀，毒意未祛，帶利劍也。

**厭飲食，資貨有餘，**

夫味無味者，飲和浴德；爲無爲者，禮士愛賢。鄙芻豢以簞食爲樂，散貨財以不貪爲寶，此則內外無不可也。而厭之以芳鮮，積之以珠玉，是盜誇之行，非家國之基也。

**是謂盜誇，盜誇非道。**

取不足，積有餘，盜之謂也。愛文綵，事奢侈，誇之義也。唯道與誇，俱非道行。

（以上第五十三章）

**善建不拔，善抱不脫，子孫祭祀不輟。**

能立行於至道之境，則根深而不拔。妙樹功於玄德之鄉，則蒂固而不脫。爲國則百代宗廟而常安，爲家則萬葉蒸嘗而不絕，師資結影於真氣，授□繼響於玄風也。

修之身其德能真，修之家其德有餘，修之鄉其德能長，修之國其德能豐，修之天下其德能普。

夫道不可不修，德不可不立，立德修道，自家形國，何往不安。死生無變曰真，慶及後昆曰餘，邇安遠至曰長，物皆自足曰豐，惠無不周曰普也。

故以身觀身，以家觀家，以鄉觀鄉，以國觀國，以天下觀天下。

至道之源，實自無善無惡。建德之始，理須知是知非。知非者，則去惡慮不遠；知是者，則就善恐不及；察邪察正，照存照亡。修道之身則歸真，不修者則入僞；修道之家則有餘，不修者則不足；修道之鄉則久長，不修則短促；修道之國則豐富，不修則窮儉；修道於天下則周普，不修則缺少。

吾何以知天下之然？以此。

如何得知修道者昌，不修道者亡，觀一身則百身可知矣，觀一國則萬國斯觀矣，豈唯三代乎？

（以上第五十四章）

含德之厚，比於赤子。

懷道抱德，積行深厚，氣專精固，絕欲無貪，不散真童，類於赤子。

毒蟲不螫，猛獸不據，攫鳥不搏。

以毒曰螫，以足曰據，以爪曰搏。嬰兒所以無害者，一為內無毒意，一為慈母加護，故不傷也。含德之人，既其無復惡心，又以天靈垂祐，是以毒蟲不得流其毒，猛獸無以施其猛也。

骨弱筋強而握固。

嬰兒筋骨柔弱，而握拇指牢固者，非由力也，本為心專，人雖欲開，不可得也。含德之人，屈身以順物，柔心以從道，可欲不能開，全真自然固也。

未知牝牡之合而峻（祖雷反之）作，精之至。

牝牡之合，即陰陽之會也。峻，童兒陰也。作，動也。赤子未知男女之禮而動作者，至精不散也，精散則身枯，身枯則命竭。含德之人，外情欲而愛其精，去勞弊而寶其氣。無心於動，動不妨寂，虛己於寂，寂不妨動。寂不妨動，雖動而非動，動不妨寂，雖寂而非寂，動無非寂，精之至也。

終日號而嗷（於葛反之），和之至。

啼極無聲曰嗷，赤子旦夕恒啼而聲不嗷者，和氣未散也。含德之人，闡玄言而不疲，流法音而無絕，此亦抱冲和之所致也。

知和曰常，知常曰明。

亡精損氣歸無常，知和不死保真常，含德既知和理，又體常義，物無不照，故曰明也。

益生曰祥，心使氣曰強。

祥，善也。強，盛也。此明流俗有爲之徒，不能同赤子之握固，似含德之知和，逐欲喪其精，運力傷其氣，益生以滋味，補氣以樂石，中心欲使氣盛而不衰，體善而不惡，其可得乎？故曰皆知善之爲善，斯不善已也。

物壯則老，謂之非道，非道早已。

物極則反，體盛則衰，此是俗塵之恒累，豈會虛寂之常道。老君痛衆生未解知常，不能愛氣，以有爲益生，益之更損，既乖至理，戒以止之。

（以上第五十五章）

知者不言。

得意忘言，悟理遺教。

言者不知。

多言則喪道，執教則失真。

塞其兌，閉其門。

杜欲路，絕禍源。

挫其銳，解其忿。

折貪欲之鋒，釋是非之爭也。

和其光，同其塵，是謂玄同。

爭得失則或可或否，競是非則一彼一此，今和光則與智無分，同塵亦共愚不別，通萬有而齊致，亦何法而不同也。

故不可得親，不可得疏，不可得利，不可得害，不可得貴，不可得賤，故爲天下貴。

夫有遠近則親疏明矣，存得失則利害生矣，定上下則貴賤成矣。今解忿挫銳，和光同塵，愛憎平等，親疏不能入，毀譽齊一，利害不能干，榮辱同忘，貴賤無由得，能行此者，可以爲天下貴。

（以上第五十六章）

以正治國，

養百姓者，妙在於平均。宣風化者，要歸於正直。此所謂諸侯牧宰，道德齊禮，文之教也。

以奇用兵，

奇，變詐也。臨難制變，兵不厭詐，三略太奇，九攻百勝，上將軍師，靜難息寇，武之功也。

以無事取天下。

明君之攝化天下，論道宣風則賢相，守方討逆則名將，主位垂旒，坐朝於萬國，塞耳凝神於九重也。

吾何以知其然，以此。

何以得知無事可以取天下，即以此。下文云：我無爲人自化，我無事人自富。

天下多忌諱而人彌貧，

忌諱多端，政煩網密，煩則人勞，密則人懼，從法妨業，焉得不貧也。

人多利器，國家滋昏；

機權不可多與人，兵器不可家皆有，家有兵器思爲賊，人多執權恐至亂也。

人多知巧，奇物滋起；

多奇巧，異物生，上玩物，下起欲。

法物滋彰，盜賊多有。

珍好之物，爲法物也。多貴金玉，盜賊斯起也。亦言法所以息盜盜更多，禮所以整亂而亂作。

故聖人云：我無爲人自化，我無事人自富，我好靜人自正，我無欲人自樸。

前忌諱下，是四種有爲之病，是故聖人說四種無爲之藥，欲令除亂得化，去動之靜，家安俗樂，無事無爲。付自然之運曰化，人皆知足曰富，履道無偏曰正，遺華處實曰樸也。

（以上第五十七章）

其政悶悶，其人淳淳；

其政寬，其人悅，上恬靜，下淳一。

其政察察，其人缺缺。

其政急而煩，其人困而乏。

禍，福之所倚；福，禍之所伏。

倚，因也。伏，匿也。言人在苦而思樂，改惡而從善，則因禍而得福矣。處樂而荒淫，在貴而驕縱，則禍匿於福中矣。

孰知其極。

行善惡之因，得禍福之果，輪迴苦樂之境，來去誰知窮極。

其無正。正復爲奇，善復爲祲。

奇，異也。祲，惡也。善惡往還之業，此並是邪，寂寞獨立之真，始乃爲正。言人多積塵垢之行，少有清虛之基，故云其無正。事邪者衆，從正者寡，設令爲正，正不常正，俄然變異，故曰爲奇。並皆行惡，不肯修善，設令爲善，善不恒善，還即造惡，故曰爲祲。

人之迷，其日固久。

迷禍福之源，惑邪正之路，此非旦夕，其日固久。

是以聖人方而不割。

方，正也。割，傷也。邪行則物我俱傷，正道則彼此無割。

廉而不穢，

凡情貪而濁，聖道廉而清。

直而不肆，

大直若屈，不顯正以示人。

光而不耀。

明道若昧也。前標得失之政，次指禍福之門，而沒溺者既多，昏迷者已久，祲奇則繫累之境，倚伏非懸解之場，是以廉而不穢，始體清虛之道，光而不耀，方識慧源之路。冥得失，何禍何福乎？混是非，孰邪孰正乎？泛兮無繫無不繫，蕭然無可無不可。

（以上第五十八章）

治人事天莫若式。

下理於人，上事於天，莫過以道用爲法式。

夫唯式，是以早伏。

以道爲式，物先以歸。

早伏謂之重積德。

道輕德薄，人不歸依，重積深厚，物自賓伏。

重積德則無不克。

德重仁深，無不克勝也。

無不克，莫知其極。

四夷賓伏，國界無邊，與道玄同，有何窮極。

莫知其極，可以有國。

境土無邊，道德無際，始可以有於家國。

有國之母，可以長久。

有道則國安，無道則國危，國由道生，道爲國母，以道爲母，所以長久。

是以深根固蒂，長生久視之道。

夫根枯則拔，蒂朽則落，今理國以道爲根則根深，修身以德爲蒂則蒂固，蒂固則長生，根深則久視，天人之式，家國之要也。

（以上第五十九章）

治大國若烹小鮮。

鮮，魚也。烹鮮不撓，撓則魚爛。故曰治國煩則下亂，修身煩則精散。

以道莅天下，其鬼不神。

君上用道臨下，鬼不見其精靈以害人也。

非其鬼不神，其神不傷人。

非其鬼無精靈而不害人，由上用於正道，所以邪不爲害。

非其神不傷人，聖人亦不傷人。

非其鬼神不能害人，但聖人在上，德被幽明，鬼神無害，由聖不傷也。又能利物，亦自不傷。

夫兩不相傷，故德交歸。

鬼神，聖人，兩者也。俱能利物，不相傷也。聖人慈善，鬼神正直，慈善處顯而光潤，正直在幽以潛資，俱以德澤交歸衆人也。

（以上第六十章）

大國者下流，天下之交。

交，會也。海在乎衆流之下，百川於是交歸，理國者自視缺然，萬國所以同會也。

天下之交，牝常以靜勝牡。

牝，雌而靜；牡，雄而動。夫靜可以制動，陰可以屈陽，故知謙撝伏跨企，柔弱勝剛強也。

故大國以下小國，則取小國，小國以下大國，則聚大國。

以謙爲德，可以容人，未能卑退，不可取聚。

故或下而取，或下而聚。

結二國也。

夫大國不過欲兼畜人，小國不過欲入事人。

國之大也，必欲遠扇於皇風；境之小焉，不過遐欽於道化。

夫兩者各得其所欲，故大者宜爲下。

扇皇風者，遠覃於聲教，欽道化者，來服於禮儀，俱稱所懷，各得所欲，衣冠是一，文軌大同。仍恐大者蔑小，貴者凌賤，重誠大者，以爲下也。

（以上第六十一章）

道者，萬物之奧，善人之寶，不善人所不寶。

寶，重也。道本無形，理唯虛寂，無形包之於有象，虛寂納之於動植，故言萬物之奧也。淑人君子，體正可以重真，不肖下愚，從邪於焉輕道，故有寶不寶也。

美言可以市，尊行可以加人。

體道忘言，信言不美，飾非之辯，未可契真，喪實之言，豈足稱道。華辭惑衆，飾僞以爲真，浮說亂人，以惡而爲善，適可用之於市肆，焉能建德而懷道。達至道者，忘之於彼此，悟自然者，混之於和同，豈可尊己而卑人，是我而非彼，自加於物上也。

人之不善，奚棄之有。

聖教無設，本以開曉於無知，妙道遐通，亦乃匠成於未悟，欲使善不善而皆善，知不知而共知，常善救人，寧容有棄也。

故立天子，置三公。



上古至淳，賢愚平等，身不失道，行合自然，人皆實道也。逮乎三五以降，物漸澆漓，無君不可導人，有主方能化物。故上樹垂拱之后，下設論道之官，示之以好惡，誡之以禮律，化彼不善，陶此淳風也。

**雖有拱壁以先駟馬，不如坐進此道。**

古之徵士，先進以璧，次進以馬，故言先駟馬也。夫倒置之徒，必須發之以蒙蔽，抱愚之者，亦宜耀之於智炬。作君上之心腹，為元首之股肱，義在匡救其惡，助宣風教。然而尚名者不安其分，妄規非次之榮，好寵者不以其道，唯希高貴之爵，驕奢自貽伊戚，遂至危亡之禍。未若增修至道，寵辱不驚。

**古之所以貴此道者何？不日求以得，有罪以免，故為天下貴。**

自昔至今，重於此道者何謂也？求之非一日而得，行之免百年之禍，保於福祿，絕於危亡，今古同尊，天人普貴也。

（以上第六十二章）

**為無為，事無事，味無味。**

息躁動，凝神於安靜；絕繁務，虛己於自然；除嗜欲，耽之於玄妙也。

**大小多少，報怨以德。**

怨之生也，或大或小，仇之起也，乍少乍多，涉有事之境，即拘斯累。恩怨相報，無有盡期。若能歸無為之大道，保自然之無累，遺茲混濁，味此清虛，咎過不生，怨讎不起，此報怨以德也。

**圖難於易，為大於細，天下難事必作於易，大事必作於小。**

作，起也。事之起也，必自易成難；物之生也，亦因小至大。所謀欲除難罪，必息於易；所慮欲除大患，先折於小。根本若除，枝葉自喪也。

**夫輕諾必寡信，多易必多難。**

定辭必信，輕諾必虛。難於所為罪業，生死皆易；易為非法之事，終始皆難也。

**是以聖人猶難之，故終無難。**

輕為惡事，動入罪因，聖人叡哲聰明，猶尚難於有為之事，故得終始無難。況盲暝之徒，不能重慎，欲免禍難，其可得乎？

（以上第六十三章）

其安易持，其未兆易謀。

安，靜也。未兆，機不動也。患難防，惡難止。思除其惡，制之於未動，慮息其患，持之於安靜。惡兆無由得起，不謀自然無患，此謂上士防患也。

其脆易破，其微易散。

罪小易滅，惡長難除，不能妨之於未動，必須制之於微脆，此中士除患也。

爲之於未有，

所謂其安易持也。

治之於未亂，

所謂微脆易破也。

合抱之木，生於毫末。九重之臺，起於累土。千里之行，始於足下。爲者敗之，執者失之。

合抱之木，自小而成大；九重之臺，因下以至高；千里之行，從近以及遠。若制之以靜，毫末之罪不生；止之於微，一簣之基易破；安然不動，千里之行無至。若不能爲之於未有，治之於未亂，爲有爲而不已，必致敗之；執惡行以爲是，終歸喪失。此謂下士闇於成事，以至敗亡也。

是以聖人無爲故無敗，無執故無失。

凡庸闇之於即事，故有敗失之非，聖人玄鑒於機前，無復有爲之患也。

人之從事，常於幾成而敗之，慎終如始，則無敗事。

幾，近也。凡人爲惡，不能早除，惡事近成，自然已破。若能同聖，去危求安，始不爲非，終不獲罪，無得無失，何敗何成也。

是以聖人欲不欲，不貴難得之貨，學不學，備衆人之所過。

凡情逐欲，賤道貴財，聖人不貪，重真輕寶。若也修不爲己，學乃爲人，貪利則過生，爭名則咎至，聖人無欲則遣利，絕學則忘名，不耀一己之能，防備衆人之過也。

以輔萬物之自然而不敢爲。

物之性也，本乎自然，欲者以染愛累真，學者以分別妨道，遂使真一之源不顯，至道之性難明，不入於無爲，但歸於敗失。聖人順自然之本性，輔萬物以保真，不敢行於有爲，導之以歸虛靜也。

（以上第六十四章）

古之善爲道者，非以明人，將以愚之。

欲教今俗，先引古人。古人用道，修身理國，不將奸智，役心眩物，此非以明人也。含光藏耀，全真抱樸，分別智息，將以愚之也。

人之難治，以其多智。

君上守質，臣下歸淳，未假威刑，自然順化。若也不行虛寂道德，唯用奸巧智慧，智多亂甚，故難理也。

故以智治國國之賊，不以智治國國之德。

智慧奸巧，傷害人深，國之賊也。質樸無知，任物自化，各事其業，俗樂家安，物我無傷，君臣俱泰，國之德也。

知此兩者亦楷式。常知楷式，是謂玄德，玄德深遠，與物反，然後迺至大順。

用智，不用智，兩者也。用之則賊害，不用則無傷，能知百姓無傷，此知理國楷模法式也。能知法式，本固邦寧，德之妙也。德妙不測曰深，尋求不逮曰遠，人皆用智，此獨用愚，與物反也。不逆物性，任之自然，斯大順也。亦言道本虛玄，俗便滓穢，順俗求道，失之於真，反俗修德，入之於妙，入妙則無可無不可，歸真則無通無不通，既其虛應無方，故能大順平等。

（以上第六十五章）

江海所以能爲百谷王者，以其善下之，故能爲百谷王。

此舉喻也，但海處卑下，故能爲百谷之王，明聖人謙虛，方爲萬國之主也。是以聖人欲上民，以其言下之；欲先民，以其身後之。是以處上而人不重，處前而民不害。

謙居物下有德，故推之以爲上；退身度人懷道，故尊之以在先。百姓樂戴，不以爲重，人皆忠孝，誰有害心。

是以天下樂推而不厭。以其無爭，故天下莫能與之爭。

無德者物所同厭，有道者人皆樂推。行揖讓之風，順萬物之化，誰當與爭也。

（以上第六十六章）

天下皆以我大，不肖。夫唯大，故不肖。若肖，久其細。

老君道尊德貴，誠可以爲大也。然則晦迹同塵，隱顯不測。不似於智，不似

於愚，故言不肖。不肖，不似也。唯當大聖之人，故無所似也。若形有定質，智有常分，的有所似，道有所封，此乃細碎之小人，豈是虛通之大聖也。

**我有三寶，寶而持之：一曰慈，二曰儉，三曰不敢爲天下先。**

俗存於利，貴之以七珍，道在於真，重之以三寶。三寶之義，未是外求：若能仁惠於萬物，好生而惡殺，慈之義也；薄賦輕徭，謹身節用，不奢不侈，儉之義也；忘己濟物，退身度人，不敢爲天下先也；持行修身，用此三者，安國寧家，寶之大也。

**夫慈故能勇，儉故能廣，不敢爲天下先故能成器長。**

慈心於物，物無害者，物既無害，自無前敵，以無敵故，故言勇也。用之奢侈，於事不足，行之儉約，處理有餘，周於遠大，故言廣也。尚之於謙退，守之於雌柔，其德能普，謙光日新，爲物所尊，故能成器長也。

**今捨其慈且勇，捨其儉且廣，捨其後且先，死矣。**

前明得三寶者，處慈而得勇，守儉而致廣，居後以至先。今明失三寶者，必竟不能行慈，苟且唯知好勇；節行不能覆儉，無度但當廣費；未解卑身處後，銳意欲在物先。好勇而不仁則亡，用廣而不節則困，無德而居物先則危，故云死矣。

**夫慈以陣則勝，以守則固，天將救之，以慈衛之。**

以慈爲用，不失其道，在於戰陣，必剋前敵，故言勝也。以之守國，無復傾危，遂言固也。以慈爲心，玄天所以加護，故曰救之。至道於焉保守，故曰衛之。內明是非交戰爲陣，解能破惑爲勝；身不失道爲守，與道同久曰固。自然無害，天將救也。外物不傷，道之衛也。

（以上第六十七章）

**古之善爲士者，不武；**

以慈來物，以德伏人，無鬪以力，不好以勇，無爲而化，斯不武也。

**善戰，不怒；**

能息寇亂，善戰也；救物用慈，不怒也。

**善勝敵，不爭；**

道濟天下，四海來王，德綏宇內，五兵不作。物則靡之而不刃，故言勝敵。無心自然以受推，故言不爭。

善用人，爲下。

使人不失方圓之器，任物各得文武之材，善用也。寬則得衆，謙則無咎，故言爲下也。

是謂不爭之德，

此結上文不武、不怒而能勝敵也。

是謂用人之力，

此結善用人爲下，人爲之盡力也。

是謂配天，古之極。

懷物以道，來遠用文，不戰而自勝，無爭而獨尊，其德高大，比之上天，其化淳和，比之極古。內明虛心實腹，坐忘合道，不假威權，無勞勇猛，故言善爲士者不武也。泯是非之情，除愛憎之見，善戰不怒也。物無害我，順而不逆，善勝敵不爭也。心王既靜，志在沖虛，耳目無擾，手足不勞，善用人爲下也。合自然之理，故曰配天，契昔之真際，古之極也。

（以上第六十八章）

用兵有言，

引古兵法。

吾不敢爲主而爲客，

在國先舉爲主，在陣先動爲主，先舉先動，僞盈必危。今欲保全，故云不敢爲主；和而不唱，後而不先，故言而爲客也。

不敢進寸而退尺。

不以兵強外侵，故云不進寸，而以積德內守，故云退尺也。

是謂行無行，

兵由彼起，我實不行，應物而行，無心而動，行無行也。

攘無臂，

怒而行兵，用兵所以攘臂，爲客退尺，不假臂以攘之，故云攘無臂也。

執無兵，

傷彼無道爲此，執兵以息兵，刑期無刑，未失慈義，慕道自歸，無兵可執。

仍無敵。

仍引彼敵，使歸無敵也。

**禍莫大於侮敵，侮敵則幾亡吾寶。**

兵主於殺，不可常行於有事，道貴幽靜，是故制物以無爲，務在安人，不令有害。若退失無爲之道，進無靜寇之兵，輕侮前敵，國破人亡，禍之大也。國實人富，主聖臣賢，是名得寶，人亡粟盡，臣辱主危，失吾寶也。

**故抗兵相若，則哀者勝。**

兩邊舉衆，名曰抗兵；多少均齊，故云相若。輕敵無備，貪而好殺者劣也。靜必依道，動皆以律，不失於慈，慈能制物，哀者勝也。內明煩惱多端，非智不破，欲陳其法，故云用兵有言。爲主必雄強，作客多雌弱，行人欲息動歸靜，知雄守靜，故云不敢爲主而爲客也。明道若昧，進道若退，學無所學，修無所修，不敢進寸而退尺也。識因緣之皆假，達理教之俱空，行無行也。非唯萬境虛寂，抑亦一身空淨，攘無臂也。內忘智慧，執無兵也。外絕情塵，仍無敵也。若放情極欲，失道喪身，亡吾寶也。智慧煩惱，二種恒隨，抗兵相若也。方便用於智慧，微妙不失慈悲，漏盡惑祛，蕭然無累，哀者勝也。

（以上第六十九章）

**吾言甚易知，甚易行。**

聖人設教，詞約理豐，照然義見，易知也。抱一絕於多惑，無爲斷於有累，故易行也。

**天下莫能知，莫能行。**

凡情不遵於玄教，守愚未聞於智慧，不識此道，莫能知也。迷淪有欲，弗習無爲，棄正從邪，莫能行也。

**言有宗，事有君。**

宗，本也。君，主也。以道德爲本，其實易知；以無爲爲主，其實易行。失本逐末者多矣，不體真宗；放情違性者衆焉，寧知君主。舉衆並皆如此，故云天下莫能行也。

**夫唯無知，是以不吾知。**

物皆闇惑，內無一毫之鑒，故云無知。迷理失道，外無萬境之智，故不吾知也。知我者希，則我者貴。

役役之輩，所重者名，區區之徒，所愛者利，少能體道，故言知我者希。弱喪不歸，歸之由於正路，漂浪不反，反之入彼真源，道在則尊，法之爲貴也。是以聖人被褐懷玉。

順俗同塵，外示龕服，被褐也。玄德無染，純白光生，懷玉也。

（以上第七十章）

知不知，上；不知知，病。

慧徹空有，智通真俗，知也。所照之境，觸境皆空，能鑒之智，無智不寂，能所俱泯，境智同忘，不知也。照如無照，知如不知，此爲上德也。不知強知，多知多失，傷身損命，是知之病也。

是以聖人不病，以其病病，是以不病。

聖本遺知，是以不病，痛彼衆生，有強知之病，以其病病也。痛惜衆生，雖爲軫慮，而分別塵累，不染聖人，是以不病也。亦言以其病病者，言衆人爲分別之病所病也，教以除分別，忘知見，既無有爲之患，故言是以不病也。

（以上第七十一章）

民不畏威，則大威至。

威，刑法也。若不畏於小罪，積惡不休，犯網觸羅，亡身損命，大威至也。內明不懼塵累，縱欲不止，欲縱則精散形穢，形穢則神離，神離則形敗，精散則枯弊，入真道而無緣，爲生死之所害，則大威至。

無狹其所居，無厭其所生。

人以所生爲樂，受生爲貴，不能閑居以養生，修善以防死，流宕失鄉，愛著他處，以他處爲廣大，以本鄉爲狹陋，此狹其所居也。長惡傷行，縱欲傷身，動之死地，不存久視，厭其生也。勸言無者，莫令如此也。

夫唯不厭，是以不厭。

通生由道，成形藉神，若能愛道存神，故云夫唯不厭。除垢止欲，志靜形清，神既附人，道亦愛己，故言是以不厭也。

是以聖人自知不自見，自愛不自貴，故去彼取此。

凡情失道，乃爲無識，聖智達理，故曰自知。忘於人我，泯於聞見，故曰不

自見。寶神惜氣，固精志道，不輕此生，故云自愛。不自大以賤小，不尊行以加人，忘於高下，故言不自貴。自知自愛者悟理，自見自貴者迷方，聖人說己化物，使物知歸，去彼自見自貴之忤物，取此自知自愛以全真。

（以上第七十二章）

**勇於敢則殺，勇於不敢則活。**

不懼爲勇，心果爲敢，白刃交於前，視死若生者，烈士之勇也。然智非計策，力異驍雄，貪利而前，必喪身命，故言則殺。義不爭利，仁必以慈，或以道德來人，或以策智伏物，於物無害，在我全身，故言則活。內明勇於聲色者殺身，不敢情塵者活己。

**此兩者或利或害。**

謂殺、活也。

**天之所惡，孰知其故。**

言天道好生惡殺，人多不能就利違害，此乃不識天之意故也。

**天之道，不爭而善勝，**

天道無心，與物不競，自然尊貴而居物先也。

**不言而善應，**

報於罪福，信之影響，毫分不失，故言善應。

**不召而自來。**

春生冬謝，寒往暑來，往者既非所遣，來者亦非命召也。

**坦然而善謀。**

大道甚夷，故曰坦然。圖人之得失，賞罰無差，鑒人之善惡，災祥不爽，故曰善謀。

**天網恢恢，疏而不失。**

羅之以太虛，網之於有象，既寬且大，故曰恢恢。罪有公私，愆無大小，微著皆盡，疏密無遺，故言不失。

（以上第七十三章）

**民不畏死，奈何以死懼之。**



時逢有道，物皆愛生，代屬無爲，人咸惜死。若不能綏之以至德，而制之以嚴刑，人不聊生，故言人不畏死。人不畏死，本由酷法，宜須在宥，用德忘刑，如何還以酷法理人，欲人懼之於死，此歎當時之失也。

**若使常不畏死，而爲奇者吾執得而殺之，孰敢？**

奇者，詭異亂群也。若時王用道，人盡全生，名爲畏死也。其有強梁之者亂群之人，爲於罪業，彌更奇異，天不長惡，故執得殺之。懼死自無爲過之人，修生孰敢爲非之者也。

**常有司殺者殺。**

司，主也。賞罰之理是常，生殺之官有主，不可以爲犯法者合死，而欲擅代殺之。夫代司殺者，是代大匠斲，代大匠斲，希不傷其手。

天道雖遠，玄鑒孔明。賞善罰惡，著在於冥司。春生夏長，彰之於見代。時政不能任之以天理，而代之以人功，亦失之於道也。然則頑人少能從化，奸黠多有難防，隨時定宜，制之法令，自有司刑之職，主殺之官。若推之不以其司，殺之不由其主，而擅殺者，猶拙夫之代巧匠，必有傷手之憂，少有不傷，所傷多矣。

（以上第七十四章）

**人之飢，以其上食稅之多，是以飢。**

百姓飢窮，四民困乏，非佗由也，稅重賦多。

**人之難治，以其上有爲，是以難治。**

有物撓物，所以難理，無爲正身，自然易化。

**人之輕死，以其生生之厚，是以輕死。**

重生之人，制浮情於正性，輕死之輩，溺邪識於愛流。取彼有生之生命，以養虛假之生身，故言生生之厚。厚者，積也，多也。事積則亂心，味多則爽口，不能重慎，以保長生，縱欲喪身，輕之死地也。

**夫唯無以生爲者，是賢於貴生。**

夫以生爲有，而厚養過其分，遂致傷生，此未能重生也。達至道者，觀身非有，悟理無生，不見虛假之形，自祛染愛之累，與虛靜而合德，共至道而同根，雖不養生，而生自養，此所謂能重生也。賢，能也。貴，重也。

（以上第七十五章）

**人之生柔弱，其死堅強。**

天下莫柔弱於氣，氣莫柔弱於道，是以人之受生，必資道氣，氣存則屈伸由己，道在則動靜任神，順心無逆，從事靡違，故言柔弱。不能保氣，氣竭則身亡，未解怡神，神逝則命殞，命殞身亡，不能轉動，故曰堅強也。

**萬物草木之生柔脆，其死枯槁。**

無情之物，有氣故生，無氣故死；是知有識之類，得道於焉柔弱，失道所以堅強也。

**故堅強者死之徒，柔弱者生之徒。**

結上有識無情，生死二理，各有徒類。

**是以兵強則不勝，木強則共。**

不以德而固，乃恃兵爲強，兵強暴於天下，好殺物之所惡，聚寡爲衆，扶弱爲強，反共攻之，則有不勝。是以木之強也，枝葉共生其上；柱之強也，梁棟鎮之於下。以斯曉喻，欲令務修德以柔弱，不飾兵以堅強。

**故堅強居下，柔弱處上。**

生者人之所欣，柔弱者生之徒，豈非上耶！死者物之所感，堅強者死之徒，寧非下耶！

（以上第七十六章）

**天之道，其猶張弓。**

人事近而淺，面之而不測其情，天道遠而深，仰之而豈觀其理。迷途莫曉，正道難明，故借彼張弓，以之爲喻。

**高者抑之，下者舉之，有餘者損之，不足者與之。**

用弓之道，高者恐過，故抑之令不高；下者不及，故舉之令不下。不高不下，中前期也。爲國之者，損有餘之富，益不足之貧。貧被益而不貧，富經損而不富，不貧不富，中於爲國之政也。太高恐於邈空，抑之令不空也；極下慮之滯有，舉之令不有也。不有不空，合於中道也。

**天之道，損有餘，補不足。**

釋天道以合喻。

人道則不然，損不足，奉有餘。

言人爲行，與天道反，未能損強益弱，而乃減貧增富。

孰能有餘以奉天下，唯有道者。

誰能法天道以爲行，損盈益謙，有道之君，當能如此也。

是以聖人爲而不恃，成功不處，斯不貴賢。

聖人爲德，不賴其報，成物不處其功。所以爾者，欲隱其聖德，晦其賢才。上既如此，下自法之，爭名之患自除，尚賢之愆不作也。

（以上第七十七章）

天下柔弱莫過於水，而攻堅強莫之能先，其無以易之。

觀之於一切，總之於萬有，柔弱之至者，水之爲最也。銷金石，破丘陵，無能過水，水最勝也。破堅強法，水既爲勝，故不可易之。理國者若能以謙爲德，以道爲用，必可破之於強敵，摧之於驍雄，而道最爲先，故無易於道也。修身者能守雌柔之至道，自破剛強之人我，解宅虛靜之至理，妙絕是非之交爭，唯道爲勝，無以代之也。

故柔勝剛、弱勝強。

此結上文。

天下莫能知，莫能行。

多好剛強，少存柔弱，不能謙退，競處物先也。

是以聖人言：受國之垢，是謂社稷主，受國不祥，是謂天下王，正言若反。

體柔弱之道，則物無不包。悟幽玄之境，則事無不納。含非遏惡，受國之垢也；罪己責躬，受國不祥也；適可以爲物主，故言天下王也。此言反於俗而合於道，故云正言若反也。垢，穢也。祥，善也。修身者雖復歷之於穢淨，穢淨兼忘，經之於善惡，善惡同捨。照一理之元寂，達萬境之皆空，可以成道爲法王也。以俗觀之，垢淨善惡，咸以爲有，以道觀之，並悉是空，故云反也。

（以上第七十八章）

和大怨，必有餘怨，安可以爲善。

物我齊一則是非不起，彼此糾紛則怨讎斯作，故禮有報怨之義，法有償死之刑，怨往怨來，怨怨不息。思欲息怨，和之令去逆以從順，平之使反惡而爲善。

然口善而心不善，面從而意不從，不善不從，餘怨餘恨，此則更起於惡，何得用之爲善。欲得爲善，未若元不爲怨，元不爲怨，何須和順，既不和順，亦無忤逆，逆順斯忘，怨讎自息，不知善之爲善，始可名爲至善。

是以聖人執左契不責於人。

古者聖人刻木爲契，君執於左，臣執於右，爲信合之符契，不復制之以法律，於物無罰，故言不責於人也。

故有德司契，無德司徹。

司，主也。契，合也。徹，離也。有德之君，心之所主，上合無爲之道，混然冥一，下爲萬物所歸，信之符契。若其無德，不解行善，非唯不契於道，抑亦衆人離散也。內明有德合理，故云司契；無德乖真，故云司徹也。

天道無親，常與善人。

天道平等，無有親疏，惡人遠道，致有疏名，善者近真，故生親稱，至理爲語，不疏不親。但以善人行善，天乃福之，故云與善人也。然乃與善，不與不善，是知輔德，不輔無德，若能行於德善，善德自然歸之也。

（以上第七十九章）

小國寡民，使有什伯之器而不用；

聖人理國，用無爲之道，所有軍戎器械，或少或多，若伯若干，皆悉不用。小國猶爾，況大國乎？

使人重死而不遠徙。

政逢有事，物乃輕生，化屬無爲，人皆重死。父既保子，妻不失夫，各得樂業安居，無復流亡遷徙。

雖有舟輿，無所乘之；

夫水行用舟，陸行用輿，無爲之代。山無蹊隧，澤無舟梁，本絕去來，何乘之有。

雖有甲兵，無所陳之；

兵以討逆，武以靖亂，上既行道，下乃好德，自然從化，何事陳兵也。

使民復結繩而用之。

古者書契未作，結繩爲政，文字既興，澆薄滋甚。聖人設教，義在無爲，欲

使反澆還淳、去華歸實也。

**甘其食，美其服，安其居，樂其俗。**

物情不悅，食玉衣錦，不以爲美。人心既適，飯蔬被褐，足可爲甘。今陶聖化，過大鈞。人無貴賤，所食者皆甘也；服無好惡，所衣者皆美也；家無貧富，所居者皆安也；鄉無豐儉，所住者皆樂也。既無遠徙之者，故絕弱喪之人。

**鄰國相望，雞狗之聲相聞，使人至老死不相往來。**

兩國爲鄰，望之在目，雞鳴狗吠，聽之聞耳，從始至終，以少及老，不相往來，人人皆自足，家家俱有道，故曰人相忘於道術，魚相忘於江湖，其斯之謂也。

（以上第八十章）

**信言不美，美言不信。**

言以宣心，非關妄作，務存實理，不在華詞，故云信言不美。甘言失真，輕諾寡實，故言美言不信也。

**善者不辯，辯者不善。**

大辯若訥，無勞詞費，善者不辯也。偏詞過當，多言數窮，辯者不善也。

**知者不博，博者不知。**

子能知一，萬事畢，知者不博也。文滅質，博溺心，迷至理，不知也。

**聖人不積，既以爲人已愈有，既以與人已愈多。**

不積者，虛懷也。猶如日月流輝，照臨萬寓，物得以見，轉益光華，猶聖人智徹於物，法施無窮也。江海灑潤，善利萬物，物得以生，而源流不竭，亦猶聖人財施不盡也。

**天之道，利而不害，聖人之道，爲而不爭。**

天道施生利也，常善救人而不害也。爭由心起，爲因事生，聖人無心，自然無事，事既無事，無亦無爲。

（以上第八十一章）

上《道德經李榮注》，蓋先君子於1945年至1947年所輯校者，1948年8月由四川省立圖書館用連史紙石印，其印葉版面格式及裝幀，一同《輯校成玄

英老子義疏》，仍由先大父君弼公藥寫膠紙漬石，彭雲生先生署簽《老子注》，謝無量太夫子書內封面《道德經注》。卷二後附《校記》十七則，書末附活字排印先君所撰《跋》一篇。今據整理。移《跋》於編首，更題為《序錄》，蓋文內盡言輯校原委，並詳考李榮籍貫年世，於序錄之體亦無不合也。此《跋》初刊布於《圖書集刊》第八期，收附輯校稿時曾經刪改。

原輯本以《正統藏》及敦煌寫本《李注》殘本皆未分章，僅《道藏》殘本分為四卷，故輯校本亦未分章，而據兩《唐志》分全書為四卷。今據《李注》第三十六章，知李榮亦同全書八十一章之說；且敦煌寫本於各章間或提行或空二格，知其分章亦與河上本同；於杜光庭《廣聖義序》知《李注》亦分上下二卷。故今茲整理亦分為二卷八十一章，每章之間空一行，並注章次於章末另行括號內。又將原附卷二之《校記》改附編末。

先君輯校《李注》既竟，《跋》中有言曰：“於《李注》輯校，致力尚勤，而於經文校勘覺未盡當，以有《正統藏》及敦煌寫本足據耳，兩本之誤，多依違之，亦當於再版時竭力精校，以彌此憾也。”（《圖書集刊》第八期）默於整理之際，亦偶見尚有校勘未盡處，因遵先君遺意進行再校。本次再校，以原輯校本為底本，而自《德經》始，蓋《德經》除遂州、易州二龍興觀《道德經碑》係省字本外，尚有敦煌寫本《李注》可憑也。唯此寫本自清末淪落海外，割裂為六，其五存巴黎國民圖書館，而另一則存倫敦大英博物館，先君輯校《李注》時僅見巴黎所存者，而倫敦所存者（第五十三章至六十一章）則未之見，故此次校《德經》所刪六十七字、改二十八字、補四十四字，多在此帙之中：如第五十五章，“駮”、“嗟”二字各有音注四字，引本皆無；第六十章“治大國若烹小鮮”句下，強引《注》奪十三字；“以道莅天下其鬼不神”句下，強引竟以《開元御疏》五十九字誤為《李注》，而於《李注》十六字則隻字未引；原輯並據強引，此皆盡行刪補。他之改易者，除據敦煌寫本外，並參遂州、易州及敦煌《成疏》殘卷，蓋敦煌《李注》經文固多與此三本經文相合也。此外亦有據《注》文改易經文者，如第六十九章“仍無敵”句，敦煌本經注皆奪，輯校本據強引補是也；然強引“仍無敵”句在“執無兵”句前，易州本同，故輯校本仍之。然遂州及敦煌《成疏》“仍無敵”皆在“執無兵”後，且“抗兵相若則哀者勝”句下《李注》，亦以“仍無敵”序“執無兵”後，則知李經亦當如此，故倒移“仍無敵”經注於“執無兵”後。《德經》校畢，乃校《道經》，《道藏》雖存

《李注》之《道經》，然此《道經》已非《李注》本之舊，故每與注不合，先君輯校時已頗有改易，然猶有未盡。故此次再校，乃以遂州、易州及《想爾注》經文為主，並參以先君所訂《成疏》經文，蓋先君所訂多據強引《成疏》所牒經文及《疏》文所徵經文也。而敦煌本《李注》與敦煌《成疏》相校，自第六十章至第八十一章二十二章中，除明顯奪訛者外，其經文確相異者止二十四字，略為百分之二，是李經與成經同最相近也。故此次再校《道經》所刪二十三字，盡皆遂、易、想爾、《成疏》四本所無者；所改八字，除參四本外，又多據注文，如第四章《道藏》殘本作“淵兮似萬物之宗”，輯校本仍之，想爾作“淵似萬物之宗”，遂州無“之”字，易州作“深乎萬物宗”。案《李注》此云：“海深故百谷朝而歸之，道深故萬物宗而奉之。”是李經顯當與易州相同，故改從易州。又第二十章殘本作“善之與惡，相去何若”，輯校本仍之，而遂州、想爾“善”皆作“美”。案《李注》於此云：“無逆無順，不美不惡。”又云：“夫進智以徇美，與飾僞以為惡。”並皆以“美”、“惡”相對，是李經當同遂州、想爾，故亦改之。又第二十四章殘本作“企者不立”，輯校本仍之。遂州、想爾皆作“喘者不久”，易州作“企者不久”，《成疏》作“跂者不久”。案《李注》於此云：“企踵越分，行不久也。”是李經當同易州，故亦改之。而所補三字，亦係據《注》為定：第二十二章殘本作“夫唯不爭，故莫能與爭”，輯校本仍之，遂州、想爾皆同，易州及《成疏》則作“夫唯不爭，故天下莫能與爭”。案《李注》於此云：“不爭功名，與物無競，故天下雖大誰能與爭？”是李經應同易州及《成疏》，故據補“天下”二字。第三十六章殘本作“國之利器不可以示人”，遂州、易州皆無“以”字，輯校本據刪；而想爾及他本多有“以”字，案《李注》云：“利器不可以示人。”是李經“以”字未可刪，茲亦據補。又第二十一章“杳冥中有精”句下，《注》文並釋“精”、“真”，是“其精甚真”句當亦在此《注》上，而殘本誤置於此《注》之下，輯校本仍之，茲據移置此《注》上。凡此瑣末所以喋喋言之者，蓋皆擅改先君所訂舊稿，雖為秉承遺訓為之，不敢必其有當，不能不有所陳述說明也。

## 附：校記

道德真經注序 《正統道藏》《李注》殘本卷首有此序，實爲《上道德經注表》，易表爲序，蓋樸野者所妄改；又文中“錄籍”之“錄”爲“綠”字之誤。今皆仍之。

第三章“強其骨”句下注：“得成仙骨自強。”“得”當爲“德”之誤，唯強引及殘本皆作“得”，姑仍之。

第七章“後其身而身先”句下，殘本注作“唯聖人能知能行此行。”強引無“能知”二字爲是，茲據刪。

第十四章“故混而爲一”句下，注“一是三一”，應重一句，強引亦不重，且刪下“三是一三”重句，改作“惟其”二字，茲仍從殘本，並補“一是三一”。蓋舊寫於重文重句皆作點，傳寫脫之耳。《老子翼》引《李注》亦同殘本，皆非。

第十八章“六親不和有孝慈”句下，殘本注作“彼此相須。”強引“須”作“混”爲是，茲據改。

第二十章“美之與惡相去何若”句下，殘本注作“夫進智以徇美，與飾僞以爲惡，事雖不同”。強引“與”作“譽”爲勝，疑“事”下或復“事”字，姑仍依殘本。

第二十章“我獨怕未兆”句，“怕”下有“兮”字，據省字本刪。《李注》“我澹泊於無爲之端”，是李經“怕”應作“泊”，唯《道藏》“淡泊”多作“惔怕”，仍依殘本。

第二十三章“信不足有不信”句下，殘本《李注》原作“同於道者道德之，信於德者德得之”。強引作“同於道得之，信於道道信人”。兩本義皆不可解，顯有奪誤。按李榮此注全襲用鍾會，鍾注此句作“同於道者道得之，信於道者道信之”。則強引上句奪“者道”二字，下句奪“者”字，復誤“之”爲“人”字。



殘本上句妄改“得”爲“德”，下句妄改兩“道”字作“德”。又改下“信”字作“得”，故三復校讎皆未得定。以《成疏》、《李注》及凡唐人之說，多襲用六朝舊解，旋檢得李霖《取善集》引鍾注，校正如此。敦煌本《老子無名氏注》，李木齋尚有一殘本，徐當更求校之。

第三十四章“大道泛”句下，《李注》“隱見非一”，殘本“隱”原作“影”，實誤字。強引適缺此注，以訛誤顯然，故徑改之。

第三十六章“將欲弱之，必固強之”句下，殘本《李注》原作“柔弱生徒，剛強死行”。文義不清，強引作“柔強生之徒，剛強死之徒”。詞義明白，茲改從強引。

第三十七章“道常無爲而無不爲”句下，《李注》“至理爲語不寂”句，蓋奪“不動”二字，唯此章之注，殘本、強引皆缺，僅有敦煌寫本，無所據正，故以意改之。

第三十八章“故失道而後德”句，《李注》：“愛則有所不同。”“同”疑“周”字之誤。此條僅有強引，無從校正，姑仍之。

第四十一章“夫唯道善貸生”句，敦煌本如此，他本多作“善貸且成”或“善貸且善成”。唯《李注》亦作“貸生”，是李經本來如此。

第四十四章“名與身孰親”句，李霖《取善集》引李榮注云：“身形是成道之本，故爲親；名聞是虛假之法，故爲疏。世人不能爲身以損名，只爲名以損身。”與強引及敦煌本不同，倘異家之注，李霖誤以爲任真之注耶，謹附記於此。

第五十四章“子孫祭祀不輟”句，《李注》：“授繼響於玄風。”強引、敦煌本皆如此，“授”下蓋奪“受”字，茲空一字。

第七十九章“是以聖人執左契不責於人”句，李霖引此注同，唯注末多“是故不罰不責，何怨何和”十字，爲敦煌本及強引所無，謹附於此，不採入正文。

## 校理陳景元《老子注》

### 校理陳景元《老子注》、《莊子注》叙錄

——附論陳碧虛與陳搏學派

唐代道家，頗重成（玄英）、李（榮）；而宋代則重陳景元，於徵引者多，可以概見。考《宋史·藝文志》有陳景元《道德經注》二卷；復有碧虛子《老子道德經藏室纂微》二卷，自注云：“不知名。”然碧虛子即景元，不知《宋史》何以失誤如此。《正統道藏》有《道德真經藏室纂微篇》凡十卷。《道藏》每開析卷帙，以爲誇炫，自不足論。唯此十卷者文高義美，而劉惟永《道德真經集義》所徵陳說，竟視藏本爲稍繁。劉引諸家，文無刪節，一仍舊貫。惜劉書殘闕不完、僅存《道經》十一章，不得見劉據陳書之全璧。彭耜《道德真經集注》引陳說頗富，文雖割裂，然校知與劉書同出一本。即其節引文字言之，亦頗出此十卷本外。宋李霖《道德真經取善集》，亦每徵《纂微》，文字異同，亦符劉本。薛致玄《道德真經衍義手鈔》引《陳注》亦同劉、李，合彭、李、劉、薛四家求之，實見別有一《纂微篇》。唯溢出之詞，多非精卓，文稍傷蔓。而此約本十卷頗列各家文句同異，校正得失，胥出劉、彭諸本外。知此約本爲後定，殆從前本出，後

乃加以剪裁耳。是陳書之行，原有先後二本，故《宋志》云然。以劉、彭、李、薛四書校此十卷，《正統藏》縱多奪誤，幸皆可是正，洵足以當善本。景元《自序》言：“依師授之旨，略纂昔賢之微。”此則名書之意。楊仲庚《序》曰：“碧虛子陳君景元，師事天台山鴻濛子張無夢，得老氏心印。有《道德經藏室纂微篇》，蓋摭諸家之精華，而參以師傳之秘。”薛致玄《道德真經藏室纂微開題科文疏》卷一言：“陳景元字太初，號碧虛子，家世建昌。……慶曆二年，即高郵天慶觀禮崇道大師韓知止爲師。三年，試經度爲道士。十八負笈遊名山，抵天台，閱《三洞經》，遇高士張無夢，得老莊微旨。……熙寧五年，進所注《道德經》。……所藏內外書數千卷，皆素所校正。又親札三百卷，善小楷，深得褚、歐法。……凡詩篇雜文得陶、葛體。”豈碧虛所上書原名《道德經注》。李霖所引皆稱《纂微》，爲先時之作；於後刊正，遂稱注耶？劉惟永《集義》謂：“碧虛乙未造解。”蓋當仁宗至和二年，碧虛年三十一歲也（乙未應爲己未之誤，己未爲神宗元豐二年，碧虛年五十五）。熙寧五年進書，歲在壬子，碧虛當已四十八。劉、李同出一本，李稱《纂微》，爲先成之書。熙寧五年進書稱注，則注爲後定之本審矣。《正統藏》中約本，宜以稱注爲允。是《宋志》分列二書尚非大失，至不知爲一人之作，則誠過矣。景元復有《南華真經章句音義》，亦存《藏》中。而褚伯秀《南華真經義海纂微》則引陳景元《注》。云：“景元，熙寧間主中太一宮，召對，進《道德》、《南華》二經解，頒行入《藏》。”褚引之《注》，推釋大義，與《章句》之言訓詁者爲例各別。按碧虛《老注》既兩見於《宋志》，而《莊注》則《宋志》無之。《通志·藝文略》有《莊子餘事》一卷，注“陳景元”（元誤作先），又《南華總章》一卷，《南華章句》七卷，並注云“碧虛子”。高似孫《子略》有碧虛子《南華總章》二卷，《章句》七卷，不言《餘事》。薛致玄《開題科文疏》稱碧虛所著有“《南華經章句》七卷，《總章》三卷，《抄義》三卷”。《抄義》不知亦屬《南華》之學否？亦不言有《餘事》。《總章》之爲三卷、二卷、一卷，亦不可定。《總章》、《抄義》二書，後皆不存。今《正統道藏》所存有《章句》、有《餘事》，《餘事》則亦校定文字同異者也。至褚伯秀所引《陳注》，則專陳大義者，乃《宋志》、《通志》、《薛疏》皆未言及。道家記述不詳，自其恒事。茲合碧虛《老》、《莊》兩著論之，其述書體例，殆有可尋。余既考《老子注》爲後定之本，後定本備校文字異同，而《纂微》先成之稿無之。此宜

別有《老子餘事》，一如《莊子餘事》，而後來合之《注》中者。則《老注》之既詳訓詁、復陳大義，倘亦先爲二書，而後合之耶？《老注》爲合訓詁、義理、校勘三事以爲書，《莊注》則三事各別爲書，未合爲一，則固一未完成之作耶？既有《莊子餘事》以言校勘，而今存《章句》卷中凡校文皆在焉，則《餘事》、《章句》又已合而爲一也。依褚氏《義海纂微序》言“陳景元注卷首《序》云：‘莊子師長桑公子，受其微旨，著書十餘萬言，目曰《南華論》。’內篇三字標題者，是其舊，外雜篇則爲郭象所刪修。今通計正文止存六萬五千九百餘字，唐開元十九年侍中裴光庭請冊四子，天寶元年詔問《莊子》宜依舊號曰《南華真經》，義取離明英華、發揮道妙也”云云。褚所云碧虛《莊子注序》，今皆在碧虛《莊子章句序》中，因疑《章句序》即《注序》，非有二也。《章句序》“今於三十三篇之內，分作二百五十五章，隨指命題，號曰《章句》。逐章之下，音家解義釋說事類，標爲《章義》，書成”云云。則陳書《章句》之下，復有《章義》。今《章句》後無《章義》，豈褚氏所引者即《章義》歟？然則《通志》、《薛疏》所云《餘事》、《章句》、《總章》三者，《總章》殆即《章義》也。《薛疏》五又稱《南華經章句解義》，則《章義》、《解義》一也。豈《章句》、《總章》原爲二，殆至此遂合於一耶？《章句》作於元豐甲子歲，爲元豐七年，碧虛當年已六十，則書成已晚，非《老注》同進可知。褚氏蓋約舉其事言之耳。《序》云：“別疏《闕誤》一卷，以辨疑謬。”而今本《闕誤》已合於《章句》，則今本又在碧虛年六十以後，而《序》則仍前。碧虛書之稱《注》，必仍六十以後事，以《序》言“號曰《章句》”，則固不名《注》。褚稱之《注》，諒爲後定。《序》言“標爲《章義》”，殆即以原之《總章》，合於《章句》。今之《章句》，已合《闕誤》，而不見《章義》，則已與元豐七年本不同。所謂《注》者，殆合三者爲一。褚氏所引，似即《總章》，而無《章句》。世傳《章句》本，又不見《章義》。豈後人徒取菁華，仍以《總章》別行，致與《章句》裂爲二耶？則陳氏書之一離一合，究其先後之故，而入《藏》之《注》，其體制亦可思也。余既於褚氏書中輯出所引碧虛《注》文，念徒《注》不可以無《經》，而《章句》例同陸氏《釋文》，《經》亦不備，於紬繹殊不便，今《注》既爲新輯，不嫌重爲編次，因爲補入《經》文。《章句音義》則雙行小注於當句之下，而《陳注》之文則正行低格，錄於各章之後，仍依褚書之式，不改其舊。雖合爲一書，而三書體制亦自分明。《餘事》原書首爲

分章篇目，次爲《闕誤》，則專爲校事。今二者既已備於《章句》，無事復出，因削而不錄。至《餘事雜錄》，則謹附之全書之末。而音訓、校勘、義理三者，遂萃於一編，或於學者爲便。雖變異原書，倘固碧虛之意歟？此考尋其述書體例，而事有可知者也。《章句音義》原缺《天地》、《天道》、《天運》、《秋水》四篇，所幸《餘事》之首，章名備在，今尋諸經文，一依分章篇目，析四篇爲四十一章。陳書篇次頗異郭本，皆不爲改正，仍存其舊。俾讀碧虛書者校論之。褚氏之書，皆稱陳景元《注》，則碧虛《老》、《莊》二書，於奉進之際，皆名爲《注》。《宋志》、《通志》或稱景元，或稱碧虛，爲例不一。正其先成之篇稱碧虛，後定進呈之本稱景元，事有固然。倘陳氏原書之題實如此，而二志因之耳。茲合陳氏三種未完成之書，以求合於進呈後定之本，殆亦事之不得已者耶？至《薛疏》惟言進《老子注》，不言《莊子》，與褚說異。然薛據《纂微》前定本爲之疏，且未知陳氏後定之注，遑論《莊子》。況《莊子》之進，又在其後，則不能據薛說以疑褚也。褚據入《藏》者言之，謂之爲《注》，今仍依以爲據。於此新輯重編之本，仍以《莊子注》名之。《正統》多奪誤，然褚伯秀書，《四庫》有傳鈔本，明朱得之《莊子通義》實取《褚書》，亦有刻本。將徐求校之。余既合劉、彭、李、薛四本以校《老注》，茲復重編《莊注》，是碧虛一家老、莊之學，庶足據以爲研討之資，亦可以無所於憾也歟。

彭鶴林《道德真經集注》引《高道傳》：“鴻濛子張無夢，字靈隱，好清虛，窮《老》、《易》，入華山與劉海蟾、种放結方外友，事陳希夷先生，無夢多得微旨。久之，入天台山。真宗召對，問以長久之策。無夢曰：‘臣野人也，但於山中嘗誦《老子》、《周易》而已，不知其他也。’除著作佐郎，固辭還山，賜金帛、處士號，並不受。”於是始知碧虛之學，源於希夷。昔人僅論濂溪、康節之學源於陳氏，劉牧《河圖》、《洛書》之學，亦出希夷，而皆以象數爲學。又自附於儒家。今碧虛固道士之談老莊者，求搏之學，碧虛倘視三家爲更得其真耶！無夢事不多見，《歷世真仙體道通鑑》有傳，王圻《續文獻通考》、《說郛》、曾慥《集仙傳》及《天台縣志》（《圖書集成》引），亦頗言無夢事，視彭書稍具，其出於《高道傳》否不可知，稍集比其文，亦足有裨觀省。蓋張無夢鳳翔盩厔人，字靈隱，號鴻濛子，永嘉開元觀道士。幼入華山，與种放、劉海蟾爲方外友，師事陳搏，多得微旨。久之，遊天台，廬於瓊臺，博通古今百家之學。真宗召對，講

《易·謙卦》，上問曰：“獨說《謙卦》，何也？”對曰：“當大有之時，守之以謙。”復命講《還元篇》，答曰：“國猶身也，心無爲則氣和，氣和則萬寶結。有爲則氣亂，氣亂則英華散，此《還元》大旨也。”敷對詳明，真宗大悅，賜處士先生號，亦不受。宸翰特賜以詩，寵其還山。朝士咸賦詩贈其行。後終金陵，有《瓊臺集》行於世。《天台志》云幼入華山，恐失辭。种、劉皆不世之才，結友而師希夷，固不得云幼也。又《中山詩話》云：“道人張無夢，在真宗朝以處士見，除校書郎，年九十死。”殆傳聞之辭又異。陳搏事則《宋史》外稱道尤多，茲不詳爲論列。至《還元篇》義，至遊子《道樞》采之較備，附錄於下：

鴻濛子曰：國猶心也，心無爲則氣和，氣和則萬寶結矣。心有爲則氣亂，氣亂則英華散矣。遊玄牝之門、訪赤水之珠者，必放曠天倪，囚千邪，翦萬異，歸乎樛樸守靜。靜之復靜，以至於一。一者道之用也。道者一之體也。一之與道，蓋自然而然者焉。是以至神無方，至道無體，無爲而無不爲，斯合於理矣。故得其道者見造化之功，隨鬼神之妙而無所不變焉。糞蟲變蟬，腐草變螢，雀入水變蛤，雉入水變蜃，田鼠變鴛，魚變龍，此其小者耳。其大者，人可以變仙也。吾常觀天地變化，草木蕃蔓，風雲卷舒，日月還轉，水火相激，陰陽相摩，遠取諸物，近取諸身，著還元詩百篇云云。（《道樞》卷十三）

伊洛之學，得統於濂溪。而周子之書，僅《通書》、《太極》而已。重以邵氏、劉氏之傳，致後人每歎希夷之學，僅於象數、圖書焉爾。及讀碧虛之《注》，而後知伊洛所論者，碧虛書殆已有之。其異其同，頗可見學術蛻變演進之迹。其有道家言而宋儒未盡挾去，翻爲理學之累者，亦可得而論。皆足見二程之學，於碧虛淵源之相關。依是以上探希夷之說，其端緒固若可尋，而象數、圖書者，將其餘事也。是二程之於濂溪於耳提面命之間，將有超乎《通書》、《太極》者在。二程之學以有語錄之作，故能闡發盡致，而濂溪語言不著，其精詣所在，若存若亡。此余於碧虛之書，益信伊洛淵源之有自，校其同異，而希夷之卓絕淵微，更有足驚者。蓋希夷、鴻濛、碧虛，皆懷博通浩瀚之學，而察理淵微，胥不可以方外少之。碧虛之《自序》曰：“若九丹八石，玉體金液，存真守元，思神歷藏，行氣鍊形，消災辟惡，治鬼養性，絕穀變化，厭固教戒，役使鬼魅，皆老子常所

經歷救世之術，非至至者也。”則皆鄙而棄之。此正寇謙之、陸修靜之徒所有事，若爲希夷之門所不道者。彭耜《集注序》言：“秦、漢方術之士，所謂丹竈奇技，符籙小數，盡舉而歸之道家，此道之緒餘土苴者耳。”正與碧虛之旨合。觀於希夷、鴻濛受詔酬對之際，正其宗風所在。視林靈素輩之術，非能之而不言，殆有不屑爲者。則已厭上來隋、唐之舊轍，而極深研幾於圖書象數，此又新舊道流之一大限也。呂東萊編《宋文鑑》，於希夷取《龍圖序》一篇，此正宋之道家，所以異於隋、唐符籙丹鼎之傳者，故東萊取之耳。就《高道傳》言之，劉海蟾正出於希夷，殆所謂南宗之祖，後乃易之以鍾呂傳道無稽之說。而五祖葛長庚、彭鶴林輩，若皆無系於希夷，且又並希夷而系之於鍾呂。全真既盛之後，而重陽北七真出於鍾呂之說又興。陳搏之事，若存若亡，而鍾呂傳道之說大盛。鍾呂之事，倘猶釋氏之有惠能，要爲唐宋新舊道教之一大限，而前茅實爲希夷，安有所謂鍾呂者哉？此因究碧虛之書，有足以見之者。碧虛之書於篇端首附以葛次仲之《老子論》，以明孔、老之爲一，此宜亦希夷以來之旨，亦周、邵所由入於儒家者也。是亦不異於重玄之風，特唐人闡發之精，未至於是，希夷誠爲有開來之功。邵伯溫言：希夷始有大志，種放言其有皇帝王霸之學，皆足見其識量之奇偉，非徒枯槁山林者也。觀其流風所被，甄陶羣傑，更足驗也。因並考其學脈所及，譜而存之，凡所表見五十餘人，固亦偉矣！邵、周之徒，以《學案》言之既悉，皆削而不錄。

## 附：陳圖南學譜

朱震《漢上易解》云：“陳搏以《先天圖》傳種放，放傳穆修，修傳李之才，之才傳邵雍。放以《河圖》、《洛書》傳李溉，溉傳許堅，堅傳范諤昌，諤昌傳劉牧。穆修以《太極圖》傳周敦頤，敦頤傳程顥、程頤。”（《宋史·震傳》）此三宗最顯，周、邵之傳備於《宋元學案》，衣被遂廣，茲弗論也。

邵伯溫《易學辨惑》言：“陳搏好讀《易》，以數學授穆修，修授李之才，之才授邵雍堯夫。以象學授種放，放授廬江許堅，堅授范諤昌，此一枝傳於南方也。”邵說稍異於朱，邵於先天之傳爲家學，其言源流殆不誤，而於《河圖》、

《洛書》之傳，或不如朱爲悉也。

《辨惑》又言：“穆修師事陳圖南，而傳其學。其後尹源（子漸）、尹洙（師魯）兄弟從之學古文。又傳其《春秋》學。”又言：“李之才挺之簽書澤州判官廳公事，澤人劉義叟晚出其門，受曆法爲名士。”而《邵氏聞見錄》又云：“祖無擇，蔡州人，少從穆伯長爲古文。”《宋史·穆修傳》言：“蘇舜卿兄弟多從之游。”則穆氏之傳有尹源、尹洙、蘇舜卿、祖無擇，皆雄於文，而挺之之門有劉義叟，此皆世罕能言者也。

《東都事略》言：“高弁從种放學於終南。”《宋元學案》言劉顏學於高弁，而顏之門下有張洞、曹起。見《士劉諸儒學案》。《直齋書錄》有《易證墜簡》：“毗陵從事范諤昌撰，天禧中人。序……又言：得於湓浦李處約。李得於廬山許堅。”此亦視邵之說爲詳。《直齋書錄》又有《易解》十四卷：“尚書右丞皇甫泌撰，曰《述聞》，曰《隱訣》，曰《補解》，曰《精微》，曰《師說》，曰《明義》（晁氏作《辨道》）。其學得於常山抱犢山人，而莆陽游中傳之。……山人不知名，蓋隱者也。泌嘗守海陵，治平以前人。”《宋元學案》記劉牧門下有黃黎獻、吳秘。黎獻“所著有《續鈎隱圖》一卷，《略義例》一卷，《室中記師隱訣》一卷”。秘“所著有《周易通神》一卷，今世所稱長民《周易新注》十卷，蓋合黎獻之三卷，及秘《通神》一卷，皆在其內。其《記師說》一卷，《指歸》一卷，《精微》一卷，又不知何人所作，蓋亦門人之筆”。全祖望云：“皇甫泌《易》書中有《記師說》一卷，《精微》一卷，當即此十卷之二也。泌受之常山抱犢山人，三衢亦有常山，即長民也。特故諱之，以神其說耳。”（《泰山學案》）知劉氏之徒，黃、吳外又有皇甫泌，泌之徒有游中。《郡齋讀書志》有鄭夬（楊庭）《周易傳》十三卷：“姚嗣宗謂：劉牧之學，授之吳秘，秘授之鄭夬。”邵伯溫《易學辨惑》極詆之，謂夬竊王天悅書以爲己學，天悅從康節問《易》者也。

彭鶴林《集注·雜說》引《高道傳》言：“張無夢與劉海蟾、种放結方外友，事陳希夷先生。”劉鑑泉《道教徵略》，圖劉海蟾門下有藍方、馬自然、王筌，元翁碧天、張伯端。碧天下有魏景，伯端下有石泰、劉奉真。泰下有薛道光，道光下有陳楠，楠下有沙蟄虛、白玉蟾、鞠九思。玉蟾下有彭耜。九思下有朱橘，橘下有鄭孺子。鑑泉先生系劉氏於鍾呂傳道，愚意不若據彭鶴林言系之希夷爲得其實，以彭固海蟾、紫陽之徒也。劉書於希夷之門，但言：“种、穆傳儒業外，其爲道士者



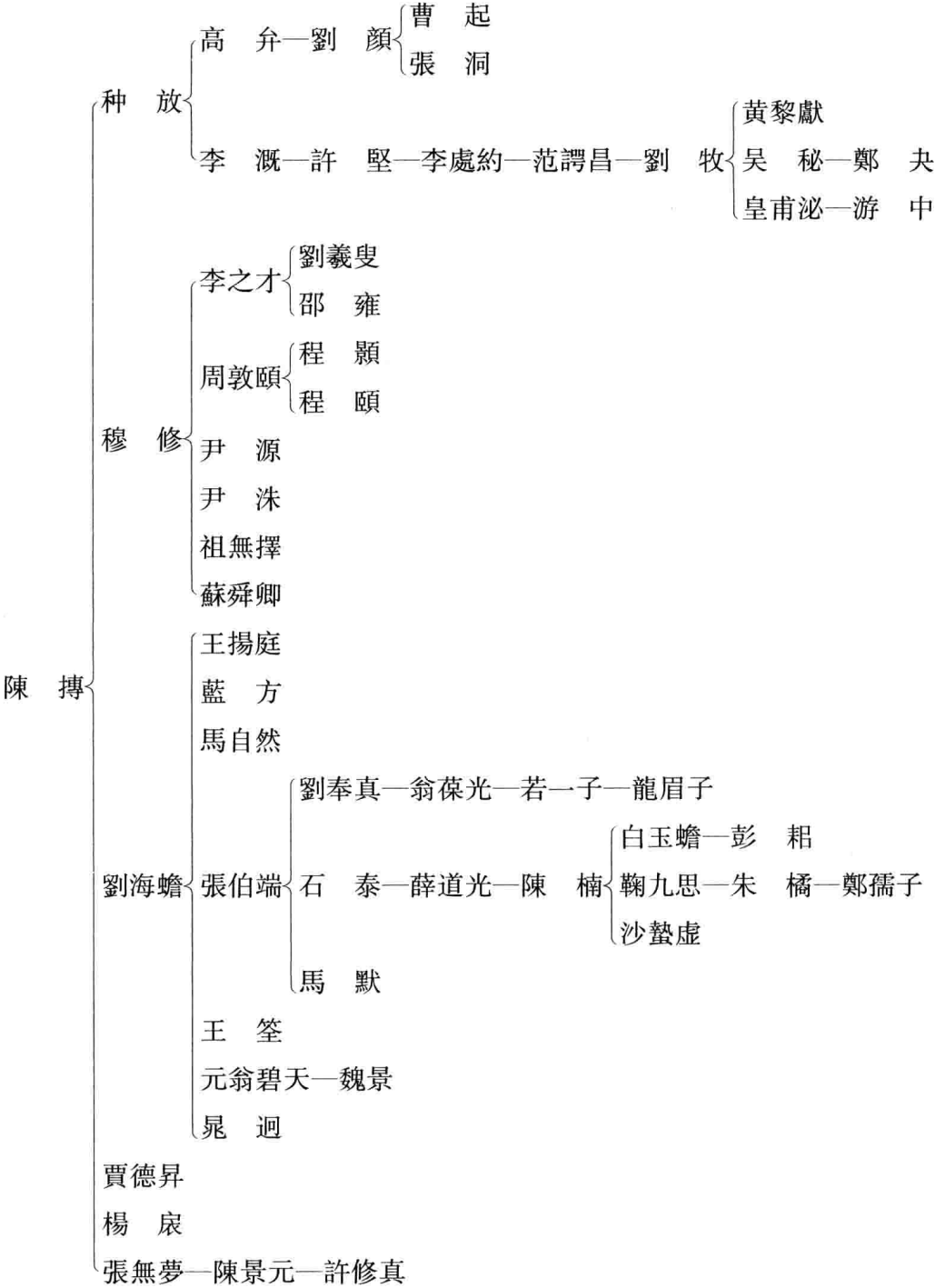
有賈德昇、楊宸。”於陳氏之徒，多所撮略。謹依彭說，以劉、張之傳系之。

龍眉子《金液還丹印證圖後識》云：“余師若一子嘗曰：曾聞我師無名子翁先生云，吾師乃廣益順理子劉真人，於紹興戊午，劉遇悟真得其道。”無名子，翁葆光也，字淵明；順理子劉真人，豈即劉奉真耶？若一、龍眉，皆未可考。《道樞·修真要訣篇》稱：劉海蟾弟子王庭揚，而《集要》、《碎金》二篇皆為晁文元說。《蒙齋筆談》則言：“晁文元迴，早從劉海蟾遊，得長生之術，六十後兼言佛理。”曾慥《集仙傳》亦著文元。王圻《續文獻通考》言：“伯端著《悟真篇》，授扶風馬默。”薛致玄《手鈔》言：“陳景元度門弟子許修真而下四十人。”凡此皆《劉圖》之闕，所未叙及者也。

陳搏事見《續通鑑長編》雍熙元年。《東都事略》亦有傳。言“搏少年舉進士不第，遂不樂仕。有大志。隱居武當山，好讀書，自號扶搖子。”《宋史》本傳言：“搏長讀經史百家之言。”知希夷固優於學術，於其傳授之衆，足考見其藝能之博，固奇逸之士耶？种明逸（放）立碑叙希夷之學曰：“明皇帝王霸之道。”則又不僅多能也。《東軒筆錄》言：“圖南有經世之才。”《青瑣集》言：“陳搏負經綸之才，歷五季亂離，每聞一朝革命，輒蹙數日。”《邵氏聞見前錄》言：“搏長興中進士，遊四方，有大志，常乘白驪從惡少年數百人欲入汴州，中途聞藝祖登極，遂入華山爲道士。”《易學辨惑》亦言：“其遊四方，志不遂，入武當。”邵氏之學，導源於陳，其言固可信，殆誠一雄偉驍傑人也。《畫墁集》言：“太祖鑒唐末藩鎮跋扈，盡收諸鎮之兵，或云陳希夷之策。”則圖南不徒爲高隱，而實博學多能；不徒爲書生，而固有雄武之略；真人中之龍耶！方其高卧三峰，而兩宋之道德文章，已系於一身。羣書多記陳搏事，如《澠水燕談》、《東軒筆錄》、《玉壺清話》、《倦遊雜錄》、《湘山野錄》、《兩朝實訓》、《五朝名臣言行錄》、《談苑》之類凡其逸事瑣聞，何可勝記。復有龐覺《希夷先生傳》，茲皆不遑採，惟取可以想見其人者，以見一代學術之淵源，非奇豪傑出之才，未易爲之倡也。

《唐才子傳》卷十《陳搏傳》言：“洛陽潘閬逍遙、河南种放明逸、錢塘林逋君復、鉅鹿魏野仲先、青州李之才挺之、天水穆修伯長，皆從學先生，一流高士，俱有詩名大節。”此以潘、林、魏三人皆學於希夷，後書未有言之者。殆辛文房誤讀宋人史傳，以陳搏、潘、种、林、魏、李、穆相次，因疑皆圖南之弟子也。茲未敢從，謹附識於後。

陳搏學系表：



## 道德經注 開題

老子姓李名耳，字聃，或字伯陽。按道家經籍所說，則挺生空洞之先，變化自然之妙，而常居天上，代爲帝師，此則六合之外事，故略而不論也。非其逕庭之語者，舉其大概云。老子母感大流星而有娠，應見於李氏，降生於商室，於商十八王陽甲之十七年，歲在庚申，寄胎託娠，經八十一年，極太陽九九之數，其母常逍遙李樹之下，而生老子。老子生而皓首，故能言，因指李曰：此吾姓也。又云：父姓李，名無果，母尹氏，名益壽，當商二十二代武丁之九年，歲在庚辰，二月十五日卯時生也。或云：老子身長八尺八寸，黃色美眉，廣顙聃耳，大目疏齒，方口厚唇，額有三五連理，日角月淵，鼻有雙骨，耳有三漏，足蹈二午，手握十文，蓋稟氣至清而受形特異，生於楚國苦縣瀨鄉曲仁里渦水之陰。至紂二十一年丁卯歲，居岐山之陽，西伯聞之，詔爲守藏史。武王克商，轉爲柱下史。歷成康之世，潛默卑秩，居周久之，見周衰而退官。至昭王二十五年癸丑歲五月二十九日壬午，乃乘青牛薄輦車，徐甲爲御，遂去周。關令尹喜，周大夫也，姓尹名喜，字陽公，著書九篇，說道德之事，或今《西昇經》是，又莊列所引之句或□。善內學星宿，服精華，隱德行仁，時人莫知也。喜姿形長美，雅好典墳，善天文秘緯，仰觀俯察，莫不洞徹。雖鬼神之變無以匿其情，大度恢傑，不修俗禮，慈儉博愛，損身濟物，入爲東宮賓友，出補函谷關令。每望霄漢，有升虛之思。老子未至關時，喜登樓四望，見東方有紫雲西邁，知有真人當過京邑，乃戒嚴門吏，掃路焚香，以俟應兆。至七月十二日甲子，老子到關，喜擎跽曲拳，邀迎就舍，巾櫛盥漱，齋戒問道。至於十二月二十五日，退官託疾，二十八日授《道》、《德》二篇，喜叩頭請隨老子西徂流沙，老子曰：汝未得道，惡能隨吾遠適？夫流沙異域，獷俗難化，而何術可禦耶？唯生道入腹，神明皆存，而能除垢止念，靜心守一，千日清齋，鍊形入妙，而後可尋吾於蜀郡青羊之肆，其若之

何？喜唯唯而謝，老子忽然騰空，冉冉升乎太微。喜候光景斯散，影響蕭寂，樓居清齋，屏絕童隸，誦經三年，精思千日，心凝形釋，骨肉都融，已而窮數達變之微，因形移易之妙，無不盡之矣。於是去家，超然高蹈，既往青羊之肆，乃會老子。老子命喜爲文始先生，俱遊乎流沙之域。或曰：昭王時出關，化導西胡，至幽王時却還中夏，故孔子適周，嚴事老子而問禮焉。老子曰：子所言者，其人與骨皆已朽矣，獨其言在耳。且君子得其時則駕，不得其時則蓬累而行；吾聞之，良賈深藏若虛，君子盛德容貌若愚，去子之驕氣與多欲、態色與淫志，是皆無益於子之身，吾所以告子者若是而已。孔子去，謂弟子曰：鳥吾知其能飛，魚吾知其能游，獸吾知其能走，走者可以爲罔，游者可以爲綸，飛者可以爲矰；至於龍，吾不能知其乘風雲而上天，吾今日見老子，其猶龍邪？是時天下闇，王道衰，故再出關。或言二百餘歲，以其修道而養壽也。老子受學於容成，問道於常樅，皆古之隱君子也。老子之子名宗，宗仕魏爲將軍，封於段干。宗之子注，注之子宫，宮之遠孫假，假仕於漢孝文帝。假之子解，解爲膠西王卬太傅，因家於齊。夫有天地則有道術，道術之士何時暫乏，自伏羲以來至於三代，顯名道士世世有之。論之老子，本亦人靈，蓋得道之尤精者也。時俗見其久壽，又生而皓首，故曰老子。老者尊稱也，子者通號也。人受命自有通神，達見者稟氣與常人不同，應爲道主，故能爲天神所濟、衆仙所從，是以所出度世之法，若九丹八石，玉醴金液，存真守元，思神歷藏，行氣鍊形，消災辟惡，治鬼養性，絕穀變化，厭固教戒，役使鬼魅，皆老子常所經歷，救世之術，非至極者也。已而治家治世，皆大道之土苴，聖人之餘事也。老子恬淡無爲，專以長生爲務，故在周雖久而名位不遷者，蓋和光同塵，內實自然。所貴道虛無因應，變化無爲，故著書稱微妙難識，道成乃去，是所謂大真人也。且老子之子孫祭祀不輟而升於玉京，莊子之鼓盆送妻而入侍帝宸，皆爲道之宗師者，使後世之人信長生之可學，非神異而學不能及也。是曰方外之教，有淳古之風焉。歷代遵從，廟貌不絕。至唐乾封元年，高宗詔贈老子爲玄元皇帝；光宅八年，太后詔贈尹氏爲先天太后；故爲有唐聖祖焉。昔老子著書曰《道》《德》二篇，今日老子《道德經》者，當是關尹受書之後標題云耳。夫道者杳然難言，有物混成，強名曰道，以其通生萬物，故訓曰通。又：道，蹈也。況道路之道，使人佩服其言而履行之也。道者德之欽，有道則必有德。德，得也。內得於心，外得於物，得而不喪也。故物得以生

謂之德，有德則必全道，道德相須而不相離，故曰道德也。經者常也，法也；言其理有常可法，如九經可法之義。又：經者書之尊稱也，今言《道經》上、《德經》下者，上篇之首取其“道可道非常道”，下篇之首取其“上德不德是以有德”而題之也。後之說者，故隨文生義，言道非德無以顯，德非道無以明。道無爲無形，故居化物之先，德有用有爲，故在生化之後。道衰而有德，德衰而有五常，是明道德爲衆行之先，五常之本，故《道經》居先，《德經》次之。上下二卷，法兩儀之生育，八十一章，象太陽之極數，是以上經明道以法天，下經明德以法地。天數奇，故上經三十有七章；地數偶，故下經四十有四章。此皆起自先賢，且仍舊貫。此經以重淵薛本作玄。爲宗，自然爲體，道德爲用，其要在乎治身治國：治國則“我無爲而民自化，我無欲而民自樸”；治身則“塞其兌，閉其門”，“谷神不死”，“少私寡欲”，此其要旨可得而言也。若夫“視之不見、聽之不聞”，“淵之又淵”，“衆妙之門”，殆不可得而言傳也。故遊其廊廡者，皆自以謂升堂觀奧，及其研精覃思，然後於道知其秋毫之端，萬分未得處一焉，輒依師授之旨，略纂昔賢之微，其如悅惚杳冥，在達者之自悟耳。

## 老子論

葛次仲

天下無二道，聖人無兩心，其著書所以傳道，其垂教所以救時，救時之弊不同，故迹之出亦異，其迹既異，故立言有不同，使後世之士於此異觀而以孔老爲殊訓也。苟通其道而不窒，以時會其心而不拘以迹，得其意而不泥以言，則諸聖之書相爲終始，固未嘗少戾也。自三代之季，聖王不作，天下溺於文勝之弊，無以反其情性而復其初，道降德衰，未有甚於此時者也。老聃氏生於周，以濡弱謙下爲表，以虛空不毀萬物爲實，故其去藏室而隱也，關令尹喜請著書，遂作八十一章以暢道德之旨，其辭簡，其理遠，以深爲根，以約爲紀，以本爲精，以末爲粗，必欲使斯民復結繩之樸而後已。其所扶教救時可謂切至矣。不幸後世不見天地之全功、聖人之大體，儒者若司馬遷氏，至謂學儒者黜老，學老者黜儒，道不同不相爲謀也。揚雄氏曰：“絕滅禮樂，吾無取焉。”韓愈氏曰：“坐井觀天，其見者小也。”三君子者，一何不知聖人之甚歟！蓋道猶歲也，聖人時也，夏以生出爲功，秋以收斂爲德，一則使之榮華而蕃鮮，一則使之凋悴而反本，相因而歲功成焉。且自伏羲始造法，迄於堯舜三代，禮樂制作，炳然大備，則夏之時也。當老子之時，禮文過度，若不斂浮華而歸道德，聖功何由而成哉？其言“失道而後德”，至“失義而後禮，禮者忠信之薄而亂之首”者，謂天下莫尊於道德而莫卑於禮，苟自禮反之於仁義，仁義復歸於道德，其於治天下有不足爲矣。所以黜仁義禮智而皆以道德著書，詔天下後世，其言“有物混成，先天地生”，夫太易之初，渾淪而已，無形體之可見，無氣質之可名，逮乎易變而爲一，始有數矣。一變而爲七，七變而爲九，九者究也，乃復歸而爲一，即其所生而歸之也。如此變化往復，何有窮盡，故老氏著書九九篇，以明陰陽消息、禍福倚伏、天道往來、人事終始，無不備焉。孔子與老氏同時，皆著書以垂不朽，孔子曰：“我學

不厭。”老氏則絕學。孔子曰：“必也聖乎！”老氏則絕聖。孔子貴仁義，老氏棄仁義。孔子舉賢才，老氏不尚賢。孔子曰：“智者不惑。”老氏曰：“以智治國國之賊。”其立言大率相反，是豈故相乖背耶！蓋孔子立道之常以經世變，老子明道之本以救時弊，其勢不得不然也。絕學則使己任其性命之情，而造坐忘日損之妙，絕聖則使人安其性命之情，而無驚愚明污之志，棄仁義則無蹙蹙踉蹌之私，使天下不獨親其親、子其子，而同歸於孝慈，不尚賢則無儒墨畢起之爭，使天下無夸跂相軋之心，以智治國國之賊，言澆偽多而智愈困，孰若政悶悶而民淳淳哉？其所以立言不同者以此。及莊周之書，寓言十九，發明玄旨，多假孔老相爲問答，而傳亦載其問禮之事，使其道異耶？何爲有竊比老彭及猶龍之語，是必有名異而實同者。後世束教之士，以迹觀聖人，相去益遠矣。老子曰：“吾言甚易知、甚易行，天下莫能知、莫能行。”萬世之後，一遇聖賢，既以其所知行之而成清靜之治，又以其所言發之而爲博大之書，使四海還淳，道德不廢，抑何幸歟！抑何幸歟！文康公葛郯次仲述。

碧虛子陳君景元，師事天台山鴻濛子張無夢，得老氏心印，有《道德經藏室纂微篇》，蓋摭諸家注疏之精華，而參以師傳之秘，文義該贍，道物兼明，發揮清靜之宗，丕贊聖神之化。熙寧中召對便殿，因進所著，睿眷殊渥，宣附《道藏》，鎮諸名山，四海學徒，典刑是賴。仲庚西蜀末楬，訪道東南，課習是經，垂髫逮白，義海重玄，望洋竊歎，幸窺《纂微》之要，若披雲霧而覩日月也。第以世無善本，流行未博，敬就藏帙，詳加校正，募化善士，命工刊梓，以傳不朽，上答玄元道祖立言開教之恩，次酬父師生成訓迪之賜，普祈同志，潛心玩繹，因言會道，俱證無爲，益衍真風，保安國祚，庶表林下野人報本之萬一云。皇宋寶祐戊午上元日，瞻山靈應觀開山管轄住持觀事臣楊仲庚拜手謹書。

## 道 經

上篇明道，以常平息裁宗，常道者，虚心以待物者也。

碧虛子 陳景元 注

### 道可道，非常道。

夫道者，杳然難言，非心口所能辯，故心困焉不能知，口辟焉不能議，在人靈府自悟爾。謂之無爲自然，今標道者，已是強名，便屬可道，既云可道，有變有遷，有言有說，是曰教典，何異糟粕。嘗試舉揚，且從訓釋曰：道，通也，萬物得之無所不通。亦曰：道，蹈也，取道路以爲稱。《說文》曰：“一達謂之道。”先賢令人體而行之，故曰道也。至於仁義禮智信，皆道之用，用則謂之可道，可道既彰，即非常道。常道者，自然而然，隨感應變，接物不窮，不可以言傳，不可以智索，但體冥造化，含光藏暉，無爲而無不爲，默通其極耳。嚴君平曰：“可道之道，道德彰而非自然也。今之行，者，晝不操燭，爲日明也。日明者，不道之道常也；操燭者，可道之道彰也。夫著於竹帛，鏤於金石，可傳於人者，可道之道也。若乃可傳而不可受，可得而不可見，自本自根，未有天地，自古以固存，神鬼神帝，生天生地者，常道之道也。”五千文之蘊，發揮自此數言，實謂玄之又玄、神之又神也。

### 名可名，非常名。

道者體也，名者用也。用因體生，名自道出，既標其名，即可稱用，稱用既立，故曰可名，可名既著，即非常名。常名者，謂應用無方，支離其德也。嚴君平曰：“可名之名，功名顯而非素真也。”列子居鄭圃四十年，人無識者，國君卿大夫視之猶衆庶，此真守常名者也。

### 無名天地之始，

無名者，指道而言也。萬化未作，無以強名。及妙本之始既降，渾淪之樸將離，則《易》之太極生兩儀也。嚴君平曰：“無名無朕，與神合體，天下恃之，



莫知所以變於虛無爲天地始。”此體道者也。

**有名萬物之母。**

有名者，指天地而言也。天施地化，茂養萬物，亭之毒之，如母養子，故曰有名萬物之母。夫大道杳冥，豈繫乎有名無名哉！聖人約用立教，以明本迹同異爾。凡日新之道，皆曰無名，是故始萬物者爲無名，成萬物者爲有名也。嚴君平曰：“有名者之爲化也，尊道德，貴神明，師太和，則天地，故爲萬物母。”此用道者也。

**常無欲以觀其妙，常有欲以觀其微。**

欲者逐境生心。妙者要也，又微之極也。微，邊隅也，大道邊有小路曰微，又歸也。夫虛無之道，寂然不動，則曰無欲，感孕萬物，則曰有欲。無欲觀妙，守虛無也；有欲觀微，謂存思也。常謂真常，即大道也。無欲有欲，即道之應用也。道本無物，物感道生，形而上者謂之道，形而下者謂之器。上士知微知章，覩其未然，已盡其妙，故曰常無欲以觀其妙；中士因循任物，見其群材，乃得其用，故有萬不同，真理難測，但覩其邊微耳。又解曰：夫人常體大道之微，守清靜之要，復性命之極，不爲外物所誘，則志意虛澹，可以觀道之要妙，造微之至極。嚴君平曰：“心如金石，形如枯木，默默隅隅志如駒犢者，無欲之人，復其性命之本也。有欲之人，貪逐境物，亡其坦夷之道，但見邊小之微，迷而不返，喪失真原。”先賢或以謂無欲者，體道內觀，化及群品，無所思存，忘其本迹也。有欲者，從本起用，施於可道，立教應物，成濟衆務，見物所終，了知歸趣。前以約身爲說，後以化民爲言，修身治國，理無不備也。

**此兩者同，**

此兩者，謂可道、可名，無名、有名，無欲、有欲也。俱蘊於寂然不動、湛爾之源，體用未彰，善惡都泯，故云同也。

**出而異名。**

出謂從本降迹，可道漸分，雖起自一人之心，而五常之用殊別，賢愚有隔，遷變萬端，壽夭存亡，其名各異也。

**同謂之玄，玄之又玄。**

玄者，深妙也，冥也，天也。所謂天者，自然也。言此無名有名、無欲有欲，皆受氣於天、稟性於自然，中和濁辱，形類萬狀，蓋由玄之又玄、神之又

神，所謂自然而然也。若乃通悟深妙、洞達冥默者，是謂有玄德也。

衆妙之門。

謂道域也。夫大道曠蕩，無所制圍，無門無房，四達皇皇也。約身而論，出則同衆人，入則爲妙本。舉教言，則衆真講妙而出，群聖蘊妙而歸，化導無方，湛然惟一，獨立不改，是曰知常。既有出入之由，故曰門耳。莊子曰：“有乎生，有乎死。有乎出，有乎入。入出而無見其形，是謂天門。天門者無有也，萬物出乎無有。”斯亦謂衆妙之門也。有妙道然後萬物生焉，生萬物者其唯妙道乎？用道者其唯聖人乎？聖人之道日新其變，應用無方，故曰常也。出處有迹，欲異而爲，故曰可也。可道必名，名必有知，故次之以天下皆知。

（以上第一章）

天下皆知美之爲美，斯惡已；皆知善之爲善，斯不善已。

美善生於妄情，以情之所好爲美，情之所惡爲惡，縱已妄情，非惡而何？以己之所是爲善，己之所非爲不善，縱己是非、安有美乎？莊子曰：“是非吾所謂情也，吾所謂無情者，言人之不以好惡內傷其身，常因自然而不益生也。此謂止於實當也。夫聖人豈無美善，蓋有而不矜，同於無也。不矜則德全，同無則害遠，德全害遠，美善盡矣。若以美善化天下，使知其美之爲美，蓋未盡善也。經曰“上德不德，下德不失德”是矣。且天下善人少而不善人多，若矯其治迹，竊而侮之，斯爲惡已。君平曰：“昭昭不常存，冥冥不常然。榮華扶疏，始於仲春。薺麥陽物，生於秋分。冬至之日，萬物滋滋。夏至之日，萬物愁悲。謂其盛必有衰，美必有惡，陰陽尚爾，況於人乎？”斯戒其矜夸美善者也。

故有無之相生，難易之相成，長短之相形，高下之相傾，音聲之相和，前後之相隨。

此六事因矜美善，動人有爲，有爲既彰，偏執斯起，殘賊互生，物失其性，故結以聖人無爲而玄德不去。夫有無之性，本不相生，今言有必出於無，論無必生於有，故曰有無之相生也。難易之法，本不相成，譬如陶者易於治埴，必難於治木，匠人易於治木，必難於治埴，彼此相易則難就，各守其工則易成，故曰難易之相成。長短之相，本不相形，見鶴而知鳧脰之短，觀鳧而知鶴脰之長，以此相因、物皆如是，故曰長短之相形。高下之名，本不相傾，名位不足，故有傾奪

之心，若處高而不驕貴，故無下之者，在下而不卑辱，故無高之者，若企羨交馳，則遞相傾覆，故曰高下之相傾。音聲之鳴，本不相和，是猶天籟，自鳴自己，而世謂音律聲氣，合成歌曲，以相和鳴，故曰音聲之相和。前後之時，本不相隨，有如日夜相代，昨夜是今日之前，今日乃昨夜之後，又如前後行步之迹，舉足下足，何先何後，遷易相隨，無有窮盡，故曰前後之相隨也。君平曰：“無以有亡，有以無形。難以易顯，易以難彰。寸以尺短，尺以寸長。山以谷摧，谷以山傾。音以聲別，聲以音停。先以後見，後以先明。故無無則無以見有，無有則無以知無。無難無以知易，無易無以知難。無長無以知短，無短無以知長。無山無以知谷，無谷無以知山。無音無以知聲，無聲無以知音。無先無以知後，無後無以知先。凡此數者，天地之驗，自然之符，陳列暴慢，然否相隨，終始反覆，不可別離，神明不能遁，陰陽不能違。”由此觀之，帝王之事，不可以有爲爲也。

**是以聖人處無爲之事，行不言之教。**

此言上古無爲之君，不以美善治天下而天下自治也，無爲者非拱默閑堂也，謂美善都忘、滅情復性，自然民任其能，物安其分，上下無擾故也。行不言之教者，以身帥導，正容悟物，隨時舉事，因資立功，理契言忘之謂也。

**萬物作而不辭。**

作，動也。聖人在宥天下，無事無爲，故百姓耕而食、織而衣，含哺而熙，鼓腹而遊，樂其性分而動，皆飲無爲之化也。故聖人任之而不辭。夫民可使由之，而不可使知之，此乃上德不德之風也。

**生而不有，爲而不恃，功成不居。**

萬物自生，卓然獨化，不爲己有，群品營爲，各適其性，不恃己德，功成事遂，道洽於物，心遊於姑射之山，不居萬民之上，此聖人之全德也。

**夫唯不居，是以不去。**

夫聖人功同造化，使萬物咸得其極而忘名忘己也。不居者不以位爲己有，故民莫覺莫知，是以其道不喪，其德不去也。《鴻烈解》曰：“楚將子發攻蔡，踰之，宣王郊迎，列田百頃而封之執圭，子發辭不受，曰：治國立政，諸侯入賓，此君之德也；發號施令，師未合而敵遁，此將軍之威也；兵陳戰而勝敵者，此庶民之力也。夫乘民之功勞而取其爵祿，非仁義之道也，故辭而弗受。”此功成不

居之謂也。知則善惡互生，高下之傾不能逃也。難易對陳，長短之才無由隱也。長短彰則爭尚賢德，故次之以不尚賢。

（以上第二章）

### 不尚賢，使民不爭。

夫人君之謙下雌靜，不矜尚己之賢能，則民之從化如風靡草，柔遜是守，何有爭乎？經曰：“我無爲而民自化，我好靜而民自正。”又解曰：人君靜，大臣明，刑不避貴，澤不隔下，賢不肖各當其分，則士無爭矣。若人君依違，大臣回佞，雖尚賢求士，外忠內僻，情毒言和之才至，至則姦僞生而交爭起。君平曰：“盛德者爲主，微劣者爲臣，賢者不萬一，聖人不世出。”夫天生之賢，匪由尚出也。又曰：“譬如使駑馬驂騶並馳於夷道，鴻鵠鶉鴉雙翼於青雲，則賢不肖可知矣。”此乃自然非由尚也。

### 不貴難得之貨，使民不爲盜。

難得之貨，謂金玉珠犀也。言上化清靜，民務耕織，藏金於山，捐珠於淵，不利貨財，不近貴富，則民無貪盜之心矣。又解曰：驪龍夜光之珠，金玉錦繡之玩，君王不貴，臣民無貪，盜賊於何而有？語曰“苟子之不欲，雖賞之不竊”也。《鴻烈解》曰：引神農之法曰：“丈夫力壯而不耕，天下有受其飢者，婦人當年而不織，天下有受其寒者。”故身自耕、妻自織，以爲天下先，其導民也，不貴難得之貨矣。

### 不見可欲，使民心不亂。

可欲者，謂外物惑情，令人生可尚愛欲之心也。而曰不見者，非遠絕不見也，謂不以見爲見而爲無爲也。若乃人君見外物而無可尚愛欲之心者，是不爲色塵所染亂，則性原清靜恬澹而復其真一矣。人君能守乎真一，則使民心不亂而淳樸之風可致矣。君平曰：“世不尚賢則民不趨，不趨則不爭，不爭則不爲亂。世不貴貨則民不欲，不欲則不求，不求則不爲盜。世絕三五則民無喜，無喜則無樂，無樂則不淫亂。”此自然之數也。《鴻烈解》曰：“令尹子佩請飲楚莊王，王許之。子佩疏揖北面立於殿下曰：昔者君王許之，今不果往，意者臣有罪乎？莊王曰：吾聞子具於疆臺，疆臺者南望料山以臨方皇，左江而右淮，其樂忘死，若吾薄德之人，不可以當此樂也，恐留而不能反。故曰不見可欲使心不亂。”傅奕《音義》

曰：“古本作‘使民心不亂氣’。”河上公、開元御本作“使心不亂”，亦通。

**是以聖人之治：虛其心，**

聖人之治，先治其身，然後及於家國也。虛其心者，謂無邪思也，不役心逐境，泊然內寂，嗜欲頓消，神物自定，則其心虛矣。莊子曰：“虛室生白，吉祥止止。”謂心虛則純白自生、福慶留止也。

**實其腹，**

聖人道德內充，五神安靜，憊怕自足，貪愛不生，故曰實其腹。

**弱其志，**

志者心之事，事在心曰志，欲令舉心行事，當守謙靜柔弱，則道全矣。

**彊其骨。**

骨者體之幹，夫淳和足則體潤，精神壯則骨彊，亦自然之理也。

**常使民無知無欲，**

聖人所以常修身虛心者，欲令百姓反樸守淳、惓然自化也。語曰：“苟正其身矣，於從政乎何有？”

**使夫智者不敢爲也。**

民雖有貴尚之知、飾僞之迹者，然已被其清靜之風、淳樸之化，而自灰心槁體，不敢興動有爲之欲心也。

**爲無爲則無不治矣。**

爲無爲猶言行無爲之道也。無爲者，謂不越其性分也。性分不越，則天理自全，全則所爲皆無爲也。物物無爲，則貴尚貪求之心泯然都忘，故淳風大行，誰云不治。尚己賢能，則民從而爭盜，縱此欲心，則亂生乎彼，唯聖人治之以虛冲，故次之以道冲。

（以上第三章）

**道冲而用之或不盈。**

盈，古本作滿。冲，虛也，又中也。或，不定之辭，又常也。言道以冲虛爲用。夫和氣冲虛，故爲通用：王者得冲虛之用，故萬乘遺其富；匹夫得冲虛之用，故環堵忘其貧。身在廟堂之上，心同巖穴之下，躬服芻牧之陋，不異軒冕之華，此深得冲虛之用而不盈滿也。君平曰：“爲冲者不冲，爲和者不和，不爲冲和，乃得

冲和。冲以虚爲宅，和以無爲家，能虚能無，至冲有餘，能無能虚，常與和俱。”斯真得大道冲和之用而不盈滿者也。中者所用在於和也，或者不敢建言其道也。

**淵兮似萬物之宗，**

淵，深静也。兮者，深歎詠道之詞也。明此冲虚之道不虧不盈，體性凝湛，深不可測，故謂之淵也。夫不測之理，非有非無，難以定名，故寄言似也。群生日用，注酌湛然，體含萬象，善惡斯保，動植咸歸，故爲萬物之宗。

**挫其銳，解其紛，**

挫，抑止也，又折其鋒曰挫。銳，銛利也，又進也。解，釋散也。紛，多擾也。言銛利進趣功名之人，當念道冲虚，抑止貪妄而不自見也。或僨僦奔馳，內外紛擾，能體道淵静，釋縛解紛，湛爾澄清，以復其性。紛，河上公作忿，曰結恨也，謂陰賊瞋恚，忿恨牢結，若存道冲和，乃渙然冰釋也。

**和其光，同其塵，湛兮似或存。**

虚極之道，以冲和爲用，其所施用，無乎不可。在光則能和，與光而不別，在塵則能同，與塵而不異，應物則混於光塵，歸根則湛然不染，尋其妙本，杳然而虚，約其施爲，昭然而實，故曰湛兮似或存。

**吾不知誰之子，象帝之先。**

吾者，老氏自稱也。象，似也。我觀至道杳冥，冲用不測，匠成萬物，今古常存，道既無祖無宗，誰敢言孫言子，彷彿深思，似出乎天帝之先矣。用道虚冲，則淵兮不滿，和光同塵，故爲萬物之所宗，尋其宗而先乎天地，故次之以天地。

（以上第四章）

**天地不仁，以萬物爲芻狗，聖人不仁，以百姓爲芻狗。**

芻，草也。謂束芻爲狗，古人用以祭祀，除祓不祥，用已而棄之。言當用之時不甚愛，及乎棄之，亦不爲憎也。故芻狗因神明而成，神明無用於芻狗也。無用則無私，無私則無恩，是以天地無恩而大恩生，聖人不仁而大仁成。不仁者謂無情於仁愛，非薄惡之謂也。故天地無情，視萬物如芻狗，不責萬物之報；聖人無情，視百姓如芻狗，不責百姓之報。蓋天地之自然也。君平曰：“天高而清明，地厚而順寧，陰陽交通，和氣流行，泊然無爲，萬物自生焉。天地非傾心移意，勞精神，務有事，悽悽惻惻，流愛加利，布恩施厚，成遂萬物而有以爲也。”此

所謂天地不仁以萬物爲芻狗也。“明王聖主，秉道統和，清靜不改，一以變化，神明默達，與道同儀，天下應之，萬物自化。聖人非竭智盡能，擾心滑志，損精費神，不釋思慮，徨徨顯顯，仁生事利，領理萬民而有以爲也。”此所謂聖人不仁以百姓爲芻狗也。

**天地之間，其猶橐籥乎，虛而不屈，動而愈出。**

橐者，鞴也，謂以橐鼓風而吹火也。籥者笛也，言天地之間虛空無爲，生物無私。以喻聖人之心，虛廓淵靜，應世不逆，若橐之懷風，鼓之以成器物，籥之含聲，吹之而調音律，應用不絕而終不可屈也。以況聖人無私無心而不事愛利也。君平曰：“天地釋虛無而事愛利，則變化不通，物不盡生。聖人釋虛無而事愛利，則德澤不普，海內不並，恩不下究，事不盡成。”何則？仁愛之爲術也有分，而物類之仰化也無窮，操有分之制以授無窮之勢，其不相贍，由川竭而益之以涸也。又曰：“蟣蟲動於毛髮，則寐爲之不安，蚊蟲著於皮膚，則精神騷動，思慮不通，外傷蜂蠆之毒，則中心爲之慘痛，□末害於耳目而百節爲之不用。”此言愛利存於胸中，豈得無屈撓純和耗蠹血氣乎？

**多言數窮，不如守中。**

多言者，謂多有兼愛之言也。多則施行難徧，故數窮屈而不遂。若法天地之虛靜，同橐籥之無心，抱守中和，其自然皆足矣。亦在乎不言之教也。《鴻烈解》曰：“王壽負書而行，見徐馮於周。徐馮曰：事者應變而動，變生於時，故知時者無常行。書者言之所出也，言出於知者，知者藏書。於是王壽乃焚其書而舞曰：多言數窮，不如守中。”天地運處而無私，中含虛而不屈者，由其神也，故次之以谷神。

（以上第五章）

**谷神不死，是謂玄牝。**

夫大人以太虛爲空谷，以造化爲至神，空谷至神乃道之體用，豈有死乎？不死之理既甚深冥，又能母養，故曰玄牝。或谷喻天地、神喻大道，今說者以山谷響應爲喻，不其小哉！且人能懷豁無方，法太虛之廣，存任神真，資造化之靈，自然形與道合，何死之謂乎？如是則冥然茂養，物受其賜，故曰玄牝。《河上公章句》：“谷，音育，訓養也。人能養神則不死。神謂五藏之神，肝藏魂，肺藏魄，心藏神，腎藏精，脾藏志。”人能清靜虛空以養其神，不爲諸欲所染，使形

完神全，故不死也。若觸情耽滯，爲諸境所亂，使形殘神去，何道之可存哉！  
**玄牝之門，是謂天地根。**

夫太虛造化，萬類由之以出入，既有出入之名，故謂之門。根者本也，天地雖大，不能逃其有形。有形之類，咸以虛空太和爲其根本，故曰天地根。《河上公》曰：“不死之道在於玄牝。玄，天也，於人爲鼻。牝，地也，於人爲口。天食人以五氣，從鼻入，藏於心，五氣清微，爲精神聰明音聲五性，其鬼曰魂，魂者雄也，主出入，人鼻與天通，故鼻爲玄也。地食人以五味，從口入，藏於胃，五味濁辱，爲形骸骨肉血脈六情，其鬼曰魄，魄者雌也，主出入，人口與地通，故曰口爲牝也。根者元也，言鼻口之門乃是通天地之元氣所從往來也。”上言谷神不死者，勸人養神之理，此曰玄牝之門者，示人鍊形之術也。故形神俱妙者，方與道同也。夫人有身有神，則有生有死，有生有死，不可言道也。流動無常，豈得言靜也。若乃空其形神，忘其物我，是以出無根，故氣聚不以爲生，入無竅，故氣散不以爲死。不死不生，其谷之神也，生死無常，其浮動之物也，幽深雌靜，湛然不勤，其玄牝之謂也。

**縣縣若存，用之不勤。**

縣縣，不絕之貌。此結上養神鍊形之義也。夫養神則深妙冥極，清靜虛空，縣縣若存，感物而起，無有絕時；鍊形則呼吸太和，導接血氣，飲難終之泉，咀延年之草，使其支節宣暢而不勤勞，此方可與天地同根、衆妙共門也。太虛其谷，造化其神，牝養萬物，縣縣不死，故次之以天長地久。

（以上第六章）

**天長地久。**

標也。天以氣象廣覆，古今不傾，故稱長也。地以形質厚載，終始永固，故言久也。結喻成義，在乎下文。

**天地所以能長且久者，以其不自生，故能長生。**

結義也。夫天所以長清、地所以久寧者，以其覆載萬物，長育群材，而皆資稟於妙本，反其沖虛，復其杳冥，不自矜其生成之功而守其常德，故能長生也。又解曰：天地萬物，卓然獨化，咸稟自然而不求饒益其生，故能長生，此垂誠也。



是以聖人後其身而身先，外其身而身存。

聖人無爲，身在廟堂，而心游姑射，法天地之覆載，而均養無私。大有處謙而不敢爲天下先，其百姓欣戴而不重，樂推而不厭，故身先也。又能忘功忘名，外身寡欲，其天下愛之如父母，神明祐之若赤子，故身存也。

非以其無私邪，故能成其私。

天地生育萬物，而聖人外己全民，皆不以仁恩自恃，豈有自私之心乎？實無私也。無私故能長能久，以其長久，故知能成其私者也。李約曰：“夫能不私於己而私於人，人之私未必成而己之私已成矣。”《鴻烈解》曰：“公儀休相魯而嗜魚，一國獻魚，公儀休不受。其弟子諫曰：夫子嗜魚，不受，何也？答曰：夫唯嗜魚故弗受。夫受魚而免於相，雖嗜魚不能自給魚；無受魚而不免於相，則能長給魚。此明於爲人爲己者也。故曰非以其無私邪，故能成其私。”河上公、嚴君平本作“以其無私”。王弼古本作“不以其無私邪？”開元御本作“非以其無私邪！”互有其義，讀者詳之。聖人後身外身，能公於己而私於人，善柔順而利物，故次之以上善若水。

（以上第七章）

上善若水。

上善者，標人也。若水者，舉喻也。夫至人虛懷無欲，應變隨時，不逆諸緣，處善忘善，故曰上善。水能方圓凝釋，深淺浮沉，順道涵虛，咸有其理，唯至人兼而通之，故曰若水。且水蘊三能之近道，七善之利物，謂下文也。

水善利萬物而不爭，處衆人之所惡，故幾於道。

此三能之近道也。水性平靜，散潤一切，天無水則陽旱，地無水則塵飛，利澤萬物，故曰善利。此一能也。天下柔弱莫過於水，去實歸虛，背高趨下，壅之則止，決之則流，聽從於人，故曰不爭。此二能也。人之情惡處下流、好居上位，而水則就卑受濁，處惡不辭，令物潔白，獨納污辱，處衆人之所惡。此三能也。幾，近也。夫水利物則其仁廣大，不爭則其德謙光，處惡則其量忍垢，舉水性之三能，唯至人之一貫，德行如斯，去道不遐，故曰近爾。又解曰：水爲氣母，王於北方，其數六。北方者陽德之始，陰氣之終也，生數一，與道同也。道亦謂之一，道一者無一之一，水一者有一之一也，無一之一爲道之體，有一之一

爲道之用，明水者道之用，故曰幾於道也。

**居善地，心善淵，與善仁，言善信，政善治，事善能，動善時。**

至人所居，善執謙下，順物自然，化及鄉黨，如水在地，善就卑下，滋潤群物，故曰居善地。此一善也。至人之心，善保虛靜，洞鑒幽微，湛然通徹，如水淵澄，波流九變，不失明靜，故曰心善淵。此二善也。至人施與，善行仁慈，惠及天下，不懷親愛，如水膏潤，善能升降，無不沾濟，故曰與善仁。此三善也。至人之言，善守誠信，不與物期，自然符契，如水影物，妍醜無差，流滿輒移，行險不失，故曰言善信。此四善也。至人從政，善治於民，正容悟物，物自順從，如水清平，善定高下，滌蕩群物，使無塵穢，故曰政善治。此五善也。至人臨事，善能任物，隨器授職，不失其材，如水柔性，善事方圓，能隨形器，無用不成，故曰事善能。此六善也。至人動靜，善觀其時，出處應機，能全其道，如水之動，善隨時變，冬凝夏液，不差其節，故曰動善時。此七善也。

**夫唯不爭，故無尤矣。**

唯，獨也。此結上三能七善之辭也。至人之所用心行事，出處語默，皆全於妙道，合乎物宜，而常守雌靜，不與物爭，物既不爭，安有過尤之地。又：尤，怨也。言天下獨有不爭之人無所怨尤之者。道體虛無而水數一，唯至人用之則幾於道，又不盈而善持，故次之以持而盈之。

（以上第八章）

**持而盈之，不如其已。**

盈，滿也。已，止也。夫執持盈滿之物而不知謙損者，必見其傾覆矣。慎其傾覆之禍，不如早圖休止，此垂誠也。嚴君平作“殖而盈之”，謂積其財寶也。

**揣而銳之，不可長保。**

揣，度也，又治也。銳，銛利也。言人但知銛利欲心而貪趣富貴，殊不知揣度妄情，思治憍恣禍患之來，不可長保。君平曰：“富貴之於我，猶登山而長望也，名勢之於我，猶奔電之忽過也。”言不可長保也。《鴻烈解》曰：“白公勝得荊國，不能以府庫分人。七日，石乞入曰：不義之得，又不能布施，患必至矣。不能與人，不若焚之，無令人害。白公弗聽也。九日，葉公入，乃發太府之貨以與衆，出高庫之兵以賦民，因而攻之，十有九日而擒白公。夫國非其有也，而欲

有之，可謂至貪矣，不能爲人，又無以自爲，可謂至愚矣。譬白公之璠也，何以異於梟之愛其子也。故曰：持而盈之，不如其已，揣而銳之，不可長保也。”

**金玉滿堂，莫之能守。**

此明盈難久持，理之必然也。夫金玉滿室，徒爲潤屋，然而巨盜至，則負匱揭篋擔囊而趨，雖有智者莫之能守。故象有齒而焚身，雞畏犧而斷尾，禽獸尚如此，人何不思之。嚴君平、王弼作“金玉滿室”。

**富貴而僇，自遺其咎。**

遺，與也。富則人求之，故便欺物；貴則人下之，故好陵人；欺陵日恣，殃咎必來，非自與而何？君平曰：“金玉之與身，而名勢之與神，若冰若炭，勢不俱存。故名者神之穢也，利者身之害也，養神之穢，積身之害，損我之所成，益我之所敗，得之以爲利，失之以爲害，則彼思慮迷而趣舍悖也。”又曰：“益我貨者損我神，生我名者殺我身，患生於我，不由於人，福生於我，不由於天。”陸希聲曰：“持大器而滿盈，雖懼之不如早止；居大位而亢極，雖憂之不如早退；揣勢利而銳意，雖得之不可永保；貪金玉而滿堂，雖有之不能長守。貴而僇則得其禍，富而僇則益其過，僇生乎心，咎自於己，豈可怨天尤人乎？”

**功成名遂身退，天之道。**

此結義也。夫大功既成、顯名已遂，而不知休退者何人哉？高鳥盡而良弓藏，狡兔死而獵狗烹，勢使然也。惟體天道之盈虛、知進退存亡者，至人哉！外物盈滿，理必傷生，與其銳心於富貴，不若抱一而無咎，故次之以載營魄抱一。

（以上第九章）

**載營魄抱一，能無離乎？**

道家以陽神曰魂，魂樂生；陰鬼曰魄，魄好殺。魂則遊，魄則靜。《白虎通》曰：魂者云云也，營者不定貌，故謂魂爲營也。舊說：載，乘也。營，魂也。又謂：營，護陽氣也。魂爲陽精，魄爲陰靈，陽精喜動遊，故仙書有拘留之術，陰靈喜浮惑，故仙書有制伏之法。使其形體常乘載陽精陰靈，抱守太和純一之氣，令無散離，永保長年矣。夫道之抱一，如鑑之含明，明豈離鑑乎？此教人養神也。今解曰：人欲抱一之術，當令心無散離，若無散離者，即是乘載魂魄抱守純一之道也。“能如嬰兒乎”下，皆以此義釋之。

### 專氣致柔，能如嬰兒乎？

舊說曰：專，一也，任也。氣者冲和妙氣，又自然之氣也。夫人卓然獨化，稟自然冲和妙氣，氣降形生，自無染雜。若乃專任冲妙，知見都忘，氣自純和，形自柔弱，不為衆惡所害，是得嬰兒之全和也。此教人養氣也。今解曰：能如嬰兒乎者，言人欲專氣致柔之術，當如嬰兒純和，若能如嬰兒純和，即是得專氣致柔之術也。

### 滌除玄覽，能無疵乎？

舊說曰：滌，洗也。除，遣也。玄覽，心照也。疵，瑕病也。人當洗滌塵垢，除遣五情，內外清虛，心照萬事，瑕疵之病，瑩然不生。此教人修心也。自此上三事，約人修身；自此下三事，勸人治國。經曰“修之身，其德乃真，修之天下，其德乃溥”也。今解曰：人欲洗心除垢，冥察內外之事，能自省己躬，無疵瑕之病，即是滌除玄覽之法也。

### 愛民治國，能無爲乎？

舊說曰：治國者愛民如子，臨政不可苛虐，賦役不可傷性，務農簡事，使民各遂其業而安其生，斯無爲之化也。今解曰：人君欲愛養萬民，令不傷天性，治國務農，使無繁細，當能清靜無爲，即是愛民治國之術也。

### 天門開闔，能爲雌乎？

天門者自然之門也。自然生太極，太極生天地，天地生陰陽，陰陽生萬物，萬物生死由之而往來，故謂之天門。開謂散施，闔謂歛歛，開則生成，闔則衰滅，雖生萬物而未見其生生者，雖死萬物而未見其死死者，生生死死而莫見其形，得不謂之自然乎？能體自然其唯大人乎？大人量包宇宙，氣含陰陽，所爲雌靜，則生死王衰不入於胸中，雌靜者自然之妙用也。此戒治身治國者，當以雌靜自守。舊說曰：天門者北極紫宮之門也，天有北極星在紫宮之內，宮內又有五帝迭相休王，故門有開闔也。開則爲泰，闔則爲否，故春時青帝門開，餘門皆闔，四時之例如此。且五運終始曆數之變，興廢不常，唯聖人知天命，常守雌靜，則不爲變動所傾，故永亨元吉也。或以治身論者，天門謂鼻口也，開闔謂喘息呼吸也，言人雌靜柔和，則氣息深遠，絃絃微妙，致其精神恬然自在無爲也。今解曰：天門開闔休王者，乃曆數之常，唯能雌靜謙下，故陰陽不能移，寒暑不能變也。

### 明白四達，能無知乎？

舊說曰：明謂慧照也。治身者雖有慧照之心，聰明通達，若無見聞。治國者，其德明白如日月之照，四達海內，當塞聰蔽明，能如無知，使天下百姓日用不知，是謂有道。今解曰：欲得智慧明白四達天下者，先須收視反聽，常守無知，即是明白四達之原也。

### 生之畜之，生而不有，爲而不恃，長而不宰，是謂玄德。

言修身治國能行上六事，即如道之生物，不塞其原，任其自成而已。德之養物，不禁其性，全其素分而已。萬物卓爾獨生，聖人豈有乎哉？群類各自營爲，聖人何恃乎哉？物自長養，聖人安所主宰乎哉？斯乃忘功忘物，洞入冥極，是謂玄德也。王弼曰：“玄德者，有德而不知其主，出乎幽冥者也。”抱一不離，專氣致嬰兒之和，和則物歸如輻轂，故次之以三十幅共一轂。

（以上第十章）

### 三十輻共一轂，當其無，有車之用。

此明有無功用相資而立。《周禮·考工記》說：“車蓋圓以象天，輿方以法地，三十輻以象一月之數。”夫月之懸天，流行不息，車之輻地，運轉無窮，是故車以象月，三十日共一月，猶三十輻共一轂耳。當其轂中空虛，輪得以轉行，車中空虛，人所以載其上，故其空無之處，是有轉行容載之用也。君平以謂：“太古聖人之牧民也，因天地之所爲，不事乎智巧，飲則用瓢，食則用手，萬物齊均，無有高下。及至王者有爲，賦重役煩，百姓罷極，上求不厭，貢獻遼遠，男女負載，不勝其任，故智者作推轂，駕馬服牛，負重致遠，解緩民勞，後世相承，巧作滋生，雕琢斑轂朱輪，飾以金銀，加以翠璣，一車之費，足以貧民。是以老氏傷創作之害道德，明爲善之生禍亂也，故舉車、器、室三事說有無利用之相資，因以垂戒云。”

### 埴埴以爲器，當其無，有器之用。

埴，和也。埴，黏土也。謂工人範和黏土，陶成形器，取其器中空無之處，是有盛受諸物之用也。君平以謂：“道德衰廢之時，憂患攻其內，陰陽賊其外，民人薄弱，羸瘦多疾。是故水火齊起，五味將形，生熟不別，乾瀆不分，故智者埴土爲器，以熟酸鹹，遂至田獵奢淫，殘賊群生，剝胎殺穀，以順君心，雕琢珠

玉，以爲孟盤，樸散爲器，一至於斯。”

**鑿戶牖以爲室，當其無，有室之用。**

鑿，穿也。半門曰戶。門傍窗謂之牖。門、戶、窗、牖亦通稱也。古者穴處，謂穿鑿穴中之土以覆其上爲戶牖居室也。取其室中空無之處，故人有安存出入之用也。君平以謂：“人心既變，萬物怨恨，蟲蛇起，毒蠱作，禽獸害人，於是巖穴之中不足以禦患難、全性命、終天年，故智者爲作居室，上棟下宇，穿窗候望，堅關固閉，開闔疾利，蜂蠃不得入，禽獸不得至，而後遂至華臺危閣阿房之殿，大關守險，築城爲固，士卒疲倦，死者無數。然而上世以爲治，後世以爲亂者，此乃有無利用相因之弊蓋在乎人爾。”

**故有之以爲利，無之以爲用。**

此解上三事明有無相資、俱不可廢。故有之以爲利，利在乎器也，無之以爲用，用在乎空也。夫器之爲利也，必存其外，外資空用而成；空之爲用也，必虛其內，內藉器利而就。故無藉有以爲利，而有藉無以爲用也。無則同乎道，有則成乎器。形而上者曰道，道，無形也，道雖無形，必資有以彰其功。形而下者曰器，器，有體也，器雖有體，必資無以成其用。故器非道不能應用，道非器不能顯功，亦如轂中有輻，器中有物，室中有人，咸因無以利有，因有以用無也。若夫治身，則神爲存生之利，虛爲致神之用。故無能致用，有能利物，利物在乎有，而致用在乎無。無者虛靜之謂，有者神明之謂也。神明則妙有，虛靜則至無，妙有之利在乎存生，至無之用在乎致神，存生致神之利用不出乎妙有至無也。車器之設，用無而利有，用無是空，利有是色，故次之以五色。

（以上第十一章）

**五色令人目盲，五音令人耳聾，五味令人口爽。**

五色之設，本以彰五行之象，黼黻文章，別尊卑之飾，斯則五色之用也。而後世爲錦繡之麗，青黃悅目，逐物外遷，傷精喪明，不能徹視無色之色，非盲而何？五音之設，本以彰五行之聲，金石絲竹，通天地之氣，斯則五音之用也。而後世作鄭衛之聲，淫哇悅耳，耽營不已，蕩性塞聰，不能冥聽無聲之聲，非聾而何？五味之設，本以彰五行之和，鹽梅調適，養人之體，斯則五味之用也。而後世有熊掌之嗜，芻豢美口，饕餮無厭，濁神穢真，不能內嘗無味之味，非爽而

何？爽，亡也，差失也。

**馳騁田獵，令人心發狂。**

田獵者，國之常禮，以講武事，示民時也。天子諸侯，每歲三田：一爲乾豆，祭祀宗廟也；二爲賓客，交二國之好也；三充君之庖，食以時也。時之不田，則曰不恭，田不以時，則謂之暴天物，故春蒐夏苗秋獮冬狩。若不遵法度，馳騁逐境，禽荒無節，暴物傷農，登崖踰險，心神發亂，非狂而何？

**難得之貨，令人行妨。**

金銀珠玉，難得之貨，人若貪取無厭，采求不已，則道行妨傷而身多勞辱也。君平曰：“五色重而天下盲，五音調而天下聾，五味和而天下暗，田獵興而天下狂，珠玉貴而天下勞，幣帛通而天下傾。是故五色者陷目之錐，五音者塞耳之椎，五味者斬舌之鉞，田獵者狂惑之帥。利遠方之貨，天下之所以違也。貴難成之物，天下之所以微也。凡此數者，變而相生，不可窮極，難明而易滅，難得而易失也。殃禍之間，危亡之室也，求之以自賊，居之以自殺也。”此上戒君王而下訓兆民也。

**是以聖人爲腹不爲目，故去彼取此。**

聖人謂有道之君也。有道之君，任聲色之外馳，養浩然之內景。腹者受物養，實其腹則不逐物，故內全而神王，是以聖人法之而爲腹也。目者著色役，亂其目則逐物移，故外盲而精喪，是以聖人戒之而不爲目也。去彼取此者，令人去目之逐物取腹之內全也。耽悅聲色則戮辱及之，不貴難得之貨而寵榮可待，故次之以寵辱。

（以上第十二章）

**寵辱若驚。**

寵者謂富貴慶賞諸吉也。辱者謂貧賤刑罰諸凶也。達道之士以形骸爲逆旅，生死如贅癰，不榮通，不醜窮，知軒冕之去來，外物之寄託耳，豈有寵辱係懷而驚怛哉！此言寵辱若驚，謂中人耳。中智之士，處安而慮危，得寵而知辱，故皆如驚。世俗趨末則驚辱，中智觀本故驚寵，故曰寵辱若驚。

**貴大患若身。**

貴者，尊愛之稱。大患者，軒冕寶貨外物養身之屬也。至人知身非我有而尚外之，況尊愛他物乎！今世人謂軒冕寶貨可以資生，故貴之如身，而不知身與物

皆是大患之本，不足貴也。

**何謂寵辱，寵爲上，辱爲下。**

開元御本作“寵爲下”，言人得富貴慶賞者，恃寵而嬌盈則生禍，因寵獲禍則寵爲辱本，故曰寵爲下。河上公本作“寵爲上，辱爲下”，於經義完全、理無迂闊，下文解之其義詳矣。皇甫謐本亦作“寵爲上，辱爲下”，言以得爲上以失爲下也。

**得之若驚，失之若驚，是謂寵辱若驚。**

結義也。夫世俗據其富貴，操之則慄，捨之則悲，未達得失之非我，故皆驚懾也。中智之士，知禍福循環，譬如糾纏，得其寵榮，必有悴辱，故戒之，持勝如失之驚也。列子曰：趙襄子使使攻翟，取二邑而有憂色，謂無積德而有重功，不可不戒懼也。孔子聞之曰：趙氏其昌乎。此得之若驚也。

**何謂貴大患若身？吾所以有大患者，爲吾有身，及吾無身，吾有何患。**

何謂者，再問答張本，以起後義也。吾者，汎舉自稱。夫人所以有大患者，謂其有身也。且人之身無毛羽以禦寒暑，必將資物以爲養性全生之具，而貪生太厚者動入死地，故大患隨之，是由封執塵累矜其有身也。若能外其身、不以身爲身；忘其心，不以心爲心；冥乎造化，同乎萬物，使行若曳枯木、坐若聚死灰，則向之寵辱大患何緣及之。故曰及吾無身，吾有何患。《齊物論》：子綦謂顏偃曰：今者吾喪我，汝知之乎？夫遺照坐忘，尚諸患莫侵，況體合自然者乎？無者忘也，外也。或以無身爲滅壞空寂者，失老氏之宗旨矣。

**故貴以身於爲天下，則可以託天下，愛以身於爲天下，則可以寄天下。**

自無身而上，汎論士民驚執寵辱，致其大患也。自貴愛而下，專說王者未能兼忘天下，故有寄託之名耳。然寄託之說，實非上德之君，若乃游心於澹、合氣於漠，順物自然而無容私者，則可復太古之風矣。陸希聲曰：“若以得失動其心，物我存乎懷，則寵辱不暫寧，吉凶未嘗息，安足爲天下之正、居域中之大乎？唯能貴用其身以爲天下、愛用其身以爲天下者，則是貴愛天下非貴愛其身也。夫如是，則得失不在己、憂患不在身，似可以大位寄託之，猶不敢使之爲主，而況據而有之哉！此大道之行、公天下之意也。”開元御本作“故貴以身爲天下若可寄天下，愛以身爲天下若可託天下”。御注曰：“此章首標寵辱之戒，後以寄託結成者，夫寵辱若驚，未忘寵辱，貴愛以爲，未忘貴愛，故以辱校寵，則辱不如寵，



以貴方愛，則貴不如愛。驚寵辱者，尚有寵辱介懷，存貴愛者，未爲兼忘天下，故初則使驚寵如辱，後欲令寵辱俱忘，假寄託之近名，辯兼忘極致，忘寵辱則無所復驚，忘身則無爲患本，忘天下則無寄託之近名。”王弼本作“故貴以身爲天下者則可以託天下矣，愛以身爲天下者則可以寄天下矣”。弼注曰：“無物以易其身故曰貴，如此乃可以託天下也。無物以損其身故曰愛，如此乃可以寄天下也。不以寵辱榮患損易其身，然後乃可以天下付之也。”正經今取《莊子·在宥篇》所引爲定，王弼本次之。注解輔嗣、希聲爲優。疑開元御本校勘時以別本增損，有失古意。寵辱皆驚，未免撓拂其心，唯達者順道無形，故次之以視之不見。

（以上第十三章）

視之不見名夷。

夷，古本作幾。幾者，幽無象也。《易》曰：“幾者動之微。”雖有此義，今存而不論。

聽之不聞名曰希，搏之不得名曰微，此三者不可致詰，故混而爲一。

道之難狀難說也如是，聖人不得已而強爲之名耳。且道非色不可以目視而見，故於無色之中能色衆色，因而詔之曰夷，夷者平也，謂漠然平夷無涯涘貌，在色而無色也。道非聲不可以耳聽而聞，故於無聲之中能聲衆聲，因而詔之曰希，希者疏也，如物之希疏，無擊觸之聲，在聲而無聲也。道非形不可以手搏而得，故於無形之中能形衆形，因而詔之曰微，微者妙也，微妙無質礙，在形而無形也。唯至人以神視，可見無色之色，而出於衆色；以氣聽，可聞無聲之聲，而出於衆聲；以心察，可得無形之形，而出於衆形。言此希夷微三者皆道之應用強名，豈可以爲實有而得致詰責問哉！故當混合而冥爲至一耳。君平曰：“夫鴻之未成，剖其卵而視之非鴻也，然其形聲首尾皆已具存，此是無鴻之鴻也，而況乎未有鴻卵之時，而造化爲之者哉！由此觀之，太極之原，天地之先，索有形聲端緒而不可見聞亦明矣。不以視視者能見之，不以聽聽者能聞之，不以循循者能得之，不以言言者能辯之，是故無形之形天地以生謂之夷，無聲之聲五音以始謂之希，無緒之緒萬端以起謂之微。”此皆先賢舉其進道之方也，若夫能忘其視聽、冥其循搏，混一都無，則至矣盡矣，不可以加矣。

其上不皦，其下不昧，繩繩不可名，復歸於無物。

夫形色之物，皆有涯分，不能出其定方，唯道超然出於九天之表而不爲明，存乎太極之先而不爲高。使其學者居上與日月齊照而其光不曠，沈然沒於九地之外而不爲暗，流乎六極之下而不爲深。使其學者在下與瓦甓同寂而其明不昧，而繩繩運動，無窮無絕，生育萬物，而道不屬，生物自生爾。變化萬物，而道不屬，化物自化爾。萬物自生自化，自形自色，而不可指名於道也。既而尋本究原，歸於杳冥，復於沉默，斯乃道之運用、生化之妙數也。故曰繩繩不可名、復歸於無物。繩繩，接連不絕貌，又無際也。

是謂無狀之狀、無物之象，是謂惚恍。

夫歸於無物者，非空寂之謂也，謂於無形狀之中而能造一切形狀，於無物象之中而能化一切物象。欲言有邪，而不見其形，是即有而無也；欲言無邪，而物由之以成，是即無而有也。有無不定，是謂惚恍。惚，無也，言無而非無。恍，有也，言有而非有。故曰惚恍爾。

迎之不見其首，隨之不見其後。

夫道先乎天地，長於上古，湛然何來，莫知其始，故迎之不見其首。而又終古不息，後乎億劫，寂爾常存。莫知其終，故隨之不見其後。此使人廓其靈臺而法其道體也。

執古之道，以御今之有，能知古始，是謂道紀。

古道者，無形無名，天地之原、萬物之宗也。即視不見、聽不聞之道也。老氏使其治身治世者，執持上古無爲自然之道，制御即今有爲煩撓之俗，歸乎淳風，復乎太始，使各正性命，不遷其德，是謂知道之綱紀也。視聽莫詰，惚恍無狀，能執持古道以御今之有爲者，其唯善士乎，故次之以古之善爲士者。

（以上第十四章）

古之善爲士者，微妙玄通，深不可識。

言上古善以自然之道治身治國而爲士者，其德用淵微，神明妙遠，智照望冥，校者按：望冥義難通。望字影本道藏有，填寫痕迹，疑望字爲宵字殘壞而誤填。精誠通達，是以體貌深厚，孰能知識者哉！故道大似乎大肖，列子居鄭而人莫識，此乃古之善爲士者也。

夫唯不可識，故強爲之容。

有道之士，德量深遠，難可知識，恐後世無以爲師法，故強爲說其容狀、指其表儀，謂下文也。

**豫若冬涉川，**

豫，猶豫也。言有道之士，順從自然，弗逆萬物，不爲福先，不爲禍始。然而舉事退藏，輒加重慎，雖履坦途，常憂沒溺，有如寒沍之月，揭涉長川，其心豫然而疑難，恐沈於不測之淵也。

**猶若畏四鄰，**

有道之士，常履虛無而不敢有爲，故出處而深思，猶然而畏慎，謹於去就，而慮幽明之司察，有如世人避禁，而畏四鄰之竊知，此戒之深也。

**儼若客，**

有道之士，儼然端謹，心無散亂，如賓對主人，曷敢造次，言無事無爲也。如東郭順子正容悟物，使人意消，故田子方師仰之，李含光居於暗室，如對君父，故司馬子微激賞之，此可謂能儼若客也。

**渙若冰將釋，**

有道之士，外雖矜莊，內心閑放，其智智如春冰之釋，渙然泮散，凝滯都亡。

**敦兮其若樸，**

敦者淳厚貌。樸者質素貌。又形未分曰樸。言有道之士，天資淳厚，質素未分，語默悟和，無文飾也。

**曠兮其若谷，**

曠者寬大之稱。谷者含虛之竅。言有道之士，德淳厚而不顯，器寬大而含容，任善惡之去來，如空谷之應答而常虛也。

**渾兮其若濁。**

雜波流曰渾。不分明曰濁。言有道之士，內心清靜，外雜波流，若濁水之不明，曷分別乎妍醜。已上七事，治國則民不識不知，復乎太古，修身則和光同塵，冥乎至道。

**孰能濁以澄靜之徐清，**

言有道之士，心同淵泉，即其濁以澄靜之，則徐復其清矣。

**孰能安以久動之徐生，**

言有道之士，支離其德，當其安以久而動之則徐全其生矣。舊說云：至人外

示混濁，不異凡流，內本澄清，同乎道體，徐徐而登假於清真也。復爲學人恐安此徐清之道，久而不遷住於諸境，故勉之令動，別求勝法，逮及徐徐漸生，不住諸相，以至生生不絕也。一本作“孰能濁以靜之而徐清，孰能安以動之而徐生”。保此道者不欲盈，夫唯不盈，故能弊不新成。

言人保守此徐清徐生之道者，善能謙以自牧，安其虛靜。夫唯不盈者，再舉獨有至人不矜恃盈滿，故能常守弊陋，雖有新成之功，而能持勝不動，更求進嚮，復增上善，不住小成，斯乃聖人之深趣也。善士師古，識量深微，敦樸空曠，得幽谷虛極之道，故次之以致虛極。

（以上第十五章）

### 致虛極，守靜篤。

致，得也。言人能心無愛欲，得冲虛之道，參杳冥之極，復能常守清靜，則德化淳厚矣。列子曰：“莫如靜。”莫如虛靜也，虛也得其居也。《西昇經》曰：“人能虛空無爲，非欲於道，道自歸之。”嚴君平曰：“道德虛，故能稟授；天地清靜，故能變化；陰陽反覆，故能生殺；日月進退，故能光曜；四時始終，故能育成。釋虛無則道德不能以然，去清靜則天地不能以存，往而不反則陰陽不能以通，進而不退則日月不能以明，終而不始則萬物不能以生。是故有而反無，實而歸虛，心無所載，志無所彰，無爲如塞，不憂如狂，抱真履素，損棄聰明，不知爲首，空虛爲常，則神明極而自然窮矣。動作反身，思慮復神，藏我於無心，載形於無心，不便生者不以役志，不利天者不以滑神，事易而神不變，內流而外不化，覆視反聽，與神推移，上與天遊，下與世交，神守不擾，生氣不勞，趣捨屈伸，正得中道。”

### 萬物並作，吾以觀其復。

人生而靜天之性，今言致虛極守靜篤者，使人修之復於妙本也，非止於人。蓋萬物之並動作者，未有不始於寂然而發於無形，生於和氣而應於變化，及觀其復也，盡反於杳冥而歸於無朕，以全其真也。《易》曰：“復其見天地之心乎？”天地之心謂寂然至無也。君平曰：“天地反覆，故能久長。人復寢寐，故能聰明。飛鳥復集，故能高翔。走獸復止，故能遠騰。龍蛇復蟄，故能章章。草木復本，故能青青。化復則神明得位與虛無通，魂休魄息，各得所安，志寧氣順，血脈和

平。”此皆暫爾復靜，猶能精神，況久歸至道者乎！

**夫物芸芸，各歸其根，歸根曰靜，靜曰復命，復命曰常。**

芸芸，茂盛貌，謂草木植物之類也。或作云云，動作貌，衆多貌，謂飛走動物之類也。以義推之，動植雖殊，咸歸其根。虛者冲漠之謂，靜者寂怕之謂，冲漠寂怕者，乃動植之根本也。且無者有之本，靜者躁之君，動之極也，必歸乎靜，有之窮也，必復乎無。草木之根，重靜處下則長生，花葉輕動居上則凋落，物尚如斯，何況人乎！故聖人舉喻，使民息愛欲之心，歸乎虛靜之本，則可以復其性命之原矣。性命之原即杳然冥然，視不見而聽不聞者也，此唯明哲之自悟爾。能悟之者，則行住坐卧不離乎虛靜寂寞而應變不遷，是得常道而復命者也。知常曰明，不知常，妄作凶。

此言常道之難如此。知，猶悟也。悟常道者，神變無方，性無所不通，氣無所不同，不知萬物之爲我，我之爲萬物。故能蹈水火，貫金石，反山川，移城邑，乘虛不墜，觸實不礙，千變萬化，不可窮極，此神合常道者也。其次則毓質不衰，顏如處子，住世千載，厭而上仙，此形同常道者也。其次則語默有法，出處合時，動與陽同波，光而不曜，靜與陰同德，用晦而明，世累莫干，而身無咎，此能用常道者也。若以治體爲宗，則用常道爲上矣，故曰知常曰明。或作日明者，言日益明達，此有漸之說也。既悟常道，當如上說，或不悟常道者，反以神變爲妖，長生爲誕，虛極靜篤爲空曠，歸根復命爲滅亡，不知強知，不識強識，舉心僞妄，動作皆凶，《易》所謂：“不常其德，或承之羞。”故曰妄作凶。

**知常容，容乃公，公乃王，王乃天，天乃道，道乃久，沒身不殆。**

夫知常道者，應用萬物，善救無棄，而無所不包容也。包容動植，於己無私，則襟懷蕩然而至公矣。至公無私，則德用周普，天下無不歸往者矣。王，往也。人既歸往，天將祐之，理同自然，於物無逆，是曰真人，而能出有入無，冥乎大通，久與道合，莫知窮極，則水火不能害，金石不能殘，世患莫侵，有何危殆。致虛守靜、歸根復命是知常，知常之人，道同太上，故次之以太上。

（以上第十六章）

**太上下知有之。**

太上者，謂太古之上無名號之君也，所謂上德不德者也。其德無上可知，故

曰太上。雖有君位，而不以尊自稱，任物自然，各正性命。故其教無爲、其治無迹，隨時舉事，因資立功，百姓日用而不知其道，但知有君上而已，謂帝何力於我哉！莊子曰：“至德之世，不尚賢，不使能，上如標枝，民如野鹿，端正而不知以爲義，相愛而不知以爲仁，行而無迹，事而無傳。”此太上之世也。

### 其次親之譽之，

上德既衰，仁義章顯，故天下被其仁者親而附之，懷其義者譽而舉之。莊子曰：“及至聖人，蹙蹙爲仁，蹢躅爲義，而天下始疑。”疑則親譽生焉。又曰：“舜有羶行，百姓悅之，故三徙成都，堯聞其賢，舉之登庸，因而禪位。”此親之譽之也。

### 其次畏之侮之。

仁義失而刑法立，刑法立則禁令嚴，禁令嚴而民畏之。夫禁令雖嚴而權詐爲事者，民從其化而爲欺罔，民欺罔則侮上之深者也。《鴻烈解》曰：“太上仁化，謂太上下知有之也；其次使不得爲非，謂親之譽之也；其次賞賢而罰暴，謂畏之侮之也。”

### 信不足有不信。

心有孚之謂誠，言可復之謂信。信全則天下安，信失則天下危，今既權詐事興，欺罔並起，君信不足於下，故下有不信之心應之，夫上之化下也，如明鑑之接形容而理無差焉。王弼曰：“御體失性則疾病生，輔物失真則疵釁作，信不足焉則有不信，此自然之道矣。”

### 猶其貴言。

自親譽而下，已喪太上無爲之化，不能復淳古之風，猶其貴重言教，執守陳迹，以爲化方，雖然失道遠矣，不猶愈於忽言不信而致犯上作亂者乎？

### 功成事遂，百姓謂我自然。

夫有道之君，垂拱無爲。故功業成而不有，憺然清靜。故事務遂而忘知，民皆淳樸，無所妄爲，謂我自然而然也，親譽畏侮之心於何而有哉！舊說：信不足有不信，覆釋畏之侮之。猶其貴言，覆釋親之譽之，功成事遂百姓謂我自然，覆釋太上下知有之。類乎膠柱調絃，今不從焉。太上無爲，至德不順，及其仁愛親之譽之，則大道廢，故次之以大道廢。

（以上第十七章）

### 大道廢，有仁義；

大道即太古無爲之道。廢，猶隱也，又陵替不行也。人心不淳，則大道隱廢，至德不行也。然後仁愛漸生，義利浸長，故樸散以爲器，斯則大道廢有仁義也。莊子曰：魚相忘乎江湖，人相忘乎道術，此喻大道之世也。及其兼愛爲仁，裁非爲義，故仁義生乎不足。是猶“泉涸，魚相與處於陸，相呴以濕，相濡以沫，不如相忘於江湖”。此喻大道廢有仁義也。

### 智慧出，有大僞；

夫敦樸隱廢則智慧出，智慧出則大僞生，理勢然也。莊子曰：馬之真性，齕草飲水，翹足而陸，喜則交頸相靡，怒則分背相踶，馬智已此矣。及至伯樂治之，前有櫛飾之患，後有鞭策之威，加之以衡扼，齊之以月題，馬乃介倪闔扼驚曼詭銜竊轡之智生矣。夫太古之時，民居不知所爲，行不知所之，含哺而熙，鼓腹而遊，民能已此矣；及至聖人屈折禮樂以飭天下之形，縣跂仁義以慰天下之心，而民乃智詐漸毒頡滑堅白解垢同異之辯生矣。此所謂智慧出有大僞也。

### 六親不和有孝慈；國家昏亂有忠臣。

六親，父子兄弟夫婦也。《禮記》曰：“大道之行也，不獨親其親，不獨子其子。”至仁忘親也，忘親者撫諸侄如己子，事伯叔如己父，六親無有不和，孝慈於何而彰；如是則衆之奉我親亦如我之奉衆親矣，是以上下和睦而親親相忘也。若在長失均平之教，居幼有高下之心，故違於大順則六親不和、而慈愛養親之迹見矣。且聖人均平則四海一家，遊心姑射之山杳然忘其天下矣。此則君上無爲而蒼生自化，於何而有抉目剖心之臣哉！是故瞽瞍頑而舜稱大孝，曾皙嚴而參稱能養，夏桀立而龍逢彰，商紂亡而比干顯，斯不得已而爲之，非樂然也。大道廢而仁義彰，智慧出而大僞作，欲復淳風，在乎絕滅聖迹，棄去智詐，故次之以絕聖棄智。

（以上第十八章）

### 絕聖棄智，民利百倍。

聖者，謂制度法象功用陳迹之聖也。絕之者，欲復其渾樸也。河上公曰：“五帝畫象，倉頡造書，不如三皇結繩，無文之治也。”智者謂權變謀慮揣摩縱橫之智，棄之者欲歸於無爲也。經曰“以智治國國之賊”。夫不顯功用陳迹之聖，不用揣摩縱橫之智，則姦宄不生、禍亂不作，民如童蒙，專事農業，則利民何止

乎百倍。莊子曰：“去小知則大知明。”又曰：“善人不得，聖人之道不立，盜跖不得，聖人之道不行。”故須絕棄之，民始獲其利也。

### 絕仁棄義，民復孝慈。

仁者愛物，則人親之，義者宜物，則人譽之，而仁義之弊在乎親譽，親譽既行，則歧尚奔競之心生而性命之和失矣。性命之和失則孝慈之行何由而有，今使絕而棄之，是欲人全性命而復孝慈也。

### 絕巧棄利，盜賊無有。

巧者，雕斲刻削機械局鑄之謂也。利者，珠玉斗斛權衡符璽之謂也。夫機械局鑄權衡符璽之屬，於小則能守備，於大則不可禦寇，今日絕棄之者，是猶擲玉毀珠，焚符破璽，使民樸鄙而盜自止也。

### 此三者以爲文不足，故令有所屬。

屬，繼也。三者謂絕聖棄智、絕仁棄義、絕巧棄利，言此三者雖欲不用而復其淳古之風，然紀之爲文，垂之爲教，尚未明白，於理不足，故人多有疑難之者，別令有所屬繼，使群心渙然如冰之釋，在下文。

### 見素抱樸，少私寡欲。

見素，謂守其純素，不雜文飾，聖迹智謀自然絕矣。抱樸，謂歸其樸厚，不徇矜夸，仁義之情自然棄矣。少私，謂守分至公，不好外美，而機巧自然絕矣。寡欲，謂節儉制情，泊然安靜，而浮利自然遺矣。夫聖智之迹，可以救近，而不知傷遠；仁義之情，可以濟急，而不知違真；巧利之器，可以助小，而不知害大。故聖人明而不顯，知而不用，唯以見素抱樸爲懷，少私寡欲爲念，如是治國，而民躋富壽、復於古風，修身則槁體灰心、嗒然喪耦矣。聖迹絕則機智自忘，仁義絕則慈孝親睦，斯由學者之弊，故次之以絕學無憂。

（以上第十九章）

### 絕學無憂。

夫道者杳然難言，豈學者可得而進，故可傳而不可授，可得而不可具。輪扁之伎，非不傳也，蓋無受伎之質也，況聖人之道乎？今之學者，但糟粕而已矣。所言絕學，非謂其絕滅不學也，謂守自然之性，不越分外而學也，猶如覺脛雖短，續之則憂，鶴脛雖長，斷之則悲。夫離朱師曠，天生聰明，後之學者，或致



眇塞，性之長短，豈跂慕矜夸所能逮哉！去其跂慕則無憂樂，蓋稟其自然之氣、得乎聖人之心，是以真曷足求，而妄不足除也。世之務學而有憂者，垂首刺股，所趣不過虛名，映雪聚螢，所逐止存浮利，以致寵辱皆驚，憂樂兩陷，何其迷哉！

**唯之與阿，相去幾何？善之與惡，相去何若？**

唯者恭膺也。阿者慢應也。以名教言之，則唯恭而阿慢，以誠理論之，唯阿皆膺聲也。而世之執者，使變阿爲唯，或以唯異阿，是未明唯阿之同出乎一聲，相去何遠也。若忘世之執，則無唯阿之分。善者吉之稱，惡者凶之名，學而履之者善也，不學而悖之者凶也，夫道杳然虛極，淵兮沉靜，豈係學與不學哉！今爲善者無近名，名極則害身，爲惡者無近刑，刑極則殘生，故善之與惡非道之實，乃外物耳。既皆外物，則相去奚異哉！唯其絕學者，雖有聖智而不自知，況善惡唯阿乎？或說云：變俗學爲真學，變阿爲唯，變惡爲善，如反掌耳。上之言至理也，此之言世教也，若以此辯，又何以異乎唯阿哉！古本作“美之與惡”，如上章“天下皆知美之爲美斯惡已”。

**人之所畏，不可不畏，荒兮其未央哉！**

至人冥心妙道，絕學無憂，雖忘善惡於胸中，必順唯阿於形外，善惡之戒不敢不畏，其唯蘊道之深者乎！小夫則不然，慕善而不行善，畏惡而不去惡，厭溺世學往而不反，荒廢真性未嘗有中止之時。央，中也，止也。

**衆人熙熙，如饗太牢，如春登臺。**

熙熙，悅樂之貌。春臺，時物之華。此舉喻也。世人因學致僞，逐境失真，汨沒於愛欲之波，熙熙悅樂，如餓夫之臨饗太牢，志無厭足，馳騁乎軒冕之途，欣然觀望，若遊子之登賞春臺，心迷不反也。

**我獨怕兮其未兆，如嬰兒之未孩，乘乘兮若無所歸。**

怕，寂也，又安靜無爲貌。兆者，形狀之初。孩，笑貌。乘乘，運動貌。夫至人之心，寂然安靜，無爲虛愴，莫知其形狀之迹，雖處乎囂塵之間，觀物之遷變，瞳然若嬰兒之不能分別笑耦也。既而隨世混迹，與物同波，乘衆人之所乘，行不崖異，浩然都任，若無所歸趣也。又解：乘乘，若虛舟之東西而無所歸止也。怕，一本作魄，王弼作廓。乘乘，王弼作儻儻，一本作魁魁。

**衆人皆有餘，而我獨若遺，我愚人之心也哉！沌沌兮。**

沌沌，不分貌。夫人心有所係，觸境如歸，饕餮於富貴之間，謂其心有餘樂矣。是以至人糝糠世務，纏繳紳修，知軒冕之去來如寄，故忽之若遺忘耳。此乃心字沌沌而莫分，磅礴萬物以爲一，愚人之心固欲辯其美惡矣。一本作“純純”者，質樸無欲貌。我愚人之心也哉，猶云我豈愚人之心也哉，言非愚人之心，實無分別，則至人之心隕然若此也。

**俗人昭昭，我獨若昏。**

昭昭，光耀自銜貌。夫世俗爲學而日益浮麗，自謂昭昭光耀，銜鬻才藝，是以至人智周萬物，未嘗矜夸如同昏闇也。

**俗人察察，我獨悶悶，忽兮若海，漂兮似無所止。**

察察，嚴明貌，又苛急貌，又矜持貌。悶悶，寬裕貌，或作惛惛者，昧昧貌。夫世俗因學爲政，制度嚴明，立法苛急，矜持有爲，故民不聊生。是以至人體天法道，因循任物，在宥天下，寬裕昧昧，民乃全其真也。莊子曰：“至道之極，昏昏默默。”雖昏默不分，晦冥難測，而萬物歸之莫知其所往，百姓用之不知其所竭，善下廣納，莫測其深，故曰若海。而又應變之道，莫定其方，若流波漂揚無所止著。一本作“忽若晦，寂兮似無所止”，言至人容儀忽然晦昧尸居，其心寂靜，無所繫繫。此壺丘子林之波流九變也。二義俱通，今從上說。

**衆人皆有以，我獨頑似鄙，我獨異於人而貴食母。**

以，用也。世人崇尚學業，不能無爲，而有所施用，故曰有以。至人行若曳槁木，居若聚死灰，不外飾其形，故獨似頑鄙爾。夫至人出處語默，非欲異於人而自然與人異，何也？貴用其道爾。用道者，體與造化冥，故曰我獨異於人而貴食母。食，用也。母，道也，本也。或說：食，養也。母，神也。神能生身，故曰母。世人貴有欲以喪形，至人貴無欲以養神，故異於人。又曰：母，氣也。世人嗜好滋味，而至人貴食和氣，所以異於人也。或曰：老氏以和光同塵爲務，此篇何獨彼我之說云云。曰：此豈至人之本意哉！蓋不得已而言也。夫至人所行何嘗有異，自是世俗動靜相反，因垂言立教，故有彼此云爾。失禮之憂，因學而有，沌沌若昏，德容光大，故次之以孔德之容。

（以上第二十章）

**孔德之容，唯道是從。**

孔，甚也，大也。容，狀也。從，順也。至人，冥於道者也，常道無名，唯德以顯之，至德無本，順道而成之。夫大德之人，於諸相豈可見邪？唯有順道之容，髣髴是其狀矣。

**道之爲物，唯恍唯惚。**

夫道杳然難言，故眊聽不能聞見，何物之可謂邪？今言物言，蓋因強名以究妙理也。夫大德之人，能從順於道，道既無形，何從之有，既無其形，又不可名，當何以爲從乎？唯叩其恍惚者，則可以影響其象罔耳。恍，似有也，在有非有；惚，似無也，居無非無。居無非無，即空是色也；在有非有，即色是空也。有無不可測，復假借於象物以明道也。

**惚兮恍其中有象，恍兮惚其中有物。**

象者氣象，物者神物，即莊子之所謂真君，今之所謂性者也。夫道恍惚不定，謂其無邪，惚然自無形之中，恍爾變其氣象，將爲萬物之朕兆也；謂其有邪，恍然自有象之初，惚爾而化歸於無有也。然而至無之中有神物焉，神物者陰陽不測妙、萬物以爲言者也，千變萬化，無所窮極，經營天地，造化陰陽，因氣立質，而爲萬類治身治國，鍊粗入妙，未有不由神物者也。

**窈兮冥兮，其中有精，其精甚真，其中有信。**

窈，深遠貌。冥，寂默貌。夫道，恍惚不能定，象物不能見，又窈兮深遠，冥兮寂默，問者不知其體，應者不明其理。然而中蘊純粹之精，畜乎自然之信，其精非僞故曰真，其化應時故曰信，猶烏足之爲蟻蟻，人血之爲野火，朽瓜爲魚，賢女爲石，雖動植之類萬殊，未有不精感而變、信至而不化者也，非至德孰能通於此。

**自古及今，其名不去，以閱衆甫，吾何以知衆甫之然哉？以此。**

閱，度也，又披也。甫，本始也。夫道，上自往古，下及來今，湛然常存而不去，形雖不見，名常在焉。以喻至人得道長年，故能閱度萬物之本始，知其皆始於道，故閱之以成其形質也。又設問我何以知萬物皆資稟於道、生死終始之然哉？答以道之恍惚窈冥，常在不去，故能應變爲治，清靜無爲，度閱萬物之遷移，未有不資稟於道者，以此也。大德之人，從順於道，順道則曲全，故次之以曲則全。

（以上第二十一章）

曲則全，枉則直，窪則盈，弊則新，少則得，多則惑。

夫聖賢之士，博通古今，鉤深致遠，廓然見獨而蟠曲，才能未嘗顯耀者，欲遠害全身也。聰達明察，功業顯著，心直如矢，志端如弦，常枉己屈伏而不自伸者，此大直之士也。又解：至人不與物逆，物來枉己則屈伏以受之，彼必內省知非，則直自歸之，故曰枉則直也。夫陵原川谷之變，高下不常，川谷窪下則水就而滿之，陵原高峻則雨剝而頽之，人之謙下則衆仰而歸之，以致其光大，故曰窪則盈。人有賢才而能支離其德、弊薄其身，則衆共樂推而其道日新矣，故曰弊則新。夫少者簡易之謂，《易》曰：“易簡而天下之理得矣。”《西昇經》曰：“子得一，萬事畢。”多者博學之謂，莊子曰：“文滅質，博溺心。”列子曰“路多歧則亡羊，學多方則喪道”也。

是以聖人抱一爲天下式。

經曰：“道生一。”一者道之子，謂太極也。太極即混元，亦太和純一之氣也，又無爲也。聖人抱守混元純一之道，以復太古無爲之風，可以爲天下法式。何以謂一爲無爲也？經曰：“天得一以清，地得一以寧。”莊子曰：“天無爲以之清，地無爲以之寧。”以此可明矣。自曲則全下六事，尚有對治之迹，此云抱一無爲，可以兼包之，故爲天下式。

不自見故明，不自是故彰，不自伐故有功，不自矜故長。

此四事皆無爲之識。夫聖人無爲，何嘗顯見己之才能，則天下自然稱其明矣。河上公曰：“聖人雖明不自見，千里之外，乃因天下之目以視之，故能明達。”夫能用天下之目者，亦不自顯見之意也。音訓雖異，其旨略同。且聖人虛靜，何嘗自是而非人，蓋彼我都忘，則天下自然稱其是而其德彰矣。聖人恬憺，何嘗自伐，取其德美，則天下自然稱其功業矣。聖人寂寞，何嘗自矜，大其賢貴，則下自然稱其有道而長存矣。

夫唯不爭，故天下莫能與之爭。

《鴻烈解》曰：“趙簡子死，未葬，中牟入齊。已葬五日，襄子起兵攻之，圍未合而城自壞者十丈。襄子擊金而退，軍吏諫曰：君誅中牟之罪，而城自壞，是天助我，何故去之。襄子曰：我聞之叔向曰：君子不乘人於利，不迫人於險。使之治城，城治而後攻之。中牟聞其義，乃請降。故曰夫唯不爭，故天下莫能與之爭”。

古之所謂曲則全者，豈虛言哉？誠全而歸之。

夫聖人純一無爲，何嘗有爭競之心哉！經曰：“含德之厚，比於赤子。毒蟲不螫，猛獸不據，攫鳥不搏。”蟲獸尚爾，況於人乎？然而上古有此曲全之語，豈今日之寓言哉！人能行之，誠有全德之美而歸之於身，此再三勸勵之深旨也。曲全抱一，不矜不伐；不矜伐則希言，故次之以希言自然。

（以上第二十二章）

希言自然，飄風不終朝，驟雨不終日。

《易》曰：“吉人之辭寡，躁人之辭多。”貴其希疏而戒其不常也。言希疏則合自然。夫至人有問即應，接物即言，動靜以時，故合自然。以論風雨時若則利乎萬物，暴卒不常則爲害。飄，猛烈也。驟，暴急也。從旦至晡爲終朝，自早及暮爲終日，夫山澤相通，爲此飄風，陰陽噴激，作此驟雨，蓋由陰陽失節、和氣不洽而致此，故不能長久也。以況於人語言違戾，喜怒不常，其於純和，寧不喪乎？

孰爲此者天地，天地尚不能久，而況於人乎？

設問誰爲此飄風驟雨者乎？答是天地之所爲也。夫形之大者莫過乎天地，氣之廣者莫極乎陰陽，陰陽相擊，校者按：彭耜《集注》引作激。天地交錯而爲猛風暴雨，尚不能崇朝終日，何況人處天地之間如毫末之在馬體，況敢縱愛欲、任喜怒，暴卒無節，趣取速亡，不亦悲乎！

故從事於道者，道者同於道，德者同於德，失者同於失。

從，爲也，順也。夫道虛無自然、安靜簡易之謂也。言人爲事當從順於道，希言愛氣，永保天和，豈可若飄風驟雨而不久長也。然而順道者，動與陽同波，靜與陰同德，聚則成形，散則成氣，出有人無，同於妙道。行乎德者，內全諸己，不喪精神，外濟於物，澤及蒿萊，功成不居，同於上德。趣嚮失者，以嗜欲爲樂，韁鎖爲榮，爾然疲役而心不悔，甘乎死地同於喪失也。

同於道者道亦得之，同於德者德亦得之，同於失者失亦得之，信不足，有不信。

言氣類相感，有如此也。夫體冥妙道者，非但民之樂推，而大道之君亦得其人矣。功合上德者，非但民之仰戴，而至德之士亦得其人矣。心溺於喪失者，非但尸魄之欣樂，而失喪之徒亦得其人矣。蓋各以類應也。是以信乎道者得其道，

信乎德者得其德。不信於道，輕忽於德，故道亦不應，德亦無稱，天下豈有信之者哉？故曰信不足有不信。希言寡辭，自然同道，道同德洽而無跨跂，故次之以跂者不立。

（以上第二十三章）

**跂者不立，跨者不行。**

跂者，舉踵而望，又進貌。跨者，夾物也，又超略貌。夫饕餮冒進之夫，跂望非分，欲求寵榮，雖苟得之，有若延頸舉踵，何能久立乎？而又才力卑劣，欲超略勝人，衆共蔽之，使不得言，跨步夾物，心欲速達，何由得行乎？

**自見者不明，自是者不彰，自伐者無功，自矜者不長。**

曲則全第二十二章，明聖人無爲，不自矜伐而未嘗顯彰。此章言小夫則不然，自見己之才美，賈銜而蔽人，其於事也，豈得明乎？自是而非彼，美己而惡人，其於理也，豈得彰乎？仁不濟物，義不裁非，自取名譽，以爲光耀，其於治也，豈有功乎？矜大己能，以壓愚下，其於道也，豈得長乎？

**其於道也，曰餘食贅行，物或惡之，故有道者不處。**

附形曰贅，疣之類也。已上自矜等行，其於無爲常道，猶棄餘之食，適使人惡，附贅之形，適使人醜，凡物尚惡之，況有道之士，曷嘗厝身處之乎？跨跂贅行，有道不處，其迹混成，故次之以有物混成。

（以上第二十四章）

**有物混成，先天地生。**

有物混成者，道之宗也。故眊之不見，聽之不聞，搏之不得。夫至理湛然而常存，故謂之有物，真道萬派而莫分，故謂之混成。然混成不可得而知，萬物由之以生，故曰有物混成也。先天地生者，道之元也，經曰：“吾不知誰之子，象帝之先。”莊子曰：“夫道在太極之先而不爲高，在六極之下而不爲深，先天地生而不爲久，長於上古而不爲老。”此皆標道之大體也。

**寂兮寥兮，獨立而不改，周行而不殆，可以爲天下母。**

寂者無聲。寥者無形。既云有物混成，尋其形聲，窅冥空洞，無象無質，故曰寂寥。夫大塊卓然，無物可比，且形影因待，猶言獨化，況妙道廓然，何物能偶，故曰獨立。物雖千變萬化，出生入死，而妙道未嘗遷革，故曰不改。且道之

用也，散則冲和之氣徧於太無，歛則純精之物藏於黍粟，周流六虛，應用不窮，故曰不殆。物無大小，皆仰於道，得之則全，離之則殞，生之成之，咸有所賴，故曰爲天下母。

**吾不知其名，字之曰道，强爲之名曰大。**

夫大道無形，故眊聽莫聞，搏取不得，既無形聲端緒，故不知其名。然而前稱有物則有體用，體用既彰，通生萬物，就用表德，字之曰道。包含天地，其體極大，故强爲之名曰大。

**大曰逝，逝曰遠，遠曰反。**

逝，往也。凡物之大，皆有邊際，唯道無窮無極，往無涯畔，故大曰逝；愈逝愈遠，莫究其源，故逝曰遠；雖遠出八荒之外，而收眊反聽，湛然於方寸之間，若鑑之明，應而不藏，故遠曰反。反，復也。往而還復，沒而復生，陰而復陽，皆道之化也。

**故道大、天大、地大、王亦大，域中有四大，而王居其一焉。**

道爲天地之始，曠蕩無不制圍，萬物得之則生，士民懷之則尊，故曰道大。天者顛而在上，運動不息，覆物無窮，故曰天大。地者凝而在下，寂然不動，柔順安靜，厚載無窮，故曰地大。王者清靜無爲，化被萬物，黔黎之首，不敢與天、地、道爲比，故云亦大也。域中四大，謂道、天、地、王也。域者限也。夫道大包宇宙，細入秋毫，或超象外，或處域中，自地而上，皆屬於天，下必高遠，蒼蒼之謂也。天在地外，地處天內，王者人倫之尊，居九州之間，皆處於域中，故曰域中四大也。而王者參天地之道，秉萬物之權，於四大之中預其一焉。莊子曰：“莫神於天，莫富於地，莫大於帝王。”帝王之德配天地，可不慎乎！

**人法地，地法天，天法道，道法自然。**

此戒王者當法象二儀，取則至道，天下自然治矣。夫王者守雌靜則與陰同德，所載無私，是法地也。又不可守地不變，將運剛健，則與陽同波，所覆至公，是法天也。復不可執天不移，將因無爲，與道同體，其所任物，咸歸自然，謂王者法天地則至道也。非天地至道之相法也，宜察聖人垂教之深旨，不必專事空言也。混成之道，是謂彊名，彊名四大，王居其一，王者以重制輕，故次之以重爲輕根。

（以上第二十五章）

**重爲輕根，靜爲躁君。**

夫草木花葉，輕脆而居標枝者，則爲風霜之所零落，根本堅重而處於深下者，則物莫能傷而長存。以況治身治國，當以厚重爲根本。夫龍蛇蟠屈沉靜，則能變化升騰，虎豹威猛躁動，故遭射獵夭虧。以況治身者，心安靜則萬神和悅，故無嗜欲奔躁之患；治國者，君無爲則百姓樂康，故無權臣撓亂之憂也。

**是以君子終日行不離輜重。**

輜，屏車，又大車也。重者，重其行事也。夫至人君子未嘗容易其言行，凡所行必具輜車，所言必重其事，言行尚爾，況於至道，豈敢須臾離乎？或以輜訓靜者，亦戒其靜與重也。又解：行邁之人，未嘗遠離其輜車重載者，以其衣食之資所在也。苟遠而棄之，則有委困道途之患。以況君子若離道之重靜，以行輕躁，其於身患豈爲細哉！

**雖有榮觀，宴處超然。**

榮觀，紛華貌。宴，安也。言至人君子常憺怕其心，不以紛華榮觀爲美，無爲宴安超然，遠寄遺其驕侈，此亦守重靜之旨也。一本作“榮館宴舍”者，謂不樂榮華之館，冥校者按：當爲宴字之訛，安於小舍，而超然遠適也。

**奈何萬乘之主而以身輕天下，輕則失本，**校者按：據注，本字當作臣。**躁則失君。**

奈何，猶如何，傷歎之辭也。言爲萬乘之尊，處大寶之位，豈可不守重靜，輕身縱欲哉？夫爲臣而不鎮重，則失其身本而忘其職分。古本作“輕則失本”，人君不守無爲清靜，躁動擾民，則失其君位而喪其天和矣。舊說曰：人君輕易煩擾，則民離散，誰與爲臣。人臣飾詐干祿，躁求權勢，坐招竄殛，不得事君。二義俱通。重靜之法，唯君子善行，故次之以善行無轍迹。

（以上第二十六章）

**善行無轍迹，善言無瑕謫，善計不用籌策，善閉無關鍵而不可開，善結無繩約而不可解。**

善行者，順自然而行也。《陰符經》云：“觀天之道，執天之行。”謂觀自然之道無所觀也，執自然之行無所執也。夫無觀無執蓋得之於心，則不出戶而無轍迹也。善言猶莊子之卮言，酌中之言，日新之變，合於自然涯分而無過溢之談，如是則無瑕疵謫責之過也。善計者謂守一無爲，因任萬物，使長短廣狹大小多少



各盡其分，而不損其自然之材器也。莊子曰：“一與言爲二，二與一爲三，自此以往，巧歷不能得，而況其凡乎？”此貴乎無爲而去其籌策也。《陰符經》曰：“八卦甲子，神機鬼藏，陰陽相勝之術，昭昭乎進乎象矣。”此皆有爲機變休咎之學也，至人游心於物之初，任萬物之自治而不爲萬物所役，計己之身，即知於彼，故不用籌策。善閉謂心無爲也，心無爲者雖聲色在前而諸境不入於眇聽，此不用關鍵而莫能開也。橫曰關，立曰鍵。善結者謂以道約事也，至人簡易無爲，善以道繩約貪縱，自然結縛情欲而條然清靜無勞解釋也。

**是以聖人常善救人，故無棄人，常善救物，故無棄物，是謂襲明。**

密用曰襲。聖人謂能行五善之聖人也。夫聖體合自然，心冥至一，故能芻狗萬物，爲而不恃，因人賢愚，就之職分，使人性全形完，各得其用，故無棄人。又能隨其動植，任其材器，使方圓曲直不損天理，至於瓦甓稊稗咸有所施，故無棄物。常善者，謂蘊其常道，善達自然之理也。襲明者，聖人密用其常道，而能明悟任物也。《鴻烈解》曰：“昔者公孫龍在趙之時，謂弟子曰：人而無能者，龍不能與遊。有客衣褐帶索校者按：原訛作素，茲據《淮南子·道應》改。而見曰：臣能呼。公孫龍顧謂弟子曰：門下故有能呼者乎？對曰無有。公孫龍曰與之弟子籍。後數日，往說燕校者按：原作於，茲據《淮南子》改。王，至於河上，而航校者按：原訛作杭，茲據《淮南子》改，下同。在一汜，使善呼者校者按：原缺呼者二字，茲據《淮南子》補。呼之，一呼而航來。故聖人之處世，不逆有伎能之士，故曰無棄人。”

**故善人，不善人之師；不善人，善人之資。**

善人者，謂有道之士也。經曰：“立天子，置三公。”此將以教不善之人也。故曰善人不善人之師。設有不善之人，善人亦資取役使，以漸化導之。經曰：“善者吾善之，不善者吾亦善之，得善。信者吾信之，不信者吾亦信之，得信。”此以德化攝伏不善人爲資給役用也。《鴻烈解》曰：“楚將子發好求技道之士，楚有善爲偷者往見曰：聞君求技道之士，臣偷也，願以技齎校者按：原作齎，茲據《淮南子·道應》改。一卒。子發聞之，衣不給帶，冠不暇正，出見而禮之。左右諫曰：偷者天下之盜也，何爲禮之？君曰：此非左右之所得與。無幾何，齊興兵伐楚，子發將兵以當之，兵三却，楚良賢大夫皆盡其計而悉其誠，齊師愈強。於是市偷進請曰：臣有薄技，願爲君行之。子發曰諾，不問其辭而遣之。偷則夜解齊將軍之帷校者按：原作綯，據《淮南子》改。帳而獻之，子發因使人歸之曰：卒有出

薪者，得將軍之帷，使歸之於執事。明日又復往取其簪，子發又使歸之。齊師聞之，大駭，將軍與軍吏謀之曰：今日不去，楚軍恐取吾頭，遂還師。無技細而能薄，在人君用之耳。”

不貴其師，不愛其資，雖知大迷，是謂要妙。

夫聖人雖遊心於自得之場，不可不立其師資也。雖立師資，復恐貴尚其師，憐愛其資，泥於陳迹，不至遠達，故再舉不貴其師不愛其資也。夫人雖因師發蒙，尋其至理，出自天性，是曰獨化，故伯樂不能御駑駘為驥驥，良匠不能伐樗櫟為棟梁，將使人忘其企慕，然後可造至道之極。故列子師老商、友伯高而得風仙，既而曰：不知夫子之為我師，若人之為我友。此真忘其師資者也。聖人雖知小夫執滯言教，必以此言大為迷謬，然而垂訓上士，使彼我俱忘，乃至言要妙之道也。善行善言，所以救人救物也，為師為資所以知柔知剛也，故次之以知其雄。

（以上第二十七章）

知其雄，守其雌，為天下谿，為天下谿，常德不離，復歸於嬰兒。

雄，尊強也，先也。雌，卑弱也，退也。夫知己之尊顯，出人之先，縱之則強梁生而禍患至矣，乃處身卑微，守其柔弱，謙退下位，而天下歸服如水之流入深谿。既心字如谿，是能保其常德不離於身，去剛躁之欲心，復性歸於嬰兒也。嬰兒者，諭其怕然淳和、是非都泯也。

知其白，守其黑，為天下式，為天下式，常德不忒，復歸於無極。

有道之士，心字如谿，則虛室生白，昭昭明了，乃守其淵默，持之自晦，使光而不耀，此可以為天下之法式矣。人取以為法式者，是見其常無所差忒，將與道冥極也。

知其榮，守其辱，為天下谷，為天下谷，常德乃足，復歸於樸。

有道之士，雖為人所法式，當守卑辱，持勝自汙，則天下歸心如水之投谷，器量如谷，是德充而無名，復歸於道樸。樸謂隱材藏用也。

樸散則為器，聖人用之則為官長，故大制不割。

復於道樸，則渾淪窅冥，視聽無得，此乃體冥真理也；若於治道，則當散而為器。河上公曰：“萬物之樸，散則為器用，若道散則為神明，流為日月，分為五行也。夫人真心之散則為念慮，念慮一動，則百行彰而庶事生。庶事者，材器

也。聖人就其材器因其資能而用爲百官之元長，故能大制群物，任之自然而不割傷也。陸希聲曰：“於乎！大道廢有仁義，大樸散而爲器，聖人能用其器，故可以爲群材之帥。夫唯大道不器，故能用此成器，大制不割，故能宰此群物。若未冥於道而欲用天下之器，見制於物而欲宰天下之材，吾必見其殆矣。”知雄守雌，謙德如谿谷之就下，知白守黑，自晦爲天下之法式，法式施用，將欲有所取焉，故次之以將欲取天下。

（以上第二十八章）

**將欲取天下而爲之，吾見其不得已。**

夫道無爲自然也，雖秋毫之小而尚由之，況天下乎？今若不由其無爲自然，而恃其果敢，將欲力取天下大器，而自縱有爲者，非徒失道，吾必見其不得死已。已者死也。

**天下神器，不可爲也，爲者敗之，執者失之。**

神器者，大寶之位，是天地神明之器也。人乃天下之神物也。莊子曰：“聞在宥天下，不聞治天下也。在之也者，恐天下之淫其性也，宥之也者，恐天下之遷其德也。天下不淫其性，不遷其德，有治天下者哉！”此謂不治天下也。不治天下者，是以因循無爲任物自然，故天下安而神物寧也。不任無爲自然而有所爲者，猶拙夫斲木，雖加其工，所敗多矣。故七竅鑿而混沌死，鞭策威而馬力竭，豈非爲者敗之乎？而又執而不移，自謂聖治，非唯喪至理，亦將自失其真。

**故物或行或隨，或歟或吹，或強或羸，或載或隳。**

此八事謂外物不可必也。夫世有誠心行其事者，有僞意而隨之者。誠心則治，僞意則亂；治則自然，亂則有爲也。或有歟之爲溫，謂讚譽成人之美者；或有吹之爲寒，謂毀訾致人之惡者。又解：歟溫論富貴，吹寒論貧賤，猶春夏之長養，秋冬之肅殺，世事代謝，亦復如是。或有見強而扶之者，或有見羸而抑之者，或有扶之使強者，或有抑之致羸者，此人情之傾奪也。或有載而安之者，或有隳而危之者。自此已上，並是失於自然，專任有爲果敢，欲有所取而致斯弊也。

**是以聖人去甚、去奢、去泰。**

甚、奢、泰，皆過當越分之謂也。是以治天下之聖君，知禍兮福所倚，福兮禍所伏，捨乎有爲，歸乎無欲，去造作之甚者，復於自然，去服玩之奢者，復於

純儉，去情欲之泰者，復於清靜。雖甚奢泰之三名，乃無爲自然之一體，因茲奢泰，致其爲之，故老氏特垂深戒也。將欲必敗，強嬴傾奪，縱已奢泰，不若以道佐人，故次之以道佐人主。

（以上第二十九章）

**以道佐人主者，不以兵強天下，其事好還。**

以，用也。夫賢臣用自然之道輔佐聖君者，當先明天而道德次之；道德已明，而仁義次之；仁義已明而分守次之；分守已明，而形名次之；形名已明，而因任次之；因任已明，而原省次之；原省已明，而是非次之；是非已明，而賞罰次之。此用道輔佐聖君之術也。是以執大象，天下往，往而不害，安平泰。夫兵者凶器，戰者危事，豈可示強兵於天下。兵之兆在心，懷患未發，兵也；疾眊作色，兵也；傲言推梭，兵也，侈鬪攻戰，兵也。此四者，鴻細之爭也。且人以暴陵物，物必傷之，是謂獸窮即搏，故曰其事好還。

**師之所處，荊棘生焉，大軍之後，必有凶年。**

師旅所居之處，必多害物侵民妨稼，致田荒室露，荊棘亂生。又大軍一過，誅戮無涯，生死之冤，感傷和氣，陰陽凶變，必水旱繼生。治身解：則多事爲師旅，煩惱爲荊棘，嗜欲爲大軍，疾病爲凶年，隨義縱橫，淵旨莫盡。

**故善者果而已，不敢以取強，果而勿矜，果而勿伐，果而勿嬌。**

夫兵之害物也，神人共惡之。然而明王聖主未嘗去者，其所自來上矣。庚桑子曰：原兵之所起與始有人俱。又曰：有以咽藥而死者，欲禁天下之醫，非也；有以乘舟而死者，欲禁天下之船，非也；有以用兵喪其國者，欲禁天下之兵，非也。兵之不可廢，譬水火焉，善用之則爲福，不善用之則爲禍。是故怒咎不可偃於家，刑罰不可偃於國，征伐不可偃於天下。古之聖王有義兵而無偃兵也，故以道輔佐人主者，當守雌靜，不敢以兵強天下，不得已而應之，故曰善用也。果，勇也。言善用師者，勇於濟難而已，不敢以兵刃取強於天下也。雖有果敢濟難之勇，勿矜其能，勿伐其功，勿嬌其心，是謂善用者也。

**果而不得已，是果而勿強，物壯則老，是謂不道，不道早已。**

言雖果敢濟難止敵，然皆不得已也，但當以除暴爲事，非用果以爲強也。夫草木之生也柔脆，其壯極則枯落；人之幼也柔弱，其壯極則衰老。以喻用兵壯武

則暴興，暴興則敗矣，既敗則不得謂之有道，非道之事不可法則而行，不如早止也。故義兵王，應兵勝，忿兵死，驕兵滅。善用兵者，決定果敢，不矜不忿，不貪不驕，不得已而後應之，義在除敵救人，非恃力好戰也。治身解曰：人之枯槁，因不行道。不行道者，早死而已矣。佐主當以道德，不可以佳美強兵，故次之以夫佳兵。

（以上第三十章）

**夫佳兵者，不祥之器，物或惡之，故有道者不處。**

佳者，好也，尚也。夫好尚兵戈以爲服玩者，是尚不善之器用也。且兵戈之屬，傷人形神，唯凶頑者樂爲也。凡物尚或惡之，況有道之士曷嘗處之乎？

**君子居則貴左，用兵則貴右。**

天地之道，左陽而右陰，陽主德生、主柔弱，陰主刑殺、主剛強，故君子平居則以有德者居左，戎事則以有勇者居右。

**兵器不祥之器，非君子之器。**

此重疊而言，是經解經也。夫兵既主殺、主剛強，以傷害爲用，是謂不善之器也。君子以無爲自然爲心，道德仁義爲用，兵只可以爲武備，固非君子常用之器也。

**不得已而用之，恬憺爲上。**

夫蠻夷猾夏，寇賊姦宄，故有道君子不得已而用之，然未嘗爲起戎之首，故不敢爲主而爲客，不敢進寸而退尺，皆不得已也。蓋義兵以剋定禍亂應敵爲用，非貪土地利財寶也。莊子曰：“市南宜僚弄丸而兩家之難解，孫叔敖甘寢秉羽而郢人投兵。”斯所謂不戰而善勝，恬憺爲上也。又解：不亂曰恬，夷心曰憺，事至而不動撓者，此治身之法也。

**勝而不美，而美之者是樂殺人，夫樂殺人者，不可得志於天下。**

天地之大德曰生，人物之所共貴也。今不能以德懷來，而興師用兵，殺伐求勝，豈有道者之所佳美哉！列子曰：“趙襄子使家臣攻翟，勝之，而有憂色。此賢主持勝也。”故曰勝而不美。然而有美之者，是好樂殺人也；樂殺人者，非但人不歸附，亦將有殺之者矣。此凶暴好殺之士，不可使得志於天下；苟得志，必逆天之德，縱行誅戮，天豈祐哉！

吉事尚左，凶事尚右，偏將軍處左，上將軍處右，言以喪禮處之。

左爲陽，主生，故居常則尚左，吉也。右爲陰，主死，故喪禮則尚右，凶也。《禮記·檀弓》曰：“夫子與門人立，拱而尚右，二三子亦尚右。夫子曰：‘二三子之嗜學也，我則有姊之喪故也。二三子當復尚左。’”夫上將軍專殺，則處右；偏將軍不專殺，故處左。言用兵之道同於喪禮，今上將軍居右者，是以喪禮處之也。

殺人衆多，以悲哀泣之，戰勝則以喪禮處之。

夫義兵者，不得已而戰也，戰勝則殺人多，勝而不美，故悲哀而傷泣之，上將軍居右，右位主喪故也。兵者不祥之器，不得已而用之，君子所貴唯道之常，故次之以道常無名。

（以上第三十一章）

道常無名，樸雖小，天下不敢臣。侯王若能守，萬物將自賓。

夫道於大不終，於小不遺，包羅萬有，貫穿毫微，虛中藏實，陽內含陰，所謂道非常道、名非常名，故曰道常無名。既而無名，即非器用，器用未彰，乃謂之樸，道樸微妙，故視之不見，聽之不聞，是謂之小。夫世之材器，有明可以役其明，有聰可以役其聰，有心可以役其志，有勇可以役其力，有辯可以役其詞，有巧可以役其事，此諸有名，皆無爲者之所役使。唯道樸無名，故天下莫敢臣。夫侯王若能執守無爲之本，恍然在上，窅然虛懷，則外物不能累其真，嗜欲不能滑其神，萬物將自賓，四民無不服矣。

天地相合，以降甘露，人莫之令而自均。

天無爲則陰氣降，地無爲則陽氣勝，兩無爲相合則和氣並、甘露垂而嘉祥生，此乃侯王道矣。天地德洽神明也。經曰：“我無爲而民自化，我無欲而民自樸。”此皆不待命令而自然從化均平也。

始制有名，名亦既有，夫亦將知止，知止所以不殆。

始者，道也，無名也，即道常無名也。有名者，萬物之器用也。夫道始無名，能制御有名之物，是爲樸散則爲器，聖人用之則爲官長。名器者，亦盡爲王者之所有，名分既立，尊卑是陳，不可越於上下，故亦將知所止足，能知止足是自知曰明，既明且哲，豈有危殆乎？河上公本作“天亦將知之”，言人能法道行

德，天亦將知之。隨注解釋，義理相通。

**譬道之在天下，猶川谷之與江海。**

道之在天下，無所不徧，上則清都紫府，下則瓦甃稊稗，順之則昌，逆之則亡。侯王能守清靜無爲，則上感和氣，下得民心，本末相洽，無不被其澤矣。是猶川谷之流與江海源通，順之則浸潤萬物，逆之則滂湃爲沴也。守道則萬物賓服，能自知而知人也，故次之以知人者智。

（以上第三十二章）

**知人者智，自知者明。**

知人而分別之謂智，故知言之所以知人也，是謂適人之智，而不自知也。自知而默守之謂明，故知而不言，所以知天也，是謂自適其明而已，此超乎智之上也。

**勝人者有力，自勝者強。**

勝人者，不常勝之道也；不常勝之道曰強，強而有力，遇不及己者則勝，至於如己者則殆矣。自勝者，常勝之道也，常勝之道曰柔，柔能自謙，物必推先，謂不勝而自勝，不任而自任，常安無殆，非強而何？

**知足者富，強行者有志。**

知足者，謂止其欲也，欲心不侈，儉嗇自足，可謂富矣。強行者，謂勤而行之也，勤行必獲，可謂有志節矣。莊子曰：“曾子居衛，緼袍無表，顏色腫噲，手足胼胝，三日不舉火，十年不製衣，正冠而纓絕，捉衿而肘見，納履而踵決，曳絰而歌商頌，聲滿天地，若出金石。天子不得臣，諸侯不得友，故養志者忘形，養形者忘利，致道者忘心矣。”斯所謂知足者富、強行者有志也。

**不失其所久，死而不亡者壽。**

所者，謂天之所受，壽夭窮達，貴賤貧富也。保其常理，安之於命，不以得喪動其懷，是能久矣，如是則當生不以生爲樂，知儻然而來，遇死不以爲憂，知儻然而往，直順命以待終，不殘生以自喪，故曰壽也。嚴君平曰：“不知人則無以通事，不通事則無以交世。不自知則無以知天，不知天則無以睹未然。不勝人則無以在上，不在上則無以爲王。不自勝則無以自得，不自得則無以得人。不知足則無以知富，不知富則無以止欲。不強行則無以順道，不順道則無以得意。動

作非任無以得和，不得和則無以久生，不久生則無以畜精神，精神不積，無以得壽。故立身經世，興利除害，接物通變，莫廣乎知人。攝聰畜明，建國子民，達道之意，知天之心，莫大乎自知。柄政履民，建法立儀，設化施令，正海內，臣諸侯，莫貴乎勝人；奉道德，順神明，承天地，和陰陽，動靜進退，曲得人心，莫崇乎自勝。治家守國，使民佚樂，處順恭謹，慈孝畏法，莫高乎知足。游神明於昭昭之間，恬憺安寧，尊顯榮華，莫善乎得意。任官奉職，事上臨下，成人之業，繼人之後，施之萬民，莫過乎可久。天地所貴，群生所恃，居之不厭，樂之不止，萬福並興，靡與爭寵，莫美乎壽。”陸希聲曰：“知出於外謂之智，如日火之外光，知反於內謂之明，如金水之內景，用弱以勝人之暴，爲有道之力，守柔以自勝其躁，爲有德之強。知足於利欲者，不亡其大業，故謂之富。强行仁義者，可至於盛德，故謂之有志。動而不失其所常故可久，身死而道不亡故謂之壽。”知人則勝人，自知則知天，已而不失其所，死而不亡，汎然無繫，得其道歟，故次之以大道汎兮。

（以上第三十三章）

### 大道汎兮，其可左右。

汎兮，無繫著貌。夫道至高無上，至深無下，平乎準而直乎繩，圓乎規而方乎矩，包裹宇宙而無表裏，洞同覆載而無所硃，汎汎兮滿乎太空而無所繫著者，其唯道之體乎！或可於左，或可於右，皆逢其源而無所不周者，其唯道之用乎！萬物恃之以生而不辭，功成不名有。

恃，賴也。夫天恃道之陽氣而運轉於上，地恃道之陰氣而安處於下，天地至大，猶恃賴道以爲用，況萬物之繁、何莫由之以生乎？且大道無情，生育天地，其於萬物豈有辭勞哉？而又大道無形，造物無物，萬物雖有恃賴之名，尋其生也，卓然獨化，物化而自生，故無因代辭謝之迹，聖人功業成而不名已有者，是法道之用也。

愛養萬物而不爲主，常無欲可名於小。

夫道能覆育群品而不望其報，故聖人以仁愛畜養萬類，使各遂其性，長而不宰。經曰：“常無欲以觀其妙。”妙則無所不入，可以名其樸爲小矣。一本作“衣被萬物”，衣被爲覆育也。



萬物歸之不爲主，可名於大。

夫道覆載萬物無不制圍，萬物歸之而無不同，同之而不爲主。莊子曰：“不同同之之謂大。”大則無所不容，可名道爲大。

是以聖人終不爲大，故能成其大。

聖人執道自謙而稱孤寡不穀，是終不爲大也。萬國歸之，樂推不厭，是能成其大也。杜光庭曰：“聖人愛民恤物，巨細申恩，若可名於小矣，任物遂性，歸功於天，又可名於大矣。法道施化，布德及人，鼓以淳和之風，被以清靜之政，忘功不有，不自尊高，故其盛業可大，聖德可久，以其不爲大故能成此尊大也。修身之士，汎然無著，若雲之無心，水之任器，可左可右，隨方隨圓，不滯於常，物來斯應，鑒物斯廣，不伐應用之心，利物雖多，不矜兼濟之德，仁逮蠢動，未始爲私，衆善歸宗，不爲之主，是能彰非小非大之德，無自尊自伐之稱，可以契全真之大道矣。”大道汎兮而左右逢其源，萬物歸之其由執大法，法，象也。故次之以執大象。

（以上第三十四章）

執大象，天下往，往而不害，安平泰。

大象，大法也。八卦九疇之謂也。太古之君天下無爲也，天德而已矣。逮乎聖人設卦觀象，吉凶明而變化生，故有得失進退也。夫鴻荒乍變，執守大法以治天下，天下之淳樸去矣。往，去也。淳樸初去而大法可扶，故往而不害。往而不害者，是由隨時而舉事，因資而立功，量材授職，不傷性分，故天下安而平泰矣。嚴君平曰：“道無形，故天地資之以生，道無有，故陰陽資之以始；道無法，故四時資之爲業；道無象，故萬類資之以往。故大法無法，大象無象，大無不無，大有不有，爲生於不生、爲否於不否。故道無爲而天地成，德無事而萬物處，夫何爲哉？不無不有，不爲不否，道自得於此，而萬物自得於彼矣。斯所謂天德而已矣。使道變化，待有爲而後然，則其所然者寡矣；待有事而後施功，則萬物所蒙者鮮矣。”斯所謂有得失進退也，故下文云。

樂與餌，過客止。

此舉喻也。夫音樂之和，人必爲之少留；饌餌之美，客必爲之暫止。樂之佚也，耳滿而過焉，餌之飫也，舌味而爽焉，客之止也，主倦而厭焉。夫法之初

興，民皆親之譽之，及其弊也，則畏之侮之。莊子曰：“仁義，先王之蘧廬也，止可以一宿，而不可久處，觀而多責。”此言法之用也，隨世汙隆，滯而久之，理必敗矣。既敗豈有往而不害哉！既受其害，則奚足言其安平泰也。

道之出口，淡乎其無味。

夫樂佚餌飫，則過爽隨焉，大法一弊，則畏侮彰焉。若夫道之出口，淡然無味，所謂信言不美也。清靜無爲，則民樂其性，故含哺鼓腹而遊乎混茫，則不知其所之矣。豈有和悅之聲、甘美之味審聽咀嚼哉！

視之不足見，聽之不足聞，用之不可既。

夫法象有爲，屬於眡聽則窮矣；自然無爲，而聲色莫能究也。故曰視之不見、聽之不聞，自古及今，其名不去，百姓日用而不知，此用之不可既也。無象之象則無所執，無執則用之不既，若執而有之，豈免歛張與奪，故次之以將欲歛之。

（以上第三十五章）

將欲歛之，必固張之；將欲弱之，必固強之；將欲廢之，必固興之；將欲奪之，必固與之；是謂微明。

此章先賢解者多端，皆不條理。其說或引孔子曰“可與適道，未可與立；可與立，未可與權”以明之者。或引國家權變爲辭，近乎縱橫之說，亦未可據。此乃與《陰符》“天機”合矣，在乎高識變通者密用爾。陸希聲曰：“夫聖人之淵處，莫妙於權實，實以順常爲體，權以反經爲用，權所以濟實，實所以行權，權實雖殊，其歸一揆。老氏既以實導人，立知常之教，又以權濟物，明若反之言，《易》所謂“曲成萬物而不遺，範圍天地而不過”者也。《鴻烈解》曰：“齊桓公好味，易牙烹其子而餌之；虞君好寶，晉獻公以璧馬釣之；胡王好音，秦穆公以女樂誘之。是皆以利見制於人也。”嚴君平曰：“道德所經，神明所紀，天地所化，陰陽所理，實者反虛，明者反晦，盛者反衰，張者反弛，有者反亡，生者反死，此物之性而自然之理也。故反覆之便，屈伸之利，道以制天，天以制人君，人君以制臣，臣以制民，含氣之類，皆以活身，虎豹欲據，反匿其爪，豺狼將食，不見其齒。聖人去意以順道，智者反世以順民，忠言逆耳，以含其正，邪臣將起，務順其君。知此而用之，則天地之間、六極之內皆福也；不知此而用之，則閭門之內、骨肉之間皆賊也。故子之與弟，時爲虎狼，仇之與讎，時爲父兄，然中有否，

否中有然，一否一然，或亡或存，故非忠雖親不可信，非善雖近不可親，此賢人之所嗟歎，而聖智之留心也。《莊子》稱徐無鬼見魏武侯，先相狗馬，然後勞君之神形，而結以政治，斯乃智者歛張之權也。若以此理而推之，則微明之旨見矣。

**柔弱勝剛強。**

夫柔之勝剛、弱之勝強，其道之理歟，就此而論，權變之用明矣。

**魚不可脫於淵，國之利器不可以示人。**

國家之權謀，利物之大器也。夫魚脫離於淵泉，則螳能苦之，國家之權謀泄於下，則小夫得以玩弄，況姦雄乎？《陰符經》曰：“天有五賊，見之者昌。”豈可輕以示人乎？又解：魚脫於淵，不可復得，權失於臣，不可復收。韓非曰：“勢重者，人主之淵也，臣者淵之魚也。古人難以直言，故託之於魚。賞罰者，利器也，君操之以制臣，臣得之以擁主，故君先見所賞，則臣鬻之以爲德，君先見所罰，臣鬻之以爲威，國之利器可不慎乎？”《鴻烈解》曰：“昔者司城子罕相宋，謂宋君曰：夫國家之安危、百姓之治亂，在君行賞罰。夫爵賞賜與，民之所好也君自行之；殺戮刑罰，民之所怨也臣請當之。宋君曰：善，寡人當其美，子受其怨，寡人自知不爲諸侯笑矣。國人皆知殺戮之制專在子罕也，大臣親之，百姓畏之，居不至朞年，子罕遂却宋君而專其政。”此魚脫於淵而利器移於下也。歛張與奪之術，是謂微明，明則魚脫於淵，微則入於常道，故次之以道常無爲。

（以上第三十六章）

**道常無爲而無不爲，侯王若能守，萬物將自化。**

夫道之常也，湛然不動，故曰無爲；應物而動，物皆自用，故曰無不爲。侯王若能常以虛爲心、以無爲身，持守而不撓者，萬物將自從其化也。經曰：“我無爲而民自化。”

**化而欲作，吾將鎮之以無名之樸。**

夫天下之善人少而不善人多，是以聖人之德化常善救人，假有不從其化而欲動作背道者，聖人亦自寬宥，將以無名道樸鎮撫之，使其清靜無爲也。

**無名之樸，亦將不欲，不欲以靜，天下將自正。**

道本無迹，假淳樸以爲言，而滯迹之流，執淳樸之有而爲後世之弊，聖人憂其弊之不救，亦將不欲，存此無名之樸，則天下俛然自定，入於道常無爲而無不

爲也。陸希聲曰：“首篇以常道爲體，常名爲用，而極之重淵，此篇以無爲爲體，無不爲爲用，而統之以兼忘，始末相貫，而盡用其體也。”道常無爲，是謂常道，常道應變而無不爲也。

（以上第三十七章）

## 德 經

下篇明德，以不德爲元，不德者忘德以應用者也。

碧虛子 陳景元 注

上德不德，是以有德。

德者得也。內得於心，外得於物，常得而無喪，利而不害，物得以生，謂之德也。本由蘊道故有德，有德而無名，道之深也；有德而有名，道之淺也；道有深淺，故德有上下。所謂上德者，至德也；至德者深矣遠矣，與物反矣，人不見其迹，則謂之不德；以其含光匿耀，支離所爲，使百姓日用而不知，則其德全矣，故曰有德也。

下德不失德，是以無德。

下德者，迹用漸彰，至一渙散，因循任物，物保其安，天下稱之，歸美於己，雖其德不喪，已遠於至德也，故曰無德也。

上德無爲而無以爲。

夫有上德者，性受自然之至妙，命得元氣之精微，神貫天地，明並日月，無思無慮，心自無爲，忘功忘名，迹無以爲用也，謂無用己爲而自得也。古本作“上德無爲而無不爲”，言上德之人，心既寂默，性亦恬憺，縱心所好，不違自然，任性所爲，不逆萬物，故無爲而無不爲。

下德爲之而有以爲。

下德，降於上德者也。性受自然之平淡，命得元氣之純和，神配陰陽，明效日月，民皆仰戴，咸共樂推，故曰有以爲。古本作“下德爲之而無以爲”，言下德之人，心存仿像，執守冲虛，應物臨機，不敢造次，故曰無以爲。

上仁爲之而無以爲。

仁者，博施兼愛皆可爲也，可爲而無偏私，故言上仁，有心濟乎群品，故言爲之，功成不居，事遂不宰，故無以爲也。

上義爲之而有以爲。

義者宜也。有所宜必有所虧，處於事類而無所不宜，故曰上義，有宜有利故爲之，其所爲者皆由裁非斷割而有以爲也。

上禮爲之而莫之應，則攘臂而仍之。

攘臂，謂攘除衣袂以出臂也。仍，引也。夫禮者履也，謂履道而行，辯上下，定貴賤，謙恭和柔，使無爭心，斯禮之本也，故稱上焉。玉帛交馳，威儀相答，擎跽曲拳，進退顧揖，此禮之文也，故爲末焉。孔子曰：“大禮與天地同節。”校者按：原作莊子曰，薛致玄《道德真經藏室纂微手鈔》作孔子曰，並引《禮記·樂記》，茲據改。莊子曰：校者按：原作又曰，薛作莊子曰，茲據改。“以禮爲翼者，所以行於世也。”古聖制禮，使人定心氣，整容貌，故曰爲之。然而中下之士，喪本崇末，曲說煩多，不能應答，故曰莫之應，此失禮之微者也。而有艷然作色，奮臂仍引，指陳去就，爲爭競之端，又失禮之甚者也。老氏舉渾淪分散，一至於此，在下文也。嚴君平曰：“虛無無爲，開導萬物，謂之道人；清靜因應，無所不爲，謂之德人；兼愛萬物，博校者按：原作搏，《道藏·指歸》作博，茲據改。施無窮，謂之仁人；理名正實，處事之宜，校者按：《指歸》宜字作義。謂之義人；謙退辭遜，恭《指歸》作敬。以守和，謂之禮人。”此五者皆可道之陳迹，非至至者也。至至者，一尚不存，安有其五。

故失道而後德，失德而後仁，失仁而後義，失義而後禮。

夫道、德、仁、義、禮五者之體，不可致詰，故混而爲一，一既分矣，五事彰而迹狀著，故隨世而施設也。道者德之體，德者道之用，離體爲用，故失道而後德。德者得也，物得以生謂之德，有生必愛，故失德而後仁。仁者親也，親愛物宜，故失仁而後義。義者宜也，宜則謙恭，故失義而後禮。禮者履也，履道成文，簡直則易行，煩曲則殽亂也。失者亡也，末盛而本亡，自然之理也。嚴君平曰：“帝王根本，道爲之元，德爲之始，道失而德次之，德失而仁次之，仁失而義次之，義失而禮次之，禮失而亂次之。凡此五者，道之一體而世主之長短也，故所爲非其所欲，所求非其所得，不務自然而務小薄也。夫禮之爲事，中外相違，華盛而實虧，校者按：《指歸》作毀。末隆而本衰，禮薄於忠，權輕於威，信不及義，德不逮仁，爲治之末，爲亂之元，詐僞所起，忿爭所因。”謂下文也。

夫禮者，忠信之薄而亂之首。

夫忽道德仁義而專以禮教爲用者，豈非忠信之薄而亂之首乎？若乃尊道德仁義而兼用禮教者，是禮之上也，何往而不治哉？莊子曰：“聖人行不言之教，道不可致，德不可至，仁可爲也，義可虧也，禮相僞也。”此與亂之首義同。

**前識者，道之華而愚之始。**

夫修崇禮教者，智也。智爲先見，故曰前識。識既先物，安能忘懷，故以智治國國之賊，豈非道之華而愚之始乎？若乃藏識藏智，何思何慮，則反其質素矣。禮煩則亂，智變則詐，此必然之理也。

**是以大丈夫處其厚不處其薄，居其實不居其華，故去彼取此。**

大丈夫者，有道之士也。文子曰：“大丈夫恬然無思，愴然無慮，行乎無路，遊乎無怠，出乎無門，入乎無房，屬其精神，偃其知見，漠然無爲而無不爲也。”夫如是則所處自然樸厚，合乎上德也。居忠信而務誠實，曷嘗華綺詐僞哉？是故去彼禮義之淺末，取此道德之大本也。古本四句並作處字。有妙道然後萬物生焉。天地之大德曰生，物得以生謂之德，不德之德故曰上也。在德不失故曰下也。上下雖殊而各得其一，故次之以昔之得一。

（以上第三十八章）

**昔之得一者，天得一以清，地得一以寧，神得一以靈，谷得一以盈，萬物得一以生，侯王得一以爲天下正，其致之一也。**

昔者往古也。一者元氣也。元氣爲大道之子，神明之母，太和之宗，天地之祖，結爲靈物，散爲光耀，在陰則與陰同德，在陽則與陽波，居玉京而不清，處瓦甕而不溷，上下無常，古今不二，故曰一也。藏乎心內則曰靈府，升之心上則曰靈臺，寂然不動則謂之真君，制御形軀則謂之真宰，卷之則隱入毫竅，舒之則充塞太空。《西昇經》曰：“子得一而萬事畢。”人能虚心待之，一自歸己。莊子曰：“氣也者，虛而待物者也，唯道集虛。”又曰：“虛室生白，吉祥止止。”夫天者純陽之氣，且天得之故能剛健運動，穹窿廣覆，垂象清明，萬物資始焉。地者純陰之質也，且地得之故能信順柔弱，盤礴厚載，安寧不動，萬物資生焉。神者妙萬物以爲言也，且神得之故能通變無方，反覆不窮，正直靈響，應物無盡焉。谷者溪之絕深者也，且谷得之故能氣運水注，盈滿不竭焉。萬者數之大，物者形之可見也，物得之故能生生成而不歇滅焉。侯者五等之爵，王者君之通稱，得

之故能永有大寶，無思不服，而天下正焉。夫上五事能致清、寧、靈、盈、生者，皆由君道正使然也。正者得其冲一之謂，冲一失則凡物喪亡。在下文也。開元御本作“其致之”，無“一也”二字，於義闕焉，此取古本爲正。嚴君平本無“萬物得之以生”並下文“萬物無以生將恐滅”十四字。以人爲萬物之靈，侯王爲人之君，故總而言之也。有之則文句備，略之則義未闕，於理亦通。

**天無以清將恐裂，地無以寧將恐發，神無以靈將恐歇，谷無以盈將恐竭，萬物無以生將恐滅，侯王無貴高將恐墜。**

無以者，致誠之辭也。天者陽之德，表君象，言天無以清白恃，若恃之則失至明之道，致陰陽繆戾，紀綱弛絕，冲一不運，將恐有開裂之兆。且陽氣之亢也，必爲災衰，冲和之散也，必致開裂，故《陰陽書》曰：“天裂者，陽氣不足，君德衰也。”自此以下，皆垂誠之辭也。夫地者陰之德，表臣象，言地無以寧自恃，若恃之則失安靜之道，致剛柔卷折，山川崩缺，冲一不守，將恐有發泄之應。且陰氣之極也，必有水沴，冲和之消也，必致發泄，故《陰陽書》曰：“地震者，陰氣有餘，臣道失職也。”夫神者靈變也，凡物精通皆有其神，陰陽不測者也，言神無以靈自恃，若恃之則失至變之道，致禍生恠，祿祥勃興，冲一不居，將恐有廢歇之時也。故神失道則傷民，民被傷則反毀之，毀之無神，非歇而何？谷者虛以待物者也，言谷無以盈自恃，若恃之則失流潤之道，致崩夷之憂，冲一不通，將恐有枯竭之隔，枯竭則繫於邦國，故洛枯而夏亡、河竭而商喪也。物有形質當任遷，言物無以生自恃，若恃之則失順從之道，致遁逆生性，冲一散去，將恐有滅亡之期。王者貫三才而爲主，統萬物而有之，當謙以自牧，寄託群才也，言王侯無以貴高自恃，若恃之則失清靜之化，百官失職，萬民不歸，致歷敗之虞、顛仆之禍。自此已上，雖叙天地等事，會歸戒於侯王，侯王尚耳，況黎庶乎？

**故貴以賤爲本，高以下爲基。**

自此以下，結成其義也。夫貴者豈自貴哉，必由賤者所奉，然後貴耳，此以賤爲本也。高者豈自高哉，必緣下者所戴，然後高耳，此以下爲基也。

**是以侯王自謂孤、寡、不穀，此其以賤爲本邪！非乎？**

孤、寡、不穀三者，皆人鄙惡，而侯王以爲稱者，謙以自牧，不矜其尊也，豈非以賤爲本邪？而云非乎，言實以賤爲本耳。



故致數譽無譽。

有道之君，忘名忘己，天下數譽而不加勸，天下數非而不加沮，惡識所以貴不貴哉？開元御本作“故致數與無與”，言就與數則有輪轅箱軸群材之名，無有名爲與者，合之則與矣。就國求之，則有士農工商萬民之號，無有名爲國者，合之則爲國矣。忽群材，與何以成？棄萬民，國何以存？此重戒侯王令愛民也。

不欲琚琬如玉，落落如石。

琚琬，玉貌。落落，石貌。言有道之君，不欲顯耀琚琬如玉，冥心韜光，落落如石。此能守冲一之道，爲天下正者也。古本作“若玉”、“若石”，傅奕、徐鉉取之。得一貴高，以賤爲本，自稱孤寡，反復謙下，故次之以反者道之動。

（以上第三十九章）

反者道之動。

反者，復也，變也。虛靜者，物之本；物之將生，先反復虛靜之原，及其變也，出虛靜而動之，是先反而後動。故曰《易·復卦》曰：“剛反動而順以行，是以出入無疾。”此之謂也。

弱者道之用。

既反虛靜爲道之動，則柔弱雌靜實道之用也。

天下之物生於有，有生於無。

有，一也。一者，元氣也。言天下萬物皆生於元氣，元氣屬有光而無象，雖有光景，出於虛無，虛無者道之體也。列子曰：“有形生於無形，則天地安從生？”又曰：“形動不生形而生影，聲動不生聲而生響，無動不生無而生有。”是故物生於有，有生於無，而萬物莫獨化也。嚴君平曰：“天地生於太和，太和生於虛冥。”是謂反復虛靜之原也。物之將動，先反乎虛靜之原，能虛靜動用者，其唯上士乎？故次之以上聞道。

（以上第四十章）

上士聞道，勤而行之；中士聞道，若存若亡；下士聞道大笑之，不笑不足以爲道。

夫上士者，受性清靜。恬憺寂漠，虛無無爲，純粹而不雜，靜一而不變，聞

乎道也，人觀其迹，真以爲勤行而實無勤行也，斯所謂天然縣解矣。中士者，受性中庸，世所不用也，則就藪澤，處閑曠，吐故納新，熊經鳳騫，養形保神而已。及乎爲世用也，則語大功，立大名，禮君臣，正上下，爲治而已。此之謂若存若亡也。下士受性濁辱，目欲視色，耳欲聽聲，口欲察味，志氣欲盈，聞其恬憺無則大笑而非之，若不爲下士所非笑，則不足以爲上道也。嚴君平曰：“鵠鷖高飛，終日馳騫，而志在乎蒿茅。鴻鵠大舉，經歷東西，而志在乎陂池。鸞鳳翱翔，萬仞之上，優遊太清之中，磨薄日月，高覽遠逝，棲息八極，乃得其宜，三者殊便，皆以爲娛。故無窮之源，萬尋之泉，乃神龍之所歸而小魚之所去也。高山大丘，深林巨壑，乃鴻鵠虎豹之所喜而雞狗之所惡也。是以捐聰明，廢智慮，反真歸樸，游於太素，輕物傲世，淖然《指歸》作卓爾。不汙，喜怒不撓於心，利害不棲《指歸》作接。於意，貴賤同域，抱德含和，大聖之所尚，乃上士之所務也，中士之所眩，乃下士之所大笑也。”陸希聲曰：“形而上者謂之道，通乎形外者也，形而下者謂之器，正其形內者也。上士知微知著，通乎形外，故聞道而信則勤之。中士在微著之際，處道器之間，聞道而疑信相半，故若存若亡。下知著而不知微，止乎形內，故聞道則大笑之。不唯笑之，且將非之矣。夫道者微妙冥通，深不可識，苟不爲下士所非笑，則不足以爲真精之道也。”

### 建言有之：

建，立也。將立道行之言，明三士所見之差、被笑之狀，謂下文也。

### 明道若昧，

明，悟也。悟道之人，含光不耀，舉措施爲，有若暗昧，故中士疑其存亡、下士所大笑也。

### 進道若退，

上士穎達，不行而至，又況進乎。雖有聖功，進而不取，同塵接物，外若退敗。

### 夷道若類，

夷，平也。類，絲之不勻者，乃織者之所棄也。夫上士襟懷，坦夷平一，與物無際，支離其德，若絲之有類，不爲世用也。河上公本作類，言大道之人，坦蕩平夷，隨類參同，不自分別也。

### 上德若谷，

上德之人，無爲無事，心同虛空，高下莫測，有若深谷，無所不容。

#### 大白若辱，

大白者，若雪霜之潔白而無所不到，雖瓦甃汙溷之處，施而無擇。有道之士，豈異於是，故處於濁世，純白獨全而不雜染也。

#### 廣德若不足，

孫登曰：“其德深廣，則通疏見遠，遺略小節，智若不足，故良賈深藏若虛，君子盛德容貌若愚。”陸希聲曰：“衣被天下而不有其仁，斯廣德若不足也。”

#### 建德若偷，

此言陰德密行也。夫建立陰德之人，不顯其功，畏人之知，故若偷竊耳。吳筠《元綱論》曰：“功欲陰，過欲陽，功陰則能全，過陽則易改。”此之謂也。

#### 質真若渝，

渝，變也，色不明也。質真者，純素之士，動無文章，如五色之渝淺，光華不發也。傅奕《音義》云：古本作輪。《廣雅》云：輪，愚也。或本作渝，董遇作搖，今依王弼、傅奕本作渝。

#### 大方無隅，

《開元御注》曰：方，正也。隅，角也。夫砥礪名節，以作廉隅，此謂束教之人，非曰大方之士。磨而不磷，在涅不緇，薛作涅而不緇。大方也。和光同塵，行不崖異，無隅也。

#### 大器晚成，

備物之用曰器。河上公曰：“大器之人，若九鼎瑚璉，非一朝而可成。”積習生常，美成在久也。

#### 大音希聲，

河上公曰：“大音猶雷霆，待時而動，論愛氣希言也。”雷霆尚耳，況至言乎？陸希聲曰：“以不言之教鼓動萬物，而不事小說，斯大音希聲也。”

#### 大象無形，

河上公曰：“大法象之人，質樸無形容。”夫有大法象者，無形而不應，曰大象能應衆象者，不可以形定，故曰無形。

#### 道隱無名，

道本無名，而強名曰道，今道又隱焉，而名何有？此真所謂滅迹匿端者也。

夫校者按：原訛作天，各本皆作夫，今正。唯道善貸且成。

貸，施與也。夫，歎美獨有此妙道，能神鬼神帝、生天生地，善以冲和妙氣施與萬物，且成實而復於自然也。君平曰：“道之爲化也，始於無有，終於無終，校者按：《指歸》作“始於無，終於末”。存於不存，貸於不貸，動而萬物成，靜而天下遂也。”陸希聲曰：“夫唯善濟貸於萬物而不責其報，是以萬物受其成而不知其德，放下士聞此道而笑之，不信其能若此耳。”上士勤行，建德道生，故次之以道生一。

（以上第四十一章）

道生一，一生二，二生三，三生萬物。

道者，虛之虛，無之無，自然之然也。混洞校者按：彭引作同。太無，冥寂淵通，不可名言者也。然而動出變化，則謂之渾淪。渾淪者一也。渾淪一氣，未相離散，必有神明潛兆於中。神明者二也。有神有明，則有分焉，是故清濁和三氣噫然而出，各有所歸，是以清氣爲天、濁氣爲地、和氣爲人，三才既具，萬物資生也。嚴君平曰：“虛之虛生虛虛，無之無生無無，無生有形，故諸有形皆屬於物類，物有所宗，類有所祖。天地，物之大者，而人次之。夫天人之生也，形因於氣，氣因於和，和因於神明，神明因於道，校者按：《指歸》作“道德”，下同。道之自然，萬物以存。故使天爲天者非天也，使人爲人者非人也。”谷神子曰：“夫道，自然變而生神，神動校者按：《指歸》作通。而成和，和散而氣結，校者按：《指歸》作“成氣”。氣結而成形，故曰道生一，一生二，二生三，三生萬物也。”河上公曰：“道始所生者一，一生陰陽，陰陽生和清濁三氣，分爲天地人，天地人共生萬物，天施、地化、人長養之。”《開元御注》曰：“道者虛極之神宗，一者冲和之精氣也。生者動出也，言道動出和氣以生物，然於應化之理猶未足，更生陽氣，積陽氣以就一，故曰一生二；純陽又不能生，更生陰氣，積陰氣以就二，故曰二生三；三生萬物者，陰陽交泰，冲氣化醇，則徧生庶彙也。”三家之說，大同小異，今備存之。

萬物負陰而抱陽，冲氣以爲和。

負，背也。抱，向也。動物則畏死而趣生，植物則背寒而向暖，物之皮質，周包於外，皮質陰氣之所結，故曰負陰；骨髓充實於內，骨髓陽氣之所聚也，故曰抱陽；冲和之氣運行於其間，所以成乎形精也。冲和之氣盛全，則形精不虧而

生理王也。冲和之氣衰散，則形精相離而入於死地矣。故大人虛其靈府則純白來并，君子不動乎心，則浩然之氣可養。純白浩然者，冲氣之異名，冲氣柔弱，可以調和陰陽，故曰冲氣以爲和。

人之所惡，唯孤、寡、不穀，而王公以爲稱。

孤、寡、不穀者，柔弱謙卑之稱，乃流俗之所惡嫌，獨大人君子取以自謂者，乃所以有王公之貴耳，是法冲氣之爲和，損心志之強梁，而求益於道德也。故物或損之而益、益之而損。

夫物有能減損情欲，不自矜伐，卑以自牧，如王公稱孤、寡、不穀之損，故有尊貴之益也。俗物則惟好盈滿，饕餮富貴，不知住止而危敗及之。《書》曰：“滿招損，謙受益。”夫物情之損，有道之益也。有道之益，物情之損也。

人之所教，亦我義教之。

世人所教，各立其我，義教之者，如諸子百氏自成一家之法，其旨善者，則歸乎聖人之教，其旨悖者，則變爲縱橫之學，縱橫則陷於強暴而不得其死矣。強梁者不得其死，吾將以爲教父。

柔弱屬陽，生之徒也；強梁屬陰，死之徒也。在上強梁，則失群下之心而覆亡無日，在下強梁，則爲衆之所加而顛躓可待矣。不得其死，謂不得壽終也。老氏觀俗之失道，將以爲後世法，知謙損柔弱者必吉，貪暴強梁者必凶，書之垂誡，以爲教父。父，先也，本也。法一冲和，以謙受益，去我義之強梁，必守其至柔也，故次之以天下之至柔。

（以上第四十二章）

天下之至柔，馳騁天下之至堅。

至柔者水。至堅者金石。馳騁，奔競不息貌。水之流注如駿馬之奔競也。水以至柔爲用，而能貫穿金石，沉溺萬物，故曰馳騁天下之至堅也。

無有入於無間。

無有，道也。間，隙也。夫道，混然之氣，無有形質，故能包裹乾坤而無外，密襲秋毫而無內，與其有形，安得入其無間也。莊子曰：“金石不得無以鳴。”謂藏道氣也。君平曰：“有形銛校者按：《指歸》作鎌。利，不入無理，神明在身，出無間，入無竅，俯仰之傾，經數千里矣。”

吾是以知無爲之有益。

吾，老氏自稱也。言虛無之道，柔弱無形而無所不通也。王弼曰：“無有不可窮，至柔不可折，以此推之，故知無爲之道有益於物也。”

不言之教，無爲之益，天下稀及之。

聖人觀天道之自然，而謹身節用，飭容儀以悟物，故不言而其教行。若乃有爲，則滯迹損物，既而無爲，則利益甚多。故知清靜簡易之道，誠南面之至術，天下稀及之也。經曰：“知我者稀，則我貴矣。”文子曰：“臯陶暗而爲大理，天下無虐刑，有貴乎言耶？師曠瞽而爲太宰，晉國無亂政，有貴乎見耶？不言之令，不視之見，聖人所以爲師也。”柔弱不競，在乎無爲，無爲之益，唯身是親，故次之以名與身孰親。

（以上第四十三章）

名與身孰親？

身爲實，名爲賓，捨實從賓，是謂倒置。列子曰：“實名貧，僞名富，曰實無名名無，實名者僞而已矣。而悠悠者趨名不已，名固不可去，名固可賓耶？今有名則尊榮，亡名則卑辱，尊榮則逸樂，卑辱則憂苦，憂苦犯性也，逸樂順性也，斯實之所繫矣。名胡可去？名胡可賓？但惡夫守名而累實，將恤危亡之不救，豈徒逸樂憂苦之間哉？”鮑焦、子推之徒，守名累實者也。

身與貨孰多？

貨，資財也。凡在富貴而樂其資身之具，未有不貪財貨者。夫富者苦身疾作，積財而不得盡用，其爲形也亦外矣。貴者夜以繼日，思慮善否，其爲形也亦疏矣。雖有金玉滿室，而無仁惠之心者，空得竊名黷貨之譏，及至家亡身辱，所喪豈少哉？

得與亡孰病？

夫虛名浮利，得之乎輕羽，而性命形神，亡之若太山，達人校量，誰者是病？莊子曰：“養志者忘形，養形者忘利，致道者忘心矣。”

是故甚愛必大費，多藏必厚亡。

費，損也。夫甚愛名者，矯情僞行，致損神之患，豈謂小哉？多藏貨者，貪滿苟得，致滅身之禍，何嘗薄哉？

知足不辱，知止不殆，可以長久。

殆，危亡也。知足者不貪貨財也，不貪貨財，詎有戮辱之患！莊子稱“孔子謂顏回曰：家貧居卑，胡不仕乎？對曰：不願仕，回有郭外田五十畝，足以給飡粥，郭內之田十畝，足以爲絲麻，鼓琴足以自娛，所學夫子之道足以自樂也。回不願仕。孔子愀然變容曰：善哉！吾聞之，知足者不以利自累也，審自得者失之而不懼，行修於內者無位而不忤。丘誦之久矣，今於回而見之，是丘之得也。”知止者，不貪名位也，不貪名位，終無危殆之憂。莊子曰：“原憲居魯，環堵之室，茨以生草，蓬戶不完，桑以爲樞，而甕牖、二室，褐以爲塞，上漏下濕，平坐而弦。子貢乘大馬，中紺而表素，軒車不容巷，往見原憲。原憲華冠縱履，杖藜而應門。子貢曰：嘻，先生何病？原憲曰：無財謂之貧，學而不能行謂之病，今憲貧也，非病也。子貢逡巡而有愧色。原憲笑曰：夫希世而行，比周而友，學以爲人，教以爲己，仁義之慝，輿馬之飾，憲不忍爲也。”若乃知足知止之士，固無戮辱危殆之憂，可以長久也。親身則知足，疏名則不辱，知足不辱，道成如缺，故次之以大成若缺。

（以上第四十四章）

大成若缺，其用不敝。

缺，破也。敝，困也，敗也。大成謂全德之君子也。夫德充於內者，故能包荒含藏、支離其形，若器之缺玷，罕見其用，故得保完全而無困敗之弊也。又如大壑，酌之而不竭，明鑑應之而不蔽，故曰其用不敝。

大盈若冲，其用不窮。

冲，虛也。盛德大業者，謙冲而不驕，富貴滿堵者，虛儉而不奢，其所用也，常有羨餘，豈能窮匱哉！

大直若屈。

大直謂隨物而直彼，含垢而不申，其直不在己，故若屈也。

大巧若拙。

大巧，謂因物性之自然而成器用，不造爲異端，故若拙也。列子曰：“宋人有以玉爲楮葉者，三年而成，亂之楮葉中而不可別也，遂以巧食宋國。列子聞之曰：使天地之生物，三年而成一葉，則物之有葉者寡矣，故聖人恃道化而不恃智

巧。”夫道化者可謂大巧矣，因物而成，不矜己能，故若拙也。

### 大辯若訥。

大辯，謂智無不周也。因物所言而言之，而無壅蔽，若恃己言辯則於物理有所不及矣。其於非法不說，非禮不言，而已無所造爲，故若訥也。

### 躁勝寒，靜勝熱。

躁，動也。言春夏陽氣發於地上，萬物因之以生，物極則反，故夏至則一陰生乎其中，氣動極則寒，寒則萬物以衰，明躁爲死本、盛爲衰原。喻功成不缺者必敗，持滿不冲者必傾，有爲剛躁者必死。君平曰：“天地之動，一進一退，而萬物成遂，變化不可閉塞，屈伸不可障蔽，故陰之至也，地裂而冰凝，清風颼厲，霜雪崑崙，魚鼈蟄伏，萬物宛拳，當此之時，處溫室，臨爐火，重狐貉，襲毳綿，猶不能禦也。及至定神安精，動體勞形，則是理泄汙校者按：《指歸》作汙。流，捐衣出室，煖有餘身矣。靜勝熱者，謂秋冬陽氣靜於寒泉之下，否極則泰，冬至則一陽生乎其中，熱則和氣發生也。萬物因之以生，生託靜而起，故知靜爲生本，躁爲死根。”嚴君平曰：“陽之至也，煎沙爛石，飛鳥絕，水蟲疾，萬物枯槁，江河消竭，當此之時，人沉清泉，出衣絺綌，遊燕高臺，服食寒石，猶不能任也。及至解心釋意，託神清靜，形捐四海之外，遊志無有之內，心平氣和，涼有餘身矣。”此言躁爲死本，靜爲生根者，以況君王躁強則拒敵飾非，犯物之性，以致家國凋敝，是謂躁強則寂然而寒薄，寒薄則衰滅矣。靜理則垂拱無爲，全物之真，以致社稷永安，是謂靜理則煦然而人和，人和則隆盛矣。

### 清靜爲天下正。

此結明前義也。夫至清者在濁而物莫能滑，至靜者處動而事莫能撓，且大成、大盈、大直、大巧、大辯，則有不敝、不窮、若屈、若缺、若訥以對之，惟清惟靜則可以持衆事而爲天下之中正也。莊子曰：“抱神以靜，形將自正，必靜必清，無勞汝形，無搖汝精，乃可長生”也。外缺內全，是爲有道，故次之以天下有道。

（以上第四十五章）

### 天下有道，却走馬以糞。

却，屏去也。糞，治田也。天下有道，言時泰也。時泰則萬民昌而宗廟顯，宇內安而諸侯賓，四海清夷，兵革寢息，人多務本，戶競農桑，屏去走馬之武



功，而歸治田之常業也。故天心和洽、群物樂康也。

**天下無道，戎馬生於郊。**

郊，交也，二國相交之境也。天下無道，謂時否也。時否則百職廢而主上憂，帑藏虛而水旱數，郡縣盜起，強弱相陵，人皆失業，習尚戰爭，自然戎駭之馬生於郊境，故陰陽隔閉，庶類悽愴也。

**罪莫大於可欲。**

夫人有可尚欲愛之心，則非理貪求奔馳不反，是故逐秋毫之微者，失太山之重，縱僥奢之情者，必荷校之凶，爲罪之因莫重乎此。列子曰：“齊人有欲金者，清旦衣冠而之市，適鬻金者之所，因攫其金而去，吏捕得之，問曰：人皆在焉，子攫人之金，何故？對曰：取金之時，不見人，徒見金。”觀於濁水而迷於清淵也。

**禍莫大於不知足。**

禍，害也。夫可欲者於貪求之中尚有數耳。不知足者凡經歷於目而無一可捨，滿不知損，亡敗及之，故禍釁之發，莫大乎不知足也。

**咎莫大於欲得。**

咎，殃也。夫物之經目猶有限也，天下之物見與不見咸欲得之，使盡在己，而靡有孑遺者，此無道之甚也；豈唯禍及一身，抑亦殃咎來世。夫罪者言人違於禁令，初犯其非，名之爲罪，道家《悔過經》曰：初犯爲罪，亦名爲過，過言誤也，犯過一千八十爲禍，禍重於罪矣。犯過二千一百六十爲咎，咎又重於禍矣。此三者皆無道之所爲也。小則害身，大則喪國，得不戒哉！

**故知足之足常足矣。**

夫外物雖足而心不知足者，是謂不知足也。外物不足而心常足者，是謂知足也。《高士傳》曰：“嚴君平與蜀郡富人羅冲相善，聞君平辟命不起，而問之曰：何不往仕？君平曰：無能自發。冲即爲備車馬衣糧僕從。君平曰：吾病耳，非不足也，我有餘而子不足，柰何以不足奉有餘？冲曰：吾一席萬金，子無甌石之資而曰有餘，謬矣。君平曰：吾嘗宿於子之家，人定而役未息，晝夜汲汲未有足時。今我以卜爲業，不下席而錢自至，餘錢尚有數萬，上塵厚寸，不知所用，我有餘而子不足乎！冲退而嘆曰：益我貨者損我神，生我名者殺我身。”若乃知足之足，安有戎馬生於郊、禍咎之重大乎？道無不在，何必遠求，故次之以不出戶。

（以上第四十六章）

不出戶，知天下。

夫聖賢之爲治，必先身心以度之，自近而及遠也，不下廟堂而知四海之外者，因物以識物，因人以知人，當食而思天下之饑，當衣而思天下之寒，愛其親知天下之有耆老，憐其子知天下之有稚幼也。夫如是，又何出戶而知天下哉？

不窺牖，見天道。

夫人七尺之軀，四肢九竅，五藏六府，賅而存焉，是以身之元氣與天道相通也。人君守形清靜，則天氣高明而自正，人君縱其多欲，則天氣昏暝而煩濁。人君者與二儀同其德，日月參其明，先天而天弗違，後天而奉天時，不假窺牖瞻望，而天道自明矣。嚴君平曰：“是以聖人不出戶，上原父母，下揆子孫，危寧利害反於己，故明於死生之說，察於是非之理，通於利害之原，達於治亂之本，以己知家，以家知彼，事得其綱，物得其紀，動知所之，靜知所守，道德爲父，神明爲母，清靜爲師，太和爲友，天下爲家，萬物爲體，眡彼如己，眡己如彼，心不敢生，志不敢舉，損棄知故，絕滅三五，因而不作，巖居穴處，不殺群類，不食生草，未成不服，未終不采，天地人物，各保其有。”此所謂以一體之中，法天地萬物也。

其出彌遠，其知彌少。

失道之君，不能法天行道，而恃聰明察物，求之愈遠，知之愈尠。君平曰：“稽之天地，驗之古今，動不相違，以知天地之道畢於我也。家者知人之根本也，身者知天地之淵泉也，觀天下不由身，觀人不由家，小近大遠，小知大迷，去家出戶，不見天下，去身窺牖，不知天道，其出愈遠，其知益少，周流四海，其迷益甚，求之益大，功名益小，不眡不聽，求之於己，天人之際，大道畢矣。”《記》曰：“欲治天下，先治其國，欲治其國，先治其家，欲治其家，先治其身，欲治其身，先治其心，欲治其心，先誠其意，故君子不誠無物。”皆反推於身心之謂也。

是以聖人不行而知，不見而名。

夫聖人不行天下，而察知人情者，以身觀身，以內知外，所謂獨悟也。不見天象，而能名命天道者，原小以知大，明近以諭遠，所謂冥覽也。

不爲而成。

聖人無爲而化成天下，蓋明物理自然因任而已矣。孔子曰：“無爲而治者，其舜也歟！”不行而知，不見而名，蓋因學悟，故次之以爲學日益。

（以上第四十七章）

**爲學日益。**

可道可名既彰，而崇德尚賢滋起，則爲學之士博覽多識日益，聞見遞相夸企，喪滅淳風而不自知也。

**爲道日損。**

夫道因爲學日益，既益即損，而知子守母、復初歸根也。復初歸根先去智，原乘要執本日損，云爲漸入虛妙也。

**損之又損，以至於無爲，無爲而無不爲。**

夫損之者無羸而不遣，遣之至乎忘惡，然後無細而不去，去之至乎忘善。惡者非也，善者是也，既損其非，又損其是，故曰損之又損，若乃是非都忘，欲利自泯，性與道合，以至無爲，已既無爲，不與物競，而任萬物之自爲也，自爲則無不爲矣。

**取天下常以無事，及其有事，不足以取天下。**

聖賢行道，先修身心，然後及乎天下。上言治身以無爲，此言治天下以無事，故聖賢之用心，常慮一物之失所，將欲救弊亂之要，在於取天下人之心，取天下人之心，當以無事爲術、無爲爲教、無欲爲寶，自然俗化清靜，民皆樂推而不厭也。若以有爲有事，政煩民勞，重足而立，側目而眴，則百姓望而畏之，何足以取天下人之心哉！既益反損，損至無心，故次之以聖人無常心。

（以上第四十八章）

**聖人無常心，以百姓心爲心。**

聖人體道虛心，物感斯應，感既不一，故應無常心。然百姓之心，常欲安其生而遂其性，聖人使人人得其所欲者，豈非以百姓心爲心乎？莊子曰：“至人用心若鑑，不將不迎，應而不藏，故能勝物而不傷。”此聖人無常心也。

**善者吾善之，不善者吾亦善之，德善。**

夫百姓有好善之心者，聖人不違其性，應之以善。其性本善者，聖人固以上善輔之，使必成其善。苟有不善之心，聖人亦以善待之，感上善之德而自遷其心爲善矣。則天下無有不善者，此乃聖人順物性爲化，終不役物使從己也。

**信者吾信之，不信者吾亦信之，德信。**

夫百姓有好信之誠者，聖人不奪其志，應之以信，其信確然者，聖人固以大

信輔之，使必成其信。苟有不誠其信者，聖人亦以信待之，而不信者感大信之德而自發其誠爲信矣。則天下無有不信者，此乃聖人能任物情，非愛利之使爲也。

**聖人在天下，惻惻爲天下渾其心。**

惻惻，憂勤貌，又不停也。渾者，無分別也。古之人君在天下也，雖治迹憂勤同乎民事，而心常虛澹，冥乎自然，故能體化合變，無往不可，磅礴萬物以爲一，而無物不然，爲天下之民渾其心而同其欲，順其性而同其化，孰弊弊焉勞神苦思，以事爲事，然後能乎？陸希聲曰：“聖人在天下，愉然應彼物感，未嘗少息，而其心渾然與天下爲一，未嘗自有所爲，故仲尼之所絕者有四，謂毋意、毋必、毋固、毋我，是以能無可無不可，無爲無不爲也。”河上公本作怵怵，王弼本作歛歛。

**百姓皆注其耳目，聖人皆孩之。**

注，傾也，用也。聖人以無爲德化，不逆萬物之情，故百姓被其聖德而各遂其能。明者爲眡，聰者爲聽，皆傾注其耳目以徼聖人自然之法，而聖人冕旒垂目、黈纁塞耳，不勞身於聰明，不察物於幽隱，撫念蒼生，皆如赤子，故曰孩之。無常心則渾然應變，皆孩之則冥其生死，故次之以出生入死。

（以上第四十九章）

**出生入死。**

虛無生自然，自然生道，道生一氣，一氣變而有物，故謂之出生；生之極也，變而無形，故謂之入死；此乃有始有卒，未出乎域中者也，出乎域中者，生死曷嘗係哉！

**生之徒十有三，死之徒十有三。**

徒，類也。生之徒謂攝生者之類也。死之徒謂趣死者之類也。十有三者，韓非曰：“四支九竅十有三，動靜屬於生死焉。”夫善攝生者，目不妄眡，耳不妄聽，鼻不妄嗅，口不妄言，手不妄持，足不妄履，動靜翛然，諸惡莫犯，此乃長生之徒也。趣死者，目亂於采色，耳耽於淫聲，鼻困於穢膻，口美於非道，手便於凶器，足捷於邪徑，動靜沒溺，諸吉無有，此乃近死之徒也。生死之原，皆係此十三事矣。孫登曰：“天地之物，有生之類，順理者寡，逆理者衆，故十分之中順理者三耳。夫生不以道，死不以理，順生者少，逆死者多，故死之中順命者

三耳。”或解云：三業十惡，能制伏者長生之徒，放縱者近死之徒，以理推之，九竅四支所論最長。

**人之生動之死地十有三。**

夫人之生皆爲欲利所誘，唯貪厚味美服、好色音聲，以滋九竅四支，故舉動誣誣然，如將不得已，陷之於死地，往而不知者，未有不由十三事也。

**夫何故？**

問世俗舉動趣於死地之由。

**以其生生之厚。**

生生，猶進生也。夫忘生薄己則長生可冀，而進生厚己則近於死地。且進生必先之以外物，外物足可以安體樂性，以爲久生之具，然而忘身貪貨者，過求養生之物太厚，致其十三事滑亂而速于死地矣。

**蓋聞善攝生者，**

不自言攝生而曰蓋聞者，謙之辭。攝，衛也。於衛生之中得其精微，故曰善攝生者。

**陸行不遇兕虎，入軍不被甲兵，兕無所投其角，虎無所措其爪，兵無所容其刃。**

不期而會曰遇。兕出湘水之南，蒼黑色，形如野牛，一角，重千斤。夫善攝生之人，內得於身，故諸疾不生，外得於物，故諸惡莫犯，欲利都忘，自然與吉會也。器之害者莫甚於兵戈，獸之猛者莫甚乎虎兕，故兵戈在前而不攝，是無所容其鋒刃也。虎兕當道而不驚，是無所措其爪角也。故諸惡害其有情而不損無心也。

**夫何故？**

問何故諸惡不犯免死之由。

**以其無死地。**

夫至人內不縱其欲心，而外無害物之意，故能忘身而身存，以其無死地也。莊子曰：“知道者必達於理，達理者必明於權，明權者不以物害己，至德者火弗能熱，水弗能溺，寒暑弗能害，禽獸弗能賊，非謂其薄之也。”言察於安危、寧於禍福，謹於去就，莫之能害也。死則喪道，悟則道生，故次之以道生之。

（以上第五十章）

道生之，德畜之。

道者虛無之體，德者自然之用。道體虛無運動而生物，物從道受氣，故曰生之。德用自然，包含而畜物，物自德養形，故曰畜之。

物形之，勢成之。

凡動植之類皆本道而生、因德而養，物質方具，故曰形之，物既形矣，則隨四時之勢而成之。

是以萬物莫不尊道而貴德。

夫道降純精而生物之性，德含和氣而養物之形，故萬物莫不尊仰於道而貴重於德也。

道之尊、德之貴，夫莫之爵而常自然。

爵者錫命也，公侯伯子男之例是也。世之所以尊貴者，皆因王者爵命故也。而道以純精生物，物共尊之若父，德以和氣養物，物共貴之若母。萬物咸被道德生成之功，而尊貴若父母者，又非假於爵命而常自然有所攝伏也。

故道生之畜之，長之育之，成之熟之，養之覆之。

上言道生德畜，此不言德者，以道無不貫而略其文也。夫受其精之謂生，函其氣之謂畜，遂其形之謂長，字其材之謂育，輔其功之謂成，終其時之謂熟，保其和之謂養，護其傷之謂覆，此八者皆大道之元功，蛸翹蠕動之物得不尊之貴之乎？

生而不有，爲而不恃，長而不宰，是謂玄德。

此結上生畜等八義也。言道生萬物，若顯其有則收其仁矣。道養萬物，若恃其爲則居其功矣。長育群材，成熟庶品，養覆動植，若矜其宰，則處其長矣。有是而退藏於密，可謂陰德深矣遠矣。道生德養，資物有始，故次之以天下有始。

（以上第五十一章）

天下有始，以爲天下母，既得其母，以知其子。

始，道也，本也，無名也。母，養也，有名也。夫道外包乾坤，內滿宇宙，萬物資之以生，由之以成。所以成者子也，所以生者母也，子者一也，一者沖氣，爲道之子。道爲真精之體，一爲妙物之用，既得道體，以知妙用，體用相須，會歸虛極也。

既知其子，復守其母，沒身不殆。

既知妙物之用，復守真精之體，體用冥一，應感不窮，然後可以無爲無不爲，故沒身不殆矣。

塞其兌，閉其門，終身不勤。

此明絕欲守母之行。兌，悅也；謂耳目悅聲色、鼻口悅香味，六根各有所悅。門以出入爲義，夫耳目諸根，乃色塵之所由也，若塞其愛悅之門，則禍患息而身不勤勞也。又解：兌，目也。緘無厭之目，則諸境自絕。門，口也。杜多言之口，則衆禍莫干。諸境絕則嗜欲之源塞，衆禍息則云爲之路閉，如是則恬憺安逸、終身不勤也。

開其兌，濟其事，終身不救。

若乃不守母道者，開愛悅之源而弗塞，則嗜欲之情長矣；通云爲之路而弗閉，則禍患之事濟矣。如是則憂苦危亡、終身不救也。

見小曰明，守柔曰彊。

此未防於未萌，治於未亂也。禍亂未見曰小，昭然獨見爲明，若知塞兌閉門之術，是見於微小也。挫嗜欲之銳，解云爲之紛，守其柔弱也。守柔弱則物不能加，可謂彊矣，見微小則事不能昏，可謂明也矣。

用其光，復歸其明。

光者智照也。智主外，外照而常動，動爲物之用。明者慧解也，慧主內，內映而常靜，靜爲己之體。智照出則應事，反則歸理，是以用歸體，故曰復歸其明，此重釋見小守柔之義，使息外歸內也。

無遺身殃，是謂襲常。

遺，與也，貽也。若事理雙明，體用冥一，不役智外照而守慧內映，復嗜欲之未萌而歸子母之元，故無自與之殃，是謂密用常道也。有始而有卒，知子而守母，塞閉悅愛，其介然有知者乎？故次之以使我介然有知。

（以上第五十二章）

使我介然有知，行於大道，唯施是畏。

介，孤也，耿介也。嗟時不行古道，故曰若使我孤介之士，有知政事則行於大道也。大道者，無爲清靜、至公至直之道也。然而行道者必有所施爲，施爲簡

易，則導民於清靜之域，施爲煩撓，則引民於貪濁，獨有所施爲是可畏，畏其不合於古道也。

**大道甚夷，民甚好徑。**

大道甚夷，猶亨衢也。亨衢平易，無往不達，以其大直，不患小迂，而世人欲速由於捷徑，是以崎嶇迷惑，不達所趣，故老氏病之，唯慎其所施之教令，畏其導民於衰路，謂下文也。

**朝甚除，**

朝，宮室也。除，修治也。

**田甚蕪，**

草長曰蕪。

**倉甚虛，服文采，**

青赤爲文，色絲爲采，傅奕云：采乃是古文繡字。

**帶利劍，厭飲食，財貨有餘。**

韓非作“資貨有餘”。夫入其國，其政教可知也：觀朝闕甚修除，墻宇甚雕峻，則知國君好土木之功，多遊嬉之娛矣。觀田野甚荒蕪，農事失耕治，則知國君好力役、奪民時矣。觀倉廩甚空虛，農夫多殍餓，則知國君好末作廢本業矣。觀衣服多文采、質喪而貴華，則知國君好淫巧、蠹女工矣。觀佩帶皆利劍，剛強而競鬪，則知國君好武勇、生國患矣。觀飲食常厭飫烹肥而擊鮮，則知國君好醉飽、忘民事矣。觀資貨常有餘，務多藏珍異，則知國君好聚歛、困民財矣。仲尼曰：“百姓不足，君孰與足。”若聚歛無已，民力殫竭，非聖人之道也。

**是謂盜夸，非道也哉！**

上之七事，皆用權術非理而陰取民也，故曰盜，既爲盜矣，猶自夸大，故曰盜夸而非道也，所謂唯施是畏，其在茲乎？知道而善行者，其德不可傾拔，故次之以善建不拔。

（以上第五十三章）

**善建者不拔。**

建，立也。善以道立身植國者，先固其根本，而後營其標枝，故根深枝茂則不可傾拔也。



善抱者不脫。

脫，失也，解離也。善以道懷抱民者，百姓歸附而不脫離，善以道抱元守一者，精神完全而不脫失。

子孫祭祀不輟。

輟，止也。善以道建國抱民者，則子孫繁昌、享祚長久，世世祭祀無輟止時也。

修之身其德乃真，修之家其德乃餘，修之鄉其德乃長，修之國其德乃豐，修之天下其德乃普。

此五者，近修諸身而遠及天下也。夫修道於身者，心閑性恬，愛氣養神，少私寡欲，益壽延年，乃爲真人矣。修道於家者，父慈子孝，兄友弟順，夫信妻賢，九族和睦，慶流來世矣。修道於鄉者，尊老撫幼，教誨愚鄙，百姓和集，上下信向，其德久長矣。修道於國者，禮樂自興，百官稱職，禍亂不生，萬寶豐熟，則物充實矣。修道於天下者，不言而化，不教而治，平易無爲，和一大通，比屋可封，化被異域而德施周矣。

故以身觀身，以家觀家，以鄉觀鄉，以國觀國，以天下觀天下。

觀者，照察也。以先聖治身之道反觀身心，若吾身心能體於道，則其德乃真矣。以先聖治家之道反觀吾家人，若吾家人能睦於親，則其德有餘矣。以先聖治鄉之道反觀吾鄉黨，若吾鄉黨能信於友，則其德乃長矣。以先聖治國之道反觀吾國民，若吾國民能遂其生，則其德乃豐矣。以先聖治天下之道反觀吾天下之民，若吾天下之民能無欲無知，則其德乃普矣。

吾何以知天下之然哉？以此。

老氏言我奚以知天下之民向道者昌、背道者亡之然哉？答曰：我以上所陳五事反觀照察是以知之也。經曰：“不出戶，知天下。”《易》曰：“觀我生，觀民也。”其是之謂乎。善以道立身植國，德及天下，其含德之厚歟！故次之以含德之厚。

（以上第五十四章）

含德之厚，比於赤子。

含，懷也。夫至人純粹、懷德深厚，情復於性，憺怕無欲，狀貌兀然，比於赤子。赤子者，取其純和之至也。

**毒蟲不螫，猛獸不據，攫鳥不搏。**

毒蟲，蜂蠆之類，以尾端肆毒曰螫。猛獸，虎豹之類，以爪拏按曰據。攫鳥，鵬鶚之類，以羽距擊觸曰搏。夫至人神矣，嗒然喪偶，如赤子之無心，故神全而物莫能傷也。嚴君平曰：“夫赤子之爲物也，知而未發，通而未達，能而未動，巧而若拙，生而若死，新而若弊，爲於不同，與道周密，生不生之生，身不身之身，用無用之用，聞無聞之聞，無爲無事，無意無心，不求道德，不積精神，既不思慮，又無障礙，神氣不依，聰明無識，柔弱虛靜，魂魄無事，樂無樂之樂，安無欲之欲，生不枉神，死不柔校者按：《指歸》作幽。志。故能被道含德，與天地同，故蜂蠆蟲蛇無心施其毒螫，攫鳥猛獸無意加其據搏也。”

**骨弱筋柔而握固。**

明赤子之全和，喻至人之純德。赤子未知喜怒而拳握至堅者，其性專一故也。

**未知牝牡之合而峻作，精之至。**

峻者，赤子之命源也。赤子情欲未萌、陽德自動者，真精之氣運行之所至也。以況至人虛心無情，氣運自動，而諸欲莫干也。“峻作”古本爲“全作”。王弼曰：“作，長也。無物以損其身，故能全長也。”《上清洞真品》曰：“人之生也，稟天地之氣，爲神爲形，受元一之氣，爲液爲精，天氣減耗，神將散矣，地氣減耗，形將病矣，元氣減耗，命將竭矣。故帝一迴元之道，泝流百脈，上補泥丸，腦實則神全，神全則形全，形全者百關調於內，邪氣亡於外，髓凝爲骨，腸化爲筋，純粹不雜，長生可致矣。”

**終日號而不嗶，和之至。**

號，啼也。啼極無聲曰嗶，又聲嘶也。赤子終日嗶啼而嗑不嘶散者，天和之氣至全也。故真人之息以踵，其嗑不哇，和氣全也。

**知和曰常，知常曰明。**

赤子以和全真，至人知和爲貴，故用之爲常道，知常不變，守之自明，此含德之厚者也。杜光庭曰：“五常備具曰和，夫人於身和則德充而合真，於國和則化周而祚永，處衆和則合禮，行師和則有功，和之爲義大矣哉！”此知和、知常而全德自明也。

**益生曰祥，心使氣曰彊。**

祥者吉凶之兆。夫一受成形，素分已定，非理益之，必致凶祥。莊子曰：“常因自然而不益生也。”夫心有是非而氣分別，故任氣則柔弱，使心則彊梁，又志能動氣、氣能動志，以心任氣，氣盛心彊。莊子曰：“無聽之以心，而聽之以氣。”是心使氣也。益生、使氣，失道者也。

**物壯則老，是謂不道，不道早已。**

物之壯也，必至枯老，心之彊也，必至凶暴。且道以柔弱爲用，今以彊壯爲心者，謂之不道。老氏故戒之云：不道之行，無如早止。已，止也，死也。言不行道者，早死也已。德厚靜默，了悟忘言，故次之以知者不言。

（以上第五十五章）

**知者不言，言者不知。**

夫知道者以心而不以辯，貴行而不貴言。談道者以辯而不以心，喪道而不喪說。嚴君平曰：“五味在口，五音在耳，如甘非甘，如苦非苦，如商非商，如羽非羽，而易牙、師曠有以別之，其所以別之者，口不能言也，音味尚爾，況妙道乎？”莊子曰：“智北遊首音三問無爲謂而不答，非不答也，不知答也。”意與此合。《西昇經》云：“道自然，行者能得，聞者能言，知者不言，言者不知，所以言者，以音相聞，是以故談，以言相然。不知道者，以言相煩，不聞不言，不知所由然。譬如知音者識音以絃，心知其音，口不能傳。道深微妙，知者不言，識音聲悲，抑音內惟，心令口言，言者不知。此在能行能言者也。

**塞其兌，閉其門。**

此與第五十二章文同而旨異，彼則約道清靜，以塞嗜欲愛悅之端；此則宗道無言，故興損聰棄明之說。夫道無形，不可以目眇，不可以口傳，故心困焉不能知，口辟焉不能議，此至人所以不待收視緘口而自然塞兌閉門也。

**挫其銳，解其紛，和其光，同其塵。**

此已出第四章，彼則就道以論功，此則據人以明行，至人與天同心而無知，與道同身而無體，則銳進紛亂之心於何而有，光塵分別之意於何而生哉？

**是謂玄同。**

夫至人之遊處也，顯則與萬物共其本，晦則與虛無混其根，其語默隨時而不殊，卮言日出而應變，是謂玄同也。

故不可得而親，不可得而疏，不可得而利，不可得而害，不可得而貴，不可得而賤，故爲天下貴。

上交於道而不諂，舉世譽之而不勸，故不可得而親。下交於器而不瀆，舉世非之而不沮，故不可得而疏。澹泊無欲、守分知足，不可得而利誘也。處卑不辱，在醜不爭，不可得而陷害也。爵祿不能汙，權勢不能動，何得而貴寵哉？失志不屈，居貧愈安，何得而賤鄙哉？至人行此六者，不榮通，不醜窮，無天怨人非，無物累鬼責，故爲天下貴。不言自治而治物以政，故次之以政治國。

（以上第五十六章）

以政治國，以奇用兵，以無事取天下。

以，用也。政者政教也。有爲之君，用政教爲治者，民雖不濫而凋弊日深，迹用既彰，安能長久也。霸王之君，以奇謀用兵者，國雖不傾而禍亂日積，怨望既多，安能永固也。夫有道之君，將欲取天下之心，爲可大可久之業者，莫若無事。故第四十八章云：“取天下常以無事，及其有事不足以取天下。”此老氏垂教治天下太平之法也。政，河上公本作正。

吾何以知其然哉？以此。

老氏自設問答，言我何以知天人之意如是哉？以今時所見可以言之。謂下文也。

天下多忌諱而民彌貧。

忌諱，禁令也。夫君不能無爲而以政教治國，禁網繁密，民慮其抵犯無所措手足，避諱不暇，弗敢云爲，舉動失業，日至貧窮。

人多利器，國家滋昏。

利器，權謀也。君不能安靜而以智變爲務，上下欺給，則民多權謀，偷安其生，包藏禍心，日至昏亂。

人多伎巧，奇物滋起。

伎巧，工伎巧妙也。君不能無事而以機械爲好，志在奢淫，則民尚雕琢，服玩金玉，奇恠異物，日益滋生。古本作“民多智慧，邪事滋起”。

法令滋彰，盜賊多有。

法令，刑教也。君不能無欲而以刑法作威，民雖苟免其罪，然而不足則姦宄

生，小則盜鈎，大則竊國也。河上公作“法物滋彰”。

故聖人云：

老氏不敢自專其言，故舉聖人云，或謂老氏爲周柱下史，遍觀上世遺書、三墳古文，故舉以證之。

我無爲而民自化，我無事而民自富，我好靜而民自正，我無欲而民自樸。

我者，治世之君自稱也。言我無爲，承天無所改作，民遂其生，其俗日化也。我無事騷擾，節用儉嗇，民厚其業，其家自富也。我安靜不言，憚怕自守，民挹天和，其俗純正也。我無欲冲虛，去華崇本，民無夸企，其性自樸也。苟有爲有欲而望致民於富壽之域，吾未見其可也。莊子曰：“天地有大美而不言，四時有明法而不議，萬物有成理而不說。聖人者原天地之美，達萬物之理，是故至人無爲，大聖不作，觀於天地之謂也。”河上公本又有“我無情而民自清”，注曰：“修道守真，絕去六情，民自隨我而清也。”治國化民莫若無事，無事則其政寬裕，故次之以其政悶悶。

（以上第五十七章）

其政悶悶，其民淳淳。

《開元御疏》曰：“悶悶，無心寬裕也。淳淳，質樸敦厚也。言無爲之君，政教寬大，任物自成，政無苛暴，故其俗淳樸，安於清靜而日益敦厚也。”古本作倻倻，王弼本作惇惇。

其政察察，其民缺缺。

《開元御疏》曰：察察，有爲嚴急也。缺缺，凋弊離散也。言有爲之君，其政峻急，以法繩人，法令滋彰，盜賊多有，故人凋弊而離散，動觸禁網，畏而避之，由是風化日益殘缺也。

禍兮福所倚，福兮禍所伏，孰知其極。

倚，因也。伏，藏也。夫悶悶之政，世謂之能而民淳淳然實樂之。察察之政，世謂之能而民缺缺然實憂之。夫世之所謂禍者，莫不畏之，畏則戒慎而福生其中矣。世之所謂福者，莫不喜之，喜則驕矜而禍藏其間矣。禍福相因，莫知其窮極也。故天地有休否，日月有盈虧，此倚伏之數也。夫禍藏福中，有福而驕矜則禍至；福隱禍內，有禍而戒慎則福來。此世之必然也。故有道之君守之以清

靜，任之以自然，不利貨財，不近貴富，不樂壽，不哀夭，不榮通，不醜窮，如是則禍福倚伏於何而有哉？

### 其無正邪！

禍福倚伏，豈無正邪！在乎有道之君無爲無事、忘形忘物而後正耳。若有心爲正，其正必復爲奇，有心爲善，其善必復爲妖矣。

### 正復爲奇，善復爲妖。

夫百姓之心，其心不一，有道之君，用心若鑑，不將不迎，應而不藏，故能勝物而不傷也。若以正正其不正，其正也不正，則奇謀譎詐生，故曰爲奇，以善善其不善，其善也不善，則夭祥狂妄興，故曰爲妖。若任物之自正自善，則禍福無緣而相倚伏也。

### 民之迷其日固久。

薄俗不能自正自善，而乃矯真爲正，逆性爲善，而反爲奇爲妖，迷惑不悟，其所由來固已久矣。《西昇經》曰：“爲正無處，正自歸之。不受於邪，邪氣自去。所謂爲道，自然助之。”

### 是以聖人方而不割。

有道之君，方正其身，俾物自悟，不以己之方正斷割於物，使物從之而失其性也。

### 廉而不穢。

廉，清；穢，濁也。有道之君，率性清廉，使物自化，不以己之潔揚彼之汙，但使物知勸而洗除穢濁耳。古本作劇，傷也。言聖人廉以自清而不刑物使傷也。

### 直而不肆。

肆，申也。有道之君，稟氣耿直，自任不曲，而不以己之直意申肆激拂於物，亦猶大直若屈也。

### 光而不耀。

光謂明慧也。有道之君，明慧鑒照，復能葆蔽隱晦，不以己之強智燦耀於物，使之殂喪也。自此以上，皆悶悶之政、非察察之治也。政寬則民福，治嚴則民禍，禍福倚伏，由人由天，故次之以治人事天。

（以上第五十八章）

治人事天莫若嗇。

嗇，愛也。世俗則耗神，多求奢侈而不足，聖人則愛神，省費儉嗇而有餘。故治人者無事無爲，清靜簡易，省費民財，使倉廩實而知禮節，然後葆精愛神，蠲潔祭祀，粢盛豐備，人神皆和，故曰莫若嗇。

夫唯嗇，是謂早服。

省費而不奢侈，儉嗇而愛精神，是能服從於道也。聖人於禍福未兆之前，常服從於道，是謂早服也。古本作早復。

早服是謂重積德。

夫節儉民財，愛嗇精神，以奉上帝，是一德也。又能早服從於道，使人悅神和，故曰重積德。

重積德則無不克。

夫重積德之士，可以臨御百姓，四方嚮慕，無有不克伏者也。

無不克則莫知其極。

無不克伏則萬物歸化，道德無窮，故莫知其極。

莫知其極，可以有國。

夫道德無窮者，必能後其身而身先，外其身而身存，天下樂推而不厭，可以爲有土之君矣。昔庚桑子居羽山之顏，三年俗無疵癘而仍穀熟，其俗竊相謂曰：庚桑子之始來，吾灑然異之，今吾日計之不足，歲計之有餘，其或聖者邪！盍相與尸而祝之、社而稷之乎？此所謂道德莫極，可以有國也。

有國之母，可以長久。

有國之母謂重積德也，德可以茂養百姓，百姓豐厚，則社稷福祚可以長久矣。

是謂深根固蒂長生久視之道。

根，本也。蒂，花趺也。夫藝果木者，根深則蒂固，雖有大風亦不能拔其根本、落其花實，故根深則枝葉榮茂，蒂固則花實不落，可謂長久矣。積德之君，其治人事天、厚國養民者，植根於無爲，固蒂於清靜，社稷延遠，故謂之長生，臨御常照，故謂之久視。杜光庭曰：“修道之士，嗇神安體，積氣全和，內固三關而祛萬慮，百神率服，衆行周圓，變化莫窮，享年長久，固蒂於混元之域，深根於無何之鄉，校者按：《廣聖義》作“何有之庭”。與九老七元差肩接武矣。”古本作

固柢，本也。事天積德，可以有國，故次之以治大國。

（以上第五十九章）

治大國若烹小鮮。

夫治萬乘之國，若烹膚寸之鮮，調其水火使其自熟則全；若撓之則魚傷，魚傷則糜爛矣。善治民者，和其政教使之自得則安，若擾之則民傷，民傷則潰亂矣。

以道莅天下，其鬼不神。

聖人以無爲清靜之道臨莅天下，冲和之氣徧於區宇，在谷滿谷，在坑滿坑，故風雨時若，水旱不作，人心自然，不求妄福也。雖有鬼神，不敢見其神變矣。《西昇經》曰：“所謂爲道，自然助之。不善於祠，鬼自避之。”此之謂也。神者靈變也。

非其鬼不神，其神不傷民。

非其鬼無神變而歇滅也，是由人不作釁，則祆祥何緣而興；人守常德，則神變無因而傷民；此理之自然也。

非其神不傷民，聖人亦不傷民。

其鬼非無神變而不傷民，蓋聖人無爲清靜，則鬼神感其德而自處其陰靈也。列子之言聖治也，不施不惠而物自足，不聚不斂而已無愆，陰陽常調，日月常明，四時常若，風雨常均，字育常時，天穀常豐，土無札傷，人無夭惡，物無疵癘，鬼無靈響焉。

夫兩不相傷，故德交歸焉。

兩者謂聖人與神也。河上公曰：“夫兩不相傷，人得治於陽，鬼得治於陰，人得全其性命，鬼得保其精神，故德交歸焉。”又君能存神，神能福君，故曰德交歸焉。杜光庭曰：“民爲邦本，本固則邦寧，人爲神主，主安則神享，聖人以道爲治，既不傷人，鬼神感聖人之功，亦不害物，兩者相悅，二德交歸。”大國交歸，以靜安小，故次之以大國者下流。

（以上第六十章）

大國者下流，天下之交。



江海所以能爲百谷王者，以其善下之，大國所以能爲諸國帝者，以其謙下之，故天下士民之所交會也。

天下之交牝，牝常以靜勝牡、以靜爲下。

疊上文以生下義，夫天下之所交牝者，以其大國善守雌牝柔靜之德，故能攝伏天下雄壯之國，使其歸己，蓋以至靜謙下不貪之所致也。

故大國以下小國則取小國。

大國居於大而忘其大，故無小而不攝，在上而謙下，不以威武爲用，故鄰國柔服，咸爲臣妾，是能取小國之歡心也。嚴君平曰：“明王聖主之處大國也，施而不以置，下而不以求，地裏諸侯之國而無所不畏，德包諸侯之力而無所不事，折節下之以附人意，忠廉誠信以先士吏，校者按：《指歸》作史。割地以招賢俊，耕織以哀畜積，結縱連橫以戒不虞，發倉散財，養老恤孤，振窮達困，顯巖穴之士，受而不取，授而不予，柔弱簡易，無爲而處，諸侯雖有貪鄙殘賊驕矜恃力者，猶以威德之重靜而下之，則彼修身慎行、改過自新、割地獻寶、縣命殺身，請爲子弟之國、蕃校者按：《指歸》作藩。牆之臣也。”

小國以下大國則取大國。

小國居於小而忘其小，故無大而不統，處下而恭謹，不以慢傲爲事，故鄰國撫恤皆欲援助，是能取大國之威權也。孟子曰：“惟仁者爲能以大事小，故湯事葛伯、文王事昆夷，惟智者爲能以小事大，故太王事獯鬻、句踐事吳。以大事小者，樂天者也，以小事大者，畏天者也。樂天者保天下，畏天者保其國。《詩》曰：‘畏天之威，於時保之。’”此《周頌》美成王畏天之威能安其太平也。嚴君平曰：“其處小弱也，因道而動，循德而行，富以舟輿，實以甲兵，忠順誠素，尚樸貴耕，上下和集，親如父子，君如腹心，民如形體，專一同和，可與俱死。大國之君，雖負衆強，上權右勢，左德下仁，心如飢虎，怒如湧泉者，猶以爲得天之心，獲民之意，將相誠信，鄰人之助，發原泉之敵，揚不測之威，辱身厚體，竭誠縣命，款款惓惓，事以清靜，則彼神感精喻，心釋意壞，怒移禍徙，與我爲諾校者按：《指歸》作妖。也。”

故或下以取，或下而取。

或者不定之辭。以取者謂上以取下，抑損謙卑，以得人之歡也。而取者謂下而取上，順奉廉慎，而得事其威權也。斯乃互以義相取之也。

**大國不過欲兼畜人，**

夫大國之君，崇謙卑，尊禮法，修身以下小國者，豈有越分貪欲之心，兼併畜聚小國之人哉？但執謙尊之義以爲常道也。

**小國不過欲入事人。**

夫小國之君，存忠順、遵制度，修身而下大國者，非有過分貪欲之心，泛入矯事於大國之人哉？惟恃自全之志，而守其常德也。

**兩者各得其所欲，故大者宜爲下。**

兩者，謂大國小國也。夫小大止足，各當其分，互有所持，不相侵擾，所謂安其居、樂其俗，鄰國相望，雞犬之音相聞，民至老死不相往來。然而小國柔服，禮之常也；大國謙下，誠亦曲全宜爲下者，勸勵之深，使可大可久，而兢兢業業所以致天下之交也。大國謙下，蘊道之奧，故次之以道者萬物之奧。

（以上第六十一章）

**道者萬物之奧。**

奧，藏也，曖也，蘊也。夫道包括無外，萬物資始，最深最奧，爲庶品之根本，無有逃其術者。《西昇經》曰：“道深甚奧，虛無之淵。”言道爲萬類之淵藪，無物不蘊藏也。以至圓蓋之高，方輿之厚，日月之廣照，動植之細繁，皆稟道之所育，曖然無不賴其庇廕矣。

**善人之寶，不善人之所保。**

善人謂上士也。上士聞道，勤而行之，鍊質資神，超遙輕舉，固守妙本，以爲長久之寶也。不善人謂下士也，下士聞道而大笑之，及其迂道悖德，履凶踐禍，思欲返復元吉，咸仰道之所保庇也。

**美言可以市，尊行可以加人。**

此釋不善人之所保也。言之甘美則無往而不可，雖市井之機心，亦混然而同得矣。豈得與信言不美、淡乎無味同論哉！行之自尊，則無適而不勝，雖逆旅小子亦知其醜惡矣，豈得與夷道若類、大白若辱爲比哉！此舉無言無行之夫，尚假甘美之言、自尊之行可以奪衆貨之賈，升稠人之上，又況有道者乎！

**人之不善，何棄之有？**

夫不善之人，矯妄之士，猶假美言尊行可以悅衆，知道之可以保倚也，由此

省之，人豈長爲不善耶？但恐化之不至，又何遺棄之有哉？

**故立天子、置三公。**

夫天以其道付人君，令化不善之人，人君恐化未備，更置三公以佐之。杜光庭曰：“四海之大，萬有之富，厥初生人，不可無主，故立天子以牧之，尊事上帝，父天母地，謂之天子也。一人不可以廣治，置百官以臨之，百官之長有三公焉。《尚書·周官》曰：“其惟三公論道經邦。”三公謂太尉、司徒、司空，主佐天子治陰陽、親萬民、廣教化，此其職也。

**雖有拱璧以先駟馬，不如坐進此道。**

杜光庭曰：“兩手相合曰拱。璧者瑞玉也。拱璧，璧之大者也。駟馬者，馬四匹爲乘，共駕一車也。古者諸侯朝於天王、會於大國、聘於小國，或遇於野，兩君相見皆有贊幣之禮，以先貨幣爲導，謂之爲先，今三公當以論道爲務，經邦爲事，雖欲以駟馬大璧獻之於君，亦臣之分也。徒有益於淫奢，無裨於治政，不若進之以無爲清靜之道以化天下，使不善者從善，不悛者悛心，道化周行，帝德遐被，何用璧馬爲？”夫務學之士尚輕尺璧而重寸陰，況有道之君乎？

**古之所以貴此道者何也？**

此道無爲清靜之道也，發問古之貴此道者何謂也？

**不曰求以得、有罪以免邪？故爲天下貴。**

夫道之微，始悟於身心之內，卒明於宇宙之外，妙則入於無間，舒則塞乎太空，體之則善於一身，用之則濟於天下，雖不曰求以得而不可不求也，不求而得自得也，自得則安用三公哉？故不曰求以得，此乃有求有得也。有求有得，則古之常道也，明乎常道者，豈有罪累邪？設若偶失道而偶有罪者，在乎改過遷善，復此無爲清靜之道，亦可免戮辱之責也。古本作“不曰求以得”。嚴君平本作“不求而自得。”得道之奧妙者，施爲而無爲，故次之以爲無爲。

（以上第六十二章）

**爲無爲，事無事，味無味。**

至人爲無所爲，任物之自爲，物自爲則無爲而無不爲，然至人之心曷嘗動哉？事無所事，從物務之自事，物自事則無事而不事，然至人之身曷嘗勞哉？味無所味，隨物氣之自味，物自味則無味而不味，然至人之口曷嘗嗜哉？若夫心不

動則虛明，虛明則衆妙可觀，身不勞則實厚，實厚則精神不虧，口不嗜則恬漠，恬漠則靈液不竭矣。又解：味無味者，不味是非美惡之言，而味大道無味之言。經曰：“道之出口，淡乎其無味”也。

### 大小多少，報怨以德。

人之云爲，有大有小，世之造事，有多有少，云爲造事，皆損其天性而失乎自然，損天性則怨生，失自然則惡起，既怨且惡，禍亂之階也。唯至人無爲無事無味，能灰心槁骸，雖有有爲之怨，咸以無心至德報之。或問報怨以德，設有德者，又何以爲報乎？曰：世之爲事，大小多少，怨怒恩德，以其無心至德報之一也。陸希聲曰：“夫體道之士，微妙淵通，應世之爲而本無爲，應物之事而本無事，應物之味而本無味，其體雖大，而樸甚小，其用雖多而要甚少，故術在於澹泊清靜，不爲萬物所撓耳。夫唯如此則無欲，無欲則無私，恩者私之所畜，怨者恩之所萌，唯聖人能無私欲，無私欲故無私恩，無私恩故無私怨。衆人則不然，以其有私欲故有恩怨，然天下有怨者，聖人以德德之，人之不善者，聖人以善善之，故民用和睦，上下無怨，此之謂也。仲尼曰：“行滿天下無怨惡。”聖人豈有怨於物乎？

### 圖難於其易，爲大於其細。

難易大細，即上之大小多少也。夫是非美惡怨怒恩德皆生於微漸，無不始於易而終成難，初於細而後成大，使圖度其始易之時，則於終無難矣，營爲於初細之日，則於後無大矣。若乃謀於已難，爲於已大，則怨怒深而禍亂積，將欲釋難解紛，不亦難乎？

### 天下難事必作於易，天下大事必作於細。

夫艱難之事必起於容易，當於容易之時圖之，重大之事必興於微細，當於微細之時去之。事類實繁，不可具舉，故以天下總言之也。嚴君平曰：“大難將生，猶風邪之中人也，未然之時，慎之不來，在於皮毛，湯熨去之，入於湊理，微鍼取之，在於藏府，百藥除之，入於骨髓，天地不能變，校者按：《指歸》作憂。造化不能治，故曰天下難事必作易。夫大事之將興也，猶水之出於山也，始於潤濕，見於漣滴，縣縣涓涓，流爲谿谷也。”

### 是以聖人終不爲大，故能成其大。

上言失道之人，好爲難大之事，故多敗喪。此引聖人終不爲大者，慎微之至

也。聖人不爲難大之事，而無爲無事，易簡易知，故能成其可大可久之業也。嚴君平曰：“聖人之建功名也，微故能顯，幽故能明，小故能大，隱故能彰，志在萬民之下，故爲君王。”

**夫輕諾必寡信，多易必多難。**

夫不三思而後言，輕易其許諾者，事衆而信不可然也。不謀始而慎終，多易其行者，難積而變不可推也。可不慎歟！

**是以聖人猶難之，故終無難。**

夫以聖人之才之德，尚難於細易之事，況無聖人之才德而欲忽之乎？是以世俗多患累而聖人終無難也。嚴君平曰：“聖人心默而不動，口默而不言，目默而不視，耳默而不聽，動如天地，靜如鬼神，不爲而成，不言而行，校者按：《指歸》作信。進則無敵，退則不窮，身無纖介之憂，國無毫髮之患也。”無爲之安，必由簡易，故次之以其安易持。

（以上第六十三章）

**其安易持，其未兆易謀，其脆易破，其微易散。**

夫家國安靜，易爲維持；及將傾危，則難守禦。衰心未兆，易謀消滅；惡狀已形，難圖泯絕。蘖芽柔脆，易爲破除；枝幹既成，難乎掊擊。悔吝幾微，憂虞易散；凶咎已彰，其災莫追。古本作“其脆易判”，或作“泮”。

**爲之於未有，**

爲謂脩除也。夫家國之未傾危，衰心未萌兆，若預爲之防，則未然之禍曷由而有。

**治之於未亂。**

治者救也。夫蘖芽未成，凶咎未著，若救治在先，無巨惡之害矣。嚴君平曰：“未疾之人易爲醫，未危之國易爲謀，萌芽之患易事也，小弱之禍易憂也，何以效之？曰：任車未虧，僮子行之，及其傾覆也，顛高墮谷，千人不能安；卵之未掊也，一指摩之，及其爲飛鴻也，奮翼凌雲，罽繳不能連也。胎之新乳也，一繩制之，及其爲虎也，執群獸，食牛馬，劍戟不能難，羅網不能禁也。故漣滴之流而成江海，小蛇不死化爲神龍，積微之善，以至吉祥，小惡不止，乃至滅亡。”

合抱之木生於毫末，九層之臺起於累土，千里之行始於足下。

此三者喻不見幾慎微以致後患也。患不預防，惡不見杜，其猶植木乎，初生於毫末，可拔而絕之，及其合抱也，本據乎陰崖，稍侵於陽嶺，青青百尋，鬱蔽於日月，惡可伐哉！此明自性而生也。又如築臺起土於一畚，可蹴而圯之，及其九層也，聳百仞之高，擬丘陵之大，惡可毀哉！此明積習而成也。又如遠行之人，始於跬步，可旋踵而返，及其千里也，長川渺瀰，峻嶺巖嶮，途隘而可畏，路僻而多歧，惡可還哉！此明遠行不止也。《易》曰：“履霜堅冰至。”此之謂也。九層，古本作九成。

爲者敗之，執者失之。

夫有爲於分外，則廢敗自然，有爲於欲利，則廢敗精神。然而執有好名，患至身失，執勇好敵，禍來國失，良由不能爲之於未有、治之於未亂也。

是以聖人無爲故無敗，無執故無失。

夫事之所敗，敗於有爲，不爲何敗之有？意之所失，失於有執，不執何失之有？是以聖人措意不在乎小成，而常以虛靜恬淡寂寞無爲爲心，自然無爲無執無敗無失。莊子曰：“南海之帝爲儵，北海之帝爲忽，中央之帝爲渾沌。儵與忽時相與遇於渾沌之地，渾沌待之甚善，儵與忽謀報渾沌之德曰：人皆有七竅以視聽食息，此獨無有，嘗試鑿之，日鑿一竅，七日而渾沌死。”此爲者敗之之證也。

民之從事，常於幾成而敗之。

幾，近也。言世俗之人，雖從務於善事，皆有始而無卒，先勤而後惰，功業近成不能戒慎，乃復亡敗也。

慎終如始，則無敗事。

此重申戒勸也。夫世俗若能慎末如初，則所爲無不成矣。《詩》曰：“靡不有初，鮮克有終。”

是以聖人欲不欲，不貴難得之貨。

難得之貨謂金玉珠犀也。世俗以不欲爲憂，聖人以不欲爲樂，聖人貴清靖節儉，世俗貴貪濁奢侈，是以世俗所不欲者，乃聖人之所欲，故視金玉如遺土也。

學不學，復衆人之所過。

世俗損天真以務外學，而失分內之真性，聖人守自然而不學，保分內之天和，然世俗以不學爲過，聖人以不學爲真學，故曰復衆人之所過。

以輔萬物之自然而不敢爲。

人生而靜，天之性也，聖人以不欲不學爲教者，以佐萬物之自然，使各遂其性而不敢造爲異端，恐失其大本也。持之無敗者，審其未兆未敗之微，無失宗法，輔物自然，古之善道也，故次之以古之善爲道者。

（以上第六十四章）

古之善爲道者，非以明民，將以愚之。

古之善爲道治身化民者，自脩胸中之誠，使道洽於物而治名不彰，物任其能而親譽莫問也。不欲明其教令，使物欣欣悻悻而智詐萌生，將以導斯民於質樸而復自然也。此說古之有道以勸於今也。

民之難治，以其智多。

民之多智，則姦宄生焉，雖有法令而無所畏，故曰難治也。莊子：“上誠好智而無道，則天下大亂矣。何以知其然耶？夫弓弩畢弋機變之智多則鳥亂於上矣，鈎餌網罟罾筍之智多則魚亂於水矣，削格羅落置罟之智多則獸亂於澤矣，智詐漸毒頡滑堅白解垢同異之變多則俗惑於辯矣，故天下每每校者按：下每字原訛作子，今據《莊子·胠篋》及彭引改正。大亂，罪在於好智。”

故以智治國國之賊。

夫人君任用智詐之臣治國者，必以權謀蠹政爲事，致民撓亂，是國之賊也。經曰：“智慧出，有大僞。”又曰“其政察察，其民缺缺”也。

不以智治國國之福。

夫人君任用淳德之士治國者，則必以無爲簡易爲事，致民安靜，是國之福也。經曰：“我無爲而民自化，我無事而民自富。”又曰：“其政悶悶，其民淳淳。”杜光庭曰：“君猶表也，表正則影端，表邪則影曲，正則人隨而正，邪則人從而邪，邪正淳漓，匪由他也，用智謀之臣則權令興，用忠厚之士則風教淳，人化淳和，國乃豐泰，此爲福也。”

知此兩者亦楷式。

兩者謂用智與不用智也。夫用智者，害政蠹民，爲國之賊，以致亡身喪家，是以爲不用智者楷模法式也。夫不用智者，德政澤民，爲國之福，以致榮鄉顯族，是亦爲用智者之楷模法式也。古本作“稽式”。稽，考也。謂考古法式。

常知楷式，是謂玄德。

玄，深也，冥也。人君當知福可任而賊可去，致黔首於富壽，是有深冥之德也。

玄德深矣遠矣，與物反矣，然後乃至大順。

夫聖人之玄德，深不可知，遠不可窺，然觀其迹似與物違戾，究其理則與民同歸，然後入於自然之境而無所不然者，謂之大順矣。嚴君平曰：“愚智之識，無所不克，清天寧地，爲類陰福，衆世莫見，故曰玄德，深矣不可量測，遠矣不可窮極，與物反矣，莫之能克。”列子曰：“堯治天下十五年，校者按：《列子》作五十年。不知天下治歟？不治歟？不知億兆之願戴己歟？不願戴己歟？顧問左右，左右不知；問外朝，外朝不知；問在野，在野不知。堯乃微服遊於康衢，聞兒童謠曰：立我蒸民，莫匪爾極，不識不知，順帝之則。堯喜問曰：疇教爾爲此言？兒童曰：我聞之大夫。問大夫，曰：古詩也。堯還宮，召舜，因禪以天下，舜不辭而受之。”此謂玄德深遠乃至大順也。善爲道者，不逆於寡，德量深遠如水朝宗，故次之以江海爲百谷王。

（以上第六十五章）

江海所以能爲百谷王者，以其善下之，故能爲百谷王。

《開元御疏》曰：“江海所以能令百川朝宗而爲王者，以其善居下流之所致也。《易》云：‘地道變盈而流謙。’地道用謙則百川委輸而歸往，聖人用謙則庶人子來而不厭。”嚴君平曰：“江海之王也，非積德累仁加恩惠以懷之也，又非崇禮廣遜飾知巧以悅之也，又非出奇行變起權立勢奮武揚威以制之也，清靜處下，虛以待之，無爲無求而百川自爲來也。百川非聞江海之美、被其德化而歸慕之也，又非拘禁束教有介導而趨之也。然所以貫金觸石鑽崖潰山赴江海而無還者，形偶性合，事物自然也。由此觀之，卑損之爲道也大矣，百害不能傷，智力不能取，不戰而強，不威而武，默然無爲，與萬物市，譬夫谿谷爲卑，故能達而不窮，江海處下，故能王而不休也。”

是以聖人欲上人，以其言下之。

聖人謂體江海之下流者，將欲處人之上，必先以其言下人者，知滿必招損，故言則謙柔，名則孤寡，而盛德日崇，大業彌固，自然爲物所推舉於上矣。



欲先人以其身後之。

將欲首出庶物，必須身謙言巽、退在人後者，蓋謹身順道、不以先物，故能爲物所推讓於先矣。

是以處上而人不重，處前而人不害。

聖人臨大寶之位，居至極之尊，勞一身而逸萬民，薄眇躬而厚庶物，民皆忻戴猶以爲輕，處物之前，民得以治，故人皆悅隨，安有所害哉？

是以天下樂推而不厭。

夫有道之君，群生就之如日、望之如雲，推崇爲主而無厭倦，以其謙撝校者按：原訛作僞，今改正。之德所致也。

以其不爭，故天下莫能與之爭。

謙德化下，下皆化而爲謙退也，故聖人常以虛爲身，以無爲心，心形既空，物孰與爭。陸希聲曰：“天道虧盈而益謙，地道變盈而流謙，鬼神害盈而福謙，人道惡盈而好謙。”謙之爲德，卑以自牧，故江海以謙爲德而爲百谷所歸往，聖人以謙爲德而爲天下所先上。夫聖人豈欲先上哉？天下樂推而不厭耳。江海居下流，聖王處謙卑，倘尚強梁，以雌靜爲不肖，故次之以天下皆謂我道大似不肖。

（以上第六十六章）

天下皆謂我道大，似不肖。

肖，似也。老氏曰：天下之人皆言我道虛無廣大，光而不耀，盛德若愚，無所象似，猶如不賢也。

夫唯大，故似不肖，若肖，久矣其細也夫。

夫獨我道虛無廣大，不爲下士所信，故似校者按：原訛作以，據彭引校改不賢也。若賢而使人稱美之，不待於今亦久矣。若爲人所稱美，其道豈足爲大邪？莊子曰：“老子謂士成綺曰：夫巧智神聖之人，吾自以爲脫焉。”此乃老氏不以賢美爲貴久矣。傳所謂甯武子“其智可及也，其愚不可及也”近之矣。

我有三寶，保而持之。

雖我道虛無無所象似，然有三行可以保倚執持，實爲脩身治國之至寶，謂下文也。古本作“持而寶之”。言世人若遵守三行以爲珍寶，執持不捨，何所不適。河上公本作“持而保之”。

一曰慈，二曰儉，三曰不敢爲天下先。

《開元御疏》曰：“夫體仁博施，愛育群生，慈也；節用厚人，不耗於物，儉也。不爲事始，和而不唱，不敢爲天下先也。”

夫慈故能勇，儉故能廣，不敢爲天下先故能成器長。

聖人以慈爲行，勇於濟物，仁者必有勇，不懼之謂也。儉約其用者，必能廣於賑施，所謂節用而愛人也。不敢先於天下，則必能成器用之長。《易》曰：“見群龍无首，吉。”此所謂大道似不肖也。李約曰：“自下行成而昇高業就，故得爲天下君長也。”

今捨其慈且勇，捨其儉且廣，捨其後且先，死矣。

今世俗則不然，所謂肖者，則與道反矣。皆棄捨慈仁，將爲勇義，負氣輕死以陷物，則過涉滅頂之凶矣。不能愛嗇節用，復爲奢泰，貪求廣費，歛掠不足，必致傷財害民，則反招匱乏之患矣。既而飾智以驚愚，脩身以明汙，好處物先，耻居人後，進無謙退之心，動有剛強之志，縱而不止，則犯上作亂矣。此三行皆非大道久長之術，乃致喪家亡身，故曰死矣。

夫慈以戰則勝，以守則固。

夫三寶之中，慈最爲貴，故偏歎美也。夫主將用慈，則撫養士卒可無敵於天下矣。且慈兵入於敵境，不踐果稼，不穴丘墓，不殘積聚，不焚室屋，則人人悅之，若孝子之見慈親，歸降者若强弩之射深谷也。如是則何必陳兵野戰而後勝、重門擊柝以爲固哉？

天將救之，以慈衛之。

夫天道福善禍淫，善人則自天祐之，吉無不利。經曰：“天道無親；常與善人。”所以天將救助之者，以其主將能用慈仁衛護士卒人民也。道大似乎不賢，慈儉誠如不武，故次之以善爲士者不武。

（以上第六十七章）

善爲士者不武。

士，將士也。夫善爲將士者，體慈仁，用德義，誅暴亂，振困苦，而不以威武凌孤弱也。

善戰者不怒。

夫善臨戰陣者，雖有甲兵，不得已而用之。苟在應敵，非樂殺人也，以悲哀泣之、喪禮處之，豈憑怒而好戰哉！

**善勝敵者不爭。**

夫善勝者，在德不在爭，師克在和，和則善勝，不以利動，因勢而取之也。如魯仲連之吟嘯，熊宜僚之弄丸，善勝者也。

**善用人者爲之下。**

善用人者，以謙不以力，悅以使民，民忘其勞，故用輔弼之臣，則比之股肱心膂，用將帥之臣，則跪而受鉞，行而推轂，先之以德而後用其力也。

**是謂不爭之德，是謂用人之力，是謂配天，古之極也。**

夫善爲士、善戰、善勝、善用人者，常柔弱不爭，謙以自牧，物竭其能，人盡其用，豈非不爭之德、用人之力乎？彼唱如此，我和如彼，猶天之無恩而大恩生，不言而四時行，可以配天而代天治物，是古道之極致者也。不爭之德，法在用兵，故次之以用兵有言。

（以上第六十八章）

**用兵有言：**

老氏痛當世用兵以好戰爲本，故舉古之軍志以明申誡。

**吾不敢爲主而爲客，不敢進寸而退尺。**

兵以先舉爲主，後應爲客，聖人之兵，不得已而用之，故應敵而後起，所以常爲客也。進少而退多者，是沈機密用重敵之意也，雖有敵至，我則善師而不陣，自無征伐矣。又用師之法，爲主者以起戎爲謀，爲客者以應敵是務，進雖少漸近於殺，退雖多轉近於生，故不敢爲主而爲客，不敢進寸而退尺，猶勇於敢則殺，勇於不敢則活也。

**是謂行無行，攘無臂，仍無敵，執無兵。**

夫行師在乎止敵，貴乎不爭，雖止敵不行殺心也。既無殺心，即我之師徒抱義以守，故行無行也。又將奮臂先登，則若無臂可奮，以其惡殺而尚慈也。夫有道之君，縱有凶暴之寇，妄動而來，我則告之以文德，示之以義兵，彼必聞義而退，自然無敵，雖有仍引之威，而無敵可引，故曰仍無敵。敵既遠退，干戈戢藏，雖有執持之儀，而無兵可執，故曰執無兵。

**禍莫大於輕敵，輕敵則幾喪吾寶。**

幾，近也。寶者身與位也。輕敵謂好戰於外、無備於內也。好戰於外猶有勝有負，無備於內則必至滅亡。夫聖人在上，誠無敵於天下，然以其時有理亂言之，則敵亦衆矣。何則？《書》曰：“撫我則后，虐我則讎。”若然者，則天下一國，亦吾敵也，一鄉一家，亦吾敵也。故王者不遺小臣，即得萬國之歡心矣；公侯不侮鰥寡，即得百姓之歡心矣；志士不忘脩身，即神悅而天樂矣；然後可以全吾所寶耳。云幾喪吾寶者何哉？我本慈愛，不樂殺人，不得已而至於無敵，非吾志也，既非本志，則爲喪矣，所亡未大，故曰幾喪。

**故抗兵相加，哀者勝矣。**

抗，舉也。夫兩國舉兵相加也。哀者，慈愛發於衷誠之謂，則由其君之有道也。若夫上存慈愛之心，不失使臣之禮，下輸忠良之節，盡得事君之義，則何向而不勝哉！兵戒輕敵，其言易知，故次之以吾言甚易知。

（以上第六十九章）

**吾言甚易知、甚易行。**

經曰：“爲無爲，事無事。”又曰：“不出戶，知天下；不窺牖，見天道。”又曰：“行不言之教。”並是無爲分內簡易之道，言則不繁，行則不勞，是易知是行也。

**天下莫能知、莫能行，**

莫能知校者按：彭引知下有行字。者，下士也。下士欲惡滑濫，但見邊徼，多惑於有爲，好攻乎異端，不能除垢止念、靜心守一。至於虛無之道，黠闇而不知，茫然而莫行也。

**言有宗，事有君。**

此釋易知易行所由也。宗，本也。君，主也。夫百家之言，言雖殊途而同歸於理，得理者忘言，故言以不言爲宗本矣。萬緒之事，事雖異趣而同會於功，成功而遺事，故事以無事爲君主矣。此以不言無事爲教，豈不易知易行邪？嚴君平曰：“夫聖人之言，宗於自然，祖於神明，常處其反，在言默之間，甚微以妙，歸於自然，明若無見，聰若無聞，通而似塞，達而似窮。其事始於自然，流於神明，常處其和，在爲否之間，清靜柔弱，動作纖微，簡易退損，歸於無爲。”

夫唯無知，是以不我知。

夫獨無知之下士，好竄句遊心於堅白同異之間，聞吾忘言遺事之旨，忽去不信而大笑之，是所以不知我之道大謂似不肖也。嚴君平曰：“夫世之莫我知者，非我之道小而不足知，又非我之事薄而不足爲也，又非世之好敗惡成喜禍樂患而不我從也。天性與我反，情欲與我殊，智者蹈校者按：《指歸》無者字，又蹈作陷。於情欲，終世溺於所聞，神氣不我安而心意不我然也。”

知我者稀，則我貴矣。

夫至道之言，有宗有君，惟明者知之，故稀少疏闊矣。得是道者，萬物尊之，故曰則我貴矣。開元御本作“則我者貴”。言法則我者貴矣。嚴君平曰：“故其明不我見，其聰不我聞，是以深言反而受謗，大行遠而得毀，獨見之明，不用於世，獨聞之聰，見羞於民，事順神明者，不合於俗，功配天地者，不悅於衆。”是以聖人被褐懷玉。

褐，裘也，賤者之服。玉，潔潤而比君子之德。夫聖人內蘊道德，喻懷玉也，外無文采，喻被褐也。是以內雖昭曠，外若愚昏，珠藏蚌胎，玉蘊石間，天下莫能知，則我道貴矣。凡聞妄知，聖人藏知，故次之以知不知。

（以上第七十章）

知不知，上；不知知，病。

夫聖人稟氣純粹，天性高明，內懷真知，萬事自悟，雖能通知，而不以知自矜，是德之上也。中下之士，受氣昏濁，屬性剛強，內多機智，而事夸大，實不知道，而強辯飾說以爲知之，是德之病也。莊子曰：“不知深矣，知之淺矣，弗知內矣，知之外矣。”此亦所謂知者不言、言者不知也。

夫唯病病，是以不病。

聖人真知妙本，洞達杳冥，是以六通四闢，上下無常，愧然無心，釋然無累，而又常患世俗妄執強知之病，動入死地、往而不返者，良可歎息，此明聖人慈心，獨能病患，世俗有此強知之病，其於聖德何病之有！則是真知不病，而強知病矣。

聖人不病，以其病病，是以不病。

夫聖人者能知無，知達道之機，損聰棄智，實無世病，慈仁哀憫，能病衆生

之病者，以其自無病也。使其有病，又安能病衆生之病哉？莊子曰：“人莫鑑於流水，而鑑於止水，唯止能止衆止，受命於地，唯松柏獨也正，校者按：《莊子·德充符》作在。冬夏青青，受命於天，唯舜獨也正，幸能正生，以正衆生。”此先能正己，然後能正群生，猶聖人不病，以其病病也。強知失道，觸冒致災，災數至而民不畏，故次之以民不畏威。

（以上第七十一章）

### 民不畏威，則大威至矣。

夫世俗不畏天威國威，則大威至矣，大威謂死兆也。君子畏天命、畏大人、畏聖人之言，夫人立身以畏爲本，若以小惡爲無傷而不畏，積之盈貫，以致乎大威至而不可逃也。嚴君平曰：“大威已至，乃始爲善，當是之時，道德不能救，天地不能解，非天之罪也。樂高安大，負威任勢，忘憂失畏，不求於己。故憂於身者，不恐於人，畏於己者，不制於彼，慎於小者，不懼於大，誠於近者，不悔於遠。”

### 無狎其所居，

古本作狎，習也。所居，謂所處也。言畏慎之人，凡居處當擇善鄰，無習惡友，清靜自守，卑退自持，災禍莫干，形全神王，斯畏慎之深也。開元御本作狹者，謂寬其所居之處，不可強梁自處，在乎和光容衆，不忤於物也。舊說：神所居者心也，人當忘情去欲，寬柔其懷，使靈府閑豫，神棲於心，身乃存也。

### 無厭其所生。

厭，惡也。道所生形，故曰所生。夫人不可厭惡其道，當服勤尊仰，畏道畏天，則可永保元吉。若縱其欲，厭道慢德，禍不旋踵矣。舊說：身所生者神也，人由神而生，所生謂神也。神明託虛好靜，人能洗心息慮，神自歸之。若嗜欲黷神，營爲滑性，則神氣散越而生亡，故勸令無厭所生之神，以存長久之道也。

### 夫唯不厭，是以不厭。

夫獨畏道畏天之土，惟精惟一，造次必於是，顛沛必於是，安有厭惡怠惰之心。是以天道密祐，降之百祥，是故交相保愛而不厭惡也。《開元御疏》曰：“惟精惟一者；《尚書·大禹謨》舜命禹踐位之詞也。曰：人心惟危，道心惟微，危則難安，微則難明，惟精惟一，可以允執厥中也。”校者按：此《廣聖義》文，非《開元御疏》也。

是以聖人自知不自見。

夫聖人先存諸己，而後存諸人。省己心原，自知善惡，澡雪滌除，使塵垢不入其舍，是之謂自知也。既而體道淵默，晝夜勤行，不賈術才能，燭亂於物，恐其違理失當，同乎不畏威者也。

自愛不自貴。

聖人葆愛其身，知身乃大道之所生，不縱嗜好，厭惡怠惰，傷於至理，虧損形神，是之謂自愛，若乃貪厚味，美服好色，音聲肆情，性之所安，耳目之所娛，自貴而賤物，是狎其所居而不能清靜自守，豈畏慎於細微者也。

故去彼取此。

若去彼自見自貴之懦縱，取此自知自愛之畏威，得尊道奉天之理，天道不厭惡於人，是故威罰外消，生道內足也。不爲爲惡、務於勇殺，故次之以勇於敢則殺。

（以上第七十二章）

勇於敢則殺，勇於不敢則活。

剛決爲勇。必果爲敢。夫剛毅之人，無所畏忌，見威不懼，必果無迴；恃其凶頑，便施誅戮，故曰勇於敢則殺。夫懷道之士，謹於去就，檢身知退，靜順柔和，弗敢有爲，不忍殺傷，故曰勇於不敢則活。

知此兩者，或利或害，天之所惡，孰知其故，是以聖人猶難之。

兩者謂敢與不敢、殺與活也。天地之大德曰生，聖人以慈爲實校者按：彭引作實而不樂殺人也。死者人倫之荼毒，含生之類皆惡之。勇於果敢者，殺之道也，勇於慈仁者，活之道也，若以此義守而不變，是未明天地殺生之權也。今曰或利或害者，是於殺活有所未定邪？夫人爲不善於顯明之處，人得而誅之，爲不善於幽閑之所，鬼得而殺之，此雖大聖之慈、天道之仁，不能憫救也。若乃宥而赦之，必有反報之禍。夫有可以殺而殺之者，有可以活而活之者，有可以殺而不可殺者，有可以活而不可活者，有活之而爲禍者，有殺之而爲福者，何邪？然天之所惡，而人孰知其故。若非體真造化，安知禍福之端、利害之元，雖有聖人之明，猶難於勇敢之事，況非聖人而敢私心殺活哉？故猶難之也。嚴君平曰：“凡此二功，勇敢敢均，計策桀馳，射身相非，與天異意，與地異心，奮情舒志，各肆所安，或以千乘變爲亡虜，或以匹夫轉校者按：《指歸》作化。爲君王，故物或生之而爲福，或

生之而爲禍，或殺之而爲福，或殺之而爲賊，二者深微、莫能窮測也。”

**天之道，不爭而善勝。**

夫天道自然平施，不逆萬物而萬物自專之，豈與人校其敢與不敢、殺與活哉？然而人自服從者，不與物爭而能善勝者也，所謂勝物而不傷，非由勇敢也。

**不言而善應。**

天何言哉！四時行焉，百物生焉，福善禍淫之應，信不差矣。

**不召而自來。**

天道高遠，又無言教，何嘗呼召萬物，而萬物皆背陰嚮陽、春生秋實者，陰陽生殺之正令也。

**默然而善謀。**

開元御本、河上公本並作“緘然”。嚴君平本作默，王弼本作坦。夫天道寂默無情，至公不二，行吉者以吉祥報之，行凶者以凶祥報之，其於人偷生殺之威，象緯行度之軌，未嘗差忒，豈非善能謀畫者也。

**天網恢恢，疏而不失。**

張自然之羅，故曰天網，縱太虛之寬，故曰恢恢，四達皇皇是謂疏，幽明難逃是謂不失也。勇敢則殺，常不畏死，故次之以民常不畏死。

（以上第七十三章）

**民常不畏死，奈何以死懼之。**

不畏死有二義：達者得其常理而不畏死，愚者失其常理而不畏死。夫人生而靜天之性，樂生惡死人之常，耕而食，織而衣，安其居，樂其業，養生葬死，此世之常禮也。夫民存常性，官守常法，而無枉濫，皆得其死。民生死得常，則何畏之有？逮德下衰，不能無爲，禁網繁密，民不聊生，盜竊爲非，欺給生亂，小恐惴惴而懷驚，大恐縵縵而忘死，如何刑法滋深，主司暴酷，更以大辟族誅之令恐懼良民哉？古本作“如之何其以死懼之”。

**若使民常畏死，而爲奇者吾得執而殺之，孰敢？**

畏死亦有二義：養生謹慎之人，畏夭死而脩德也；造惡偷安之人，畏刑死而矯法也。且人之自然也，含哺而熙乎憺怕，鼓腹而遊乎混茫，而不知老之將至，此順化之民也。今乃法令滋彰，動入死地，是使民常畏死也。民畏死則偷安其



生，而興奇變姦詐之心，以矯其法令，姦詐生而禍亂作，則主司者得專執而殺戮之，欲其姦詐絕蹤，誰敢犯之者哉！

**常有司殺者殺，**

河上公曰：“司殺者謂天居高臨下，司察人之過，天網恢恢，疏而不失。”言天鑒孔明，無所不察，何須椎拍輓斷、深嚴刑典也。杜光庭曰：“司，主也。天之養人也厚，愛人也至，南宮丹錄賞善而司生，北宮黑簿紀過而主死，天地萬神，司察善惡，以懲以勸，俾其革惡而遷善也。故有功者延年，有罪者奪筭，毫分無失，如陽官之考較焉。天有司命四司之星，在虛危之間，主人功過年壽。所謂天之司殺也，糾察罪福，使世人知脩善戒惡焉。人君以善教人，動懷慈恕，其不善者，天之司殺當自殺之，天網寬大，疏而不漏，違天反道，於何逃罪哉！”

夫校者按：原訛作天。代司殺者，是謂代大匠斲。

夫主司伺察，專任刑法以代造化生殺之權者，如拙夫之代良工也。

**夫代大匠斲，稀有不傷其手者矣。**

夫以拙夫而代良匠斲木，豈唯殘材毀璞，校者按：原訛作撲。抑亦傷手碎指矣。以喻主司代造化生殺之權，而輕肆其刑政，不惟誤害良民，抑亦斲傷和氣。夫天道高明，人識近蔽，用近蔽之人，代高明之天，以致物理繆誤而失自然之洽矣。民不畏死，惟懼於飢，故次之以民之飢。

（以上第七十四章）

**民之飢，以其上食稅之多，是以飢。**

夫民者，國之本也，政令煩則賦歛重，民貧乏則國本弊，是以君待民而食，上資下而立，君稅取多則上下同飢，剥下盈上則君人俱弊。杜光庭曰：“立法垂憲，古有明文，食也充君之庖，稅也輸國之賦，什一之稅，務在其輕，賦重則民貧，賦輕則民足，民足則國泰，民貧則國危，理在酌中，法無太酷，所以鑄刑書而物怨，作丘賦而邦貧，齊侯以重歛致亡，田氏以厚施成霸，皎然在目，君宜鑒焉。

**民之難治，以其上之有爲，是以難治。**

有爲則政煩，無爲則簡易，易則易從，煩則難治。夫上有擊鮮玉食之厭，則下有腐糗糟糠之美，網密令苛，故難治也。

民之輕死，以其求生之厚，是以輕死。

夫政令煩苛，賦歛重大，而民亡本業，亡業則觸法犯禁，輕就死地，以其各求養生之具太厚，致有蹈水火而不懼，逆白刃而不驚者，故曰是以輕死。

夫唯無以生爲者，是賢於貴生也。

夫貪生趨利，如羊就屠，自速其死耳。獨有外形忘生者，處皂隸而不辱，食藜藿而常甘，雖世事嶮巇，亦陸沉而安穩，是有以異乎貴生者也。貴生，益生也，又自貴也。自貴其生者，謂身欲安逸，口欲厚味，形欲美服，目欲好色，耳欲音聲，若不得則大憂以懼，以至乎過貪分外而輕入死地也。民飢則精神散而輕死，足則柔和全而重生，故次之以民之生也柔弱。

（以上第七十五章）

民之生也柔弱，其死也堅強。

夫民之生也，含元和之氣，抱真一之精，形全神王，故其百骸柔弱。及乎死也，元和之氣散，真一之精竭，形虧神亡，故百骸堅強也。

萬物草木生也柔脆，其死也枯槁。

夫萬物草木生也，則天地之氣流行乎內，陰陽之液潤澤乎外，故春條青青而可結、夏葉敷榮而可卷者，柔脆也。逮乎死也，則天地之氣消散乎內，陰陽之液乾燥乎外，故秋實丹黃而凋落，冬枝焦朽而可折者，枯槁也。前明有識，此舉無情，無情者以氣聚散爲榮枯，有識者以道存亡爲生死。

故堅強者死之徒，柔弱者生之徒。

《開元御疏》曰：“草木生則柔脆，死則堅強，則知人爲堅強之行，是入死之徒，爲柔弱之行，是出生之類也。”嚴君平曰：“陽氣之所居，木可卷而草可結也，陽氣之所去，水校者按：《指歸》作氣。可凝而冰可折也。故神明陽氣生校者按：《指歸》生下有一物字。之根也，柔弱物之藥也，柔弱和順，生長校者按：《指歸》作長生。之具，而神明陽氣之所託也，萬物隨陽氣以柔弱也。故堅強實校者按：《指歸》實下有滿字。死之形象，柔弱潤滑生之徒類校者按：《指歸》作區宅。也。”

是以兵強則不勝，

王真曰：“夫兵者凶險之器、鬪爭之具、所觸之境與敵對者也。兵強則君逸校者按：王真《道德經論兵要義述》作主不憂，下同。而將憊，將憊則卒暴，以逸君御憊

將，僑將臨暴卒，且敗覆之不暇，何勝敵之有哉！故桀紂以百萬之師而傾四海，始皇以一統之業而喪九州，項羽忽霸而遽亡，王莽既篡而旋滅，苻堅狼狽於淮水，隋煬分崩於楚宮，此數家之兵，皆多至數兆，少猶數億，無不恃其成以取敗，此皆兵強不勝之明驗也。”又兵者求勝非難，持勝其難，唯有道之君，乃能持勝，向數君之敗，皆由不能持勝之過也。

**木強則共。**

《開元御疏》曰：“木本強大，故處於下，枝條柔弱，共生於上，蓋取其柔弱在上，強梁者在下”故也。

**強大處下，柔弱處上。**

夫木之強幹大本常處於下，柔條弱枝常處於上，木猶如此，況於人乎？況於國乎？生氣存則柔弱，柔弱者謙之道，天道好謙，故次之以天之道。

（以上第七十六章）

**天之道，其猶張弓乎？**

《開元御疏》曰：“天道高者按：《御疏》高作玄。遠，非喻莫明，故舉張弓之法，以昭天德之用。”

**高者抑之，下者舉之，有餘者損之，不足者與之。**

《開元御疏》曰：“夫弓之爲用，當合材定體，令弛張調利。抑高舉下者，爲架箭之時準的也，損有餘與不足者，爲發矢之時遠近也，如此則命中矣。”次結歸天道。《易》曰：“立天之道曰陰與陽。”陽主升，陰主降，陽升極天則降，陰降極地則升，此抑高舉下張弓之象也。天道盈虛，一章七閏，損日之有餘，補月之不足。日月寒暑，一往一來，則歲功成矣。人君當法天道，抑強扶弱，損有利無，故舉虧盈益謙，欲令稱物平施爾。嚴君平曰：“夫工人之爲弓也，無殺無生，無翕無張，校者按：上四無字《指歸》併作既。制以規矩，督以準繩，弦高急者寬而緩之，弦弛下者攝而上之，其有餘者削而損之，其不足者補而益之，弦質相任，上下相權，平正爲主，調和爲常，故弓可攄，校者按：原作秤，據《指歸》正。而矢可行。夫按高舉下、損大益小，天地之道也。”

**天之道損有餘補不足，人之道則不然，損不足以奉有餘。**

《開元御疏》曰：“此明人道不能同天道之損益而哀多益寡也。”在《易》之

損下益上曰損，損上益下曰益，以下爲本也。䷩損，損下益上，其道上行，夫在泰卦，而損下益上，遂變而爲損。䷩益，校者按：益字原缺，據彭引及《易經》補。損上益下，民說無疆，夫在否卦，而損下益上，遂變而爲益。此聖人設卦觀象之法也。

**孰能以有餘奉天下，唯**校者按：原訛作雖。**有道者。**

此設問答詳解其義。問曰：誰能同天道下濟以卹於人，減損有餘之爵祿，以奉天下孤寒不足之人乎？答曰：唯有道之士、聖君哲人乃能然也。而言奉者，明聖君居物之上，心不忘下，一如卑者之奉尊，不以高貴加人也。

**是以聖人爲而不恃，功成不處，其不欲見賢。**

夫聖人者，圓通爲智，因物爲心，**鑒**校者按：原訛作整，據彭引及《莊子·大宗師》改正。萬物而不爲義，澤及萬世而不爲仁，長於上古而不爲壽，覆載天地刻雕衆形而不爲巧，豈以己所施爲矜恃其美，功成事遂固處其位哉？夫惟不恃不處，故能爲群材之帥也。天道益寡損餘，抑高舉下，唯有道者法之柔弱，故次之以天下柔弱莫過於水。

（以上第七十七章）

**天下柔弱莫過於水，而攻堅強者莫之能勝，其無以易之。**

夫天下之物，柔弱之極者無過於水，而貫金石攻堅強無有能勝之者，又爲人壅止決流、處方置圓、坎險高下、汙瀆百數，以其柔弱之性終無以移易之。

**故柔勝剛、弱勝強，天下莫不知、莫能行。**

夫水之滅火，陰之制陽，舌柔而存，齒剛則折，此天下莫不知、世俗之所共聞也。而乃各師其心，莫能行其柔弱之道，老氏所以重歎息，故引聖人之言以明柔弱之行也。

**是以聖人言：受國之垢，是謂社稷主。**

聖人言者，三墳之遺文也。或老氏謙辭。言人君能含受垢穢，引萬方之罪在余一人，余一人有罪，無以汝萬方，則民仰德美而不離散，可以常奉社稷而爲主矣。《鴻烈解》曰：“晉伐楚，三舍不止，大夫請擊之。莊王曰：先君之時，晉不伐楚，及孤之身而晉伐楚，是孤之過也，若何其辱？群大夫曰：先臣之時，晉不伐楚，今臣之身而晉伐楚，此臣之罪也，請王擊之。王俛而泣涕沾衿，起而拜群

大夫。晉人聞之曰：君臣爭以過爲在己，且輕下其臣，不可伐也，夜還師而歸。此受國之垢，是謂社稷主也。”帝王立國，左宗廟而右社稷，宗廟以尊祖配天，社稷以尊稼穡、備粢盛，爲生民粒食之本也。人之食爲天，故有國必先社稷而王者爲之主也。

**受國不祥，是謂天下王。**

人君能謙虛用柔，受國不祥，則四海歸仁、六合宅心，是謂天下王矣。傳曰：“山澤納汙，國君含垢”是也。《鴻烈解曰》：“宋景公之時，熒惑在心，公懼，召子韋而問曰：熒惑在心，何也？子韋曰：熒惑，天罰也。心，宋分野。禍且當君。雖然，可移於宰相。公曰：宰相所校者按：所字原缺，據《淮南》補。使治國家也，而移死焉，不祥。子韋曰：可移於民。公曰：民死，寡人誰爲君乎？子韋曰：可移於歲。公曰：歲，民之命，歲飢，民必死，爲人君而欲殺民以自活，其誰以我爲君乎？寡人之命固已盡矣，子無復言。子韋再拜曰：敢賀君，天處高而聽卑，君有君人之言三，天必三賞君。今夕星必徙三舍，舍行七里，故君延年二十一歲，臣請伏於陛下以伺之。是夕也，星果徙三舍。”此受國不祥爲天下王也。

**正言若反。**

夫能行柔弱，則爲君主；尚剛強，則招禍咎；聖人受垢惡，永保元吉；世俗樂美榮，終致災凶；正言俗意乖反如此。水之受垢，衆惡皆和，故次之以和大怨。

（以上第七十八章）

**和大怨，必有餘怨。**

國君不能無爲謙弱，民乃多欲好爭，遂使輕生徇死之徒，攘臂於道術，而國君設教立法以繩之。殺人者死，傷人者刑，以和報其怨，而翻濟其怨，有怨而和之，未若無怨而不和也。徒知和其大怨，而不省其大怨之所由興，雖和之以至公，而不免有餘怨；是猶代大匠斲木，稀有不傷其手矣。若乃以無心至德報之者，幾乎造物哉？

**安可以爲善。**

夫聖賢本以刑政和報其怨惡，奈何姦詐愈甚而怨望益多，如是則安可以爲善哉？

**是以聖人執左契而不責於人。**

陸希聲曰：“古者結繩爲約而民不欺，破木爲契而民不違者，聖人無常心，以百姓心爲心也。聖人之心與百姓心猶左右契耳，契來則合而不責於人，故上下相親、怨用不作。”李榮曰：“古者聖人刻木爲契，君執其左，臣執其右，合之以爲信，不復制以法律，故不責於人。”不責，何怨和之有。

**故有德司契，無德司徹。**

徹，通也，道也。司，主也。有德者，謂中古之君，無文書法律，但刻契合符以爲信約而民自從化，故稱有德也。無德謂遠古之君，德大無名，物皆自然，穴處巢居，各安其分，其君無思無慮，朝徹見獨，不爲不恃，道冥德淵，無契可司，但司其通徹而已，故稱無德焉。此杜光庭說也。舊說以徹爲迹，或謂作軌法以導人則凋弊生，故曰無德也。今取杜說爲長。

**天道無親，常與善人。**

天道無私，惟善是與，所謂天網恢恢，疏而不失，是以上善之人自然符會，何用司契而責於人哉？此復太古之風也。和怨則怨未盡，息怨則無爲，無爲則在小而不貪，故次之以小國寡民。

（以上第七十九章）

**小國寡民，使有什伯之器而不用。**

什，伍也。伯，長也。器，材器也。夫國小能自守，民寡能自足，可以反乎太古矣，使民各有部曲什伯，令其貴賤不相犯，由君之無爲，故民資業豐盛、材器偉奇而無所施用，此至治之極也。

**使民重死而不遠徙。**

君無爲則德化淳，民質樸則不輕死，崇本棄末，耕食織衣，各戀舊鄉而不遷徙，雖軒皇、几蘧之治，不足過也。

**雖有舟輿，無所乘之。**

剡木爲舟以濟水，斲輪爲輿以通陸，蓋適遠之用也。今論守道之君，大國不過欲兼畜人，小國不過欲入事人，不相侵奪，不相貿易，有舟有車，棄而弗用。莊子曰：“至德之世，山無蹊隧，澤無舟梁，萬物群生，連屬其鄉。”此之謂也。

**雖有甲兵，無所陳之。**

甲兵所設，本以討逆臣、禦亂寇而已，君既無爲，下乃守職，百姓不撓，四

境帖然，則甲兵無所陳設也。

**使民復結繩而用之。**

《開元御疏》曰：“古者書契未興，結繩紀事。”《繫辭》曰：“上古結繩而治，後代聖人易之以書契。”結繩之世，人人淳樸，文字既興，詐僞日漸，今將使人忘情去欲，歸於淳古，故使民復結繩而用。

**甘其食，美其服，安其居，樂其俗。**

夫君上無欲而民自樸，嗜好不生，民乃知足，雖蔬食藜羹而飽食淡味爲甘，葛衣鹿裘而溫涼無文爲美，茅茨蓬蓽而風雨不侵爲安，南炎北沍而水土任適爲樂，自然俗無夭傷、土無札瘥也。

**鄰國相望，雞犬之音相聞，民至老死不相往來。**

鄰國相望，言郡縣相接也；雞犬相聞，謂民豐境近也；民至老死，言無戰敵而壽終；不相往來，猶魚相忘於江湖、人相忘於道術。此可以同赫胥、尊盧氏之風也。民各知足則信實而不華，故次之以信言不美。

（以上第八十章）

**信言不美，美言不信。**

信實之言，淡乎無味，其猶水也，淡則能久，不美者以其質也。美好之言，甘而滋溢，其猶醴也，甘則易絕，不信者以其華也。

**善者不辯，辯者不善。**

善於心者貴能行，不辯者本其素樸，辯於口者貴能說，不善者滯於是非。

**知者不博，博者不知。**

夫知者，謂知道也。明理知本，得其要而已，何必博乎？所謂少則得也。《西昇經》曰：“子得一而萬事畢，無心得而鬼神伏也。”博謂博通物務攻異端，求彼是而已。不知者，謂多則惑也。莊子曰：“文滅質，博滅心。”是矣。

**聖人不積，既以爲人己愈有，既以與人己愈多。**

積者蘊聚也。聖人道濟天下，不蘊德以自高，積而能散，不蓄財以自潤，既不滯功於外，亦不聚智於內，二者俱通，故曰不積。莊子曰：“天道運而無所積，故萬物成；帝道運而無所積，故天下歸；聖道運而無所積，故海內服。”夫聖人所以不積者，演道德以爲人，人受其益而聖德愈明，如鑑照人，不藏好惡，而鑑

之明未嘗少減，此喻內智也。分財利以與貧，貧受其賜而財愈多，如井任汲，普蒙利潤而井泉清徹不竭，此況外功也。開元御本二句並作“既以與人”。

天之道，利而不害。

天道陽也，故好生而惡殺，春夏生育之，秋冬成熟之，是利而不害也。

聖人之道，爲而不爭。

夫聖人之道，在所施爲也，所爲順理，不與物爭者，是以法天道而然也。信言不美，絕辯忘言，強名復混，還歸妙本也。

（以上第八十一章）

右《老子》經二篇，統論空洞虛無、自然道德、神明太和、天地陰陽、聖人侯王、士庶動植之類，所謂廣大而無蘊，細微而無不襲也。約而語之，上之首章明可道、常道爲教之宗，叙體而合乎妙，上之末章以無爲無不爲陳教之旨，叙用而適乎道。故體用兼忘、始末相貫也。下之首章明有德無德爲教之應，因以時之澆淳而次乎妙也，下之末章以信言不信言爲教之用，任物之華實而施乎道也。是因時任物而不逆不爭，是有其元德而大順於造化，復其常道而入於妙門者矣。

按《宋史·藝文志》所載，陳景元《道德經注》或《道德經藏室纂微》，皆爲二卷。據《纂微開題》，亦言上下二卷八十一章，與《宋志》相合。《正統道藏》中《纂微》十卷者，蓋《道藏》每喜開析卷帙以虛張卷數，非其朔也。《道藏·纂微》雖分十卷，然不分章，不標章名、章次，僅於每章末用雙行小字叙與下章相次之故，亦足見每章起訖與王弼、河上不殊，並可略知其章名。且於第五十六章、第五十七章注內稱“第五十二章”、“第四章”、“第四十八章”云云，知其亦有章次。故今茲整理，但分二卷，從其朔也；每章間空一行，並於章末另行括號內注明章次，非僅便於檢閱，或亦碧虛之意也。整理時於文句有疑惑處則予檢校，其可資參攷者則以校者按小字注於當家句下，其明顯訛誤者則徑改不注。



## 附錄：碧虛真人行事本末

薛致玄

碧虛真人姓陳氏，諱景元，字太初，玄號碧虛子。家世建昌，曾大父知遜，大父令忱，並事親以孝聞，皆養高不仕，先府君正擢進士第，解胸許玉切山令，寓居高郵，以疾終，母夫人居貧無以歸，子男四人，真人季焉。逮除祥而伯仲繼夭，乃介然獨有方外志。慶曆二年，即高郵天慶觀禮崇道大師韓知止爲師，三年試經，度爲道士。十八負笈遊名山，抵天台，閱三洞經。遇高士張無夢，得老莊微旨，爾後隱逸於江淮間，以琴書自娛。久之，欲觀光京輦，維揚使君禮部侍郎王琪，以詩薦於王岐公云：鼇山舊詞長，還喜見方瞳。時岐公爲翰林承旨，且喜其來，俾隸籍於瑞雲，由是上宮觀請講《道德》二篇及《南華》，臺臺不絕，於時公卿大夫無不欲爭識者。於是醴泉觀提總奏充本觀修撰，遇邛王謁真君祠，下召問道家事，以該通奏賜紫衣。神宗設普天大醮，有敕令修撰青詞，進上稱旨，復令預建章閣同天節修奉，因召見，賜真靖之號。熙寧五年，進所注《道德經》，御札批降中書云：陳景元所進經，剖玄析微，貫穿百氏，厥旨詳備，誠可取也。其在輩流，宜爲獎論，特充右街都監同簽書教門公事。羽服中一時之榮，鮮有其比。謁告還高郵葬親，上時命中使賜白金三十鎰，仍宣諭云：比期中太乙宮成，俾陳景元主之。逮還闕，令選舉博加精進戒潔之士，共不過二十人同焚修者。六年十一月十二日延和殿引見，各錫賚差等，十五日奉安太乙。翊日，聖駕詣宮，朝謁禮畢，於延祺殿召見，特轉額外右街副道錄，並度弟子三人。仍本宮每歲許度弟子一人，月給齋糧米六十斛，緡二萬錢，兼給賜南北兩莊土田以贍衆。久之，以事累稠還，乞去，隱廬阜。有司具以奏，朝廷不允。復有旨主本宮事，令官吏不干預。每歲增賜度牒二道，續奉敕旨以九等齋科訛舛，普天聖位升降無倫理，令有司置局，選道士三人備檢討，俾真人考校之。命右諫議大夫李肅之、樞

密直學士孫永充提舉，承議郎楊傑充管勾刪潤，書成進上，賜束帛度牒紫衣師號，仍許頒行。於時朝廷欲進封九天採訪使及五嶽丈人，大丞相請真人著衣冠服色位號，真人遂乃擬定程式，方進封採訪使，爲應元保運真君五嶽丈人，爲儲福定命真君。所隱有軒曰種玉，自大丞相吳奎、左相蒲宗孟、翰林學士王岐公而下，一時宗工鉅儒、洎賢士大夫，以篇什唱酬送遺者甚多，以其辭煩，故不備錄，附於別傳。在京道官十二員，祖宗朝以京城內外宮觀主焚修勤績者充，公輒奏請，凡闕員乞試《道德》、《南華》、《靈寶度人》三經十道義，上喜其請，降編修所，而後道家之學翕然一變，自茲始也。元豐六年，罷本宮事，歸隱茅山，刊正三洞經法，四方采真之士投迹者熙熙然。久之，科簡巾囊遊嵩少卜鍊丹之所。元祐三年，因過京師，爲中太乙宮主者而下，以宮之經始，真人有力焉，乃挽籃輿而留之，願備芝朮之奉。未幾，朝廷復還右街道錄職。右僕射蘇謂曰：“真靖當以所業授門弟子，不爾，則恐陶葛之學不傳於來世。”所藏內外書數千卷，皆素所校正。又親札三百卷，善小楷，深得歐褚法，所著書《藏室纂微》二卷、《南華經章句》七卷、《總章》三卷、《抄義》三卷、《寶珠妙義》三卷、《膚解》一卷、《翼真檢後義》一卷，續《高士傳》，改爲《退身傳集》，三注《通玄經》，四注《度人經》，解注《西昇經》。晚節竭簋、市絳陵、埏神室、烹金液，以必九還七返之妙，稍彷彿，而迫以天年，居常好餌雲母粉，仍自謂早年嘗服丹砂，雖垂白而容顏肌膚如少壯人。紹聖元年五月末，無疾而忽不嗜食，但飲水而已，延至六月十三日午，初俄索沐浴更衣，召門弟子列於前，謂曰：爲我寫門狀云：參童初府仙衆，寫已，即俾齋堂外以火化之。又令敷坐，具向西北，遂竦身瞻天門、微叩齒，復坐，命侍者具牋管書頌以示衆曰：“昔之委和，今之蛻質，非化非生，返吾真宅。”言訖，神氣之出猶長嘯聲，安然而化。崇朝權厝於宣化門外養生院。自形寂而至遷神時，正隆暑，姿容儼然如生。都人傾瞻者無長少貴賤莫不贊歎。享春秋有七旬。度門弟子許修真而下四十人。至仲秋哉生明，葬蛻質於本宮所賜之墳園。掩壙時，忽有三蛟蝶栩栩然翔舞於壙之前，乃至移時，壙築平，飄飄然東南而逝。集賢殿修撰王 爲碣銘云：“於戲！有唐司馬子微之坐忘，吳貞節之文章，杜光庭之扶教，三公雖異時傑出，而先生兼而有之。”其彥詠之如是。雖朝廷鉅公、天下鴻儒，接識則與之抗禮，無所屈然。推其爲學，老且不厭，所以琅函寶笈、金簡玉書，悉探蹟神奧。至於傳會燕居，明敏橫辯，談老莊

前世有所闕疑，皆別白其要妙。凡詩篇雜文，得陶葛體，故語句野逸清勁，公卿大夫莫不嗟惜之。芝蓋解駕，昇虛入寂，莫測其津涯，但想象仙標相與講遺德耳。

錄自《正統道藏》薛致玄《道德真經藏室纂微開題科文疏》卷一。

## 重編陳景元《莊子注》

碧虛子 陳景元 造

### 叙

太史公曰：莊子嘗爲蒙漆園吏，著書十餘萬言。《漢書·藝文志》：《莊子》五十二篇。《隋書·經籍志》：向秀《注》二十卷，郭象《注》三十三卷，又梁曠有《南華論》二十五卷。陶隱居《真誥·叙錄》曰：莊子受長桑公微言，撰《內篇》七卷，以三言爲題者，當是法璇璣之環轉，三景之煥明。故造《真誥》編爲七目，亦用三字爲標。隱居著述，蓋有所宗焉。唐天寶中，詔冊《莊子》宜依舊號曰《南華真經》，是知南華之義所來尚矣。僕自髫角，好誦是經，非事趣時破卷而已，斯乃道家之業，務在長生久視，毀譽兩忘，而自信於道矣，豈與有待者同日而論哉！今述《章句》，復成七卷，謂離章辯句、委曲枝派也。以《逍遙遊》、《齊物論》、《養生主》、《人間世》、《德充符》、《大宗師》、《應帝王》七篇爲內，實漆園命名之篇也。其次止以篇首兩字或三字爲題，故有外篇十五篇、雜篇十一篇。或謂外、雜篇爲郭象所刪修。又按陶隱居曰：莊子作內外篇，而不言其雜篇。復覽前輩注解，例多越略，殊難稽考。今輒於二十六篇之內，取兩字標目

而一段成篇者，得《駢拇》、《馬蹄》、《肱篋》、《刻意》、《繕性》、《說劍》、《漁父》七篇，以配內立名，而曰外篇。其次《讓王》、《盜跖》、《在宥》、《天地》、《天道》、《天運》、《秋水》、《至樂》、《達生》、《山木》、《田子方》、《知北遊》、《庚桑楚》、《徐無鬼》、《則陽》、《外物》、《寓言》、《列禦寇》、《天下》十有九篇，比乎內、外之目，則奇偶交貫，取其人物之名，則條列自異，考其理則符陰陽之數，究其義則契言默之微，故曰雜篇。今於三十三篇之內，分作二百五十五章，隨指命題，號曰章句；逐章之下，音家解義，釋說事類，標爲章義。書成，嘗數其正經，得六萬五千九百二十三言，合馬遷之所記，十亡其四矣。復將中太一宮寶文統錄內有《莊子》數本，及笈中手鈔諸家同異，校得國子監景德四年印本，不同共三百四十九字，仍按所出，別疏《闕誤》一卷，以辯疑謬；《公孫龍》三篇，以備討尋。烏乎！後之學者，不幸不見漆園簡策之完、篇章之大體，妙指浸爲諸家裂。元豐甲子歲上元日叙。

## 內篇・逍遙遊 一

莊子姓莊名周，或字子休，宋之蒙城人也，與梁惠王、齊威王同時，嘗爲漆園吏。師事長桑公子，受其微旨，著書十萬餘言，目之曰《南華論》。其學本於黃老。又師楚人蜎淵，後隱於抱犢山，服北育火丹，白日昇天，補太極闡編郎。唐開元十九年五月四日，侍中裴光庭請冊四子，天寶元年二月二十日詔冊《莊子》宜依舊號曰《南華真經》、《文子》號曰《通玄真經》、《列子》號曰《冲虛真經》、《庚桑子》改爲《洞靈真經》。南華者義取離明英華、發揮道妙也。

內七篇目，漆園所命名也。夫人能无己，然後功名泯絕，始可以語其《逍遙遊》矣。逍遙遊者，以其獨步方外，矜誇未忘，故次之以《齊物論》。夫齊也者，忘物而自齊也，而未齊者即有彼我之論焉，彼我循環入環中之空則齊矣。能以空自齊者，未識死生之主，故次之以《養生主》。主者精神骨髓之真君也，形猶薪也，主猶火也，夫能存火者薪也，薪盡則火滅矣。唯善養者莫知其盡，復有獨耀者不能與人羣，故次之以《人間世》。夫處汙而不染者，善能和光同塵，同塵故有德，故次之以《德充符》。德形則物忘，唯隱晦者才全，才全則可以爲師，故次之以《大宗師》。爲師者莫如真人，真人豈得有心哉，無心則可以貳造化，故次之以《應帝王》。夫帝王者大道之原，教化之主，居四大之一，爲萬物之尊，廣矣深矣，相者莫能測矣，其《駢拇》而下，別無指義編次，皆重複衍暢七篇之妙云。

## 順化逍遙

北冥本亦作溟，覓經切。嵇康云：取其溟漠无涯也。梁簡文帝云：官冥无極也。有魚，其名爲鯢，公渾切。《爾雅》：魚子也，名鯢者，謂魚卵初化，未辨鯨鯢，取其混同之義，蓋言鯢爾，鯢之將大，不知其幾千里也。鯢之大，不知其幾千里也，化而爲鳥，其名爲鵬，古字作朋，以爲朋黨之義，故出聲與禽不別也。蓋言朋輩爾，朋之將飛不知其幾千里也，鵬之背，不知其幾千里也。怒而飛，其翼若垂天之雲，是鳥也，海運則將徙於南冥。南海也，義同北冥。南冥者，天池也。齊諧戶皆切。司馬彪云：人姓名。簡文云：書名。者，志怪者也。諧之言曰：鵬之徙於南冥也，水擊三千里，搏徒端切。鳥飛空以爪搏風，作勢騰翥也。扶搖《爾雅》云：颶風也。而上者九萬里，去以六月息者也。野馬也，塵埃也，生物之以息相吹也。天之蒼蒼，其正色邪？也嗟切。助句不定之辭，後倣此。其遠而無所至極邪？其視下也，亦若是而已矣。見文如海本，舊作則。且夫水之積也不厚，則負大舟也無力，覆杯水於坳堂於交切。成元英云：堂庭坳陷之地。之上，則芥吉邁切。李頤云：小草也。爲之舟，置杯焉則膠，吉肴切，又如字。李云：黏也。水淺而舟大也。風之積也不厚，則其負大翼也無力。故九萬里風斯相支切。析也。在下矣，而後乃今培薄回切。益也。《禮記》曰：墳墓不培。培猶治也。風，背負青天，而莫之夭於表切。司馬云：折也。闕於葛切。司馬云：止也。李云：塞也。者，而後乃今將圖南。蜩田聊切。司馬云：蟬也。與鸞鳩於角切。本亦作學，或作鸞，音預。司馬云：小鳩也。《毛詩草木疏》云：鸞鳩，斑鳩也。笑之曰：我決喜缺、乎穴二切。李云：疾也。起而飛，搶七良切。司馬云：集也。崔云：著也。支遁云：突也。榆音踰。木名。枋而止，音方。李云：檀木也。文如海及江南古藏本作“搶榆枋而止”。時則不至，而控苦貢切。司馬云：投也，引也。崔云：叩也。于地而已矣，奚以之九萬里而南爲！適莽莫浪、莫朗二切。蒼七蕩切，又如字。成云：郊野之色，遙望之不甚分明也。者，三飡七丹切。而反，腹猶果然。文本作顙，飽貌。適百里者，宿春束容切。糧。音良。適千里者，三月聚糧。彼之二蟲又何知也。見文本，舊作“之二蟲又何知”。小知不及大知，小年不及大年，奚以知其然也？朝菌其隕切。司馬云：大芝也，天陰生糞上，見日則死。一名白及，故不知月之終始也。崔云：糞上芝，朝生暮死。晦者不及朔，朔者不及晦。支遁云：舜英，朝生暮落。潘

尼云：木槿也。簡文云：歛生之芝也。不知晦朔，朔，旦也。晦，冥也。螻蛄，音惠。蛄音姑。司馬云：螻蛄，寒蟬也。一名蜉蝣，春生夏死，夏生秋死。崔云：蜉蝣也，或曰山蟬，春鳴者不及秋。秋鳴者不及冬。《楚詞》云：寒蜩也。一云夏蟬也。生於麥梗之中，亦謂之麥節，夏生秋死，故不知春秋也。不知春秋，此小年也。楚之南有冥靈本作榱。李云：木名也，生江南，以葉生爲春，葉落爲秋，此木以二千歲爲一年。者，以五百歲爲春，五百歲爲秋，上古有大椿丑倫切。李云：生江南。一云生北方也，此木三萬二千歲爲一年。者，以八千歲爲春，八千歲爲秋，此大年也見成本。舊闕。而彭祖成云：姓錢名鏗，帝嚳之遠孫，善養性，能調鼎，進雉羹於堯，堯以其善調味，必能養生，善養生者必能養人，遂封於彭城，其道可祖，故謂之彭祖，歷夏經商至周八百歲。乃今以久特聞崔本作“待聞”。衆人匹之，不亦悲乎！

夫道以生化爲先，以陰陽爲原，北冥生鯤，化而爲鵬，氣形已具，皆不知所以然而然，蓋陰陽生化神變莫測者也。物之初變，量未可窮，故云不知其幾千里。有生必有所詣，故怒飛而徙於南冥，有生有詣，材力不能無限，故水擊三千里，搏扶搖而上者九萬里。而去以六月息，六，陰數，故云息也。天地之間，元氣氤氲，昇降往復，故有野馬塵埃之喻。有生之物，莫不互以息氣鼓吹而交相乘御，故彷徨東西，莫之夭闕也。若以形之小大而有所域，則陰陽隔絕，上下異見，莫之能適矣。

## 極變逍遙

湯《史記》云：謚法：除虐去殘曰湯，帝嚳之後，契之苗裔，姓子字天乙，有聖德，放桀於南巢。之間棘李云：湯時賢人，博物者也。也是已：窮髮崔云：北方无毛地也，山以草木爲髮。之北，有冥海者，天池也。有魚焉，其廣數千里，未有知其脩者，其名爲鯢。有鳥焉，其名爲鵬，背若泰山，翼若垂天之雲，搏扶搖羊角司馬云：風曲上行若羊角。而上者九萬里，絕雲氣，負青天，然後圖南，且適南冥也。斥昌石切。指名也，一曰大也。鵩亦作鵩，於諫切，雀類也。笑之曰：彼且奚適也，我騰躍而上，不過數仞而下，翱翔五刀切。回飛也。蓬蒿之間，此亦飛之至也，而彼且奚適也。此小大之辨也。故夫知效一官，行下孟切。比毗至、扶至二切。李云：合也。一鄉，德合



一君，而《玉篇》音能，奴登切。《說文》熊屬，足似鹿，能獸堅中，故稱賢能也。或如字，而，安也。《易》：“宜建侯而不寧。”鄭氏讀，今不取。徵如字，司馬云：信也。崔云：成也。一國者，其自視也，亦若此矣。而宋榮子司馬云：宋國賢人。猶然笑之。李云：謂猶以爲笑。且舉世譽之而不加勸，舉世非之而不加沮，慈呂切。敗也。定乎內外之分，辨乎榮辱之境，斯已矣。彼其於世也，未數數音朔，下同。司馬云：猶汲汲也。崔云：迫促意也。簡文：所渝切，謂計數也。然也。雖然，猶有未樹也。夫列子李云：鄭人，名圉寇。或作御寇。得仙風，乘風而行，與鄭穆公同時。陸機《要覽》云：列子御風，常以立春歸於八荒。御風而行，泠然音零。成云：輕舉貌。善也，旬有五日而後反，彼於致福者，未數數然也。此雖免乎行，猶有所待者也。若夫乘天地之正，御六氣風、寒、暑、濕、燥、火，謂之六氣。司馬云：陰、陽、風、雨、晦、明也。之辯平免切。辯者變也。郭象注云：御六氣之辯者，即是遊變化之塗也。以遊無窮者，彼且惡乎音烏，成云：猶於何也。待哉！故曰至人無己，音紀。神人無功，聖人無名。

## 无己逍遥

堯《史記》云：謚法：翼善傳聖曰堯。帝嚳之子，姓伊祁，字放勛，有聖德，年十五封唐侯，二十一登帝位，都平陽。堯立七十年得舜，二十年而老，令舜攝行天子之政，薦之於天，堯避位，凡二十八年，年百一十八，在位九十八年而崩，葬陽城，於《詩》爲唐國。讓天下於許由《高士傳》云：字仲武，陽城槐里人，遁耕潁水之陽，箕山之下，謚曰箕公。曰：日月出矣，而燭火音爵，又子召切。《字林》云：炬火也。一云：燿火，謂小火也。不息，其於光也，不亦難乎？時雨成云：神農時十五日一雨，謂之時雨。降矣，而猶浸子鳩切。灌，古亂切。其於澤也，不亦勞乎？夫子立而天下治直吏切。致理成功曰治。直基切。理也。下不再出，以義求之。而我猶尸之，吾自視缺然，請致天下。許由曰：子治天下，天下既已治也，而我猶代子，吾將爲名乎？名者，實之賓也，吾將爲賓乎？鷦子遙切。鷦音遼。郭璞云：桃雀也。成曰：巧婦鳥也。一名工雀，一名女匠。巢於深林，不過一枝，偃鼠如字。《說文》：鼯鼠也。李云：鼯鼠也。成云：偃鼠形，大小如牛，赤黑色，獐蹄，蹄有三甲，象耳，尾端白，好入河飲水。《金樓子》云：晉寧縣內出大鼠，其狀如牛，土人謂之偃鼠，天時將災，鼠則從山中出，遊畎畝，散落其毛，悉成小鼠，五稼盡耗也。飲河，不過滿

腹。歸休乎君，予無所用天下爲。庖人鮑交切。掌厨人也。《周禮》有庖人職。雖不治庖，尸祝之六切。尸者太廟中神主也。祝者太常祝也。謂執祭版對尸而祝之。一云：傳鬼神辭曰祝。不越樽子存切。本作尊，酒器也。俎側呂切。肉器也。而代之矣。

名器不可假人，大寶惡敢輕受。許由貴身賤物，不以天下爲利，人人不利天下，天下自治矣。故不事王侯，高尚其事，志可則也。夫知人者智，自知者明，不知人則無以通利害而處人間，不自知則無以知天命而冥自然，此堯之所以知由，而由之所以自知也。

## 无功逍遥

肩吾李云：賢人也。問於連叔李云：懷道人也。曰：吾聞言於接輿，音餘。《高士傳》云：姓陸名通，字接輿，楚人，隱之賢者也，與孔子同時，而佯狂不仕，常躬耕，楚王遣使以黃金百鎰車駟二乘聘之，不應，於是夫負妻戴以遊山海，莫知所終。大而無當，丁浪切。司馬云：言語宏大，无的當也。往而不返。吾驚怖音布切。懼也。其言，猶河漢而無極也。大有逕古定切。庭，敕定切。李云：逕庭謂激過也。成云：過差也。亦是直往不顧之貌。不近人情焉。連叔曰：其言謂何哉？曰：藐音邈，又弭沼切。簡文云：遠也。姑射音液。李：食亦切，山名，在北海中。之山，有神人居焉，肌膚若冰雪，綈約昌略切。李云：柔弱貌。若處子，文云：謂守雌靜而不爲物所傷也。不食五穀，吸風飲露，乘雲氣，御飛龍，而遊乎四海之外，其神凝，使物不疵在斯切。病也。司馬云：毀也。癘，音厲，李音賴，惡病也。而年穀熟，吾是以狂渠王切。李云：癡也。而不信也。連叔曰然，瞽音古，目无縫如鼓皮也。者無以與乎音豫，及也，下同。文章之觀，古亂切。聾鹿工切。耳不聞也。者無以與乎鍾鼓之聲，豈唯形骸有聾瞽哉？見天台山方瀛觀古藏本，舊作“盲”。夫知亦有之。是其言也，猶時女司馬云：猶處女也。向云：時女，虛靜柔順，和而不唱，未嘗求人，而爲人所求也。也。之人也，之德也，將旁薄剛切。又作磅。磅薄博切。司馬云：旁磅，猶混同也。萬物以爲一。句絕。世斬音祈。求也。乎亂，本作亂，古治字，後人轉寫作亂。孰弊弊扶世切。簡文云：弊弊，經營貌。焉以天下爲事。之人也，物莫之傷，大浸子鳩切。稽音雞。至也。天而不溺，奴歷切。大旱金石流、土山焦而不熱。是其塵垢古口切。猶染汙也。粼悲矣切。糠，音康。猶煩碎也。將猶陶徒刀切。範

土也。鑄朱庶切。鎔金也。堯舜堯已解前章。《史記》云：舜，謚法：仁聖盛明曰舜，顓帝六世孫也。父曰瞽叟，母曰握登，感大虹而生，生於姚墟，因即姓姚，生於媯水，亦曰媯氏。目有重瞳，因字重華。以仁孝著於鄉黨，堯聞其賢，妻以二女，封邑於虞。年二十以孝聞，三十總百揆，年五十攝行天子事，年五十八堯崩，年六十一代堯踐帝位，都蒲坂，或言平陽，或言潘，潘今上谷也。踐位三十九年，南巡狩，崩於蒼梧之野，葬於江南九疑，是爲零陵。者也，孰肯以物爲事。

神人者寓言體道，聖君淡泊無爲，與化升降，言無治迹，故有爲者笑之，以爲狂而不信也。

## 无名逍遥

宋人宋今梁國睢陽縣，商後，微子所封。資章甫李云：資，貨也。章甫，商冠也，以冠爲貨。而適諸越，會稽山陰縣。越人斷丁管、徒短二切。司馬本作敦，敦，斷也。髮文身，無所用之。堯治天下之民，平海內之政，往見四子司馬云：王倪、齧缺、被衣、許由。藐姑射之山，汾水之陽，扶云切。成云：汾水出太原西入於河，水北曰陽，今晉州平陽縣，在汾水北，昔堯都也。窅然烏丁切。李云：猶悵然。成云：深遠貌。喪其息浪切。天下焉。

《褚氏管見》稱碧虛注：夫忘天下者，無寄託之近名，然歸之愈衆而忘之愈冥，故外其身而身存，後其身而身先，此天下樂推而不厭也。

## 適物逍遥

惠子司馬云：姓惠名施，宋人也，爲梁惠王相。謂莊子曰：魏王成云：梁惠王也，昔居安邑，因號爲魏，後爲強秦所逼，徙於大梁，復改爲梁，僭號稱王。貽音怡。遺也。我大瓠音護。之種，章勇切。我樹之成，而實五石，成云：大可容受五石也。以盛音成。水漿，其堅不能自舉也，剖普口切。判也，成云：分割也。之以爲瓢，毗遙切。勺也。則瓠戶郭切，又音護。下同。本作瓠，音鑊。落簡文云：瓠落猶廓落也。司馬云：瓠，布護也。落，零落也。言其形平淺，受水則零落而不容也。無所容。非不呶然許橋切。李云：呶，虛大貌。崔

作謁。大也，吾爲於僞切。其無用而掊之。方垢切。司馬云：擊破也。莊子曰：夫子固拙於用大矣。宋人有善爲不龜手愧悲切。龜手，黑皮皴皴也。之藥者，世世以泚扶經切。浮也。泚普歷切。李云：泚，聲也。成云：泚，猶泚也。統，蠶也，謂泚蠶於水中也。統音曠。《小爾雅》云：絮細者謂之統。李云：泚泚統者，漂絮於水上統絮也。爲事，客聞之，請買其方以百金。以，見江南古藏本，舊闕。李云：金方一寸，重一斤爲一金，百金謂百斤也。聚族而謀曰：我世世爲泚泚統，不過數金，今一朝而鬻音育，賣也。技竭彼切。術也。百金，請與之。客得之以說始銳切。又如字。吳王。越有難，乃旦切。吳王使之將，子匠切。冬與越人水戰，大敗必邁切。越人，裂地而封之。能不龜手一也，或以封，或不免於泚泚統，則所用之異也。今子有五石之瓠，何不慮以爲大樽司馬云：樽如酒器，縛之於身，浮於江湖，可以自渡，所謂腰舟也。慮，謀思也。而浮於江湖，而憂其瓠落無所容，則夫子猶有蓬之心郭云：蓬生非直達者。向云：蓬者，短而不暢，曲土之謂也。也夫！

物有不適世者，或便掊棄之，是未明無用之用也。故物無小大精粗，在人善用。

## 无爲逍遙

惠子謂莊子曰：吾有大樹，人謂之樗，敕魚切。木名。成云：栲漆之類，嗅之甚臭，惡木也，或云似椿。其大本擁腫章勇切。李云：猶盤纓。而不中丁仲切。下同。繩墨，其小枝卷曲音權。成云：不端直也。而不中規矩。立之塗，匠人不顧。今子之言，大而無用，衆所同去如字，李羌呂切。也。莊子曰：子獨不見狸狌之切。狌姓、生二音。司馬云：狌也。成云：野貓也。乎？卑身而伏，以候敖者，五到切。支遁云：伺彼怠傲，謂承夫間殆也。司馬：音邀，謂伺邀翔之物而食之，雞鼠之屬也。東西跳音條。梁，不辟音避，下倣此。高下，中於機辟，毗亦切。成云：機關之法，覆車之類也。死於罔罟。音古，成云：罟罟也。今夫鰲牛，呂之切，李音來。成云：鰲牛猶旄牛也，出西南夷，其形甚大，山中遠望如天際之雲。其大若垂天之雲，此能爲大矣，而不能執鼠。今子有大樹，患其無用，何不樹之於無何有之鄉、廣莫之野？成云：莫，无也，謂寬曠无人之處。不問何物，悉皆无有，故曰无何有之鄉。彷彿剛切。徨音皇。彷徨猶翱翔也。一本作方羊。《廣雅》

云：彷徨，徙倚也。成云：縱任之名也。乎無爲其側，逍遙乎寢卧其下，不夭斤斧，物無害者，無所可用，安所困苦哉？文本作“安所窮困哉”。

寓言大樗再釋無用，狸狌以輕脫中機，斄牛以無技全質，才能之速禍，愚鈍之全身久矣夫！前論鵬鷖以有情逍遙，貴其飛翔自適；結以瓠樗以無情逍遙，要在不夭不掊，達茲趣者何往而非善遊哉！

## 內篇·齊物論 二

### 齊 我

南郭子綦音其。成云：楚昭王之庶弟，莊王之司馬，名定，字子綦，有道之士，居於南郭，因以爲號。隱於靳切。憑也。几音紀。而坐，仰天而噓，音虛，吐氣爲噓。嗒焉吐苔切。解體貌。似喪息浪切。下同。其偶。五口切。匹也，對也。司馬云：偶身也，身與神爲偶。成云：身與神爲匹，物與我爲偶。文云：喪偶者謂忘形神也。顏成子游李云：子綦弟子也。姓顏名偃，謚成，字子游。立侍乎前，曰：何居斤於切。處也。乎？形固可使如槁木，古老切。而心固可使如死灰乎？今之隱几者，非昔之隱几者也。子綦曰：偃，不亦善乎，而問之也！今者吾喪我，汝知之乎？汝聞人籟，力帶切。簫管之音也。《風俗通》云：舜作簫，其形參差象鳳翼十管，管長二尺。郭璞云：簫管長一尺二寸，一名爲籟。今詳其義，籟者取其聲之衆也，故有地籟、天籟，非止簫籟之稱也。而未聞地籟，衆竅之聲也。汝聞地籟，而未聞天籟即人籟地籟之聲會歸天然，故曰天籟。夫？子游曰：敢問其方。子綦曰：夫大塊苦怪、苦對二切。元氣也，混成也。司馬云：大朴之貌。噫乙戒切。文云：吐氣也。氣，其名爲風，是唯無作，作則萬竅苦弔切。怒呬，胡刀切。成云：猶鼓怒呬叫也。文云：出聲也。而獨不聞之蓼蓼良救切。長風之聲也。李作麗，通作蓼。乎？山林之畏於鬼、烏罪二切。佳，醉癸、子唯二切。李云：畏佳，山阜貌。成云：扇動貌。大木百圍之竅崔本作竅穴，似鼻，似口，司馬云：言風吹竅穴，動作或似人鼻或似人口。似耳，似枅，音雞。柱上方木也，今之斗檣是也。簡文云：構櫨也。似圈，起權、其院二切。杯圈也。徐邈曰：如羊豕之闌圈也。似臼，其九切，似注者，烏攜、烏蛙二切。司馬云：若注曲也。似污者，音烏。司馬云：若污下也。激者，經歷切。如水激也。古弔切。司馬云：聲若激

喚也。謫者，音孝。李虛交切。簡文云：若箭去之聲。司馬云：若謹謫之聲。叱者，昌實切。司馬云：若叱咄聲。吸者，許及切。司馬云：若噓吸聲。叫者，古弔切。司馬云：若叫呼聲。謔者，音豪。司馬云：若謔哭聲。突者，於堯切。一音查。司馬云：深者也，若深突突然。咬者，於交切，又音狡。司馬云：聲哀切咬然。前者唱于，如字。而隨者唱喁，五恭切。又音愚。李云：于、喁，聲之相和也。泠風音零。李云：泠泠，小風也。則小和，胡卧切。下同。飄風鼻遙切。司馬云：疾風也。《爾雅》云：回風爲飄。則大和，厲風司馬云：大風也。向云：烈風也。濟子細切。向云：止也。則衆竅爲虛，而獨不見之調調、音條。之刁刁都堯切。向云：調調、刁刁，皆動搖貌。乎？子游曰：地籟則衆竅是已，人籟則比竹毗志、必履二切。是已，敢問天籟？子綦曰：夫吹萬不同，而使其自已也，咸其自取，成云：猶自得也。怒者其誰邪！

天地之有風，猶人身之有元氣，是爲無作，猶人坐忘時也；萬竅怒號，猶人應用時也。惟其竅穴有異，所以聲籟萬殊，蓋亦出於自然耳。詳夫三籟之自然，理歸坐忘之冥極者也。

## 齊 智

大知閑閑，何間切。安也。小知間間，古莧切。間別也。大言炎炎，於廉切。成云：猛烈也。簡文云：美盛貌。小言詹詹。音占，李云：小辯貌。崔作閭閭。其寐也魂交，文云：寐則魂神交合，是陰闔也，其覺古孝切。也形開，文云：覺則形識開張，是陽闔也。與接爲構，人世接識，構結懽愛。日以心鬪。縵者，末旦切。寬慢也。窖者，古孝切。深固也。密者，隱匿也。小恐曲勇切。惴惴，之瑞切。心不寧也。大恐縵縵。僂忘其性也。其發若機括，古活切。機，弩牙；括，箭括。其司是非之謂也。其留如詛側據切。呪也。盟，音明。誓也。其守勝之謂也。其殺色界切。衰也。如秋冬，以言其日消也。其溺如狄切。之所爲之，不可使復之也。其厭於葉切，沒也。也如緘，古咸切，繩也。以言其老洫弋質切，深也，義取深溺。江南古藏本作溢。也，近死之心，莫使復陽陽謂生也。也。喜怒哀樂音洛。慮歎變愁，之涉切。司馬云：不動貌。姚音遙。輕浮貌。一云長也。佚音逸。放縱貌。一云過也。啓詰以切。開張貌。態，敕代切。僞淫貌。一云意也。樂出虛，蒸之膺切。成茵，其隕切。芝茵也。日夜相代乎前，而莫知其所萌。已乎已乎！旦暮

得此，忘言之道，亦常道也。未有彊名，故云此也。其所由以生乎？非彼無我，非我無所取，是亦近矣，而不知其所爲使，若有真宰，養生主也。而特不得其朕。除忍切。兆也。可行己信，而不見其形。有情而無形，百骸戶皆切。成云：百骨節也。九竅六藏，江南古藏本作五藏六府。夫心肺肝脾腎謂之五藏，大小腸膀胱三焦謂之六府。身別有九藏氣天地人，天候頭角之氣，人候耳目之氣，地候口齒之氣，三部各有天地人，三三而九。神藏五，形氣四，故曰九。舊本云：六藏者，謂腎有兩藏也，其左爲腎，右爲命門也，命門者謂精神之所舍也，男子以藏精，女子以繫胞，其氣與腎通，故言藏有六也。賅古來切。司馬云：備也。簡文云：兼也。而存焉，吾誰與爲親？汝皆悅之乎？其有私焉。如是皆有爲臣妾乎？其臣妾不足以相治乎？其遞音弟。相爲君臣乎？其有真君太一尊也。存焉。如求得其情與不得，無益損乎其真。一受其成形，不亡以待盡，與物相刃相靡，其行盡如馳而莫之能止，不亦悲乎？終身役役而不見其成功，爾然乃結切。簡文云：疲病困之狀。疲役而不知其所歸，可不哀邪！人謂之不死，奚益？其形化，其心與之然，可不謂大哀乎？人之生也，固若是芒乎？莫剛切。芒昧也。其我獨芒，而人亦有不芒者乎？夫隨其成心謂妄成是非之心也。而師之，誰獨且無師乎！奚必知代而心自取者有之，愚者與有如字，黨與之與也。焉。未成乎心而有是非，是今日適越而昔至也，是以無有爲有，無有爲有，雖有神禹，《史記》云：謚法：泉源流通曰禹。又受禪成功曰禹。字文命，鯀之子，啓之父也。神禹者，謂大禹治水有神功，故謂之神禹，東巡狩至於會稽而崩，年百歲也。且不能知，吾獨且奈何哉！夫言非吹也，如字，又叱瑞切。猶鳴也。言者有言，其所言者，特未定也，果有言邪？其未嘗有言邪？其以爲異於轂音，苦豆切。司馬云：鳥子欲出卵中而鳴，曰轂音。一云：破卵出雛曰轂。亦有辨乎？其無辨乎？

人之生也，皆以欲惡蕩真是非，滑性芒昧而不明。至人超然生死，妙理昭明，豈有芒昧者乎？夫不師道法古，而自執己見謂之成心，若隨成心師之，誰獨無師，人人自有師，則不須賢以代不肖也。若以成心自取而爲所得者，則愚人黨與亦衆矣。故道者同於道，失者同於失也。心未成而有是非，越未適而云先至，理本無而強謂之有，因是有而有有莫窮，雖至德神人亦不能知其所以。吹猶鳴也，故與言異，彼此持勝故無定言，言者所以宣意，吹則無義可取。若不以義取言，其與轂音何異。



## 齊是非

道惡乎隱音烏。下同。而有真偽？或作真詭。崔本作真然者也。言惡乎隱而有是非？道惡乎往而不存？言惡乎存而不可？道隱於小成，言隱於榮華。故有儒墨儒學宗周公文王，墨學宗夏禹。之是非，以是其所非，而非其所是。欲是其所非、而非其所是，則莫若以明。物無非彼，物無非是。自彼則不見，自知則知之。故曰：彼出於是，是亦因彼，彼是方生之說也。雖然，方生方死，方死方生，方可方不可，方不可方可，因是因非，因非因是，是以聖人不由，而照之於天，亦因是也。是亦彼也，彼亦是也，彼亦一是非，此亦一是非，果且有彼是乎哉？果且無彼是乎哉？彼是莫得其偶，謂之道樞，尺朱切。如戶樞之義，中空而轉物也。樞始得其環中，以應無窮。是亦一無窮，非亦一無窮也，故曰莫若以明。

大道未嘗隱，而學者有真偽，至言未嘗晦，而語者有是非，道入無間，何適不有，言化羣品，何往不通。大道廢，有仁義，小成之謂也；知慧出，有大偽，榮華之謂也。儒學周孔，墨宗夏禹，儒之所是，墨之所非，墨之所是，儒又非之，今欲是儒者所非，而非墨者所是，莫若反覆相明，而彼此是非兩行矣。物情本無非彼，因其對偶故也，本無非是，因其自勝故也。自彼則不見，如緩之成儒，不見彼翟之爲墨，自知則知之，翟之守墨出於自勝，緩以儒自是，亦因有翟而已。彼此是非，亦猶方生者貴生，方死者樂死，是以聖人照之於天，不由於人，亦不得謂無因，是也彼是，各一是非，而求其果，且有無歸於忘言之極，則莫得其偶，謂之道樞，樞者中空轉而不滯。戶樞之用，要在環中，以應無窮，若乃道之樞，則以理轉物，雖天地之大，萬物之多，無有能對道樞之妙者矣。

以指喻指之非指，不若以非指喻指之非指也；以馬喻馬之非馬，不若以非馬喻馬之非馬夫指馬之義，自司馬彪、向秀、郭象至有唐名士，皆謂漆園寓言構意而成斯喻，遂解疏者旨歸不同。今按《公孫龍》六論，內有《白馬》、《指物》二論，乃知漆園稽考述作有自來矣，故備錄二論附《章句餘事》之後，以示將來云。也。天地一指也，萬物一馬也。可乎

可，不可乎不可，道行之而成，物謂之而然。惡乎然？然於然。惡乎不然？不然於不然。物固有所然，物固有所可，無物不然，無物不可。故爲於僞切。下以義求之。是舉莛音廷。司馬云：屋梁也。與楹，音盈。司馬云：屋柱也。厲如字。惡也。李音賴，病癩也。與西施，司馬云：夏姬也。按句踐所獻吳王美女也。恢苦回切。大也。簡文本作弔。悽九委切。成云：奇變也。悽怪，音決。李云：悽，乖也。怪，異也。道通爲一。其分如字。也，成也；其成也，毀也。凡物無成與毀，復通扶又切。下以義求之。爲一。唯達者知通爲一，爲是不用而寓諸庸，庸也者用也，用也者通也，通也者得也，適得而幾矣，音機。盡也。因是已。已而不知其然謂之道。句絕。崔讀謂之道勞。云：因自然是道之功勞。勞神明爲一而不知其同也，謂之朝三。何謂朝三？狙公七徐切。司馬云：狙公，典狙官也。崔云：養猿狙者也。《廣雅》云：狙，獼猴也。賦芋音序，與杆同。橡子也。賦謂敷布之義。曰：朝三而暮四。司馬云：朝三升、暮四升。衆狙皆怒。曰：然則朝四而暮三。衆狙皆悅。名實未虧而喜怒爲用，亦因是也。是聖人和之以是非，而休乎天均，崔本作鈞，陶鈞也。是之謂兩行。

指者指斥是非也，凡入之情，皆以此爲是指彼爲非，彼不知非，又指此爲未是，因執此指爲是而謂彼指爲非。若天下無有相指者，則物自爲物、不爲人強物，指自爲指、不矜此妄指。物不爲人強物則忘物，指不矜此妄指則非指矣。且不指物之指元無彼此是非，爲指物之指強生彼此，是爲非指也。馬固有形色，捨色命名，蓋言馬耳，言馬則天下之馬一馬也，白墨不與焉。今求色命馬，故曰白馬，求白馬則黃黑之馬去矣，是因求色而失其形，求色失形則白馬非馬也。若乃時之尚白，則以白爲是，以馬爲非，斯則以非爲是，以是爲非也。夫懷是非之心而不能齊者，指物有彼此，忘彼此則雖天地之殊猶一指也。分種類之多而不能一者，形色有去取，脫去取則雖萬物之繁猶一馬也。自其同者視之，可乎可也，自其異者視之，不可乎不可也。非道行之則敗，敗則孰謂之然，凡順理則然於然，無物不然也；逆理則不然於不然，無物然也。若詣理全當，則無不然無不可，而自然冥會也。夫物狀萬態，形類不同，唯道通而一之，譬工之造器，計其成器，孰慮其毀樸哉！論成則無毀，論毀則無成，其於道也，復通爲一，故達者因道樸之不爲世用，而寄諸自用，是用之者假不用也，知不用之用，則有得於己，適得而盡矣，猶有迹存焉。知道之深者，心冥體會而已，已而不知其然，無因是之迹也。若勞

神明以爲一，則如狙公之役，知以籠羣狙，羣狙之以喜怒爲用，亦因是也。

古之人，其知有所至矣。惡乎至？有以爲未始有物者，至矣盡矣，不可以加矣。其次以爲有物矣，而未始有封也。其次以爲有封焉，而未始有是非也。是非之彰也，道之所以虧也；道之所以虧，愛之所以成；果且有成與虧乎哉？果且無成與虧乎哉？有成與虧，故昭氏之鼓琴也；無成與虧，故昭氏之不鼓琴也。昭文之鼓琴司馬云：古之善琴者。也，師曠成云：字子野，晉平公樂師。或云：賢大夫，冀州南和人，生而無目，善音律，能致鬼神。之枝策司馬云：枝，柱也。策，杖也。崔云：舉杖以擊節也。也，惠子之據梧成云：惠施以梧爲机，據而談論，猶隱机者也。或謂梧爲琴，非是。也，三子之知幾乎皆其盛者也，故載之末年。以其始好不廢，故書之於今也。唯其好之，以異於彼，其好之也，欲以明之彼，非所明而明之，故以堅白之昧終。夫離堅白、合同異，前輩亦講說不一，今備錄《公孫龍》堅白論續指物白馬論之後，以補闕疑。而其子又以文之綸終，音倫。綸，緒也。崔云：琴弦也。終身無成。若是而可謂成乎？雖我無成，亦可謂成矣，見江南古藏本，舊作雖我亦成也。若是而不可謂成乎？物與我無成也。是故滑疑古沒切。亂也。之耀、聖人之所圖圖者規畫限域也，謂域於分內棄而不用也。也。爲是不用而寓諸庸，此之謂以明。

未始有物，即遊於物之初，謂隱几者也。其次有物而未有封，嗒然喪偶之謂也。其次有封而未有是非，吾喪我汝知之乎是也。是非彰而道虧，道虧愛所以成。果且有無成虧乎哉？昭文、師曠、惠子之技，性所長者而欲使性短者明之，則知盡精竭不能兩得也。大意在乎自明自治而已。若以明示他人，皆鬻技者也，安可謂之成哉？聖人以精奇卓異之事爲燭亂非常，故規畫限域處物之分內而寄諸自用，則三子之技各有所明矣。

今且有言於此，不知其與是類乎？其與是不類乎？類與不類，相與爲類，則與彼無以異矣。雖然，請嘗言之：有始也者，有未始有始也者，有未始有夫未始有始也者。有有也者，有無也者，有未始有無也者，有未始有夫未始有無也者。俄而有無矣，而未知有無之果孰有孰無也？今我則已有謂矣，而未知吾所謂之其果有謂乎？其果無謂乎？天下莫大於秋毫司馬云：兔毫在秋而成，至秋而尖細，故以喻小也。之末，而泰山爲小；莫壽乎殤子，短命者也。或云：年十九以下爲殤。而彭祖爲夭。天地與我並生，萬物與我爲一。既已爲一矣，且得有言乎？既已謂之一矣，

且得無言乎？一與言爲二，二與一爲三，自此以往，巧曆謂巧於曆數也。不能得，而況其凡乎？故自無適有，以至於三，而況自有適有乎？無適焉，因是已。

有始謂道生一；未始有始，混沌太無；未始有夫未始有始，視聽不及，虛之虛者也。此三者叙道未始有氣。有有謂物形獨化，塊然自有；有無謂物形未兆，怕然虛寂；未始有無謂形兆之先、沈默空同，至無者也；未始有夫未始有無，謂冥寂虛廓、搏之不得，無之無也。此四者叙道未始有形。俄而有無矣，謂道無不在，生化無時，萬物卓然而疑獨，翩然而往復，天地密移，疇覺其有無哉！有謂無謂，未免其迹，欲超二者，其唯忘言乎！

## 齊 道

夫道未始有封，封，域也。言未始有常，爲是而有畛之忍切。畛，界畔也。李音真。謂封域畛陌也。也。請言其畛：有左有右，左陽，右陰。有倫有義，崔本作有論有議。有分如字。有辯，別也。有競有爭，並逐曰競，對辯曰爭，又謂爭鬪之爭。此之謂八德。六合之外，聖人存而不論；六合之內，聖人論而不議；《春秋》經世，先王之志，聖人議而不辯。故分也者，有不分也；辯也者，有不辯也。曰何也？聖人懷之，衆人辯之，以相示也。故曰：辯也者，有不見也。夫大道不稱，尺證切。大辯不言，大仁不仁，大廉不嗛，欺簞切。盈也。又獲藏食處也。不嗛者猶无所蓄藏也。徐邈音謙。謂不貪故无所謙遜也。大勇不忤。之豉切。逆也，害也。道昭而不道，言辯而不及，仁常而不周，見江南古藏本，舊作成。廉清而不信，勇忤而不成，五者園五丸切。圓也。而幾向其衣切。方矣。故知止其所不知，至矣。孰知不言之辯、不道之道？若有能知，此之謂天府。无不藏。注焉而不滿，酌焉而不竭，而不知其所由來，此之謂葆光。无不蔽也。

無有入無間，有封孰所礙，至言無不當，有常孰爲定。然可道可言，豈得無規法，左右倫義屬封，分辯競爭屬言，其封其言，理有實際，故謂之德。六合之外，聖人不論，理存則事遺也；六合之內，聖人不議，事當則言忘也；歷代帝王治亂，聖人詳議褒貶，垂戒將來，非矜其博辯也。故分於內

者，不分於外，辯於此者，不辯於彼，聖人懷之，知者不言，衆人辯之，言者不知也。大道不稱，謂無所不宜。辯仁廉勇五者備矣，則於道無爲，於理自齊。若乃一事傷，當如以圓向方，必與物迕矣。故不越分求知，以戕自然之性。不言之辯，不道之道，皆藏於人心，豈非天府哉！有形則注必滿，有源則酌必竭，今不滿不竭者，是知無源源之深，無形形之大，深大莫觀，故曰葆光。

## 齊 治

故昔者堯問於舜堯舜並解《逍遙篇》。曰：我欲伐宗臚古外切。胥息徐切。敖，五高切。三國名也。崔云：宗一、臚二、胥敖三也。一云：宗臚、叢支、胥敖。南面而不釋然，其故何也？舜曰：夫三子者，猶存乎蓬艾喻其蕃國卑小。之間，若不釋然何哉？昔者十日並出，《鴻烈解》云：堯時十日並出，謂荻蠃也，俾羿射之，中其九日，鳥落而死者，謂九日潛退也。萬物皆照，而況德之進乎日者乎？

三子猶存蓬艾之間，猶鷦鷯安於一枝。十日比堯之德，言其無幽不燭也。《道德經》云：大國不過欲兼畜人，小國不過欲入事人，兩者各得其所欲，故大者宜爲下。

## 齊 物

齧五結切。缺丘悅切。問乎王倪五稽切。《高士傳》云：王倪、齧缺並堯時賢人。曰：子知物之所同是乎？曰吾惡乎音鳥。下同。知之？子知子之所不知邪？曰吾惡乎知之？然則物無知邪？曰吾惡乎知之？雖然，嘗試言之。庸詎其據切。《字林》：未知詞也。庸謂庸常也，詎，何也。知吾所謂知之非不知邪？庸詎知吾所謂不知之非知邪？且吾嘗試問乎汝，民溼寢則腰疾偏死，司馬云：偏枯死也。鱗音秋。魚名。然乎哉？木處則惴之瑞切。僂音栗。恂音荀。並恐懼戰悚貌。懼，獼猴音袁侯。然乎哉？三者孰知正處？民食芻初俱切。《小爾雅》云：秆謂之芻。豢，音患。司馬云：牛羊曰芻，犬豕曰

麋，以所食得名。麋音眉。成云：似鹿而尾長。鹿食薦，賸練切。司馬云：美草也。《三蒼》云：六畜所食曰薦。蜚音即。蛆子餘切。蜈蚣也。《爾雅》云：蒺藜蜚蛆似蝗，大腹長角，能食蛇腦。甘帶，崔云：蛇也。蜚蛆好食蛇眼。鴟尺夷切。鳶也。鴉於加切鳥也。嗜市志切。鼠，四者孰知正味？獫狁匹羨切。狙七餘切。司馬云：獫狁一名獯狁，似獫而狗頭，其雄喜與雌獫交，異類牝牡也。獯音葛，狁音臧，或以獫狙爲二名、獯狁爲二名，皆非也。以爲雌，如字。又音妻。麋與鹿交，鱗與魚游。毛嬙在良切。越王美姬也。麗姬，力知切。晉獻公之嬖，以爲夫人也。人之所美也，魚見之深入，鳥見之高飛，麋鹿見之決喜缺切。驟，士救切。決驟，疾貌。崔云：疾走不顧爲決驟。四者孰知天下之正色哉？自我觀之，仁義之端，是非之塗，樊然音煩。樊然猶糾紛也。殽亂，何交切。謂殽饌之雜亂。吾惡能知其辯？齧缺曰：子不知利害，則至人固不知利害乎？王倪曰：至人神矣！大澤焚而不能熱，河漢沍戶故切。向云：凍也。崔云：沍，涸也。而不能寒，疾雷破山，飄風振海毗霄切。見江南李氏本，舊缺。而不能驚。若然者，乘雲氣，騎日月，而遊乎四海之外，死生無變於己，而況利害之端乎？

以同爲是則無非，以非爲同則無是，凡物形類不同，各不相知，雖都忘其知，而物各存焉。且吾所知者，庸言不知彼不知此也，吾所不知者，庸言知之物各不相知也。吾所謂知者，萬物之理，所不知者，萬物之性，故濠梁之上知儵魚之樂，庸詎信之哉！蟬飲而不食，蠶食而不飲，自不知其所以然。凡物之形類不同，色味亦爾，性情所稟，豈可強齊，則仁義是非，宜聖人所不辯也。至人神變不測，故造化莫移，方寸之地虛矣。身非我有，雲氣可乘也，視聽不用，日月可騎也，所在皆適，四海可遊也，生死莫變，利害何有哉？

## 齊死生

瞿鵲子其俱切。士之道號也，猶如鵲冠子。問乎長梧子名丘。李云：居長梧下，因以爲號。簡文云：長梧封人。曰：吾聞諸夫子，向云：瞿鵲之師。聖人不從事於務，不就利，不違害，不喜求，不緣道，無謂有謂，有謂無謂，而遊乎塵垢之外。夫子以爲孟浪並如字，向云：孟浪音漫瀾。无所趣捨之謂。李云：猶較略也。崔云：不精要貌。或云：

率略也。之言，而我以為妙道之行下孟切。也。吾子以為奚若？長梧子曰：是黃帝即本朝聖祖天尊也。按大中祥符五年十月二十四日真宗皇帝御製《聖祖九天司命保生天尊降臨記》云：吾人皇九人中一人之數，是趙之始祖。吾於世有功，故再降乃軒轅黃帝。母氏感電夢天人生於壽丘。《史記》云：生而能言，後得道升天。之所聽敕定切。瑩於迴切。認可道為妙常，猶視玉色以耳聽也。也。而丘也何足以知之？且汝亦大早計，見卯而求時夜，謂雞能司時夜。見彈徒旦切。而求鴉子驕切。《毛詩草本疏》云：大小如斑鳩，綠色，其肉甚美，可以作炙。陳藏器《本草拾遺》云：鴉，古人重其炙，固當肥美。一名梟，一名鴞，吳人呼為，魍魂，惡聲鳥也。賈誼云：鸛似鴉，其實一物也。一曰：鸛鸛，妖鳥也。炙。予嘗為汝妄言之，汝以妄聽之奚？音兮。何也。審何聲也。旁日月，薄葬、蒲光二切。依也。挾戶牒切。崔本作扶。宇宙，治救切。《尸子》云：天地四方曰宇，往古來今曰宙。為其脰武軫切。李云：无波際貌。向音脣，若兩脣之相合也。合，置其滑古沒切。亂也。向本作汨。湣音昏。滑湣，紛亂未定貌。以隸相尊，衆人役役，聖人愚芑，徒奔切。芑然无知直往貌。劉得一作芑，莫報切。注云：若愚而昏芑。《說文》：艸覆蔓也。參萬歲而一成純，萬物盡然，而以是相蘊，於本切，積也。予惡音烏。下惡乎同。乎知悅生之非惑邪？予惡乎知惡死鳥路切。之非弱喪息浪切。文云：秦人孩孺移家于楚，戀楚忘秦故云弱喪。而不知歸者邪？麗之姬，已解在前。艾封麗戎國艾地守封疆人之女。人之子也，晉國之始得之也，涕泣沾襟，及其至於王所，崔云：獻公僭稱王。與王同匡牀，食芻豢，而後悔其泣也。予惡乎知夫死者不悔其始之蘄音祈。求也。生乎？夢飲酒者，旦而哭泣；夢哭泣者，旦而田獵。方其夢也，不知其夢也，夢之中又占其夢焉，覺音教。下同。而後知其夢也。且有大覺而後知此其大夢也，而愚者自以為覺，竊竊竊竊，自私貌。如竊盜之自私也。然知之。君乎，牧乎，固哉！丘與汝皆夢也，予謂汝夢亦夢也。是其言也，其名為弔如字。弔生曰唁。弔死曰弔。詭，九委切。萬世之後，而一遇大聖，知其解音蟹。者是旦暮遇之也。達道之士以萬世猶旦暮。王子年《拾遺記》云：扶桑萬歲一枯，長生人視之如旦暮，此其類爾。

孟浪，不精要貌。瑩，玉色。辯玉當以視，而云聽，豈非惑哉！黃帝道之宗師，視聽不以耳目，若未忘言，是猶聽瑩也。夫司晨在雞，造炙須鴉，契道由心，此有其本也。今見末而喜者，早計輕悅音脫。之徒耳。旁日月者，常照也；挾宇宙者，總攬也；為其脰合，從事無迹也；置其滑湣，忘其違就也；以隸相尊，世俗役役也；聖人愚芑，灰心槁形也；參萬歲而一成純者，通古今

如旦暮、合萬變爲混成也。夫安生樂死，未出陰陽之域，惡得體冥乎道。故麗戎之女，失艾封之樂，得晉國之歡，舍彼從此，木爲無着，一生之內，悲喜莫知，生死之際，安可輕議。夫夢飲酒、夢哭泣者，情變之所致，非至人所有。以萬世爲一旦，此大覺者也，以死生爲一條，豈復有夢哉。愚者於夢中自以爲覺，尊己爲君，視人如牧，斯固陋之甚也。至人以生死爲大夢，超生死爲大覺；衆人以魂交爲夢，形開爲覺，顛倒詭異，惑於生死。是故達人發此覺夢之至言，以弔趣死之詭異。夫生死之係，雖無繩約而不可解，若乃經歷萬世一遇大聖，釋此生死之縛者，是猶旦暮之遇也。

## 齊同異

既使我與若辯矣，若勝我，我不若勝，若是也、我果非也邪？我勝若，若不吾勝，我果是也、而果非也邪？其或是也、其或非也邪？其俱是也、其俱非也邪？我與若不能相知也，則人固受其黠闇，音暗。李云：黠闇，不明貌。吾誰使正之？使同乎若者正之，既與若同矣，惡能音烏。下同。正之？使同乎我者正之，既同乎我矣，惡能正之？使異乎我與若者正之，既異乎我與若矣，惡能正之？使同乎我與若者正之，既同乎我與若矣，惡能正之？然則我與若與人，俱不能相知也，而待彼也邪？何謂和之以天倪？崔、覓二音。自然之分。曰：是不是，然不然。是若果是也，則是之異乎不是也亦無辯矣，見江南古藏本，舊作亦無辯。然若果然也，則然之異乎不然也亦無辯矣。見江南古藏本，舊無矣字。化聲爭辯是非之聲，其猶變化耳。之相待，若其不得待。和之以天倪，因之以曼音萬。衍，以戰切。文云：不停滯貌。司馬云：無極貌。所以窮年也。忘年忘義，振暢也，止也。於無竟，極也，窮也。崔作境。故寓諸無竟。

悟則不辯，辯則不悟，對辯不已，黠闇莫明，彼我不自信故也。夫水清則可以鑒妍醜，心虛則可以齊同異，若中無主，則待於外，是逐物而遷者也。從箕子視比干則愚，以比干視箕子則卑矣；從管晏視夷齊則黠，以夷齊視管晏則貪矣。趨舍相非，嗜欲相反，將使誰正之？若乃飛者棲巢、走者宿穴，各安所安，孰曰不齊哉！夫彼我之情相待者也，是非之辯化聲者也，情



不相待惡有彼我，辯無是非惡有化聲，是以虛心以和崖分，妙用以釋留滯，所以窮天年而無是非也。窮天年則忘年，無是非則忘義，故能振舉於無竟，以無盡之物、無極之理，寄諸無盡無極而已矣。

## 齊 因

罔兩郭云：景外之微陰。向云：景之景也。崔本作罔浪，云：有無之狀。問景曰：曩乃蕩切。李云：曩也。子行，今子止；曩子坐，今子起；何其無特獨也。或作持。操與！音餘。景曰：吾有待而然者邪？吾所待又有待而然者邪？吾待蛇蚺音附。成云：蛇蚺，蛇蛻皮也。蜩翼成云：蜩翼非翅也，謂蟬蛻殼也，與《寓言篇》蜩甲同，言非如蛇蚺蜩翼之類，有所因待，吾之獨化出於自然，何所待哉！邪？惡識所以然，惡識所以不然。

景不待形，形不待陰陽，豈比蛇蛻蜩殼有物者邪！夫物之相因，無如形景，今尚言其不相待，明外物不可必，萬類皆自爾。唯因待都忘，卓然獨化，方可論超生死而反混冥，是謂帝之縣解也。

## 齊 化

昔者莊周夢爲胡蝶，徒協切。蛺蝶也。栩栩況甫切。文云：適性貌。成云：忻暢貌。徐云：喜貌。崔本作翩翩。然胡蝶也，自喻李云：快也。成云：曉也。適志與，音餘。下同。不知周也。俄然覺古孝切，則蘧蘧音渠。李云：有形貌。文云：驚怪貌。崔本作據據，引《大宗師》云：據而覺。今本亦作蘧。然周也。不知周之夢爲胡蝶與？胡蝶之夢爲周與？周與胡蝶則必有分矣。此之謂物化。

周蝶之性，妙有之一氣也。昔爲胡蝶，乃周之夢，今復爲周，豈非蝶之夢哉！周蝶之分雖異，妙有之氣一也。夫造化之機，精微莫測，儻能知此，則造化在己而不遷於物。是謂生物者不生，化物者不化，既已爲物，惡有不化者哉！死生之革，形類所遷，漆園之夢，其理盡矣。

## 內篇・養生主 三

### 養性分

吾生也有涯，魚佳切。分也。又作崖。而知也無涯，以有涯隨無涯，殆已。已而爲知者，殆而已矣。爲善無近名，爲惡無近刑，緣督以爲經。緣，由也。督，正也。經，常也。可以保身，可以全生，可以養親尚切。親，可以盡年。

壽夭者，生之有涯，博通者，知之無涯。天與則深不可識，人爲則勞而多弊，故生理之主要在善養，而乃貪名逐利、不知休息，重增其僞，以益其生，卒至於危殆而已。夫自全之善，理無近名，謂守樸少變、漢陰丈人之徒是也。自損之惡，理無近刑，謂沈溺嗜好、公孫朝穆之徒是也。無爲善，無爲惡，由正以爲常者，聖人之中道，可以保身、全生、養親、盡年，此所生之主也。

### 得生理

庖丁白交切。庖人丁其名也。成云：掌厨丁役之人，《管子》有屠牛坦，一朝解九牛，刀可剝毛。爲文惠君司馬云：梁惠王也。解牛，手之所觸，肩之所倚，於綺切。足之所履，膝之所踦，音螳。觸也，刺也。砉然呼鴟切。司馬云：皮骨相離聲。騞然，許文、許亮二切。奏進也。刀騞然，呼獲切。崔云：聲大於砉也。莫不中音，丁仲切。下同。合於《桑林》司馬云：湯樂名。崔云：宋儻樂名。《左傳》襄公十年，宋公享晉侯於楚丘，請以《桑林》。

注：《桑林》，湯天子之樂名。之舞，乃中《經首》司馬云：咸池樂章名。則堯樂也。或云：秦樂名。之會。文惠君曰：謏，音熙，歎聲也。善哉！技具綺切。下同。蓋至此乎？庖丁釋刀對曰：臣之所好呼報切。者道也，進乎技矣。始臣之解牛之時，所見無非牛者。三年之後，未嘗見全牛也。方今之時，臣以神遇，向云：暗與理會謂之神遇。而不以目視，集道遺照。官知止，官，法也。法在知止，而理未可停，是以一朝解九牛也。而神欲行。空窾已忘。依乎天理，批備結、鋪迷二切。擊也。大郤，去逆切。謂間郤交際之處。導大窾，苦管切。空也。因其固然，技經肯綮等切。著骨肉也。一曰骨无肉也。許叔重云：骨肉肯肯著也。綮苦挺切。司馬云：猶結處也。文云：肯綮謂交聚也。之未嘗，而況大軋音孤。郭云：軋戾大骨也。崔云：繫結骨也。乎？良庖良善也。歲更刀，割也；司馬云：以刀割肉，故歲歲更作。崔云：歲一易刀，猶堪割也。族庖司馬云：族雜也，衆也。月更刀，折也。今臣之刀十九年矣，所解數千牛矣，而刀刃若新發於硎。音刑，磨石也。彼節者有間，而刀刃者無厚；以無厚入有間，恢恢乎其於游刃必有餘地矣。是以十九年而刀刃若新發於硎。雖然，每至於族，吾見其難爲，怵然爲戒，於僞切。下同。視爲止，行爲遲，動刀甚微，謦然化百切。成云：骨肉相離之聲也。已解，音蟹。下同。如土委地，牛不知其死也；見文如海、劉得一本，舊闕。提刀徒嵇切。而立，爲之四顧，爲之躊躇留切。躊躇直於切。閑豫貌。滿志，善刀而藏之。善，穩善也，收刀不羸惡也。文惠君曰：善哉！吾聞庖丁之言，得養生焉。

識明則達理，技妙則中節，庖丁素學養生之道，假技以進耳。始則見牛不見理，後乃見理不見牛，以神遇不目視，治內者遺外也；官知止，神欲行，視聽不以耳目也。依乎天理，自然冥會，批却導窾，遊刃於虛，未嘗經肯綮之礙，況大軋乎！是以十九年而刃若新硎也，動刀甚微，謦然已解，牛不知其死也。夫解牛者，觀其空郤之處，遊刃舞蹈，以全妙技，養生者豈不能避患深隱、保形不虧，以全天真乎！

## 遺刑累

公文軒司馬云：姓公文氏，名軒，宋人也。見右師官名，宋人也。而驚曰：是何人也，惡乎音烏。介音戒。崔本作兀，又作眚，斷足也。郭云：介，偏刖也。也？天與，其

人與？並如字。又並音餘。司馬云：爲天命，爲人事。曰：天也，非人也。天之生是使獨司馬云：一足曰獨，或獨曰介。也。人之貌有與如字。郭云：兩足共行曰有與。也，以是知其天也，非人也。

作善不免，天也；爲惡近刑，人也。有與猶相與，今介獨者，是懼禍於天，雖犯法令，蓋稟受愚昧，亦非人也。人之儀形全美，相與而行，固難企慕而忘己醜也久矣。夫不知世事感變之所起，事至則惑其所由然，惑則外物害之矣，其害也知其所由然，則委之自爾而內無驚怛，所以免乎重傷也。

## 遠樊籠

澤雉澤中之雉也。十步一啄，陟角切。百步一飲，不蘄音祈。求也。畜乎樊中，音煩。李云：藩也，所以籠雉也。神雖王，於沉切。志氣盈豫貌，又盛也。不善也。

## 釋縣解

老聃吐藍切。《廣聖義》云：字伯陽，或字聃，生楚國苦縣瀨鄉。身長九尺，蹈五把十，美眉方口，雙柱三漏，日角月淵，具大聖之相，居岐山之陽，西伯詔爲守藏史，康王時爲柱下史，昭王時西度函關，在周二百餘年。死，秦失本又作佚，各依字讀。老君友也。弔之，三號戶羔切。而出。弟子曰：非夫子之友邪？曰：然。然則弔焉若此可乎？曰：然。始也吾以爲其人也，文本作至人也。而今非也。向吾入而弔焉，有老者哭之如哭其子，少詩照切。者哭之如哭其母，彼其所以會之，必有不蘄言而言，不蘄哭而哭者。是遁天徒遜切。逃遁天理也。倍情，布對切。加也。倍加俗情也。忘其所受，古者謂之遁天之刑。適來，夫子時也；適去，夫子順也。安時而處順，哀樂音洛。下同。一本作憂樂。不能入也。古者謂是帝之縣解。崔云：以生爲縣，以死爲解。指窮於爲薪，火傳直專切。傳者相傳繼續也。也，不知其盡也。

## 內篇·人間世 四

### 化 導

顏回《史記》云：字子淵，魯人也。年二十九髮盡白，蚤死。見仲尼，《史記》云：姓孔名丘，字仲尼，魯人，湯之後。生衰周之世，有大聖之德，回之師也。請行。曰：奚之？曰：將之衛。曰：奚爲焉？曰：回聞衛君司馬云：衛莊公蒯聵也。按《左傳》，衛莊公以魯哀公十五年冬入國，時顏回已死，不得爲莊公，蓋是出公輒也。其年壯，其行下孟切。獨，崔云：自專也。輕用其國，而不見其過，輕用民死，死者以國量音亮。乎，澤若蕉，似遙切。蕉不堅之草，言德澤虛美也。民其無如矣。回嘗聞之夫子曰：治國去之，亂國就之，醫於其切。門多疾。願以所聞思其所行，則庶幾其國有瘳乎！丑由切。愈也。所行見江南李氏本，舊闕。仲尼曰：謏！音熙，歎聲也。若往而殆刑耳。見張君房本，舊作若殆往而刑耳。夫道不欲雜，雜則多，多則擾，擾則憂憂而不救。古之至人，先存諸己，而後存諸人。所存於己者未定，何暇至於暴人之所行，且若亦知乎德之所蕩，而知之所爲於僞切。出乎哉！德蕩乎名，知出乎爭。名也者，相軋於黠切。輾轉也，車所踐也。也，知也者，爭之器也。二者凶器，非所以盡行也。且德厚信弅，苦江切。簡文云：愨實貌。未達人氣，名聞不爭，未達人心，而彊其兩切。以仁義繩墨之言，銜災絹切。賣也。見江南古藏本。舊作術。暴人之前者，是以人惡烏路切。下惡不肖同。有其美也，崔本作人惡育。云：賣也，與上銜賣義相貫矣。命之曰菑音災。下同。人，菑人者，人必反菑之，若殆爲人菑夫。音扶。且苟爲悅賢而惡不肖，惡音烏。用而求有以異，若唯無詔。句絕。告也，言也。王公必將乘人而鬪其捷，在接切。而目將熒戶扁切。之，而色將平之，口將營之，容將形之，心且成

之；是以火救火，以水救水，名之曰益多。順始無窮。若殆以不信厚言，必死於暴人之前矣。且昔者桀《史記》云：謚法：賊民多殺曰桀。殺關龍逢，成云：桀賢臣，盡誠而遭斬首。紂《史記》云：謚法：殘義損善曰紂。殺王子比干，成云：紂之叔父，忠諫而被剖心。是皆修其身以下偃拊音撫。李云：偃拊謂愛憐之也。人之民，以下拂符弗切。違戾也。其上者也，故其君因其修以擠子計切。排也。之，是好呼報切。名者也。昔者堯攻叢支、才公切。胥敖，解在《齊物篇》。禹攻有扈，音戶。司馬云：國名，在始平郡。按即今京兆鄂縣也。國爲虛厲，如字，又音墟。居宅无人曰虛，死而無後曰厲。身爲刑戮，其用兵不止，其求實無已，是皆求名實者也。而獨不聞之乎？名實者，聖人之所不能勝也，而況若乎？雖然，若必有以也，嘗以語我魚據切。下同。告也。來。顏回曰：端而虛，勉而一，則可乎？曰：惡！音烏。未允聲也。下同。惡可？夫以陽爲充孔揚，采色不定，常人之所不違。因案人之所感，以求容與成云：放縱也。文云：自恣其情也。其心，名之曰日漸之德不成，而況大德乎？將執而不化，外合而內不訾音紫。毀也。其庸詎可乎？然則我內直而外曲，成而上比。內直者，與天爲徒。與天爲徒者，知天子之與己皆天之所子，而獨以己言蘄音祈。乎而人善之、蘄乎而人不善之邪？若然者，人謂之童子，是之謂與天爲徒。外曲者，與人之爲徒也。擊其驚切。跽其里切。擊，拱手也。跽，跟跪也。曲拳音權。禮容貌。人臣之禮也，人皆爲之，吾敢不爲邪？爲人之所爲者，人亦無疵才斯切。病也。焉，是之謂與人爲徒。成而上比者，與古爲徒。其言雖教謫陟革切。罰也。之，實也，古之有也，非吾有也。若然者，雖直不爲病，是之謂與古爲徒。若是則可乎？仲尼曰：惡！惡可？太多政，法而不諂，徒協切。軍中反問曰諂。雖固亦無罪；雖然，止是耳矣，夫胡可以及化，猶師心自信成心也。者也。

輕用其國，固不重己，輕用民死，又不重人。死者莫知其數，故以國量，蕉者虛質之草，衛君雖有德澤，如蕉之不實，民無所往矣。回謂賢門多疾，願思所以救之道，不欲雜多則惑也。先存諸己，立其本也，其本未立，安能化人。喪德者名也，役知者爭也，人不能知者，大名也，人不與爭者，大知也，不知不爭，所以盡行也。而強以仁義繩墨之言銜暴人之前，是以人惡有其美，若殆爲人菑夫。若乃尊賢遠佞，是爲明哲，安用更求異邪！彼將乘勢角其捷辯，則汝目熒以驚外，色平以忍內，口成而依違，容形而失措，心成則無守，而順始無窮？終於不逆也。若殆不信厚言，必死於暴人之前

矣。遂舉龍逢、比干以證無道則逆順之事彰，有道則逆順之理忘，昔堯、禹之於三國尚不能化，必攻以滅之，而回欲空言以化衛君，非徒無益也。端則未虛，勉則不一，驕盈於外，人所不違，性不可違，其可以虛一而化諸？顏子又陳與天、與人、與古爲徒，或可以免患，而夫子不許，以其猶師成心，而未能體冥大道故也。

顏回曰：吾無以進矣，敢問其方。仲尼曰：齊，吾將語若。有心而爲之其易邪？心、之見張君房本，舊作有而爲其易邪。易之者，皞天胡老切。皞，明也。不宜。《說文》：宜者所安也。顏回曰：回之家貧，唯不飲酒、不茹音汝，食也。葷許云切。辛菜也。者數月矣。若此則可以爲齊乎？曰：是祭祀之齊，非心齊也。回曰：敢問心齊？仲尼曰：若一志。無聽之以耳，而聽之以心；無聽之心，而聽之以氣。聽止於耳，心止於符，氣也者，虛而待物者也，唯道集虛，虛者，心齊也。顏回曰：回之未始得使，句絕。謂未曾得使虚心而的有此身也。實自回也；得使之也，未始有回也。可謂虛乎？夫子曰：盡矣，吾語若：若能入遊其樊，區域也。而無感其名，入則鳴，不入則止，無門無毒，一宅而寓於不得已，則幾矣。絕迹易，無行地難。爲人使，易以僞，爲天使，難以僞。聞以有翼飛者矣，未聞以無翼飛者也。聞以有知知者矣，未聞以無知知者也。瞻彼闕苦穴切。空也。者，虛室生白，白者，陽明也。吉祥止止。吉祥，道也。夫虛靜絕念，則道集矣。夫且不止，是之謂坐馳。形坐而心馳也。夫徇辭俊切。李云：使也。耳目內通，而外於心知，鬼神將來舍，而況人乎！是萬物之化也，禹、舜之所紐女九切。系也。成云：綱紐也。也。伏羲許宜切。即太皞，三皇之始也。几蘧其居切。向云古之帝王也。之所行終，而況散焉悉旦切。李云：放也。崔云：德不及聖王爲散。者乎？

祭祀之齋，涉迹心齋，則悟本也。無聽以耳而以心，遺照觀妙也；無聽以心而以氣，渾一太漠也。初學到此，散漫而難攝，然有妙門焉：在乎聽止於耳，神專所司，則內景不逸、外塵不入，心止於符，祥光凝合，則靈府湛然，心君寂爾。是故冲氣洞虛，本無所待，然無待之中，靈物自集，所謂交梨火棗不生於荆棘之地，此理惟修習者知之。得使者，心齋之密用，實自回也，未能虚心，未始有回，虛亦忘矣。若能入乎法令之所，於物不動不矜者，庶幾免患矣。入謂聽納，鳴謂無機巧之言，聽之則言，不聽則止。言辭廣大曰無門，理趣淡泊曰無毒，心無二者，一宅寓於不得已，寄功羣林也。

止步絕迹則易，行不踐地則難，喻人使易誑，自任難欺，有翼斯可以衝天，有道斯可以應變也。室虛則陽明生，心定則天光發，身坐閑堂，內懷好惡，是猶馬伏槽櫪、馳意千里矣。夫不逆六鑿於外，則反收靈光於內，人間事物無緣染汙也。

## 命 使

葉公音攝。文云：姓沈名諸梁字子高，楚莊王之遠孫沈尹戌之子，爲楚大夫，食采於葉，僭稱公。時北狄伐楚，楚昭王懼，使子高求救於齊。子高將使所吏切。下待使同。將命者也。於齊，問於仲尼曰：王使音史。役也，令也。諸梁也甚重，齊之待使者蓋將甚敬而不急，匹夫猶未可動也，而況諸侯乎？吾甚慄之。音栗。李云：懼也。子嘗語魚據切。下同。諸梁也，曰凡事若小若大，寡不道以懽成。江南古藏本作寡有不道以成懽。事若不成，則必有人道之患；事若成，則必有陰陽之患；若成若不成，而後無患者，惟有德者能之。吾食也，執粗音麤，糲也。而不臧，作郎切。善也。爨七亂切。無欲清七性切。字宜從彳，從彳者假借也。清，涼也。之人，今吾朝受命而夕飲冰，我其內熱與？音餘。下慎與同。吾未至乎事之情，而既有陰陽之患矣，事若不成，必有人道之患，是兩也，爲人臣者，不足以任而林切。之。子其有以語我來？仲尼曰：天下有大戒二：其一命也，其一義也。子之愛親，命也，不可解於心；臣之事君，義也，無適而非君也，無所逃於天地之間。是之謂大戒。是以夫事其親者，不擇地而安之，孝之至也；夫事其君者，不擇事而安之，忠之盛也。自事其心者，哀樂音洛下同。不易如字，移也。又以豉切，云：輕易也。施乎前，知其不可奈何而安之若命，德之至也。爲人臣子者，固有所不得已，行事之情而忘其身，何暇至於悅生而惡烏路切。下同。死？夫子其行可矣。丘請復以所聞：凡交，近則必相靡以信，遠則必忠之以言，言必或傳之。夫傳兩喜兩怒之言，天下之難者也。夫兩喜必多溢美之言，兩怒必多溢惡之言，凡溢之類妄，妄則其信之也莫，莫則傳言者殃。故法言曰：傳其常情，無傳其溢言，則幾乎全。

爨無欲清明，所饌淡泊，內熱飲冰，蓋憂煩所致，欲免陰陽人道之患，所以請教於仲尼。告以父子天合曰命，君臣道合曰義，且造化之下皆係君



親，無所逃於天地之間，是曰大戒，故不擇事地而安之，擇之則非忠孝也。自事其心者，哀樂不易施乎前，唯信道任命而已矣，為人臣子者，固有所不得已。舜之陶漁，禹之治水，唯盡節忘身、安乎命義可也。相靡以信，忠之以言，皆迹也；觀迹可以知其本，傳言猶履迹，貴乎適中，過與不及皆差矣，差則傳言者殃，蓋失則虧也。

且以巧鬪力者，始乎陽，常卒乎陰，泰至則多奇巧。以禮飲酒者，始乎治，常卒乎亂，泰至則多奇樂。凡事亦然；始乎諒，誠信也。常卒乎鄙，其作始也簡，其將畢也必巨。言者風波也，行者實喪息浪切。下同。也：夫風波易以以鼓切。下同。動，實喪易以危。故忿設無由，巧言偏辭。音篇。崔本作諱，音辯。獸死不擇音，氣息弗符弗切。崔音勃。然，於是並生心厲，如字。李音賴。刻核幸格切。《漢書·宣帝紀》云：綜核名實。于吉《太平經》有《核事篇》，古人以核作劾，通用。太至，則必有不肖之心應之，而不知其然也。苟爲不知其然也，孰知其所終？故法言曰：無遷令，無勸成。過度，益也；遷令，勸成，殆事。美成在久，惡成不及改，可不慎與！且夫乘物以遊心，託不得已以養中，至矣，何作爲報也。莫若爲致命，此其難者。

巧變則必爭，樂變則必亂，風波之言易動，實喪之行難安，逼獸窮地則惡聲出，責人太深則和氣喪，理自爾耳，莫知所以然也。遵法令者不遷，明自成者不勸，美成在久，大器晚成也，惡成不及改，將奪必與也，乘物遊心則任物，託不得已則虛己，作爲以報則僞矣。自忘則易，欲致君命所以爲難，非難非易，唯有道者能之。

## 師 傅

顏闔胡臘切。崔本作廬。魯之賢人，隱者也，先事魯定公，後適衛，爲靈公太子師傅。將傅衛靈公《左傳》云：名元。諡法：亂而不損曰靈。太子，司馬云：蒯聵也，後爲莊公。而問於蘧其居切。伯玉名瑗，字伯玉，衛之賢大夫也。曰：有人於此，其德天殺，天然好殺爲德。與之爲無方，李云：方道也。則危吾國；與之爲有方，則危吾身。其知適足以知人之過而不知其所以過，若然者，吾奈之何！蘧伯玉曰：善哉問乎！戒之

慎之，正汝身哉！形莫若就，心莫若和。雖然，之二者有患，就不欲入，和不欲出；形就而入，且爲顛爲滅，爲崩爲蹶；其月切。敗也。心和而出，且爲聲爲名，爲莸於喬切。地反物爲莸。爲蠱。魚列切。災也，或作孽。彼且爲嬰兒，崔云：喻驕遊也。亦與之爲嬰兒；彼且爲無町徒頂切。畦，戶圭切。李云：町畦，畔埒也，无威儀貌。亦與之爲無町畦；彼且爲無崖，文云：无禮法也。亦與之爲無崖；達之入於無疵。似移切。病也。汝不知夫螳螂音堂郎。有命斧之蟲。乎，怒其臂以當車轍，不知其不勝任並平聲。也，是其才之美者也；戒之慎之，積伐而美者以犯之，幾矣！文本作幾殆矣。汝不知夫養虎者乎，不敢以生物與之，爲其於偶切。下同。殺之之怒也，不敢以全物與之，爲其決之之怒也；時其飢飽，達其怒心，虎之與人異類，而媚養成云：順則悅媚，可以馴狎。己者順也，故其殺者逆也。夫愛馬者，以筐盛音成。下同。矢，或作屎，同。以蜋市軫切。蛤類。盛溺，奴弔切。劉得一本作屎，從尾從水。適有蚤音文。蝨孟庚切。僕緣，普木切。向云：僕僕然蚤蝨緣馬，稠概貌。崔音如字，云僕御也。而拊音撫。之不時，則缺銜毀首碎胸；意有所至，而愛有所亡，可不慎邪！

相與爲惡則亂邦，率之以道則害己，唯善歛張之權者斯能傳之。若省己過，則無凶德矣。正身者不言之教，形莫若就，與之無方也，心莫若和，奪之有道也。就入則同惡，爲顛滅崩蹶，所以危吾國；和出則自矜，爲聲名妖孽，所以危吾身；故自嬰兒以至於無崖，此所以歛張予奪之道也。螳螂怒臂以當車轍，才美力微，不敗而何。養虎養馬，喻制物在乎術，役人在乎權，亡其權術而欲御物，斯自害而已矣。

## 不材惡名

匠石匠是工人之通稱，石乃名也。之齊，至於曲轅，音袁。曲轅道名也。見櫟力狄切。不材之木也。社封土曰社。土，吐也。云能吐生萬物故謂之社。樹，其大蔽必世切。數千牛，見張君房、成玄英、文如海本，舊闕。絜奚結切。《集韻》云：絜束知其小大也。顏師古注《漢書》云：絜，繞也。之百圍，李云：徑尺爲圍，蓋十丈也。其高臨山，十仞七尺曰仞。而後有枝，其可以爲舟者旁十數。觀音官。下同。者如市，匠伯伯，長也。爲衆匠之長也。不顧，遂行不輟。丁劣切。弟子厭於黠切。觀之，走及匠石曰：自吾執斧

斤以隨夫子，未嘗見材如此其美也，先生不肯視、行不輟，何邪？曰：已矣，勿言之矣，散木悉旦切。木以不材爲散。也；以爲舟則沈，以爲棺槨則速腐，奉斧切。爛也。以爲器則速毀，以爲門戶則液音亦。櫨，亡言、莫千二切。司馬云：液，津液也，謂脂出櫨櫨然也。以爲柱則蠹，丁故切。是不材之木也，無所可用，故能若是之壽。匠石歸，櫨社見夢胡薦切。曰：女將惡音烏。下同。乎比予哉？若將比予於文木謂材之美也。邪？夫櫨側加切。梨橘均必切。柚余救切。果蓏力果切。木子曰果，草子曰蓏。之屬，實熟則剥則辱，大枝折，小枝泄，思列切。萎泄在地也。此以其能苦崔本作枯。其生者也，故不終其天年而中道夭，自掊普口切。擊也。擊於世俗者也。物莫不若是。且予求無所可用久矣，幾死，乃今得之，爲予大用；使予也而有用，且得有此大也邪！且也若與予也，皆物也，奈何哉其相物也，而幾死之散人。句絕。又惡知散木？匠石以不材爲散木，櫨社以材能爲无用，故謂匠石爲散人也。匠石覺古孝切。而診直信切。占夢也。其夢。弟子曰：趣取無用，則爲社何邪？曰：密，若無言，彼亦直寄焉，以爲不知己者詬呼豆切。厲如字。詬，辱也。厲，病也。也，不爲社者，且幾音機。近也。有翦子淺切。伐也。乎！且也彼其所保與衆異，而以義譽之，不亦遠乎！

櫨社巨材，人皆厭觀，若非匠石別識，幾爲執斤者所伐，今以全朴爲大用也，奈何相物猶嫌匠石有分別之意，然弟子尚以爲良材而託社自庇，匠石謂彼社直來寄木，非木求爲社也。以曲轅鄉俗爲不知己者，以社爲辱，謂之詬厲。至人以無用全生，世俗以不材見棄，櫨社與文木有異，唯匠石知之耳。夫木猶不可以義譽，而況至人之道乎？

## 神不矜能

南伯子綦即《齊物篇》南郭子也。伯，長也。遊乎商之丘，司馬云：今梁國睢陽縣是也。見大木焉有異，結駟千乘，駟馬曰乘。將隱庇其所竊。見張君房本，舊作隱將庇其所竊。子綦曰：此何木也哉？此必有異材夫！音扶。仰而視其細枝，則拳音權。曲而不可以爲棟梁，俯而視其大根，則軸直竹切。解如衣軸之直解也。而不可以爲棺槨，啞食紙切。其葉則口爛而爲傷，𪔐許救切。之則使人狂醒音呈。病酒曰醒。三日

而不已。子綦曰：此果不材之木也，以至於此其大也。嗟夫！神人以此不材。

## 材致不祥

宋有荆氏司馬云：地名，一曰里名。宋國有荆氏之地。者，宜楸、柏、桑，宜此三文木也。其拱恭勇切。把百雅切。司馬云：兩手曰拱，一手曰把。而上者，求狙七餘切。猴音侯，獼猴也。之杙以職切。成云：杆槪也。以繫杆獼猴也。司馬本作扒，音八。云欲以栖戲狙猴。崔本作拔，音跋，云枷也。者斬之；三圍徑尺曰圍。四圍，求高名之麗如字。屋檣也。者斬之；七圍八圍，貴人富商之家求禪音膳。傍薄剛切。司馬云：棺之全一邊者謂之禪傍。者斬之，故未終其天年，而中道之夭於斧斤，此材之患也。故解古賣、佳買二切。祓除也，祭鬼也。之以牛之白顙息黨切。顙也。者，與豚之亢鼻苦葬切。司馬云：高也。顙折故鼻高又仰也。者，與人有痔直里切。病者，不可以適河；司馬云：謂沈人於河祭也。西門豹爲鄴令方斷之。此皆巫祝以知之矣，所以爲不祥也；此乃神人之所以爲大祥也。

七竅馳用，則昏塞不通，百骸勞役，則疲薺莫支。唯有無名靈物，統御一體，光耀弗竭，充滿太虛，故衆神得以芘籟，巫覡嫌病物不殺，神人以滄祭爲尊。

## 疏德養身

支離疏成云：四支離析，百體寬疏，因以爲名。者，頤以之切。隱於齊，肩高於頂，司馬云：脊曲頸縮也。《淮南子》云：脊管高於頂也。會古外、古活二切。撮子外、子活二切。指天，司馬云：會撮，髻也。古者髻在頂中，脊曲頭低，故髻指天也。五管在上，李云：管，膻也。五藏之膻皆在上也。兩髀音陞。崔云：僂人腹在髀里也。爲脅，許劫切。司馬云：脊曲髀立，故與脅並也。挫寸臥切。摧也。鍼執金切。司馬云：挫鍼縫衣也。治繻，音懈。故衣也，謂補衲舊衣也。足以餬口，音胡。食也。鼓筴初革切。崔云：鼓筴，撲蓍也。播精，崔云：卜卦占兆也。足以食音嗣。十人；上徵武士，則支離攘如羊切。臂於其間；上有

大役，則支離以有常疾不受功；上與病者粟，則受三鍾司馬云：六斛四斗曰鍾。與十束薪。夫支離其形者，猶足以養其生，終其天年，又況支離其德者！

處身無用，支離其形也，懷道若愚，支離其德也。

## 有用致患

孔子適楚，《史記》云：孔子圍於陳蔡，楚王興師迎孔子，孔子適楚。楚狂接輿遊其門曰：鳳兮鳳兮；何如德之衰也！來世不可待，往世不可追也。天下有道，聖人成焉，天下無道，聖人生焉。方今之時，僅音覲。纔也。免刑焉。福輕乎羽，莫之知載；禍重乎地，莫之知避。已乎已乎，臨人以德。殆乎殆乎，畫地音獲。而趨。迷陽迷陽，無傷吾行。郢曲郢曲，乞約切。退也。謂退身曲全也。郢曲郢曲見張君房本，舊作吾行郢曲，轉寫誤也。郢音乞逆切，今不取。無傷吾足。山木自寇也，膏火自煎也，桂可食，故伐之，漆可用，故割之。人皆知有用之用，而莫知無用之用也。

有道則樂成，無道則全生，能載輕羽之福者，無爲之士，不避重地之禍者，勢利之徒，夸德臨人，有我厚矣，驅人徇迹，其道尤危。迷陽謂晦明，晦明則行完，却曲謂退身曲全安於分內。木火桂漆之喻，皆適人之適而不自適其適者也。

## 內篇·德充符 五

### 鑑 道

魯有兀者五忽切。刖足曰兀。王駘，臺、殆二音，魯人，未見傳記。從如字。李：才用切。下同。之遊者，與仲尼相若。常季仲尼弟子。問於仲尼曰：王駘兀者也，從之遊者與夫子中分魯。立不教，坐不議，虛而往，實而歸，固有不言之教，無形而心成者邪？是何人也？仲尼曰：夫子聖人也，丘也直後而未往耳！直在駘後，未得往師之耳。丘將以爲師，而況不若丘者乎？奚假魯國，丘將引天下而與從之。常季曰：彼兀者也，而王於況切，盛也，勝也。先生，其與庸亦遠矣。仲尼自伏庸下，不亦太甚。若然者，其用心也，獨若之何？仲尼曰：死生亦大矣，而不得與之變，雖天地覆芳服切。墜，直類切。亦將不與之遺，審乎無假而不與物遷，命物之化而守其宗者也。見江南藏本，舊闕。常季曰：何謂也？仲尼曰：自其異者視之，肝膽丁覽切。楚越也。自其同者視之，萬物皆一也。夫若然者，不知耳目之所宜，而遊心乎德之和，物視其所一，而不見其所喪，息浪切。下同。視喪其足，猶遺土也。常季曰：彼爲己，以其知，得其心，以其心，得其常心，物何爲最徂會切。聚也。之哉？仲尼曰：人莫鑑古暫切。於流水，崔本作洙水。而鑑於止水，惟止能止衆止。受命於地，唯松柏獨也正在冬夏青青；受命於天，唯堯舜獨也正在萬物之首，見張君房本，舊闕。幸能正生，以正衆生。夫保始之徵，李云：徵，成也。終始可保成也。不懼之實，勇士一人，雄入於九軍。李：天子六軍，諸侯三軍，通爲九軍。簡文云：兵書以攻九天、收九地，故謂之九軍也。將求名而能自要一遙切。者，而猶若是，而況官天地，府萬物，直寓六骸，身首四支也。象耳目，一知之所知，而心未嘗死者

乎？彼且擇日而登，假古雅切。人則從是也，彼且何肯以物爲事乎？

不治而不亂，立不教也，不言而自信，坐不議也。齋心問道，則虛而往，悟理而反，則實而歸，無形而心成，介兀而德充也。夫至人者，天地不能易其德，死生不能革其性，即境皆冥，獨立不改，天地密移，而我常存，府藏氣異，則一體之中楚越也，動植道同，則天地之間不二也。逐聲色則耳目異宜，混物我則事無好惡，是故心無係著，所詣皆通，彼此委和，得喪自泯。今見學者盈門，而謂得其心，觀淡泊自守，而謂以其心，常心無迹，物何爲最之哉？觀容必鑑止水，求道當訪賢師，唯其自止，故能止絕衆心也。植物產乎地，得地氣之正者松柏，動物育乎天，得天氣之正者聖人，率己以正，而行冲默之訓，是以大丈夫以道戰死，生而名勢不足稱焉。覆載有官，動植有聚，身非我有，故視聽不用，所知不二，心奚有死哉！擇日而登，去留有時也，假人則從是，真人則任己也。

## 遊 內

申徒嘉成云：鄭之賢人，姓申徒名嘉，兀足者也。兀者也，而與鄭子產姓公孫名喬字子產，鄭之賢相也。同師於伯昏无人。即伯昏瞀人也。古有道之士，列子嘗師之。子產謂申徒嘉曰：我先出則子止，子先出則我止。其明日，又與合堂同席而坐。子產謂申徒嘉曰：我先出則子止，子先出則我止；今我將出，子可以止乎？其未邪？且子見執政而不違，子齊執政乎？申徒嘉曰：先生之門，固有執政焉如此哉！子而悅子之執政而後人者也。聞之曰：鑑明則塵埃不止，止則不明也。久與賢人處則無過，今子之所取大者，先生也，而猶出言若是，不亦過乎？子產曰：子既若是矣，猶與堯爭善，計子之德，不足以自反邪？張君房本無不字。申徒嘉曰：自狀其過，以不當亡者衆，不狀其過，以不當存者寡。知不可奈何而安之若命，惟有德者能之。遊於羿音詣，堯時善射人。之彀音邁。張弓也。中，郭云：弓矢所及爲彀中。中央者，中地丁仲切。下不中同。也，然而不中者命也。人以其全足笑吾不全足者衆矣，我怫然扶弗切。暴怒貌。而怒；而適先生之所，則廢然而反。不知先生之洗我以善邪？吾之自寤邪？見張君房本，舊闕。吾與夫子遊十九年矣，而未嘗知吾兀者

也，今子與我遊於形骸之內，而子索色百切。我於形骸之外，不亦過乎？子產蹙子六切。驚慚貌。然改容更貌曰：子無乃稱。如字。舉也。

子產師伯昏之道而未能忘我，申徒同出師門而未能忘德，況其下者乎？以不當亡者衆，飾非者多也，以不當存者寡，罪己者鮮也。遊羿彀中，喻欲全而不免，皆天命也。人笑吾不全則怫然而怒，風火猶存，適先生之所則廢然而反，鑑於止水也。與遊十九年而未嘗知兀，忘德忘形者也。

## 務 全

魯有兀者叔山无趾，音止。李云：叔山字也，无足趾也。踵朱勇切。向云：頻也。崔云：無趾故踵行。見賢遍切。仲尼。仲尼曰：子不謹前，句絕。既犯患若是矣，雖今來何及矣！无趾曰：吾惟不知務，而輕用吾身，吾是以亡足。今吾來也，猶有尊足者存，吾是以務全之也。夫天无不覆，地无不載，吾以夫子爲天地，安知夫子之猶若是也。孔子曰：丘則陋矣，夫子胡不入乎？請講以所聞。无趾出，孔子曰：弟子勉之，夫无趾兀者也，猶務學以復補前行下孟切。之惡，而況全德之人乎？无趾語魚據切。老聃曰：孔丘之於至人，其未邪？張君房本无其字。彼何賓賓中外无主貌。以學子爲！彼且斲音祈。以諷尺叔切。詭九委切。諷詭，奇異也。幻滑辦切。怪之名聞，不知至人之以是爲己桎之石切。木在足也。梏古毒切。木在手也。邪？老聃曰：胡不直使彼死生爲一條，以可不可爲貫者，解其桎梏，其可乎？无趾曰：天刑之，安可解？

尊足謂性，性不虧則可稱全矣。仲尼請无趾入室講道，而无趾目擊意達，不言而出。孔子以无趾之迹，誨門人之心。无趾語老聃，孔子何賓賓以學子爲，彼斲以幻怪名聞，而不知至人以此爲刑戮也，胡不思所以解之，上與造化同死生一條也，下與物我齊可不可一貫也，天刑不可解，未能泯迹也。



## 德 平

魯哀公定公子，名將。問於仲尼曰：衛有惡人醜貌。焉，曰哀駘臺、殆二音。它，徒何切。李云：哀駘，醜貌，它其名。衛國之士也。丈夫與之處者，思而不能去也；婦人見之，請於父母曰：與人爲妻，寧爲夫子妾者，十數而未止也。未嘗有聞其唱者也，常和戶卧切。下同。人而已矣。無君人之位，以濟乎人之死，無聚祿以望人之腹，又以惡駘胡楷切。天下，和而不唱，知不出乎四域，且而雌雄李云：禽獸屬也。合乎前，是必有異乎人者也。寡人召而觀之，果以惡駘天下。與寡人處，不至以月數，而寡人有意乎其爲人也；不至乎期年，音基。四時曰期。而寡人信之。國無宰，而寡人傳大專切。國焉；悶然音門。李云：不覺貌。而後應，汜浮劍切。不係也。而若辭。寡人醜乎，自可惡也。崔本作媿。卒授之國。无幾居豈切。俄頃也。何也，去寡人而行，寡人卹焉，若有亡也，若無與樂音洛。是國也。是何人者也。仲尼曰：丘也嘗使所吏切。一本作遊。於楚矣，適見狔子徒門切。與豚同。食音飲。成云：謂飲其乳也。於其死母者，少許照切。少頃也。焉眴若，本亦作瞬，音舜。崔云：目動也。謂死母眴目，若少頃之間也。皆棄之而走。不見己焉爾，不得類焉爾！所愛其母者，非愛其形也，愛使其形者也。戰而死者，其人之葬也不以嬖資；所甲切。成云：飾武之具，武王所造，形似方扇，嬖以木爲衣，以白布畫爲雲氣，如今之攝也。俠車兩邊，將軍行師，陷軍而死，及其葬日，不以嬖資。資，送也。刖者之屨，俱遇切。屨也。无爲愛之；皆无其本矣。爲天子之諸御，不爪翦，不穿耳；取七句切。妻者止於外，不得復使，形全猶足以爲爾，而况全德之人乎？今哀駘它未言而信，无功而親，使人授己國，惟恐其不受也，是必才全而德不形者也。哀公曰：何謂才全？仲尼曰：死生存亡，窮達貧富，賢與不肖，毀譽，飢渴，寒暑，是事之變，命之行也。日夜相代乎前，而知不能規乎其始者也，故不足以滑音骨。和，不可入於靈府。使之和豫通而不失於兑，徒外切。悦也。使日夜無卻去逆切。間也。而與物爲春，是接而生時於心者也。是之謂才全。何謂德不形？曰：平者，水停之盛也，其可以爲法也，內保之而外不蕩也。德者，成和之修也。德不形者，物不能離力智切。也。哀公異日以告閔子《史記》云：名損，字子蹇，魯人，仲尼弟子，在四科之數，不仕大夫，

不食汙君之祿，甚有孝行。曰：始也吾以南面而君天下，執民之紀，而憂其死，吾自以爲至通矣，今吾聞至人之言，恐吾無其實，輕用吾身而亡吾國，吾與孔丘非君臣也，德友而已矣。

權勢聚祿，可以活人，故衆歸之，今匹夫而衆歸者，以德爲丘也。己性也，生則己類，死則失類，豚母亡其己性，豚子失其己類，故棄而走，喻哀公鮮德而至人遠之也。娶以旌武，屢以飾足，戰死則足，皆忘其本，飾安用哉！死生至寒暑十六日，是爲塵網，凡涉世者莫能逃，委之天命，是曰德充，然猶爲方內之士，彼遊方之外者，脩然縣解，入於大妙，故仲尼得以忘言，哀公絕其所問也。炎涼事變，晨夕不停，雖巧歷規度，莫定乎前，誰復計其終乎？靈府既虛，自然和理，閑豫通達，不滯常有，兌悅之懷，虛妙之心，未嘗間斷也。春氣茂養，同聖賢育物之心，水停之盛，爲大匠之所取法，德在內則成身，施於外則和物，成和之理，非修莫就也。執民之紀而憂其死，未能芻狗萬物，忘國則身富，忘勢則德充矣。

## 德 忘

闔音因。跂音企。支離无脈市軫切。闔，曲也。跂，不正也。闔跂支離，言脚常曲行，體不正卷縮也。无脈，名也。又闔跂，偃者也。跂，行也。脈，臀也。說始銳切。下同。衛靈公，已出《人間世篇》。靈公悅之；而視全人，其脰音豆。頸也。肩肩。胡田切。李云：羸小貌。甕烏送切。瘠烏葬切。李云：甕瘠，大瘠貌。大瘠一領切。瘠也。說齊桓公，《史記》云：襄公庶子小白也。謚法：辟土兼國曰桓。桓公悅之；而視全人，其脰肩肩。故德有所長，而形有所忘；人不忘其所忘，而忘其所不忘，此謂誠忘。故聖人有所遊，而知爲孽，魚列切。約爲膠，德爲接，工爲商。聖人不謀，惡音烏。下同。用知？不斲，陟角切。雕斲也。惡用膠？無喪，息浪切。惡用德？不貨，惡用商？四者，天鬻音育。養也。也。天鬻也者，天食音嗣。亦如字。也。既受食如字，又音嗣。於天，又惡用人？

二君之中，其說忘形而未能忘德也。聖人遊於忘形忘德之外，雖日用知

德而不自矜，故勝孽等事無由萌兆。不謀利害何用知？不斷情性何用膠？無喪於物何用德？不殖貨財何用商？已上四事，皆天然而養者也。蜷蜷轉丸，蜘蛛結網，不謀之知也；雲龍風虎、松柏女蘿，不斷之膠也；禽獸林藪、魚鼈江湖，無喪之德也；物物自利，各各營生，不貨之商也。此乃天之所養，故曰天食。

## 无 情

有人之形，無人之情。有人之形，故羣於人；無人之情，故是非不得於身。眇亡小切。眇乎，謙小貌。乎小哉，所以屬於人也；警牛刀切。警乎，夸大貌。乎大哉，獨成其天。惠子謂莊子曰：人故無情乎？莊子曰：然。惠子曰：人而無情，何以謂之人？莊子曰：道與之貌，天與之形，惡音烏。下同。得不謂人。惠子曰：既謂之人，惡得無情？莊子曰：是非吾所謂情也。吾所謂無情者，言人之不以好惡呼報、烏路二切。內傷其身，常因自然而不益生也。惠子曰：不益生，何以有其身？莊子曰：道與之貌，天與之形，無以好惡內傷其身。今子外乎子之神，勞乎子之精，倚於綺切。樹而吟，據槁苦老切。梧音吾。而瞑；音眠，成云：槁梧乃夾膝几也。惠子好談名理，行則倚木而吟，坐則憑几而睡。天選宣轉、息戀二切。授也，與也，任也。子之形，子以堅白鳴。无理之言謂之鳴。

有形無情，望之似木雞矣；一尺之面，容貌不同者，道與之也；六尺之體，空窾無殊者，天與之也；皆非情之所有，天任子之形者，豈有情哉，暗醺而自生耳。今子有人之形，與衆無別，而強以堅白同異之辯鳴噪於衆人之前，而自謂賢者，猶躍冶之金，何得不怪哉！

## 內篇・大宗師 六

### 真人行

知天之所爲，知人之所爲者，至矣。知天之所爲者，天而生也。知人之所爲者，以其知之所知，以養其知之所不知，終其天年而不中道夭者，是知之盛也。雖然，有患，夫知有所待而後當，其所待者，特未定也。庸詎其庶切。庸，用也。詎，何也。知吾所謂天之非人乎？所謂人之非天乎？且有真人而後有真知。何謂真人？古之真人，不逆寡，不雄成，不驀没乎切。謀也。士。若然者，過而弗悔，當而不自得也。若然者，登高不慄，音栗。入水不濡，而朱切。濕也。入火不熱。是知之能登假更夏切。至也。於道也，若此。

天之所爲，降清妙之氣，覆育萬物；人之所爲，運神和之氣、營衛百骸。若乃知天無爲而不空、人有爲而不滯者，斯爲至矣。清妙之氣不知其所從來，謂之獨化，獨化者天然而生也。知之所知者，有涯之知，知之所不知者，無涯之知，以有涯之知養無涯之知，不越分而求知，是知之盛也。然猶患在乎知。有待有當，莫若都忘，而任之境之，對待特未定也。豈知天然之非人事，人事之非天然乎？若然者，心冥冲漠，迹混囂塵，昇入太虛，眇然無際也。

古之真人，其寢不夢，其覺古孝切。無憂，其食不甘，其息深深。內息貌。真人之息以踵，章勇切。踵，足跟也。故腎脉起於足跟也。火在水下，故息無所不之。衆人之息以喉。水火相亢，故不寧極。屈服者，其嗌音益。郭云：咽喉也。言若哇；獲媯切。崔云：結也。言咽喉之氣結礙不通也。其耆欲深者，其天機淺。真水濁則天光昏。古之真

人，不知悅生，不知惡烏路切。死，其出不訢，音欣。喜也。其人不距，音巨。李云：欣出則悅生，距入則惡死。脩音蕭。成云：无係貌。然而往，脩然而來而已矣。不忘其所始，不求其所終，受而喜之，忘而復之。是之謂不以心捐道，不以人助天，是之謂真人。

神凝者不夢，心空者無憂，無所嗜故不甘也。真人火在水下，故其息無所不之，衆人水火相亢，故不寧極。嗜欲深者天極淺，真水濁則天光昏，爲道者無悅惡，自任者無訢距，不忘始則存其本，不求終則不預謀，不用心而棄大道，不益生以致不詳，此真人之行也。

若然者，其心忘，其容寂，其顙息黨切。顙也。顙，渠追切。徐去軌切。郭云：大朴貌。向本作顙顙然。《說文》：權也。淒七西切。然似秋、煖音暄。徐：況晚切。然似春，喜怒通四時，與物有宜，而莫知其極。故聖人之用兵也，亡國而不失人心，利澤施乎萬世，不爲愛人。故樂音洛。通物，非聖人也；有親，非仁也；天時，非賢也；利害不通，非君子也；行下孟切。名失己，非士也；亡身不真，非役人也；若狐不偕、成云：姓狐字不偕。或云：堯時人，不受堯禪，投河而死。務光、成云：黃帝時人，身長七尺，耳長七寸。又云：商時人。餌藥養生，好鼓琴，湯與天下不受，乃負石自沉於盧水。伯夷、叔齊、《搜神記》曰：孤竹國有女悅其門下書生，飲其墨汁而生子，棄豬圈中，猪虛之不死，其上生一根竹，直上與林相交，家人以爲神，便收養之。及長、有武力，後夏后氏列土而封之，遂爲墨胎氏，號曰孤竹君。成云：遼西孤竹君之二子，神農之裔，姓默台，伯夷名允字公信，叔齊名致字公達。父死，兄弟相謙，不肯嗣位，聞西伯有道，試往觀焉。文王崩，武王伐紂，夷齊叩馬而諫，武王不從，遂隱於河東首陽山，采薇而食，終餓而死。或曰：夷齊謚號也。謚法曰：克教秉義曰夷，執正克莊曰齊。箕子胥餘、成云：胥餘，箕子名也，見《尸子》。又云：箕子胥餘，沫身爲厲，被髮佯狂，紂之叔父，諫紂不從，被囚奴戮。或云：胥餘者伍子胥也，諫吳王不從，抉目而死，沉尸於江。又云：吳王賜子胥屬鏹之劍，自死。紀佗、徒何切。成云：湯時逸人，踐於窾水而死。申徒狄，商時人，負石自投於河，解在《盜跖篇》。是役人之役，適人之適，而不自適其適者也。

心志一之而已，容寂反照也，顙如顙之不動，敦兮若朴也。知天則通四時，知人則與物宜。忘外利則得內利，慎內害則遠外害，身名兩全謂之善士，忘身徇物受役多矣，若狐不偕之徒皆受役亡身者也。

古之真人，其狀義而不朋，若不足而不承，與乎其觚攻乎切。鄉飲酒之爵也。一曰觴，受三升者謂之觚。而不堅也，張乎其虛而不華也，邴邴音丙。簡文云：明貌。乎其似喜乎，崔乎取翫切。向云：動貌。簡文云：速貌。其不得已乎，濬乎敕六切。簡文云：聚也。又滯也。進我色也，與乎止我德也，厲乎厲，嚴也。崔本作廣，云：苞羅廣也。其似世乎，瞽五羔切。王云：高邁於俗也。乎其未可制也，連乎其似好閉也，悅乎忘其言也。以刑爲體，以禮爲翼，以知爲時，以德爲循。以刑爲體者，綽昌略切。寬也。乎其殺也；以禮爲翼者，所以行於世也；以知爲時者，不得已於事也；以德爲循者，言其與有足者至於丘也。而人真以爲勤行者也。故其好之也一，其弗好之也一。其一也一，其不一也一。其一與天爲徒，其不一與人爲徒，天與人不相勝也，是之謂真人。

真人之容狀，非有朋黨也，復能謙冲若愚，卑而不受，觚而不堅，虛而不華，邴乎似喜，崔乎不得已，言其虛曠悅懌應物有節也。濬乎與乎，言其溫顏教育，厲乎瞽乎，則聽厲而仰高也，連乎好閉，悅乎忘言，此真人之道不可測識者也。而刑禮知德，治世之具，必有以體翼時循之，刑不寬則失治體，禮不興則化不行，知不明則事留滯，以德循禮，然後能行於道也。土高曰丘，人物之所歸聚，有足言能行者皆可至也。真人無爲，自合天理，世人見其成功，則以爲勤行者也。

死生，命也；其有夜旦之常，天也。人之有所不得與，皆物之情也。彼特以天爲父，而身猶愛之，而況其卓竹角切。獨化之謂。乎？人特以有君爲愈乎己，而身猶死之，而況其真乎？泉涸，戶各切。竭也。魚相與處於陸，相呿以濕，相濡音儒。吐沫也。以沫，音末。不如相忘音亡。於江湖。與其譽堯而非桀也，不如兩忘而化其道。

得與猶相與，人之不能一好惡、同天人、齊彼我者，皆物情之所係也。彼唯知尊愛天命、而未識保其妙道，唯知死節事君，而不知外身修真，魚失水則相濡沫，適江湖則忘矣，人昧理則相非譽，得此道則化矣。

## 不遯化

夫大塊苦對切。解在《齊物篇》。載我以形，勞我以生，佚音逸。我以老，息我以死，故善吾生者，乃所以善吾死也。夫藏舟於壑，火各切。藏山於澤，謂之固矣；然而夜半有力者負之而走，昧者不知也。藏小大有宜，猶有所遯杜本切。遷也，逃也。若夫藏天下於天下，而不得所遯，是恒物之大情也。特犯人之形而猶喜之，若人之形者，萬化而未始有極也，其爲樂音洛。可勝音升。計邪！故聖人將遊於物之所不得遯而皆存。善夭徐廣注《史記》云：夭，幼少也。張君房本作少，詩照切。善老，善始善終，人猶效之，又況萬物之所係、而一化之所待乎？

大塊，元氣也。我者靈物之稱。靈物本無生，老死於何而有？由其有形也，則是我本不載，爲有形故；我本不勞，爲有生故；我本不佚，爲有老故；我本不息，爲有死故。觀此道之善能生物，則必亦善能死物矣。今且以樂夭爲善吾生，知命爲善吾死，又何咎焉。夜半有力者陰陽不測之神負之而走，造化不停之謂也。且藏物者寧無術，而物將逃也，曷能禁之，然物不在藏，理有不遷者，庸詎知之乎？夫飛不知沈，則沈藏矣，此不知彼，則彼藏矣，是謂自藏，非物藏也，此常物之大情而非假借。達人以宇宙爲一室，則失天下之有矣，非藏而何？天下者，動植萬類之總名，所謂藏者，密移而不覺也。夢爲鳥而厲天，夢爲魚而沒淵，所化無極，樂亦無極，何獨遇人形而喜之乎？物之所不得遯者造化也，聖人遊於無心無化之途，則物皆存矣。人之倣倣，徒美其迹，至一無迹，萬化所宗，有善有待，皆非懸解也。

## 得道妙

夫道有情有信，無爲無形，可傳直專切。而不可受，可得而不可見；自本自根，未有天地，自古以固存；神鬼神帝，生天生地，在太極未見氣也。之先而不爲高，在六極地數六，故曰六極，乃陰之極者也。之下而不爲深，先天悉薦切。地生而

不爲久，長丁丈切。於上古而不爲老。猗韋氏許豈切。司馬云：上古帝王名。得之，以挈苦結切。成云：驅馭羣品，提挈二儀。天地；伏戲音義。三皇之君，取犧牲以充庖。得之，以襲氣母；司馬云：襲，入也。氣母，元氣之母，謂道也。又云：伏戲入同元氣，故稱曰皇。維斗李云：北斗爲天下綱維。得之，終古不忒；它得切。差也。謂歷於終始，指建爲常，无有差忒。日月得之，終古不息；堪坏扶眉切。又音胚。司馬云：神名，人面獸身。得之，以襲崑崙；山名，在北海之北。馮夷司馬云：《清泠傳》曰：華陰潼鄉隄首人也，服八石，得水仙，是謂河伯也。得之，以遊大川；黃河也。肩吾神名。得之，以處太山；東嶽也。黃帝已出《齊物篇》。得之，以登雲天；顓頊得之，以處玄宮；黃帝之後高陽氏也。生有靈異，得道處於真宮。真宮，北方宮也。禺强音虞。《山海經》云：北海之渚有神，人面鳥身，珥兩青蛇踐兩赤蛇，名禺强。得之，立乎北極；山名。西王母《西王母傳》云：西王母者，姓緱氏，字婉矜。九靈太妙龜山金母也，乃西華至妙洞陰之極尊。戴華勝，佩虎章，崑崙山穴名曰少廣，王母常居焉，不復生死，故莫知始終。或曰：蓬髮戴勝，虎齒善嘯者，此乃王母之使金方白虎之神，非王母之真形也。得之，坐乎少廣，莫知其始，莫知其終；彭祖解在《逍遙篇》。得之，上及有虞，下及五伯；夏昆吾，商大彭、豕韋，周齊桓、晉文，又音霸。傅說音悅。得之，以相息亮切。武丁，奄有天下，乘東維，騎箕尾，而比於列星。司馬云：傅說，商相也。武丁，商王高宗也。夢得傅說，使求之於天下，於陝州河北縣傅巖板築之所而得之，相於武丁，奄然清泰。傅說，星精也。東維、箕斗之間，天漢之東維也。傳說一星在尾星上，言其乘東維，騎箕尾之間。崔本此下更有其生无父母、死登假，三年而形遽，此言神之无能名者也。

常善救物，有情也；感而遂通，有信也。有情而無爲，有信而無形，所以可傳不可受、可得不可見也。鬼爲陰主，帝爲陽君，陰陽之所以不測者，爲其有神也。天地之所以生生者，爲其有道也。道之高深久老固不可以心思言議，而無所不載焉。老君自天地、谷神、萬物、侯王而言得一，漆園自猗韋至傅說，皆言得之，斯又忘其一矣。是以道之通變千聖莫窮也。

## 才道相胥

南伯子葵或云：即南伯子綦也。問乎女偶音禹。古之有道女人也。曰：子之年長張



丈切。矣，而色若孺子，如喻切。稚子也，弱子也。何也？曰：吾聞道矣。南伯子葵曰：道可得學邪？曰：惡！惡可？音烏。未允聲也。已解《人間世篇》，後不復出，下惡乎音同。子非其人也！夫卜梁倚卜梁，姓，倚名，有才器人也。有聖人之才，而無聖人之道。我有聖人之道，而無聖人之才。吾欲以教之，庶幾其果爲聖人乎！不然，以聖人之道告聖人之才亦易以鼓切。矣，吾猶守而告之，參音三。日而後能外天下。已外天下矣，吾又守之，七日而後能外物。已外物矣，吾又守之，九日而後能外生。已外生矣，而後能朝徹。司馬云：朝，旦也。徹，達妙道也。朝徹而後能見獨，見獨而後能無古今，無古今而後能入於不死不生。故見江南古藏本，舊缺。殺生者不死，戮貪生之賊者身存。生生者不生。進益生之妄者速死。其爲物無不將也，無不迎也，無不毀也，無不成也，其名爲撓寧，音嬰。謂聖人隨物動靜，雖撓而寧也。高誘注《呂覽》：撓猶戾也。撓寧也者，撓而後成者也。南伯子葵曰：子獨惡乎聞之？曰：聞諸副墨謂副貳輪墨者，典教也。自此以下皆寓言耳。之子，副墨之子聞諸洛誦灑洛讀誦也。之孫，洛誦之孫聞之瞻明，見理曰瞻明。瞻明聞之聶許，聶，《說文》附耳小語也。謂密相許與也。聶許聞之需役，音須。待也。役，使也，用也。待使謂行用也。需役聞之於謳，烏侯切。頌美盛德也。於謳聞之玄冥，謂淵幽也，冥漠也，悟道幽漠也。玄冥聞之參七南切。寥，力彫切。參，承也。寥，空也。謂參承道極也。參寥聞之疑始。莫知其未始有始也。自副墨至淵冥七重，方可高參寥廓，至疑始九重，方入太无難測之鄉、大道元始之境矣。

有聖人之才質，必資聖人之妙用，蘊聖人之妙用，必資聖人之才質，若守朴不變，未可言其備，守而告之，謂其可傳也。外天下則知土苴之可遺，外物明緒餘之不足。顧外生者悟暗醺音憶。之虛幻，朝徹者獨見曉焉，見獨視道無匹也。無古無今，通萬世也，不生不死，復於宗也。殺生者不死，生生者不生，謂戮貪生之賊者身存，進益生之妄者速死也。物繫而已，寧隨成不能傾。副墨，典教也；洛誦，習讀也；見理曰瞻明，耳告曰聶許，需役則待用，於謳則詠歌，玄冥謂幽漠，參寥謂造極，疑始則莫知其未始有始也。

## 死生友

子祀、《鴻烈解》作子永，行年五十四而病僂。子輿、音餘。子犁、禮兮切。子來四

人並方外之士。四人相與語曰：孰能以無爲首，以生爲脊，以死爲尻？苦羔切。孰知死生存亡之一體者，吾與之友矣。四人相視而笑，莫逆於心，遂相與爲友。俄而子輿有病，子祀往問之，曰：偉哉！韋鬼切。向云：美也。崔云：自此至鑑於井，皆子祀自說病狀也。夫造物者將以予爲此拘拘音駒。司馬云：體拘攣不申也。也。曲僂力主切。曲腰也。發背，背骨發露也。上有五管，頤隱於齊，肩高於頂，句俱遇切。贅之稅切。指天，李云：句贅，項椎也，其狀似贅，言其上向天也。陰陽之氣有沴，音麗。陵亂也。其心閒而無事，跼步田切。躡悉田切。旋行不直貌。而鑑古暫切。於井。曰：嗟乎，此子輿辭也。夫造物者又將以予爲此拘拘也。子祀曰：汝惡烏路切。下同。之乎？曰：亡，如字。予何惡？浸子鳩切，暫也。假而化予之左臂以爲雞，予因以求時夜。浸假而化予之右臂以爲彈，徒旦切。予因以求鴞戶驕切。炙。章夜切。解在《齊物篇》。浸假而化予之尻以爲輪，以神爲馬，予因而乘之，豈更駕哉！且夫得者時也，失者順也。安時而處順，哀樂音洛。不能入也。此古之所謂縣解音蟹。下同。无所係也。也。而不能自解者，物有結之。且夫物不勝天久矣，吾又何惡焉。

以七尺之軀，即天空之體，無有死生存亡而一貫之也。莫逆於心，逆則非友矣。左臂爲雞，因而求司晨，右臂爲彈，因而求鴞炙，尻柔陰以喻輪，神強陽以況馬，予因乘之而遊，豈更駕哉！死生猶外之，而況哀樂乎？得其變則乘時而動，失其化則委順而靜，此乃達觀明脫者也，其不能自解者，爲死生變化之所結縛也。

俄而子來有病，喘喘尺軟切。然將死。其妻子環而繞出。泣之。子犁往問之曰：叱昌失切。避，無怛丁達切。驚也。化。倚於綺切。其戶與之語曰：偉哉造化，又將奚以汝爲？將奚以汝適？以汝爲鼠肝乎？以汝爲蟲臂以況微賤也。乎？子來曰：父母於子，東西南北，唯命是從。陰陽於人，不翅詩智切。於父母。彼近吾死，而我不聽，我則捍胡旦切。捍抵也。矣，彼何罪焉？夫大塊載我以形，勞我以生，佚我以老，息我以死。故善吾生者乃所以善吾死也。今大冶鑄金，金踴躍曰：我且必爲鏐鏐，音莫邪。昔吳人干將爲吳王造劍，妻名鏐鏐，因名雄劍爲干將，雌劍爲鏐鏐。王子年《拾遺記》云：昆吾山地中多丹，鍊石爲銅，銅色青而利，草木皆勁利，土亦鋼而精。其山有獸，大如兔，毛色如金，食土下之丹石，深穴地以爲窟，亦食銅鐵，膽腎皆如鐵。其雌色白如銀。昔其國武庫之中兵刃鐵器俱被食盡，而封簽依然。王令檢其庫穴，獵得雙兔，一白一黃，殺之，開其腹，而有鐵膽腎，方知兵刃之鐵爲兔所食，王乃召其劍工令鑄其膽腎以爲劍，

一雌一雄，號干將者雄，號鑊鄒者雌，其劍可以切玉斷犀，王深寶之。大冶必以爲不祥之金。今一犯人之形，而曰人耳人耳！夫造化者必以爲不祥之人。今一以天地爲大鑪，力奴切。以造化爲大冶，惡音烏。乎往而不可哉？成然魂交也。寐，遽音渠。形開也。然覺。古孝切。

道在屎溺，而況於鼠肝、蟲臂乎？世人違尊親之命者，謂之不孝，則逆變化之理者，豈曰順道邪？造化近吾死，若不聽而抵捍者，是自悖其天真，於化何罪？譬乎大冶鑄金，範猶不可違，化豈得逆哉！成然魂交則寐，遽然形開則覺，交開之形雖殊，寂寞之性一也。

## 相忘友

子桑户、孟子反、子琴張並方外之友。三人相與猶親也。友，曰：孰能相與於無相與？相爲於無相爲？孰能登天遊霧，撓而小切。挑徒了，徒堯二切。無極，相忘以生，無所終窮？三人相視而笑，莫逆於心，遂相與友。莫然莫，无也，謂寂爾無言。有間，俄頃也。而子桑户死，未葬。孔子聞之，使子貢往侍事見張君房本，舊作待。焉。或編曲，必連切。謂編次辭曲以和琴也。李云：蠶簿也。或鼓琴，相和胡卧切。而歌曰：嗟來桑户乎！嗟來桑户乎！而已反其真，而我猶崔本作獨。爲人猗！於宜切。辭也。子貢趨而進曰：敢問臨尸而歌禮乎？二人相視而笑曰：是惡音烏。下同。知禮意！子貢反，以告孔子曰：彼何人者邪？修行無有，而外其形骸，臨尸而歌，顏色不變，無以命命，名也。之，彼何人者邪？孔子曰：彼遊方之外者也，而丘遊方之內者也。外內不相及，而丘使女往弔之，丘則陋矣！彼方且與造物者爲人，而遊乎天地之一氣。彼以生爲附贅縣疣。音尤。以死爲決古穴切。疢胡亂切。潰胡對切。癰。夫若然者，又惡知死生先後之所在？假於異物，託於同體，忘其肝膽，遺其耳目，反覆終始，不知端倪，音涯。芒然莫剛切。无係貌。彷徨剛切。徨音皇。彷徨、逍遙，皆自得逸豫之名。乎塵垢之外，逍遙乎無爲之業，彼又惡能憤憤工內切。亂也。然爲世俗之禮，以觀古亂切。示也。衆人之耳目哉？子貢曰：然則夫子何方之依？曰：丘，天之戮民也，雖然，吾與汝共之。子貢曰：敢問其方。孔子曰：魚相造七報切。詣也。下同。乎水，人相造乎道。相造乎水者，穿池而養給。

相造乎道者，無事而生定。故曰魚相忘音亡。下同。乎江湖，人相忘乎道術。如字。邑中道也。或音遂，言溝遂。非是。子貢曰：敢問畸人？居宜切。不偶也。曰：畸人者，畸於人而侔於天。音謀。等也，亦從也。獨行之人，不偶於俗，而從於天然也。故曰：天之小人，人之君子；人之君子，天之小人也。

無相與者自與，無相爲者自爲，自與則自治，自爲則無爲，此所以爲相忘友，登天遊霧，高蹈絕塵也。事撓而挑去，莫然無際，故能相忘以生、無所終窮也。編次歌曲，鼓琴相和，非爲桑戶也，欲嗟警衆人耳。哭泣蹕踊禮之文，安生順死禮之意，修行無有不見，踐言之迹無以命之，未知其爲君子乎？方外者妙意，方內者粗迹，彼數子者，方將與化俱而遊乎太空，同混茫而不二，以生死爲水漚之生滅，豈天雨之固爲哉！假合五行之異物，託乎造化之一體，墮形體故忘肝膽，黜聰明故遺耳目，出自虛無，入於空洞，溷世莫染，自得方外之趣，安能爲繁僞之禮，以示衆人哉？達人以自依爲務，而以依聖迹爲戮辱，故雖聖賢趣異，而應物不別也。魚得水則忘於波瀾，人得道則相忘於行路，由其穿池而各養，無事而全生也。順天然則忘禮法，修禮法則失天然，天之小人，人之君子，失天然者也；人之君子，天之小人，修禮法者也，能兩全者，其爲孟孫才乎！

## 无情死

顏回問仲尼曰：孟孫才李云：三桓後，名才，魯之賢人。崔云：才或作牛。其母死，哭泣無涕，中心不感，居喪不哀，無是三者，以善喪蓋魯國，固有無其實而得其名者乎？回壹怪之。仲尼曰：夫孟孫氏盡之矣，進於知矣。唯簡之而不得，夫已有所簡矣。孟孫氏不知所以生，不知所以死，不知就先，不知就後，若化爲物，以待其所不知之化已乎。且方將化，惡音烏。下同。知不化哉？方將不化，惡知已化哉？吾特與汝其夢未始覺古孝切。下同。者邪？且彼有駭崔本作咳，云：有嬰兒之狀。形而無損心，有旦宅形爲神舍，言遷易之速，猶旦暮之宅。而無情死。孟孫氏特覺，人哭亦哭，是自其所以乃。《說文》：乃，象氣之出難也。且也相與吾之耳矣，庸詎其庶切。下章同。知吾所謂吾之乎？且汝夢爲烏而厲厲，至也。乎天，夢爲魚而沒

於淵，不識今之言者，其覺者乎？其夢者乎？造造，作也。適不及笑，獻獻，陳也。笑不及排。皮皆切。排，推也。安排而化去，乃入於寥天一。力彫切。謂天之寥寥高遠也。一者不二也。

哭泣居喪，事死之禮，無涕不哀，達死之道，此能盡行而進於知者也，以死生爲一條，故莫可簡。雖簡略死生，而未能簡略哭泣也。夫有所避就者常情，今之有身者化物，既爲化物，從其所化，今將化也，安知死入空寥而不再爲人哉？今將不化也，安知生居短景而交臂已失哉？形隨化遷，故有駭形，心同空寥，故無損心，形乃神之傳舍，今旦居之則修治，明旦遷徙爲棄物，唯達者隨變而常生，故無情死也。《說文》：乃，象氣出之難。謂忘哀戚而哭泣之不易也。生亦吾，死亦吾，故曰相與吾之。至人無己，何處不吾，夢爲魚鳥而厲天沒淵，亦猶是也。人之迷惑死生覺夢久矣，不識居長景者無覺夢、超象外者無生死也。夫造作適樂，不及笑之自然，陳獻笑容，不及推排之無着，孟孫氏安於推排，不但去化，乃入於寥寥之天，混冥而不二也。

## 遊道域

意而子李云：賢士也。見許由，許由曰：堯何以資汝？資，給也。意而子曰：堯謂我：汝必躬服仁義而明言是非。許由曰：而奚來爲軹？之是切。辭也，語助也，是也。夫堯既已黥其京切。汝以仁義，而斲魚器切。李云：毀道德以爲仁義，不似黥乎？破冥同以爲是非，不似斲乎？汝以是非矣，汝將何以遊夫遙蕩縱散也。恣睢許維切。自得貌。轉徙无係貌。又變化貌。之塗乎？意而子曰：雖然，吾願遊於其藩。父煩切。區域也。許由曰：不然，夫盲者一本作眇。盲，瞽。解在《逍遙篇》。無以與音豫。及也。下同。乎眉目顏色之好，瞽者無以與乎青黃黼黻音甫弗。白與黑爲黼，黼似斧形也。黑與青爲黻，黻兩己相背也。之觀。古亂切。意而子曰：夫无莊之失其美，據梁之失其力，黃法師疏云：无莊，古之美人也，好莊飾爲務，遇高丘先生以理誨之，遂悟，乃遺其莊飾之美。據梁，古之多力人也，力能換梁易柱，以力陵物，遇羨門子以道教之，遂悟，乃失勇伎之事。黃帝之亡其知，皆在鑪音盧。鍾之睡、之藥二切。李云：鍾，鵠頭頰口句鐵以吹火也。或云：鑪，竈也。鍾，鍛也。謂冶鍛之義也。之間耳。庸詎知夫造物者之不息我黥而補我斲，

使我乘成以隨先生邪？許由曰：噫！音醫。歎聲也。崔云：辭也。又作意，謂呼意而名也。未可知也。我爲於僞切。汝言其大略：吾師乎！吾師乎！鰲子兮切。碎也。萬物而不爲義，澤及萬世而不爲仁，長丁丈切。於上古而不爲老，覆載天地、刻雕衆形而不爲巧，此所遊已。

以聖迹爲刑戮，於何遊夫縱散自得無係之場；夫知力美者稟受所有，斯難去者，皆因聞道而亡失。此言聖賢情性猶假鍛煉而成，況中下之才乎？今雖爲聖迹所虧，豈知造物者不有息補乎？且性之虛靈，黥剿何損，今乘此成全之性以隨先生之後，以何猜嫌。夫道師未嘗有仁義之名，今汝招黥剿之詬，得不怪哉！若光景都亡，始可遊道之區域矣。

## 坐忘

顏回曰：回益矣！仲尼曰：何謂也？曰回忘仁義矣。曰可矣，猶未也。它日復扶父切。見，賢遍切。下同。曰回益矣，曰何謂也？曰回忘禮樂矣。曰可矣，猶未也。它日復見，曰回益矣。曰何謂也？曰回坐忘矣。仲尼蹙然子六切。變色貌。曰：何謂坐忘？顏回曰：墮許規切。壞也。肢體，黥聰明，離形力智切。去起吕切。知，同於大通，此謂坐忘。仲尼曰：同則无好呼報切。也，化則无常也，而果其賢乎！丘也請從而後也。

顏子之益，謂損外益內也。愛物之謂仁，利物之謂義，愛利屬乎外，忘之則可，於道則未也。禮者體之威儀，樂者心之冲和，心體係乎內，忘之則可，於道則未也。坐忘者無時而不忘，墮肢體謂即應而忘，黥聰明謂即照而忘，即應而忘，離形去知也，即照而忘，同乎大通也，體同太空，則無好惡，心同造化，則無斷常矣。

## 推極委命

子輿與子桑友，而淋雨音霖。《左傳》云：雨三日以往爲霖。十日。子輿曰：子桑

殆病殆，危殆也。矣！裹飯而往食音嗣。之，至子桑之門，則若歌若哭鼓琴曰：父邪！母邪！天乎！人乎！有不任音壬。其聲，而趨七住切。崔云：不任，其聲憊也。趨舉其詩，无音曲也。舉其詩焉。子輿入曰：子之歌詩，何故若是？曰：吾思夫使我至此極者，而弗得也。父母豈欲吾貧哉？天無私覆，地無私載，天地豈私貧我哉？求其爲之者而不得也，然而至此極者，命也夫！

寒與之衣，飢與之食，猶魚之相濡以沫，非矯情也。不任其聲憊也，趣舉其詩不成章曲，貧病之極，求其爲之者而不得，卒歸之於命，任命則無不達矣。

## 內篇·應帝王 七

### 不言之教

齧缺五結切。下丘悅切。問於王倪，五兮切。二人已出《齊物篇》。四問而四不知。謂再四之問。或《齊物篇》中四問：子知物之所同是乎？一問也。子知子之所不知邪？二問也。然則物无知邪？三問也。子不知利害，則至人固不知利害乎？四問也。齧缺因躍而大喜，行以告蒲衣子。《尸子》云：蒲衣，八歲，舜與天下。即被衣，王倪之師也。蒲衣子曰：而乃今知之乎？有虞氏不及泰氏。司馬云：上古帝王也。又无名之君也。有虞氏其猶藏仁才剛切。崔云：懷仁心以結人也。簡文中作臧，善也。以要一遙切。人，亦得人矣，而未始出於非人，泰氏之世，見劉得一本，舊闕。其卧徐徐，司馬云：安穩貌。其覺于于，司馬云：无所知也。簡文云：徐徐于于，寤寐之貌。一以己爲馬，一以己爲牛，其知情信，其德甚真，而未始入於非人。

聖人行不言之教，則四問四不知者，乃《應帝王》之綱紐也。虞氏喻有知，泰氏喻無知，臧人以要人，有善惡也。未始出於非人，謂趣同流俗。一以己爲馬，一以己爲牛，無物我也。知性不僞，故曰情信；所行不喪，故曰德真。未始入於非人，謂超出塵表也。

### 无爲之治

肩吾見狂接輿，狂接輿曰：日人實切。中如字。又音仲。始李云：賢人也，肩吾之



師。崔本无日字。何以語魚據切。汝？肩吾曰：告我君人者以己出經式義，庶民見張君房本，舊作式義度人。孰敢不聽而化諸。接輿曰：是欺德欺，妄也。也。其於治天下也，猶涉海鑿在洛切。下同。河溟海浩渺，波涌難涉，穿鑿爲河，必无成理。而使蚊負山也。夫聖人之治也，治外乎？正而後行，確乎苦學切。堅貌。能其事者而已矣。且鳥高飛以避矰則能切。綱也。弋逸織切。以繩繫箭而射之。之害，鼯鼠音兮。小鼠也。深穴神丘社壇也。之下，以避熏香云切。鑿之患，而曾二蟲之無知。

出經濟之術，用仁義之道，庶民孰敢不聽而化諸，不修己而飾人，故曰欺德，治外乎，言必先治內也；正而後行邪？則不能率衆也。禽鼠微物尚違害以全生理，而況於人乎？言出經式義，乃治世之具，非君人者之所以具也。

## 自然之化

天根喻元氣也。遊於殷陽，文云：山名，在衛州，山南曰陽。又云：地名。至蓼水音了。水名。之上，適遭无名人喻道也。皆寓言。而問焉，曰：請問爲天下。无名人曰：去，汝鄙人也。何問之不豫問豫也。也！予方將與造物者爲人，厭則又乘夫莽莫蕩切。眇妙小切。之鳥，以出六極之外，陰陽之表也。而遊無何有之鄉，以處壙苦廣切。垺力黨切。之野。汝又何帛音藝。法也。以治天下感予之心爲？又復問。無名人曰：汝遊心於淡，徒暫切。合氣於漠，音莫。順物自然，而無容私焉，而天下治矣。

與造物者爲人，有意自造也；乘莽眇出六極，凌虛履妙超陰陽也；遊何有、處壙琅，造道之域，居空同也。順物自然而無容私，有私則失自然矣。

## 聖人无名

陽子居居，名也。子，男子通稱也。見老聃曰：有人於此，嚮許亮、許兩二翻。疾

彊梁，不容惡也。物徹疏明，用聰明也。學道不勌，其眷切。勞也。如是者可以比明王乎？老聃曰：是於聖人也，胥相也。易音亦。技其綺切。藝也。係，如字。勞形怵勌律切。心者也。且也，虎豹之文來田，田，獵也。虎豹以皮有文章見獵也。獫音袁。狙七餘切。之便，毗肩切。執鰲來、狸二音。之狗來藉。慈夜切。踐也。與躡通用。如是者可比明王乎？陽子居蹇然子六切。改容貌。曰：敢問明王之治。老聃曰：明王之治，功蓋侔也。天下而似不自己，化貸吐代切。萬物而民弗恃，有莫舉名，莫，无也。舉，顯也。推功於物不顯其名。使物自喜，立乎不測，而遊於無有者也。

所嚮之處，嫌疾彊梁，不容惡也。徹通事物，疏豁明白，尚聰明也。以此妄知易彼自然，使其技能相係，勞苦其形，怵惕其心者也。虎豹獫狙，喻以能召患；似不自己，忘我也；而民弗恃，忘功也；有莫舉名，忘名也；遊乎無有，兼忘也；明王之治，如是而已。

## 聖人无常心

鄭有神巫曰季咸，季咸，姓名也。巫覡，男女之通稱也。知人之死生存亡、禍福壽夭，期以歲月旬日若神。鄭人見之，皆棄而走。列子見之而心醉，迷惑其道。歸以告壺子名林，鄭人，列子師。曰：始吾以夫子之道爲至矣，則又有至焉者矣。壺子曰：吾與汝无其文，向秀本作无，江南古藏或作玩，又作既，玩既並非是。未既其實，而固得道與。音餘。衆雌而無雄，而又奚卵焉，而以道與世亢，苦浪切。必信夫，句絕。故使人得而相汝，息亮切。下同。嘗試與來，以予示之。明日，列子與之見壺子，出而謂列子曰：嘻，音熙。嗟也。子之先生死矣，弗活矣，不以旬數矣，吾見怪焉，見濕灰焉。列子入，泣涕沾襟，以告壺子。壺子曰：臯許亮切。吾示之以地文，地以不動爲文。萌乎不震不正，一本作不誨不止，動靜不發也。是殆見吾杜德機蘊道息念也。也，嘗又與來。明日，又與之見壺子，出而謂列子曰：幸矣，子之先生遇我也，有瘳丑留切。矣，全然有生矣，吾見其杜權矣。列子入以告壺子，壺子曰：臯吾示之以天壤，天以發生爲壤。名實不入，不入毀譽，不入靈府。而機發於踵。生氣一動，上下融和。是殆見吾善者機也，嘗又與來。明日，又與之見壺子，出而謂列子曰：子之先生不齊，側皆切。下同。吾無得而相焉，試齊，且復相之。

列子入以告壺子，壺子曰：吾曩示之以太冲莫勝，是殆見吾衡氣機也。鯢五兮切。桓鯢，鯨魚也。桓，盤桓也。之審如字。簡文云：處也。司馬云：審當爲蟠。蟠聚也。崔作潘，云回流所鍾之域也，鍾亦聚也。爲淵，止水之審爲淵，流水之審爲淵，淵有九名，鯢、止、流、濫、沃、沆、雍、汧、肥，是九淵。《鴻烈解》有九琰之淵，至深也。此處三焉，嘗又與來。明日，又與之見壺子，立未定，自失如字。徐音逸。而走。壺子曰：追之。列子追之不及，反以報壺子曰：已滅不見也。矣，已失矣，吾弗及已。壺子曰：曩吾示之以未始出吾宗，吾與之虛而委於危切。蛇，以支切。至順之貌。不知其誰何，因以爲弟如字。舊音類。靡，順貌。一云：類靡，不窮貌。一云：遜伏也。因以爲波流，波流，至順莫測貌。故逃也。然後列子自以爲未始學而歸。三年不出，爲於偶切。其妻爨，七判切。食音嗣。下同。豕如食人，於事無與親，雕琢竹角切。復朴，塊然苦對切。獨以其形立，紛然芳云切。亂也。然見張君房本，舊闕。而封哉，不散也。崔本作戎，云：封戎，散亂也。一以是終。

理猶實也，事猶文也，壺子謂吾與汝無其文，故未既其實而固執以爲得道，猶有雌無雄，奚以生化？今有季咸之文，斯足以顯壺子之實，以道爲有，而與物亢敵，故爲術者所相，地以不動爲文，見其深根寧極，不震不止，動靜不發，蘊道息念，杜德機也。反常曰權，杜權則復常之義。天以發生爲壤，見其神采外耀也。真人之息以踵，生氣一動，冲和遍軀，發自根本，豈止眉宇而已哉！子之先生不齊，但見形質而已，太冲莫勝，謂太空無勝負而不知所以然。衡氣機則輕重平一，不可以動靜觀也。夫水之波蕩無涯，而淵渟鑒物一也；猶至人靈府虛豁洞鑒，故相者無所施其術也。示之以未始出吾宗，形之語言則已出宗矣。弟靡波流皆罔測貌。食豕如人，視彼若此，塊然獨立，無比擬也。紛而封哉，外蕩而內澄，一以是終，如此而已矣。

## 寄 託

無爲名尸，無爲謀府，無爲事任，無爲知主。體盡無窮，而遊無朕，直忍切。兆也。盡其所受乎天，而無見得，亦虛而已！至人之用心若鏡，不將不迎，應而

不藏，故能勝物而不傷。

爲名尸則形必瘁，爲謀府則神必殆，爲事任則才必竭，爲知主則識必昏，體未盡則有窮，有迹則不足遊矣。盡其所受乎天，則任之而已。有見有得則不妙，無見亦虛而已。用心若鏡，物來斯鑑，彼自來往，而妍醜無隱，無心於勝物，故物亦不能害也。

## 開 兌

南海之帝爲儵，音叔，李云：喻有象也。北海之帝爲忽，李云：喻无形也。中央之帝爲渾沌，胡本切。沌。徒本切。《寶玄真經》曰：三氣未分謂之混，五行未彰謂之沌。簡文云：儵忽取神速爲名，渾沌以合和爲貌，神速譬有爲，合和譬無爲。儵與忽時相與遇於渾沌之地，渾沌待之甚善。儵與忽謀報渾沌之德，曰：人皆有七竅，苦叫切。孔也。以視聽食息，此獨無有，嘗試鑿之。日鑿一竅，七日而渾沌死。崔云：不順自然，強開耳目也。

南帝寓有爲，北帝寓無爲，中央之帝寓大朴也。三氣未分謂之渾，五行未彰謂之沌，有無不分故曰善待。南北二帝不識渾沌之真，而妄興空鑿，以致朴散。老子云：開其兌，濟其事，終身莫究是也。

## 外篇·駢拇 八

### 養正性命

駢步田切。並也，併也。拇音母。謂足拇指連第二指也。枝指，如字。崔音歧。謂指有歧也。出乎性哉，而侈昌是切。多貌。於德。德者容德也，盜跖謂容美爲父母之遺德也。附贅章銳切，《廣雅》云：疣也。《釋名》云：橫生一肉屬著體也。又瘤結也。縣疣，音尤。《說文》云：贅也。出乎形哉，而侈於性。多方乎仁義而用之者，列於五藏才浪切，下同。文云：肝木，仁也；肺金，義也；心火，禮也；腎水，智也；脾土，信也。夫含識之徒、秉生之類，仁義之性，物皆有之，少之與多，自然已定。雖顏孔相去一分，終莫之及，況異於斯者乎？今性多仁義者，必相矜而失性，性少仁義者，又相企而喪真，奔馳於矜企之塗，流蕩於是非之境，上下夸企，豈是道德之正邪？若乃人安其性多少之情，爲一物守其分義之理，自齊任官，各當其材，天下無不理矣。哉，而非道德之正也。是故駢於足者，連無用之肉；枝於手者，樹無用之指；多方駢枝於五藏之情者，淫僻匹亦切。下同。於仁義之行，下孟切。崔云：駢枝贅疣雖非性之正，亦出於形，不可去也，五藏之情，雖非道德之正，亦列於性，不可治也，今設仁義之教，以治五藏之情，猶削駢枝贅疣也，既傷自然之理，更益其疾矣。而多方於聰明之用也。舊本云：而多方於聰明之用也，張君房削去方字，與下文多於聰明者相類。

駢枝與生俱生，故出乎性而爲生德之餘，贅疣生後而有，是出乎形而爲性之外累，故皆曰侈。夫五行均則五常無偏，乃道德之正；今多於仁義，是五藏之氣稟受必有少之者，故非道德之正也。且駢枝之於手足，皆無用之指，何足決齧哉！若夫駢枝於五藏之情、淫僻於仁義之行，多方於聰明之用者，乃駢枝於有用之處，所以重增其弊也。

是故駢於明駢拇爲不足者，比五指之數則謂之虧矣。駢明爲多者，以兼倍他性，則謂之有餘矣。者，亂五色，淫文章，青與赤爲文，赤與白爲章。青黃黼黻音甫弗。解在《大宗師篇》。之煌煌音皇。光也。又目眩貌。非乎，言是也。而離朱即離婁也。司馬云：黃帝時人，百步見秋毫之末，又千里見針鋒。是已。猶是也。多於聰者，亂五聲，一本作音，宮商角徵羽。淫六律，黃鍾、大簇、姑洗、蕤賓、夷則、无射。金石金鍾，石磬。絲竹琴瑟，簫管。黃鍾君之音也。大呂六呂。之聲非乎，而師曠解在《齊物篇》。是已。枝於仁者，擢德音濯。拔也。塞性以收名聲，使天下簧鼓音黃。謂笙簧也。鼓，動也。以奉不及之法非乎，而曾史《史記》云：曾參字輿，行仁。史鱣字子魚，行義。是已。駢於辯者，纍劣彼切。瓦如字。結繩聚无用之語，如瓦之纍，繩之結也。竄七亂切。微也，藏也。句紀具切。司馬云：竄句謂邪說微隱穿鑿文句也。遊心於堅白同異之間，而敝本亦作蹷，音婢。跬犬葵切。敝跬，分外用力不前貌。譽无用之言非乎，而楊墨楊朱，秦人。墨翟，宋大夫。是已。故此皆多駢旁枝之道，非天下之至正也。彼正正者不失其性命之情，故合者不爲駢，而枝者不爲跂，長者不爲有餘，短者不爲不足。是故鳧音符。脰形定切。雖短，續之則憂，鶴戶各切。脰雖長，斷之則悲。故性長非所斷，性短非所續，无所去憂也。

駢拇者，比五指之數則爲不足，駢明者，以兼倍之性謂之有餘。聖人收視反聽以養內映，世俗慕離曠之聰明，縱耳目於外景以困弊其形骸，則離曠爲亂耳目之帥矣。枝於仁者，擢德塞性以收名聲，奔馳四方，失其真性，則曾史爲惑人心之宗矣。辯之縱橫，如累瓦重疊，學之博喻，如結繩屈積，論之眇微者，其竄句隱語之謂乎！遊之卓詭者，其離合是非之謂乎！譽之小道者，其敝跬不進之謂乎！大辯若訥，多言數窮，故楊墨爲恢詭憊怪之首也。夫形性之有餘不足，皆非至正之道，以所稟正性而能自正者，謂之正正，若役彼從己，役己從彼，皆失其性命之情矣。合不爲駢，枝不爲跂，相忘形骸也。鶴脰不斷，鳧脰不續，無所去憂而憂自去也。

意仁義其非人情乎？彼仁人何其多憂也！且夫駢於拇者，決之則泣，枝於手者，齧恨沒切。齧也。之則啼，音提。二者或有餘於數，或不足於數，其於憂一也。今世之仁人蒿目好羔切，蒿目，喻昏亂，以其多憂，致目昏蒿蒿然。而憂世之患；不仁之人，決性命之情而饕吐刀切。貪也。貴富，故意仁義其非人情乎！自三代夏、商、

周。下同。以下者，天下何其囂囂許嬌切。謹聒企慕貌。也。且夫待鈎繩規矩而正者，是削其性也；待繩約膠漆而固者，是侵其德也；屈折之熟切。謂屈折支體樂也。禮樂、响俞夷、喻二音。謂噓俞顏色，爲仁義之貌。仁義，以慰天下之心者，此失其常然也。天下有常然，常然者，曲者不以鈎，直者不以繩，圓者不以規，方者不以矩，附離不以膠漆，約束不以纆音墨。索也。索。悉各切。故天下誘然皆生，謂相誘呼緊以樂其生也。誘，息有切。而不知其所以生，同焉皆得，而不知其所以得，故古今不二，不可虧也。則仁義又奚連連司馬云：謂連續仁義遊道德之間。如膠漆纆索，而遊乎道德之間爲哉！使天下惑也。夫小惑易方，大惑易性，何以知其然邪？自虞氏招仁義以撓而小切。亂也。天下也，天下莫不奔命於仁義，是非以仁義易其性與！音餘。此下可以意求，後皆倣此。

刑揉成就，削性者也，牽合附會，侵德者也，此皆失其常然。夫蓬麻曲直，孰爲鈎繩？珠玉圓方，孰爲規矩？松柏女蘿，孰爲膠漆，連理合穗，孰爲纆索？物材天性，皆由自然，故誘然皆生，同然皆得，古今若一，無興廢也。捨道德而趨仁義，是爲易方，徇利名而殘生，是爲易性；自有虞氏舉賢流凶，招呼仁義以撓天下，天下莫不奔趨喪命者，由是夸跂以致惑易也。

故嘗試論之，自三代以下者，天下莫不以物易其性矣。小人則以身殉辭俊切。營也。又云：殺身從人曰殉。利，士則以身殉名，大夫則以身殉家，聖人則以身殉天下，故此數子者，事業不同，名聲異號，其於傷性以身爲殉，一也。藏作郎切。崔云：好書曰藏，又善也。《方言》云：齊之北鄙燕之北郊，凡民男而婿婢謂之藏，女而婦奴謂之獲。張揖云：婿婢之子謂之藏，婦奴之謂之獲。（編者按：此條“藏”字皆當作“臧”）。與穀孺子曰穀，又善也。二人相與牧羊，牧養之牧。而俱亡其羊，問臧奚事，則挾音協。筴初革切。李云：竹簡也，古以寫書，長二尺四寸。讀書，問穀奚事，則博塞悉代切。博塞之類也。《漢書》云：吾丘壽王以善格五待詔，謂之博塞也。成云：行五道而投瓊曰博，不投瓊曰塞。以遊，二人者事業不同，其於亡羊均也。伯夷死名於首陽伯夷已解《大宗師篇》。首陽，山名，在河東蒲坂縣。之下，盜跖死利於東陵《漢書》云：盜跖，秦之大盜也。東陵，泰山也。又陵名，今東平陵，屬濟南郡。之上，二人者所死不同，其於殘生傷性均也，奚必伯夷之是而盜跖之非乎。天下盡殉也，彼其所殉仁義也，則俗謂之君子，其所殉貨財也，則俗謂之小人；其殉一也，則有君子焉，有小人焉，若其殘

生損性，則盜跖亦伯夷已，又惡音烏。取君子小人於其間哉！

凡有迹者皆徇也，名聲既彰，迹不可逃矣。臧穀亡羊，小惑易方也，夷跖殘生，大惑易性也，天下盡徇，則盜跖亦伯夷矣，又何君子小人之分哉！

且夫屬其時欲切。係屬也。徐音燭，謂屬著也，下同。性乎仁義者，雖通如曾史，非吾所謂臧也；屬其性於五味，雖通如俞兒，音榆。黃帝時善識味人也。崔云：《尸子》曰：膳，俞兒和之以薑桂，爲人主上食。非吾所謂臧也；屬其性乎五聲，雖通如師曠，非吾所謂聰也；屬其性乎五色，雖通如離朱，非吾所謂明也。吾所謂臧者，非仁義之謂也，臧於其德而已矣；吾所謂臧者，非所謂仁義之謂也，任其性命之情而已矣；吾所謂聰者，非謂其聞彼也，自聞而已矣；吾所謂明者，非謂其見彼也，自見而已矣。夫不自見而見彼、不自得而得彼者，是得人之得而不自得其得者也，適人之適而不自適其適者也。夫適人之適而不自適其適，雖盜跖與伯夷是同爲淫僻也。予愧乎道德，是以上不敢爲仁義之操，而下不敢爲淫僻之行下孟切。也。

曾史、俞兒、師曠、離朱，皆偏於一能，役性著物，失其天真，豈得謂之善哉？臧於德者以自得爲善，任其性命之情，自聞自見而已。若得人之得、適人之適，皆喪己於物者也；故上不敢爲仁義，下不敢爲淫僻，此養正性正命者也。



## 外篇·馬蹏 九

### 智慧生僞

馬《釋名》云：武也。在下而行者也。蹏音提。馬足甲也。可以踐霜雪，毛可以禦魚呂切。敵也。風寒，齧恨没切。齧也。草飲水，翹祁饒切。舉也。足崔本作尾。而騢，音陸。跳也。張君房本作騢，馬健也。此馬之真性也，雖有義許宜切。養也。臺義臺猶高臺也。路寢，大室也。無所用之。及至伯樂音洛。伯樂姓孫名陽，善馭馬。《石氏星經》云：伯樂，星名，主典天馬，孫陽善馭，故以爲名。曰：我善治馬。燒之燒鐵以爍之。剔之，刺歷切。剪毛也。刻之削甲也。錐之，羈錐其頭，江南古藏本作絡。連之以羈古宜切。勒也。鬐，丁邑切。絆前兩足也。編之必然切。以阜才老切。櫪也，槽也。崔云：閑闌養馬之所也。棧，士板切。編本作櫪，似牀曰棧，以禦濕也。又木棚也。馬之死者十二三矣。飢之渴之，馳之驟之，士救切。整之整之以衡軛。齊之，齊之以鑣轡。前有轂其月切。銜也，鑣也。飾音式。排銜也，謂加飾於馬鑣也。之患，後有鞭必然切。策初革切。馬櫪也。帶皮曰鞭，无皮曰策。櫪，竹瓜切。之威，而馬之死者已過半矣。陶道刀切。窯也。者曰：我善治埴，時力切。土也。埴土可以爲陶器。又土黏曰埴。圓者中規，丁仲切。下同。方者中矩。匠人曰：我善治木，曲者中鈎，直者應繩。夫埴木之性，豈欲中規矩鈎繩哉？然且世世稱之曰：伯樂善治馬，而陶匠善治埴木，此亦治天下者之過也。

夫馬之知，齧飲翹陸而已，無用義臺路寢，猶澤雉之不願畜樊也。及至伯樂，則治之將興，物性已弊，才不勝任，抑死過半矣。土有方圓，而陶者就規矩；木有曲直，而匠者施鈎繩；馬有驚驥，而伯樂用鞭策；民有賢愚，而聖人興法度，皆順其情而爲之。後世之御馬而敗者，非伯樂之才也，治民

而失者，非聖人之道也；而反歸罪於伯樂、聖人，是未知其所善，漆園所以興歎也。

吾意善治天下者不然，彼民有常性，織而衣，耕而食，是謂同德，一而不黨，命曰天放。崔本作牧。云：養也。故至德之世，其行填填，音田。質重貌。其視顛顛，丁田切。專一貌。當是時也，山無蹊音兮。徑也。隧，音遂。道也。澤無舟梁，舟船橋梁。萬物羣生連屬其鄉，王云：既無國異家殊，故其鄉連屬。禽獸成羣，草木遂長，丁丈切。是故禽獸可係羈而遊，鳥鵲之巢可攀普班切。援音袁，牽也，引也。而闕。去規切。夫至德之世，同與禽獸居，族與萬物並，惡音烏。乎知君子小人哉？同乎無知，其德不離，力智切。同乎無欲，是謂素樸，普剥切。素樸而民性得矣。及至聖人蹙步結切。蹙悉結切。成云：用力貌。爲仁，跽直氏切。跽丘氏切。成云：矜恃貌。爲義，而天下始疑矣；澶徒旦切。漫武半切，成云：縱逸貌。爲樂，摘敕歷切。辟匹璧切。成云：折節貌。爲禮，而天下始分矣。故純樸不殘，成云：木全曰純樸，未彫曰不殘。孰爲犧尊；音義尊。司馬曰：畫犧牛象以飾樽也。王肅云：刻爲牛頭。又音先河切。畫鳳凰羽以飾樽，婆娑然也。白玉不毀，孰爲珪璋；音圭璋。銳上方下曰珪，半珪曰璋。道德不廢，安取仁義；性情不離，別離之離。安用禮樂；五色不亂，孰爲文采；五聲不亂，孰應六律。夫殘樸以爲器，工匠之罪也，毀道德以爲仁義，聖人之過也。

民有常性，織衣耕食，一而不黨，遊於自然，貿易未興，不相往來，俗儉約而物繁滋，中無機而外無忌，素樸而民性得矣。不善爲治者，用力行仁，矜持尚義，離道以善，懷疑弗信矣。屈折爲禮，縱逸爲樂，險德以行，冲和分裂矣。犧樽六律，皆治世之法，過則爲亂，此云工匠之罪、聖人之過者，見其未敗而推責其古今之常情也。

夫馬陸居則食草飲水，喜則交頸頸領也。相靡，摩也。怒則分背相踶，大計、徒兮二切。踢也。小踢謂之踶。馬知己此矣。夫加之以衡扼，於革切。衡，轅前橫木，縛輓又馬頸者也。齊之以月題，徒兮切。崔云：馬額上當顛，如月形者也。又謂縣在額上，制如月形。而馬知介古太切。倪五圭、五第二切。李云：介倪，猶睥睨也。闔音因，曲也。扼驚敕二切。曼武半切。驚，抵也。曼，突也。闔扼驚曼，距扼遲頓也。司馬云：曲頸於扼以抵突也。一云：驚曼，旁出也。詭九彼切。銜口中勒也。詭銜，吐出銜也。竊轡，齧轡也。崔云：詭銜竊轡，戾銜轡盜轡也。故馬之知而能至盜者，伯樂之罪也。夫赫呼白切。胥氏司馬

云：上古帝王也。有赫然之德使民胥附，故曰赫胥，蓋炎帝也。之時，民居不知所爲，行不知所之，含哺音步。而熙，鼓腹而遊，民能已此矣；及至聖人屈折禮樂以匡天下之形，縣跂音企。仁義以慰天下之心，而民乃始踈直氏切。跂丘氏切。好呼報切。知，爭歸於利，不可止也，此亦聖人之過也。

馬之真知，唯造父泰丙知之，不施鞭策有日行萬里者，至伯樂而下，加之衡扼，齊以月題，而不免詭衡竊轡之弊也。民之常性，唯赫胥氏知之，不立法度而民咸遂其天性，至堯舜而下則屈折禮樂、懸跂仁義，因之以賞罰，而鬪爭莫止，其弊益甚矣，故曰聖人之過也。

## 外篇·肱篋 十

### 絕聖棄智

將爲肱起居切。司馬云：從旁開爲肱，一云發也。篋苦協切。探吐南切。囊乃剛切。發匱其位切。檻也。之盜，而爲守備，則必攝結也。收也。緘古咸切。滕，崔本作縶，同徒登切。約也。緘滕皆繩也。固扃古癸切。關也。鑄，古穴切。紐也。崔云：環舌也。此世俗之所謂知也。然而巨盜至則負匱揭其謁切。又音桀，舉也，擔也，負也。篋擔丁甘切。囊而趨，七須切。走也。唯恐丘用切。緘滕扃鑄之不固也。然則向之亦作鼻，許亮切。所謂知者，不乃爲大盜於僞切。下同。積者也。嘗試論之，世俗所謂知者，有不爲大盜積者乎？所謂聖者，有不爲大盜守者乎？何以知其然邪？昔者齊國鄰邑相望，雞狗之音相聞，罔罟音古。罔之通名。之所布，耒力對切。犁也。一云耜柄也。耨乃豆切。鉏也。或云：以木爲鉏柄。之所刺，七智切。方二千餘里，闔戶臘切。四竟之內，所以立宗廟社稷，封土曰社，封穀曰稷。治邑屋州閭鄉曲者，三百畝爲屋，三千六百畝爲邑，二十五家爲閭，二千五百家爲鄉，萬二千五百家爲州。曷嘗不法聖智哉？舊作曷嘗不法聖人哉。善人不得聖人之道不立，跖不得聖人之道不行，則聖人之利天下也少，聖人生而大盜起，搢擊聖人，聖人已死，聖人不死，雖重聖人，是乃聖人之過也，彼聖人者天下之利器也。自此以上十一聖人張君房本並作聖智，今從張本。然而田成子《史記》云：齊大夫田常也。魯哀公十四年，田常弑君簡公，割安平以東至琅邪，自爲封邑，自敬仲食采於齊，至威王爲齊侯，故十二世也。一旦殺齊君而盜其國。所盜者，豈獨其國邪，並與其聖智之法而盜之，故田成子有乎盜賊之名，而身處堯舜之安，小國不敢非，大國不敢誅，十二世有齊國，則是不乃竊齊國並與其聖智之法，以守其盜賊之身乎？

知謂造篋匱絨膝局鐻者，積謂哀歛寶貨而畜聚者，聖謂掌符璽權衡斧鉞者，守謂保宗廟社稷封疆者，且齊國之創制立度何嘗不法聖人，而田恒奪其聖知、據有其國，則聖知者乃大盜之資也。

嘗試論之，世俗之所謂至知者，有不爲大盜積者乎？所謂至聖者，有不爲大盜守者乎？何以知其然邪？昔者龍逢斬，被桀斬首。比干剖，普口切。比干曰：爲人臣者不得不以死爭。乃彊諫紂，紂怒曰：吾聞聖人心有七竅。剖比干觀其心。萇直良切。弘肫，敕紙切。肫，裂也。萇弘，周靈王賢臣也，景王之大夫，魯哀公三年六月，周人殺萇弘。又云：劉康讒之於王曰：萇弘遺叔向書曰：子起晉兵以攻周，吾殺劉氏。靈王乃剔萇弘而殺之於蜀矣，又曰：鉞裂而死，又剝腸曰肫。子胥麇，密池切。麇爛於江。解在《大宗師篇》。故四子之賢，而身不免乎戮。故跖之石切。之徒問於跖曰：盜亦有道乎？跖曰：何適而無有道邪？夫妄意室中之藏，才浪切。聖也；入先，勇也；出後，義也；知可否，知也；分均，仁也。五者不備而能成大盜者，天下未之有也。由是觀之，善人不得聖智之道不立，跖不得聖智之道不行，天下之善人少而不善人多，則聖智之利天下也少，而害天下也多。故曰唇竭則齒寒，魯酒薄而邯鄲音寒丹。趙國都也。圍，楚宣王朝諸侯，魯恭公後至而酒薄。宣王怒，欲辱之，恭公不受命，乃曰：我周公之後，長於諸侯，行天子禮樂，勳在周室，我送酒已失禮，方責其薄，無乃太甚。遂不辭而還。宣王怒，乃發兵與齊攻魯。梁惠王常欲擊趙而畏楚救，楚以魯爲事，故梁得圍邯鄲。言事相由也，亦是感應。宣王名熊良夫，悼王之子，恭公名奮，穆公之子。又云：楚會諸侯，魯趙俱獻酒於楚王，魯酒薄而趙酒厚，楚之主酒吏求酒於趙，趙不與，吏怒，乃以趙厚酒易魯薄酒，奏之楚王，以趙酒薄故圍邯鄲也。聖智生而大盜起，掊普口切。擊古歷切。聖智，謂破碎聖智，故曰絕聖棄智也。縱舍音捨。盜賊，盜賊所利謂金寶，故曰不貴難得之貨。而天下始治矣。夫川竭而谷虛，丘夷而淵實，聖智已死，則大盜不起，向云：事業日新，新者爲生，故者爲死，故曰聖人已死也。乘天地之正，御日新之變，得實而損其名，歸真而忘其盜，則大盜息矣。天下平而無故矣。聖智不死，大盜不止，向云：聖人不死，言守故而不日新，牽名而不造實也，大盜不止，不亦宜乎。雖重聖智而治天下，則是重利盜跖也。爲之斗斛以量之。向云：自此以下，皆所以明苟非其人雖法無益。則并與斗斛而竊之；爲之權衡李云：權，稱錘也。衡，稱衡也。錘直僞切。以稱之，則并與權衡而竊之；爲之符璽音徙。符分爲兩片，合而爲一，今銅魚木契也。璽玉印也。以信之，則并與符璽而竊之；爲之仁義以矯居表切。之，則并與仁義而竊之。何以知其然邪？彼竊鉤鉤帶也。者誅，竊國者爲諸

侯，諸侯之門，而仁義存焉，則是非竊仁義聖知邪？故逐於大盜，揭其謁、其列二切。諸侯，竊仁義，并斗斛權衡符璽之利者，雖有軒冕之賞弗能勸，斧鉞音越。之威弗能禁，居鳩切。下不可禁同。此重利盜跖而使不可禁者，是乃聖智之過也。故曰魚不可脫於淵，國之利器不可以示人，彼聖智者天下之利器也，非所以明天下也。

知之出也，或利或害，聖之顯也，或生或死；利害不能惑者，至知也，生死不能動者，至聖也，若四子者，皆矜知誇聖而自取滅亡，又惡知至知至聖哉！聖知、大盜，相因者也，聖知生則大盜起，大盜止則聖知亡，掊擊聖人，絕棄之也，縱舍盜賊，不貴貨也，聖知泯絕，民性淳厚，天下平而無事矣。夫竊仁義聖知者，欲其貴也，盜金寶珠玉者，欲其富也，然天與之則公，人取之則私，若公公而私私，豈軒冕所能勸、斧鉞所能禁哉！

故絕聖棄知，大盜乃止，撓持赤切。崔云：猶投棄也。玉毀珠，小盜不起，焚符破璽，而民樸鄙，掊斗折衡，而民不爭，殫音丹。盡也。殘天下之聖法，而民始可與論議。擢亂六律，鑠絕詩灼切。李云：燒斷也。崔云：消壞也。下不鑠同。竽音于。成云：竽形似笙，並布管瓠，內三十六簧爲竽，十九簧爲笙。瑟，本亦作笙。成云：瑟長八尺一寸，廣一尺八寸，二十七弦，伏羲造。塞瞽曠之耳，而天下始人含其聰矣。滅文章，散五采，膠音交。離朱之目，而天下始人含其明矣。毀絕鉤繩而棄規矩，攬呂係切。李云：折也。崔云：撕也。工倕音垂，時巧人也。之指，而天下始人有其巧矣。故曰大巧若拙。削曾史之行，下孟切。鉗巨炎切。閉也。楊墨之口，攘如羊切。却也。棄仁義，而天下之德始玄同矣。彼人含其明，則天下不鑠矣；人含其聰，則天下不累矣；人含其知，則天下不惑矣；人含其德，則天下不僻匹亦切。矣。彼曾史楊墨師曠工倕離朱者，皆外立其德，而以爚音藥。云火光銷也。又散也。亂天下者也，法之所無用也。

褚伯秀曰：碧虛略而不論。

子獨不知至德之世乎，昔者容成氏、大庭氏、伯皇氏、中央氏、栗陸氏、驪力池切。畜氏、江南古藏本作驪連氏。軒轅氏、赫胥氏、尊盧氏、祝融氏、伏羲音希。氏、神農氏，此十二氏，皆古帝王。當是時也，民結繩而用之，甘其食，美其服，樂音洛。其俗，安其居，鄰國相望，鷄狗之音相聞，民至老死而不相往來。若此

之時，則至治已。今遂至使民延頸舉踵曰：某所有賢者，羸音盈。裹也，負也。糧音良。而趨七於切。之，則內棄其親，而外去其主之事，足迹接乎諸侯之境，車軌結乎千里之外，則是上好呼報切。下同。知之過也。上誠好知而無道，則天下大亂矣，何以知其然邪？夫弓弩暖五切。畢弋機兔網曰畢，網有柄，形似畢星，繳射曰弋，弩牙曰機。變之知多，則鳥亂於上矣；鉤餌如志切。罔罟罾音曾。筍音苟。取魚竹器也。成云：曲梁也，亦筌也。鉤，釣也。餌，魚餌也。罟謂之罔，罾，魚網也。之知多，則魚亂於水矣；削格上息約切，下古百切。削格所以施羅網也。成云：以竹木爲之，今鹿角檜也。羅落罝子斜切。罟音孚。成云：鳥罟謂之羅，兔罟之謂罾，罾謂之罽，罽，覆車也。今切車也。之知多，則獸亂於澤矣；知詐漸毒將廉切。漸漬之毒不覺深也。又漸毒猶深害也。頡戶結切。滑乎八切。謂難料理也。又不正之語也，亦姦黠也。堅白解苦懈切。垢苦豆切。詭曲之辭。又並如字，謂辯能解釋垢穢，猶解嘲也。同異之變多，則俗惑於辯矣；故天下每每母罪切。《說文》：草盛上出也。今言每每大亂，謂其亂如草之盛也。大亂，罪在於好知。故天下皆知求其所不知，而莫知求其所已知者，皆知非其所不善，而莫知非其所已善者，是以大亂。故上悖必內切。薄食也。日月之明，下燦失約切。銷也。山川之精，中墮許規切。壞也，毀也。四時之施，始豉切。喘本作端，川究切。冥耳轉切。動蟲也。又无足蟲也。又地行之蟲曰喘冥。之蟲，肖音消。翹祁饒切。飛空之蟲曰肖翹。李云：翹飛之屬也。之物，莫不失其性，甚矣夫好知之亂天下也，自三代以下者是已。舍夫音捨符。種種章勇切。種種謂守種類不相侵奪，謂淳厚也。之民，而悅夫役役之佞，役役猶伋伋，謂姦黠也。釋夫恬徒謙切。恬徒暫切。無爲，而悅夫哼哼之純、之閏二切。郭云：以己誨人貌。之意，哼哼已亂天下矣。

南華引上古容成、大庭十二氏無爲之治，以證今世爲治者之弊，結繩則立法之始，事不可終靜，靜久則動也。至於上好知而天下亂矣，鳥獸蟲魚不安其生，況於人乎？機詐之毒，上千天和，故草木昆蟲咸被其害。太上云：以知治國國之賊，不以知治國國之福，信哉斯言！

## 外篇・刻意 十一

### 守純素

刻意刻，削也。謂刻意令峻也。意者心之用也。又意志也。尚行，下孟切。離世力智切。異俗，高論力困切。怨誹，音沸，徐音非。李云：非世无道，怨己不遇也。爲亢若浪切。李云：窮高曰亢。而已矣；此山谷之士，非世之人，枯槁苦老切。赴淵者之所好呼報切。下同。也。語仁義忠信恭儉推讓，爲修而已矣；此平世之士，教誨之人，遊居學者之所好也。語大功，立大名，禮君臣，正上下，爲治而已矣；此朝直遙切。廷之士，尊主彊國之人，致功并兼者之所好也。就藪素口切。澤，處閒曠，釣魚雕叫切。與釣同。閒處，無爲而已矣；此江海之士，避世之人，閒暇者之所好也。吹呿呼吸，許及切。吐故納新，熊經如字。又古定切。鳥申，禽之展足曰申。爲壽而已矣；此導引李云：導炁令和，引體令柔。之士、養形之人，彭祖壽考者之所好也。若夫不刻意而高，無仁義而修，無功名而治，無江海而閒，不導引而壽，無不忘也，無不有也，澹大暫切。然無極而衆美從之，此天地之道、聖人之德也。故曰夫恬惔寂寞，虛無無爲，此天地之平，而道德之質質，正也。也。

高論許由、善卷，非世伯夷、叔齊也；枯槁鮑焦、子推，赴淵申徒狄、卞隨也；遊居學者仲尼洙泗、子夏西河也；致功伊尹、呂望，并兼管仲、商鞅也；藪澤巢父、嚴光，閒曠公閱休、牧馬童子，釣魚任公子、漁父也；吹噓呼吸，胎息六氣之法，熊經鳥申，澤神五禽之術也。忘有得有，忘得入極，天地中空而萬物生，聖人無心而衆美成，寂寞爲天地之平，虛無爲道德之質也。

故曰聖人休焉，休則平易，平易則恬惔矣，見張君房本，舊作聖人休休焉則平易矣，



平易則恬惓矣。平易恬惓則憂患不能入、邪似嗟切。下同。氣不能襲，故其德全而神不虧。故曰聖人之生也天行，其死也物化，靜而與陰同德，動而與陽同波，不爲福先，不爲禍始，感而後應，迫而後動，不得已而後起，去起呂切。知與故，循天之理，故無天災，無物累，無人非，無鬼責，其生若浮，其死若休，不思慮，不豫謀，光矣而不耀，信矣而不期，其寢不夢，其覺古孝切。無憂，其神純粹，雖遂切。其魂不罷，音疲。虛無恬惓，乃合天德。故曰悲樂音洛。下同。者德之邪，喜怒者道之過，好惡烏路切。者德之失，故心不憂樂，德之至也，一而不變，靜之至也，無所於忤，五故切。逆也。虛之至也，不與物交，淡之至也，無所於逆，粹之至也。

憂患入於不平易，邪氣襲於不恬惓，神德全完者，諸垢誰能染哉！生之暫來，天行也，死之暫去，物化也，無損益乎其真，得陰陽之體，不爲天下先，本無應也，感而後應，本無動也，迫而後動，本不起也，不得已而起，循天理而不欺，忘物累而不驕，人非既無，鬼責何有，生浮死休，任理直往，含光藏輝，大信不約，覺夢自得，神魂不疲，虛無恬惓，乃合天德。修德者忘悲樂，履道者忘喜怒，喪己者在好惡也。故至德者希夷泊乎內，至靜者生化莫能移，至虛者無忤，至惓者遠俗，至粹者莫逆也。

故曰形勞而不休則弊，精用而不已則勞，勞則竭；水之性不雜則清，莫動則平，鬱閉而不流亦不能清，天德之象也；故曰純粹而不雜，靜一而不變，淡而無爲，動而以天行，此養神之道也。夫有干越之劍李云：干谿越山，俱出良劍。又吳有谿名干谿，越有山名若邪，並出善鐵，鑄爲名劍。者，柙戶甲切。而藏之，不敢用也，寶之至也。精神四達並流，無所不極，上際於天，下蟠音盤。於地，化育萬物，不可爲象，其名爲同帝。純素之道，唯神是守，守而勿失，與神爲一，一之精通，合於天倫。野語有之曰：衆人重利，廉士重名，賢士尚志，聖人貴精，故素也者，謂其無所與雜也，純也者，謂其不虧其神也，能體純素，謂之真人。

形勞精用，越分而傷性故也，水性不雜則清，莫動則平，身中真水亦如之。若純粹靜一，動合天理，雖不煉形而神已王矣。利劍外物，尚知珍貴，精神搖蕩而不收，得不謂之倒置乎？善攝御者可侔造化，善養素者守保神氣，故能混合冥一、通乎天理矣。野語四事，貴精爲上，謂虛其靈府，塞其六鑿也。質不爲塵染則素，神不爲事撓則純，體備純素，非真而何。

## 外篇·繕性 十二

### 恬智相養

繕性於俗學，以求復其初，滑欲於俗思，以求致其明，見張君房本，舊作繕性於俗，俗學以求復其初，滑欲於俗思，以求致其明。繕，時戰切。補也。滑音骨，亂也。謂之蔽蒙之民。古之治道者以恬養智，智生而無以智爲也，見張君房本，舊闕。謂之以智養恬，智與恬交相養，而和理出其性。夫德，和也；道，理也；德無不容，仁也；道無不理，義也；義明而物清，忠也；中純實而反乎情，樂也；信行下孟切。下以行、小行同。容體而順乎文，禮也；禮樂徧江南本作偏。《史記》云：樂極則憂，禮粗則偏矣。鄭玄注云：樂，人之所好也，害在淫夸。禮，人之所勤也，害在偏略。又云：及夫敦樂而无憂，禮備而不偏者，其唯大聖乎。行，則天下亂矣。彼正而蒙己德，德則不冒，莫報切，覆也。冒則物必失其性也。

處塗而避汙，在垢而求照，非蔽蒙而何？躁競必昏，恬靜必知，有知不役，善保靜也。知而不用，故能和恬而自葆，故有理雖假種習而本乎天然，自得故能和衆，己通故能治物，上仁與德同，以含容爲本，上義與道同，以通理爲原。處中和而不淫者樂也，整容貌而中節者禮也，禮以應物，樂以正性，自檢則真，率人則亂。彼自正者，以蒙養己德，德固則守恬而不冒，此乃各正性命、恬知相養者也。

古之人在混芒上胡本切，下莫剛切。崔云：混混芒芒，未分時也。之中，與一世而得澹徒暫切。漠焉，當是時也，陰陽和靜，鬼神不擾，而小切。四時應節，見張君房本，舊作得。萬物不傷，羣生不夭，人雖有知，無所用之，此之謂至一，當是時

也，莫之爲而常自然。逮德下衰，及燧人、音遂。伏戲音羲，燧人伏戲皆古之帝王。始爲天下，是故順而不一；德又下衰，及神農、黃帝始爲天下，是故安而不順；德又下衰，及唐虞始爲天下，興治化之流。凜古堯切。淳音純。散朴，離力智切。道以善，險德以行，然後去性而從於心，心與心識如字。向本作職，云：彼我之心，競爲先職。知，而不足以定天下，然後附之以文，益之以博，文滅質，博溺乃澀切心，然後民始惑亂，無以反其性情而復其初。

至德之世，素朴無知，澹漠無欲，故淳一焉。燧人鑽火，伏羲畫卦，順物情則不一矣；神農耒耜，黃帝干戈，有所安則不順矣；堯爭丹水，舜伐有苗，則朴散矣；爲善近名，離道也；獨行損生，險德也；去湛然之性，師自成之心，以心度心，競爲前識，此道之華而愚之始也。是知知不足以定天下，恬可以養萬物，爲道則質存，絕學則心靜，棄知則反本，無爲則復初也。

由是觀之，世喪息浪切。下同。道矣，道喪世矣，世與道交相喪也，道之人何由興乎世，世亦何由興乎道哉！道無以興乎世，世無以興乎道，雖聖人不在山林之中，其德隱矣，隱故不自隱。古之所謂隱士者，非伏其身而弗見賢徧切。也，非閉其言而不出也，非藏其知而不發也，時命大謬也，當時命而大行乎天下，則反一無迹，不當時命而大窮乎天下，則深根寧極而待，此存身之道也。

人存則道興，人亡則道喪，世道交喪，歷運使然。人與世末也，其要在乎本，若老聃守藏史，南華史漆園，其德隱矣，隱故不自隱，時使之然也。伯夷采薇，子陵垂釣，時命大謬也，反一無迹，功成不居也，傳說版築，呂望磻溪，深根寧極也。

古之存身者，不以辯飾知，不以知窮天下，不以知窮德，危然郭云：獨正貌。司馬本作愷，獨立貌。崔本作埳，音如累埳之埳。埳然，自持安固貌。處其所而反其性，己又何爲乎哉！見張君房本，舊作又何爲哉。道固不小行，德固不小識，小識傷德，小行傷道，故曰正己而已矣。樂音洛。下同。全之謂得志，古之所謂得志者，非軒冕之謂也，謂其無以益其樂而已矣。今之所謂得志者，軒冕之謂也，軒冕在身，非性命之有也。見張君房本，舊作非性命也。物之儻來，吐黨切。意外忽然來者耳。崔作黨，衆也。寄也，寄之其來不可圉，魚呂切。與禦同，扞也。其去不可止，故不爲于僞切下

同。軒冕肆志，不爲窮約趨俗，某樂彼與此同，故無憂而已矣。今寄去則不樂，由是觀之，雖樂未嘗不荒也，故曰喪己於物，失性於俗者，謂之倒置之民。崔云：逆其性命而不順也。向云：以外易內可謂倒置。

善行者貴默，守愚者福全，燕處超然，歸根復命，又何爲哉！小行則矯俗，小識則矜銜，有益必有損，豈爲得志哉！物之儻來不可圉，其去不可止，隨物損益，受役多矣。中無主者，失之則憂，故其得之，未嘗不荒，是樂乎外而喪乎內矣。

## 外篇·說劍 十三

### 神 武

昔趙文王司馬云：惠文王也，名何，武靈王子。《洞紀》云：周赧王十七年，趙惠文王之元年。一云：案《長歷》，推惠文王與莊子相值，雖然亦恐寓言以暢意也。喜許記切。下同。劍，劍士夾音協。門而客，三千餘人，日夜相擊於前，死傷者歲百餘人，好呼報切。下同。之不厭。於鹽、於艷二切。如是三年，國衰，諸侯謀之，太子悝苦回切。太子名。患之，募音慕。左右曰：孰能說解也。如字。又音悅。王之意，止劍士者，賜之千金。左右曰：莊子當能。太子乃使人以千金奉莊子，莊子弗受，與使所吏切。者俱往見太子曰：太子何以教周，賜周千金。太子曰：聞夫子明聖，謹奉千金以幣從才用切。者，夫子弗受，悝當何敢言。見張本，舊作尚。莊子曰：聞太子所欲用周者，欲絕王之喜好也，使臣上說大王而逆王意，下不當太子，則身刑而死，周尚安所事金乎？使臣上說大王，下當太子，趙國何求而不得也。太子曰：然，吾王所見唯劍士也。莊子曰：諾，周善爲劍。太子曰：然，吾王所見劍士，皆蓬頭步公切。謂著兜鍪也，有眊，故如蓬。成云：髮亂如蓬。突鬢，必刃切。鬢毛突出云。又云：謂鬢髮短，可凌突人也。垂冠，將欲鬪，故冠低傾也。一曰突騎帽也。曼胡莫干切。曼胡之纓，謂羸纓无文理也。成云：屯項抹額也。之纓，短後之衣，成云：爲便於武事也。瞋目赤真切。張也。而語難，艱難也。勇士憤氣積於心胸，言不流利也。又乃旦切。既怒，言語爲人所畏難。王乃悅之。今夫子必儒服而見王，事必大逆。莊子曰：請治劍服。治劍服三日，乃見太子。太子乃與見賢徧切。下劍見同。王，王脫土活切。白刃待之。莊子入殿門不趨，見王不拜。王曰：子欲何以教寡人，使太子先。曰：臣聞大王喜

劍，故以劍見王。王曰：子之劍何能禁制。曰臣之劍，十步一人，千里不留行。十步殺一人則千里無敢拒者。王大悅之，曰：天下無敵矣。莊子曰：夫爲劍者，示之以虛，開之以利，後之以發，先之以至，願得試之。王曰：夫子休，就舍待命，令設戲請夫子。王乃校司馬云：考校取其勝者也。一本作教。劍士七日，死傷者六十餘人，得五六人，使奉劍於殿下，乃召莊子曰：今日試使士敦都昆切。司馬云：敦，斷也。試使用劍相擊斷截也。劍。莊子曰：望之久矣。王曰：夫子所御杖直亮切。用杖也。長短何如？曰：臣之所奉皆可。然臣有三劍，唯王所用，請先言而後試。王曰：願聞三劍。曰：有天子劍，有諸侯劍，有庶人劍。王曰：天子之劍何如？曰：天子之劍，以燕音煙。谿石城爲鋒，成云：燕谿，地名，在燕國。石城在塞外，此地居北故以爲鋒。鋒，劍端也。齊岱爲鏑，五各切。成云：齊國岱岳在東，故以爲鏑。鏑，劍刃也。又劍稜也。晉衛爲脊，成云：晉衛二國近趙地，故爲劍脊也。周宋爲鐔，音淫。成云：周宋二國近南，故以爲鐔。鐔，劍環也。又劍珥也。其旁鼻也，帶所貫鐔也。又音尋。韓魏爲鈇，古協切。成云：韓魏二國，在趙之西，從以爲鈇。鈇，劍把也。又云：鐔從稜向背，鈇從稜向刃也。包以四夷，裏音果。以四時，繞以渤海，滄州也。帶以常山，北岳也。制以五行，以五行制區宇。論以刑德，論刑德臨御羣生。開以陰陽，持以春夏，行以秋冬，隨天道以行止也。制、論、開、持、行皆鑄造。行，用也。此劍直之無前，舉之無上，案之無下，運之無旁，上決浮雲，下絕地紀，此劍一用，匡諸侯，天下服矣。此天子之劍也。文王芒莫剛切。然自失，曰：諸侯之劍何如？曰：諸侯之劍，以知勇士爲鋒，以清廉士爲鏑，以賢良士爲脊，以忠聖士爲鐔，以豪傑士爲鈇，直之亦無前，舉之亦無上，案之亦無下，運之亦無旁，上法圓天，以順三光，下法方地，以順四時，中知民意，以安四鄉，四方也。此劍一用，如雷霆之震，四封之內，無不賓服而聽從君命者矣。此諸侯之劍也。王曰：庶人之劍何如？曰：庶人之劍，蓬頭突鬢垂冠，曼胡之纓，短後之衣，瞋目而語難，相擊於前，上斬頸領，下決肝肺，芳廢切。此庶人之劍，無異於鬪雞，一旦命已絕矣，無所用於國事。今大王有天子之位，而好庶人之劍，臣竊爲于僞切。大王薄之。王乃牽而上殿，宰人上食，王三環繞也。聞義而愧，繞饌三周，不能坐食。之。莊子曰：大王安坐定氣，劍事已畢奏矣。於是文王不出宮三月，劍士皆服斃婢世切。忿不見禮，皆自殺也。其處也。

廟戰者帝，神化者王，廟戰法天地，神化法四時，故政修於境內而遠方

慕其德，制勝於未戰而諸侯服其威，是以天下爲劍，豈直太阿干將比哉！趙文王之喜劍，傲吏所以進說，其旨在乎神武而不殺者也。古有寶劍名曰含光，視之不見，觸之不覺，影無曲直，響無清濁，匣於廟堂之上，則威懾四夷，用於敵國之際，則一童子佩之，却三軍之衆，若乃示之以中虛，開之以外漠，運之以無形，發之以無作，進退而鸞舞麟振，屈伸而鳳騫龍躍，又何事乎杖御長短，敦校遲速，擊搏腰領，斬斫死傷，而弗休止耶！夫兵者不祥之器，聖人不得已而用之，劍者一夫之勇，象於鬪雞，一旦命已殂矣，何用於萬乘之國哉！

## 外篇·漁父 十四

### 貴 真

孔子遊乎緇維司馬云：黑林名也。或作帷。之林，休坐乎杏壇司馬云：澤中高處也，杏生其上。又壇名也。之上，弟子讀書，孔子弦歌鼓琴，奏曲未半，有漁父或云：是范蠡也。下船而來，鬢眉一本作須眉。交白，交，俱也。一本作皎。被髮揄音遙。謂垂手衣內而行也。袂，面世切。行原以上，距陸距，至也。而止，左手據膝，右手持頤以聽。曲終而招子貢、子路二人俱對，客指孔子曰：彼何爲者也？子路對曰：魯之君子也。客問其族，子路對曰：族孔氏。曰：孔氏者何治也？子路未應，子貢對曰：孔氏者，性服忠信，身行仁義，飾一本作飭，音敕。禮樂，選人倫，上以忠於世主，下以化於齊民，齊，等也，謂齊等之民也，又平民也。將以利天下，此孔氏之所治也。又問曰：有土之君與？音餘下同。曰：非也。侯王之佐與？曰：非也。客乃笑而還，行言曰：仁則仁矣，恐不免其身，苦心勞形，以危或作僞。其真，嗚呼遠哉，其分又作介。離也。於道也。子貢還報孔子，孔子推琴而起曰：其聖人與？乃下求之，至澤畔，方將杖杖即橈也。《方言》：楫謂之橈。或從舟。拏音如。《說文》持也。又女居切。牽也。而引船，顧見孔子，還鄉香亮切。或作嚮。而立，孔子反走，再拜而進。客曰：子將何求？孔子曰：曩者先生有緒言猶先言也。又餘論也。而去，丘不肖，未知所謂，竊待或作侍。於下風，幸聞咳苦代切。唾吐卧切。之音，以卒相息亮切。助也。丘也。客曰：嘻，香其切。笑聲也。甚矣子之好呼報切。下同。學也。孔子曰：丘少詩召切。下同。而修學，以至於今，六十九歲矣，无所得聞至教，敢不虛心。客曰：同類相從，同聲相應，天之理也，請釋吾之所有，而經經，營也，



又理也，度也。子之所以。子之所以者人事也，天子諸侯大夫庶人，四者自正，治之美也；四者離位，而亂莫大焉。官治其職，人憂其事，乃無所陵，故田荒室露，衣食不足，徵賦不屬，音燭。妻妾不和，長丁丈切。後遇長同。少無序，庶人之憂也。能不勝音升。任，官事不治，行下孟切。不清白，羣下荒怠，功美不有，爵祿不持，大夫之憂也。廷無忠臣，國家昏亂，工技其綺切。不巧，貢職或作賦。不美，春秋後倫，朝覲不及等比也。不順天子，諸侯之憂也。陰陽不和，寒暑不時，以傷庶物，諸侯暴亂，擅相攘伐，攘除也。以殘民人，禮樂不節，財用窮匱，人倫不飭，音敕。百姓淫亂，天子有司之憂也。今子既上無君侯有司之勢，而下無大臣職事之官，而擅飾禮樂，選人倫，以化齊民，不泰多事乎？且人有八疵，祀知切。病也。事有四患，不可不察也。非其事而事之謂之撓，覽也，監也。莫之顧而進之謂之佞，希意道言謂之諂，不擇是非而言謂之諛，好言人之惡謂之讒，析交離親謂之賊，稱譽詐僞以敗補適切。毀他曰敗。惡人烏路切。下同。張君房本作德人。謂之慝，他得切。不擇善否、悲美切。惡也。兩容顏適、善惡皆容顏貌調適也。偷拔其所欲謂之險。此八疵者，外以亂人，內以傷身，君子不友，明君不臣。所謂四患者，好經大事、變更易常、以挂音卦。別也。功名謂之叨；吐刀切。專知擅事、侵人自用謂之貪；見過不更、聞諫愈甚謂之狠；胡壘切。人同於己則可、不同於己雖善不善謂之矜。此四患也。能去八疵，無行四患，而始可教已。孔子愀然其小切。慙悚貌。而歎，再拜而起曰：丘再逐於魯，削迹於衛，伐樹於宋，圍於陳蔡，丘不知所失，而離此四謗者何也？客悽然變容曰：甚矣子之難悟也，人有畏影惡迹而去之走者，舉足愈數音朔。而迹愈多，走愈疾而影不離力智切。身，自以為尚遲，疾走不休，絕力而死，不知處陰以休影，處靜以息迹，愚亦甚矣。子審仁義之間，察同異之際，觀動靜之變，適受與之度，理好惡之情，和喜怒之節，而幾於不免矣。謹修其身，慎守其真，還以物與人，則無所累矣。今不修之身而求之人，不亦外乎？孔子愀然曰：請問何謂真？客曰：真者精誠之至也，不精不誠，不能動人，故彊其丈切。下同。哭者雖悲不哀，彊怒者雖嚴不威，彊親者雖笑不和；真悲無聲而哀，真怒未發而威，真親未笑而和，真在內者神動於外，是所以貴真也。其用於人理也，事親則慈孝，事君則忠貞，飲酒則歡樂，音洛。下同。處喪則悲哀；忠貞以功為主，飲酒以樂為主，處喪以哀為主，事親以適為主。功成之美，無一其迹矣；事親以適，不論所以矣；飲酒以樂，不選其具矣；處喪以

哀，無問其禮矣。禮者世俗之所爲，真者所以受於天，自然不可易也。故聖人法天貴真，不拘於俗，愚者反此，不法天而恤於人，不知貴真，祿祿如字。又音錄。謂形見爲禮也。司馬云：錄，領錄也。而受變於俗，故不足。惜哉子之早湛丁南切。下同。溺也。於人僞而晚聞大道也。孔子曰：今者丘得遇也，或作過，謂得過失也。若天幸然，先生不差而比如字。謂親見比數也。又毗志切。之服役，而身教之，敢問舍所在，請因受業而卒學大道。客曰：吾聞之，可與往者，往，進也。與之至於妙道，不可與往者，不知其道，慎忽與之，身乃無咎，子勉之，吾去子矣，吾去子矣。乃刺七亦切。船而去，延緣葦間。顏淵還車，子路授綬，孔子不顧，待水波定，謂船行，故水波去遠則波定。不聞拏音，而後敢乘。子路旁步浪切。車而問曰：由得爲役久矣，未嘗見夫子遇人如此其威也，萬乘繩證切。下同。之主，千乘之君，見夫子未嘗不分庭伉背浪切。敵也。禮，夫子猶有倨音據。敖五報切。之容；今漁父杖拏逆立，而夫子曲要一遙切。磬折，之設切。再拜而應，得無太甚乎？門人皆怪夫子矣！漁父何以得此乎？孔子伏軾而歎曰：甚矣由之難化也，湛於禮義有間矣，而朴鄙之心至今未去，進，吾語魚據切。汝。夫遇長不敬，失禮也，見賢不尊，不仁也，彼非至人，不能下人，下人不精，不得其真，故長傷身，惜哉不仁之於人也，禍莫大焉，而由獨擅之。且道者，萬物之所由也，庶物失之者死，得之者生，爲事逆之則敗，順之則成，故道之所在，聖人尊之，今漁父之於道，可謂有矣，吾敢不敬乎？

四民著業，則不爲世利所滑，事應所感，故豐足而無憂，志小者無圖大之謀，失御者寡持執之術，故功不立而祿不守也。謀而不當，言而不信，役重則工羸，責多則貢惡，悖道生怨，故有後期而致者。變宜則不和，易常則傷物，怒深則暴亂，憤極則攘伐，禮樂煩則人淫，食稅多則窮匱，能反而修之，疵病免矣。歷聘諸國而欲無謗，猶奔塵而欲衣不緇，冒雨而欲巾不濕也。在物還物，屬人還人，修身守真，彼我無累。真者自然之性，內發於精誠，外感於天人，其用於人理也，忠孝哀樂，各得其宜，功成之美，無一其迹。禮者世教，真者天性，愚者恤於人、變於俗，故於道則不足也。漁父之道，不經不營，淡然無欲而衆美從之，仲尼所以歸敬也。

## 雜篇・讓王 十五

### 治 內

堯以天下讓許由，語在《逍遙篇》。許由不受。又讓於子州支父，音甫。李云：支父字也，即支伯也。子州支父曰：以我爲天子，猶之可也；雖然，我適有幽憂之病，《呂氏春秋》引此章，高誘注云：幽，隱也。《詩》云：如有隱憂，我心不悅。未暇在於治天下也。方且治之，未暇治天下也。夫天下至重也，而不以害其生，又況他物乎，唯無以天下爲者，可以託天下也。

外天下者，衆害不能干，重其生者，他物不能惑，唯暢然虛懷，則可以託身於四海之上也。

### 處 身

舜讓天下於子州支伯，或云：支伯即支父也。子州支伯曰：予適有幽憂之病，方且治之，未暇治天下也。故天下大器也，而不以易生，此有道者之所以異乎俗者也。

天地大德曰生，至人之所寶貴，故不以天下易之。

## 自 得

舜以天下讓善卷，卷勉切。姓善，名卷，隱士也。善卷曰：予立於宇宙之中，冬日衣皮於既切。下同。毛，夏日衣葛絺，春耕種，形足以勞動，秋收斂，身足以休食，日出而作，日入而息，逍遙於天地之間，而心意自得，吾何以天下爲哉！悲夫，子之不知予也。遂不受，於是去而入深山，莫知其處。昌慮切。

糲褐饘粥以自足，孰肯以物爲事而喪其天真哉？

## 高 蹈

舜以天下讓其友石戶亦作后。之農，石戶，地名。農，農人也。石戶之農曰：捲捲音權。勤節貌。乎后之爲人，葆力葆蔽用力也。之士也。以舜之德爲未至也，於是夫負妻戴，攜子以入於海，司馬云：凡言入於海者，皆居其洲島之上與其曲隈中也。終身不反也。

狷介者不肯屈於人，德厚者乃能貴其下，勁節葆力所以立大功，放浪不反所以激貪鄙。

## 尊 生

大王亶丁但切。父音甫。下同。亶父，文王之祖也。居邠。筆貧切。地名也。狄人獫狁也。攻之，事之以皮帛而不受，事之以犬馬而不受，事之以珠玉而不受，狄人之所求者土地也。大王亶父曰：與人之兄居而殺其弟，與人之父居而殺其子，吾不忍也。子皆勉居矣，爲吾臣與爲狄人臣奚以異？且吾聞之，不以所用養害所養。地所以養人也，今爭以殺人，是以地害人也。人爲地養，故不以地害人也。因杖直亮切。筴初

革切。而去之，民相連如字。相連續而從之也。舊音力展切。或作撻，同謂擔運物也。而從之，遂成國於岐山其宜切。山在扶風美陽西北，其南有周原，故始改國曰周。之下。夫大王亶父可謂能尊生矣，能尊生者，雖貴富不以養傷身，雖貧賤不以利累形，王云：富貴有養，而不以味養傷身。貧賤无利，而不以求利累形也。今世之人居高官尊爵者皆重失之，見利輕亡其身，豈不惑哉！

地所用養，養物也，物之所養，養民也，今爭所養之物而害所養之民，聖人不忍爲也。

## 惡 患

越人三世弑其君，音試。文云：僖王一也，惠王二也，哀王三也。王子搜素羔切。文云：哀王子名搜也。患之，逃乎丹穴，南戴日爲丹穴南山洞也。又朱崖縣也。而越國無君，求王子搜不得，從之丹穴，王子搜不肯出。越人薰之以艾，五蓋切。乘以玉輿，玉輅也。一本作王輿。王子搜援音爰。引也。綏。車上繩也。登車仰天而呼火故切。或作歎。曰：君乎君乎，重歎君位之難也。獨不可以舍音捨。我乎？王子搜非惡烏路切。下及下章真惡同。爲君也，惡爲君之患也。若王子搜者，可謂不以國傷生矣，此固越人之所欲得爲君也。

富貴者重失在乎養傷身，貧賤者輕亡在乎利累形，故爲君而致患，不若退隱而自全也。

## 知輕重

韓魏相與爭侵地，子華子司馬云：魏之賢人。見昭僖侯，司馬云：韓侯也。昭僖侯有憂色，子華子曰：今使天下書銘於君之前，書之言曰：左手攫俱縛、俱碧二切。取也。之，則右手廢，棄也。一云：攫者援書銘，廢者斬右手。右手攫之，則左手廢，然而攫之者必有天下，君能攫之乎？昭僖侯曰：寡人不攫也。子華子曰：甚

善，自是觀之，兩臂重於天下也，身亦重於兩臂，韓之輕於天下亦遠矣，今之所爭者其輕於韓又遠，句絕。君固愁身傷生以憂戚不得也。昭僖侯曰：善哉！教寡人者衆矣，未嘗得聞此言也。子華子可謂知輕重矣。

名與身孰親？身與貨孰多？疆場廢地，何苦爭爲？《鴻烈解》曰：殺戎馬而求狐狸，援兩鰲而失靈龜，斷右臂而爭一毫，折鎡鋸而競刀錐，可謂不知輕重者也。

## 完 身

魯君一本作魯侯。李云：哀公也。聞顏闔得道之人也，使人以幣先使人召顏闔。欲爲相也。焉。顏闔守陋閭，苴音羸。有丁麻也。直作羸者非是。布之衣，而自飯符晚切。飼也。牛，魯君之使所吏切。下章同。者至，顏闔自對之。使者曰：此顏闔之家與？音餘。對曰：此闔之家也。使者致幣，顏闔曰：恐聽謬見張君房本，舊作恐聽者謬。《呂氏春秋》引此章亦作恐聽謬。而遺唯季切。下章同。使者罪，不若審之。使者還反審之，復音服，下章同。來求之，則不得已。若顏闔者，真惡富貴也。故曰道之真以治身，其緒餘並如字。謂殘餘也。以爲國家，其土敕雅切，又如字。苴側雅切。司馬云：土苴，如糞草也。李云：土苴，糟魄也，皆不真物也。《呂氏春秋》引此章，高誘注云：土瓦礫也；苴，草薺也。土鼓薺桴，伊耆氏之樂也。《孝經》云：安上治民莫善於禮，移風易俗莫善於樂，故可以治天下。以治天下。由此觀之，帝王之功，聖人之餘事也，非所以完身養生也。今世俗之君子，多危身棄生以殉物，豈不悲哉！凡聖人之動作也，必察其所以之，王云：聖人真以持身，餘以爲國，故其動作必察之焉，所以之者，謂德所加之方也，所以爲者，謂所以待物也，動作於此不必察也。與其所以爲。今且有人於此，以隨侯之珠，隨國，近漢水。漢出寶珠。隨侯見蛇傷，以藥封之，後蛇銜明珠徑寸純白，夜光燭室，以報隨侯，故謂隨侯之珠也。彈千仞之雀，世必笑之，是何也？則其所用者重，而其所要一遙切。者輕也，夫生者，豈特隨侯之重哉！

緒餘、土苴，言去身愈遠則愈粗，聖人之治身也，虛心弱志，帝王之立功也，手胼足胝，以立功視治身，特餘事耳。顏闔知其所以之之未可也、所

以爲之未必也，故不受幣焉。士有甘藜藿而忽富貴者，身可屈而道不可屈，其自重若隋珠，輕利祿如燕雀耳。

## 遠非義

子列子窮，容貌有飢色，客有言之於鄭子陽鄭繆公相也。者曰：列禦寇蓋有道之士也，居君之國而窮，君無乃爲不好呼報切。士乎？鄭子陽即令力呈切。官遺之粟，子列子見使者，再拜而辭。使者去，子列子入，其妻望之而拊音撫。心曰：妾聞有道者之妻子，皆得佚樂，音逸洛。今有飢色，君過古卧切。經過也。而遺先生食，先生不受，豈不命邪！子列子笑謂之曰：君非自知我也，以人之言而遺我粟，至其罪我也，又且以人之言，此吾所以不受也。其卒，民果作難，乃旦切。下章同。而殺子陽。子陽嚴酷，罪者無赦，舍人折弓，畏子陽怒貴，因國人逐獬狗而殺子陽。

士甘陸沈無聞，豈肯屈志而受無名之祿，苟徇妻子之情而躑躅於禍網哉！

## 遵法度

楚昭王失國，屠羊說音悅。昭王名軫，平王子也。平王聽費无忌讒，殺伍奢，伍員奔吳。已而吳伐楚，楚大敗，昭王出奔隨，當是時也，有屠羊說從昭王出奔，而復歸國也。走而從於昭王。昭王反國，將賞從才用切。者，及屠羊說。屠羊說曰：大王失國，說失屠羊，大王反國，說亦反屠羊，臣之爵祿已復矣，又何賞之有？王曰：彊其丈切。之。屠羊說曰：大王失國，非臣之罪，不敢伏其誅；大王反國，非臣之功，故不敢當其賞。王曰：見賢徧切。下同。之。屠羊說曰：楚國之法，必有重賞大功而後得見，今臣之知不足以存國，而勇不足以死寇，吳軍入郢，以井切。說畏難而避寇，非故隨大王也，今大王欲廢法毀約如字。徐於妙切。而見說，此非臣之所以聞天下也。王謂司馬子綦曰：屠羊說居處卑賤而陳義甚高，子其爲於僞切。我延之以三旌三公位也。司馬本作三珪，云：謂諸侯之三卿皆執珪也。之位。屠羊說曰：夫

三旌之位，吾知其貴於屠羊之肆也，萬鍾之祿，吾知其富於屠羊之利也，然豈可以貪爵祿而使吾君有妄施如字。又始鼓切。之名乎？說不敢當，願復反吾屠羊之肆。遂不受也。

誦《詩》《書》而發冢，居屠沽而守義者，何代無之，夫竊勢以爲己功，市權而要重賞者，聞此亦當知愧矣。

## 守 節

原憲字子思，魯人，孔子弟子。居魯，環堵之室，周環各一堵，方丈室也。茨疾私切。蓋屋茅也。以生草，謂以青草代茅蓋屋。蓬戶織蓬爲戶。不完，桑以爲樞，尺朱切。屈桑條爲戶樞也。而甕牖音西。破甕爲牖。二室，夫妻各一室。褐下葛切。以爲塞，悉代切。以褐衣塞牖也。上漏下濕，匡坐而弦歌。匡，正也。歌見張君房本，舊闕。子貢乘大馬，中紺古暗切。李云：紺爲中衣，加素爲表。又紺中素表，大夫之服。而表素，軒車不容巷，往見原憲。原憲華冠，胡化切。以華木皮爲冠。縱所倚切。或作屣，又作躡，云：躡也。又履不著跟曰屣。又體不能躡舉而曳之也。履杖藜以藜爲杖也。而應門。自對門也。子貢曰：嘻，許其切。笑聲也。先生何病？原憲應之曰：憲聞之，無財謂之貧，學而不能行謂之病，今憲貧也、非病也。子貢逡巡七旬切。却退也。而有愧色。原憲笑曰：夫希世而行，司馬云：希，望也。所行常顧世譽而動，故曰希世而行也。比周毗志切。周旋親比以結朋黨。而友，學以爲人，於僞切。下爲己同。教以爲己，學當爲己，教當爲人，今反不然。仁義之慝，吐得切。惡也。司馬云：謂依仁託義爲姦惡也。輿馬之飾，憲不忍爲也。

子貢相衛，結駟連騎入窮閭，過原憲，而歎其何病。憲答以是貧非病，子貢愧其言之失也。夫迂趨世態，希望功名，親比周旋，交構朋黨，學不治身，教藉資給，坐仁義之慝，盛輿馬之飾，學道者豈忍爲哉！原憲則學道而能行，守義而不屈者也。



## 養 志

曾子居衛，緼袍紵粉切。司馬云：謂麻緼爲絮。《論語》云衣敝緼袍是也。無表，顏色腫章勇切。噲，古外切。司馬云：腫噲，剥錯也。王云：盈虛不常貌。又皮膚皴裂而腫。手足跣薄田切。胝，竹尼切。皮堅也。三日不舉火，十年不製衣，正冠而纓絕，繩斷也。捉衿而肘竹九切。見，袖破也。納履而踵決，履敗也。曳縱而歌《商頌》，追美商之德也。聲滿天地，若出金石，天子不得臣，諸侯不得友。故養志者忘形，養形者忘利，致道者忘心矣。

曾子養志故不仕，忘利故寡合，忘心故契道也。

## 行 修

孔子謂顏回曰：回，來，家貧居卑，胡不仕乎？顏回對曰：不願仕。回有郭外之田五十畝，足以給飢之然切。或作饘。粥，之六切。飢粥，厚粥也。飢一音干，謂干餅。郭內之田十畝，足以爲絲麻，一本作臬麻。鼓琴足以自娛，所學夫子之道者，足以自樂音洛。也，回不願仕。孔子愀七小切。一本作欣。然變容曰：善哉回之意，丘聞之，知足者不以羨自累也，羨見江南李氏本，舊作利。審自得者，失之而不懼，行下孟切。修於內者，無位而不忤，在洛切。慙也。丘誦之久矣，今於回而後見之，是丘之得也。

知足不辱，知止不殆，不辱者行修於內，不殆者無位不忤，此仲尼之所誦，今於顏子見之。

## 趣 高

中山公子牟司馬云：魏之公子，封中山，名牟。謂瞻子魏之賢人。曰：身在江海之

上，心居乎魏闕司馬云：象魏觀闕，人君門也，天子兩觀也。之下，奈何？瞻子曰：重直用切。下同。生，重生則利輕。中山公子牟曰：雖知之，未能自勝音升。下同。也。瞻子曰：不能自勝則從，句絕。神無惡也，見張君房本，舊作乎。不能自勝而強不從者，此之謂重傷，重傷之人，無壽類矣。魏牟，萬乘繩證切。之公子也，其隱巖穴也，難爲於布衣之士，雖未至乎道，可謂有其意矣。

公子牟雖嘗省道味之淡，不能勝樂餌之美，順所好則養生，闕神靈則癡虐，既失養形之樂，復增闕神之憂，非重傷而何？魏牟慕嘉遁之名，虧隱居之實，其意易發，其操難持，然比之顛冥富貴者，固有間矣。

## 樂 道

孔子窮於陳蔡之間，七日不火食，藜羹不糝，素感切。顏色甚憊，皮拜切。而弦歌於室，顏回擇菜。子路、子貢相與言曰：夫子再逐於魯，《史記》云：孔子貧且賤，及長，嘗爲季氏吏，料量平，嘗爲司職吏，而畜蕃息。由是爲司空，已而去魯，斥乎齊，逐乎宋衛，困於陳蔡之間，於是反魯，魯復善待。定公以孔子爲中都宰，一年，四方皆則之，由中都爲司空，由司空爲大司寇，由大司寇爲攝相事。齊人聞而懼曰：孔子爲政必霸。於是選女樂遺魯君，魯君受之怠於政事，孔子遂行適衛，此再逐於魯也。削迹於衛，削，絕也。《史記》云：靈公老，怠於政事，不思孔子。孔子喟然嘆曰：苟有用我者，朞月而已，三年有成。終不見用。伐樹於宋，《史記》云：孔子之宋，與弟子習禮大木下。宋司馬桓魋欲殺孔子，孔子去後，桓魋惡其坐處，因伐其木焉。窮於商周《史記》云：商是殷地，周是東周，孔子歷聘，嘗困於此。圍於陳蔡，《史記》云：楚昭王使人聘孔子，孔子將往，陳蔡大夫謀，於是乃相與發徒役圍孔子於野，不得行，從者病，莫能興。殺夫子者無罪，藉秦昔切。毀也。又陵藉也。夫子者無禁，弦歌鼓琴，未嘗絕音，君子之無耻也若此乎？顏回無以應，入告孔子。孔子推琴喟去愧切。然而歎曰：由與賜，細人也，召而來，吾語魚據切。之。子路、子貢入，子路曰：如此者可謂窮矣。孔子曰：是何言也，君子通於道之謂通，窮於道之謂窮，今丘抱仁義之道，以遭亂世之患，其何窮之爲！故內省而不窮於道，臨難乃旦切。而不失其德，天寒既至，霜雪既降，吾是以知松柏之茂也，桓公得之莒，文公得之曹，越王得之會稽，此十六字見江南古藏本及《呂覽》，舊闕。陳蔡之

隘，音厄，又於懈切。於丘其幸乎！孔子削然如字。援琴聲也。反琴而弦歌，子路挖然許訖切。李云：奮舞貌。執干干，楯也。而舞。子貢曰：吾不知天之高也，地之下也，古之得道者，窮亦樂，音洛下同。通亦樂，所樂非窮通也，道德於此，則窮通爲寒暑風雨之序矣。故許由虞《廣雅》云：虞，安也。一本作娛。娛，樂也。於潁陽，而共音恭。下同。伯得志乎丘首。司馬云：共伯名和，修其行，好賢人，諸侯皆以爲賢。周厲王之難，天子曠絕，諸侯皆請以爲天子，共伯不聽，即干王位。十四年，大旱屋焚，卜於太陽，兆曰厲王爲祟，召公乃立宣王，共伯復歸於宗，逍遙得意共山之首。共丘山，今在河內共縣西。江南古藏本作共伯得志乎丘首，一云共山之首或云丘首。

可謂窮矣，是觀其迹，以窮通在時，未知道本也。松柏遇霜雪而益茂，聖人遭患難而不移，以桓公文公越王之事證陳蔡之阨，實由文顯、道以事彰也。天高地下，喻仲尼之道大，道德猶金石，一調而不可更，窮通猶琴瑟，曲終必改調，是知窮通在人，猶風雨寒暑，天理之常也。許由謝堯而枯槁於潁陽，共伯辭位而得志乎丘首，仲尼不懼陳蔡之阨，柴立乎二間之間也。

## 羞 辱

舜以天下讓其友北人無擇，北人無擇曰：異哉后之爲人也，居於畎古犬切。畎壘上曰畎，壘中曰畎。之中，而遊堯之門，不若是而已，又欲以其辱行下孟切。下章同。漫武諫、武畔切。云：汙也。我，吾羞見之。因自投歸投也。清泠音零。之淵。在南陽郡西嶧山下。

潔身之士，以榮爲辱，若北人無擇者，上可與仲武爲儔，下可與子陵爲友，不以物挫志者也。

## 廉 清

湯將伐桀，因就也。卞隨成云：卞隨懷道而隱者也。而謀。卞隨曰：非吾事也。湯曰：孰可？曰：吾不知也。湯又因務光已解《大宗師篇》。而謀，務光曰：非吾

事也。湯曰：孰可？曰：吾不知也。湯曰：伊尹《史記》云：伊尹名阿衡，欲干湯而無由，乃爲有莘氏媵臣，負鼎俎以滋味說湯，致於王道。或曰：伊尹處士，湯使人聘迎之，五反然後肯往，從湯言素王及九主之事，湯舉任以國政。何如？曰：強力忍垢，吾不知其他也。湯遂與伊尹謀伐桀，尅之，以讓卞隨。卞隨辭曰：后之伐桀也謀乎我，必以我爲賊，謂陰料時事也。也，勝桀而讓我，必以我爲貪也，吾生乎亂世，而無道之人再來漫我以其辱行，吾不忍數音朔聞也。乃自投稠水直留切。或作桐水，又作稠，司馬本作洞。云：洞在潁川，一云：在范陽郡界。而死。湯又讓務光曰：知者謀之，武者遂之，仁者居之，古之道也，吾子胡不立乎？務光辭曰：廢上非義也，殺民非仁也，人犯其難，乃但切。我享受也。其利，非廉也。吾聞之曰：非其義者，不受其祿，無道之世，不踐其土，況尊我乎！吾不忍久見也。乃負石而自沈於廬水。音聞。司馬作廬水，在遼東西界。一云在北平郡界。

若卞隨務光者，不臣亂世，逃之而已，何遽至於自沈，蓋有激於後世也。

## 避世

昔周之興，有士二人，處於孤竹，司馬云：孤竹國在遼西令支縣界。伯夷、叔齊其國君之二子也。姓名已解《大宗師篇》。曰伯夷、叔齊，二人相謂曰：吾聞西方有人似有道者，試往觀焉。至於岐陽，岐山之陽，文王所都之地，今之扶風。武王聞之，使叔旦周公名旦，是武王弟，故曰叔。往見之，與之盟曰：加富二等，就官一列，一本作級。血牲以牲血釁其盟誓之書埋之壇下。而埋之。二人相視而笑曰：嘻，許其切。異哉！此非吾所謂道也。昔者神農之有天下也，時祀盡敬，而不祈喜，福也。其於人也，忠信盡治，直吏切。下治世同。而無求焉，樂與政爲政，樂與治爲治，不以人之壞自成也，不以人之卑自高也，不以遭時自利也。今周見殷之亂而遽爲政，上謀而下行貨，阻兵而保威，割牲而盟以爲信，揚行下孟切。下吾行、戾行同。以悅衆，殺伐以要一遙切。利，是推亂以易暴也。吾聞古之士遭治世不避其任，遇亂世不爲苟存，今天下聞，殷見江南古藏本，舊作周。德衰，其並乎周以塗吾身恐富貴塗汙吾身耳。成云：若與周並存，恐汙吾行也。或曰：《讓王》之篇其章多重生，而務光二三子自投於水何

也？答曰：莊書之興，存乎反本，反本之由，先於去榮，是以明讓王之一高標，傲世之逸志，旨在不降以厲俗，无厚身以全生，所以時有重生之辭者，亦歸棄榮之意耳，深於塵務之爲弊也。其次者，雖復被褐啜粥保身而已，其全道尚高超俗自逸，寧投身於清冷，終不屈於世累也。此舊集音有，聊復錄之，於義无當也。也，不如避之以潔吾行。二子北至於首陽之山，遂餓而死。若伯夷叔齊者，其於富貴也，苟可得已則不必賴，高節戾行，獨樂其志，不事於世。此二士之節也。

淳朴之世，祀神不祈福，事君不貪祿，與政爲政，與治爲治，從人欲也。江海爲百谷王，以其善下之，今乃自成自高自利，聖人所不與也。修文王之業，夷齊辭孤竹而就有道，豈苟爵祿者哉！采薇西山，養志幽林，其稟性高潔也歟！

## 雜篇·盜跖 十六

### 率 性

孔子與柳下季爲友，柳下惠姓展名獲，字季禽。一云字子禽，居柳下而施德惠。一云惠謚也。一云柳下邑名。按《左傳》云：展禽是魯僖公時人，至孔子生八十餘年，若至子路之死百五六十歲，不得爲友，是寓言也。柳下季之弟名曰盜跖，之石切。李奇注《漢書》云：跖，秦之大盜也。黃法師云：季弟名雍，爲大盜，秦人謂盜爲跖，故時呼曰盜跖。盜跖從才用切。卒尊忽切。下同。九千人，橫行天下，侵暴諸侯，穴室樞戶，苦溝切。司馬本作樞，尺朱切。云：破人戶樞而取物也。驅人牛馬，取人婦女，貪得忘親，不顧父母兄弟，不祭先祖，所過之邑，大國守城，小國入堡，一本作保。鄭注《禮記》：云：小城曰保。萬民苦之。孔子謂柳下季曰：夫爲人父者，必能詔詔，告也，或云：訓也。其子，爲人兄者，必能教其弟，若父不能詔其子，兄不能教其弟，則無貴父子兄弟之親矣。今先生，世之才士也，弟爲盜跖，爲天下害而弗能教也，丘竊爲於僞切。下請爲、爲我、竊爲、使爲、以爲皆同。先生羞，丘請爲先生往說指銳切。之。柳下季曰：先生言爲人父者必能詔其子，爲人兄者必能教其弟，若子不聽父之詔，弟不受兄之教，雖今先生之辯，將奈之何哉？且跖之爲人也，心如涌泉，意如飄婢遙切。風，強足以拒敵，辯足以飾非，順其心則喜，逆其心則怒，易以鼓切。辱人以言，先生必無往。孔子不聽，顏回爲馭，子貢爲右，往見盜跖，盜跖乃方休卒徒於太山之陽，於見江南古藏本，舊闕。膾古外切。《說文》細切肉也。人肝而鋪蒲故切。食也。屈原曰：鋪其糟。之。孔子下車而前，見謁者曰：魯人孔丘，聞將軍高義，敬再拜謁者。謁者入通，盜跖聞之大怒，目如明星，髮上指冠，曰：此夫魯國之巧僞人孔

丘非邪？爲我告之：爾作言造語，妄稱文武，冠古亂切。枝木之冠，冠多華飾，如木之枝繁。帶死牛之脇，許劫切。司馬云：取牛皮爲大革帶。多辭繆說，不耕而食，不織而衣，搖唇鼓舌，擅生是非，以迷天下之主，使天下學士，不反其本，妄作孝弟，而傲倖古堯切。傲倖，冀望也。於封侯富貴者也。子之罪極重，疾走歸，不然，我將以子肝益晝舖之膳。孔子復通曰：丘得幸於季，願望履幕下。司馬云：幕作綦，云言視不敢望跣面，望履蹟而還也。綦，履蹟也。謁者復通，盜跣曰：使前來。孔子趨而進，避席反走，小却行也。再拜盜跣。盜跣大怒，兩展其足，案劍瞋赤真、亦夷二切。《廣雅》云：張也。目，聲如乳儒遇切。育也。虎，曰：丘來前，若所言順吾意則生，逆吾心則死。孔子曰：丘聞之，凡天下人有三德，人見張君房本，舊闕。生而長大美好無雙，少長詩召切。下丁丈切。貴賤見而皆悅之，此上德也；知維天地，能辯諸物，此中德也；勇悍戶旦切。果敢，聚衆率兵，此下德也。凡人有此一德者，足以南面稱孤矣，今將軍兼此三者，身長八尺二寸，面目有光，唇如激古歷切。明也。丹，齒如齊貝，珠也。一作含貝。音中丁仲切。黃鍾，而名曰盜跣，丘竊爲將軍耻不取焉。將軍有意聽臣，臣請南使所吏切。下三字同。吳越，北使齊魯，東使宋衛，西使晉楚，使爲將軍造大城數百里，立數十萬戶之邑，尊將軍爲諸侯，與天下更始，罷兵休卒，收養昆弟，共音恭。祭先祖，此聖人才士之行，下孟切下同。而天下之願也。盜跣大怒曰：丘來前！夫可規以利可諫以言者，皆愚陋恒民一作順民後亦爾。之謂耳。今長大美好，人見而悅之，此吾父母之遺德也，丘雖不吾譽，吾獨不自知邪？且吾聞之，好呼報切。下同。面譽人者，亦好背音佩。下同。而毀之，今丘告我以大城衆民，是欲規我以利而恒民畜我，安可長久也。城之大者，莫大乎天下矣，堯舜有天下，子孫無置錐之地，湯武立爲天子，而後世絕滅，非以其利大故邪？且吾聞之，古者禽獸多而人民少，於是民皆巢居以避之，晝拾橡音象。栗，暮栖木上，故命之曰有巢氏之民。古者民不知衣服，夏多積薪，冬則煬羊亮切。炙燥也。之，故命之曰知生之民。神農之世，卧則居居，起則于于，成云：居居，安靜之容。于于，自得之貌。民知其母，不知其父，與麋鹿共處，耕而食，織而衣，無有相害之心，此至德之隆也。然而黃帝不能致德，與蚩尤黃帝之時，蚩尤爲暴，戰於涿鹿之野，遂擒蚩尤，身體殺異處，故別葬之。戰於涿鹿音卓。司馬云：地名，故城今在上谷郡西南八十里。之野，流血百里。堯舜作，立羣臣。湯放其主，武王弑音試。下同。紂，自是之後，以強陵弱，以衆暴寡，湯武以來，皆亂

人之徒也。今子修文武之道，掌天下之辯，以教後世，縫衣扶恭切。成云：縫掖之衣也。淺帶，成云：淺，狹帶也。矯紀表切。言僞行，以迷惑天下之主，而欲求富貴焉，盜莫大於子，天下何不謂子爲盜丘，而乃謂我爲盜跖！子以甘辭說子路使去起呂切。其危冠，李云：危，高也。《史記》云：仲由字子路，卞人也。性鄙好勇力，志伉直，冠雄雞冠，佩玃豚，陵暴孔子。孔子設禮稍誘，子路後儒服委質請爲弟子。子路爲衛大夫孔悝之邑宰，蕢賁乃與孔悝作亂，謀入立，是爲莊公。子路在外，聞之，馳往入造蕢賁，蕢賁與孔悝登臺，子路欲燔臺，蕢賁懼，乃下。石乞壘攻子路，擊斷子路之纓，子路曰：君子死而冠不免。遂結纓而死。一云：身遭菹醢。解其長劍，而受教於子，天下皆曰：孔丘能止暴禁非；其卒子恤切。也，子路欲殺衛君而事不成，身菹莊居切。菹，醢也。於衛東門之上，是子教之不至也。子自謂才士聖人邪？而再逐於魯，削迹於衛，並解《禪王篇》。（校者案：《禪王篇》當即《讓王篇》，下同。）窮於齊，《史記》云：孔子適齊，爲高昭子家臣，欲以通乎景公，與齊太師語樂，聞韶音，學之，三月不知肉味，齊人稱之。後景公恭見孔子，待以季孟之間。魯有三卿，季氏爲正卿，最貴，孟氏爲下卿，不用事，言待之以二者之間也。齊大夫欲害孔子，孔子聞之，景公曰：吾老矣，弗能用也。孔子遂行，此謂窮於齊也。圍於陳蔡，已解《禪王篇》。不容身於天下。上無以爲身，下無以爲人，子之道豈足貴哉？世之所高莫若黃帝，黃帝尚不能全德，而戰涿鹿之野，流血百里。堯不慈，不授丹朱天下。舜不孝，或謂避逃瞽叟，或謂不告而娶。禹偏枯，治水而得疾。湯放其主，放桀於鳴條。武王伐紂，誅紂於牧野。文王拘羑里，《史記》：紂醢九侯，西伯昌聞之，竊嘆，崇侯虎知之，以告紂，紂之二十年，囚西伯於羑里。羑里，獄名，在河內湯陰。此六子者，世之所高也，熟論之，皆以利惑其真，而彊其丈切。反其情性，其行甚可羞也。世之所謂賢士，伯夷叔齊，辭孤竹之君，而餓死於首陽之山，骨肉不葬。鮑焦韓嬰云：鮑焦周時隱士也，衣弊膚見，挈畚採蔬，遇子貢於道，子貢曰：吾子何以至此也！鮑焦曰：天下之遺德教者衆矣，吾何以不至於此也。吾聞之，世不己知而行之不已者，是爽行也；上不己知而干之不止者，是毀廉也；行爽廉毀，然而不舍，惑於利也。子貢曰：吾聞之，非其世者，不生其利，汙其君者，不履其土。今吾子汙其君而履其土，非其世而採其蔬，此誰之有哉？鮑焦曰：於戲！吾聞賢人重進而輕退，廉士易醜而輕死。乃棄其蔬而立，槁死於洛水之上。君子聞之曰：廉夫剛哉，夫山銳則不高，水狹則不深，行特者其德不厚，志與天地疑者其爲人不祥，鮑子可謂不祥矣，其節度淺深適至是而已矣。或云抱木而立枯焉。飾行非世，抱木而死。申徒狄韓嬰云：申徒狄商時人，非其世，將自投於河，崔嘉聞而止之曰：吾聞聖人仁士之於天地之間，民之父母也，今爲濡足之故，不救溺人可乎？申徒狄曰：不然，昔者桀殺關龍逢、紂殺王子比干而亡



天下，吳殺子胥，陳殺泄治而滅其國，故亡國殘家家非无聖智也，不用故也。遂負石沈於河。君子聞之曰：廉乎！如仁與智，吾未見也。諫而不聽，負石投河，爲魚鼈所食。介子推《史記》云：介子推晉人也，文公反國以賞從士，未至隱者介子推，推亦不言祿，祿亦不及推。推曰：獻公子九人，唯君在耳，惠懷无親，外内棄之，天未絕晉，必將有主，主晉祀者，非君而誰，天實開之，二三子以爲己力，不亦誣乎？竊人之財，猶曰是盜，況貪天之功以爲己力乎！下冒其罪，上賞其姦，上下相蒙，難與處矣。其母曰：盍亦求之，以死誰慙。推曰：尤而效之，罪有甚焉。且出怨言，不食其祿。母曰：亦使知之若何？對曰：言，身之文也，身欲隱，安用文之，文之是求顯也。其母曰：能如此乎，與汝偕隱。至死不復見。介之推從者憐之，乃懸書宮門曰：龍欲上天，五虵爲輔，龍已升雲，四虵各入其宇，一虵獨怨，終不見處所。文公出，見書曰：此介之推也，吾方憂王室，未圖其功。使人召之，則亡，遂求所在，聞其入綿上山中，於是文公環綿上山中而封之，以爲介推田，號曰介山，以記吾過，且旌善人。一云：文公待之不肯出，求之不能得，以爲焚其山宜出，及焚其山，遂不出而燔死。至忠也，自割其股以食音嗣。文公，文公後背之，子推怒而去，抱木而燔音煩。燒也。死。尾生魯人也，或作微生。與女子期於梁下，女子不來，水至不去，抱梁柱而死。此六子者無異於磔犬竹客切。張其尸曰磔。《史記·封禪書》云：秦德公初作伏祠社，磔狗邑四門以禦蟲菑。流豕，屠者烹豕曰流。操七曹切。瓢婢遙切。而乞者，言上六人不得其死，猶猪狗乞兒流轉溝中者也。乞或作走。皆利見張君房本，舊作離。名輕死，不念本養壽命者也。世之所謂忠臣者，莫若王子比干、伍子胥，子胥沈江，《吳越春秋》云：子胥諫吳王，不聽，據地垂涕曰：於乎！哀哉！遭此嘿嘿，忠臣掩口，譖夫在側，政教道壞，諂諛无極，邪說僞辭，以曲爲直，舍譖攻忠，將滅吳國，宗廟既夷，社稷不食，城郭丘墟，殿生荆棘。吳王大怒，賜屬鏹之劍令自裁，子胥遂伏劍而死。吳王乃取子胥屍，盛以鴟夷之器，投之於江中。比干剖心，《史記》云：紂淫亂不止，微子數諫不聽，乃與太師少師謀，遂去。比干曰：爲人臣者不得不以死爭，則百姓何辜。乃直言諫紂，紂怒曰：吾聞聖人之心有七竅，信有諸乎？乃遂殺王子比干，剖視其心。此二子者，世所謂忠臣也，然卒爲天下笑。自上觀之，至於子胥、比干，皆不足貴也。丘之所以說我者，若告我以鬼事，則我不能知，若告我以人事者，不過古臥切。超也。此矣，皆吾所聞知也。今吾告子以人之情，目欲視色，耳欲聽聲，口欲察味，志氣欲盈，人上壽百歲，中壽八十，下壽六十，除病瘦色又切。死喪憂患，其中開口而笑者，一月之中不過四五日而已矣。天與地無窮，人死者有時，操有時之具，託於無窮之間，忽然無異騏驎音其冀。之馳過隙去逆切。也，不能悅其志意、養其壽命者，皆非通道者也。丘之所言，皆吾所棄也，亟紀力切。忽也。或作極。

去走歸，無復扶又切。言之。子之道狂狂不定貌。汲汲，音急。不足貌。詐巧虛僞事也，非可以全真也，奚足論哉！孔子趨走出門，上車執轡三失，目芒莫剛切。然無見，色若死灰，據軾音式。車前橫木，憑而坐者。低頭，不能出氣，歸到魯東門外，適遇柳下季。柳下季曰：今者闕然數日不見，車馬有行色，得微微，无也。往見跖邪？孔子仰天而歎曰：然。柳下季曰：跖得無逆汝意若前乎？孔子曰：丘所謂無病而自灸久又切。也，疾走料音聊。觸也。虎頭，編音鞭。虎須，幾音祈。近也。不免虎口哉！

世俗之人，輕生就死，何異犬豕流磔，怨憤投竄，有如操瓢轉移，皆利身後之名，而喪素養之命。夫徇外者，疾沒世而名不稱，甘亡身而不反；適內者，趨當生之樂以爲達，亦順往而不飾也。且天地之長景，日月之明輝，無窮無極也，今以倏生之齡、呿然之息，託於其間，復不能縱心娛樂，而乃焦苦其形神，以圖身後之名，失淳古之道，故雖跖之凶頑，其所謂之躋，仲尼亦不能奪也。

## 行 義

子張《史記》云：姓顓孫，名師，字子張，孔子弟子，行義篤信。問於滿苟得寓言也。喻苟且所以致滿盈之人。曰：盍胡臘切。何不也。不爲行，下孟切。下同，勸何不爲德行。無行則不信，不信則不任，不任則不利，故觀之名，計之利，而義真是也。若棄名利，反之於心，則夫士之爲行，不可一日不爲乎？滿苟得曰：無耻者富，多信伸信同音。《說文》：屈伸也。經典信通作伸，下同，以義求之。者顯，夫名利之大者，幾在無耻而信，故觀之名、計之利，而信真是也。若棄名利，反之於心，則夫士之爲行，抱其天乎？子張曰：昔者桀紂貴爲天子、富有天下，今謂臧聚司馬云：謂臧獲盜濫竊聚之人。曰：汝行如桀紂，則作色，見張君房本，舊作則有作色。有不服之心者，小人所賤也。仲尼、墨翟，窮爲匹夫，今爲宰相息亮切。下相而同。曰：子行如仲尼、墨翟，則變容易色，稱不足者，士誠貴也。故勢爲天子，未必貴也，窮爲匹夫，未必賤也，貴賤之分，在行之美惡。滿苟得曰：小盜者拘，大盜者爲諸侯，諸侯之門，義士存焉。昔者桓公小白，殺兄入嫂，先早切。成云：桓公名小白，

殺兄子糾，納嫂爲家，管仲賢人而臣輔之。而管仲爲臣。或作相。田成子常弑君申志切。成云：初，孔子聞田成子弑簡公，沐浴而朝，告於哀公曰：陳恒弑其君，請討之。此賤而下之也。後受田成子聘，兼納其幣，此言行之相違也。竊國，而孔子受幣，論力頓切。則賤之，行則下之，則是言行之情悖布內切。戰於胸中，不亦拂扶弗切。違也。乎？故書曰：孰惡孰美，成者爲首，不成者爲尾。子張曰：子不爲行，即疏戚無倫，貴賤無義，長丁丈切。下長子同。幼無序，五紀司馬云：歲日月星辰，曆數。文云：天爲地紀，日爲星紀，君爲臣紀，父爲子紀，夫爲妻紀。成云：金木水火土。又仁義禮智信，又祖父己身子孫。六位，君臣父子夫婦。文云《易》之六位也。將何以爲別彼列切。下同。乎？滿苟得曰：堯殺長子，崔云：堯殺長子考監明。成云：不與丹朱位，言義殺也。《呂覽》云：堯有十子，舜有九子。舜流母弟，流，放也。孟子云：舜封象有庠，身爲天子，而弟爲匹夫，可謂親愛之乎？疏戚有倫乎？湯放桀，武王殺紂，貴賤有義乎？王季爲適，周公殺兄，《史記》云：古公有長子太伯，次曰虞仲，太姜生少子季歷，季歷娶太任，皆賢婦人，生昌有聖瑞。古公曰：我世當有興者，其在昌乎？長子太伯、虞仲知古公欲立季歷以傳昌，乃二人亡如荊蠻。古公卒，季歷立，是爲公季，此乃王季爲適也。武王伐紂，封弟周公旦於曲阜，曰魯，弟叔鮮於管，弟叔度於蔡。武王崩，太子誦代立，是爲成王。成王少，周公乃攝行政當國，管叔蔡叔疑周公作亂，周公奉成王命誅管叔放蔡叔，此乃周公殺兄也。長幼有序乎？儒者僞辭，《史記》云：孔子去陳，過蒲，會公叔氏以蒲畔，蒲人止孔子。弟子有公良孺者，以私車五乘從孔子，其爲人長賢有勇力，謂曰：吾昔從夫子遇難於匡，今又遇難於此，命也已。吾與夫子再罹難，寧鬪而死。鬪甚疾，蒲人懼，謂孔子曰：苟毋適衛，吾出子。與之盟，出孔子東門，孔子遂適衛。子貢曰：盟可負邪？孔子曰：要盟也，神不聽。墨者兼愛，五紀六位，將有別乎？且子正爲名，假設之辭也。爲，於僞切。下爲利同。我正爲利，名利之實，不順於理，不監本作鑑。於道。吾昔見張君房本，舊作日，人實切。與子訟於無約如字。徐：於妙切。訟，論說也。曰：小人殉財，君子殉名，其所以變其情、易其性則異矣，乃至於棄其所爲，而殉其所不爲，則一也。故曰：無爲小人，反殉於天，無爲君子，從天之理，若枉若直，相而天極，面觀四方，與時消息，若是若非，執而圓機，獨成而意，與道徘徊，無轉而行，無成而義，將失而所爲，無赴而富，無徇而成，將棄而天。比干剖心，子胥抉眼，《史記》云：子胥諫吳王不聽，賜子胥屬鏤之劍以死。將死曰：抉吾眼置之吳東門，以觀越之滅吳也。忠之禍也。直躬《論語》曰：直躬者，其父攘羊而子證之。證父，尾生已解在前。溺死，信之患也。鮑子已解在前。立乾，申子不自理，《史記》云：晉獻公太子申生，爲驪姬陰令人譖惡置毒藥於胙中，泣曰：太子何忍也其父，而欲弑代之，

況他人乎？且君老矣，旦暮之人，曾不能待，而欲弑之。太子聞之，奔新城。獻公怒，乃誅其傅杜原款。或謂太子曰：爲此藥者乃驪姬也，太子何不自辭明之。太子曰：吾君老矣，非驪姬寢不安，食不甘，即辭之，君且怒之不可。或謂太子曰：可奔他國。太子曰：被此惡名以出，人誰內我，我自殺耳。申生自殺於新城。廉之害也。孔子不見母，匡子不見父，文云：仲尼歷聘，不見母亡。匡章齊人，諫其父爲父所逐，終身不見父。義之失也。此上世之所傳，文專切。下世之所語，以爲士者正其言、必其行，故服其殃、離其患也。

士之處世，先敦信行，任使次之，任使已明，利祿次之，利祿已明，故名顯而善著。若乃棄名利而反省，則斯須不可舍其行義也。信音伸，下同。言俗士處世，忍垢自伸，且取利名之豐厚，要在惡衣惡食，強聒而不舍也。若乃棄名利而反省，弗由修飾，但抱守天命以俟之。桀紂有位而無行，小人耻與並；孔墨無位而有行，卿相服膺焉，計德不計位也。儒者滑稽而不可法，墨者自矯備世之急，何以別君臣父子夫婦之道哉！今之爲士者，不溺於名，必沒於利，二者皆背理，未能脫去其縛，吾昔與子以下皆無約語，所爲者任己，所不爲者契物，莫爲利，反其自然而已，莫爲名，順其天理而已，但助汝天然涯分，則曲直棄置不復論也。觸目無滯，出處有守，執汝議論，不爲是非所折，故曰圓機，意不緣物則獨成，而與道徘徊矣。行易則逐境，義成則喪真，而失其所爲，子張以此爲行義也，趨富者速禍，求成者多敗，而棄絕天命矣，苟得則以無耻爲多伸也。

## 安 處

無足一本作无知。問於知和曰：人卒未有不興名就利者，彼富則人歸之，歸則下之，下則貴之，夫見下貴者，所以長生安體樂音洛。下同。意之道也。今子獨無意焉，知不足邪？意知而力不能行邪？故推正不忘邪。忘或作妄，言君臣但推尋正道不忘，故不用富貴邪？爲智力不足，故不用邪？知和曰：今夫此人以爲與己同時而生、同鄉而處者，以爲夫絕俗過世之士焉，言人心易動，但人與賢人俱生，便自謂過於世人，況親自爲富貴者乎？是專無主正，所以覽古今之時、是非之分也。與俗化世，去至重，棄至尊，以爲其所爲也。此其所以論長生安體樂意之道，不亦遠乎？慘七感

切。怛丹曷切。之疾，恬愉之安，不監於體，怵惕之恐，丘勇切。欣懼之喜，不監於心，知爲爲而不知所以爲，是以貴爲天子，富有天下而不免於患也。無足曰：夫富之於人，無所不利，窮美窮，猶盡也。究勢，究，竟也。至人之所不得逮，聖人之所不能及，俠音協。人之勇力而以爲威強，秉人之智謀以爲明察，因人之德以爲賢良，非享國而嚴若君父。且夫聲色滋味權勢之於人，心不待學而樂之，體不待象而安之，夫欲惡烏路切。避就，固不待師，此人之性也，天下雖非我，孰能辭之。知和曰：知者之爲故，動以百姓，不違其度，是以足而不爭，無以爲，故不求；不足，故求之，爭四處黃疏云：湯武也。按《商書》云：葛伯不祀，湯始伐之。其後東征西夷怨，南征北狄怨，皆曰：侯我后，后來其蘇。此豈非爭四處邪？而不自以爲貪。有餘，故辭之，棄天下而不自以爲廉，廉貪之實，非以迫外也。反監之度，勢爲天子，而不以貴驕人，富有天下，而不以財戲人。計其患，慮其反，以爲害於性，故辭而不受，非以要一遙切。名譽也。堯舜爲帝而雍，非仁天下也，不以美害生。善卷、許由得帝而不受，非虛辭讓也，不以事害己。此皆就其利辭其害，而天下稱賢焉，則可以有之，彼非以興名譽也。無足曰：必持其名，苦體絕甘，約養以持生，則亦猶見江南古藏本，舊缺。久病長阨音厄。而不死者也。知和曰：平爲福，有餘爲害者，物莫不然，而財其甚者也，今富人耳營鐘鼓管籥音樂。一本管籥作壎篪。之聲，口噤苦簞切。芻豢醪力刀切。醴之味，以感其意，遺忘其業，可謂亂矣。佻音礙。飲食至咽爲佻。溺於馮氣，音憤，滿也。下同。言慎畜不通之氣也。若負重而行上坂見張君房本，舊闕。也，可謂苦矣。貪財而取慰，亦作畏，張君房本。貪權而取竭，靜居則溺，體澤則馮，可謂疾矣。爲欲富就利，故滿若堵耳而不知避，且馮而不舍，音捨。下同。可謂辱矣。財積而無用，服膺而不舍，滿心戚醺，在遙切。李云：顛顛也。求益而不止，可謂憂矣。內則疑刦許業切。請之賊，外則畏寇盜之害，內周樓疏，李云：重樓內市，踰軒外通，設備守具也。外不敢獨行，可謂畏矣。此六者，天下之至害也，皆遺忘而不知察，及其患至，求盡性竭財，單音丹，或作蘄。以反一日之無故，而不可得也。故觀之名則不見，求之利則不得，繚音了。纏繞貌。意絕體而爭此，不亦惑乎？

此章重解前二章世之興名者欲貴，就利者欲富，二者安逸之道，誰無其意乎！或識暗不知，或知而力怠，推正理而不忘，謂委命而弗取，其於富貴也何有！世俗以與富貴者同時同鄉猶誇以爲勝，而內有主者不爲物遷，達古

今者不爲事動也。物莫重乎身，身莫重乎生，今乃同俗化世，去重棄尊，以爲其所爲，而論安體樂意之道，何緣近之，處貧賤則怵惕，居富貴則忻愉，是昧本而矜迹也，爲爲者爲興名就利之爲，而不知富貴之自爲也，舍其自爲而欲興就者，知其不免矣。夫壘空之蟻，唯聚膻臭，蒙袂之士，耻近嗟來，魚相忘於江湖，人相忘於道術，又何藉乎因挾哉？縱肆者遇聲色則心樂，驕侈者處權勢則體安，此人之性也，孰不願之。動以百姓，非爲己也，不違其度，少私寡欲，爭四處者，謂征伐四方，志在安民，非利寶貨，故不爲貪，及其功成名遂，禪位有道，亦不自以爲廉也。王子搜逃乎丹穴，顏闔飯牛辭聘，此豈要名譽哉！舜以天下讓善卷，善卷耕而不顧，此豈興名譽哉！貪饕之人，以恬淡爲病，寂寞爲阨，而不知平易爲福、有餘爲害，唯財速禍，慘於他物，而世俗弗悟也。以恬淡寂寞之士，觀鐘鼓醪醴則喪亂道業，觀膏粱充溢則動多艱苦，觀權勢取慰者溺爲身疾，觀攫金不顧者甚於戮辱，而委積無厭，憂畏不釋，一旦禍至身傾，唯求所積之早盡耳。當此之時，真性已竭，貨財已單，思放鷹犬於蔡上、聞鶴唳於華亭，詎可復得耶！

## 雜篇·在宥 十七

### 處无爲之事

聞在《說文》曰：存也。宥音又。寬也。天下，不聞治天下也，在之也者，恐天下之淫其性失性曰淫。又耽滯曰淫。也，宥之也者，恐天下之遷其德失德曰遷。也。天下不淫其性、不遷其德，有治天下者哉！昔堯之治天下也，使天下欣欣焉人樂音洛。其性，是不恬徒謙切。靜也。也，桀之治天下也，使天下瘁瘁在季切。病也，憂也。焉人苦其性，是不愉音喻。樂也。也，夫不恬不愉，非德也，非德也而可長久者，天下無之。人大喜邪毗司馬云：助也，并也。於陽，大怒邪毗於陰，陰陽并毗，四時不至，寒暑之和不成，其反傷人之形乎？使人喜怒失位，居處無常，思慮不自得，中道不成章，於是乎天下始喬欽消切。郭音矯。詰公吉切。崔云：喬詰，意不平也。卓敕角切。鷙，敕二切。崔云：卓鷙，行不平也。而後有盜跖曾史之行，下孟切。舉天下以賞其善者不足，舉天下以罰其惡者不給，相足也。故天下之大，不足以賞罰，自三代以下者匈匈音凶，喧譁競逐之貌。焉終以賞罰爲事，彼何暇安其性命之情哉！

上古之君，存天下者，寬之而已，非有心以治之也，故天下不淫其性、不遷其德，斯無爲而自治也。昔堯亡自存之道而施仁愛，使民失常性，以至親之譽之；桀無寬物之恩而務苛急，使民失常德，以至畏之侮之；性淫德遷而不亡者，未之有也。人之喜怒通乎陰陽，陰陽不和，反傷人形矣。喬詰高奇之論，喻曾史之流，卓鷙獨行勇猛，比盜跖之徒也。賞善不足，言詐善衆，罰惡不給，言實惡多。故喧譁競逐以勢利爲務，何暇事恬愉壽考邪！

而且悅明邪，是淫於色也；悅聰邪，是淫於聲也；悅仁邪，是亂於德也；悅義邪，是悖必內切。逆也。於理也；悅禮邪，是相息亮切。助也，下同。於技其綺切。能也。也；悅樂邪，是相於淫也；悅聖式正切。《說文》曰：通也。成云：聖謂聖迹也。邪，是相於藝倪祭切。技能也。也；悅知邪，是相於疵疾斯切。也。天下將安其性命之情，之八者，存可也，亡可也；天下將不安其性命之情，之八者，乃始鬻力轉切。卷卷勉切。司馬云：鬻卷，不申舒狀。僮音倉。崔本作戕。囊本作倉囊，難承受也。崔云：戕囊，猶搶攘，亂也。文云：僮囊，忽遽貌。而亂天下也，而天下乃始尊之惜之，甚矣天下之惑也，豈直過也而去之邪！乃齋戒以言之，跪其詭切。坐以進之，鼓歌以儻之，吾若是何哉？故君子不得已而臨莅音利。臨也。天下，莫若無爲，無爲也而後安其性命之情，故貴以身於爲天下，則可以託天下，愛以身於爲天下，則可以寄天下。此兩句與今所傳《道德經》稍異，然與王弼本同。疑開元校勘經時，依別本改易之也。今從漆園本爲定。故君子苟能無解其五藏，無擢其聰明，尸居而龍見，尸，神象也。不言而肅，龍見取其變化而升。淵默如止水。而雷聲，聞天下。神動而天隨，從容七容切。自在貌。無爲而萬物炊昌睡切。累劣僞切。郭云：如塵動亂之自動也。焉，吾又何暇治天下哉！

收視聽於內，則聲色莫能惑，藏仁義於己，則道德何由失，約禮樂於身，則邪僞莫能干，絕聖知之迹，則疵病莫能襲，斯八者，古人卷之以治身，末世張之以喪本，鬻卷難其卷，僮囊亂其囊，謂陳迹難其卷懷，必至於亂天下，天下不貴重簡易，而反尊惜繁難，其惑甚矣。故臨莅天下，莫若無爲，無爲而性命之情不安者，未之有也。貴身愛身於天下者，是貴愛天下，非貴愛其身也，若是則得喪不在己，憂樂不爲身，故可以寄託天下也。尸者不言而整肅，龍者變化而彰明，道性真常，如淵之靜默，號令應時，如雷之發聲，神運於內，象見於外，寬裕自守，羣物動昇，雖云不治天下，而治法存焉。

## 聖人虚心

崔瞿求朱切。古之賢人。問於老聃吐藍切。曰：不治天下，安臧人心。老聃曰：



汝慎无撓人心，於營切。《呂覽》云：始生之者天也，養成之者人也。能養天之所生而勿撓之謂天子，天子之動也以全天爲故者也。高誘注云：撓猶戾也，故，事也。人心排皮皆切。下而進上，上下囚殺，淖昌略切。約柔乎剛強，廉劇居衛切。傷也，利也。彫琢，丁角切。其熱焦火，其寒凝冰，其疾俛仰之間，而再撫四海之外，其居也淵而靜，其動也縣而天，高遠貌。僨粉問切。僵也。驕僨驕，馬之奔逸不可禁之勢，又謂不顧禮法而犯之，如馬之縱逸也。而不可係者，其唯人心乎？昔者黃帝始以仁義撓人之心，上古巢居穴處，无火化粒食之養，人多疾病之苦，黃帝乃垂衣裳，造房屋、杵臼、耨耨，民始得衣食居止之樂，是由黃帝之聖治法耳，人得其利，因謂之仁。蚩尤亂政，殘賊生民，黃帝征而誅之，亦聖智治法耳，人得其宜，因謂之義，然仁義自然，其來尚矣，而後世不知，徒見其迹，以謂仁義始於黃帝也。堯舜於是股無胈，畔末切。白肉也。脛形定切。無毛，言堯舜行黃帝之迹，心形疲弊，股瘦無白肉，脛禿無細毛。以養天下之形，愁其五藏以爲仁義，矜其血氣以規法度，然猶有不勝也，堯於是放謹音歡。兜丁侯切。謹兜者帝鴻氏之子，即混沌也。於崇山，南裔也，堯六十年放謹兜於崇山。投三苗三苗者，緡雲氏之子，即饕餮也。於三峽，音危。西裔之山也，今屬天水，堯六十六年竄三苗於三峽。流共工共工者，少昊之子，即窮奇也。於幽都，幽州，北裔也。堯六十四年流共工於幽都。此不勝天下也夫。施以鼓切。延也。及三王而天下大駭驚也。矣，下有桀跖，上有曾史，而儒墨畢起，於是乎喜怒相疑，愚知相欺，善否音鄙，惡也。相非，誕信相譏，而天下衰矣，大德不同，而性命爛漫矣，天下好知，而百姓求竭矣。於是乎斲鋸音斤據。制焉，斲鋸制焉，謂加肉刑也。繩墨殺焉，崔云：謂彈正殺焉。或云：罪名已定者縛以墨繩，未定者縛以赤繩，縛罪人有降殺也。椎直追切。鑿在洛切。決焉，古穴切。謂造枷杻，用錐鑿以決孔竅也。天下脊脊音藉，在亦切。相殘藉也。一本作肴肴，亂也。大亂，罪在撓人心。故賢者伏處大山嵯苦巖切。巖語咸切。之下，而萬乘之君憂慄乎廟堂之上，今世殊死殊，斷也。《漢令》曰蠻夷長有罪當殊之。者相枕之鳩切。也，桁戶剛切。司馬云：長脚械也。楊崔云：械夾頸及脛者皆曰桁楊。者相推也，刑戮者相望也，而儒墨乃始離力智、力氏二切。跂丘氏切。攘如羊切。臂乎桎之實切。桎古毒切。之間，意！甚矣哉！其無愧而不知耻也甚矣。吾未知聖知之不爲桁楊桎鑿音變。摺音習。司馬云：接摺，械楔也。又接摺，桎桎梁也。《鴻烈解》云：大者爲柱梁，小者爲接摺。也，仁義之不爲桎桎鑿在報、在洛二切。桎人銳切。《三蒼》云：柱頭桎也。鑿頭則木如柱頭桎。也，焉於虔切。知曾史之不爲桀跖嚙矢許交切。矢之鳴者。又猛者也。崔本此下更有有无之相生也則甚，曾史與桀跖生有无也，又

惡得无相轂也。凡二十四字。也，故曰絕聖棄知而天下大治。

人心本靜，撓之而亂，排謂毀之，進謂譽之，炎涼其外，冰炭其內，機心一發，即徧空際，成心縱蕩，甚於奔馬也。昔者黃帝始以仁義撓人心，堯舜又勤苦以養天下，爲仁義，規法度，然猶不勝也，是以流放四凶，延及三王，天下驚駭，儒墨並興，相疑相欺，德異而真散，知流而民竭，故聖賢伏處以全其生，在位者憂危而莫救也。法令之嚴，由於撓撓，至刑戮交馳於道術之間者，其縉紳高論之所致乎？始有聖知仁義之利，終成桁楊桎梏之害，故賢者在位，日約其法，昧者在位，日滋其令，治迹澆淳，在人而已，無道之君，亦必假聖賢法度以行其暴虐，豈非曾史爲桀跖嚆矢哉！

## 清靜民正

黃帝已解《齊物篇》。立爲天子十九年，令行天下，聞廣成子古之得道人也。在於空同山名。云：北戴斗極爲空同。一云在梁國虞城東三十里。之山，見張君房本，舊作上。故往見之曰：我聞吾子達於至道，敢問至道之精。吾欲取天地之精以佐五穀，以養民人，吾又欲官陰陽以遂羣生，爲之奈何！廣成子曰：而所欲問者，物之質形質羸淺。也，而所欲官者，物之殘也，自而治天下，雲氣不待族而雨，司馬云：族，聚也，未聚而雨，言澤少也。草木不待黃而落，司馬云：落，死也。言殺氣多也。日月之光，益以荒矣。而佞人之心翦翦司馬云：善辯貌。一曰：佞貌。李云：淺短貌。或云狹小貌。者，又奚足以語至道。黃帝退，捐悅全切。棄也。天下，築特室，席白茅，閒居三月，復往邀古堯切。過也。之。廣成子南首音狩。向明也。而卧，黃帝順下風膝行而進，再拜稽首而問曰：聞吾子達於至道，敢問治身奈何而可以長久。廣成子臆其月切。驚而起也。然而起曰：善哉問乎，來，吾語魚據切。下同。汝至道。至道之精，窈窈烏丁切。冥冥，至道之極，昏昏默默，無視無聽，抱神以靜，形將自正，必靜必清，無勞汝形，無搖汝精，乃可以長生。目無所見，耳無所聞，心無所知，汝神將守形，形乃長生。慎汝內，閉汝外，多知爲敗，我爲於僞切。汝遂於大明之上矣，至彼至陽之原也，爲汝入於窈冥之門矣，至彼至陰之原也，天地有官，陰陽有藏，才浪切。慎守汝身，物將自壯，我守其一，以處其和，故我修

身千二百歲矣，李淳風《天元主物簿》云：千二百歲謂之十大剋。一曰：陰陽之小紀也。四九三十六，三百六十；四八三十二，三百二十；四七二十八，二百八十；四六二十四，二百四十；共一千二百之數。吾形未嘗衰。黃帝再拜稽首曰：廣成子之謂天矣。廣成子曰：來，余語汝，彼其物無窮，而人皆以爲終，彼其物無測，而人皆以爲極，得吾道者上爲皇而下爲王，失吾道者上見光而下爲土。今夫百昌昌盛也。皆生於土而反於土，故余將去汝，入無窮之門，遊無極之野，吾與日月參光，與天地爲常，當我緡武巾切。乎，遠於萬切。我昏暗也。司馬云：緡昏，並無心之謂也。乎，人其盡死，而我獨存乎！

有所欲，有所取，非精妙也，乃粗質爾；有所法，有所治，非全真也，必傷殘矣。自而治天下，陽災陰沴，二景失明，又奚足以語至道哉！黃帝退捐天下，膝行而問修身，廣成始告以窈窈冥冥強名道之精，昏昏默默強名道之極，不以色爲色，不以聲爲聲，故神靜而形正，靜則神不勞，清則精不搖，不妄視故無見，不妄聽故無聞，不妄想故無思，三者皆真，故神住形留也。慎內則虛心，閉外則塞兌，蓋懼夫多知之爲敗，故能超乎陰陽、會乎道域也。三辰煥明，五嶽安鎮，天地有官也；四時資生，萬物結成，陰陽有藏也。自治則物化而日強，純一則冲和之所聚，故修身千二百歲而形未嘗衰，李淳風《天元主物簿》云：千二百謂之大剋，一曰陰陽之小紀也，道本無始豈有終，不知誰子豈有極，上爲皇而下爲王，域中之大也，上見光而下爲土，同一物也，萬物自生自滅，吾亦倏來倏去，太虛之門無窮，造化之野無極，與日月參光，不自顯也，與天地爲常，不自異也，物之當我如絲緒，緡然而不覺，物之遠我如暗冥，昏然而不知，人其盡死，理當隱景，而我獨存，吾有不亡者是也。

## 无爲民化

雲將子匠切。李云：主雲師也。東遊，過扶搖之枝，適遭鴻蒙。元炁也。寓言風雲炁者，取其无心而利物也。鴻蒙方將拊髀音陞。股也。雀躍如雀之跳躍也。而游，雲將見之，倘然尺掌切。司馬云：欲止貌。止，贅然之二切。李云：不動貌。立，曰：叟素口切。

長者之偶。何人邪，叟何爲此。鴻蒙拊髀雀躍不輟，丁劣切。止也。對雲將曰：遊。雲將曰：朕願有問也。鴻蒙仰而視雲將曰：吁。況於切。雲將曰：天氣不和，地氣鬱結，六氣陰陽風雨晦明。又云：風寒暑濕燥火。風木寒水暑火濕土燥金相火謂之六氣。不調，四時不節，今我願合六氣之精，以育羣生，爲之奈何。鴻蒙拊髀雀躍掉徒弔切。頭曰：吾弗知，吾弗知。雲將不得問。又三年，東遊過有宋國名也。之野，而適遭鴻蒙，雲將大喜，行趨而進曰：天忘朕邪，天忘朕邪。再拜稽首願聞於鴻蒙。鴻蒙曰：浮遊不知所求，猖狂不知所往，遊者執掌，於丈切。衆多也。以觀無妄，朕又何知。雲將曰：朕也自以爲猖狂，而民隨予所往，朕也不得已於民，今則民之放方往切。効也。也，願聞一言。鴻蒙曰：亂天之經，逆物之情，玄天弗成，解獸之羣，而鳥皆夜鳴，災及草木，禍及正蟲，噫，音醫。下同。治人之過也。雲將曰：然則吾奈何？鴻蒙曰：噫，毒哉！僂僂音仙。輕舉貌。乎歸矣。雲將曰：吾遇天難，願聞一言。鴻蒙曰：意心養汝，徒處無爲而物自化，墮許規切。毀也。爾形體，吐如字。《說文》寫也。爾聰明，倫與物忘，大同乎滓戶頂切。溟，亡頂切。滓溟，渾然貌。司馬云：自然氣也。解心釋神，莫然無魂，萬物云云，各復其根，各復其根而不知。渾渾戶本切。沌沌，徒本切。終身不離，力離切。若彼知之，乃是離之，無問其名，無闕其情，物故自生。雲將曰：天降朕以德，示朕以默，躬身求之，乃今也得。再拜稽首，起辭而行。

雲將主雨澤之帥，東遊行仁惠之方，扶搖之枝，風先所經。鴻蒙元氣也，遊者元氣運動之謂，上不降則下不昇，五運乖則六氣悖。有宋之野，膏澤之所也，不知所求，則於物無係，不知所往，則縱步無心，物雖衆多，羣分自正，朕又何知哉！雲本無心，而民隨之，即有心也，將不得已而民效之，則有迹也，有意變常則亂，任己役情則逆，既亂且逆，天理難成。故山林無靜景，林藪少和氣，由於法度太明、割制深刻之所致也。心養謂以心惻養，無爲則養心，有爲則心養，心非我有，性原本空，動靜不知，同乎滓溟，光景俱滅，歸於窈冥，渾沌不離，知則離矣。無名無情，何問何闕哉？在默何求，云德不得，起辭而行，即是妙用也。

## 持勝任道

世俗之人，皆喜人之同乎己，而惡烏路切。人之異於己也，同於己而欲之，異於己而不欲者，以出乎衆爲心也。夫以出乎衆爲心者，曷嘗出乎衆哉，因衆以寧所聞因衆人所聞見，委而任之則自寧安。不如衆技，其綺切。衆矣，若役我之知，達衆人之技，多於我矣，安得而不自困哉！而欲爲人之國者，攬音覽。與攬同。乎三王之利，而不見其患者也，此以因人之國見江南古藏本。舊闕。僥古堯切。倖音幸。求利不止貌。又：僥，要也，以皇王之國利要求非分，爲一身之幸會。也，幾何居豈切。僥倖而不喪息浪切。同下。人之國乎？其存人之國也，無萬分之一，而喪人之國也，一不成而萬有餘喪矣，悲夫，有土者之不知也。夫有土者有大物也，有大物者不可以物物，而不物故能物物，明乎物物者之非物也，豈獨治天下百姓而已哉！出入六合，遊乎九州，獨往獨來，是謂獨有，獨有之人，是之謂至貴。

## 持後處先

大人之教，若形之於影、聲之於響，有問而應之，盡其所懷，爲天下配。處乎無響，行乎無方，挈苦結切。挈，持也。汝適復之撓撓，而小切。聖人以自然携持萬物，適性自動也。以遊無端，出入無旁，與日無始，頌論形軀，合乎大同。大同而無己，無己惡音烏。乎得有有，覩有者昔之君子，覩無者天地之友。

大人者，聖人之總名，大人以自治之道提挈萬類，適性而動，歸乎本源，道無首尾，日新無故，頌美大人之容儀而與道冥也。冥己則藏物，物我都忘，惡得有有，人之君子，未能忘形，若自忘者，始能化物也。

## 道无不爲

賤而不可不任者物也，卑而不可不因者民也，匿女力切。藏也。而不可不爲者事也，羸而不可不陳者法也，遠而不可不居者義也，親而不可不廣者仁也，節而不可不積者禮也，中而不可不高者德也，一而不可不易如字。者道也，神而不可不爲者天也。故聖人觀於天而不助，成於德而不累，出於道而不謀，會於仁而不恃，薄伯各切。迫也。於義而不積，應於禮而不諱，接於事而不辭，齊於法而不亂，恃於民而不輕，因於物而不去。物者莫足爲也，而不可不爲，不明於天者不純於德，不通於道者無自而可，不明於道者，悲夫，何謂道，有天道，有人道，無爲而尊者，天道也，有爲而累者，人道也，主者天道也，臣者人道也，天道之與人道，相去遠矣，不可不察也。

物無棄物，不可謂賤而不任用，人無棄人，不可謂卑而不就使，事有顯晦，不可謂隱匿而不爲，法貴適時，不可謂粗迹而不陳，義有裁斷，不可謂近遠而不處，仁者博愛，不可謂親疏而不廣，禮能治亂，不可謂撙節而不積，德有高下，不可謂中順而不高，道之虛爲，不可謂守一而不易，天理自然，不可謂神妙而不爲，觀於天而不助，至因於物而不去，又覆衍前十條，夫外物弊弊，何足云爲，而有生所須，不可不爲，昧於天理者專禮法，滯陳迹喪己於物者，無自而可也。不言而在言所以爲尊，受役而居下所以屬人，王者法天無爲，臣下事君有職，天道人道，勞佚不同，若不察而倒置，亂自此始矣。

## 雜篇·天地 十八

### 以道均化

天地雖大，其化均也；萬物雖多，其治一也；人卒雖衆，其主君也。君原於德而成於天，故曰：玄古之君，天下無爲也，天德而已矣。以道觀言，而天下之君正，以道觀分，而君臣之義明，以道觀能，而天下之官治，以道汎觀，而萬物之應備，故通於天者道也，順於地者德也，行於萬物者義也，見江南古藏本，舊闕上五字，義作道。上治人者事也，能有所藝者技也，技兼於事，事兼於義，義兼於德，德兼於道，道兼於天。故曰：古之畜天下者，無欲而天下足，無爲而萬物化，淵靜而百姓定。《記》曰：通於一而萬事畢，無心得而鬼神服。

天地無心，所以均化，物物自治，所以齊一，衆各異業，唯君無爲，原於不德，成於自然也。天德者自治而有妙用存焉，以自然之道，觀世之言教，清靜無爲者，其君必正；職分不越者，君臣義明；方能稱任者，其官必治；周覽萬物、咸得應用者，庶可備具矣。道者虛通昇乎上，德者柔順降乎下；義者流行通乎物，事者應治役乎人，技者隨能應乎藝，故技兼於事則治，事兼於義則適，義兼於德則順，德兼於道則通，道兼於天則合乎自然矣。無欲則天下足三句，即《道德經》無欲而民自樸、無爲而民自化、好靜而民自正，混茲三者，通乎一真，則事無不畢、神無不服矣。

## 循道爲治

夫子曰：夫道覆載萬物者也，洋洋乎大哉！君子不可以不刳心焉。無爲爲之之謂天，無爲言之之謂德，愛人利物之謂仁，不同同之之謂大，行不崖異之謂寬，有萬不同之謂富，故執德之謂紀，德成之謂立，循於道之謂備，不以物挫志之謂完。君子明於此十者，則韜乎其事心之大也，沛乎其爲萬物逝也。若然者，藏金於山，沉見張本。舊作藏。珠於淵，不利貨財，不近貴富，不樂壽，不哀夭，不榮通，不醜窮，不拘一世之利以爲己私分，不以王天下爲己處顯，顯則明，萬物一府，死生同狀。

首稱夫子曰者，莊子受長桑公微言也。夫道汪洋流注，充塞太空，唯靈府虛者方能容納焉。自治而爲，合乎天然，守中而言，遠離沮喪，度生接物，心不退轉，人之所惡，我無嫌猜，和光同塵，不立圭角，萬類滋茂，共豐區宇，持至德而爲紀，循至理而善建，順真常而不偏，離外景以全內，明此以鍊心，則事無不蘊，理無不容，恩無不沛，物無不遂者矣。金珠貨財，患本也，壽夭窮通，內疚也，私分處顯，情病也，一有係乎心，則患不完矣。

## 體道任化

夫子曰：夫道淵乎其居也，濇乎其清也，金石不得無以鳴，故金石有聲，不考不鳴，萬物孰能定之。夫王德之人，素逝而耻通於事，立之本原，而知通於神，故其德廣，其心之出，有物採之，故形非道不生，生非德不明，存形窮生，立德明道，非王德者邪！蕩蕩乎忽然出、勃然動，而萬物從之乎？此謂王德之人，視乎冥冥，聽乎無聲，冥冥之中，獨見曉焉，無聲之中，獨聞和焉，深之又深，而能物焉，神之又神，而能精焉。故其與萬物接也，至無而供其求，時騁而要其宿，大小長短脩遠。



水之幾於道者，其居也淵乎其淳，其動也濇乎其清，猶金石不考不鳴，物有其性，因而求之，乃可得也。質素獨往，耻通於事，立之本原，歸根復命也；知通於神，知常曰明也；德無不被，故動涉真趣，爲物取採也。道體生物，德用昭明，善存形者必能究生之理，善建德者必能獲道之微。是故德業蕩蕩，其出無形，其動無迹，冥冥之中，見曉聞和，寶玉久藏，夜闇有煇煥之景，精神內捷，靜默有靈光之祥，能物能精謂恍惚、妙物窈冥真精也。至無而供其求，無爲無不爲也，時騁而要其宿，動極歸乎靜也，大小長短脩遠，一貫之以道而已矣。

## 役心失真

黃帝遊乎赤水之北，登乎崑崙之丘，而南望還歸，遺其玄珠，使知索之而不得，使離朱索之而不得，使喫詬索之而不得也，乃使象罔，象罔得之。黃帝曰：異哉！象罔乃可以得之乎！

動心則真水失照，慕高則至理有乖，急欲反本，妙道已喪矣。彼無不聰，故知不能符，彼無不明，故視不能偶，彼無不辯，故說不能契。象罔恍惚也，人無心而合道，道無心而合人，亦強云得之耳。黃帝歎曰：乃可以得之乎，言實無所得也。

## 視聽喪道

堯之師曰許由，許由之師曰齧缺，齧缺之師曰王倪，王倪之師曰被衣。堯問於許由曰：齧缺可以配天乎？吾藉王倪以要之。許由曰：殆哉！圾乎天下！齧缺之爲人也，聰明睿知，給數以敏，其性過人，而又乃以人受天，彼審乎禁過而不知過之所由生，與之配天乎？彼且乘人而無天，方且本身而異形，方且尊知而火馳，方且爲緒使，方且爲物絃，方且四顧而物應，方且應衆宜，方且與物化而未始有恒，夫何足以配天乎！雖然，有族有祖，可以爲衆父，而不可以爲衆父父，

治亂之率也，北面之禍也，南面之賊也。

恃聰明則福鮮，性越羣則害多，以機械之心望純白之應則遠矣，其可與之配天乎？彼且恃君人之勢而慢天理，自尊貴其形而運知速，作法束物，周覽衆務，以一應萬，逐物不息，何足以合自然。然術有始末，政教嚴峻，未能忘迹，可以戡難定禍，而難爲臣下，所謂以知治國者是也。

## 聖人不惑

堯觀乎華，華封人曰：嘻！聖人，請祝聖人，使聖人壽。堯曰辭。使聖人富。堯曰辭。使聖人多男子。堯曰辭。封人曰：壽、富、多男子，人之所欲也，汝獨不欲何邪？堯曰：多男子則多懼，富則多事，壽則多辱，是三者非所以養德也，故辭。封人曰：始也我以汝爲聖人邪！今然君子也。天生萬民，必授之職，多男子而授之職，則何懼之有？富而使人分之，則何事之有？夫聖人鶉居而鷇食，鳥行而無彰，天下有道，則與物皆昌，天下無道，則脩德就閒，千歲厭世，去而上僊，乘彼白雲，至於帝鄉，三患莫至，身常無殃，則何辱之有？封人去之，堯隨之曰：請問。封人曰：退已。音紀。見江南古藏本，舊作已。

多男而授之職，令各自治也；富而使人分之，藏金珠於山淵也；鶉居不營巢穴，鷇食無求而飽，鳥行則無留迹，與物皆昌，乘時立事脩德就閒，雌靜自守也。脫去塵歲，躡景乘虛，白雲喻道炁，帝鄉真境也，封人所祝，世俗所貴，堯不惑而辭之，隨而再問，封人曰退已，將有忘身之深旨乎？

## 明君不愧

堯治天下，伯成子高立爲諸侯；堯授舜，舜授禹，伯成子高辭爲諸侯而耕。禹往見之，則耕在野，禹趨就下風立而問焉。曰：昔堯治天下，吾子立爲諸侯，堯授舜，舜授予，吾子辭爲諸侯而耕，其故何也？子高曰：昔堯治天下，不賞而

民勸，不罰而民畏，今子賞罰而民且不仁，德自此衰，刑自此立，後世之亂自此始矣。夫子闔行邪？無落吾事，但但乎耕而不顧。

堯舜禹之治天下，猶道德仁之利萬民，其利廣博。而伯成子高之論，亢志絕俗，端方不屈，若此真王者之師也。言訖而耕，但但顧，有務農崇本還淳反朴之意。

## 修德復古

泰初有無無，有無名，一之所起，有一而未形，物得以生謂之德，未形者有分，且然無間謂之命，留動而生物，物成生理謂之形，形體保神，各有儀則謂之性，性脩反德，德至同於初，同乃虛，虛乃大，合喙鳴，喙鳴合，與天地為合，其合緼緼，若愚若昏，是謂玄德，同乎大順。

有則非初，強名太初，一之所起，尚未有迹，有迹則屬元氣矣。靈光之物，卓然而生謂之德；氣降未兆，清濁已分，所稟無有間斷謂之命；一動一靜，化生萬物，物成生理故謂之形；形體保神，各有儀則謂之性。脩自然之性，反初生之德，德同太初，乃虛乃大而無邊際也。合喙猶脰合，脰合自然，其鳴無心，所謂終日言未嘗言也。喙有上下，如天地之合，塞兌閉門，妙理冲默，至德冥深，同乎大順之道矣。

## 忘形幾道

夫子問於老聃曰：有人治道若相放，可不可，然不然。辯者有言曰：離堅白若縣寓。若是則可謂聖人乎？老聃曰：是胥易技係勞形怵心者也，執狸之狗成思，援狙之便自山林來。丘，予告若所不能聞，與而所不能言。凡有首有趾、無心無耳者衆，有形者與無形無狀而皆存者盡無，其動止也，其死生也，其廢起也，此又非其所以也。有治在人，忘乎物，忘乎天，其名為忘己，忘己之人，是

之謂入於天。

可不可，然不然，飾知以求異也，離堅白之辯若縣寓高空，使衆昭然也，以妄相易，以技相係，疲薺形體，驚怵心神，猶獵犬被繫，獫狁入檻，皆因技能而致患也。有首有趾，形可觀也，無心無耳，意莫知也，無耳故不能聞，無心故不能言，有形者有首有趾，無形無狀者無心無耳也。皆存者體與化冥，盡無者亦無無盡也。其動止、死生、廢起，又非其所以也。夫復於何留意有治，在人自治而已。忘物則同物，忘天則同天，忘己則不二矣。何所不入哉！

## 不尚賢

蔣閭菟見季徹曰：魯君謂菟也曰：請受教。辭不獲命，既已告矣，未知中否？請嘗薦之。吾謂魯君曰：必服恭儉，拔出公忠之屬而無阿私，民孰敢不輯。季徹局局然笑曰：若夫子之言，於帝王之德，猶螳螂之怒臂以當車軼，必不勝任矣。且若是，則其自爲處危，其觀臺多，物將往投迹者衆。蔣閭菟覷覷然驚曰：菟也汙若於夫子之所言矣。雖然，願先生之言其風也。季徹曰：大聖之治天下也，搖蕩民心，使之成教易俗，舉滅其賊心而皆進其獨志，若性之自爲，而民不知其所由然。若然者，豈兄堯舜之教，民溟滓然弟之哉！欲同乎德而心居矣。

恭儉公忠，非無爲也，危其臺觀，非安穩也。尚賢則佞歸，迹衆則僞集，民之搖動，聖人因而任之，民之放蕩，聖人因而安之，使教成俗易，則賊害之心隨化絕滅，民各進其己志，若性之自然也。兄堯舜之教者，尊其聖知，民溟滓然弟之者，下之散漫不明也。今既民安其自然，何用尊堯舜之聖知而使民散漫哉？欲同乎德而心有所著矣，言其有所尚、非自然也。

## 抱朴矯俗

子貢南遊於楚，反於晉，過漢陰，見一丈人方爲圃畦，鑿隧而入井，抱甕而

出灌，掬掬然用力甚多，而見功寡。子貢曰：有機械於此，並見張本，機舊闕。一日浸百畦，用力甚寡而見功多，夫子不欲乎？爲圃者仰而視之曰：奈何？曰：鑿木爲機，後重前輕，挈水若抽，數如沃湯，其名桔槔。桔舊作爲。爲圃者忿然若作色而笑曰：吾聞之吾師，有機械者必有機事，有機事者必有機心，機心存於胸中，則純白不備，純白不備則神生不定，神生不定者，道之所不載也。吾非不知，羞而不爲也。子貢矚然慙俯而不對。有間，爲圃者曰：子奚爲者邪？曰：孔丘之徒也。爲圃者曰：子非夫博學以擬聖，於于以蓋衆，獨弦哀歌以賣名聲於天下者乎？汝方將忘汝神氣，墮汝形骸，而庶幾乎，而身之不能治，而何暇治天下乎？子往矣，無乏吾事。子貢卑陬失色，頊頊然不自得，行三十里而後愈。其弟子曰：向之人何爲者邪？夫子何故見之變容失色，終日不自反邪！曰：始吾以爲天下一人耳，不知復有夫人也，吾聞之夫子，事求可，功可成，用力少，見功多者，聖人之道。今徒不然，執道者德全，德全者形全，形全者神全，神全者聖人之道也。託生與民並行，而不知其所之，汙乎淳備哉！功利機巧，必忘夫人之心，若夫人者，非其志不之，非其心不爲，雖以天下譽之，得其所謂，瞽然不顧，以天下非之，失其所謂，儻然不受。天下之非譽無益損焉，是謂全德之人哉！我之謂風波之民。反於魯，以告孔子。孔子曰：彼假脩渾沌氏之術者也，識其一不知其二，治其內不治其外，夫明白入素，無爲復朴，體性抱神，以遊世俗之間者，汝將固驚邪！且渾沌氏之術，予與汝何足以識之哉！

子貢謂爲圃者，托生與民並行而不知其所之，是果與衆異邪？功利機巧必不入斯人之心矣，非譽不受如渾沌也。風波之民，易動搖也，渾沌自然，脩之則非真，故云假也。一謂體，二謂用，脩心者離境，治外者同塵，體性抱神，以遊世俗，此古之民也。渾沌無竅，則鬼神莫識，況於人乎？

## 神人无迹

諄芒將東之大壑，適遇苑風於東海之濱，苑風曰：子將奚之？曰：將之大壑。曰：奚爲焉？曰：夫大壑之爲物也，注焉而不滿，酌焉而不竭，吾將遊焉。苑風曰：夫子無意於橫目之民乎？願聞聖治。諄芒曰：聖治乎？官施而不失其

宜，拔舉而不失其能，畢見其情事而行其所爲，行言自爲而天下化，手撓顧指，四方之民莫不俱至，此之謂聖治。願聞德人。曰：德人者，居無思，行無慮，不藏是非美惡，四海之內，共利之之爲悅，共給之之爲安，怙乎若嬰兒之失其母也，儻乎若行而失其道也，財用有餘而不知其所自來，飲食取足而不知其所從，此謂德人之容。願聞神人。曰：上神乘光，與形滅亡，此謂照曠，致命盡情，天地樂而萬事銷亡，萬物復情，此之謂混冥。

大壑即東海，注不滿，酌不竭，以喻道源無窮。無所宜，無所能，不見其情，行所不爲者，治之要也。行言自爲而天下化，蓋不治者聖治之妙也，無思無慮，用心若鏡，故四海願共利給之，嬰兒失母，所託皆親也，行而失道，所向皆安也，遊心於澹，故物饒而自至，合氣於漠，故腹充而忘知，此有德者之容也。上乘元氣之光，乃無光也，光既無矣，形何有哉？此謂照曠，太虛一體也，得天命則物情盡，樂內忘外，萬物復情，各歸其根，此謂混冥，靜曰復命之謂也。

## 均治民足

門無鬼與赤張滿稽觀於武王之師，赤張滿稽曰：不及有虞氏乎，故離此患也。門無鬼曰：天下均治，而有虞氏治之邪？其亂而後治之與？赤張滿稽曰：天下均治之爲願，而何計以有虞氏爲？有虞氏之藥瘍也，禿而施髻，病而求醫，孝子操藥以脩慈父，其色焦然，聖人所羞也。見張本，舊作聖人羞之。

丹朱不肖，有仁聖盛明以代之，殷紂殘惡，有戡定禍亂以伐之，皆非恬然均治也。黔首有病，重華以仁義之藥治之，病而求醫，亂而求治，豈良醫孝子所願聞乎？

## 至德自治

至德之世，不尚賢，不使能，上如標枝，民如野鹿，端正而不知以爲義，相

愛而不知以爲仁，實而不知以爲忠，當而不知以爲信，蠢動而相使，不以爲賜，是故行而無迹，事而無傳。

不尚賢，故無爭，不使能，故無敗，上如標枝之無心，下如野鹿之自得，此亦感召之理。有哀則義見焉，有憎則仁出焉，有詐則忠顯焉，有誕則信彰焉，無上四條，則下四事亦亡矣。蠢動之相使役，物情自然，不以爲賜也，無迹無傳，不以爲特異也。

## 忠孝不顯

孝子不諛其親，忠臣不諂其君，臣子之盛也，親之所言而然，所行而善，則世俗謂之不肖子；君之所言而然，所行而善，則世俗謂之不肖臣。而未知此其必然邪！世俗之所謂然而然之，所謂善而善之，則不謂之導諛之人也。然則俗故嚴於親而尊於君邪！謂己導人則勃然作色，謂己諛人則怫然作色，而終身導人也、終身諛人也，合譬飾辭聚衆也，是終始本末不相罪見張本，舊闕。坐，垂衣裳，設采色，動容貌，以媚一世而不自謂導諛，與夫人之爲徒，通是非而不自謂衆人，愚之至也，知其愚者，非大愚也，知其惑者，非大惑也，大惑者終身不解，大愚者終身不靈，三人行而一人惑，所適者猶可致，惑者少也，二人惑則勞而不至，惑者勝也，而今也以天下惑，予雖有所祈嚮，不可得也，不亦悲乎！大聲不入於里耳，折楊皇華則嗑然而笑，是故高言不止於衆人之心，至言不出，俗言勝也，以二垂踵惑而所適不得矣，而今也以天下惑，予雖有祈嚮，其庸可得邪！知其不可得也而強之，又一惑也，故莫若釋之而不推，不推誰其比憂。

從世俗則失尊嚴於君親，順君親則得導諛於世俗，然君親者一人之私善，世俗者天下之公是，私心則非忠孝，公論則非諂諛，故賢人君子未嘗獨異於世也。夫導諛者亦嫌人指其不正，而終身導諛，善苟合也，以至飾辭聚衆，戶外屨滿，聖人觀之，可謂導諛矣，而世人稱美之，詎復有罪坐者哉！謂彼希意則憾之而不受，彼之順顏則恬然受之，與夫峩冠博帶，文藻語言，噓俞俛仰，樂人稱譽者，爲如何哉！可解者非大惑，有靈者非大愚，終身不

解不靈者，矜名嗜利之心未剝耳！若以己所見解釋彼愚惑，我寡彼衆，豈不悲哉！大聲之不入里耳，高言之不止衆心，如擊缶撞鍾，其音必異，不唯聽瑩，而又莫知所之矣。人人欲悟，蓋因不得已而惑於惑，則孰與之憂乎？

## 民不願惡

厲之人夜半生其子，遽取火而視之，汲汲然唯恐其似己也。

厲人恐子似己，亦自知其惡也，則愚惑者豈無趨善之心哉！

## 趣舍失性

百年之木，破爲犧尊，青黃而文之，其斷在溝中，比犧尊於溝中之斷，則美惡有間矣，其於失性一也。跖與曾史，行義有間矣，然其失性均也。且夫失性有五：一曰五色亂目，使目不明；二曰五聲亂耳，使耳不聰；三曰五臭熏鼻，困憊中顙；四曰五味濁口，使口厲爽；五曰趣舍滑心，使性飛揚。此五者皆生之害也，而楊墨乃始離跂，自以爲得，非吾所謂得也。夫得者困，可以爲得乎？則鳩鵲之在於籠也，亦可以爲得矣。且夫趣舍聲色，以柴其內，皮弁鷩冠，摺笏紳脩，以約其外，內支盈於柴柵，外重纏繳，睭睭然在纏繳之中，而自以爲得，則是罪人交臂歷指，而虎豹在於囊檻，亦可以爲得矣。

木生青全，削器則性毀，人本自適，行義則真殘，故視聽食息，存之亦可，亡之亦可，唯趣舍不係乎心者，逍遙乎塵垢之外，豈纏繳囊檻所可繫哉！



## 雜篇·天道 十九

### 靜 鑒

天道運而無所積，故萬物成，帝道運而無所積，故天下歸，聖道運而無所積，故海內服。明於天，通於聖，六通四辟於帝王之德者，其自然見張本。舊闕。爲也，昧然無不靜者矣。聖人之靜也，非曰靜也，善故靜也，萬物無足以撓心者故靜也。水靜則明燭鬚眉，平中準，大匠取法焉。水靜猶明，而況精神，聖人之心，靜乎天地之鑒也，萬物之鏡也。夫虛靜恬淡、寂寞無爲者，天地之平而道德之至也，見張本舊闕。故帝王聖人休焉。休則虛，虛則實，實則倫矣。江南古藏本作實則備矣。虛則靜，靜則動，動則得矣。靜則無爲，無爲也則任事者責矣；無爲則俞俞，俞俞者憂患不能處，年壽長矣。夫虛靜恬淡、寂寞無爲者，萬物之本也。明此以南鄉，堯之爲君也；明此以北面，舜之爲臣也。以此處上，帝王天子之德也；以此處下，玄聖素王之道也；以此退居閒遊，江海山林之士服；以此進爲而撫世，則功大名顯而天下一也。

體不言者明於天，適物變者通於聖，委之動植則自然爲也，昧然弗知則無不靜也。聖人之靜也，應物而不蕩，非圓寂之靜也，隨物撓寧而後成，非曰靜也，善故靜也，物無足以撓心者故靜也，水靜則毫髮難隱，心靜則有無易照，故虛靜則吉祥止而妙道生，恬淡則神氣王而虛白集，寂寞則靈府寬而真君寧，無爲則和理全而性命永，此非特異也，乃天地之平常，萬物之至正，聖人之所休止也。心休則事虛，事虛則理慤，理慤則性靜，性靜則動不妄矣，無爲則所責不在己，責不在己則俞樂而無憂，年壽長矣。明於此者，

謂虛靜等八目是道之密用、無爲之事也，處上則爲明君，處下則爲帝師，周之柱史、魯之司寇是也；退居閒遊，伯夷、叔齊是也；進而撫世，傳說、呂望是也，君臣定位，不相凌越，則天下治矣。

靜而聖，動而王，無爲也而尊，樸素而天下莫能與之爭美，夫明白於天地之德者，此之謂大本大宗，與天和者也，所以均調天下，與人和者也，與人和者謂之人樂，與天和者謂之天樂。莊子曰：吾師乎！吾師乎！螯萬物而不爲戾，澤及萬世而不爲仁，長於上古而不爲壽，覆載天地、刻雕衆形而不爲巧，此之謂天樂。故曰：知天樂者，其生也天行，其死也物化，靜而與陰同德，動而與陽同波，故知天樂者無天怨、無人非、無物累、無鬼責。故曰其動也天，其靜也地，一心定而王天下，其鬼不祟，其魂不疲，一心定而萬物服，言以虛靜推於天地、通於萬物，此謂天樂，天樂者，聖人之心以畜天下也。

靜而聖，動而王，皆以無爲爲尊，樸素爲美。乾坤以簡易爲德，簡易者萬物之宗本，宗本不失則人事和，人事和則天理順而陰陽宣暢矣。自雕非義也，自榮非仁也，自永非壽也，自化非巧也，不爲他役，故曰天樂。物物自樂自和，則動不爲動、靜不爲靜矣。心定者造化不能移，陰陽不能改，與太虛不二也，聖人之心能養天下者，太和而已矣。

## 有无利用

夫帝王之德，同天地爲宗，以道德爲主，以無爲爲常。無爲也則用天下而有餘，有爲也則爲天下用而不足，故古之人貴乎無爲也。上無爲也，下亦無爲也，是下與上同德，下與上同德則不臣；下有爲也，上亦有爲也，是上與下同道，上與下同道則不主；上必無爲而用天下，下必有爲爲天下用，此不易之道也。故古之王天下者，知雖落天地，不自慮也，辯雖彫萬物，不自悅也，能雖窮海內，不自爲也，天不產而萬物化，地不長而萬物育，帝王無爲而天下功，故莫神於天，莫富於地，莫大於帝王，故曰帝王之德配天地，此乘天地，馳萬物，而用人羣之道也。

以天地爲宗，不稱長也，以道德爲主，不屬賓也，以無爲爲常，常不矜故有餘。君忠無不容，仁也；臣道無不理，義也；君當垂拱無爲，若同臣道理事，是不主也；臣當職事有爲，若同君德容納，是不臣也；上不專執，任羣才之能，故無爲而用天下；臣職所司，以勤勞治事，故有爲而爲天下用也。由是知知落天地必取衆謀，辯雕萬物必取衆議，能窮四海必待衆爲，斯無爲之業也。天降氣而長育，故莫神於天，地升氣而產化，故莫富於地，帝王自治而功成，故德合二儀也。

## 本末須道

本在於上，末在於下，要在於主，詳在於臣。三軍五兵之運，德之末也；賞罰利害，五刑之辟，教之末也；禮法度數，形名比詳，見張本，下同，舊作刑。治之末也；鍾鼓之音，羽旄之容，樂之末也；哭泣衰經，隆殺之服，哀之末也；此五末者，須精神之運，心術之動，然後從之者也。末學者，古人有之，而非所以先也，君先而臣從，父先而子從，兄先而弟從，長先而少從，男先而女從，夫先而婦從，夫尊卑先後，天地之行也，故聖人取象焉。天尊地卑，神明之位也，春夏先，秋冬後，四時之序也，萬物化作，萌區有狀，盛衰之殺、變化之流也。夫天地至神矣，見張本，舊闕。而有尊卑先後之序，而況人道乎？宗廟尚親，朝廷尚尊，鄉黨尚齒，行事尚賢，大道之序也。語道而非其序者，非其道也，語道而非其道者，安取道哉。見文本，舊闕。是故古之明大道者，先明天而道德次之，道德已明，而仁義次之，仁義已明，而分守次之，分守已明，而形名次之，形名已明，而因任次之，因任已明，而原省次之，原省已明，而是非次之，是非已明，而賞罰次之，賞罰已明，而愚知處宜、貴賤履位，仁賢不肖襲情，必分其能，必由其名，以此事上，以此畜下，以此治物，以此脩身，知謀不用，必歸其天，此之謂太平，治之至也。故書曰有形有名，形名者，古人有之，而非所以先也。古之語大道者，五變而形名可舉，九變而賞罰可言也，驟而語形名，不知其本也，驟而語賞罰，不知其始也。倒道而言，迂道而說者，人之所治也，安能治人？驟而語形名賞罰，此有知治之具，非知治之道者也，見江南古藏本，舊闕。可用於天

下，不足以用天下，此之謂辯士，一曲之人也，禮法數度，形名比詳，古人有之，此下之所以事上，非上之所以畜下也。

本謂理，末謂事，理在簡要，君道也，事在詳備，臣職也，本末雖異，須待精神冥運，心術發用，先循理本，然後事末以表之，先後之序，隨物生焉，然非聖人不能法象，以序立教，以道為主，法度立而利害隨之，用貴賤之位，而賞知罰愚，因才能之分，而徇名求實，以上九日，為世治教，五變而刑名可舉，取五行生剋之義，九變而賞罰可言，陽九極變之旨也，刑名以天理道德為本，賞罰以刑儀名器為始，專任賞罰，豈非倒道乎！語失次序，豈非迂說乎！刑名賞罰治之具，妙用次序治之道，迹所以為天下用，理可以用天下也，名數禮教，下之所以事上也，無為自化，上之所以畜下也。

## 堯則天地

昔者舜問於堯曰：天王之用心何如？堯曰：吾不敖無告，不廢窮民，苦死者，嘉孺子，而哀婦人，此吾所以用心已。舜曰：美則美矣，而未大也。堯曰：然則何如？舜曰：天德而出寧，日月照而四時行，若晝夜之有經，雲行而雨施矣。堯曰：膠膠擾擾乎！子天之合也，我人之合也。夫天地者古之所大也，而黃帝堯舜之所共美也，故古之王天下者奚為哉！天地而已矣。

不敖無告，不廢窮民，仁人之心無以加此，舜以為弊迹未去，故未大也。天德而出寧，人事則感動矣，昏明有序，開闔有常，昇降氣交，天地之德也。堯悟己之所為膠膠擾擾，亂之又亂也。天之合無心，人之合有迹，天地者古之所大，王天下者體之而已矣。

## 仁義迂闊

孔子西藏書於周室，子路謀曰：由聞周之徵藏史有老聃者，免而歸居，夫子

欲藏書，則試往因焉。孔子曰：善。往見老聃，而老聃不許，於是繙十二經以說，老聃中其說曰：太謾，願聞其要。孔子曰：要在仁義。老聃曰：請問仁義人之性邪？孔子曰：然。君子不仁則不成，不義則不生。仁義真人之性也，又將奚爲矣！老聃曰：請問何謂仁義。孔子曰：中心物愷，兼愛無私，此仁義之情也。老聃曰：意！幾乎後言，夫兼愛不亦迂乎？無私焉乃私也。夫子若欲使天下無失其牧乎？則天地固有常矣，日月固有明矣，星辰固有列矣，禽獸固有羣矣，樹木固有立矣，夫子亦放德而行、循道而趨已至矣，又何偈偈乎揭仁義，若擊鼓而求亡子焉？意！夫子亂人之性也。

孔子欲藏書而老聃不許，謂已陳芻狗不足留也。縱橫六經，故曰十二，上仁無爲而成，上義不行而至，率性而動，豈僞也哉！勿愷則未能忘情，無私則不免有迹，仁義之情去道遠矣，若春生秋歛之有常，晝日夜月之有明，星斗歷天之有列，飛沉從類之有羣，草木藂生之有立，倣而循之可也，何偈偈然用力爲哉！

## 智巧爲竊

士成綺見老子而問曰：吾聞夫子聖人也，吾固不辭遠道而來，願見，百舍重趼而不敢息。今吾觀子，非聖人也，鼠壤有餘蔬而棄妹，不仁也，生孰不盡於前，而積斂無崖。老子漠然不應。士成綺明日復見曰：昔者吾有刺於子，今吾心正却矣，何故也？老子曰：夫巧知神聖之人，吾自以爲脫焉。昔者子呼我牛也而謂之牛，呼我馬也而謂之馬，苟有其實，人與之名而弗受，再受其殃。吾服也恒服，吾非以服有服。士成綺鴈行避影履行，遂進而問脩身若何。老子曰：而容崖然，而目衝然，而顴頰然，而口闕然，而狀義然，似繫馬而止也。動而持，發也機，察而審，知巧而覩於泰凡，以爲不信，邊境有人焉，其名爲竊。

老子不應，嫌其欲以粗迹窺聖意也，成綺復自謂昔之邪心今直退矣，老子告以吾於恢恠憺怪之名脫去久矣，若呼馬爲牛，非誣即枉也。有實斯有名，有名斯有累，若更不受，反受其殃。服，用也。吾之用也，常用之道，

故無迹焉。吾非以常用之道矜持有用，而使人貴之也。成綺恭問脩身，老子謂汝容止乖崖，精神馳突，造作淳朴，揚聲威厲，其狀義然，似繫馬而止也。言未經調御，強自執持，動有機關，靜多猜慮，揣摩越分，皆以爲不信此道，故若戎敵之多詐也。

## 至德不遷

老子曰：夫道於大不終，於小不遺，故萬物備，廣乎其無不容也，淵淵乎其不可測也。見江南古藏本。舊闕。形德仁義，神之末也，非至人孰能定之。夫至人有世，不亦大乎？而不足以爲之累，天下奮楫，而不與之偕，審乎無假，而不與利遷，極物之真，能守其本，故外天地、遺萬物，而神未嘗有所困也。通乎道，合乎德，退仁義，賓禮樂，至人之心，有所定矣。

至大無外故不終，至小無內故不遺，不終不遺故萬物備，不能容物則狹矣，爲物所測則淺矣。治物之具，至人之緒餘也，有世亦大矣，而至人不以介懷，鎮以無名之樸，故未嘗有所困也，通乎道則虛無，合乎德則不喪，退仁義則少私，賓禮樂則寡欲，用心若此，非定而何。

## 塵垢書語

世之所貴道者書也，書不過語，語有貴也，語之所貴者意也，意有所隨，意之所隨者不可以言傳也，而世因貴言傳書。世雖貴之哉，猶不足貴也，爲其貴非其貴也，故視而可見者形與色也，聽而可聞者名與聲也，悲夫！世人以形色名聲爲足以得彼之情，而形色名聲果不足以得彼之情，則知者不言，言者不知，而世豈識之哉！

古人已往，所傳者書語而已，胡足貴哉！譬問答五味，只可說其形色名聲，甘苦之味終莫能告也，舍形色名聲則知者不言，斯得之矣。

## 糟魄聖言

桓公讀書於堂上，輪扁斲輪於堂下，釋椎鑿而上，問桓公曰：敢問公之所讀者何言邪？公曰：聖人之言也。曰：聖人在乎？公曰：已死矣。曰：然則君之所讀者，古人之糟魄已矣。桓公曰：寡人讀書，輪人安得議乎，有說則可，無說則死。輪扁曰：臣也以臣之事觀之，斲輪徐則甘而不固，疾則苦而不入，不徐不疾，得之於手而應於心，口不能言，有數存焉於其間，臣不能以喻臣之子，臣之子亦不能受之於臣，是以行年七十而老斲輪，古之人與其不可傳也死矣，然則君之所讀者，古人之糟魄已矣。

輪扁之得心應手妙莫能喻者，有術數存焉，此所以終身行之也，年隨時化，道逐日新，古人語此未嘗不慨然也。

## 雜篇・天運 二十

### 調攝陰陽

天其運乎，地其處乎，日月其爭於其所乎？孰主張是，孰綱維是，李氏作弛。孰居無事推而行是？意者其有機緘而不得已耶！意者其運轉而不能自止邪！雲者爲雨乎，雨者爲雲乎？孰隆施是，孰居無事淫樂而勸是？風起北方，一西一東，在見張本。舊作有。上彷徨，孰噓吸是，孰居無事而披拂是？敢問何故？巫咸詔曰：來，吾語汝，天有六極五常，帝王順之則治，逆之則凶，九洛之事，治成德備，監照下土，天下載之，此謂上皇。

清妙之氣，無時不運，重濁之形，未嘗不止，水火之精，互爲升降，有主張綱維之者則勞矣，有機緘運轉之者則弊矣，雨從雲以施化，故雨出於地，雲憑氣而交合，故雲出於天，人身清濁之氣亦猶是也。是知雲不爲雨，雨不爲雲，相濟之理，暗與事冥，惡有爲之者哉！雲自隆施，雨自淫樂，有勸勉之者則私矣，有噓吸披拂則敗矣，寒暑燥濕風火六氣，氣極則變，故曰六極，金木水火土五運，運常則化，故曰五常。氣和則教成，運乖則政敗也。九洛謂《洛書》、《九疇》、《洪範》所陳者是也，王者得《洪範九疇》，則彝倫攸叙、五福被，民順也，失《洪範九疇》，則彝倫攸斁、六極傷，民逆也。不順不逆，任物自爾，得不謂之上皇歟！



## 兼忘天下

商太宰蕩問仁於莊子，莊子曰：虎狼，仁也。曰：何謂也？莊子曰：父子相親，何爲不仁？曰：請問至仁。莊子曰：至仁無親。太宰曰：蕩聞之，無親則不愛，不愛則不孝，謂至仁不孝，可乎？莊子曰：不然。夫至仁尚矣，孝固不足以言之，此非過孝之言也，不及孝之言也。夫南行者至於郢，北面而不見冥山，是何也？則去之遠也。故曰：以敬孝易，以愛孝難；以愛孝易，而忘親難；忘親易，使親忘我難；使親忘我易，兼忘天下難；兼忘天下易，使天下兼忘我難。夫德遺堯舜而不爲也，利澤施於萬世天下莫知也，豈直太息而言仁孝乎哉？夫孝悌仁義忠信貞廉，此皆自勉以役其德，不足多也。故曰：至貴國爵并焉，至富國財并焉，至願名譽并焉，是以道不渝。

至仁者不獨親其親，則近於無親，非實無親也；言孝則有私，私則非至孝；敬，外貌也，愛，內誠也，有志則易，無心則難。行孝而子不記則易，奉養而親不錄則難，德及一家則易，化周天下則難，忘人忘化，是謂兼忘，兼忘之治，治之至也。至人視聖德猶糝糠，以百姓爲芻狗，然而仁孝之行未嘗須臾離，唯脩德自勵而已，豈欲求知哉！至貴謂德全則軒冕不能動其心，故國爵并焉；至富謂知足則金玉不能易其志，故國財并焉；至願謂自適則是非不能變其性，故名譽并焉，此守道而不渝者也。

## 樂和人妙

北門成問於黃帝曰：帝張咸池之樂於洞庭之野，吾始聞之懼，復聞之怠，卒聞之而惑，蕩蕩默默，乃不自得。帝曰：汝殆其然哉！吾奏之以人，徽之以天，行之以禮義，建之以太清。夫至樂者先應之以人事，順之以天理，行之以五德，應之以自然，然後調理四時，太和萬物，四時迭起，萬物循生，一盛一衰，文武倫經，一清一濁，陰陽調和，流光其聲，蟄蟲始作，吾驚之以雷霆，其卒無尾，

其始無首，一死一生，一債一起，所常無窮而一不可待，汝故懼也。吾又奏之以陰陽之和，燭之以日月之明，其聲能短能長，能柔能剛，變化齊一，不主故常，在谷滿谷，在阮滿阮，塗郤守神，以物爲量，其聲揮綽，其名高明，是故鬼神守其幽，日月星辰行其紀，吾止之於有窮，流之於無止，子欲慮之而不能知也，望之而不能見也，逐之而不能及也，儻然立於四虛之道，倚槁梧而吟，目知窮乎所欲見，力屈乎所欲逐，吾既不及已夫。形充空虛，乃至委蛇，汝委蛇故怠。吾又奏之以無怠之聲，調之以自然之命，故若混，逐藁生林，樂而無形，布揮而不曳，幽昏而無聲，動於無方，居於窈冥，或謂之死，或謂之生，或謂之實，或謂之榮，行流散徙，不主常聲，世疑之，稽於聖人。聖也者達於情而遂於命也，天機不張而五官皆備，此之謂天樂，無言而心悅。故有焱氏爲之頌曰：聽之不聞其聲，視之不見其形，充滿天地，苞裹六極，汝欲聽之而無接焉，故惑也。樂也者，始於懼，懼故崇；吾又次之以怠，怠故遁；卒之於惑，惑故愚，愚故道；道可載而與之俱也。

大雅之音，淡不入耳，始聞之懼，非流俗所美也。審聽若怠，終聽而惑，蕩蕩默默，莫識其所以然也。奏以人者，和暢品彙，徽以天者，諧美自然，行以禮義，上下不越也，建以太清，廓清區宇也，四時迭起而合序，萬物循生而莫逆，文武理常，陰陽氣順，流光其聲，元和普應也。虛而不屈，動而愈出，豈有窮哉！陰陽和則君臣合德，日月明則姦佞莫進，故治道日新，化無凝滯，鬼無靈響，法令不差，慮而知則不妙矣，望而見則不晦矣，逐而及則不冥矣，卓然獨化而無所遁，所以無窮無屈也。廓然凝合則靡順而怠息，至和則無怠，至樂則自然，如叢灌脩篁之響，皆曰天籟，怒者其誰耶！物性湛然，布揮不曳也，真風淡泊，幽昏無聲也，冲氣混成，故動於無方，大象無形，故居於窈冥，見其或動或靜，拏歛滋繁，而謂之生死實榮也，隨氣盛衰，應節而變。疑其不常，故考諸聖法而達鬼神之情，遂萬物之命，寂若死灰則機息，五行自運則官備也。焱氏之頌古樂章名形，夷莫覩聲，希莫聞視，聽無由不惑，而何心懼則不祥，神怠則遁藏，意惑則愚，愚則近道矣。

## 道不應時

孔子西遊於衛，顏淵問師金曰：以夫子之行爲奚如？師金曰：惜乎而夫子其窮哉！顏淵曰：何也？師金曰：夫芻狗之未陳也，盛以篋衍，巾以文繡，尸祝齋戒以將之，及其已陳也，行者踐其首脊，蘇者取而爨之而已，將復取而盛以篋衍，巾以文繡，遊居寢卧其下，彼不得夢，必且數眯焉。今而夫子亦取先王已陳芻狗，取弟子遊居寢卧其下，故伐樹於宋，削迹於衛，窮於商周，是非其夢耶！圍於陳蔡之間，七日不火食，死生相與鄰，是非其眯邪！夫水行莫如用舟，陸行莫如用車，以舟之可行於水也，而求推之於陸，則沒世不行尋常。古今非水陸與？周魯非舟車與？今蘄行周於魯，是猶推舟於陸也，勞而無功，身必有殃。彼未知夫無方之傳，應物而不窮者也，且子獨不見夫桔槔者乎，引之則俯，舍之則仰，彼人之所引，非引人也，故俯仰而不得罪於人，故夫三皇五帝之禮義法度，不矜於同而矜於治，故夫三皇五帝之禮義法度，其猶柶梨橘柚耶！其味相反而皆可於口，故禮義法度者，應時而變者也。今取猿狙而衣以周公之服，彼必齟齬挽裂盡去而後慊，觀古今之異，猶猿狙之異乎周公也。故西施病心而顰其里，其里之醜人見而美之，歸亦捧心而顰其里。其里之富人見之，堅閉門而不出，貧人見之，挈妻子而去之。彼知美顰而不知顰之所以美，惜乎而夫子其窮哉！

師金惜夫子之有才而不達，如芻狗已棄，復用必招不祥，蓋治貴日新，履迹則弊，以周道可行於魯，則太行可以盪舟，不若舍陳迹而任自然，應天理而隨物化，故三皇五帝之禮義法度，不矜於同，而矜於治，治則爲法矣。猶口之於味，欲甘與甘，欲辛與辛，應時而變者也，故順猿狙之性則易馴，效西施之顰者愈醜也。

## 受道有器

孔子行年五十有一而不聞道，乃南之沛見老聃。老聃曰：子來乎，吾聞子北

方之賢者也，子亦得道乎？孔子曰：未得也。老子曰：子惡乎求之哉？曰：吾求之於度數，五年而未得也。老子曰：子又惡乎求之哉？曰：吾求之於陰陽，十有二年而未得。老子曰：然。使道而可獻，則人莫不獻之於其君，使道而可進，則人莫不進之於其親，使道而可以告人，則人莫不告其兄弟，使道而可以與人，則人莫不與其子孫；然而不可者無他也，中無主而不止，外無正而不行，由中出者不受於外，聖人不出，由外人者無主於中，聖人不隱。名者見張本。舊闕。公器也，不可多取；仁義，先王之蘧廬也，止可以一宿而不可以久處。觀而多責，古之至人，假道於仁，託宿於義，以遊逍遙之墟，食於苟簡之田，立於不貸之圃，逍遙無爲也，苟簡易養也，不貸無出也，古者謂是采真之遊。以富爲是者不能讓祿，以顯爲是者不能讓名，親權者不能與人柄，操之則慄，舍之則悲，而一無所鑒以闕其所不休者，是天之戮民也。怨恩取與，諫教生殺，八者正之器也，唯循大變無所湮者爲能用之，故曰正者正也，其心以爲不然者，天門弗開矣。

孔子明有用之用，而未得無爲之道，道者無絲忽可度量，無小閏可算數，無支干可推尋，故求之而未得也。老聃告以道之爲物，君親臣子莫得傳授者，難其器也，中無原本，是吉祥不止，外無質正，則至德不行，妙意出乎聖人之懷，外無受道之質，妙意雖明，猶不出也。至言入乎學者之耳，內無容納之量，聽瑩自惑，至言何嘗隱耶！名者實之賓，多取則招患，仁義非一定之法，蘧廬豈安居之處，古之至人假而行之，寄而居之，遊於自得之場，淪於莽蒼之野，連牆而不相往來，是謂采真之遊，真則不僞矣。夫矜富者恡祿，誇榮者惜名，恃權者多忌，俗態之常也。有鑒則知止，知止則不辱，怨恩等八者，名實之所係，名當其實，則器不濫矣，逆變則塞，塞則名實虧，名正則實正，或矯而爲之，是靈府之不通也。

## 大惑易性

孔子見老聃而語仁義，老聃曰：夫播糠眯目，則天地四方易位矣，蚊虻嚼膚，則通昔不寐矣，夫仁義慤然，乃憤吾心，亂莫大焉。吾子使天下無失其朴，吾子亦放風而動，總德而立矣，又奚傑傑見張本。舊闕。然若負建鼓而求亡子者

耶！夫鵠不日浴而白，烏不日黔而黑，黑白之朴不足以爲辨，名譽之觀不足以爲廣。泉涸魚相與處於陸，相呴以濕，相濡以沫，不若相忘於江湖。孔子見老聃歸，三日不談，弟子問曰：夫子見老聃，亦將何規哉！孔子曰：吾今於是乎見龍，龍合而成體，散而成章，乘乎雲氣而養乎陰陽，予口張而不能嚙，舌舉而不能訕，見江南古藏本，舊闕。予又何規老聃哉！

駢於仁義者，猶糝糠眯目，枝於聰明者，猶蚊虻嚙膚，欲不憤亂可得乎？不雕琢則朴全，倣淳風以化物，總至德以自完，足矣，又何苦荷檐仁義奔走陳迹哉！猶鵠白烏黑，物自羣分，夫何足辯？涸魚之呴濡相濟，矜恤之情見矣，不若相忘江湖之爲樂也。孔子見老聃而云見龍，夫龍冥會元氣，合而成體也，飛潛煥爛，散而成章也，出處無心，故乘乎雲氣，動靜以時，故養乎陰陽，老聃聖德莫測，若是余規諫何施哉！

## 求治則亂

子貢曰：然則至見江南古藏本，舊闕。人固有尸居而龍見，雷聲而淵默，發動如天地者哉！見張本。舊作乎。賜亦可得而觀乎？遂以孔子聲見老聃，老聃方將倨堂而應微，曰：子年運而往矣，子將何以戒我乎？子貢曰：夫三皇五帝之治天下不同，其係聲名一也，而先生獨以爲非聖人，如何哉？老聃曰：小子少進，子何以謂不同？對曰：堯授舜，舜授禹，禹用力而湯用兵，文王順紂而不敢逆，武王逆紂而不肯順，故曰不同。老聃曰：小子少進，余語汝三皇五帝之治天下也。昔見江南古藏本，舊闕。黃帝之治天下，使民心一，民有其親死不哭，而民不非也；堯之治天下，使民心親，民有爲其親殺其殺，而民不非也；舜之治天下，使民心競，民孕婦十月生子，子生五月而能言，不至乎孩而始誰，則人始有夭矣；禹之治天下，使民心變，人有心而兵有順，殺盜非殺，人自爲種而天下耳，是以天下大駭，儒墨皆起，其作始有倫，而今乎婦女何言哉！余語汝三皇五帝之治天下，名曰治之，而亂莫甚焉。三皇之知，上悖日月之明，下睽山川之精，中墮四時之施，其知慴於履蠶之尾，鮮規之獸，莫得安其性命之情者，而猶自以爲聖人，不可耻乎，其無耻也。子貢蹙蹙然立不安。

不言而化行，尸居龍見也，名振而身晦，雷聲淵默也，升降有常，發動如天地也，三皇五帝德有優劣，其治不同，而係聲名一也。黃帝之治天下兼忘，故親死不哭，而民不非；堯治天下，使民心親，爲親喪殺其服，而民不非；舜治天下，使民心競，民孕早育，未孩而誰，人始夭矣；禹治天下，使民心變，孜孜爲生，人有心也，被伐不怨，兵有順也。禹授啓而天下化，故曰人自爲種，非一人私，故曰天下耳。以至聖知生而天下駭，儒墨興而大道分，宜其處女早嫁而彝倫攸斁也。是知立法成治，法變必亂，日月薄蝕，山川崩竭，四時愆亢，不和之氣甚於蜂蠆，使萬物失其性命之情者，用知治國之過也。

## 質 悟

孔子謂老聃曰：丘治《詩》、《書》、《禮》、《樂》、《易》、《春秋》六經，自以爲久矣，孰知其故矣，以姦者七十二君，論先王之道，而明周召之迹，一君無所鉤用，甚矣，夫人之難說也，道之難明耶！老子曰：幸矣，子之不遇治世之君也。夫六經先王之陳迹也，豈其所以迹哉！今子之所言猶迹也，夫迹履之所出，而迹豈履哉？夫白鴝之相視，眸子不運而感風化，蟲雄鳴於上風、雌應於下風，而感風化，類自爲雌雄，故曰風化。並見張本，舊闕。性不可易，命不可變，時不可止，道不可壅，苟得於道，無自而不可，失焉者無自而可。孔子不出，三月，復見曰：丘得之矣，烏鵲孺，魚傅沫，細要者化，有弟而兄啼，久矣夫丘不與化爲人，不與化爲人安能化人？老子曰：可，丘得之矣。

聖賢明識，即時所用，今之存者，簡冊而已，詎復應務耶！應用爲履，應過爲迹，白鴝之相視鳴和，豈有迹哉！賢愚之性不可易，貴賤之命不可變，窮通之時不可止，聖人之道不可壅也，悟則瓦礫爲金，迷則璧玉皆石。孔子遂悟鵲孺魚沫皆自爾耳，不假於外也，兄弟先後，尚有憎愛，況於時代乎？言物各獨化，豈有與化爲人而不能化人者哉！

## 雜篇·秋水 二十一

### 夸 大

秋水時至，百川灌河，涇流之大，兩涘渚涯之間，不辯牛馬，於是焉河伯欣然自喜，以天下之美爲盡在己，順流而東行，至於北海，東面而視，不見水端，於是焉河伯始旋其面目，望洋向若而歎曰：野語有之曰：聞道百，以爲莫己若者，我之謂也。且夫我嘗聞少仲尼之聞而輕伯夷之義者，始吾弗信，今我睹子之難窮也，吾非至於子之門則殆矣，吾長見笑於大方之家。北海若曰：井蛙不可以語於海者，拘於虛也；夏蟲不可以語於冰者，篤於時也；曲士不可以語於道者，束於教也。今爾出於涯涘，觀於大海，乃知爾醜，爾將可與語大理矣。天下之水莫大於海，萬川歸之，不知何時止而不盈，尾閭泄之，不知何時已而不虛，春秋不變，水旱不知，此其過江河之流，不可爲量數。而吾未嘗以此自多者，自以比形於天地，而受氣於陰陽，吾在天地之間，猶小石小木之在大山也，方存乎見少，又奚以自多？計四海在天地之間，不似壘空之在大澤乎？計中國之在海內，不似稊米之在太倉乎？號物之數謂之萬，人處一焉；人卒九州，穀食之所生，舟車之所通，人處一焉。此其比萬物也，不似豪末之在於馬體乎？五帝之所運，見江南古藏本，舊作連。三王之所爭，仁人之所憂，任士之所勞，盡此矣。伯夷辭之以爲名，仲尼語之以爲博，此其自多也，不似爾向之自多於水乎！

望洋，見水之盛大貌。未至海門，則成鄙陋，所以爲無隅者所嗤，是故通變適時，廣大之道也，君子小人各有涯量，越分妄語，自遺其醜，知其醜者，乃可語理，知愚惑者，非愚惑也。夫水莫大於海，未嘗以自多者，蓋取

善下後身之義，齊魏之爭蝸牛角，兆民之處毫末，皆爲貪者舉喻，五帝之所連，謂連續仁義也。

河伯曰：然則吾大天地而小毫末，可乎？北海若曰：否。夫物量無窮，時無止，分無常，終始無故。是故大知觀於遠近，故小而不寡，大而不多，知量無窮，證歸今故，故遙而不悶，掇而不跂，知時無止，察乎盈虛，故得而不喜，失而不憂，知分之無常也，明乎坦塗，故生而不悅，死而不禍，知終始之不可故也。計人之所知，不若其所不知，其生之時，不若未生之時，以其至小，求窮至大之域，是故迷亂而不能自得也。由此觀之，又何以知毫末之足以定至細之倪，又何以知天地之足以窮至大之域。

物量無窮，則不可以言小大；時無止，則不可以言代謝；分無常，則不可以言得喪；終始無故，則不可以言變化。大人滌除玄覽，知物遠事小，其用乃衆，已近理大，所費甚微，故其量莫極也。曩昔遙而不可明，即今掇而不可證，物遷不可悶，日新不可跂，故時難留也。察富盈之何貴，故得之不喜；知貧虛之何賤，故失之不憂；知生死爲去來，故不知悅惡也。迎不見首，隨不見後，理豈有故哉！是知分別之知有盡，恍然虛曠無窮，生則利害紛錯，死則寂寥一空，以蟻蛭之趣，究崑崙之墟，則困矣。毫末具體，細倪有餘也，天地傾缺，大域不足也。

河伯曰：世之議者皆曰：至精無形，至大不可圍，是信情乎？北海若曰：夫自細視大者不盡，自大視細者不明，夫精小之微也，埤大之殷也，故異便耳，見張本，舊闕。此勢之有也。夫精粗者，期於有形者也，無形者，數之所不能分也，不可圍者，數之所不能窮也，可以言論者，物之粗也，可以意致者，物之精也。言之所不能論，意之所不能察致者，不期精粗焉。是故大人之行，不出害人之塗也，見張本。舊闕。不多仁恩，動不爲利，不賤門隸，貨財弗爭，不多辭讓，事焉不借人，不多食乎力，不賤貪汙，行殊乎俗，不多辟異，爲在從衆，不賤佞諂，世之爵祿不足以爲勸，戮耻不足以爲辱，知是非之不可爲分，細大之不可爲倪。聞曰：道人不聞，至德不得，大人無己，約分之至也。

螭蜃莫適海涯，大鵬不顧蓬艾，所視有極，過量則殆矣，精埤不出於形，而未免於言論意致也。知恩利召害，故貨財不爭，雖行殊乎俗，常和而



不唱，爵祿不足勸，戮耻不爲辱，外其身也；是非不可分，細大不可倪，虛其心也。道人不聞，聞則可道也，至德不得，得則次失也，大人無己，己亦物也，以上皆約分之至，非自然而然也。

河伯曰：若物之外，若物之內，惡至而倪貴賤，惡至而倪小大？北海若曰：以道觀之，物無貴賤，以物觀之，自貴而相賤，以俗觀之，貴賤不在己，以差觀之，因其所大而大之，則萬物莫不大，因其所小而小之，則萬物莫不小，知天地之爲稊米也，知毫末之爲丘山也，則差數覩矣。以功觀之，因其所有而有之，則萬物莫不有，因其所無而無之，則萬物莫不無，知東西之相反，而不可以相無，則功分定矣。以趣觀之，因其所然而然之，則萬物莫不然，因其所非而非之，則萬物莫不非，知堯、桀之自然而相非則趣操覩矣。昔者堯、舜讓而帝，之、噲讓而絕，湯、武爭而王，白公爭而滅，由此觀之，爭讓之禮，堯、桀之行，貴賤有時，未可以爲常也。梁麗可以衝城，而不可以室穴，言殊器也。騏驥驪騮一日而馳千里，捕鼠不如狸狌，言殊技也。鷗鵲夜撮蚤，察毫末，晝出，瞋目而不見丘山，言殊性也。故曰：蓋師是而無非，師治而無亂乎！是未明天地之理、萬物之情者也。是猶師天而無地，師陰而無陽，其不可行明矣。然且語而不舍，非愚則誣也。帝王殊禪，三代殊繼，差其時、逆其俗者，謂之篡之見張本，舊闕。夫；當其時、順其俗者，謂之義之徒。默默乎河伯，汝惡知貴賤之門、小大之家。

道無貴賤，物情好惡耳。世俗所尚，皆外物也。夫小天地，大毫末，非理也，若因其大而謂之大，則物皆可大，因其小而謂之小，則物皆可小，此差數也，以差奪理久矣。東西之相反，猶高下之不可相無，功自我有，濟彼必矣，我若無功，彼何賴焉。堯之所然而然之，則天下莫不然，桀之所是而是之，則天下孰敢是，聖凡趣操，詎可同哉！堯、舜、湯、武，順天時、守功分者也，之、噲、白公，逆人事、執差數者也，故貴賤無常，在乎趣操之異？君子小人器識分矣。然而是非治亂常相倚伏，不可不察也。師天無地。師陰無陽者，膠固不明，未可以語道，差時逆俗者，在貴即賤，當時順俗者，方小即大矣。

河伯曰：然則我何爲乎，何不爲乎？吾辭受趣舍，吾終奈何？北海若曰：以道觀之，何貴何賤，是謂反衍，無拘而志，與道大蹇，何少何多，是謂謝施，無

一而行，與道參差。嚴乎若國之有君，其無私德，繇繇乎若祭之有社，其無私福，汎汎乎其若四方之無窮，其無所畛域，兼懷萬物，其孰承翼，是謂無方。萬物一齊，孰短孰長，道無終始，物有死生，不恃其成，一盈一滿，不位乎其形，年不可舉，時不可止，消息盈虛，終則有始。是所以語大義之方，論萬物之理也，物之生也，若驟若馳，無動而不變，無時而不移。何爲乎？何不爲乎？夫固將自化。

當受而不受，何爲乎？彼舍而我取，何不爲乎？貴賤小大，不出乎二端耳。貴賤無主而反覆流行，常也；大道甚夷而放心自得，通也；稟分有數而少謝多施，宜也；世道參差而行止適變，理也。德私則不嚴毅，福私則不久長，有畛域則不溥汎，有方所則有承接，扶翼之而兼懷之德喪矣。已上皆辭貴樂賤之義，忘我則無短長，忘心則無生死，忘位則無盈虛，忘年則任化，忘時則任遷，忘消息盈虛則孰爲之終始。夫物無時不生，無時不化，其變如驟，其移如馳，陰陽爾，四時爾，固將自化，何容心於爲不爲之間哉！

河伯曰：然則何貴於道耶！北海若曰：知道者必達於理，達理者必明於權，明權者不以物害己。至德者火弗能熱，水弗能溺，寒暑弗能害，禽獸弗能賊，非謂其薄之也，言察乎安危、寧於禍福、謹於去就，莫之能害也。故曰天在內，人在外，德在乎天，知乎見江南古藏本，舊作天。人之行，本乎天，位乎得，踔躅而屈伸，反要而語極。曰：何謂天？何謂人？北海若曰：牛馬四足是謂天，落馬首，穿牛鼻，是謂人。故曰：無以人滅天，無以故滅命，無以得殉名，謹守而勿失，是謂反其真。

知化化之道，達生生之理者，必能適物之權，故樂全而無傷，察安危，審禍福，謹去就故也。是以有德者內守天理，外修人事，然後位業可得，而進退出處在我，可以反要妙而語極致也。牛馬，天理也，穿絡之者以人滅天，飢渴馳驟以故滅命，黃馬驪牛則以得徇名也，守天而不失，還朴而不僞矣。

## 藏 用

夔憐蜺，蜺憐蛇，蛇憐風，風憐目，目憐心。夔謂蜺曰：吾以一足踟躕而行，予無如矣，今子之使萬足獨奈何？蜺曰：不然，子不見夫唾者乎，噴則大者如珠，小者如霧，雜而下者，不可勝數也，今予動吾天機而不知其所以然。蜺謂蛇曰：吾以衆足行，而不及子之無足，何也？蛇曰：夫天機之所動，何可易邪！吾安用足哉！蛇謂風曰：予動吾脊脅而行，則有似也，今子蓬蓬然起於北海，蓬蓬然入於南海，而似無有，何也？風曰：然，予蓬蓬然起於北海而入於南海也，然而指我則勝我，蹈我亦勝我。雖然，夫折大木蜚大屋者，唯我能也，故以衆小不勝爲大勝也，爲大勝者，唯聖人能之。

物有以少勝多、以無勝有者，皆天機時命使然，強勢不能奪，至理莫能究，其夔蜺蛇風相憐之謂歟！見莫如目，知莫如心，目見而弗辨者，蘊其明也，心知而弗言者，韜其智也，此以小不勝而爲大勝者也。

## 聖 勇

孔子遊於匡，宋人圍之數帀，而弦歌不輟。子路入見曰：何夫子之娛也？孔子曰：來，吾語汝。我諱窮久矣，而不免，命也；求通久矣，而不遇，時見江南古藏本，舊作得。也，當堯舜之時，而天下無窮人，非知得也；當桀紂之時，並見張本，舊闕。而天下無通人，非知失也，時勢適然。夫水行不避蛟龍者，漁父之勇也；陸行不避兕虎者，獵夫之勇也；白刃交於前視死若生者，烈士之勇也；知窮之有命，知通之有時，臨大難而不懼者，聖人之勇也。由處矣，吾命有所制矣。無幾何，將甲者進辭曰：以爲陽虎也，故圍之，今非也，請辭而退。

孔子游匡，宋人圍之，所謂指蹈皆勝我也；及其知非，請辭而退，所謂大勝者也。

## 曲 見

公孫龍問於魏牟曰：龍少學先王之道，長而明仁義之行，合同異，離堅白，然不然，可不可，困百家之知，窮衆口之辯，吾自以爲至達已，今吾聞莊子之言，汙然異之，不知論之不及與？知之弗若與？今吾無所開吾喙？敢問其方。公子牟隱机太息，仰天而笑曰：子獨不聞夫埳井之鼃乎？謂東海之鼃曰：吾樂與，吾出跳見江南古藏本，舊作跳梁。乎井幹之上，入休乎缺甃之崖，赴水則接腋持頤，蹶泥則沒足滅跗，還虵蟹與科斗，莫吾能若也。且夫擅一壑之水，而跨時埳井之樂，此亦至矣，夫子奚不時來入觀乎？東海之鼃左足未入而右膝已繁矣，於是逡巡而却，告之海曰：夫千里之遠，不足以舉其大，千仞之高，不足以極其深。禹之時十年九潦而水弗爲加益，湯之時八年七旱而崖不爲加損，夫不爲頃久推移，不以多少進退者，此亦東海之大樂也。於是埳井之蛙聞之，適適然驚、規規然自失也。且夫知不知是非之境，而猶欲觀於莊子之言，是猶使蚊負山、商鉅馳河也，必不勝任矣。且夫知不知論極妙之言，而自適一時之利者，是非埳井之蛙與！且彼方趾黃泉而登大皇，無南無北，夷然四解，淪於不測，無東無西，始於玄冥，反於大道，子乃規規然而求之以察，索之以辯，是真用管闚天、用錐指地也，不亦小乎？子往矣，且子獨不聞夫壽陵餘子之學行於邯鄲與！未得國能，又失其故行矣，直匍匐而歸耳。今子不去，將忘子之故，失子之業。公孫龍口呿而不合，舌舉而不下，乃逸而走。

野人以負日之煖，而欲獻之至尊，猶井蛙之將命海鼃也。海大故水旱不能損益，人之達道者，寵辱豈能忻戚哉。寓言以是非爲主，舍是非而明寓言，詎知輕重者耶！時利宗乎極致，夸時利者未聞久長之策也。且莊子者方躡沉溺，已超象外，隱淪神化，東西俱忘，爰自寥天，復乎原本，若乃以規法之言而求之以察，是用管窺天之類，是故學行失步，匍匐而歸，學智忘真，汙然喪道矣。

## 養形忘利

莊子釣於濮水，楚王使大夫二人往先焉，曰：願以境内累矣。莊子持竿不顧曰：吾聞楚有神龜，死已三千歲矣，王巾笥而藏之廟堂之上，此龜者寧其死爲留骨而貴乎，寧其生而曳尾於塗中乎？二大夫曰：寧生而曳尾於塗中。莊子曰：往矣，吾將曳尾於塗中。

是知軒冕外物，非性命之有也。

## 糠粃爵祿

惠子相梁，莊子往見之，或謂惠子曰：莊子來，欲代子相。於是惠子恐，搜於國中三日三夜。莊子往見之曰：南方有鳥，其名鵲鵲，子知之乎？夫鵲鵲發於南海而飛於北海，非梧桐不止，非練實不食，非醴泉不飲。於是鴟得腐鼠，鵲鵲過之，仰而視之曰：嚇！今子欲以子之梁國而嚇我邪！

惠子恐而搜於國中，是謂親權者不能與人柄，以富顯自驕，何異鴟據腐鼠而嚇邪！

## 樂 全

莊子與惠子遊於濠梁之上，莊子曰：儵魚出遊從容，是魚樂也。惠子曰：子非魚，安知魚之樂。莊子曰：子非我，安知我不知魚之樂。惠子曰：我非子，固不知子矣，子固非魚也，子之不知魚之樂全矣。莊子曰：請循其本，且見張本。舊闕。子曰汝安知魚樂云者，既已知吾知之而問我，我知之濠上也。

在我逍遙，則見魚之容與！惠子以人魚爲異，故興難辭，是失齊物之

旨。惠不知莊，事固然矣。莊不知魚，理豈然哉！尋惠子本問安知魚樂之句，是惠不知魚而問莊也，是以儻魚游泳從容者，唯莊知其樂乎濠上耳，蓋謂魚樂與人樂雖異，其於逍遙一也。

## 雜篇·至樂 二十二

### 至樂无爲

天下有至樂，音洛。篇內不出者皆同。至，極也。樂，歡也。無有哉？有可以活身者，無有哉？今奚爲奚據，奚避奚處，奚就奚去，奚樂奚惡？烏路切。夫天下之所尊者，富貴壽善也，所樂者，身安厚味美服好色音聲也，所下者，貧賤夭惡也，所苦者，身不得安逸，口不得厚味，形不得美服，目不得好色，耳不得音聲，若不得者，則大憂以懼，其爲形也亦愚哉！富者苦身疾作，多積財而不得盡用，其爲形也亦外矣。貴者夜以繼日，思慮善否，其爲形也亦疏矣。人之生也，與憂俱生，壽者惛惛音昏。張君房本作僭僭。久憂不死，何之苦也，其爲形也亦遠矣。列士爲天下見善矣，未足以活身，吾未知善之誠善邪、誠不善邪？若以爲善矣，不足活身，以爲不善矣，足以活人。故曰：忠諫不聽，蹲循勿爭。委順貌。故夫子胥爭之以殘其形，不爭，名亦不成。誠有善無有哉？今俗之所爲，與其所樂，吾又未知樂之果樂邪，果不樂邪？吾觀乎俗之所樂，舉羣趣者，誵誵戶耕切。李云：趣死貌。然如將不得已，而皆曰：樂者，吾未知之樂也，亦未知之不樂也，果有樂无有哉？吾以无爲而誠者爲樂矣，並見江南古藏本。舊作吾未之樂也，亦未之不樂也，果有樂无有哉，吾以无爲誠樂矣。又俗之所大苦也。故曰：至樂無樂，至譽無譽，天下是非果未可定也。雖然，無爲可以定是非，至樂活身，唯無爲幾存。請嘗試言之：天無爲以之清，地無爲以之寧，故兩無爲相合，萬物皆化生。見江南古藏本。舊闕。芒乎音荒。下同。芴乎，音忽。下同。芒然物之生，忽然物之出。忽生於无，芒成於有。而無從出乎？芴乎芒乎，而無有象乎？萬物職職，李云：繁殖貌。《爾雅》

云：職，主也，謂各有主而區別也。皆從無爲殖。故曰：天地無爲也而無不爲也，人也孰能得無爲哉！

若係爲據等八目，則其樂未必至，其身未必生，天下之所尊所樂者，皆外物來寄，不可必也。今以不得而憂懼，非愚而何？金玉軒冕，比形疏矣，繭然疲役，久生奚榮，烈士敢爲而身不免者，以爲天下見善故也，是皆知善之爲善，斯不善矣。善名不可必，必在全生而已。俗之所爲所樂，奔競諛諛然如將不得已，是以塵妄爲樂，而以無樂無譽爲苦，是非未定也。若乃自守分內，性真不移，可以定是非矣，兩無爲相合，澹然而衆美從之，上下有爲而不交，則合氣否塞矣。朕兆之初，本無出入形象之迹，然萬物皆自一氣芒芴而來，所謂造物者無物，而有物之自造也。人多前識，不能無心，安得無爲哉！

## 遣情累

莊子妻死，惠子弔之，莊子則方箕踞音據。成云：謂垂兩脚如簸箕形也。鼓盆瓦缶也。而歌。惠子曰：與人居，句絕。長子，丁丈切。句絕。老身，死不哭，亦足矣，又鼓盆而歌，不亦甚乎？莊子曰：不然。是其始死也，我獨何能無槩古代切。司馬云：感也。成云：驚歎也。然。察其始而本無生，非徒無生也，而本無形，非徒無形也，而本無氣，雜乎芒芴之間變而有氣，氣變而有形，形變而有生，今有變之而死，見江南古藏本，舊作今又變而之死。是相與爲春秋冬夏四時行也。人且偃然成云：安息貌。寢於巨室，天地之間。而我嗷嗷古吊切。文云：哭聲也。然隨而哭之，自以爲不通乎命，故止也。

聞死感槩，人之常情，鼓盆而歌，假物遣累也。人本無生，孰爲形氣，混乎冥漠之際，相因而有此生，今又化而歸無，何異四時代謝而往來無迹，推求原本，故止世慮也。



## 化 空

支離叔與滑音骨。介音界。叔二人。或以支幹離散爲善，或以滑稽介獨爲善。叔，善也。觀於冥伯之丘，崑崙力門切。之虛，音墟。冥冥大丘，峻極之墟。黃帝之所休，休息也。俄而柳生其左肘，竹九切。一作肘，音跌。云：肘足上也。其意蹷蹷姑衛切。成云：驚動貌。《集韻》：僵也。一曰跳也。蹷與蹷蹷同。然惡烏路切。下同。之。支離叔曰：子惡烏路切。下同。之乎？滑介叔曰：亡，予何惡！生者假借也，假之而生，生者塵垢音苟。也，死生爲晝夜，且吾與子觀化而化及我，我又何惡焉。

二人或以支幹離散爲善，或以滑稽介獨爲善，觀化空於冥冥之丘、峻極之墟。而柳發其肘左，取生義，夫生者化空之假借，於空論之，生爲塵垢，長景況之，死爲昏夜也。是故生生者不生，化化者不化，今有生乃常生，忽化乃常化，以常生觀常化，則知常生不真，常化不空，空化相通，於理何患哉！

## 兩 謬

莊子之楚，見空髑音獨。髑，音樓。髑然有形，苦堯切。白骨貌，有枯形也。擻苦弔、古的二切。《說文》作擻，云：旁擊也。以馬捶，拙蘘切。馬杖也。因而問之曰：夫子貪生失理而爲此乎？將子有亡國之事、斧鉞之誅而爲此乎？將子有不善之行，愧遺唯季切。父母妻子之醜，而爲此乎？將子有凍丁貢切。餒奴罪切。之患而爲此乎？將子之春秋，故及此乎？於是語卒，援音袁。髑髑枕針鳩切。而卧。夜半髑髑見賢徧切。夢曰：向子之談者見張君房本。舊闕。似辯士，諸子所言，皆生人之累也。死則無此矣，子欲聞死之說乎？莊子曰：然。髑髑曰：死無君於上，無臣於下，亦無四時之事，從然七容切。謂從容休燕也。張君房本作泛然。以天地爲春秋，雖南面王，樂不能過也。莊子不信，曰：吾使司命復音服。生子形，爲子骨肉肌膚，反子父母妻子間里知識，子欲之乎？髑髑深瞋音頻。蹙頞上子六切，本亦作頞。下於葛

切。李云：曠顧者愁貌。曰：吾安能棄南面王樂音洛。而復扶又切。爲生人之勞乎！見張君房本，舊作而復爲人間之勞乎。

好生者以世事爲樂，趣死者以人間爲勞，唯超死生者可以論其大槩矣。

## 名 實

顏淵東之齊，孔子有憂色，子貢下席而問曰：小子敢問回東之齊，夫子有憂色，何邪？孔子曰：善哉汝問。昔者管子有言，丘甚善之，曰：褚音貯。囊也。小者不可以懷容受也。大，綆格猛切。汲索也。短者不可以汲居及切。深。夫若是者，以爲命有所成，而形有所適也。夫不可損益，吾恐回與齊侯言堯、舜、黃帝之道，而重直用切。以燧人、神農之言，彼將內求於己而不得，不得則惑，人惑則死。且汝獨不聞邪！昔者海鳥司馬云：《國語》曰：爰居也。止魯東門之外三日，臧文仲使國人祭之，非魯侯也。祀於魯廟，故言魯侯筵之。爰居一名雜縣，舉頭高八尺，形似鳳皇。止於魯郊，魯侯御音訝。而觴音傷。之於廟，司馬云：飲之於廟中也。奏九韶常遙切。舜樂名。以爲樂，具太牢以爲膳，鳥乃眩音縣。目无常主也。視憂悲，不敢食一臠，里轉切。不敢飲一杯，三日而死。此以己養養鳥也，非以鳥養養鳥也。夫以鳥養養鳥者，宜栖之深林，遊之壇大丹切。司馬本作澶，音但。云：水沙澶也，洲渚也。陸，浮之江湖，食音嗣。之鱗鰵，音秋條。隨行戶剛切。列而止，委於危切。蛇以支切。寬舒自得貌。而處，彼唯人言之惡聞，奚以夫譊譊乃交切。喧聲也。爲乎？咸池已解《天運篇》。九韶之樂，張之洞庭已解《天運篇》。之野，鳥聞之而飛，獸聞之而走，魚聞之而下入，人卒子忽切。衆也。又寸忽切。聞之，相與還音環。繞也。而觀之。魚處水而生，人處水而死，彼必相與異其好惡，好惡異見江南古藏本。舊作彼必相與異其好惡故異也。故先聖不一其能，不同其事，名止於實，義設於適，是之謂條達而福持。

受命自然，不可勸成，其猶小囊，詎能容大。稟質定分，不可遷適，其猶短綆，詎能引深。海鳥之驚九韶，猶齊侯之惑皇道也，人有賢愚，故莫能一，事有古今，故莫能同，名實不越則有條而不塞，義理適用則禍去而不危矣。

## 化 機

列子行食於道從，司馬云：從，道旁也。本作徒。見百歲髑髏，捷居輦切。拔也。蓬步東切。而指之曰：唯予與汝知而未嘗死未嘗生也，汝果元嘉本作過。養司馬本作暮，云死也。乎？予果元嘉本作過。歡司馬本作嚙，云：呼聲，謂生也。乎？種章勇切。有幾，居豈切。若電爲鶉，見劉得一本。舊闕。得水則爲𧈧，音繼。司馬本作繼，云：萬物雖有兆朕，得水土之氣乃相繼而生，《說文》：繼續也。一曰反繼爲絕。今本作繼，是反繼也。得水土之際則爲鼃戶，鳩切。蟻步田切。之衣，司馬云：言物根在水土際，布在水中，就水上視之不見，按之可得，如張綿在水中，楚人謂之鼃蟻之衣。成云：青苔布在水中若張綿。俗謂之蝦蟇衣也。生於陵屯，徒門切。山阜也。則爲陵舄，音昔。司馬云：言物因水成，而陸產生於陵屯，化作車前草，改名陵舄也。一名澤舄，隨燥濕變也，然不知其祖，言物化无常形也，人之死也，亦或化爲草木，草木之精，或化爲人也。陵舄得鬱棲則爲烏足，李云：鬱棲，糞壤也，言陵舄在糞壤化爲烏足草。司馬云：鬱棲，蟲名，烏足，草名，生水邊也。言鬱棲在陵舄之中，則化爲烏足也。烏足之根爲蟪蛄，音齊曹。蟲名。其葉爲胡蝶，音牒。司馬云：蛺蝶也。草化爲蟲，蟲化爲草，未始有極。胡蝶胥也，胥，相胥也。言物相胥生也。化而爲蟲，生於竈下，司馬云：得熱炁而生也。其狀若脫，它括切。謂剥皮也。司馬音悅，云新出皮悅好也。其名爲鵽其俱切。掇，丁活切。鵽掇，蟲名。鵽掇千日爲鳥，其名爲乾音干。餘骨，乾餘骨之沫音末。李云：口中汁也。爲斯彌，蟲名。斯彌爲食醯，許兮切。司馬云：苦酒上蠅蠃也。食醯生乎頤輅，音怡路。蟲名。頤輅生乎黃軫，音況。蟲名。黃軫生乎九猷，音由。李云：九宜爲久，久，老也。猷，蟲名。九猷生乎胥莫逗切。芮，如銳切。小蟲也。喜去亂飛，又草名。胥芮生乎腐音輔。蠶，音權。蟲名。《爾雅》云：一名守瓜。又云：瓜中黃甲蟲，一云螢火蟲，一云蚋鼠。腐蠶生乎羊奚，羊奚比毗志切。已上朱書二十字見張君房本，舊闕。乎不斲息尹切。久竹，生青寧，司馬云：羊奚，草名。根似蕪菁，與久竹比合而爲物，皆生於非類也。青寧，蟲名。青寧生程，尸佼云：程者中國謂之豹，越人謂之貆，即豹之別名也。程生馬，馬生人，《史記·年表》云：秦孝公二十年馬生人。蓋一炁之變，无所不適也。人又反入於機，萬物皆出於機，皆入於機。

予未嘗死也，其生果歡樂乎？汝未嘗生也，其死果頤養乎？此欲極其不

生不死之理也。時列子適逢道邊有蛙，因指以論化機，蛙感火氣則爲鶉，得水則相繼而生，《說文》反蠃爲𧈧，遺類水涯，著苔如衣，乃科斗所出，遺類於山阜之上，變而爲草，名曰陵舄，藥名車前草。此有情入於無情，猶山蚓化爲百合也。鬱棲，糞壤也，烏足草生水邊，俗呼墨草，烏髭方用之，一草而根葉異類，由氣有陰陽也。蓋物有相胥生者，不可一槩論，胡蝶就熱化爲鵲掇，初出形潔若脫，千日能飛，其沫爲斯彌之蟲，此言小大之化相因無窮，斯彌爲食醢已下，明有情之物，觸類而變，瞽芮，爛草，腐蠹，螢也，此乃無情化有情，猶朽麥之爲胡蝶也。腐蠹生羊奚，即羊蹄菜，有情復歸無情也。羊奚與不生簞之老竹比合，兩無情相交而生青寧，形似刺蝟，俗云敗竹園多刺蝟是也。《尸子》云越人呼豹曰程，或謂程爲獬，《搜神記》秦孝公時有馬生人，蓋五運六氣觸物感變，難以致詰也。

## 雜篇·達生 二十三

### 達 生

達生達，暢也。生，有生也。之情者，不務生之所無以爲；達命之情者，不務知之所無奈何。養形必先之以物，物有餘而形不養者有之矣。有生必先無離力智切。下同。形，形不離而生亡者有之矣。生之來不能却，其去不能止，悲夫，世之人以爲養形足以存生，而養形果不足以存生，則世奚足爲哉！雖不足爲而不可不爲者，其爲不免矣。夫欲免爲形者，莫如棄世，棄世則無累，無累則正平，正平則與彼更生，更生則幾矣。事奚足棄，生奚足遺，棄事則形不勞，遺生則精不虧，夫形全精復，與天爲一。天地者，萬物之父母也。合則成體，散則成始，形精不虧，是謂能移，精而又精，反以相息亮切。天。

達生之情者，任其富貴貧賤，知富非強趨、貴非妄慕也。達命之情者，任其賢愚通塞，知賢非猝學、通非力致也。金玉潤屋而儉嗇不用，神氣壯盛逐物而亡者，莫不皆然。悲夫世人之倒見，唯外身者可無死地矣。理皆自爾，雖不足爲，然有生之所未免也。夫爲形之患，莫大於世緣，忘緣則無累，無累則不危而德業日新，同彼再生，庶幾乎道矣。在世非事不立，有身非生莫存，則事奚足棄、生奚足遺哉！至於形全精復，與造化爲一，合則成羣物之體，散則歸太無之先也。善達生者忘形故形全，忘生故精復，形精既壯，與化推移，研妙不已，歸輔其自然而已。

## 專 氣

子列子問關尹子關令尹喜，字公度，周大夫也。曰：至人潛行不窒，珍悉切。蹈火徒報切。不熱，行乎萬物之上而不慄，請問何以至於此。關尹曰：是純氣之守也，非知巧果敢之列。音例。居，予語魚據切。汝。凡有貌象聲色者，皆物也，物與物何以相遠，夫奚足以至乎先，是形見江南古藏本。舊闕。色而已，則物之造乎不形而止乎無所化。夫得是是者不形不化之道也。而窮之者，物焉得而正焉。見張君房本，舊作止。彼將處乎不淫之度，而藏乎無端之紀，遊乎萬物之所終始，壹其性，養其氣，合其德，以通乎物之所造，夫若是者，其天守全，其神無郤，物奚自入焉。於虔切。夫醉者之墜直類切。後同。車，雖疾不死，骨節與人同，而犯害與人異，其神全也。乘音繩。亦不知也，墜亦不知也，死生驚懼不入乎其中，是故選音誤。《爾雅》云：選，忤也。郭云：干觸也。物而不慄，之涉切。懼也。彼得全於酒而猶若是，而況得全於天乎！聖人藏於天，故莫之能傷也。復讎者不折之舌切。鑊音莫。干，鑊邪、干將，古之利劍名，已解《大宗師》。雖有忤心之豉切。李音支。害也。字書云：狠也。者不怨飄瓦，匹遙切。李云：飄，落也。是以天下平均，故無攻戰之亂、無殺戮之刑者，由此道也。不開人之天，劉得一作不開人之天，舊作不開人之天。而開天之天，開天者德生，開人者賊生，不厭於艷切。其天，不忽於人民，幾音機。乎其真。

以其密行，故能冥通，不遇虎兇、不避甲兵者，持守不雜，心無機巧也。物皆形色，孰爲先後，有形則有所化，得是不形不化之道，故無有窮盡，物各自正矣。彼謂潛行而不窒者，不越法度，含章藏耀，遊乎萬物之終始，歸乎太空而已矣。壹性、養氣、合德，三者混一，與化同矣，其天守全，其神無郤，室熱惴慄，何事入焉。醉者之物莫能傷，亦猶是也。聖人蘊乎天理，鬼神莫覩其迹，有心有情，則招折招怨矣。故以之治身則和暢，治國則太平，不以知役知，而以忘去忘，忘機者德，役知者賊，不以有德自足，不以無知爲失，則近乎真道矣。

## 一 志

仲尼適楚，出於林中，見痾於禹切。僂音縷。文云：痾僂，曲脊也。者承蜩音條。蟬也。文云：承蜩謂黏蟬也。古人用之以爲醢。猶掇丁活切。拾也。之也。仲尼曰：子巧乎，有道邪？曰：我有道也。五六月，司馬云：黏蟬時也。成云：習其累丸，近於半歲。累丸少彼切。下同。文云：謂累彈丸於竿頭也。二而不墜，則失者錙側其切。錙，《說文》：六銖也。一曰八兩曰錙。銖，音殊。銖，《說文》：權十分黍之重也。一曰十黍爲綮，十綮爲銖。累三而不墜，則失者十一，累五而不墜，猶掇之也。吾處身也若槪其月切。株音誅。枸，其俱切。與劬同音。立木也。槪株枸者，斷木也。張君房及江南古藏並《集韻》所說並從枸，舊本從拘，恐寫誤。吾執執，持也。臂也若槁若老切。木之枝，雖天地之大、萬物之多，而唯蜩翼之知，吾不反不側，不以萬物易蜩之翼，何爲而不得。孔子顧謂弟子曰：用志不分，乃凝於神，其痾僂丈人之謂乎！

蜩可以作醢，故承取之，初習承蜩，累彈丸於竿頭，以驗其手不搖動，累二丸而不落失，蜩猶錙銖，至累五而不落，則身如斷木，臂如槁枝，蜩集而不疑，故取之如掇也。由是知一志凝神，則道無不得，豈特來蜩之翼而已哉！

## 矜 重

顏淵問仲尼曰：吾嘗濟乎觴深之淵，成云：觴深，淵名，其狀似杯，因以爲名，在宋國。津人操舟七曹切。成云：捉也。若神，吾問焉曰：操舟可學邪？曰：可，善游者數音朔。下同。能。若乃夫没人，則未嘗見舟而便操之也。吾問焉而不吾告，敢問何謂也？仲尼曰：善游者數能，忘水也；若乃夫没人之未嘗見舟而便操之也，彼視淵若陵，視舟之覆，芳服切。下同。猶其車却也，覆却萬方陳乎前，而不得入其舍，惡音烏。往而不暇，以瓦投朱戊切。見江南古藏本，舊作注。李云：擊也。《呂覽》引莊子曰：以瓦投者翔，以鉤投者戰，以黃金投者殆，其投一也，而有所殆者，必外有所重者也，

外有所重者泄，蓋內掘也。《符子》曰：夏王使羿射方寸之帖，徑寸之的，百發而無遺鏃，王曰：善，爾更射中，賞爾萬金，不中則削爾十邑。羿色動心戰，射皆不中。王曰：爾由喜懼爲災，萬金爲患故也。此義相類耳。者巧，以鉤投者憚，徒丹切。忌惡也，難也，驚也，懼也。以黃金投者殞，又作殞，音昏，門緬二音，普訓矜。其巧一也，而有所矜，則重外也，凡外重者內拙。

操舟若神，善游者不懼溺也，驚沒於水者，則不待舟即便操之，言忘水者猶存舟，未嘗見舟兼忘之也。憂患不入於胸次，內有餘裕故也。喻瓦缶賤器，投物必審，鉤金重寶，射物戰殆，是知輕水則舟可操，重貨則心計拙，此自然之理也。

## 善 牧

田開之李云：開之，名也。見周威公，崔云：周威公竈。成云：周公之後，莫顯其名，食采於周，謚曰威。威公曰：吾聞祝之六切。腎市軫切。或作賢。學生，司馬云：學養生之道也。吾子與祝腎遊，亦何聞焉？田開之曰：開之操七曹切。拔蒲末切。李云：把也。簪以歲切。帚也。以待門庭，亦何聞於夫子。威公曰：田子無讓，寡人願聞之。開之曰：聞之夫子曰：善養生者若牧羊然，視其後者而鞭如字。崔本作趨，云匿也。視其羸瘦在後者，匿著牢中養之也。趨音搜，趨趨，行不進也。之。威公曰：何謂也？田開之曰：魯有單豹音善。李云：魯之隱人。者，巖居而水飲，不與民共利，行年七十，而猶有嬰兒之色，不幸遇餓虎，餓虎殺而食之。有張毅成云：魯之富人。者，見高門縣薄，簾也。見劉得一本。舊闕。無不走也，李云：走，往也。司馬云：走，至也，言无不至門奉富貴也。行年四十，而有內熱之病以死。豹養其內而虎食其外，毅養其外而病攻其內，此二子者，皆不鞭其後者也。

養生若牧羊，好逕故後，不得不鞭也。單豹養而不謹外，張毅修外而不治內，皆失鞭者也。



## 戒 微

仲尼曰：無入而藏，無出而陽，柴立其中央，三者若得，其名必極。夫畏塗險阻之道，可畏懼者也。者，十殺一人，則父子兄弟相戒也，必盛卒徒子忽切。卒，衆也。而後敢出焉，不亦知乎？人之所最畏見江南古藏本，舊作取。者，衽席而甚切。卧衣也。從竹卧席也。通作衽。之上，飲食之間，而不知爲之戒者過也。

入而藏，謂幽棲離羣昧於應物，出而陽者奔馳溷俗忘於自治，柴立中央者，朱愚不通少適變也，三者無係，是得常名而臻極致者也。夫畏塗寵顯易戒，衽席微暗難持，故美善之爲害也久矣，而天下不覺也。

## 趣 異

祝宗人成云：太常六祝官也。玄端以臨牢筴，初革切。李云：牢，豕室也；筴，木欄也。說如字。又始銳切。𦍋直例切。曰：汝奚惡烏路切。死，吾將三月𦍋音患。養也。見張君房本，舊作犧，篇韻不收，恐轉寫誤。亦本作犧。汝，十日戒，三日齋，側皆切。後章同。藉在夜切。白茅，加汝肩尻苦羔切。肫也。乎雕俎莊呂切。俎，盛肉器也。彫謂畫飾之也。之上，則汝爲之乎？爲於僞切。自爲同。𦍋謀曰：不如食音嗣。以糠音康。糟，音遭。而錯七故切。置也。之牢筴之中；自爲謀，則苟生有軒冕之尊，死得於豚直轉切。楯食準切。豚猶篆，楯猶案也。之上，聚僂力主切。棺槨也。之中，則爲之。爲𦍋謀則去之，自爲謀則取之，其見張潛夫本，舊闕。所異𦍋者何也。

解牛皮爲鼓，正三軍之衆，爲牛計者不若服軛，狐白之裘，天子被之而坐廟堂，爲狐計者不若走澤，此牢𦍋所以不願加肩尻乎彫俎之上，達生達命之旨者也。

## 釋 疑

桓公田於澤，管仲御，見鬼焉。公撫管仲之手曰：仲父音甫。何見？對曰：臣無所見。公反，諛於代切。《說文》：可惡之辭也。詒吐代切。司馬云：懈倦貌。李云：詒詒，失魂魄貌。爲病，數所主切。日不出。齊士有皇子告敖司馬云：姓皇，字告敖，齊之賢士也。者曰：公則自傷，鬼惡音烏。能傷公。夫忿拂粉切。湊敕六切。之氣散而不反則爲不足，李云：忿，滿也。湊，結聚也。精神有逆，則陰陽結於內，魂魄散於外，故曰不足也。上而不下則使人善怒，下而不上則使人善忘，李云：陽散則陰凝，故怒，陰發陽伏，故忘也。不上不下，中丁仲切。身當心則爲病。李云：上下不和，則陰陽爭而攻心。心，精神主，故病也。桓公曰：然則有鬼乎？曰有。沈有履，司馬本作沈有漏。云：沈水汙泥也。漏，神名也。竈有髻，音結。司馬云：髻，竈神名，著赤衣，狀如美女。戶內之煩壤，雷霆處之。劉得一本作墳壤。云：墳壤中鬼名雷霆。東北方之下者，倍音裴。阿鮭戶蝸切。蠱音龍，司馬云：倍阿鮭蠱，神名，狀如小兒，長一尺四寸，黑衣赤幘，大冠帶劍，持戟。躍之。西北方之下者，則洸陽音逸。司馬云：洸陽，豹頭馬尾。一作狗頭，一云神名也。處之。水有罔象，司馬本作无傷，云：狀如小兒赤黑色，赤爪，大耳，長臂。一云水神名。丘有羆，所巾切。司馬云：狀如狗，有角，文身，五采。山有夔，求龜切。狀如鼓而一足。野有彷徨。徨，音皇。司馬云：狀如蛇，兩頭，五采文。澤有委於危切。蛇如字。公曰：請問委蛇之狀何如？皇子曰：委蛇其大如轂，古祿切。《說文》：輻所湊也。其長如轅，於元切。《說文》：輓也。紫衣而朱冠，司馬本作俞冠。云俞國之冠也，其制似螺。其爲物也，惡烏路切。聞雷車之聲，則捧芳勇切。其首而立，見之者殆乎霸。桓公輶敕引切。李云：大笑貌。然而笑曰：此寡人之所見者也。於是正衣冠與之坐，不終日而不知病之去也。

管仲無心，故不見鬼，桓公有心，故見鬼成疾。陽氣上發而陰凝則善怒，陰氣下發而陽伏則善忘，不上不下，中身當心，則爲病矣。及問鬼之有無，答以有鬼之狀，洵陳委蛇，則正中公之所見，是知欲無大小，得之則喜，疑無巨細，釋之則散，臨機貴於啓悟，此至人所以未能忘言也。

## 不 争

紀渚所景切。人姓名。子爲於僞切。王司馬云：齊王也。文本作周宣王。養鬪鷄，十日而問鷄已乎？曰未也，方虛僞。居橋切。李云：高仰頭也。成云：虛怯僞矜，自恃意氣。而恃氣。十日又問。曰未也，猶應響許文切。景。於領切。李云：應響鳴，顧景行。十日又問，曰未也，猶疾視而盛氣。十日又問，曰幾矣。鷄雖有鳴者，已無變矣，望之似木鷄矣，其德全矣，異雞無敢應，見見文如海本。舊闕。者反走矣。

虛僞恃氣，軒昂夸大也；猶應響景，矜銜瞻顧也；疾視盛氣，便僻光儀也；雖鳴無變，同塵不耀也。至於望之似木鷄，異鷄無敢應，則心灰形槁，物莫與爭矣。

## 習成性

孔子觀於呂梁，司馬云：河水有石絕處也。今西河離石西有此縣絕。世謂之黃梁。《淮南子》：古者龍門未鑿，河出孟門之上也。成云：宋國彭城郡有呂梁，水縣注而下，當是此也。縣水三十仞，音刃，七尺曰仞。流沫音末。四十里，鼃音元。鼃徒多切。魚鼃必滅切。之所不能游也，見一丈夫游之，以爲有苦病也。而欲死也，使弟子並流而拯。拯救之拯。之，數百步而出，被皮寄切。髮行歌司馬本作行道，云：常行之道也。而遊於塘下。孔子從而問焉，曰：吾以子爲鬼，察子則人也，請問蹈水有道乎？曰：亡，吾無道。吾始乎故，長乎丁丈切。下同。性，成乎命，與齊司馬云：回水如磨齊也。郭云：磨翁而旋入者齊也。關東呼磴曰磨翁。俱入，與汨古忽切。司馬云：湧波也。郭云：回伏而湧出者汨也。偕出，從水之道而不爲私焉，此吾所以蹈之也。孔子曰：何謂始乎故、長乎性、成乎命？曰：吾生於陵而安於陵，故也；長於水而安於水，性也；不知吾所以然而然，命也。

齊如磨臍之旋入，汨者汨湫而涌出，私己逆水，則不能成性命矣。生於

陵而安於陵，不失其故也；長於水而入不危，因同本性也；游於湍流而不知所以然者，遂成天命也。明達生之旨有如呂梁之游，因習而成者也。

## 擇 材

梓慶李云：魯大匠也。梓，官也。慶，名也。削木爲鑿，據、巨二音。司馬云：樂器也。形似夾鐘，削木爲之，與虞同。云：飛虞，天上神獸也。鹿頭龍身。又鍾鼓之柷，多飾爲猛獸。鑿成，見者驚猶鬼神。魯侯見而問焉，曰：子何術以爲焉？對曰：臣工人，何術之有。雖然，有一焉，臣將爲鑿，未嘗敢以耗呼報切。損也。氣文云：氣耗則心動，心動則神不專也。也，必齊側皆切。下同。以靜心，齊三日不敢懷慶賞爵祿，齊五日，不敢懷非譽巧拙，齊七日，輒然丁協切。不動貌。忘吾有四肢形體也。當是時也，無公朝，直遙切。其巧專而外滑音骨。亂也。消，然後入山林，觀天性，形軀至矣，然後成見賢偏切。鑿，然後加手焉。不然則已，則以天合天，器之所以疑神者其由是與！音餘。由見江南古藏本，舊作其是與。

役慮則耗氣，無欲則靜心，不懷慶賞爵祿，屏外事也，不懷非譽巧拙，息內念也。忘吾形體，忘內外也，然後入山林采自然之材，合自然之巧，所以妙若鬼神，而魯侯疑其有術也。

## 過 巧

東野稷李云：東野，姓，稷名。司馬云：孫卿作東野畢御。以御見賢偏切。下同。莊公，舊音義云：衛莊公也。進退中繩，丁仲切。下同。左右旋中規，莊公以爲文弗過也，司馬云：謂過織組之文。使之鉤百而反，司馬云：稷自矜其能，圓而軀之，如鉤復迹，百反而不知止。顏闔戶臘切。魯之賢人。元嘉本作盧，崔同。遇之，人見曰：稷之馬將敗。公密而不應，少焉果敗而反。公曰：子何以知之？曰：其馬力竭矣，而猶求焉，故曰敗。

御中規繩，如組織文繡，使之回還如鉤，百往百反，皆復故迹也。韓嬰曰：舜工於使人，造父工於使馬，不窮其民，故無逸民，不窮其馬，故無逸馬，馬之蹶敗，由策御之過分，民之知竭，由政教之苛察，故達命者不務知之所無奈何也。

## 忘 伎

工倕音垂。堯時巧人。旋而蓋規矩，指與物化而不以心稽，音雞。故其靈臺一而不桎。之實切。旋，疾也。工倕施巧旋疾，蓋亦不離於規矩指畫之間，與物之變化無異，而心未嘗稽留者，適任物性之自然，故神宇凝一而不桎閼也。忘足，屢九住切。之適也；忘要，一遙切。帶之適也；忘是非，張君房作忘是非，舊作知忘是非。心之適也；不內變，不外從，事會之適；始乎適而未嘗不適者，忘適之適也。

工倕之應物無滯而性不雜者，指與物化也，心無稽留故其靈臺一而不桎也。忘足忘腰末也，心忘是非則本亦忘矣，況於末乎！內外在我，所遇皆然，自適而常適，乃無適之適，工倕之妙，亦猶是也。

## 審 授

有孫休成云：魯人也。者，踵章勇切。司馬云：至也。門而訖敕駕切。司馬云：告也。子扁慶子音篇。李云：扁姓，慶子字也。成云：魯之賢人。曰：休居鄉不見謂不脩，臨難乃旦切。不見謂不勇，然而田原不遇歲，事君不遇世，賓必刃切。斥也。於鄉里，逐於州部，則胡罪乎？天哉，休惡音烏。下同。遇此命也？扁子曰：子獨不聞夫至人之自行邪！忘其肝膽，避其耳目，芒然武剛切。无心貌。彷徨。音傍皇。成云：放縱貌。乎塵垢之外，逍遙乎無事之業，是謂爲而不恃，長丁丈切。而不宰。今汝飾知以驚愚，脩身以明汙，音烏。昭昭乎若揭其列切。負也。日月而行也，汝得全而形軀，具而九竅，苦弔切。無中道夭於聾盲跛彼我切。蹇，紀輦切。而比如字。於人數，亦幸矣，又何暇乎天之怨哉？子往矣。孫子出，扁子入坐，有間，仰天而

歎。弟子問曰：先生何爲歎乎？扁子曰：向者休來，吾告之以至人之德，吾恐其驚而遂至於惑也。弟子曰：不然，孫子之所言是邪，先生之所言非邪，非固不能惑是；孫子所言非邪，先生所言是邪，彼固惑而來矣，又何罪焉？扁子曰：不然，昔有鳥止於魯郊，魯君說之，爲於僞切。具太牢以饗之，奏九韶以樂音洛。下同。之，鳥乃始憂悲眩視，不敢飲食，此之謂以己養養鳥也。若夫以鳥養養鳥者，宜棲之深林，浮之江湖，食音嗣。之以委於危切。蛇，如字。李云：大鳥吞蛇。司馬云：委蛇，泥鰌也。則安平陸而已矣。安，見劉得一本。舊闕。今休款啓李云：款，空也。啓，開也。如空之開，所見小也。又款曲啓發也。寡聞之民也，吾告以至人之德，譬之若載騷音奚。小鼠。以車馬，樂鵠音晏。雀類。以鐘鼓也，彼又惡能無驚乎哉！

休自謂身脩志勇，所造不遇，乃不知天命妄興憂歎也。夫至人之行，不願人知，忘其肝膽，況喜怒乎？遺其耳目，況見聞乎？脩勇賓逐，皆塵垢也，自行遺忘，皆無事也。今休將爲而恃、欲長而宰，要人知用，矜伐苟免，幸類完人耳。蓋孫休欲務生之所無以爲，故扁子答以知之所無奈何，是知大聲至音，里巷俗夫之所必惑也，惡得無驚乎哉！

## 雜篇·山木 二十四

### 顯晦在道

莊子行於山中，《釋名》：山，產也，產生物也。《說文》云：山，宣也，能宣散氣生萬物也。見大木《釋名》云：木，冒也，冒地而生也。李云：木，衆林之總名。《白虎通》云：木，踊也。枝葉盛茂，伐木者止其旁而不取也。問其故，曰無所可用。莊子曰：此木以不材得終其天年。夫子成云：門人呼莊子爲夫子也。出於山，舍成云：舍，息也。於故人之家，故人喜，命豎子殺鴈而烹普彭切。煮也。之。豎子請曰：其一能鳴，其一不能鳴，奚殺？主人曰：殺不能鳴者。明日，弟子問莊子曰：昨日山中之木以不材得終其天年，今主人之鴈以不材死，先生將何處？莊子笑曰：周將處夫材與不材之間。材與不材之間，似之而非也，故未免乎累，若夫乘道德而浮遊則不然，無譽無訾，音紫。毀也。一龍一蛇，與時俱化，而無肯專爲，一上一下，以和爲量，音亮。浮遊乎萬物之祖，物物而不物於物，則胡可得而累邪？此神農、黃帝之法則也。若夫萬物之情、人倫之傳直專切。司馬云：事類可傳行也。則不然，合則離，成則毀，廉則挫，子卧切。尊則議，有爲則虧，賢則謀，不肖則欺，胡可得而必乎哉？悲夫！弟子志之，其唯道德之鄉乎！

鴈之不存者，無其文也，木之大本者，有其質也，至人藏其質而混其文，所以遊於世而不僻，道德日新也，浮遊無迹也。無譽訾則能括囊，同龍蛇則能顯晦，與時化則隨世宜，無專爲則可上下，以和爲量，動則循理，遊乎物祖，爲不逐末。如此則世累莫干，太古之道也。若夫物情賢則謀，猶材木也，不肖則欺，猶默鴈也，道德之鄉，在乎不必而無迹也。

## 文皮爲災

市南宜僚了蕭切。司馬云：姓熊，名宜僚。居於市南，因以爲號，楚人也。見魯侯，文云：魯哀公也。成云：先王，王季、文王；先君，周公、伯禽也。魯侯有憂色，市南子曰：君有憂色，何也？魯侯曰：吾學先王之道，脩先君之業，吾敬鬼尊賢，親而行之，無須臾離力智切。居，成本讀句絕。云：離，離散也。居，安居也。然不免於患，吾是以憂。市南子曰：君之除患之術淺矣。夫豐司馬云：豐，大也。狐文豹，棲於山林，伏於巖穴，靜也，夜行晝居，戒也，雖飢渴隱約，猶且胥疏胥，相也。疏，稀也。謂相望稀疏也。於江湖之上而求食焉，定也。然且不免於罔羅機辟婢亦切。成云：機辟，置罟也。之患，是何罪之有哉！其皮爲之災也。今魯國非獨君之皮邪？吾願君剝形音枯，成云：忘身也。去皮，起呂切。文云：遺魯也。下去欲去君同。灑心先典切。去欲，而遊於無人之野。南越有邑焉，名爲建德之國，其民愚而朴，少私而寡欲，知作而不知藏，與而不求其報，不知義之所適，不知禮之所將，猖狂成云：无心也。妄行，成云：混迹也。乃蹈乎大方，其生可樂，音洛。其死可葬。吾願君去國捐俗，與道相輔行。君曰：彼其道遠而險，又有江山，我無舟車，奈何！市南子曰：君無形倨，音據。司馬云：无倨傲其形。無留居司馬云：无留安其居。以爲君車。君曰：彼其道幽遠而無人，吾誰與爲鄰，吾無糧，我無食，安得而至焉。市南子曰：少君之費，寡君之欲，雖無糧而乃足。君其涉於江而浮於海，望之而不見其崖，愈往而不知其所窮，送君者皆自崖而反，君自此遠矣。故有人者累，見有於人者憂，故堯非有人，非見有於人也。吾願去君之累，除君之憂，而獨與道遊於大莫莫，無也。之國。

剝形則文皮去，灑心則嗜欲除，既能自治，則是遊於無人之野，去此尚賢，取彼立德，是爲建德之國；愚故少私，朴故寡欲，知義所適故藏，知禮所將故報，不猖狂何緣遊方外，不妄行何緣蹈大方，生可樂，死可葬，終始居而不離也，願君去其緒餘，與精妙相輔而行，憂無舟車，未能懸解，又憂道遠無糧，攀緣未絕也，少費寡欲，無糧自足，鶉居而鷇食也。涉江浮海，望不見崖，絕塵無著也，自崖而反，言力小者不前，君自此遠矣，視聽不及



也。堯非有人，忘汾水也，非見有於人，日用不知也。我忘人則無累，人忘我則無憂，故獨與道遊於大莫之國，大莫之國，謂造化也。

## 虛己免害

方舟方，《說文》：併船也，象兩舟。而濟於河，有虛船來觸舟，雖有憚必善切。《爾雅》云：急也。心之人不怒；有一人在其上，則呼火故切。下同。號呼也。張歛許及切。張，開也。歛，斂也。之，一呼而不聞，再呼而不聞，於是三呼邪，則必以惡聲隨之。向也不怒而今也怒，向也虛而今也實，人能虛己以遊，世其孰能害之也。

虛船觸舟，喻無心而遇物，向也不怒，非有人也，而今也怒，見有於人也，人不怒虛舟，則物不害虛己可知矣。

## 因循成化

北宮奢李云：衛大夫，居北宮。因以爲號，奢其名也。爲於僞切。衛靈公賦斂力豔切。以爲鐘，樂器名也。或云鑄鐘十二口。爲壇言鑄鐘先須設祭，故爲壇也。乎郭門之外，三月而成上下之縣。司馬云：八音備爲縣，而聲有高下之異。或云：架上下兩層也。王子慶忌李云：王之族也，慶忌名也，周大夫也，怪其簡速，故問之。見而問焉，曰：子何術之設？奢曰：一之間無敢設也，奢聞之，既雕既琢，復歸於朴，侗乎吐東切。无知貌。其無識，儻乎敕蕩切。其怠疑，萃乎在醉切。聚也。芒乎莫郎切。其送往而迎來，來者勿禁，往者勿止，從其彊梁，成云：剛彊難賦者，從而任之。隨其曲傅，音附。司馬云：謂曲附己者，隨而順之。因其自窮，故朝夕賦斂而毫毛不挫，子卧切，成云：挫，損也。而況有大塗成云：大道也。者乎。

用心專一於其間，豈敢妄設邪！雕琢復朴，制度淳古也，倘乎怠疑，個儻無退也，勤誠將迎而無抑奪，順其拒扞，任其附己，因其自窮，非勢取也，賦斂而毫毛不挫，民悅故無損也，而況有大道者乎！

## 无能遠禍

孔子圍於陳蔡已解《讓王篇》。之間，七日不火食，太公任李云：太公，大夫之稱，任其名。往弔之，曰：子幾音機。死乎？曰然。子惡烏路切。下同。死乎？曰然。任曰：予嘗言不死之道。東海有鳥焉，名曰意怠，其爲鳥也，玢玢音紛。玢玢音秩。司馬云：玢玢玢玢，舒遲貌。一云：飛不高貌。而似無能，引援而飛，迫脅而棲，李云：不敢獨棲，迫脅在衆鳥中，纔足容身而宿，避害之至也。進不敢爲前，退不敢爲後，食不敢先嘗，必取其緒，《說文》絲耑也，今取其殘碎之餘也。故其行列戶剛切。下亂行同。不斥音尺。成云：故衆鳥行列，不獨斥棄也。而外，人卒子恤切。終也。不得害，是以免於患。直木先伐，甘井先竭，子其意者飾知以驚愚，修身以明污，音烏。昭昭乎如揭其列切。日月而行，故不免也。昔吾聞之大成之人成云：聖德宏博，生成庶品，謂之大成，老君是已。曰：自伐成云：伐，取也。者無功，功成者墮，許規切。成云：敗也。名成者虧，孰能去起呂切。功與名而還與衆人，道流而不明居，得行如字。文云：天下皆得至人所行之道，至人不處其名。而不名處，純純常常，乃比於狂，削迹捐勢，不爲功名，是故無責於人，人亦無責焉，至人不聞，子何喜哉！孔子曰：善哉！辭其交遊，去其弟子，逃於大澤，衣於既切。裘褐，戶割切。食杼食汝切。又音序。栗，人獸不亂羣，人鳥不亂行，鳥獸不惡，而況人乎？

鳥名意怠，取其無騫翥之心，引援而飛，食取其緒，言避害之深也。今孔子飾知以刪《詩》《書》，修身以定禮樂，昭如日月，衆人師仰，有如直木甘井，先遭伐竭，伐功矜名，必無全者。故神人無功，其功歸民，聖人無名，其名歸臣，道氣流布，何嘗彰顯，至人所居，得行其道，而民不見其迹也，純常比狂，天之君子、人之小人也，削除聖迹，則無功矣，捐棄權勢，則無名矣。緣飾知以驚愚，故有陳蔡之厄也。於是孔子辭交去徒，逃於大澤，亦猶意怠之迫脅而棲，行列不斥，鳥獸不惡，而況人乎！

## 天屬相收

孔子問子桑雝音戶。本又作雝，音于。李云：桑姓，雝名，隱人也。曰：吾再遂於魯，伐樹於宋，削迹於衛，窮於商周，圍於陳蔡之間，已上並解《讓王篇》。吾犯此數患，親交益疏，徒友益散，何與？音餘，下倣此。子桑雝曰：子獨不聞假古雅切。李云：國名。成云：晉下邑也，嘗遭晉滅。人之亡與？林回司馬云：商之逃民之姓名，成云：賢人也。棄千金之璧，負赤子而趨，或曰：爲其布謂貨財也，布於民間，因以名之。與？赤子之布寡矣；爲其累與？赤子之累多矣。棄千金之璧，負赤子而趨，何也？林回曰：彼以利合，此以天屬也。夫以利合者，迫窮禍患害相棄也，以天屬者，迫窮禍患害相收也，夫相收之與相棄亦遠矣。且君子之交淡若水，小人之交甘若醴，君子淡以親，小人甘以絕，彼無故以合者，則無故以離。孔子曰：敬聞命矣。徐行翔佯而歸，絕學捐書，弟子無挹音揖。李云：無所執持也。於前，其愛益加進。異日，桑雝又曰：舜之將死，真或作直。泠音零。禹司馬云：泠，曉也。謂以真道曉悟禹也。泠或爲命，又作令，命令，猶教也。曰：汝戒之哉，形莫若緣，情莫若率，緣則不離，率則不勞，不離不勞，則不求文以待形，不求文以待形，固不待物。

天屬淡以親，利合甘以絕，無故以合所以親，有故以合所以絕。孔子絕學捐書，弟子加進，去其利合，留其天屬也。舜之將死，以真道清泠曉悟禹曰：形屬外，因物而順之，情屬內，自率而領之，物順則合，自領則逸，既合且逸，豈假文采以待形用，固不須外物之附己也。外物謂親交徒友輩。

## 德 隱

莊子衣於既切。大布司馬云：羸布也。而補之，正廉賢節切。司馬云：帶也。係履李云：履穿故係。而過古禾切。魏王。司馬云：惠王也。魏王曰：何先生之憊皮拜切。司馬云：病也。邪！莊子曰：貧也，非憊也。士有道德不能行，憊也；衣敝履穿，貧也，非憊也，此所謂非遭時也。王獨不見夫騰猿乎，其得柟音南。梓豫章皆端直好

木也。也，攬本作擎，歷敢切。蔓音萬。成云：擎蔓猶把捉也。其枝而王往况切。長丁亮切。成云：自得貌。司馬：直良切。云：兩枝相去長遠也。其間，雖羿音詣。蓬蒙符恭切。又音蓬。司馬云：羿，古之善射者。蓬蒙，羿之弟子也。不能睥普計切睥音詣。李云：睥睨，衰視也。也；及其得柘棘章夜切。枳音紙。枸音矩。並有刺之木也。之間也，危行側視，振動悼慄，此筋骨非有加急而不柔也，處勢不便婢面切。未足以逞其能也。今處昏上亂相悉亮切。之間，而欲無憊，奚可得邪？此比干之見賢徧切。剖心，徵也夫。豈非應驗也。

無行千人謂之憊，不遇固窮謂之貧，夫騰猿之處木也，得勢則王長，處難則危行，人處昏亂之世，而欲逞英林，召患必矣。

## 大 達

孔子窮於陳蔡之間，七日不火食，左據槁木，苦老切。謂几也。右擊枯枝，謂琴也。而歌姦氏必遙切。古之無爲帝王也。又神農也。之風，有其具而無其數，有其聲而無宮角，木聲與人聲，犁然力兮切。司馬云：犁然猶栗然清淡貌。有當丁浪切。於人之心。顏回端拱還目音旋。回眄也。而窺起規切。之，仲尼恐其廣己而造大司馬云：造，適也。一云：造，作也。也，愛己而造哀也，曰：回無受天損易，以鼓切。下同。無受人益難，無始而非卒也，人與天一也，夫今之歌者其誰乎？回曰：敢問無受天損易。仲尼曰：飢渴寒暑，窮桎之實切。不行，天地之行也，運化見江南古藏本，舊作運物。之泄息列切。司馬云：發也。也，言言，猶謂也。與之偕逝之謂也，爲人臣者不敢去之，執臣之道猶若是，而況乎所以待天乎？何謂無受人益難？仲尼曰：始用四達，爵祿並至而不窮，物之所利，乃非己也。吾命有在外者也，君子不爲盜，賢人不爲竊，吾若取之何哉！故曰：鳥莫知於鷦鷯，音意而。成云：鷦鷯，燕也。目之所不宜處，昌呂切。言不可止處，目已羅絡知之，故棄之也。不給視，《說文》：給，相足也。謂凡所不宜處則不足視也。雖落其實，實，卯也。棄之而走，其畏人也，而襲音習。成云：襲，入，也。諸人間，社稷文云：社稷猶窠也。存焉爾。何謂無始而非卒？仲尼曰：化萬物而不知其禪市戰切。司馬云：授予也。成云：禪，代也。之者，焉知於虔切。下同。其所終，焉知其所始，正而待之而已耳。何謂人與天一邪？仲尼

曰：有人，天也，有天，亦天也，人之不能有天，性也，聖人晏然體逝而終矣。

據几擊琴，詠歌古風，孔子恐顏回廣己而造大，愛己而造哀，因告之以人遇飢渴窮桎不憂則易，爵祿勢利不動則難，無始而非卒，言有此命則有此報，人之所造，不異天賜，今歌聲變常，不知所以然也。夫荒旱寒燠窮塞不通者，天損之也，同彼升降則易，逆之則難，且君命所至，猶不可逃，況所以待天乎！爵祿之來，期於利物，非爲己也，命屬乎內，爵祿榮外，亦命也，天下公器，豈私受哉！燕之稱知，能遠害也，擇居之便宜、落實而不顧，避人深也，然而須襲人舍者，以窠巢在焉。孔子自謂窮塞天命故易安，爵祿人事故難却，然歷險難而不忍去者，廬墓在魯故也。且物莫不有始卒，唯盡性命之情者，始卒莫與焉。具形兩閒人也，窮桎爵祿天也，既與天合，則窮達非人矣。人之不能順天理而妄作，亦性然也，故聖人泊然無情，隨化所往，此達命之至也。

## 失 照

莊周遊乎雕音彫。陵之樊，音煩。司馬云：雕陵，陵名，樊，藩也。謂遊栗園藩籬之內也。樊或作埜，古野字。覩一異鵠，自南方來者，翼廣七尺，目大運寸，司馬云：可回一寸也。感周之顙息蕩切。額也。感，觸也。而集於栗林。莊周曰：此何鳥哉！翼殷不逝，目大不覩。殷，大也。曲折曰逝。夫翼大逝難，目大視稀，故不見人也。褰起虔切。舊作褰。裳躩驅碧、九縛二切。司馬云：疾行也。《論語》云：足躩如也。步，執彈徒旦切。而留力救切。司馬云：宿留，同其便也。之，覩一蟬方得美蔭而忘其身，《說文》：身，身躬也，象人之身。《爾雅》云：我。螳螂音堂郎。執翳於計切。翳謂斧也，螳螂執斧如蓋，以自蔽也。而搏之，音博。捕也。見得而忘其形，《說文》：形，象形也。異鵠從而利之，見利而忘其真。真性也。莊周怵然曰：噫，物固相累，二類相召也。捐彈而反走，虞人逐而詈之。莊周反入宮，見江南古藏本，舊闕。《爾雅》云：宮謂之室，室謂之宮。三月不庭。藺力信切。且子餘切。司馬云：藺且，莊子弟子。從而問之：夫子何爲頃間甚不庭乎？莊周曰：吾守形而忘身，觀於濁水而迷於清淵，且吾聞諸夫子曰：入其俗，從其俗，江南古藏本作從其令。今吾遊雕陵而忘吾身，異鵠感吾顙，游於栗林

而忘真，栗林虞人文如海本无栗林二字。以吾爲戮，戮耻之辱。吾所以不庭也。

夫物相爲累而忘其所不忘者，由彼此之感召，故莊子捐彈反走，而虞人疑其盜栗也，三月不庭，因虞人辱問，故守形追悔，今乃忘身，悟夫向者覽外境之塵，而失內照之明也。夫子指長桑公，莊子之師。入俗知禁則遠禍，踐境違令則招咎，喻孔子涉人世而不免戮辱，皆幸脫烹伐者也。

## 自 賢

陽子司馬云：陽朱也。之宋，宿於逆旅，逆旅之有妾二人，見劉得一本，舊作逆旅人。其一人美，其一人惡，惡者貴而美者賤。陽子問其故，逆旅小子對曰：其美者自美，吾不知其美也，其惡者自惡，吾不知其惡也。陽子曰：弟子記之，行賢而去起呂切。自賢之行，下孟切。安往而不愛哉！

妍美者自驕，故爲人所賤，醜惡者自卑，故爲人所貴，陽子使弟子記其事，欲後世行賢之人去自賢之行也。且美惡二妾，有以見材與不材之間，似之而非矣。

## 雜篇·田子方 二十五

### 真 寤

田子方李云：魏文侯師也。名无擇。侍坐於魏文侯，數音朔。下同。稱谿工，李云：谿工，賢人也。文侯曰：谿工子之師邪？子方曰：非也，無擇之里人也，稱道數當，故無擇稱之。文侯曰：然則子無師邪？子方曰：有。曰：子之師誰邪？子方曰：東郭順子。成云：居於郭東，因以爲氏，名順子，子方之師。文侯曰：然則夫子何故未嘗稱之？子方曰：其爲人也真，人貌而天，虛緣而葆音保，真。清而容物，物無道，正容以悟之，使人之意也消，無擇何足以稱之。子方出，文侯儻然救蕩切。司馬云：失志貌。終日不言，召前立臣而語魚據切。之曰：遠矣全德之君子，始吾以聖知之言，仁義之行下孟切。爲至矣，吾聞子方之師，吾形解戶買切。而不欲動，口鉗其炎切。而不欲言，吾所學者直土梗更猛切。土苴也。司馬云：土人也。遭雨則壞。耳，夫魏真爲我累耳！

赤宅七竅，人也；不形好惡，天也；虛緣葆真，混俗也；清而容物，天合也；正容悟物，以身率導也；使人意消，方寸之地虛矣。聖知仁義，名教也；子方之師，道德也。悟所學爲土梗，因真而別妄也；知魏國爲我累，有大物者難忘也。

### 冥 會

溫伯雪子李云：南國賢人。成云：楚之賢人。適齊，舍於魯，魯人成云：謂孔子門人

也。有請見之者，溫伯雪子曰：不可，吾聞中國成云：魯國也。之君子，明乎禮義而陋成云：拙也。於知人心，吾不欲見也。至於齊，反舍於魯，是人也又請見，溫伯雪子曰：往也蘄音祈。見我，今也又蘄見我，是必有以振成云：動也。我也。出而見客，入而歎。明日見客，又入而歎。其僕曰：每見之客也，必入而歎，何邪？曰：吾固告子矣，中國之民，明乎禮義而陋乎知人心，昔之見我者，進退一成規、一成矩，從容七容切。文云：規矩，禮義也。龍虎，威嚴也。一若龍，一若虎，其諫我也似子，其道江南古藏本作導。我也似父，是以歎也。仲尼見之而不言，子路曰：吾子欲見溫伯雪子久矣，見之而不言，何邪？仲尼曰：若夫音符。人者，目擊而道存矣，司馬云：見其目動而神實已著也。擊，動也。又云：目裁往，意已達。亦不可以容聲矣。

明乎禮義，謂進退規矩、威儀榮辟也，陋於知人心，謂諫我似子、道我似父也。心契常道，則目擊而妙存，其可道者，禮義容聲而已矣。

## 密 移

顏淵問於仲尼曰：夫子步亦步，夫子趨亦趨，夫子馳亦馳，夫子奔逸絕塵，而回瞠若敕庚切。《字林》云：直視貌。乎後矣。夫子曰：回何謂邪？曰：夫子步亦步也，夫子言亦言也，夫子趨亦趨也，夫子辯亦辯也，夫子馳亦馳也，夫子言道，回亦言道也；及奔逸絕塵而回瞠若乎後者，夫子不言而信，不比毗志切。親比也。而周，無器而民滔乎前，吐刀切。謂無人君之器，滔聚其前也。而不知所以然而已矣。仲尼曰：惡音烏。可不察與！音餘。下哀與同。夫哀莫大於心死，而人死亦次之。日出東方而入於西極，萬物莫不比方，有目有趾文云：有情之類。者，待是而後成功，是出則存，是入則亡。萬物亦然，有待也而死，有待也而生，吾一受其成形，不化以待盡，效物而動，日夜無却，而不知其所終，薰然許云：類冲炁薰蒸貌。其成形，知命不能規乎其前，丘以是日徂，吾終身與汝交一臂而失之，可不哀與！汝殆著乎吾所以著也，張慮切。見也。司馬云：吾所以著者，外化也，汝殆庶於此耳，吾一不化者，則非汝所及也。彼已盡矣，而汝求之以爲有，是求馬於唐肆也。郭云：唐肆，非停馬處也。又：唐，停也。司馬本作廣肆。云廣庭也。求馬於市肆廣庭，非其所也。



吾服汝也甚忘，汝服吾也亦甚忘。雖然，汝奚患焉，雖忘乎故吾，吾有不忘者存。

超逸絕塵，喻妙理卓絕、應變無窮。夫迹之滯礙，形之變化，猶可遷復，若乃靈府不虛，趨死不反，哀莫大焉。心死者，執著自喪之謂，蘧伯玉行年六十而知五十九非者，其心活耳。日之出沒不已，比物之生化不停，觀者非日莫見，履者非日莫行，目得日新之妙則視不眊，趾得日新之妙則履不蹶，是曰成功也。日出則萬類皆見，日入則萬類皆晦，萬類有休王之數，死生各有日，唯逃乎數者無所係待也。仲尼知死生有命，故上不逆造化，下不期所盡，效物而動，物擾亦擾，日夜無卻，心無間斷而不知所終，有終，則間斷也。陰陽之氣薰然成形，若規度前事，則悖於天理，是以聖人常保日新，期至則往，且吾汝相與交臂之頃，已成陳迹，有志之士，寧不慨然。吾所以顯著外化也，汝殆庶幾於此，而彼已盡矣，奚足論哉！吾之一不化者，則非汝所及，故瞠若乎後矣。日新之妙，百姓日用而不知，以其無迹也。而汝求之以爲有，是求馬於唐肆，唐肆豈停馬之所哉！吾汝相服甚忘，即不貴其師、不愛其資之義，師資兩忘，吾汝何患忘乎？故吾身非我有也，有不忘者存，道無不在也。

## 才德自然

孔子見老聃，老聃新沐，方將被皮寄切髮而乾，本或作干。憇然乃牒切。司馬云：不動貌。似非人，孔子便而待之。少焉詩照切。見賢徧切。曰：丘也眩音縣。與，音餘。下同。其信然與！向者先生形體掘徐音兀。若槁苦老切。木，似遺物離力智切。人而立於獨也。老聃曰：吾遊心於物之初。孔子曰：何謂邪？曰：心困焉而不能知，口辟必亦切。司馬云：辟，卷不開也。又婢亦切。成云：口開不合也。焉而不能言，嘗爲於僞切。汝議乎其將。至陰肅肅，至陽赫赫，肅肅出乎天，赫赫發乎地，兩者交通成和而物生焉，或爲之紀而莫見其形，消息滿虛，一晦一明，日改月化，日有所爲而莫見其功，生有所乎萌，死有所乎歸，始終相反乎無端，而莫知其所窮，非是也且孰爲之宗。孔子曰：請問遊是。老聃曰：夫得是，至美至樂音洛。

下同。也，得至美而遊乎至樂，謂之至人。孔子曰：願聞其方。曰：草食之獸，不疾易藪，水生之蟲，不疾易水，行下孟切。又如字。小變而不失其大常也。喜怒哀樂不入於胸次。李云：次，中也。夫天下也者，萬物之所一也，得其所一而同焉，則四肢百體將爲塵垢，而死生終始將爲晝夜，而莫之能滑，古沒切。而況得喪息浪切。禍福之所介音界。乎？棄隸者若棄泥塗，知身貴於隸也，貴在於我而不失於變，且萬化而未始有極也，夫孰足以患心，已爲道者解音蟹。又戶買切。乎此。孔子曰：夫子德配天地，而猶假至言以修心，古之君子，孰能脫焉。老聃曰：不然，夫水之於沟音灼。李：以略切。挹取也。也，無爲而才自然矣，至人之於德也，不修而物不能離焉。若天之自高，地之自厚，日月之自明，夫何修焉。孔子出，以告顏回，曰：丘之於道也，其猶醯鷄許西切。郭云：饗中之蠅蠓也。與！微夫子之發吾覆也，吾不知天地之大全也。

槁木遺物，謂藏精蘊神，離人立獨，謂其喪耦入寥，遊於物初，未始出其宗也。擬知而心，已困欲言，而口又辟，離心忘言，斯近之矣。夫肅陰之氣降乎下，赫陽之氣昇乎上，二儀通和，萬物妙化，謂其有綱紀也，而不覩其形兆，消息有數，晦明有常，謂其有造爲也，而不覩其功用，生則萌於恍惚，死則歸於窅冥，無端則莫知其始，無窮則莫知終，若非此道，何物爲之宗主邪！孔子又問遊學於忘言之道，夫學道詎有所得，得其性之至美至樂而已。其於死生也，猶獸之易藪、魚之易水，暫爾小變，又何患焉！夫天下者，旁礴萬物而爲一，自其同者視之，則己之百體猶臭腐也，此之死生猶寤寐也，況其它乎？故視執御與軒冕，猶易水易藪耳，所謂外化而內不化者也。貴在於我，未始非吾，其樂無涯，詎復有患，譬水之沟挹而善利，豈有所造爲，至人之德業廣被，豈有所脩治，猶天高地厚、日月之明，何假脩焉，是以夫子自喻以甕蠓去覆，而識天地之大全也。

## 踐 言

莊子見魯哀公，司馬云：莊子與魏惠王、齊威王同時，在哀公後百二十年。成云：此寓言也。哀公曰：魯多儒士，少爲先生方者。莊子曰：魯少儒。哀公曰：舉魯國而

儒服，何謂少乎？莊子曰：周聞之，儒者冠古亂切。圜音圓。冠者知天時，履句音矩。李云：方也。屨居具切。者知地形，緩戶管切。司馬本作綬。佩玦音決，成云：綬者，五色條繩穿玉玦以飾佩也。又云：本亦作緩者，曳綬佩玦以其事到而決斷也。或謂玦如環而有缺，逐臣賜玦，義取與之決別也。者事至而斷。丁亂切。君子有其道者，未必爲其服也，爲其服者，未必知其道也。公固以爲不然，何不號號，令也。於國中曰：無此道而爲此服者，其罪死。於是哀公號之五日，而魯國無敢儒服者，獨有一丈夫儒服而立乎公門，公即召而問以國事，千轉萬變而不窮。莊子曰：以魯國而儒者一人耳，可謂多乎？

爲王佐者，一夔而足，興儒教者，何假三千。故羊質虎皮，必有惑者，盛德若愚，豈無知者哉！

## 內得外豐

百里奚爵祿不入於心，故飯牛而牛肥。《史記》云：晉獻公滅虞虢，虢虞君與其大夫百里奚，以爲秦繆公夫人媵於秦，百里奚止秦走宛，楚鄙人執之。繆公聞百里奚賢，欲重贖之，恐楚人不與，乃使人謂楚曰：吾媵臣百里奚在焉，請以五羖羊皮贖之。楚人遂許與之。當是時百里奚年已七十餘，繆公釋其囚與語國事。謝曰：臣亡國之臣，何足問？繆公曰：虞公不用子故亡，非子罪也。固問三日，繆公大說，授之國政，號曰五羖大夫。百里奚謝曰：臣不及臣友蹇叔，蹇叔賢而世莫知，臣嘗遊困於齊而乞食，鉏人蹇叔收臣，臣因而欲事齊君無知，蹇叔止臣，得脫齊難。遂之周，周王子頹好牛，臣以養牛干之，及頹欲用臣，蹇叔止臣，臣去得不誅。事虞君，蹇叔止臣，臣知虞君不用臣，臣誠私利祿爵，且留。再用其言得脫，一不用及虞君難，是以知其賢。於是繆公使人厚幣迎蹇叔，以爲上大夫。鉏音室，地名，一曰刈禾人，通作鉏。使秦穆公忘其賤與之政也。謂忘其飯牛之賤也。有虞氏舜事親至孝，死生不入於胸中，名聞天下，感動人主。死生不入於心，故足以動人。

待時命而飯牛，人必觀其行，事父母而忘生，衆必察其孝。

## 藝精忘形

宋元君將畫圖，衆史皆至，受揖而立，司馬云：受命揖而立也。舐食紙切。筆和墨，在外者半。有一史後至者，僊僊音坦。李云：舒閒貌。然不趨，受揖不立，因之舍。公使人視之，則解衣槃礴傍各切。司馬云：箕坐也。羸。力果切。司馬云：將畫故解衣而見形。君曰：可矣，是真畫者也。

急於人用者學未至，逌然自得者藝必精，粗迹尚爾，況妙理乎！

## 詢衆任賢

文王觀於臧，成云：臧者近渭水地名也。丈人者寓言於太公也。司馬本作文王微服而觀於臧。見一丈夫釣，而其釣莫釣，非持其釣，有釣者也，常釣也。文王欲舉而授之政，而恐大臣父兄之弗安也，欲終而釋之，而不忍百姓之無天也。於是旦而屬音燭。之大夫曰：昔者寡人夢見良人，黑色而頤，在占切。成云：文王父季黑色多頤。乘駁邦角切。馬而偏朱蹄，李云：一蹄偏赤也。號曰：寓而政於臧丈人，庶幾民有瘳敕留切。成云：差也。乎。諸大夫釐子六切。然曰：先君王也。司馬云：言先君王靈神之所致。文王曰：然則卜之。諸大夫曰：先君之命，王其無它，司馬云：无違也。又何卜焉。遂迎臧丈人而授之政，典法無更，偏令無出。三年，文王觀於國，則列士壤音怪。下同。植音值。散羣，司馬云：植，行列也。散羣，言不養徒衆也。一云：植者，疆界頭造屋以待諫者也。長丁文切。下同。官者不成德，司馬云：不利功名也。缺斛音庾。李云：六斛四斗曰缺，十斗曰斛。不敢入於四境。列士壤植散羣，則尚同也，長官者不成德，則同務也，缺斛不敢入於四境，則諸侯無二心也。文王於是焉以爲大師，北面而問曰：政可以及天下乎？臧丈人昧音妹。然而不應，泛敷劍切。然而辭，朝令而夜遁，塗困切。功成事遂，韜光退身，故曰夜遁。終身無聞。顏淵問於仲尼曰：文王其猶未邪！又何以夢爲乎？仲尼曰：默汝無言，夫文王盡之也，而又何論刺七賜切。焉，彼直以循斯須也。

其鈞莫鈞，謂直鈞也，託鈞待時，隱於鈞以爲常耳。文王假夢質諸大夫，大夫謂先君之命，何疑何卜，遂迎而授之政，列土壤植散羣，謂國治則忠臣隱、諫垣廢也，長官不成德，謂民淳政簡，缺斛不入境，時和歲豐也。尚同則君臣一心，同務則四民著業。顏子猶疑託夢之非，實答以權之予奪在乎斯須之間，文王盡之矣，又何論刺焉。

## 有心未妙

列禦寇爲於僞切。伯昏無人射，引之盈貫，古亂切。司馬云：滿也。文云：盈貫謂過滿也。措杯水其肘上，發之，適丁歷切。親也。矢復沓，扶又切。下同。成云：沓，重也。方矢復寓，當是時，猶象人成云：木偶人。又土梗人也。也。伯昏無人曰：是射之射，非不射之射也。嘗與汝登高山，履危石，臨百仞之淵，若能射乎？於是無人遂登高山，履危石，臨百仞之淵，背逡巡，七巡切。成云：却行也。足二分垂在外，揖御寇而進之，御寇伏地汗戶旦切。流至踵。伯昏無人曰：夫至人者上闕青天，下潛黃泉，揮斥音尺。郭云：揮斥猶放縱也。八極，神氣不變，今汝怵然救律切。有恂音荀。《爾雅》云：恂慄也。目之志，恂謂眩也。欲以眩悅人之目，故怵然也。爾於中丁仲切。也殆矣夫。

考之射法，左手如拒石，右手如附枝，故可措杯水其肘上，弦發矢往，復沓前箭，所謂擘括而入也。箭方去未至的，復寄杯於肘上，言其敏捷之妙，象人不動也。是射之射謂猶存射法。若登山臨淵而能射，非唯忘法，兼亦忘形，故能揮斥八極、神氣不變也。

## 道充不動

肩吾成云：隱士也。問於孫叔敖楚之賢大夫。曰：子三爲令尹而不榮華，三去之而無憂色，吾始也疑子，今視子之鼻間栩栩然，況甫切。自得貌，又欣暢也。子之用心獨奈何。孫叔敖曰：吾何以過人哉，吾以其來不可却，其去不可止，吾以爲得

失之非我也，而無憂色而已矣，我何以過人哉！且不知其在彼乎？其在我乎？其在彼邪，亡乎我，在我邪，亡乎彼，方將躊躇留切。躊，直於切。成云逸豫自得也。方將四顧，成云：高視八方也。何暇至乎人貴人賤哉！仲尼聞之曰：古之真人，知者不得說，美人不得濫，盜人不得劫，居業切。彊取也。伏戲、音義。黃帝不得友，死生亦大矣，而無變乎己，況爵祿乎？若然者，其神經乎大山而無介，音界。《說文》：盡也。一曰聞也。入乎淵泉而不濡，處卑細而不憊，皮拜切。充滿天地，既以與人已愈有。

鼻間栩栩然，色澤欣暢貌。吾無以過人，不矜故無憂耳。且有生是妄，逆旅誠虛，軒冕去來，何異蜚蠊之過目也。故躊躇弗進，存神道德之鄉，顧眄四方，御氣宵冥之域，彼之貴賤何暇及哉！古之真人，朴素故難說，質真故莫渝，寡欲故遠盜，無求故不屈。是知心無礙者，生死不能變，形無累者，爵祿弗能縈。若然者，其神無方，故貫至堅而無畫，其氣無體，故沒至柔而不濡，潛蘊於無內，充盈於無外，推功與物，物足而己有餘也。

## 治身保存

楚王成云：楚文王與凡偁侯同坐，論合從會盟之事，楚有吞夷之意，故使左右以言感之。與凡君司馬云：凡，國名，在汲郡共縣。按《左傳》，凡是周公之後。坐，少焉，楚王左右曰凡亡者三。凡君曰：凡之亡也，不足以喪吾存。夫凡之亡，不足以喪吾存，則楚之存，不足以存存。由是觀之，則凡未始亡而楚未始存也。

楚王有吞夷之志，故使左右以言感之，凡有三亡徵，謂不敬老、不尊賢、不養民。凡之亡也，不足喪吾存，不以皮爲災也。楚之存，不足以存存，國雖存而生已喪矣。由是知存亡在道，不在國邑也。

## 雜篇·知北遊 二十六

### 冲 默

知如字。舊音智，今不取。北游於玄水之上，司馬本作玄水之北。登隱并符云切。成云：隱則深遠難知，并則鬱然可見。之丘，而適遭無爲謂焉。知謂無爲謂曰：予欲有問乎若：何思何慮則知道？何處何服則安道？何從何道則得道？三問而無爲謂不答也，非不答，不知答也。知不得問，反於白水之南，成云：白是潔素之色，南是顯明之方。登狐闕若穴切。李云：丘名。狐者疑也。闕者息也。之上，而睹丁古切。狂屈狂，妄也。屈，曲也。焉，知以之言司馬云：之，是也。也問乎狂屈。狂屈曰：唉，哀在切。李云：應聲也。予知之，將語魚據切。若。中欲言而忘其所欲言。知不得問，反於帝宮，見黃帝而問焉。黃帝曰：無思無慮始知道，無處無服始安道。無從無道始得道。知問黃帝曰：我與若知之，彼與彼不知也，其孰是邪？黃帝曰：彼無爲謂真知是也，狂屈似之，我與汝終不近也。夫知者不言，言者不知，故聖人行不言之教，道不可致，德不可至，仁可爲也，義可虧也，禮相僞也，故曰失道而後德，失德而後仁，失仁而後義，失義而後禮，禮者道之華而亂之首也。故曰爲道者日損，損之又損之，以至於無爲，無爲而無不爲也。今已爲物也，欲復歸根，不亦難乎！其易以鼓切。也，其唯大人乎！生也死之徒，死也生之始，孰知其紀。人之生，氣之聚也，聚則爲生，散則爲死，若死生爲徒，吾又何患？故萬物一也，是其所美者爲神奇，其所惡爲路切。者爲臭腐，臭腐復化爲神奇，神奇復化爲臭腐，故曰通天地之一氣耳，地之見劉得一本，舊作通天下一炁耳。聖人故貴一。知謂黃帝曰：吾問無爲謂，無爲謂不應我，非不我應，不知應我也。吾問狂屈，狂

屈中欲告我而不我告，非不我告，中欲告而忘之也。今予問乎若，若知之，奚故不近？黃帝曰：彼其真是也，以其不知也；此其似之也，以其忘之也。予與若終不近也，以其知之也。狂屈聞之，以黃帝爲知言。

知北遊於玄水之上，欲藏知於淵默也，然知終不默，有隱伏則有奔起，知無所息，故扣杳冥以求安。無爲謂以無答爲答，其旨深哉！白水則向明而趨。帝宮，靈府也，黃帝即真君，收視反聽，諸有皆空，以知爲是，不知爲非者，重增過耳。不言之教，即妙有也，且真是與真知，皆爲道障，尤難除者也。大道無形，可致上德，無德可至，仁者兼愛，弊則偏私而有可焉，義主裁斷，弊則傾奪而事可虧，禮尚威儀，弊則矯飾而浮僞生矣。皆自知之失，以至乎亂，當先損其知，後損不知，以至於無知，無損而後無爲，無爲而無不爲也。無爲則無我，其唯大人乎？唯忘生故死莫能係，唯忘死故復生之原，知其紀者失其先，有其聚者歸於散，以死生爲一條，惡往而不暇哉！神奇者性，臭腐者形，萬類皆以性存爲美，性壞爲惡，性之化爲形，形之復乎性，不出一氣耳，得一萬事畢，孰不貴之哉！夫有無之利用，粗妙之相須也，故先舉無爲謂之不答，示至理幽微，次以狂屈欲告而忘，明語默冥會，終以黃帝之知，所以假言詮道，惑於知則爲粗，超於言則爲妙也。

天地有大美謂覆載之美也。而不言，四時有明法而不議，萬物有成理而不說。聖人者，原天地之美，而達萬物之理，是故至人無爲、大聖不作，觀於天地之謂也。合彼見劉得一本，舊作今。神明至精，與彼百化，物已死生方圓，莫知其根也。扁然音篇。成云徧生貌。文本作翩然，云：日新貌。而萬物自古以固存，六合爲巨，未離力智切。其內，謂不能出自化也。秋豪爲小，待之成體，天下莫不沈浮，終身不故，陰陽四時，運行各得其序，惛然音昏，昧也，張君房本作僭。若亡而存，油然音由。謂无所給惜也。成云：无係貌。不形而神，萬物畜而不知，此之謂本根，可以觀於天矣。

大美覆載，明法生殺，成理羣分也，言則美乖，議則法弊，說則理亂，唯無爲者默順，四時大同，天地萬化，而未始有極，可謂精明矣。夫物皆自然，故莫知其根，獨立不改，乾坤非神明莫能容，秋毫非至精莫能成，聖人法天地之行，物受其賜而不知，此之謂本根。



## 神 解

齧缺問道乎被如字，又音披。衣，被衣曰：若正汝形，一汝視，天和將至，攝汝知，一汝度，神將來舍，德將爲汝美，道將爲汝居，汝瞳眴紅切。不瞬貌。焉如新生之犢，李云：未有知貌。而無求其故。言未卒，齧缺睡寐，被衣大說，行歌而去之。曰：形若槁骸老切。骸，心若死灰，真其實知，不以故自持，媒媒音昧。晦晦，音誨。媒媒晦晦，無心貌。又冥昧貌。無心而不可與謀，彼何人哉！

體不邪，目不蕩，則冲和集，收知覺，簡法度，則吉祥止，然後衆美從而純白留，瞳光及照，視不浮外，其道庶幾乎？故耳聞可道，神入妙門，言下懸解，凝寂若寐也，形若槁骸，心若死灰，正形一視也，真其實知，不以故自持，攝知一度也。媒媒晦晦，則德美無心而不可與謀，則道居此，皆歌頌齧缺之德容，而假寐妙旨難以言盡也。

## 常 道

舜問乎丞古有四輔：左輔右弼前疑後丞，蓋官名也。或作烝。李云：舜師也。曰：道可得而有乎？曰：汝身非汝有也，汝何得有夫音符。道？舜曰：吾身非吾有也，孰有之哉？曰：是天地之委形《說文》：己也。也。生非汝有，是天地之委和也，性命非汝有，是天地之委順也，子孫見張君房本。舊作孫子。非汝有，是天地之委蛻吐卧切。也。故行不知所往，處不知所持，食不知所味，天地之彊陽氣也，郭云：彊陽猶運動耳。案言天地尚運動，況烝聚之生何可得執而留也。又胡可得而有邪？

夫道，視聽搏之不得，果可得而有乎？身者塊然而自有，豈汝之有哉？答以既云獨化，即屬我有。委，隨也，身且非汝有，隨天地之形而有；生非汝有，隨天地之和而有；性命非汝有，隨天地之順而有；子孫非汝有，隨天地之蛻而有。故其行處食也，皆元氣鼓吹而動，於汝何有哉！

## 可 道

孔子問於老聃曰：今日晏於諫切。閒，敢問至道。老聃曰：汝齋戒疏瀹音藥。漬也。成云：洗濯也。而心，澡雪成云：精絮也。文云：靜精神也。而精神，掊擊而智，普口切。成云：打破也。文云：棄智也。夫道窅然烏丁切。難言哉！將爲於僞切。汝言其崖略：夫昭昭生於冥冥，有倫生於無形，謂太初也。精神生於道，謂常道也。形本生於精，萬物以形相生，故九竅苦弔切。者胎生，八竅者卵生，其來無迹，其往無崖，無門無房，四達之皇皇文云：無際貌。也，邀古堯切。成云：遇也。於此者，此者冲妙之道也。四枝彊，思慮恂達，須倫切。《說文》：信心也。一曰：均也。耳目聰明，其用心不勞，其應物無方，天不得不高，謂天不得此道不能爲高也。地不得不廣，日月不得而行，萬物不得不昌，此其道與。音餘。下同。且夫博之不必知，辯之不必慧，成云：博通經典，未必知真，宏辯飾辭，不必慧照也。聖人以斷端管切。成云：棄也。之矣。若夫益之而不加益，損之而不加損者，聖人之所保也。淵淵乎其若海，巍巍魚威切。成云：高大之稱。乎其終則復始也，運量萬物而不遺，夷佳切。亡也。又餘也。見劉得一本，舊作匱。則君子之道，彼其外與！萬物皆往資焉而不匱，求位切。此其道與！

陽出於陰，有生於無，其理煥然。精神者冲妙之緒餘，形質者和氣之土苴，故錯雜類分，胎卵莫侔也。其來莫知，孰謂之迹，其往莫測，孰謂之崖，出則徧滿，於何爲門，入則充盈，於何爲房，無闕無剩，彌羅皇皇也。遇此冲妙之道者，與天爲一，應物無窮，天不得不高四句，皆指道混元云得一是也。夫以知詢道，則所聞寡，以慧答道，則其辭訥，絕去知慧，古人所取，損益之所不能加，而淵乎巍巍也。運量萬物而不遺者，先務其本，非由外也，故物往資焉而無匱乏，此明冲妙之不益不損也。

## 中 極

中國有人焉，非陰非陽，處於天地之間，直且爲人，將反於宗。自本觀之，

生者暗音闇。與蔭同。醺隱紀切。郭云：暗醺，聚炁貌。物也，雖有壽夭，相去幾居豈切。何，須臾之說也，奚足以爲堯桀之是非，果蓏力果切。文云：木子曰果，草子曰蓏。有理，人倫雖難，所以相齒，聖人遭之而不違，過之而不守，調而應之，德也，偶而應之，道也，帝之所興，王之所起也。人生天地之間，若白駒文云：日光也。成云：駿馬也。之過郤，去逆切。成云：郤，孔也。忽然而已。注然勃然，步忽切。成云：注勃，出生之容。莫不出焉，油然漻然，音流。成云：油漻，入死之狀。莫不入焉，已化而生，又化而死，生物哀之，人類悲之，解其天弢，敕刀切。成云：弢，囊藏也。墮許規切。其天袞，陳筆切。成云：袞，裹束也。紛乎宛乎，於院切。成云：紛綸宛轉，並釋散貌。魂魄將往，乃身從之，乃大歸乎！不形之形，形之不形，是人之所同知也，非將至之所務也，此衆人之所同論也，彼至則不論，論則不至，明見無值，辯不若默，道不可聞，聞不若塞，此之謂大得。

直且爲人，道貌天形也，將反其宗，入於寥天，一暗醺結聚而爲有生之物，頃久復散爲無，校壽夭、爭是非，皆妄情耳。植物無情，猶具陰陽之理，人品不易，莫越先後之序，聖人事至則應，既往則忘，而欲興事務者，未嘗不以調和爲德，應偶爲道也。人生世間，交臂易失，唯湛寂者無出入，不化者無死生，解弢墮秩，即決疣潰癰之義，紛綸宛轉，欲化未化之間，魂魄不守則百骸潰散、神歸真宅也。不形之形，不化者能化化，形之不形，化物者不化也。在形屬粗，人皆知之，得道者粗妙皆忘矣。言論則徒語其糟粕而無所值，故聽止於耳，而以不得爲得也。

## 道无不在

東郭子李云：居於東郭也。田子方之師也。問於莊子曰：所謂道惡音烏。乎在？莊子曰：無所不在。東郭子曰：期而後可。莊子曰：在螻力侯切。蟻。魚綺切。曰：何其下邪？曰：在稊大西切。稊。蒲賣切。草名。曰：何其愈下邪？曰：在瓦甓。步歷切。云：甗甗甗也。曰：何其愈甚邪？曰：在屎戶旨切。溺。乃弔切。東郭子不應。莊子曰：夫子之問也，固不及質。正獲之問於監古銜切。市履豨虛豈切。也，每下愈況，李云：正，亭卒也，今之市令也。獲，其名也。監市，市魁也。豨，大豕也。履，

踐也。夫市魁履其豕股脚縣蹄之下，肥則知上肥矣。問道亦況下賤，則知道之偏也。一曰：況，益也。每履其縣蹄之下難肥之處，見其肥則知上之饒益多矣。或曰：況者竟況也。汝唯莫必謂見張君房本。舊闕。無乎逃物。至道若是，大言亦然。

固不及質，言所問失其宗本，故引監市履豨以喻之，腕下有肉，則知上肥矣。道體虛無，何處無之，無既不逃乎物，物亦不逃乎無。道則淨穢無間，言亦粗妙俱通。

## 无有一際

周徧咸文云：周，无不包也。徧，无不至也。咸，无不備也。三者，異名同實，其指一也。嘗相與遊乎無何有之宮，同合而論，無所終窮乎。嘗相與無爲乎，澹徒暫切。而靜乎，漠而清乎，調而閒乎，寥音遼。已吾志，無往而不知其所至，去而來，不知其所止，吾已往，來焉而不知其所終。彷徨音旁皇。咸云：放任貌。乎馮皮冰切。閎，音宏。李云：馮閎皆大也。郭云：虛廓之謂。大知入焉而不知其所窮。物物者，與物無際，而物有際者，所謂物際者也，不際之際，際之不際者也，謂盈虛衰殺，色界切。下同。彼爲盈虛，非盈虛；彼爲衰殺，非衰殺；彼爲本末，非本末；彼爲積散，非積散也。

是以周匝太清，徧及萬物，咸被其化育，猶希夷微之不可致詰混而爲一也。遊乎無何有之宮，有則不周矣；同合而論，無所終窮，窮則不徧矣；嘗相與無爲乎，爲則不咸矣。澹漠調閒，皆爲道者日用，寥空其志而已，不知其所至周也，不知其所止徧也，不知其所終咸也，以至於彷徨馮閎而不知其所窮，則非知識思議可及也。道體無際，化物亦無際，有際在物，不在道也。不際者無際，故能容一切之際，若其有際，不能容無際之物矣。道有盈虛之名，而無盈虛之實，物有衰殺之迹，而無衰殺之理，道化有本末，而體無本末，物形有積散，而性無積散，由是知道物未嘗相逃，妙用無乎不在也。

## 得道秋豪

𡗗於河切。荷甘音河。成云：𡗗，姓也。荷甘，字也。與神農成云：神農，非帝者也。同學於老龍吉，李云：懷道人也。神農隱於靳切。几闔戶臘切。戶晝暝。音眠。𡗗荷甘日中𡗗處野切。又音奢。司馬云：開也。戶而入，曰：老龍死矣。神農隱几擁杖而起，曝然音剥。李云：放杖聲也。放杖而笑曰：天知予僻陋疋亦切。成云：偏僻鄙陋也。慢武半切。又如字。訑，徒旦切。成云：不專謹也。故棄予而死已矣夫，音符。子無所發予之狂言而死矣夫。弇音奄。垺音剛。弇李云：姓弇垺，名弇，體道人也。聞之曰：夫體道者，天下之君子所繫焉，謂爲物所歸投也。今於道秋豪之端，萬分未得處一焉，而猶知藏其狂言而死，又況夫體道者乎？視之無形，聽之無聲，於人之論者，謂之冥冥，所以論道而非道也。

天下君子所繫，言道爲百王師，今於道得之秋豪，尚知隱秘，況其全備者哉！

## 淵之又淵

於是泰清問乎無窮曰：子知道乎？無窮曰：吾不知。又問乎無爲，無爲曰：吾知道。曰：子之知道，亦有數乎？曰：有。曰：其數若何？無爲曰：吾知道之可以貴，可以賤，可以約，可以散，此吾所以知道之數也。泰清以之言也問乎無始曰：若是則無窮之弗知，與無爲之知，孰是而孰非乎？無始曰：不知深矣，知之淺矣，弗知內矣，知之外矣。於是泰清印而歎崔本作印。張君房本作仰。《集韻》印、仰同音。《說文》：舉也。《詩》瞻印昊天。舊本作中，恐寫誤。曰：弗知乃知乎？知乃不知乎？孰知不知之知。無始曰：道不可聞，聞而非也，道不可見，見而非也，道不可言，言而非也，知形形之不形乎？道不當名。無始曰：有問道而應之者，不知道也。雖問道者，亦未聞道。道無問，問無應，無問問之，是問窮也，無應應之，是無內也，以無內待問窮，若是者，外不觀乎宇宙，內不知乎太初，是以不

過乎崑崙，不遊乎太虛。

窈冥者耳目所不及，論道則窈冥亦非，故泰清問無窮，無窮答以不知，知則有窮矣。又問無爲，無爲知其得道則貴，失道則賤，守之則約，舒之則散，此道之數也。不知深矣內矣，是無名常道，理之妙也；知之淺矣外矣，是有名可道，事之微也。有問則涉迹，豈能知妙，故問道者未聞道，聞則不問矣。無問無應，猶淄澠之水易論，而甘苦之味難言，不知而問，謂之無問，無問問之，是爲理屈；不知而應，謂之無應，無應應之，是無內照，以無內照之應，待理屈之問，猶與瞽者議黼黻，聾者論宮商也。又奚識宇宙之廣、泰初之寥、崑崙之崇、太虛之邈哉！

## 光景都亡

光耀問乎無有曰：夫子有乎？其無有乎？光耀不得問，而孰視其狀貌，窅烏了切。然空然，終日視之而不見，聽之而不聞，搏音博。之而不得也。光耀曰：至矣，其孰能至此乎？予能有無矣，而未能無無也，及爲無有矣，何從至此哉！

光曜喻內照，無有喻妙本，內照體乎妙本者也。謂其有邪？則窅然空然，謂其無邪？則有無焉而未能無無也。且論無議有，曼衍無窮，絕有斷無，妙從何悟？微乎哉，光曜之問，《知北遊》之大旨也。

## 守 一

大馬成云：楚之大司馬也。之捶鉤之累切。江東三魏之間人皆謂鍛爲捶也。鉤，帶也。者，年八十矣，而不失豪芒。大馬曰：子巧與？音餘。下同。有道與？曰：臣有守也。臣之年二十而好呼報切。捶鉤，於物無視也，非鉤無察也，是用之者，假不用者也，以長丁丈切。得其用，而況乎無不用者乎？物孰不資焉。

道在有守而已，若無察無守，是都無所用也。凡有用於此，必無用於

彼，是用之者假乎不用者也。假不用爲用，故長得其用，善治萬物者，無有不用，故用得資焉。

## 不先物

冉求問於仲尼曰：未有天地，可知邪？仲尼曰：可，古猶今也。冉求失問而退。明日，復見賢徧切。曰：昔者吾問未有天地可知乎，夫子曰：可，古猶今也。昔日吾昭然，今日吾昧然，敢問何謂也？仲尼曰：昔之昭然也，神者先受之，今之昧然也，且又爲於僞切。不神者求邪！無古無今，無始無終，未有子孫而有孫子，言其要有由，不得无故而有，傳世故有子孫，不得无子而有孫也。如是，天地不得先无而今有也。可乎？冉求未對。仲尼曰：已矣，末應矣，不以生生死，不以死死生，死生有待邪？皆有所一體，有先悉薦切。下同。天地生者物邪？物物者非物，物出不得先物也，猶其有物也，猶其有物也無已，聖人之愛人也終無已者，亦乃取於是者也。

問未有天地，欲明先物也，答以古猶今，以身觀身也。昭然謂幼稚聰慧，昧然謂中年昏晦，神者先受之，專氣和柔，受道之樸全也。又爲不神者求，嗜好無厭，欲美頑質也。老同幼則無古今，生如死則無終始，有子故有孫，是相因之道明，古今之有自，而散有爲無，積無成有，不離乎造化也。不以有此生而生其死，不以因此死而死其生，明生者自生，死者自死，非因生而死，非因死而生，言其本無待也，皆有所一體，有無異道也。天地獨化之大者，儻有先者物自先耳，不得謂先天地生者物也。然物與天地皆有所一體，雖同是物，而物物自生，前物非後物，亦猶子子孫孫各不同也，故物物各有太極，若言物後而後物復先，猶其有物而物物無窮已也。聖人芻狗百姓，而百姓愛之無已者，亦取其不先物故也。

## 合 境

顏淵問乎仲尼曰：回嘗聞諸夫子曰：無有所將，無有所迎，回敢問其遊。仲

尼曰：古之人外化而內不化，今之人內化而外不化，與物化者，一不化者也，安化成云：安，住也。安不化，安與之相靡，必與之莫多，稀韋氏之圃，音又。黃帝之圃，布五切。有虞之宮，湯武之室，君子之人若儒墨者師，故以是非相齟子兮切。和也。也，而況今之人乎？聖人處物不傷物，不傷物者，物亦不能傷也。唯無所傷者，爲能與人相將迎。

殉物曰外化，全真曰內不化，蕩性曰內化，持勝曰外不化，與物化者迹同物化，一不化者本未嘗化，化與不化，任之而已，非獨委順而又簡易也？夫純白涉世者，如聖人之遊行居寢於囿園宮室，又何將迎哉！儒墨君子尚不能無心而分別是非，況其下者乎？處物不傷物，光塵一體也，物亦不能傷，彼我無心也，唯無所傷者，爲能與人相將迎，然無心而不將迎者易，將迎而不迂物者爲難也。

## 背 俗

山林與，音餘。下同。臯壤與，成云：神臯奧壤。與我無親，見江南古藏本。舊闕。使我欣欣然而樂音洛。下同。與！樂未畢也，哀又繼之，哀樂之來，吾不能禦，魚呂切。其去弗能止，悲夫，世人直爲物逆旅耳。夫知遇而不知所不遇，知能而不能所不能，無知無能者，固人之所不能免也。夫務免乎人之所不免者，豈不亦悲哉！至言去言，至爲去爲，齊才細切。又如字。知之，所知則淺矣。

山林無情於人，而人多樂之者，靜與性合也。遇變即哀，情使然也，世之人皆爲哀樂所將迎，故遇則禍多，不遇則福全，能者受役，不能者役人也。是以聖人貴乎無知無能，而世人乃強知強能，與物相傷，是爲大病，儻能去其妄言妄知，而入其不知所以知者則深矣遠矣。



## 雜篇·庚桑楚 二十七

### 去 智

老聃之役司馬云：役，使也，學徒弟子也。有庚桑楚司馬云：楚名，庚桑姓也。太史公書作亢倉。者，偏得音篇。成云：門人之中最勝，故曰偏得。老聃之道，以北居畏烏罪切。本作岷。壘力罪切。何晏注《亢倉子》云：畏壘山即羽山也。在徐州。之山，其臣之畫音獲。然知者去之，其妾之挈然苦計切。畫然謂計畫飾智者也，挈然謂契約合仁者也，皆起之姦僞，失其自然也。又苦結切。提也，亦仁愛也。仁者遠之，於萬切。司馬云：言人以仁智爲臣妾，庚桑子悉棄仁智也。擁於勇切。腫章勇切。郭云：擁腫，朴也。之與居，鞅掌於丈切。或云：擁腫不材。郭云：鞅掌不自得。向云：二句朴累之謂。司馬云：皆醜貌。之爲使。居三年，成云：三歲一閏，入道小成。畏壘大壤，而掌切。《廣雅》云：壤，豐也。畏壘之民相與言曰：庚桑子之始來，吾灑然素珍切。李云：驚貌。異之，今吾日計之而不足，向云：无旦夕小利也。歲計之而有餘，向云：順天時而大穰。庶幾其聖人乎！子胡不相與尸而祝之、社而稷之乎？庚桑子聞之，南面而不釋然，弟子異之，庚桑子曰：弟子何異於予，夫春氣發而百草生，正得秋而萬寶成，天地以萬物爲寶，至秋而成也。元嘉本作萬寶。夫春與秋豈無得而然哉！天道已行矣，吾聞至人尸居環圓也。堵丁魯切。司馬云：一丈曰堵，環堵者面各一丈，言小也。之室，而百姓倡狂不知所如往。今以畏壘之細民，而竊竊平章偶語也。焉欲俎豆側呂切。俎，切肉之几。豆，盛脯之具，皆禮器也。俎豆，食我於衆人間也。予於賢人之間，我其杓音的，又匹么切。郭云：爲物之標杓也。王云：斯由已爲人准的也。司馬本作杓，音的。之人邪，吾是以不釋於老聃之言。

偏得老聃之道，言其悟理最深，故智略仁義皆所不取，而擁腫不材、鞅

掌自得者與之從事，是以初驚情泊，後欣俗阜，道脩德長，民欲尸祝之。不釋然者，尚嫌有迹，春秋皆自然之道，不言而自行，於我何功哉？故尸居潛隱，民莫得知，豈肯爲人之標杓耶？若當俎豆，是吾不解師言而故違之也。

弟子曰：不然，夫尋常之溝，八尺曰尋，倍尋曰常，尋常之溝則《周禮》洫澮之廣深也，洫廣深八尺，澮廣二尋深二仞也。巨魚無所還音旋。回也。其體，而鯢五兮切。鱖音秋。爲之制，《廣雅》云：制，折也。謂小魚得屈折也，王云：制謂擅之也，鯢鱖專擅於小溝也。步仞之丘陵，六尺爲步，七尺爲仞，謂廣一步高一仞也。孔安國云：八尺曰仞。又《爾雅》云：四尺曰仞。巨獸無所隱其軀，而夔魚竭切。狐爲之祥。李云：祥，怪也。狐狸喜爲祆夔，言各有宜，宜不失則大人有豐祿也。王云：野狐依之作祆祥也。崔云：壘狐以小丘爲善也。祥，善也。且夫尊賢授能，先善與利，自古堯舜以然，而況畏壘之民乎？夫子亦聽矣。庚桑子曰：小子來，夫函音含。車之獸，李云：獸大容車。介音戒，《廣雅》云：獨也。一本作分，謂分張也。而離力智切。山，則不免於網罟之患，吞敕恩切。舟之魚，碭而失水，徒浪切。謂碭溢而失水也，崔本作去水陸居也。則蟻魚綺切。能苦之。又作窮之。故鳥獸不厭高，魚鼈不厭深，夫全其形生之人，藏其身也，不厭深眇彌小切。成云：眇，遠也。而已矣。且夫二子向崔郭皆云：堯舜也。者，又何足以稱揚哉！是其於辯也，將妄鑿垣牆而殖蓬蒲空切。蒿也，簡髮而櫛，側瑟切。與扶同。《說文》梳比之總名也。數色主切。米而炊，昌垂切。向云：理於利小也。竊竊司馬云：細語也。一云：計校貌。乎又何足以濟世哉！舉賢則民相軋，於點切。《說文》：軋，輶也，輶，輶也。輶輶，車所踐也。輶，女展切。輶，力的切。任知則民相盜，之數物者，不足以厚民，民之於利甚勤，子有殺父，臣有弑音試。下同。君，正晝爲盜，日中穴阨，普回切。向云：阨，牆也，言无所畏忌。吾語魚據切。汝，大亂之本，必生於堯舜之間，其末存乎千世之後，千世之後，其必有人與人相食者也。

汙瀆，凡鱗所專，而蛟鯨不游；丘阜，狐狸所善，而虎兕不處；是以道德光大，俗難隱藏，先善與利，聖人常事，唯高遠深眇者，利害莫能侵，而彼全其形生者，不足稱揚也。辯析賢愚，將毀淳朴，簡髮數米，喪失混同，聖人不尚賢，絕聖知，所以厚民，使不爲篡竊也；而任知之士，目前圖成而已，豈料他日之敗哉！

南榮趯音尉，昌於切。庚桑子弟子也。向音疇，一音紹俱切。徐直俱切。又敕俱切。又處

由切。《漢書·古今人表》作南榮疇，或作儔，又作壽，《淮南子》作南榮疇，云敕躑跂步百合不休。楚子六切。然正坐曰：若疇之年者已長丁丈切。矣，將惡音烏。乎託業以及此言邪！庚桑子曰：全汝形，抱汝生，無使汝思慮營營，若此三年，則可以及此言也。南榮疇曰：目之與形，吾不知其異也，而盲者不能自見；耳之與形，吾不知其異也，而聾者不能自聞；心之與形，吾不知其異也，而狂者不能自得；形之與形亦辟婢亦切。開也，崔云：必亦切，相著也。矣，而物或間間側之間。之邪？欲相求而不能相得。今謂疇曰：全汝形，抱汝生，勿使汝思慮營營，疇勉向云：勉，強也。一本作晚。聞道達耳矣。向云：僅達於耳，未徹於心也。一本作未達耳。庚桑子曰：辭盡矣，曰奔蜂乎恭切。司馬云：小蜂也。一云：土蜂也。江南李氏本無曰字。不能化藿蠋，音蜀。司馬云：豆藿中大青蠱也。越鷄司馬云：小雞也。或云荆雞也。不能伏扶又切。鳥抱子也。鵠音鶴，又戶沃切。卵，力管切。魯鷄向云：大雞也，今蜀雞也。固能矣，鷄之與雞其德非不同也，有能與不能者，其才固有巨小矣，今吾才小，不足以化子，子胡不南見老子。

疇問若舍賢知，何業可託？答以去賢則全形，忘知則抱生，疏淪千日，斯言應矣。有主不執，故狂弗自得，六鑿相攘，故物或間之。膚受者達耳，神悟則徹心，牛溲安有鯢鵬之化，蜂房安有雕鷲之難，理固然也。庚桑所以謝疇之問者，欲藏其狂言以自全，而推至於老聃耳。

南榮疇羸音盈。案《方言》：羸，儻也。齊楚陳宋之間謂之羸。一音果。糧七日七夜至老子之所。老子曰：子自楚之所來乎？南榮疇曰：唯。惟癸切。老子曰：子何與人偕來之衆也？南榮疇懼然紀具切。文云：失容貌。成云：驚視貌，一本作懼。顧其後。老子曰：子不知吾所謂乎？南榮疇俯而慙、仰而歎曰：今者吾忘吾答，因失吾問。老子曰：何謂也？南榮疇曰：不知乎？人謂我朱愚；鍾輪切。《說文》：朱，赤心木，松柏屬也。一曰丹也。朱愚義取丹心愚蠢也。江南古藏本作株愚。知乎？反愁我軀；不仁則害人，仁則反愁我身；不義則傷彼，義則反愁我已。我安逃此而可？此三言者，疇之所患也，願因楚而問之。老子曰：向吾見若眉睫音接。《釋名》云：目毛也。之間，吾因以得汝矣。今汝又言而信之，若規規李云：失神貌。一云：細小貌。然若喪息浪切。父母，揭其列、其謁二切。竿音干。而求諸海也，向：言以短小之物欲測深大之域也。汝亡人哉，崔云：喪亡性情之人也。惘惘乎文云：不知所歸也。汝欲反汝情性而

無由入，可憐哉！

問何與人偕來之衆，謂采色不定、意不一也。懼然顧後，懷疑失容，吾所謂者，非言非貌，驚故忘答，慙故失問。朱愚丹心，愚慙也。夫仁知義三者，彼我皆爲患，既目擊道存矣，又況有言乎？海非藏親之地，竿非探淵之策，喪本無歸，罔然失措，欲反性情而無由入，此所以可憐也。

南榮趯請人就舍，召其所好，呼報切。去其所惡，烏路切。十日息愁，舊作自愁，劉得一作息愁。文如海作愁息。復見老子。老子曰：汝自灑濯文角切。孰哉，鬱鬱《呂覽》曰：水鬱則汗，木鬱則蠹，草鬱則黃。乎，然而其中津津文云：不淨也。成云：尚漏也。乎猶有惡也。李云：惡計未盡也。夫外轡音獲。云：束縛也。《三蒼》云：佩刀靶韋也。本亦作獲，向音霍。者不可繁多也，概也。而捉，側角切。成云：捉持也。將內捷；其輦切。難也。徐作捷，其偃切。關也，閉也。內轡者不可繆莫侯切。向云：綢繆也。而捉，將外捷；外內轡者道德不能持，而況放如字。向：方往切。依也。道而行者乎？南榮趯曰：里人有病，里人問之，病者能言其病，然其病病者猶未病也。若趯之聞大道，譬猶飲藥以加病也。趯願聞衛生李云：防衛其生，令合道也。之經而已矣。老子曰：衛生之經，能抱一乎？能勿失乎？能無卜筮而知吉凶乎？能止乎？能已乎？能舍音捨。下同。諸人而求諸已乎？能儵音蕭。文云：無滯著貌。然乎？能侗大董切。向：敕動切。云：直而无累之謂。《三蒼》云：殼直貌。文云：无不通貌。然乎？能兒子乎？兒子終日嗶戶羔切。而嗑音益。喉也，咽也。李本作不嗑，音厄。云：謂噎也。文本同，云：氣不通貌。不嗑，於邁切。司馬云：楚人謂啼極無聲爲嗑。又聲破也。和之至也；終日握李云：卷手曰握。而手不掣，五禮切。《廣雅》云：捉也。成云：搗拳也。文云：掣，疲懈也。共崔云：共，壹也。文云：不偏用力，嬰兒共有此德也。其德也；終日視而不瞋，音舜，動也。偏音篇。不在外也；行不知所之，居不知所爲，與物委於危切。蛇以支切。而同其波，是衛生之經已。

能病已病者猶未病，聞道愈惑者爲難悟，故知大方之難窺，願聞小乘而已，抱一勿失，專而藏照也。知吉凶者誠明，能止已則不役，求諸已則自信，儵然侗然無所係累，能兒子乎？全其朴也，兒子淳德未虧，故聲完而握專，無著而神定，縱任而無忤，同流而莫汨，此皆衛生之經也。

南榮趯曰：然則是至人之德已乎？曰：非也，是乃所謂冰解音蟹。凍釋者。夫至人者相與交食崔云：交，俱也。李云：共也。乎地，而交樂音洛。乎天，不以人

物利害相撓，於營切。《廣雅》云：亂也。不相與爲怪，不相與爲謀，不相與爲事，儻然而往，倜然而來，是謂衛生之經已。曰：然則是至乎？曰：未也，吾固告汝曰能兒子乎？兒子動不知所爲，行不知所之，身若槁苦老切。木之枝，而心若死灰，若是者，禍亦不至，福亦不來，禍福無有，惡音烏。有人災也。

越以此爲至人之德，是見彈而求灸也。故鍼藥去病，言教解惑，皆非至至者，至人脩德以調陰陽，庶人竭力以事稼穡，交食所以養形，交樂所以和性，人和物阜，誠心無撓，利害兩忘，任常不怪，空有無係，恣其遊適，是衛生之經已，理至則忘言也。夫欲至極者，必先反淳朴，淳朴如嬰兒，爲道之捷徑，若以言爲至，猶咀糟粕而求醇液之美也。

## 自 定

宇泰定心宇大寧也。者，發乎天光，發乎天光者，人見其人物見其物。見張君房本，舊闕。人有修者，乃今有恒，有恒者人舍之，天助之。人之所舍，謂之天民，天之所助，謂之天子。學者學其所不能學也，行者行其所不能行也，辯者辯其所不能辯也，知止乎其所不能知，至矣。若有不即是者，天鈞敗補邁切。之。

靈宇大寧者，慧光內發，天廷外瑩。我牛，人謂之牛，我馬，人謂之馬；物物自名而天光不妄也。脩大寧者，和光不忤，未始異常，與物和同，人所蔽舍，奉天子物，天所祐助，此有恒德者也。世學學所不能學，至學學其所能學，天下難事必作於易是也；世行行所不能行，至行行其所能行，聖人言易行，天下莫能行是也；世辯辯所不能辯，至辯辯其所能辯，善者不辯，辯者不善是也。知止乎其所不知而至，猶操舟者止於游，欲其驚沒則殆矣。反其自然，非敗而何。

備物以將形，藏不虞以生心，敬中以達彼，若是而萬物至者，皆天也，而非人也。不足以滑音骨。成，不可內於靈臺，靈府、靈臺，皆心也。真君處於內謂之府，真宰遊於上謂之臺。靈臺者有持而不知其所，持而不可持者也。不見其誠已而發，謂不自照其內而外馳也。每發而不當，丁浪切。《爾雅》云：每，雖也。謂雖有發動不中當也。

業入而不舍，每妄更爲失，妄見劉得一本，舊闕。爲不善乎顯明之中者，人得而誅之，爲不善乎幽閒之中者，鬼得而誅之，明乎人明乎鬼者，然後能獨行，券音勸。券，契也。內，屬我也，外，屬彼也。契內者無名，契外者賈術而已，《說文》：券，契也。券別書之，書以刀判契其旁，故曰契也。券，郭忠恕《佩觿》：券從刀，或從力者，勞券之券，一曰止也。達眷切。內者行乎無名，券外者志乎期費，芳貴切。期，《說文》會也，一曰要也。費，《說文》：散財用也。行乎無名者，唯庸有光，志乎期費者，唯賈人音古，同商賈之人費心於錐刀也。也。人見其跂，猶之魁然，苦回切。魁然，不動貌。一曰安也，主也，謂衆人已見其跂求分外而猶自安，可羞愧之甚也。與物窮者物入焉，與物且且，苟且也。苟且其心，容身不暇，豈能容於人哉。者其身之不能容，焉於虔切。能容人，不能容人者無親，無親者盡人。兵莫憊七坎切。《廣雅》云：痛也。於志，鏌鋣音莫耶，良劍名。爲下，寇莫大於陰陽，無所逃於天地之間，非陰陽賊之，心則使之也。

賢愚之性莫移爲備物，進退之儀有漸爲將形，括囊不安之意，以生應物之心，內自恭肅，外弗見侮，無爲而禍臨者天命也，有繫而獲罪者人事也，處患而不憂者，靈臺不桎、成性不虧也。有持則真性存，不知其所持無主也，而不可持者，隨其成心而師之，不誠己則所發皆妄，道業難入，更致重失也。券內者行乎無名故自明，券外者志乎期費則賈術，人見其危跂，自謂安固也。與物窮者，謂券內之人與人愈有，券外之人苟且容身而已。無親者人不保附而孤絕，期費之志，毒過鋒刃，妄發之心，寇其陰陽，故憊毒之氣無所逃也。

道通，其分符問切。下同。也，其成也毀也。所惡烏路切。下同乎分者，其分也以備；所以惡乎備者，其有以備。故出而不反，謂真蕩而不還也。見其鬼，謂陰炁來舍也。出而得是謂得死，失者同於得，故曰得死。滅而有實，鬼之一也，《廣雅》云：滅，殄也，盡也。天光已滅，雖有實性，與其冥冥之物不二也，《真誥》謂之清靈善爽之鬼。以有形者象無形者而定矣。出無本，入無竅，苦弔切。造化無本，大空无竅也。有實而無乎處，召據切。下同。有長如字。而無本剽，本作標，甫小切。崔云：末也。有所出而無竅者有實。有實而無乎處者，宇四方上下爲宇也。也；有長而無本剽者，宙往古來今日宙。也。有乎生，有乎死，有乎出，有乎入，出入而無見其形，見張君房本，舊作入出。是謂天門，天門者，無有也，萬物出乎無有，有不能以有爲有，必出

乎無有，而無有一無有，聖人藏乎是。

大道通徹，有無咸備，然而物各有分，不可一概論也，如魚得水則生，蟻得水則死，本分已定，物之素備也。所以惡備者，雖惡而宿業莫逃，故曰其有以備，真蕩而不反，則陰氣來舍，故見其鬼，開兌濟事曰出而得，若乃失者同於失，是謂得死也。天光已滅，雖有實性，而與冥冥之物不二矣。學道者以虛爲身，以無爲心，非定而何？造化無本，太虛無竅，雖無本竅而理則有實，而未識何處妙本無夭，是謂有長而不見始末，觀其卓然獨化，是無竅而有實也。四方上下莫窮，有實亦莫窮，往古來今無際，有實亦無際。有生死出入之名，無生死出入之迹，故曰天門。造物者無物，有形皆自造，而天門亦無有也。蓋有不能生物，所生在於無，動不能化形，所化在乎靜，有無皆不免涉迹，故寄至無妙有之理，而混爲一無有，聖人藏乎是，與造化俱也。

## 移 是

古之人其知有所至矣，惡音烏。乎至，有以爲未始有物者，至矣盡矣，弗可以加矣。其次以爲有物矣，將以生爲喪息浪切。也，以死爲反也，是以分方云切。已。其次曰始無有，既而有生，生俄而死，以無有爲首，以生爲體，以死爲尻，苦羔切。孰知有無死生之一宗一本作守。者，吾與之爲友，是三者雖異，公族也，昭景也，著丁略切。戴也，甲氏也，著張慮切。封也，非一也，有生，黻也，於減切。司馬云：烏簾切。黻有疵也，有疵者，欲披除之。披普皮切。分散也。然曰移是。黻然聚而生，披然散而死也。嘗言移是，非所言也。雖然，不可知者也，臘力闔切。者之有臄音毗，司馬云：牛百葉也。胲，古來切。足大指也。崔云：備也。按臘者大祭，備物而饋有臄胲，此雖從散禮，應具不可散棄也。可散而不可散也。觀室者周於寢廟，又適其偃洩所留切。偃洩，屏廁也，洩見江南李氏本，舊闕。焉，爲於僞切。是舉移是，請嘗言移是，是以生爲本，以知爲師，因以乘是非，果有名實，因以己爲質，使人以己爲節，因以死償常亮切。《廣雅》云：償，報也。節。若然者，以用爲知，以不用爲愚，以徹爲名，以窮爲辱，移是非今之人也，非見江南古藏本，舊闕。是蝸音條。與鸞音學。鳩同於同也。

未始有物，窅然難言，唯勤行密脩者默而悟之。其次有物，謂胚腓也，至人以生爲喪，以死爲反，是以有生死，雖有生死之別，皆出冲氣一宗，猶昭景屈異姓，系楚公之一族，著戴謂衣冠偉盛，甲氏謂第族崇高，著封謂郡縣豐阜，事雖非一，而不離乎楚都，猶氣方駮聚而生，俄披散而死，不知天地密移，而妄執是非，以有生爲是，則以披散爲非，以冲氣爲是，則以駮聚爲非，是非無主，故非所定言，在學者辨而析之。喻脰脰羸穢可散也，而大祭備物不可散。生死駮披，其義亦然，寢廟偃厠，又重喻是之可移，生爲是非之本，知爲是非之師，故乘之而無窮，以爲果有名實，因持以爲己節，至於死而不顧，亦各是其是而已，何異蜩鳩之同於偏見哉！

## 禮 僞

踰女展切。踐也，履也。市人之足則辭以放驚，魚到切。驕縱貌。兄則以嫗，烏遇切。聲柔貌。文云：驚失聲，一曰：嫗詡憊問貌。大親則已矣。故曰至禮有不人，至義不物，至知不謀，至仁無親，至信辟金。必碩切。除也。

凡有脫誤於人者，情疏則不免辭謝，情親則恕之而已。至禮者忘己則治，有人則亂矣；至義者守節自全，在物則虧矣；至知者不思而明，多謀則惑矣；至仁者芻狗萬物，親疏大同矣；至信者未嘗失約，豈俟金璧以爲質哉！

## 虛 無

徹志之勃，必妹切。下同。解心之謬，如字。差也，欺也。一本作繆，亡侯切。繫縛之謂。去起呂切。德之累，劣僞切。下同。達道之塞。富貴顯嚴名利，六者勃志也；容動色理氣意，六者謬心也；惡烏路切欲喜怒哀樂，六者累德也；去就取與知能，六者塞道也。此四六者不盪徒黨切。郭云：動也。胸中則正，正則靜，靜則明，明則虛，虛則無爲而無不爲也。



貴富諸事不能悖亂者，志通也；容動諸事不能繆網者，心空也；慾惡等事不能緣累者，德厚也；去就諸事不能闕塞者，道明也。諸事不愚於靈府，則洞然明靈、遐覽太漠，世事有爲之患，豈足以馱溺耶！

## 德 性

道者德之欽也，生者德之光一本作先。也，性者生之質也，性之動謂之爲，爲之僞謂之失，知者接也，知者謨也，知者之所不知，猶睨魚計切。視也。也，動以不得已之謂德，動無非我之謂治，名相反而實相順也。

夫有迹者難侔於無形，枯槁者詎比於華耀，無性者有生，亦何由質正哉！視聽食息，皆性所爲，所爲非真，爲道之失，故不接不謨，安用知爲？知者於所常知則知之，其所不知則瞢然矣？猶睨者斜視而不能直見也。迫而後動，動則斯得，真以治身，何所不治，內外物我，猶東西之相反而不可相無也。

## 拙 僞

羿五計切。工乎中丁仲切。微，而拙乎使人無己譽，聖人工乎天而拙乎人。夫工乎天而佞音良。崔云：良士也。又音浪。乎人者，唯全人能之。唯蟲能蟲，唯蟲能天，全人惡烏路切。下同。天，惡人之天，而況吾天乎人乎！

工取中者，拙乎藏譽，妙自然者，疏於人爲，天人之迹俱泯，斯爲全人也。已禽蟲多自名曰能蟲，飛走不相代曰能天，全人惡天不以心緣道，惡人之天不以人助天，又豈顧人之譽工而毀拙者。

## 智 籠

一雀適羿，羿必得之，威也。以天下爲之籠，力東切。則雀無所逃，是故湯

以庖白交切。人籠伊尹，伊尹負鼎以干湯，湯知其賢，故順其性以庖厨而籠之，已解《禪王篇》。秦穆公以五羊之皮籠百里奚，百里奚亡秦走宛，楚鄙人執之，穆公以五羊皮贖之於楚也。或云：百里奚好五色皮裘，故因其所好籠之也。已解《田子方篇》。是故非以其所好籠之而可得者，無有也。

禽誤入羿之彀，士固入國之籠，羿得禽則威，羿威而禽斃，國得士則昌，國昌而士勞，一得一失，自然之理。如伊尹百里奚皆未能無心忘好，故爲成湯穆公所籠，若心無所好，豈可得而籠耶！

## 忘形同天

介者音界。郭云：別也。《廣雅》云：獨也。搯畫，敕紙切。祈也，畫飾容之具，今無足故不復愛之。一云：搯，離也。崔云：搯畫，不拘法度也。外非譽也；胥靡登高而不懼，遺死生也；夫復音服。文云：復，溫復也。諳音習。文云：諳，翫也。不餽其愧切。《廣雅》云：遺也。而忘人，復者，溫復之謂也。謂翫也。夫人翫習者，雖復小事皆所至惜。今溫復人之所習，既得之矣，而不還歸以饋遺之。此至愚不獲人之所惜者也。無復相爲之情，故曰忘人。忘人因以爲天人矣，故敬之而不喜，侮亡甫切。之而不怒者，唯同乎天和者爲然。出怒不怒，則怒出於不怒矣，出爲無爲，則爲出於無爲矣。欲靜則平氣，欲神則順心，有爲也欲當，則緣於不得已，不得已之類，聖人之道。

夫飾容者喜譽，貪生者懼亡，復習玩好而不餽遺者，忘棄人事也。緣習成性，因以爲天然者，亦猶介者外非譽、役者遺死生矣。方其戮辱之時，何情及於喜怒哉？性同乎天和者亦然，有怒而不出，則蓄而愈怒，出之則廓然不怒矣。有爲而不爲，則沮其欲爲，爲之則曠然無爲矣。由於本性無怒無爲故也。平氣靜照，則何所怒，順心安神，則何所爲。其動也緣於不得已，則當於事情，此聖人之道也。

## 雜篇·徐無鬼 二十八

### 遷 善

徐無鬼緡山人，魏之隱士。司馬本作緡山人徐無鬼。因女商成云：魏之幸臣。見魏武侯，名擊，文侯子，治安邑。武侯勞力報切。唯山林之勞一字如字。餘并下章并力報切。之曰：先生病矣，苦於山林之勞，故乃肯見於寡人。徐無鬼曰：我則勞於君，君有何勞於我？君將盈嗜時志切。下同。欲，長丁丈切。好呼報切。下章同。惡，烏路切。下章同。則性命之情病矣；君將黜敕律切。退也。嗜欲，擊苦田切。《爾雅》云：固也。崔云：引去也。司馬云：牽也。好惡，則耳目病矣。我將勞君，君有何勞於我。武侯超然司馬云：猶悵然也。不對。少焉，詩照切。徐無鬼曰：嘗語魚據切。君，吾相息浪切。下同狗也，下之質，執飽而止，成云：執守情志，唯貪飽食。是狸德謂貪如狐狸也。也；中之質，若視日；司馬云：瞻遠也。上之質，若忘其一。一，身也。謂精神不動，若无其身也。吾相狗又不若吾相馬也。吾相馬直者中繩，丁仲切。下同。司馬云：直謂馬齒，曲謂背上，方謂頭，圓謂目。成云：曲謂項也。曲者中鉤，方者中矩，圓者中規，是國馬也，而未若天下馬也。天下馬有成材，言自然已足，不須教習也。若卹音恤。文云：疾也。若失，音逸。文云：亡也。李云：卹失皆驚竦若飛也。若喪息浪切。下章同。其一，言喪其偶也。若是者，超軼音逸。過也。徐：徒列切。崔云：徹也。絕塵，不知其所。武侯大說而笑。徐無鬼出：女商曰：先生獨何以說吾君乎？吾所以說吾君者，橫說之則以《詩》、《書》、《禮》、《樂》，從子容切。說之則以《金版》、或曰：秘讖也。司馬云：《周書》篇名。《六弢》，吐刀切。謂《太公六韜》文武虎豹龍犬也。奉事而大有功者不可爲數，而吾君未嘗啓齒，今先生何以說吾君，使吾君說若此乎！徐無鬼曰：

吾直告之吾相狗馬耳。女商曰：若是乎？曰：子不聞夫越之流人司馬云：越國流人，有罪見流徙者也。又越，遠也。乎？去國數所主切。日，見其所知而喜，去國旬月，見所嘗見於國中者喜，及期音基。年也，見似人者而喜矣。不亦去人滋久，思人滋深乎？夫逃虛空者司馬云：故壞冢處，爲虛空也。成云：虛園空宅也。藜力西切。藿徒吊切。柱誅矩切。馬云：塞也。宇，見君房本，舊作乎。黽音生。黽由救切。之逕，司馬本作徑，道也。踉位其空，音良，踉，云欲行貌。司馬本作良，云：良人謂巡虛者也。位其空，謂處虛空之間也。聞人足音蹵然巨恭切。蹵地聲。成云：人行之聲。而喜矣，李云：喻武侯无人君之德，而處在防衛之間，雖臨朝矯厲，愈非其意，及得其所思，猶逃竄之人聞人足音，安能不蹵然改貌、釋然而喜矣。而況乎昆弟親戚之聲苦頂切。歎苦愛切。李：聲歎，喻言笑也。但呼聞所好猶大悅，況骨肉之情，歡之至也。其側者乎？久矣夫音扶。後倣此。莫以真人之言聲歎吾君之側乎？

盈嗜欲則性命之情病，黜嗜欲則耳目之情病，即前所謂內外獲也。若亡若喪，皆不自得之意，亡一不自得，未若喪一之甚也。蓋借狗馬而言，豈以是爲至哉！欲反武侯之意，使之自粗而入，然後導之而造夫精微也。

## 修 誠

徐無鬼見武侯，武侯曰：先生居山林，食芋音序。栗，厭葱韭，音久。以賓本作擯，必刃切。司馬云：棄也。李云：賓客之賓。寡人，久矣夫，今老邪，其欲干李云：干，求也。酒肉之味邪！其寡人亦有社稷之福邪？李云：謂善言嘉謀可以利社稷也。無鬼曰：無鬼生於貧賤，未嘗敢飲食君之酒肉，將來勞君也。君曰：何哉？奚勞寡人。曰：勞君之神與形。武侯曰：何謂邪？無鬼曰：天地之養也一，登高不可以爲長，居下不可以爲短，君獨爲萬乘繩證切。之主，以苦一國之民，以養耳目鼻口，夫神者不自許司馬云：許，與也。謂自私之姦也。也。神者好和而惡姦，夫姦，病王云：姦者以正從邪，謂病也。也，故勞之，唯君所病之何也。武侯曰：欲見先生久矣，吾欲愛民，而爲義偃兵，偃，息也。其可乎？無鬼曰：不可，愛民，害民之始也，爲義偃兵，造兵之本也，君自此爲之，則殆不成。凡成美，惡器也，君雖爲仁義，幾且僞哉？形固造形，成固有伐，變固外戰，君亦必無盛鶴列李云：

謂兵如鶴之列行。司馬云：鶴列鐘鼓也。文云：陣行形也。於麗譙本作噍，在道切。司馬云：麗譙，樓觀名也。按謂華麗而嵯峨也。文云：戰樓也。之間，無徒驥司馬云：徒，步卒也。文云：驥，馬軍也。於錙壇側其切。錙壇，壇名。成云：宮名也。文云：戰場也。之宮，無藏逆於得，無以巧勝人，無以謀勝人，無以戰勝人。夫殺人之士民，兼人之土地，以養吾私與吾神者，其戰不知孰善，勝之惡音烏。乎在。君若勿已矣，修胸中之誠，以應天地之情，而勿撓一營切。又一盈切。夫民死，已脫音奪。肉去骨也。他括切。骨去肉也，此非也。矣，君將惡乎用夫偃兵哉！

武侯久湛欲而忘本，故無鬼直言勞君之形與神。夫天地之養人，君民無二，今則損不足以奉有餘，逆理也。人神與天神同其至公，自許謂自與之私，是所謂姦也，民從君化，君病則民傷，故勞之。武侯遂問爲義偃兵之要，魚處涸則思濡沫，民困匱則思仁義也。答以愛尚則不均而害多，義立則必虧而爭興，皆由爲者敗之，故危殆及而成功寡也。道失而後有仁，德失而後有義，仁義崇而民性遷，則僞生矣。至若鶴列麗譙，徒驥錙壇，皆非久安之策，不足尚也。順天理則無喪失，好武事則懷併吞，巧謀多則先窮，戰爭極則易國，應天則公，自聖則私，神豈容私哉？天道祐善，勝果在此矣。

## 放 心

黃帝將見大隗五罪切。成云：古之至人。乎具茨祀咨切。司馬本作疚，山名，在滎陽密縣東，今名泰隗山。之山，方明爲御，昌寓音禹。驂乘，繩證切。驂乘，車右也。御，車左也。張若、譚音習。朋蒲登切。崔本作彖，舒氏切。前馬，司馬云：二人先馬導也。昆閭、音昏。滑稽音骨。稽音雞。後車，司馬云：二人從車後也。至於襄城之野，今汝州有襄城縣，在大隗山之南。七聖黃帝一，方明二，昌寓三，張若四，譚朋五，昆閭六，滑稽七。皆迷，無所問塗，適遇牧馬童子問塗焉，曰：若知具茨之山乎？曰然。若知大隗之所存乎？曰然。黃帝曰：異哉小童，非徒知具茨之山，又知大隗之所存，請問爲天下。小童曰：夫爲天下者亦若此而已矣，又奚事焉。予少詩召切。而自遊於六合之內，予適有瞀莫豆切。李云：風眩貌。司馬讀曰暈，謂眩暈也。病，有長者丁丈切。教予曰：若乘日之車，司馬云：以日爲車，謂乘日新以變化也，車者推移不定也。而遊於

襄城之野，今予病少痊，七全切。李云：除也。予又且復扶又切。遊於六合之外。夫爲天下亦若此而已，予又奚事焉。黃帝曰：夫爲天下者，則誠非吾子之事，雖然，請問爲天下。小童辭。黃帝又問，小童曰：夫爲天下者，亦奚以異乎牧馬者哉？去起呂切。其害馬者而已矣。黃帝再拜稽首稱天師而退。

黃帝功成不居，故訪道於幽深而遇牧馬童子。童子以牧馬喻治國，有旨哉！馬之真性，齕草飲水自足，民之真性，耕食織衣自足，更無他事。乘日之車，謂乘日新之道，隨化而不滯。再問不答，示以不言之教也。今之牧馬者，不知鞭策之爲害，字民者昧乎法令之生姦，乃謂馬難調而民難治，兩失之矣。

## 樂 囿

知士無思慮之變則不樂，音洛。下同。辯士無談說之序則不樂，察士李云：察，識也。成云：機警明察之士也。無陵李云：謂相陵轢。諄音信。《廣雅》云：問也。又雖遂切。謂好陵辱責罵人也。之辭見張君房本，舊作凌諄之事。則不樂，皆囿音又，文云：滯於一方也。於物者也。招世之士興朝，直遙切。中民之士李云：善治民者也。榮官，筋力之士矜難，乃旦切。勇敢之士奮患，兵革之士樂戰，枯槁苦老切。後章同。之士宿名，宿，久積也。王云：枯槁一生以爲娛，其所寢宿，唯名而已。法律之士廣治，直吏切。禮教之士敬容，仁義之士貴際，謂盟會事。農夫無草萊之事則不比，毗志切。成云：比，和樂也。下同。商賈音古，學以居位曰士，辟土殖穀曰農，作巧成器曰工，通財鬻貨曰商。一云：坐肆賣售曰賈。無市井古者因井爲市，故謂之市井。之事則不比，庶人有旦暮之業則勸，百工有器械之巧則壯。壯猶勤也。錢財不積則貪者憂，權勢不尤則夸者悲，勢物之徒樂變，遭時有所用，不能無爲也。此皆順比於歲，不物於易者也，馳其形性，潛之萬物，終身不反，悲夫！

黜計慮則知士窮，廢合縱則辯士困，崇簡易則察士閑，能內養而不樂外馳，則物不可得而役也。招世之士尚賢，所以興朝，中民之士循理，所以榮官，時有患難，則勇士矜夸，佳美干戈，則不親耒耜，枯槁之士，不事王

侯，宿於名而已。法令興則冗惰勸，禮儀盛則矯飾脩，行仁義者以際會爲得志，若其士不學，農不積，工不巧，商不貨，羣庶失業，由於自惰也。貪者貴財過於身，夸者重勢甚於命，以勢役物，樂於變動，如耳目鼻口，當有用之時，莫能自遏也。才知各任則事業成，四時失序則歲功廢，不順比於歲，皆爲物所遷，其心化其形與之然，是之謂不反，誠可哀也。

## 謬 妄

莊子曰：射者非前期而中丁仲切。謂之善射，天下皆羿也，可乎？惠子曰：可。莊子曰：天下非有公是也，而各是其所是，天下皆堯也，可乎？惠子曰：可。莊子曰：然則儒墨楊秉成云：儒姓鄭名緩；墨名翟；楊，楊朱也；秉，公孫龍子。四，與夫子爲五，果孰是邪？或者若魯遽音渠。成云：周初時人。者邪，其弟子曰：我得夫子之道矣，吾能冬爨七亂切。鼎成云：冬取十年燥灰以擁火，須臾出火，可以爨鼎。而夏造冰成云：盛夏以瓦餅盛老湯再煮極沸，沉餅井底，即自成冰。矣。魯遽曰：是直以陽召陽，以陰召陰，非吾所謂道也，吾示子乎吾道。於是乎爲於僞切。之調瑟，廢廢，置也。一於堂，廢一於室，鼓宮宮動，鼓角角動，音律同矣。夫或改調徒吊切。一弦，於五音無當丁浪切。合也。也，鼓之二十五弦皆動，未始異於聲，而音之君已，且若是者邪！惠子曰：今夫儒墨楊秉，且方與我辯，江南本作方與我辯，舊本作方與我以辯。相拂以辭，扶弗切。文云：拂，反也。相鎮以聲，文云：鎮，壓也。而未始吾非也，則奚若矣。莊子曰：齊人竢子於宋音擲，投也。司馬云：齊人憎其子，竢之於宋，使門者守之，令形不全，自以爲是。者，其命闔也不以完，其求鉗鍾音刑。《字林》云：鉗似小鍾而長頸。又云：似壺而大。也以束縛，郭云：恐其破傷也。按此言賤子貴鉗，自以爲是也。其求唐子謂失亡子也。也而未始出域，有遺類遺，亡也，亡其種類故也。惠施叛道而好辯，猶齊人遠子而愛鍾也。矣夫。楚人寄而竢闔者，夜半於無人之時而與舟人鬪，未始離力智切。於岑，土金切。岑，岸也。成云：楚郢之人，因寄於江濱之側，投竢守門之家，夜半無人之時，輒上人舟而舟未離岸，反與舟人鬪，愧心負理，更造怨詞，迷謬若此，自以爲是。而足以造於怨也。

射之謬中者非善，人之自是者非公，五子以相勝爲道殊，魯遽以優劣稱

術異，而不知有大同者存，堂室之瑟調則律同矣，宮角之絃變則音異焉，是故寂寞爲五音之主，靜默爲衆辯之宗，而惠子乃以雄辯爲極，故莊子引齊人謫子以喻遺殘嗣續，寶貴外貨，叛道求勝，莫悟己非，寄而謫闢則寓迹不高，夜鬪者所爭無明，未離岑則滯有崖，造怨者難免其非也。

## 亡 質

莊子送葬，過惠子之墓，顧謂從者才用切。曰：郢人以井切。楚都也。《漢書音義》作慢人，古之善塗墍者，施廣領大袖以仰塗墍，而領袖不污，有小飛泥誤著其鼻，因令匠石揮斤而斲之。慢音愠。墍烏洛切。白土也。漫莫干切。李云：塗也。其鼻端，若蠅翼，使匠石斲之。匠石運斤成風，聽而斲之，瞑目恣手，四字江南本是經，舊本作郭象注，非是。盡墍而鼻不傷，郢人立不失容。宋元君聞之，召匠石曰：嘗試爲於僞切。寡人爲之。匠石曰：臣則嘗能斲之，雖然，臣之質死久矣。自夫子之死也，吾無以爲質矣，吾無與言之矣。

槁木其形者有之，臨刃而不驚者鮮，執柯逞技者有之，當鼻而縱揮者寡，是知目擊之遇，忘言之對，世豈常有哉！

## 公 舉

管仲有病，桓公問之曰：仲父之病病矣，可不謂云，江南李氏本作諱，舊本作謂。至於大病，大，極也。則寡人惡音烏。乎屬音燭。國而可？管仲曰：公誰欲與？如字。又音餘。公曰：鮑叔牙。曰：不可。其爲人潔廉善士也，其於不己若者不比之，又一聞人之過，終身不忘，使之治國，上且鉤鉤，反也。乎君，下且逆乎民，其得罪於君也，將弗久矣。公曰：然則孰可！對曰：勿已，則隰朋可。其爲人也，上忘而下畔，言在上不自高，於下無背者也。愧不若黃帝，而哀不己若者。以德分人謂之聖，以財分人謂之賢，以聖臨人，未有得人者也，以賢下人，江南本作以聖臨人，以賢下人，舊並作以賢。未有不得人者也。其於國有不聞也，其於家有不見



也。勿已，則隰朋可。

鮑叔不能強力忍垢，兼濟天下，而欲使物齊己，潔廉故鉤君，不比故逆民。隰朋之爲人，不諂不傲，尊道恤民，聖不自德，賢不恃財，以賢下人，焉有不得，故大者宜爲下。於國有不聞，於家有不見，兼忘天下也。鮑叔之舉管仲公也，仲之舉隰朋，亦豈私哉！

## 戒 驕

吳王文云：夫差也。浮於江，登乎狙七徐切。之山，衆狙見之，恂然舜、荀二音。司馬云：遽也。成云：怖懼也。棄而走，逃於深蓁，側巾、仕巾二切。成云：林叢也。有一狙焉，委於危切。蛇餘支切。成云：從容也。攬俱縛切。《三蒼》云：攬，搏也。搔，素報切。文云：騰躡便疾貌。見賢徧切。巧乎王，王射食亦切。下同。之，敏給搏音博。捷疾葉切。速也。矢。王命相者息亮切。司馬云：佐王獵者也。趨音促。急也。射之，狙執死。司馬云：見執而死也。王顧謂其友顏不疑曰：之狙之猶是也。也，伐其巧恃其便婢面切。以敖音傲。慢也。予，以至此殛紀力切。誅也。也，戒之哉！嗟夫！無以女色驕人哉！顏不疑歸而師董梧，有道之士，師其德以鋤色。以鋤士居切。成云：除去也。其色，去起呂切。樂音洛。辭顯，三年而國人稱之。

恂懼幽潛者免禍，縱慢躑躅者罹災，故狙恃獨巧不能逃衆箭也。山林異類，以無識而敖人，猶不免速死，況人爲物靈，有知有識而欲敖忽同類之尊者乎？不疑歸而鋤其驕色，國人稱之，易悟也夫！

## 鬻 名

南伯子綦隱几於靳切。而坐，仰天而噓。音虛。顏成子入見賢徧切。曰：夫子物之尤也，形固可使若槁骸，心固可使若死灰乎？曰：吾嘗居山穴之口李云：齊南山穴也。司馬本作山穴之中。矣，當是時也，田禾齊君也，尊德，故國人慶之。一覩我，

而齊國之衆三賀之，我必先之，彼故知之，我必賣之，彼故鬻羊六切。之，若我而不有之，彼惡音烏。下同。得而知之，若我不賣之，彼惡得而鬻之。嗟乎！我悲人之自喪息浪切。者，吾又悲夫悲人者，吾又悲夫悲人之悲者，其後而日遠矣。

列子居鄭圃而陸沉，適齊國而受饋，蓋宿名者如日蔽雲中，其光必發，是以鬻名德生乎巢許之間，故後世山林養浩者，有借巖居之高爲仕路之捷，遂無真隱矣。悲人之自喪，傷彼鬻名也；悲夫悲人者，知非在己也；悲夫悲人之悲者，悟有心之謬也。然後理事日遠，而大同乎溟滓矣。

## 貴 默

仲尼之楚，楚王觴音商。李云：酒器之總名也。之，孫叔敖執爵按《左傳》，孫叔敖是楚莊王相，孔子未生。魯哀公十六年仲尼卒後，白公爲亂，宜僚未嘗仕楚。又宣公十二年傳云：楚有熊宜僚，則與叔敖同時，去孔子甚遠，蓋寄言也。成云：爵亦酒器，受一升。而立，市南宜僚受酒而祭，曰：古之人乎，於此言已。文云：謂古人於會同之處，酌祭之時祝辭也。曰：丘也聞不言之言矣，未之嘗言，於此乎言之。市南宜僚弄丸丸猶珠也。弄丸者謂轉丸之技也，宜僚視天下事若轉丸於掌中，聊以自適也。《鬼谷子》有轉丸法猛獸，夫聖智之無窮，若轉丸之無止，類獸威之無盡，故宜僚所以示弄丸之技也。而兩家之難乃旦切。解，音蟹。司馬云：宜僚楚之勇士也，善弄丸。楚白公勝將作亂，殺令尹子西、子期，石乞曰：市南宜僚者，若得之可以當五百人。乃往告之，不許也。承之以劍，不動，弄丸如故。曰：吾亦不泄子。白公遂殺子西、子期，歎息兩家而已。宜僚不預其患。文云：白公勝及大夫子西兩家舉兵相伐，二家大夫曰：宜僚陸沉之士，一人當五百。並遣使往召之。宜僚高枕安臥以見二大夫之使者，以兩手弄丸不止。眠復不起。承之以劍，不動。二大夫使者各還，具論宜僚之意。二大夫曰：高枕而卧者，示我無爲也。承之以劍不動者，兵不足恃也，兩手者喻兩家也。丸者形圓無爲之物也。兩手弄之不止者，俱至於困也。明兩家構兵不止，必至滅亡，二大夫解兵而歸，不復用兵也。孫叔敖甘寢秉羽如字，謂以扇掩面也。司馬本作翼，云讀曰翻，或作翅，雩舞者之所執，崔本作翼。而郢人投兵，司馬云：言叔敖願安寢恬卧以養德於廟堂之上，折衝於千里之外，敵國不敢犯，郢人投兵無所攻伐也。丘願有喙許穢切。三尺，三尺言長也。司馬云：喙，息也。宜僚弄丸而弭難，叔敖除備以折衝，丘亦願有歎息其三尺。三尺，匕首劍也。成云：喙，口也。苟其言

當即此無言，假令喙三尺，與閉口何異，故願有之。彼之謂彼謂宜僚、叔敖，一曰：彼謂甘寢。不道之道，此之謂此謂仲尼也。一曰：此謂弄丸。不言之辯。故德總音摠。乎道之所一，而言休乎知之所不知，至矣，道之所一者，德不能同一本作相同。也，知之所不能知者，辯不能舉也，名若儒墨而凶矣。故海不辭東流，大之至也，聖人并包天地，澤及天下，而不知其誰氏。是故生無爵，死無謚，實不聚，名不立，此之謂大人。狗不以善吠伐廢切。司馬云：不別客主而吠不止也。爲良，人不以善言司馬云：失本逐末而言不止。爲賢，而況爲大乎？夫爲大不足以爲大，而況爲德乎？夫大備矣莫若天地，然奚求焉而大備矣。知大備者無求、無失、無棄，不以物易己也，反己而不窮，循古而不摩，一本作磨。郭云：摩，拭也。王云：摩，消滅也。雖常通物而不失己，雖理於今，常循於古之道焉，自古及今，其名不摩滅也。大人之誠。

弄丸者，轉丸於掌以爲戲適，《鬼谷子》有轉丸法猛獸之語，謂聖知無窮，若丸轉之無止，類獸威之無盡也。故宜僚視天下事若轉丸於掌中，甘寢高卧秉羽扇而指揮，若二子者豈事於言乎。默而識之，喙長何害，言出患生，三緘奚益，故有不道之道，不言之辯，道之所一，即不道之道，知所不知，即不言之辯，故雖善辯若儒墨，亦所以召禍耳。海以容納故淵廣，聖人并包故無名，生不顯德，死無留稱，以實不聚，故名不立，此之謂大人，才全不器也。人貴造道，不在能言，容物曰大，廣濟曰德，存大者當謙損，有德者當支離，猶覆載無心，橐籥萬類，生之育之，動植以成，唯其無私無求故大備。藏金於山而不采，沉珠於淵而不泳，任民復朴而不棄，不爲物所遷也。歸根而無極，循古而不泯，大人之誠，合乎天地也。

## 相 形

子綦有八子，陳諸前，召九方歎音困。善相馬人，《淮南子》作九方臯。曰：爲於僞切。我相息亮切。吾子，孰爲祥。九方歎曰：梱音困也爲祥。子綦瞿然紀俱切。司馬云：喜貌。《字林》云：大視也。喜曰：奚若？曰：梱也將與國君同食以終其身。子綦索然悉各切。司馬云：涕下貌。出涕曰：吾子何爲以至於極也？九方歎曰：夫與國君同食，澤及三族，而況於父母乎？今夫子聞之而泣，是禦魚呂切。距也，逆

也。福也，子則祥矣，父則不祥。子綦曰：歟，汝何足以識之，而梱祥邪！盡於酒肉，入於鼻口矣，而何足以知其所自來。吾未嘗爲牧，而牂音臧。《爾雅》云：牝羊也。生於奧，烏報切。西南隅未地，羊之位也。一曰：豕牢也。未嘗好呼報切。田，而鶉生於突，一作突，烏吊切。東北隅也。一云：東南隅火地，火地生鶉也。一曰東南辰地，辰爲鶉鳥也。若勿怪何邪？吾所與吾子遊者，遊於天地也，見江南古藏本，舊闕。吾與之邀古堯切。遇也。樂音洛。於天，吾與之邀食於地，吾不與之爲事，不與之爲謀，不與之爲怪，吾與之乘天地之誠，而不以物與之相撓，吾與之委於危切。蛇，余支切。而不與之爲事所宜。今也然有世俗之償辰羊、時亮二切。還也。焉，凡有怪微者必有怪行，下孟切。殆乎非我與吾子之罪，幾天與之也，吾以是泣之。無幾居豈切。何而使梱之於燕，音煙。盜得之於道，全而鬻音育。之則難，不若則音月，之則易，以豉切。於是乎刖而鬻之於齊，適當渠公渠公，齊之富室，爲街正，賈梱自代終身食肉至死。一云：渠公，屠者，與梱爲君臣，同食肉也。之街，然身食肉而終。

至於是極，遇福而懼，父則不祥，言其拒福。酒食入鼻口，言外養之厚，不知所自來，言無功受祿，猶未嘗牧田，羊鶉忽生於室，爲可怪也。遊於天地，合乎自然，邀樂於天，樂其俗，邀食於地，甘其食，不爲則守中，不謀則率性，不怪則守常。乘天地之誠，體道也；不與物相撓，順理也；不與爲事宜，無擇也。真功無迹，而世事有償，怪行既無，則幾於天與，雖定分莫逃，而不無憂懼，是以泣也。九方歟以術自信，而子綦以道獨明，是故修爲而不免患，皆命也夫！

## 外 賢

齧缺遇許由曰：子將奚之。曰：將逃堯。曰：奚謂邪？曰：夫堯畜畜李云：行仁貌。王云：卹愛勤勞貌。然仁，吾恐其爲天下笑，後世其人與人相食與。音餘。言將馳走於仁義，不復營農，飢則相食。夫民不難聚也，愛之則親，利之則至，譽之則勸，致其所惡烏路切。則散，愛利出乎仁義，捐仁義者寡，利仁義者衆，夫仁義之行，下孟切。唯且無誠，且假夫禽貪者器，司馬云：禽之貪者，殺害無極，仁義貪者，傷害無窮，且假夫仁義爲禽貪之器用也。是以一人之斷制利天下，譬猶一覲薄結切。《說

文》：蔽不相見也。也。夫堯知賢人之利天下也，而不知其賊天下也，唯外乎賢者知之矣。

## 偷 安

有暖吁爰切。柔貌。姝音樞。《說文》曰：好佳也。又暖姝，自許貌。者，有濡音儒。安也。需音須。濡需謂偷安濡潤須臾之頃。者，有卷音權。婁音縷。卷婁猶拘攣也。言拘攣求名之人，屈己以殉物，物雖懷歸，終當自苦。如舜登庸歷試，以至己身臞腊，招損之由，起於羶行耳。者。所謂暖姝者，學一先生之言，則暖暖姝姝而私自悅也，自以爲足矣，而未知未始有物也，是謂以暖姝者也。濡需者，豕蟲音瑟。是也，擇疏鬣長毛，見張君房本，舊闕。自以爲廣宮大囿，奎苦圭切。奎，《說文》：兩髀之間也。蹄曲隈，烏回切。股間也。乳間股脚，自以爲安室利處，不知屠者之一旦鼓臂布草操七曹切。煙火，而已與豕俱焦也，此以域進，此以域退，此其所謂濡需者也。卷婁者，舜也，羊肉不慕蟻，魚綺切。云舜年長心勞，無愛樂之志，是猶羊肉不慕蟻也。蟻慕羊肉，羊肉羶設然切。也，舜有羶行，下孟切。百姓悅之，故三徙成都，一年所居成聚，二年成邑，三年成都也。至鄧之墟，邑名。而十有萬家，堯聞舜之賢，舉之童土云：童土，地無草木也。之地，曰冀得其來之澤。舜舉乎童土之地，年齒長丁丈切。矣，聰明衰矣，而不得休歸，所謂卷婁者也。是以神人惡烏路切。衆至，衆至則不比，毗志切。下同。和也。不比則不利也。故無所甚親，無所甚疏，抱德煬音羊。和，煬，炙也，爲和氣所炙。以順天下，此謂真人，於蟻棄智，於魚得計，於羊棄意。蟻得水則死，魚得水則生，羊得水則病。一云：真人無羶，故不致蟻，是蟻棄智也，共處相忘之大道，無沾濡之德，是魚行計也。羊無羶行，而不致蟻，是羊棄意也。以目視目，以耳聽耳，以心復心，若然者，其平也繩，其變也循。

暖柔姝好，自悅也；濡潤需頃，偷安也；卷婁牽拘，不伸貌。喻曲士膚淺，偏執自足，而不知大方之家以窮理盡性爲未始有物也。苟尸素而濡潤曰域進，不需頃而禍及曰域退，惡來順紂而同誅，亦何異於豕蟲，聖人芻狗萬物，無寄託之近迹，民之歸也如蟻慕羶，如其所至，一年而成市，二年而成邑，三年而成都。鄧墟，邑名。童土，無草木。堯舉舜自代，冀天下蒙澤，

舜功成年老而不得休閑，仁義之羶所致也。功成則衆至而親譽之，親譽久則不比，至於畏之侮之，則不利矣。唯能無所親疏而外乎賢者，則民不歸慕，於蟻棄知也，相忘江湖，於魚得計也，恬淡無爲，悅然德化，民知有君而無慕羶之聚，於羊棄意也。收視反聽，灰滅其心，率意而平，自中繩墨，應物趨變，無不循理也。

## 自 晦

古之真人，以天待人，見張君房本，舊作之。不以人入天；古之真人，得之也生，失之也死，得之也死，失之也生。藥也，其實堇音謹。司馬云：烏頭也。治風冷痺。也，桔梗音結，古猛切。司馬云：桔梗治心腹血瘀癢痺。也，鷄壅於容切。司馬云：雞頭也。一名芡，與藕子合爲散，服之延年，本或作癰。也，豕零司馬本作豕囊，一名猪苓，根似猪卵，可以治渴。案四者皆藥草名。也，是時爲帝者也，司馬云：藥草有時迭相爲帝，謂其王相休廢，各得所用也。何可勝音升。言。句踐音鉤。越王。也以甲楯純尹切。楯，云扞身蔽目者。三千，棲於音西。李云：登山曰棲。會古外切。稽，音雞。唯種章勇切。越大夫名也。《吳越春秋》云：姓文，字少禽。也能知亡之所以存，一本作可以存，言知越雖亡，可以存也。唯種也不知其身之所以愁，故曰鷗尺夷切。目成云：鷗目晝闔而夜開，則適夜而不適晝。有所適，鶴脰刑定切。有所節，解佳買切。司馬云：去也。成云：鶴脰稟分而長，則能長不能短，枝節如此，故解去則悲，亦猶種闇於謀身，長於存國也。之也悲，故曰風之過河也有損焉，有形自然相累，世能累物，物能累人，故大夫種有以不免也。日之過河也有損焉，請只風與日相與守河，而河以爲未始其撓也，恃源而往者也。水由源往，雖遇風日，不能損也。道成其性，雖在於世，不能移也。故水之守土也審，影之守人也審，物之守物也審，故目之於明也殆，耳之於聰也殆，心之於徇也殆，凡能其於府也殆，殆之成也不給改，禍之長丁丈切。也茲萃，聚也。李云：多也。其反也緣功，其果也待久，而人以爲己寶，不亦悲乎！故有亡國戮民無已，不知問是也。

以天待人，任其自然，不以人入天，僞難契真也。得之生，失之死，與物同也，得之死，失之生，與物異也。萬物得時則榮，失時則悴，真人得時

不榮，失時不悴，猶藥之莖梗壅芴，雖賤物而良醫主療時用之以爲君，喻真人御世無時而不治也。種能存國，不能活身，喻醫療他疾，不能治己病，鴟目鶴脰之有適不適，喻種之才知而終不免禍。風吹日曝，河水耗減，讒深佞入，忠臣失權，所恃重者，其撓拂亦不輕矣。水離土則散，影離人則滅，物去物則空，人失道則亡，唯善審者幾乎全。目徇離朱，耳徇師曠，心徇曾史，未有不危殆者，反覆緣於功過善惡之果，目前未見耳，世有恃功爲己寶而禍不旋踵者，大夫種是也。

故足之於地也踐，雖踐，恃其所不踞女展切。李云：一足常不移，故能行廣遠也。而後善博也，人之知也少，雖少，恃其所不知而後知天之所謂也：知大一，知大陰，知大目，知大均，知大方，知大信，知大定，至矣。大一通之，大陰解之，大目視之，大均緣之，大方體之，大信稽之，大定持之。

地至廣大，人之所踐，容足而已，恃其不踐之處，而後行之無窮。道至微妙，人之所知，可道而已，賴其忘言之趣而後悟之無盡。故至人以無用無言爲天之所謂也。大一妙有，知之者廓然通達；大陰玄寂，知之者恍然蛻解；大目天光，昭然徹視；大均平一，靡然緣順；大方渾然，無不體用；大信誠然，無不稽考；大定至靜，默而持之；所以成上諸妙用也。凡此七目，皆有天然之理，順理則明，寂然自運。

## 棄 數

盡有天，循有照，冥有樞，始有彼。則其解之音蟹。下同。又佳買切。也似不解之者，其知之也似不知之也，不知而後知之。其問之也，不可以有崖，而不可以無崖，韻下結切。滑乎八切。韻滑謂錯亂也。有實，古今不代而不可以虧，則可不謂有大揚摧音角。《三蒼》云：摧略而揚顯之。乎？闔不亦問是已，奚惑然爲，以不惑解佳買切。惑，復音服。於不惑，是尚大不惑。

始即道，對道者皆彼也。蛻然自解，故似不解；自然而知，故似不知；知不知而後知之，愈澄而愈照也。道不可以有崖求，又不可以無崖求，萬形

參差，實理則一。頤滑，參差也。古今不二，生死自殊，理不可虧，生死自具，是有大發揚商榷存乎其中，何不問諸此道，知道則此理不惑矣。大惑終身不解，下愚上知莫移，猶鶴脰不可斷，鳧脰不可續也。稟生受氣，蓋有由然，唯識侔造化者默而知之，若假世學而欲復於不惑，是大惑之人，徒欽尚於大不惑也。



## 雜篇·則陽 二十九

### 抑 進

則陽司馬云：名則陽，字彭陽。一云：姓彭，名則陽，周初人也。成云：魯人，遊事諸侯，後入楚，欲事楚文王也。遊於楚，夷節楚臣。言之於王，王未之見。夷節歸，彭陽見王果司馬云：楚賢人。成云：楚大夫也。曰：夫子何不譚音談。李云：說也。我於王。王果曰：我不若公閱休。音悅，隱士也。彭陽曰：公閱休奚爲者邪？曰：冬則擲初角切。司馬云：刺也。鼈於江，夏則休乎山樊，音煩。李云：傍也。司馬云：陰也。《廣雅》云：邊也。成云：茂林也。有過而問者，曰：此予宅司馬云：以隱居山陰，不自顯也。文云：宅山傍而爲居。也。夫夷節已不能，而況我乎？吾又不若夷節。夫夷節之爲人也，無德而有知，不自許，以之神其交。固顛冥音眠。司馬云：顛冥猶迷惑也，言其交結人主、情馳富貴。乎富貴之地，非相助以德，相助消也，夫凍者假衣於春，喝音謁。《字林》云：傷暑也。者反冬乎冷風。夫楚王之爲人也，形尊而嚴，其於罪也無赦。如虎，非夫佞人正德，其孰能橈乃孝切。王云：惟正德以至道服之，佞人以才辯奪之，故能泥橈之也。焉。故聖人其窮也使家人忘其貧，其達也使王公忘爵祿而化卑，居高而以卑爲本也。本或作而化卑於人也。其於物也與之爲娛矣，其於人也樂音洛。物之通而保己焉，故或不言而飲於鳩切。人以和，與人並立而使人化父子之宜，彼其乎歸居，而一聞其所施，其於人心者，若是其遠也，故曰待公閱休。

則陽求見王爲利祿之計，王果引隱士抑貪競之心，無德而有知，尚文去質也。不自許以之神者，舉指欺罔、心神交固，而湮沉乎嗜欲也，救凍喝者人事，待春冬者天時，王果任天時而不從人事，所以救則陽之失也。老萊之

妻織畚，伯鸞之婦賃舂，家人忘貧也；魏文侯尊段干木、漢光武交嚴子陵，忘爵祿而化卑也。與物爲娛，則同塵而不溷，與物樂通，則和光而不耀，不言之教，煖然似春，鎮以無名之樸，而使人自化，德化有序，人安其居，其道簡易，無所施爲，而趨進者弊弊焉以干祿爲事，與有道者之心相遠去矣。

聖人達綱直周切。繆，亡侯切。纏綿也。文云：有爲交結也。周盡一體所鑒綱繆，粗精洞盡，故言周盡一體，一體天也。矣，而不知其然，性也。復命搖作，搖，動也。萬物動作生長各有天然，則是復其命也。而以天爲師，人則從而命命，名也。之也，憂乎智而所行恒無幾居豈切。時，其有止也若之何。王云：憂乎智謂有爲者以形智不至爲憂也，不知用智必喪，喪而更以不智爲憂，及其智之所行有弊無濟，故其憂患根接，無須臾停息，故曰恒無幾時，其有止也，不能遺智去憂，非可憂而何。生而美者，人與之鑑，不告則不知其美於人鑑生便有物之美，而爲無心人與作名言鑑耳，故人美之，人若不相告，即莫知其美於人也。也，若知之，若不知之，若聞之，若不聞之，其可喜也終無已，人之好呼報切。之亦無已，性也。聖人之愛人也，人與之名，不告則不知其愛人也，若知之，若不知之，若聞之，若不聞之，其愛人也終無已，人之安之亦無已，性也。

達綱繆不滯於物，周盡一體，莫非我也，知其然，則去性遠矣。靜動雖殊，皆以自然爲師，聖人無名，人感其化，從而命之。夫以有涯之生，而憂無涯之知，故曰常無幾時，且欲止而不行，復未知如之何也。人有美容，則人與鑑照之，令知容美於人也，或知或不知，或聞或不聞，其美容可悅，何嘗已哉！然人好美之，亦未始休者，天性也，聖人之愛人無已，人之安之無已，亦性也。

舊國舊都，望之暢然，喜悅貌。雖使丘陵草木之緡民忍切。郭云：合也，與脂同。司馬云：盛也。人之者十九，謂見十識九也。猶之暢然，況見見聞聞見所見，聞所聞者耶，以十仞之臺縣衆聞者也。冉相氏息亮切。郭云：古聖王也。得其環中以隨成，與物無終無始，無幾無時，日與物化者，一不化者也，闔嘗舍音捨。之。夫師天而不得師天，與物皆殉，辭俊切。其以爲事也若之何？夫聖人未始有天，未始有人，未始有始，未始有物，與世偕行而不替，所行之備而不洩，況壁切。深也。義取染溺也。李音溢，濫也。王云：壞敗也。無心偕行，何往而不至，故曰皆殉也。所行之備，而物我無傷，故無壞敗也。其合之也若之何？湯得其司御門尹登恒向云：門尹，官名。登

恒，人名。爲於僞切。之傳音付。下同。之，從師而不囿，得其隨成，爲之司其名，之名羸音盈。法，得其兩見，賢徧切。得其隨成之道，以司其名，名實法立，故得兩見，猶人鑑之相得也。仲尼之盡慮爲之傳之。容成氏老君師也，著書十四篇。曰：除日無歲，無內無外。

弱喪之人，望故里而忻暢，雖林屋荒穢十亡其九，尚懷欣悅，況見不失見，聞不失聞，而妙有湛然者耶！大道之高明無隱，如建崇臺於勝地，縣鐘鼓於廣野，警人耳目，咸使曉悟。衆聞音閑，謂廣野環中空，故能轉物，以其隨成，故不可以終始幾時定之，得環中之道，則與物無際，化雖日遷，而原本湛然，又何容心於化不化哉！以其未嘗取，故亦未嘗舍，無心師天，乃師天也，若厭沒於塵埃，復如之何耶！師天者必忘人事，殉物者必忘妙本，未始有天，則人事不廢，未始有物，則妙本無虧，與物混而不背真，履行具而不溺塵，若假僞於綢繆，何爲而若此。昔湯良臣司主臨御以爲師傅，故從之而不囿，囿者任之極，是以門尹登恒得其隨物自成之功而主其名。名法者政治所難忘，而況適名益法照然兩見，且百官司御其職，各盡慮以傳之，盡慮則無思慮矣，故可以爲師傅，除日無歲，則終始不囿，無內無外，則死生隨成，此達綢繆而周盡一體之道也。

## 止 鬪

魏瑩音澄。司馬云：魏惠王也。與田侯牟司馬云：齊威王也，名牟，桓公子。按史，威王名因，不名牟。約，乙郤切。又如字，司馬云：在惠王二十六年。田侯牟背音佩。之，魏瑩怒，將使人刺七賜切。之。犀首魏官名也。司馬云：若今虎牙將軍，公孫衍爲此官。聞而耻之曰：君爲萬乘繩證切。之君也，而以匹夫從讎，成云：謂無官職，夫婦相匹偶者也。從讎，報讎也。衍請受甲二十萬爲於僞切。下請爲君同。君攻之，虜其人民，繫其牛馬，使其君內熱發於背，然後拔其國，拔者，剋城邑而取之，言若拔草木並得其根。忌也出走，成云：田忌，齊將也，忌畏而走，或言圍之也。然後扶救一切。《三蒼》云：擊也。其背，折之舌切。其脊。季子魏臣。文云：魏國之公子也。聞而耻之曰：築十仞之城，城者既十仞矣，則又壞音怪。之，此胥靡之所苦也。今兵不起七年矣，此王

之基也，衍亂人，不可聽也。華子亦魏臣也。聞而醜之曰：善言伐齊者亂人也，善言勿伐者，亦亂人也，謂伐之與不伐亂人也者，又亂人也。君曰：然則若何？曰：君求其道而已矣。惠子惠施也。聞之而見賢徧切。下同。戴晉人，梁國賢人，惠施薦之於魏王。戴晉人曰：有所謂蝸音瓜。李云：蝸蟲有兩角，俗謂之蝸牛。《三蒼》云：小牛螺也。一云：俗名黃犢。者，君知之乎？曰然。有國於蝸之左角者曰觸氏，有國於蝸之右角者曰蠻氏，時相與爭地而戰，伏尸數萬，逐北如字。北，陰曲之處，故謂退敗奔走者爲北。旬有五日後反。君曰：噫，於其切。其虛言與！音餘。曰：臣請爲君實之。君以意在四方上下，有窮乎？曰：無窮。曰：知遊心於無窮，而反在於通達之國，若存若亡乎？曰然。曰：通達之中有魏，魏中有梁，梁中有王，王與蠻氏有辯乎？曰：無辯。客出而君惱音敵。《字林》云：惘也。成云：悵恨貌。然若有亡也。客出，惠子入見，君曰：客大人也，聖人不足以當之。惠子曰：夫吹筦者猶有嗃許交切。管聲也。《廣雅》云：鳴也。也，吹劍首司馬云：劍環頭小孔子。者呶音血，呶然如風過也。而已矣。堯舜人之所譽也，道堯舜於戴晉人之前，譬猶一呶也。

王者之師，明行征伐，若以虜掠爲事，使彼怨憤發疽而拔國，非所聞也。今衍欲以小憤興兵侵暴鄰國，固亂人也；季子言勿伐，縱鄰國之驕，亦亂人也；華子之自下以爲亂人者，欲推有道之士而進諫也。所謂求其道者，脩德勿爭而已。惠子請見晉人陳喻以解之，寓意蝸角，言其甚微，爭於兩國之間，不出一殼之內，旬有五日後，一氣也，喜怒之氣，有反必復，天地寄於太空，小石之在太山，通達之國寄於宇內，似稊米之在太倉，魏處通達之國，似毫末之在馬體，而況魏有梁、梁有王，不似觸蠻之在蝸角乎？今齊魏之爭，與觸蠻之戰有辯無辯乎！大人者，出六合，任自然，聖人則居域中、守法度，吹管者嗃然而鳴，吹劍者呶然而過，喻堯舜政教，人所稱譽，以道論之，曾不足聞，又況伐國虜民乎！

## 遠 佞

孔子之楚，舍於蟻丘魚綺切。李云：山名也。之漿，李云：賣漿之家。其鄰有夫妻臣妾登極司馬云：極，屋棟也。升之以觀也。一曰：平頭屋也。者，子路曰：是稷稷音總。李

云：聚貌。何爲者邪？仲尼曰：是聖人僕謂懷聖德而隱僕隸也。司馬本僕作樸，謂聖人之坏樸也。也，是自埋於民，自藏於畔，王云：修田農之業，是隱藏於壠畔。其聲銷，音消。司馬云：小也。文云：銷聲滅迹，人不識也。其志無窮，其口雖言，其心未嘗言，方且與世違而心不屑屑，絜也。不絜世也。與之俱，是陸沈司馬云：當顯而反隱，如無水而沈也。者也，是其市南宜僚邪！子路請往召之，孔子曰：已矣，彼知丘之著於己也，知丘之適楚也，以丘爲必使楚王之召己也，彼且以丘爲佞人也夫，若然者，其於佞人也羞聞其言，而况親見其身乎，而何以爲存。子路往視之，其室虛矣。

登極者昇屋棟而觀孔子，執僕御之事，師聖人者也，猶庚桑楚爲老聃役；自埋於民，如列子居鄭圃人無識者；自藏於畔，如長沮桀溺晦耕隴畔。故聲消而志暢，言出而心忘，不屑與世俱處陸而若沉也。孔子度宜僚之不見己，猶嚴僖之耻見許由，而何以爲存言，汝何緣留得此人也。

## 治 形

長梧封人長梧，地名。成云：地多長梧，因以名焉。封人，守封疆之人。問子牢司馬云：即琴牢，孔子弟子也。曰：君爲政焉勿鹵音魯。莽，莫古切。治民焉勿滅裂，猶短草也。李云：謂不熟也。郭云：魯莽滅裂，輕脫末略，不盡其分也。司馬云：鹵莽猶粗疏也，謂淺耕稀種也，滅裂謂斷其草也。昔予爲禾，耕而鹵莽之，則其實亦鹵莽而報予，芸而滅裂之，其實亦滅裂而報予。予來年變齊，改變齊民之法也。一曰：才細切。《說文》：禾麥吐穗上平也。深其耕而熟穰音憂。司馬云：鋤也。《廣雅》云：推也。《字林》云：摩田器也。之，其禾繁以滋，予終年厭飡。音孫。餽也。一曰：水沃飯曰飡。莊子聞之曰：今人之治其形，理其心，多有似封人之所謂，遁其天，離力智切。下同。其性，滅其情，亡其神，以衆爲如字。王云：謂凡事所可爲者也。遯離滅亡，皆猶衆爲，衆爲所謂鹵莽也。司馬本作衆僞。故，鹵莽其性者，欲惡烏路切。之孽，魚列切。爲性萑音丸。葦類。葦於鬼切。蘆也。兼古恬切。兼葭也。葭，音加。亦蘆也。始萌，以扶吾形，尋擢吾性，並潰回內切。漏發，李云：謂精氣散泄，上潰下漏，不擇所出也。不擇所出，漂本作癰，敷妙切。疽七餘切。癰疽謂病瘡膿出也。疥音界。癰，音邕。內熱溲或作瘦，所求切。膏司馬云：謂虛勞人尿上生肥白沫也，皆爲利欲感動，失其正氣，不如深耕熟穰，之有實也。是也。

## 涉 塵

柏矩文云：魯人有道之士，欲往齊行化。學於老聃曰：請之天下遊。老聃曰：已矣，天下猶是也。又請之，老聃曰：汝將何始？曰始於齊。至齊，見辜人罪人也。李云：謂應死人也。一云：棄市暴死者。焉，推而彊其良切。之，解朝直遙切。服而幕音莫。司馬云：覆也。之，號戶刀切。天而哭之，曰：子乎子乎，天下有大菑，音災。子獨先離之。離，著也。文云：被也。曰：莫爲盜，莫爲殺人，榮辱立然後覩所病，貨財聚然後覩所爭，今立人之所病，聚人之所爭，窮困人之身，使無休時，欲無至此，得乎？古之君人者，以得爲在民，以失爲在己，以正爲在民，以枉爲在己，故一形有失其形者，退而自責。今則不然，匿女力切。文云：藏也。爲物而愚不識，大爲難而罪不敢，重在任而罰不勝，音升。遠其塗而誅不至，民知力竭，則以僞繼之，日出多僞，士民安取不僞，夫力不足則僞，知不足則欺，財不足則盜，盜竊之行，於誰責而可乎！

以家觀家，以國觀國，則天下猶是也。至齊見罪人戮死，幕以朝服而哭之，古禮也，傷其德政之失而至此。蓋由榮辱立、貨財聚，誅戮之災已成，攘寇之爭又滿，欲脫大禍可得乎？老子云：受國不祥，是爲天下王。今則反古道矣。藏典法而愚黔首，設不便而罪違戾，委繁劇而罰庸才，展驛程而誅鈍弱，民之知力已竭，則思欺君罔上矣。上既失真，民從其化，欲流之清，在澄源耳。

## 循 物

遽其居切。伯玉成云：遽姓，名瑗，字伯玉，衛之賢大夫。行年六十而六十化，未嘗不始於是之，而卒訕起勿切。《廣雅》云：曲也，郭音黠。之以非也，未知今之所謂是之非五十九非也。萬物有乎生而莫見其根，有乎出而莫見其門，人皆尊其知之所知，而莫知恃其知之所不知而後知，可不謂大疑乎，已乎已乎，且無所逃，此

則所謂然與音餘。然乎！言未然也。

化化不停，交臂已失，世之求是者，非求道理也，求侔於我者也，世之去非者，非者邪曲也，去忤於心者也。侔我者未必真是，忤我者未必真非，故有始是卒非之嘆。五十九固今之是，今若悟非，乃知昔之未是，知其是之未是，惟莫之是者無非，故至是無非、至非無是。夫虛無恍惚，至道之根，淡泊寂寞，衆妙之門，此萬物之所生出也。人之所知，出乎不知，因其不知而後知也。不明此者，豈不大疑乎！世事糾紛，日新其變，知與不知，莫如止也。所知者人事，不知者天理，人事有爲，是非莫逃，天理無爲安逃哉？若以己所知而謂之然，則衆謂之不然者亦多矣，然乎言未必然也。

## 素 定

仲尼問於太史大弢、吐刀切。伯常騫、起虔切。狝虛豈切。韋成云：三人並史官姓名。曰：夫衛靈公，飲酒湛丁南切。樂之久也。又音沉。樂，音洛。不聽國家之政，田獵畢弋，不應諸侯之際，司馬云：盟會之事同。其所以爲靈公者何邪？大弢曰：是因是也。伯常騫曰：夫靈公有妻三人，同濫盧瞰切。《說文》：泛也。或作檻，胡暫切。浴器也。而浴，史鰌音秋。司馬云：史魚也。奉御而進所，搏幣音博。幣，帛也，浴巾也。司馬音蔽。云：引衣裳自蔽。而扶翼，司馬云：謂公及浴女相扶翼自隱也。其慢若彼之甚也，見賢人若此其肅也，是其所以爲靈公也。狝韋曰：夫靈公也死，卜葬於故墓，一本作大墓。不吉，卜葬於沙丘地名，在盟津北畔。而吉，掘其月切。之數仞，得石槨焉，洗西禮切。而視之，有銘焉，曰：不馮音憑。其子，司馬云：言子孫不足可憑，故使公得此處爲冢也。靈公奪而埋之。一本作奪而里之。而，汝也。里，居處也。夫靈公之爲靈公也久矣，之二人者何足以識之。

謚法：亂而不損曰靈，又德之精明日靈。其靈素定，謚自冥符。若以俗情料方外幽冥之理，何足以識之哉！

## 究 理

少知成云：智照狹劣謂之少知。問於大公調成云：道德廣大，公正無私，復能調順羣物。故謂之大公調，蓋寓言也。曰：何謂丘里之言？地方一里爲井，丘，十六井也。李云：四井爲邑，四邑爲丘。五家爲鄰，五鄰爲里，古者鄰里井邑土風不同，猶今鄉曲各自有方俗而物不齊同。大公調曰：丘里者，合十姓百名一姓爲十人，十姓爲百名，則有異有同，故合散以定之。而以爲風俗也。合異以爲同，散同以爲異，今指馬之百體而不得馬，而馬係於前者，立其百體而謂之馬也。是故丘山積卑如字。一本作庫，音婢。而爲高，江河合水一本作合流。而爲大，大人合并而爲公，士并郡縣而爲公。是以自外人者有主而不執，由中出者有正而不距，四時殊氣，天不賜賜，與也。故歲成，五官成云：古有五行之官。文云：五等諸侯也。殊職，君不私故國治，文武大人不賜故德備，萬物殊理，道不私故無名，無名故無爲，無爲而無不爲，時有終始，世有變化，禍福淳淳王云：流動之貌。文云：無常也。至，有所拂扶弗切。戾也。者而有所宜，自殉殊面，有所正者有所差。比於大澤，百材皆度，觀乎大山，木石同壇，此之謂丘里之言。少知曰：然則謂之道足乎？大公調曰：不然。今計物之數不止於萬，而期曰萬物者，以數之多者號而讀李云：讀猶語也。之也，是故天地者形之大者也，陰陽者氣之廣者也，廣見劉得一本，舊作大。道者爲之公，因其大以號而讀之則可也。已有之矣，乃將得比哉，則若以斯辯，譬猶狗馬，其不及遠矣。

《周禮》：四井爲邑，四邑爲丘，五家爲鄰，五鄰爲里，合十姓百名之異爲一丘一里之俗，或散一丘一里之俗爲十姓百名之異，亦猶離馬之百體曰頭尾眼耳，合其頭尾眼耳總曰馬也，此即公孫龍離堅白、合同異之旨。山積衆石，河合百川，大人合并郡國以爲公，分之則楚越有異，并之則風化一同，亦無異乎丘里之合散也。外人者事中有主則事不滯，中出者理外不邪則理自遠，炎涼氣殊，天任之而不賜故歲功成，工虞職殊，君委之而不私故天下治，文武材殊，大人任之而不賜故德業備，動植理殊，道生之而不私故無名也。物物自名，非道強名之，物物自爲，非道強爲之，道無所爲故能無不爲也。冬春之代謝，皇王之淳淳，於此爲禍爲戾，於彼或爲福爲宜，比乎大澤



衆材，大小皆中法度，大山木石，精粗皆聚一壇，所謂丘里之言，亦若是而已。大道無極，物亦無窮，今據多而號之曰萬，若物止於萬，則道亦有極，何足以稱象帝之先。大道合并形氣而爲公，強名曰大，字之曰道，既曰大道，已有之矣，安得與未始出其宗者比哉。

少知曰：四方之內，六合之裏，萬物之所生惡音烏。起？大公調曰：陰陽相照，相蓋相治，四時相代，相生相殺，欲惡烏路切。去就，於是橋起，如字。王云：高勁貌。言所起之勁疾也。雌雄片音判。又如字。合，於是庸有安危相易，禍福相生，緩急相摩，聚散以成，此名實之可紀，精之可志也。隨序謂變化相隨有次序也。序或作厚，一本作享。之相理，橋運之相使，橋運謂相橋代，頓至次序以相通理。橋運以相制使也。窮則反，終則始，此物之所有，言之所盡，知之所至，極物而已。觀道之人，不隨其所廢，不原其所起，此議之所止。少知曰：季真之莫爲，接子之或使，成云：並齊之賢人，季真以無爲爲道，接子以有爲爲道，各執一家，未爲通論。二家之議，孰正於其情，孰偏於其理？大公調曰：雞鳴狗吠，是人之所知，雖有大知，不能以言讀其所自化，又不能以意其所將爲，斯而析之，精至於無倫，大至於不可圍，或之使，莫之爲，未免於物而終以爲過，或使則實，莫爲則虛，有名有實，是物之居，無名無實，在物之虛，可言可意，言而愈疏，未知不可忌，已死不可徂，死生非遠也，理不可觀，或之使，莫之爲，疑之所假，吾觀之本，其往無窮，吾求之末，其來無止，無窮無止，言之無也，與物同理，或使莫爲，言之本也，與物終始，道不可有，有不可無，道之爲名，所假而行，或使莫爲，在物一曲。夫胡爲於大方，言而足，則終日言而盡道，言而不足，則終日言而盡物，道物之極，言默不足以載，非言非默，議其有極。

少知問世間萬物之所生起，大公告以陰陽四時照治生殺之理，人民欲惡去就，禽獸之雌雄。片合橋起，高勁貌。事有安危禍福緩急聚散之不同，而相易相生相摩相成之不一，外有名稱可紀，內有精微可志，自天地至於萬物，皆隨次序而相理相使，物窮則反，事始則終，殫言竭知，止極事物之粗，莫能窺道之藩籬也。唯觀道之人，不隨物之廢起，而任物之芸芸，我則括囊全生而已。又問道之莫爲也，其如事業何？道之或使也，其如自然何？當物之情，孰偏孰正？答以雞鳴狗吠，是人所知，而莫知其所以鳴吠，謂其

莫爲耶，何緣而忽鳴吠，謂其或使耶，他物何爲寂然，自化之理孰知？將爲之情孰識？唯置其莫爲者則可以察或使之情，任其或使者則可以審莫爲之理，推此而論，雖至大極細皆不免於物，莫逃乎累。夫物所賴者名與實，名實喪則物何有？唯妙道至理，不涉思議，氣來則生，氣散則死，方生復死，方死倏生，可謂近矣，而理不可覩，在於冥悟而已。或使則利人，莫爲則自全，達者左右逢原，迷者疑心未釋，假道而行耳。吾觀道之本末，空寥恍惚，不可隨迎，論其無窮無止，亦與動植無二，世以有用無爲爲言教之本，既形言教，則不能超物，故與之終始，有無二理，皆借妙本而行。季真之無，接子之有，皆一曲之論，見笑於大方之家。有無皆貫，事理兼明，爲言而足，言而足則道無道矣。有無偏執，事理互陳，爲言不足，言不足則物無逃矣。道之極也，默不能默，物之極也，言不能言，若離其言，言去其默，默然後冥會忘言之機，目擊衆妙之極。

## 雜篇·外物 三十

### 无 必

外物王云：夫忘懷於我者，固無對於天下，然後外物無所用心焉。若乃有所執爲者，諒亦無時而妙矣。今詳外物之恒者，善惡忠孝之謂也。物我相對，內我而外物，以其善惡忠孝不能全生，故曰爲善無近名，爲惡無近刑。不可必，故龍逢已解《人間世篇》。誅，比干已解《人間世篇》。戮，箕子狂，《史記》云：紂爲淫佚，箕子諫不聽。人或曰可去矣。箕子曰：爲人臣諫不聽而去，是彰君之惡而自說於民，吾不忍爲也。乃被髮佯狂而爲奴，遂隱而鼓琴以自悲，故傳之曰箕子操。惡來死，《史記》云：蜚廉生惡來，惡來有力，蜚廉善走，父子俱以材力事紂，武王伐紂，並殺惡來，是時蜚廉爲紂作石椁於北方。姓嬴，名惡來，有力者也，紂之嬖臣，與紂同誅。桀紂亡。人主莫不欲其臣之忠，而忠未必信，故伍員已解《肱篋篇》。流於江，萇弘周靈王之忠臣，爲劉恭公所譖，徙於蜀，自恨忠而被譖，遂自剗腸而死，蜀人憐之，以櫝盛其血，三年而化爲碧。碧，石名也。《呂覽》云：藏其血，三年化爲碧玉。死於蜀，藏其血三年而化爲碧。人親莫不欲其子之孝，而孝未必愛，故孝己憂成云：孝己，高宗太子，遭後母之難，憂苦而死。而曾參悲。李云：曾參至孝，爲父所憎，嘗見絕糧而後穌。成云：遭父打，鄰乎死地，故悲泣也。木與木相摩則然，金與火相守則流，陰陽錯行則天地大絃，音駭。於是乎有雷有霆，水中有火，乃焚大槐，有甚憂兩陷謂善惡之蔽俱陷沒於憂苦之中。而無所逃，躒音陳。又楮允、敕盡二切。蜉音惇。文云：不申貌。又柱允、敕轉、餘准三切。司馬云：躒蜉讀曰忡融，言怖畏之氣忡融兩溢，不安定貌。不得成，心若縣於天地之間，慰慙武巾切。慰，鬱也，慙，悶也。沉屯，張倫切。司馬云：沉，深也。屯，難也。利害相摩，生火甚多，衆人焚和，月固不勝火，於是乎有僂然音頽。

文云：無心至順也。而道盡。

道安乎內，事涉於外，在我猶不可必，況外物乎？以仁義爲可必，則夷齊不餓死，以知爲可必，則比干不剖心，以忠爲可必，則伍員、萇弘不遭戮矣。此忠賢佞倖兩陷而不可逃也。碧者憂之色，心主血，忠臣憂國，故血化爲碧。伍員、萇弘知事君盡忠，而不知逆君之致禍，孝己、曾參知事親盡孝，而不知親嫌而致憂，皆未明外物不可必之理也。惡來順紂，同孽相濟而不免，猶木之相摩；龍逢逆紂，善惡異性而遭誅，猶金火相守也；陰陽錯行，則天地大絃，忠孝被刑，則國家傾覆。忠孝，臣子所當盡也，不幸而遇闇君頑父，逆理暴虐，猶水中有火，乃焚大槐。《淮南子》云老槐生火是也。忠而諫諍，則憂及其臣，佞而諂諛，則憂及其君，皆陷有爲之禍，是以憂怵而志不得成，其心欲高顯於天地之間，而世道交喪，鬱閉屯溺之使，無所施用，忠佞相摩，恚怨日熾，人和焚棄矣。忠孝之誠如月，暴虐之性如火，月固不足以勝之，唯儼然無心而至順者，忠孝之道盡矣。

## 急 難

莊周家貧，故往貸本亦作資，音特。《羣經音辯》云：取於人曰資，與之曰貸。粟於監河侯，《說苑》作魏文侯也。監河侯曰：諾，我將得邑金，將貸他代切。與之也。子三百金，可乎？莊周忿然作色曰：周昨來，有中道而呼火故切。大聲也。者，周顧視車轍中有鮒魚音附。《廣雅》云：鱣魚也。鱣音迹。焉，周問之曰：鮒魚來，子何爲者邪？對曰：我東海之波臣司馬云：謂波蕩之臣。也，君豈有斗升之水而活我哉？周曰：諾，我且南遊說見張君房本，舊闕。吳越之王，激古狄切。西江成云：蜀江也。蜀江從西來，故謂西江。之水而迎子，可乎？鮒魚忿然作色曰：吾失我常與，與猶親也，謂魚水常相親也。我無所處，吾得斗升水然活耳，君乃言此，曾不如早索所白切。我於枯魚李云：猶乾魚也。之肆。

常與謂相親者，魚水常相親，今失之矣，故無所安處。夫衣人在寒，食人在饑，激江水以迎轍魚，不亦晚乎！投虎千金不如一毳肩之謂也。

## 趣 遠

任公子李云：任國名也。爲大鉤本亦作釣。巨緇，司馬云：大黑綸也。五十犗古邁切。犗牛也，謂峰領牛也。以爲餌，音二。蹲音存。成云：踞坐也。乎會稽，古外切。古今切。山名，今爲郡也。投竿東海，旦旦而釣，期年本亦作替，音基。言必久其事後，乃能感也。不得魚。已而大魚食之，牽巨鉤，鎔音陷。沒而下，驚揚一本作驚。而奮鬣，求夷切。李音須。白波若山，海水震蕩，聲侔鬼神，憚丹未切。赫火百切。千里。言千里皆懼。任公子得若魚，司馬云：大魚名也。若海神也。或云：若魚猶言此魚。離而腊音昔。之，自潮河本亦作浙，諸設切。河亦江也，北人名水皆曰河。浙江以爲會合分界。司馬云：浙江今在會稽錢塘。以東，蒼梧或云：山名，在嶺南。或云：九疑山也。已北，莫不厭若魚者。已而後世輒才才全切。李云：輒量人才也。或作輒，輒小也。本又作輕。諷方鳳切。說之徒，皆驚而相告也。夫揭其列，其謁二切。竿累，劣彼切。竿累謂荆篠之竿，繭絲之綸，類累綸也。趨灌瀆，司馬云：溉灌之瀆。守鯢五兮切。鮒，音附。李云：鯢鮒皆小魚也。其於得大魚難矣。飾小說以干縣令，縣，高也。令，譽也。其於大達亦遠矣。是以未嘗聞任氏之風俗，其不可與經世亦遠矣。

任公子爲巨鉤大緇而得大魚於暮年之後，世之輒量人材諷說事務者，聞此風俗，特異驚而相告，蓋喻淺學之徒不可與論經世大業也。竿累，平聲。所謂荆篠之竿、繭絲之綸是矣。縣，平聲。高也，謂高名令聞。

## 迹 弊

儒以《詩》《禮》發冢，大儒臚力於切。蘇林注《漢書》云：上傳語告下曰臚。臚猶行也。傳治戀切。向云：從上語下曰臚傳。一音張戀切，遽也。曰：東方作矣，司馬云：謂日將出也。事之何若？小儒曰：未解裙襦，而朱切。口中有珠。《詩》固有之曰：青青之麥，司馬云：此逸《詩》刺死人也。生於陵陂，彼宜切。生不布施，始豉切。死何含珠爲。接待也。成云：撮也。其鬣，壓乃協切。《字林》云：壓，一指按也。其顛，本亦

作噦，許穢切。司馬云：頤下毛也，成云：顙，口也。儒以金椎直迫切。控苦江切，成云：打也。其頤，徐別彼列切。分開也。其頰，無傷口中珠。

《詩》以導志，《禮》以導事，皆垂訓以翼扶治道者也，君子則持《詩》《禮》以脩身，小人則誦《詩》《禮》以爲盜，君子少而小人多，故聖迹之利天下少而害天下多。夫盜不掘夷齊之冢，必發桀紂之墓者，蓋有以致之，是故多藏必厚亡，老氏之深戒。

## 矜 驚

老萊子楚之高士也，常隱蒙山，楚王召而不應，與妻逃於江南，莫知所之。之弟子出拾薪，江南本作出拾薪。本又作出採薪，舊作出薪。遇仲尼，反以告曰：有人於彼，修上而趨下，音促，李云：下短也。末僂謂頭前背偃也。而後耳，司馬云：耳却後也。視若營四海，夫勞形役智以應世務，失其自然者也，故堯有亢龍之喻，舜有卷僂之談，周公類之走狼，仲尼比之逸狗，豈不信哉。不知其誰氏之子。老萊子曰：是丘也，召而來。仲尼至，曰：丘，去起吕切。汝躬矜爲身矜修善行。與汝容智，謂飾智爲容好。斯爲君子矣。仲尼揖而退，蹙然子六切。改容而問曰：業可得進乎？問可行仁義於世乎。老萊子曰：夫不忍一世之傷，而驚五報切，矜也。下同。或作驚。萬世之患，抑固寔其矩切。邪，亡其略弗及邪！惠以歡爲驚終身之醜，中民之行下孟切。易進焉耳，易見張君房本，舊闕。相引以名，相結以隱，與其譽堯而非桀，不如兩忘而閉其所譽，反無非傷也，反逆於理。動無非邪也，似嗟切。動矜於是也。聖人躊音躊。躊直居切。以興事，以每成功每者，每有成功也。躊躇者從容興事，雖有成功，聖人不存，猶致弊迹，流毒百世，況乎矜善行而載之不已哉。奈何哉其載焉，終矜爾。

躬矜謂其欲明汙，容知謂其將驚愚，故皆令去之。一世之傷，數也，含容則苟免，萬世之患，迹也，驕驚則不救。復詢仲尼歷聘遭難，守道堅固，致此貧窶耶？或亡其謀略，事業弗逮耶？以惠爲悅而驚物者，聖人之所醜也。中士之性易誘，世治則援引就名，世亂則交結退隱，仲尼述作，皆美堯而惡桀，若泯絕聖迹，毀譽何有？順世者不逆故自全，靜慮者不撓故自正，

聖人從容行道，功業自成，成猶不居，況不成乎？忘言則無累，載紀則矜名也。

## 智 困

宋元君李云：元公也。按元公名任，平公之子。《史記》作宋元王，二年夢見龜。夜半夢人被髮闕阿門司馬云：阿，屈曲簷也。曰：予自宰路李云：淵名，龜所居處。之淵，予爲如字。又於僞切。清江使所吏切。河伯之所，漁音魚。者余音預。且子餘切。《史記》云：姓余名且，於泉陽得龜。得予。元君覺，古孝切。使人占之，《史記》云：占者博士衛平。曰：此神龜也。君曰：漁者有余且乎？左右曰：有。君曰：令力成切。余且會朝。直遙切。下同。明日，余且朝。君曰：漁何得？對曰：且之網，得白龜焉，其圓五尺。君曰：獻若之龜。龜至，君再欲殺之，再欲活之，心疑，卜之，曰：殺龜以下，吉。乃剝口孤切。龜。七十二鑽左端切。而無遺筴。初革切。龜卜七十二兆而無遺失。《關氏易傳》云：故七十二爲經，此所以立曆法也。五之爲蓍，五箇七十二成歲，七百二十爲起法，七千二百爲統法，七十二萬爲通法，氣朔之下收分必盡爲全率，七千二百萬爲大率，謂之元紀。仲尼曰：神龜能見夢於元君，而不能避余且之網，知能七十二鑽而無遺筴，不能避剝腸之患，如是則知有所困，神有所不及也。雖有至知，萬人謀之，魚不畏網而畏鵜徒兮切。鵜，音胡。水鳥也。一名淘河。去起吕切。下同。小知而大知明，去善而自善矣。嬰兒生無石師石者匠名也。謂無人爲師匠教之者也，一本作所師，又作碩師。而能言，與能言者處也。

龜卜七十二兆，八九之數，故《關子明易傳》以七十二爲曆法。蟾蜍辟兵，而不免仲夏之殺，雞明將旦，而莫逃鼎俎之難，靈於彼必昧於此，是謂知有所困、神有所不及也。衆忌多知，魚畏有心，能去知人之知，而養自知之明，去離道之言，而保自全之善，則近道矣。嬰兒淳朴漸散，與能言者處也，既能言矣，分別是非，而利害生焉。

## 无用之用

惠子謂莊子曰：子言無用。莊子曰：知無用始可與言用矣。夫地非不廣且大也，人之所用容足耳，然則厠足音側。謂足之側也。而塾丁念切。崔云：下也。之致黃泉，致，至也。謂人從足之側掘之塾下至於黃泉。人尚有用乎？惠子曰：無用。莊子曰：然則無用之爲用也亦明矣。

人以跣蹈之外爲無用之地，若掘之塾下至於黃泉，獨存容足地，則不能跬步矣。譬之種植，必多空地，斯能蕃茂，則無用之爲用明矣。

## 流 遁

莊子曰：人有能遊，且得不遊乎？人而不能遊，且得遊乎！夫流遁之志，決絕之行，下孟切。噫，其非至知厚德之任與！音餘。覆墜直類切。而不反，火馳而不顧，雖相與爲君臣，時也，易世而無以相賤，故曰至人不流行焉。夫尊古而卑今，學者之流也，且以猗韋氏虛豈切。古帝王。之流，觀今之世，夫孰能不波，波者高下貌。文云：波蕩物性也。唯至人乃能遊於世而不僻，匹亦切。順人而不失己，彼教不學，承意不彼。

人能遊學於道，性自然也，安得使不遊乎？不能遊學於道，亦性自然，安得使之遊乎？世人不知分量，妄役流蕩遁逃之志，果決卓絕之行，刻意以爲高亢，皆非至知厚德所因任也。覆墜謂不遊學而廢業，火馳謂苦遊學而進益，各務所趨而不反，顧在時所尚，遞爲君臣而已，何分貴賤哉！唯至人出處有道，各行其志，而學者貴遠忽近，其弊已久，以上古聖賢觀今之世，無不波蕩失性者。至人則隨世汙隆，外應物而內全真，彼之所教我者世道，不必學也，然亦承其意而不彼，外之所以得全於世，此之謂能遊。



## 內 通

目徹爲明，耳徹爲聰，鼻徹爲顫，舒延切。謂審於氣臭。口徹爲甘，心徹爲知，知徹爲德。凡道不欲壅，壅則哽，庚猛切。塞也。哽而不止則跣，女展切。踐也。跣則衆害生。物之有知者恃息，其不殷非天之罪，天之穿之日夜無降，人則顧塞其竅，音豆。穴也。胞並交切。腹中有胎也。《說文》：生兒裏也。有重直龍切。閭，音浪。郭云：空曠也。心有天遊，室無空虛，則婦姑勃蹊，音奚。勃，爭也。蹊，空也。司馬云：勃蹊，反戾也。室無空虛以容其私，則反戾共鬭爭也。心無天游，則六鑿在報切。相攘，如羊切。郭云：逆也。司馬云：謂六情攘奪也。大林丘山之善句絕。於人也，亦神者不勝。茂林爲丘山之美，茂林伐則氣象損焉。奇才爲士人之善，奇才役則精神耗焉。德溢乎名，名溢乎暴，謀稽乎諡，音賢。郭云：急也。向云：堅正。急則計生。知出乎爭，柴《說文》：小木散材也。徐鉉《四師行》：野次立散木爲區落名曰柴籬。郭云：塞也。生乎守官，事果乎衆宜，春雨日時，草木怒生，銚七遙切。削也。鐸乃豆切。似鉏，田具也。於是乎始修，草木之到植時力切。又音值。立也。司馬云：鉏拔反之更生者曰到植。過半而不知其然。

人能收視反聽，納息漱液，虛中藏用，則六事俱徹，妙極無加。不然則哽礙騰踐，上下錯亂，諸疾作矣。凡動物有知者，皆恃息而生，其六根壅闕而氣息弱者，由欲惡之孽所致，非天之罪也。元氣貫通萬物，人之竅穴，晝夜昇降，與之無窮，乃爲嗜欲所窒，空竅結滯，神明何所託哉！身內有丹田三官；金堂玉室，胞有重閭也，心中有竅，謂之天府，神遊息於其間，室隘則婦姑反戾，心礙則欲惡紛紜，是故茂林爲丘山之美，林伐則氣象損，奇才爲士人之美，才役則精神耗，名夸者虧德，志暴者損名，謀貴深靜，稽乎諡急，則淺陋矣。智當晦藏，出乎爭則與物競矣。若能柴立不移而自保守，免爲物所害也，官事果乎衆宜，在私則決乎自殉，德形則名知顯而暴爭興，春澤則草木生而銚鐸起，衆人逆道以求生，猶草木反根而欲秀也。

靜然可以補病，皆子斯、子智二切。本亦作揃。子淺切。《三蒼》云：揃猶剪也。臧本

作掇，音滅。《字林》云：批也。史崇《藏經音義》云：掇，手拔也。可以沐老，老則目角皮皺也，掇，批也，今使手批皺平，可以洗老容，謂摩拭赤宅也。一本作休老。寧可以止遽。雖然，若是勞者之務也，非佚音逸。者之所，未嘗過而問焉，聖人之所以駢戶楷切。王云：謂改百姓之視聽也，徐音戒。謂上不問下也。天下，神人未嘗過而問焉，賢人所以駢世，聖人未嘗過而問焉，君子所以駢國，賢人未嘗過而問焉，小人所以合時，君子未嘗過而問焉。

靜然補病，未可以完神，皆掇沐老，未可以還嬰，寧以止遽，未可以灰心。《真誥》云：時以手按目四眥，令見光分明，是檢眼神之道，久爲之見百靈。老形之兆，發於目眥，披掇皺紋，可以沐浴老容，雖然勞者之務，故佚者超然不顧。聖人則有名，神人則無迹；賢人尚行義，乃聖人之餘事；君子貴循理，乃賢人之塵垢；小人事苟且，乃君子之贅疣也。

## 遠 真

演門似淺切。成云：宋城門名。一云：楚邑名。有親死者，以善毀，爵爲官師，楚官名。其黨人毀而死者半。

演門黨人哀毀過禮，強哭傷性，由殉外失真，係祿之深也。

## 蕩 性

堯與許由天下，許由逃之；湯與務光，務光怒之，紀他徒河切。務光、紀他，并解《大宗師篇》。聞之，帥弟子蹠音存。古蹲字。於窾水，音款。水名。諸侯弔之司馬云：恐其自沉，故弔之。三年，申徒狄已解《大宗師篇》。因以踣音赴。本亦作趨。《字林》云：僵也。李云：頓也。河。

紀他、申徒又蹲窾踣河，蕩失真性，皆刻意尚行好名之過。

## 忘 荃

荃七全切。崔音孫，苔草也，可以餌魚，或云積柴水中，使魚依而食焉。一云：魚筍也。者所以在魚，得魚而忘荃。蹢大兮切。兔胃也。又云：兔踰也，係其脚，故曰蹢也。胃，古縣切。踰，巨亮切。者所以在兔，得兔而忘蹢。言者所以在意，得意而忘言。吾安得夫音符。忘言之人而與之言哉！

獲魚兔則荃蹄可忘，悟道妙則言教頓合，漁獵之夫尚不虛飾其筍胃，探微之士奚用巧事於談說乎！

## 雜篇·寓言 三十一

### 中 道

寓言十九，寓，寄也，以人不信己，故託之他人，十言而九見信也。重言謂德重之人所言也。十七，卮言日出，音支。李：起宜切。夫卮器滿則傾，空則仰，中則正，以喻中正之言也。夫日出未中則斜，過中則昃，及中則明，故卮言日出者義取其中正而明也。和以天倪。音崖，成云：自然之分也。寓言十九，藉郭云：借也。李云：因也。外論之，親父不爲其子媒，成云：合也。親父譽之，不若非其父者也，非吾罪也，人之罪也。與己同則應，不與己同則反，同於己爲是之，異於己爲非之。重言十七，所以已言也，是爲耆艾，五蓋切。年先矣，而無經緯文云：六經、六緯也。成云：上下曰經，傍通曰緯。本末，文云：本，道德；末，仁義。以期成云：待也。年耆者。是非先也，人而無以先人，無人道也，人而無人道，是之謂陳人。成云：陳久之人。卮言日出，和以天倪，因以曼衍，以戰切，不斷也。文云：不留滯也。所以窮年。不言則齊，齊與言不齊，言與齊不齊也，故曰無言。言無言，終身言，未嘗言，終身不言，未嘗不言。有自也而可，有自也而不可，有自也而然，有自也而不然。惡音烏。下同。乎然，然於然，惡乎不然，不然於不然，惡乎可，可於可，惡乎不可，不可於不可。物固有所然，物固有所可，無物不然，無物不可，非卮言日出，和以天倪，孰得其久。萬物皆種章勇切。也，以不同形相禪，音擅。成云：代也。始卒若環，莫得其倫，是謂天均。天均者，天倪也。

寄寓之言，十取其九，德重之言，十不信三，此世俗之見也。卮滿則傾，空則仰，中則正，日出則斜，過午則昃，及中則明，卮言取其正，日出

取其中，君子言出中正而明，和之以極分而已。藉外之言，人多取信，父之譽子，難爲巧辭。世人不察是非而以己同爲善，重者取其耆艾，若年先而無德，非先也，止是陳舊之人耳。卮言日出，中正而明，和以極分之理，因以不滯之辭，所以盡其天年而無悔吝。不言謂默，默則寓重卮言皆齊，蓋以不言齊之也。不言之理自齊，寓重卮言自不齊耳，故曰齊與言不齊，是言自屬言，齊自屬齊，此與一與言爲二之義略同。言無言謂無情之言，卮言中正，豈有情哉！無是非愛惡之情，則無是非愛惡之言，故終身言而未嘗言，若乃謹默括囊而中正未嘗去心，則是終身不言未嘗不言也。有自而可與不可，有自而然與不然，言其皆有由，然乎然，可乎可，由於道故也；其不然不可，不由於道故也。固有所然所可，則無不然不可矣。故再舉卮言可久，總結前文萬物異種，理自相代，有形化無形，無形生有形，有情交無情，無情變有情，始不見首，卒不見後，循環莫測，故曰天均，自然均平，取其極分而已矣。

## 時 化

莊子謂惠子曰：孔子行年六十而六十化，始時所是，卒而非之，未知今之所謂是之非五十九非也。惠子曰：孔子勤志服知也。莊子曰：孔子謝之矣，而其未之嘗言。孔子云：夫受才乎大本，復靈以生，鳴而當律，言而當法，利義陳乎前，而好呼報切。惡烏路切。是非，直服人之口而已矣，使人乃以心服而不敢蘊音梧，又五各切。逆也。立，定天下之定，已乎已乎，吾且不得及彼乎？

年運既長，德性愈明，此與蘧伯玉章辭同而義別，蘧瑗悟始是卒非，未能自忘，仲尼則行化不滯，使人忘己難也。始而所是，隨事應變，卒而非之，終歸正道也。前既未是，今亦必非，此愈損而愈益也。勤志則少變，服知則多矜，孔子久辭世紛，未嘗載其言也。受才質於大道者，聖迹不足恃，復靈性以出生者，隨變而任化，故其聲合中和語成文教，義利陳諸方冊，豈直服人之口而已，以至奔馳師仰，使人心服，遵古循理，孰敢逆立，持此委順世間，可以定天下之定也。吾不及彼，孔子謙辭。

## 係 祿

曾子再仕而心再化，曰：吾及親仕三釜《小爾雅》云：六斗四升曰釜。而心樂。音洛。下同。後仕三千鍾，成云：六斛四斗曰鍾。不泊，其器切。及也。吾心悲。弟子問於仲尼曰：若參所金切。者可謂無所縣其罪乎！縣，係也。心再化於祿，所存者親也。雖係祿而無係於罪也。曰：既已縣矣，夫無所縣者，可以有哀乎？彼視三釜三千鍾如觀鳥雀古亂切。鳥見張君房本，舊闕。蚊蠱孟庚切。鳥雀蚊蠱相過，忽然不覺。王云：鳥雀蚊蠱取大小相縣，以喻三釜三千鍾之多少。相過乎前也。

心樂心悲爲再化，孝心不必論貧富，侍養亦豈在厚薄，而曾子言此者，猶有蓬之心也夫。然參稱至孝，必無係祿之罪，又何有哀乎？彼視鍾釜如蚊虻，則其係可解矣。

## 叙 學

顏成子游謂東郭子綦音其。曰：自吾聞子之言，一年而野，二年而從，三年而通，四年而物，五年而來，六年而鬼入，七年而天成，八年而不知死不知生，九年而大妙。生有爲死也，勸公以其私死也，私見張君房本，舊闕。有自也，而生陽也，無自也，而果然乎？惡乎其所適，惡乎其所不適？天有曆數，在天成象，有曆數可以推。地有人據，在地成形，有人據可以知。吾惡音烏。下同。乎求之？莫知其所終，若之何其無命也？莫知其所始，若之何其有命也？有以相應也，若之何其無鬼邪？無以相應也，若之何其有鬼邪？

野謂初心質朴，從謂不逆他情，通則徹理無礙，物則同一混成，來謂衆歸其德，鬼入深造窅冥，天成無爲自然，不知死生則有無一體，九年大妙則數究純陽，神化莫測也。生而有爲，動之死地，爲有私故，勸之從公，背公者必以私死，其死豈無由哉？生者強陽之氣，無所自也，汝果能至於大妙

乎？大妙者無公私生死無適無不適，可謂至極者也。在天成象，曆數可推，在地成形，人據可知，唯我無心，孰能測之。事有有始而無終、有終而無始者，皆天命使然。相應謂前學道九驗，鬼謂靈響，有應無應在用功之深淺、通靈之遲速也。學道雖有序，其要在乎獨化，論程則九年而悟，不出乎旦暮耳。

## 獨 化

衆罔兩問於景曰：若向也俯而今也仰，向也括撮古活切。撮見張君房本。舊闕。而今也被皮寄切。髮，向也坐而今也起，向也行而今也止，何也？景曰：叟叟本又作搜搜，同素口切。又音蕭。向云：動貌。也奚稍山巧、所教二切。有漸也。問也，予有而不知其所以，予蜩甲音條。司馬云：蟬蛻皮也。也，蛇蛻音悅。又吐卧，始銳二切也，似之而非也。火與日，吾屯徒門切。聚也。也，陰與夜，吾代也。彼，吾所以有待邪！而況乎以無有待者乎？無見張君房本。舊闕。彼來則我與之來，彼往則我與之往，彼強陽則我與之強陽，強陽者又何以有問乎？

一燈一影，十燈十影，燈影既多，微陰益衆，詢其俯仰行止，形使然耶？影自然耶？其動靜有無，皆莫知所以，影與微陰則有形而無礙，蜩甲蛇蛻則有質而無性，當其未蛻，止有蛇蜩，及其已蛻，甲皮固自有焉，則影也形也，其不相因明矣，蜩也蛇也，亦何嘗顧蛻哉！世謂形生影，影生微陰，然影之生也聚於日火，代於陰夜，於形何有？形當明而影生，似有待也，處暗而影滅，似無待也，來往運動，雖由乎彼，應之無心，則在乎此，又安所致詰哉！

## 去 驕

陽子居姓陽，名戎，字子居。南之沛，音貝。成云：彭城也，今徐州。老聃西遊於秦，邀古堯切。要也，遇也。《玉篇》云：求也，抄也，遮也。於郊，至梁成云：宋地也，今

汴州。而遇老子。老子中道仰天而歎曰：始以汝爲可教，今不可也。陽子居不答，至舍，逆旅之舍也。進盥音管。澡手也，灑也。漱所救切。盥口也。巾櫛，莊乙切。梳之總名也。脫履俱遇切。履也。戶外，膝行而前曰：向者弟子欲請夫子，夫子行不閒，是以不敢，今閒矣，請問其過。老子曰：而睢睢許圭切。仰目也。盱盱，香於切。張目也。而誰與居，大白若辱，盛德若不足。陽子居楚子六切。成云：慚悚驚懼也。然變容曰：敬聞命矣。其往也，舍者迎將，其家公李云：主人公也。執席，妻執巾櫛，舍者避席，煬羊尚切。向云：炊也。者避竈；其反也，舍者與之爭席矣。

睢盱，傲慢之容。其往也，威儀盤僻，使人敬畏；其反也，視猶衆庶，使人忘我也。



## 雜篇・列禦寇 三十二

### 出 異

列禦寇之齊，中道而反，遇伯昏瞀人，音茂，又音務。楚之賢士，隱者也。列子亦師事之。又作無人。伯昏瞀人曰：奚方李云：方道也。而反？曰：吾驚焉。李云：見人感已即違道，故驚也。曰：惡音烏。乎驚？曰：吾嘗食於十漿子祥切。謂十家並賣漿也。亦作餐。而五漿先饋。饋，遺也。謂十家中五家先見遺。王云：皆先饋進於已。伯昏瞀人曰：若是則汝何爲驚已？曰：夫內誠不解，音蟹。形謀徒協切。郭云：便辟也。《說文》：閒也。成光，司馬云：形謀於衷成光華也。以外鎮人心，使人輕乎貴老，謂重列子過於老人。而螯子兮切。亂也。其所患，夫漿人特爲食音嗣。羹之貨，無多餘之贏，音盈。無見江南李氏張君房本，舊闕。其爲利也薄，其爲權也輕，而猶若是，而況於萬乘繩證切。之主乎？身勞於國而知盡於事，彼將任我以事而效如字。或作校，古孝切。我以功，吾是以驚。伯昏瞀人曰：善哉觀乎！汝處已，音紀。成云：汝安處已身不能忘我，獨顯形儀爲物所歸。人將保司馬云：保附也。汝矣。無幾居豈切。何而往，則戶外之屨滿矣。伯昏瞀人北面而立，敦音頓。杖蹇子六切。之乎頤，立有閒，不言而出。賓者本作儔，必刃切。謂通客之人也。以告列子，列子提屨跣先典切。足而走，暨其器切。至也。乎門，曰：先生既來，曾不發藥如字，司馬本作廢藥，廢，置也。乎？曰：已矣，吾固告汝曰，人將保汝。果保汝矣。非汝能使人保汝，而汝不能使人無保汝也。而焉於虔切。用之感豫出異也。必且有感搖而本性，一本性作才。又無謂也。動搖本才以致求者，又非道德之謂也。與汝遊者莫汝告也，彼所小言，言不入道，故曰小言。盡人毒以其多患，故曰人毒。也，莫覺莫悟，何相孰也。彼不敢告汝，汝又不

自覺，何期相孰哉。王云：小言爲毒，曾无告語也。謂誰相親愛者，既無告語，此不相親愛之至也。巧者勞而知者憂，無能者無所求，飽食而遨遊，汎芳劍切。若不繫之舟，虛而遨遊者也。

內誠不解心未虛，形謀成光事威儀也。以外鎮人心，使人畏其光彩，輕乎貴老而尊我，恐其患亂生也。賈利不多，而遇我若此，况萬乘之主乎？主尚賢則其責任不輕，是以驚也。戶外屨滿，人果保附，垂訓苦口，猶醫之發藥，有迹故人保附，無心則人莫知，列子能不失德矣，未能支離其德也。感物悅豫，有心出異，搖汝本性，理何可堪，從遊之人，皆出汝下，忠告莫聞，唯事巧毒，誰何明曉以相規戒哉！且人來保汝，不求無爲，而必學巧知，唯聖人知其然也，故虛懷無繫，委任羣材，無勞無憂，飽食遨遊而已。

## 自 伐

鄭人緩也緩，名也。鄭國之儒者名緩。是時儒墨二學方盛，緩欲使弟翟學墨，更受爲墨之利。呻吟音申。謂吟詠學問之聲也。又云：呻吟讀誦也。裘氏之地，地名。崔云：裘，儒服也，因而名。祇三年而緩變爲儒，翹移切。《說文》：地祇，提出萬物者也。謂學出千日而儒業成。河潤九里，文云：河從乾位來，乾，陽數九也。澤及三族。使其弟墨，謂使緩弟翟成墨也。儒墨相與辯，其父助翟，十年而緩自殺。其父夢之曰：使而子爲墨者子也，闔闔，何不也。嘗視其良，良者，良人，斥緩也。言何不試視緩墓上已化爲楸柏之實。良或作垠。音浪，冢也。闔嘗視其良，見江南古藏本，舊本作闔胡嘗視其良。既爲楸柏之實矣。夫造物者之報人也，不報其人，而報其人之天，彼故使彼，夫人以己爲有以異於人，以賤其親，齊人之井飲者相掙才骨切。言穿井之人爲己有造泉之功，而掙飲者不知泉之天然也，喻緩不知翟天然之墨而忿怨之。也。故曰：今之世皆緩也自是，有德者以不知也，而况有道者乎，古者謂之遁天之刑。聖人安其所安，不安其所不安，衆人安其所不安，不安其所安。

緩以積憤而自殺，父以妄念而成夢，塚上楸柏成實，言其堅貞不化，鍾此歲寒之資以爲信也。夫離曠之性本聰明，故造物報之以聰明，彼性本有

者，報之於彼形，非緩自能爲儒、又能教弟爲墨也。學者爭教而相辯，無異井飲而相掙，皆勝心所使，唯有德者則不欲人知，又況爲道者乎？遁天之刑，謂棄蔑天理而自就刑戮也。聖人安其鶴脰之長而不續鳧脰之短，衆人反此，故天理人事悖矣。

## 內 照

莊子曰：知道易，以鼓切。勿言難。知而不言，所以之天也；知而言之，所以之人也，古之至人，見張君房本，舊闕。天而不人。

心有是非而默然，天也；心有惻隱而形言，人也；天而不人，則常存內照，孰可欺哉！

## 無 益

朱泮音平。漫未旦切。司馬云：朱泮漫、支離益，皆人姓名。學屠音徒。龍於支離益，單音丹，盡也。千金之家，如字，本作賈，亦作價，一本作產。三年技其綺切。成而無所用其巧。

志汙漫者所學虛大，技崛奇者其益支離。龍者變化之物，合而成體，散而成章，不可的視，又惡可得而屠，設爲此大言耳。至於技成而無所用其巧，則深有旨云。

## 乖 理

聖人以必不必，故無兵；衆人以不必必之，故多兵。順順或作慎。於兵，故行有求，兵恃之則亡。

外物不可必，故至人儼然任之，以免患忤。若強欲必之，則有抉眼藏血之禍，可不謹歟！庚桑子曰：懷患未發，兵也。豈止鋒鏑之慘而已。

## 敝 淺

小夫成云：凡夫也。之知，不離力智切。苞苴子餘切。司馬云：有苞裹也。竿音干。牘，音獨。司馬云：竹簡爲書，以相問遺，修意氣也。成云：苞苴，香草也。夫搴芳草以相贈，析簡牘以相問，非大丈夫之所爲也。敝精神婢世、必世二切。乎蹇淺，狹小貌。而欲兼濟導物，太一形虛，若是者迷惑於宇宙，形累不知太初，彼至人者歸精神乎無始，而甘瞑音眠。乎無何有之鄉，水流乎無形，發泄息列切。乎太清，悲哉乎！汝爲知在毫毛而不知大寧。

敝精神乎蹇淺，小有所志、大有所亡也。迷惑宇宙、不知太初者，所謂目察秋毫而不覩泰華，耳調絲竹而不聞雷霆也。歸精神乎無始，則匿其聰明，甘瞑於無何有，則抱其虛曠，故能知行乎寥廓，施用於寂寞，今汝乃緣標末而喪大本，是可悲也。

## 濫 進

宋人曹商宋之小人。爲於僞切。宋王司馬云：偃王也。使所吏切。秦，其往也，得車數乘，繩證切。下同。王說之，益車百乘。反於宋，見莊子曰：夫處窮閭阨於僦切。巷，困窘其隕切。急也。織屨，槁苦老切。項李云：羸瘦貌。黃馘古獲切。司馬云：謂面黃熟也。者，商之所短也。一寤萬乘之主，而從車才用切。隨行也。百乘者，商之所長也。莊子曰：秦王司馬云：惠王也。有病，召醫，破癰潰痊徂禾切。癰也。者得車一乘，舐食紙切。痔治紀切。者得車五乘，所治愈下，得車愈多，子豈治其痔邪，何得車之多也？子行矣。

治愈下而得愈多，是以抱道者遺榮、貪利者忘辱也。

## 觀 迹

魯哀公問顏闔曰：吾以仲尼爲貞幹，國其有瘳敕由切。乎？曰：殆哉圾魚及切。危也。乎，仲尼方且飾羽而畫，從事華辭，以支爲旨，雕琢華藻，支蔓旨要。忍性以視民，而不知不信受乎心宰乎神，夫何足以上民，彼宜汝與予頤與汝與、頤與並音黨與之與也。予音推與之與也。誤而可矣。今使民離力智切。實學僞，非所以視民也，爲後世慮，不若休之，難治也，施始鼓切。於人而不忘，非天布也。商賈音古。不齒，雖以事齒之，神者弗齒。爲外刑者，金與木也，爲內刑者，動與過也，宵人王云：非明正之徒，謂之宵夜之人也。之離外刑者，金木訊音信。問也。之，離內刑者，陰陽食之，夫免乎外內之刑者，惟真人能之。

繪畫羽毛以爲飾，支蔓華辭以爲文，刻意臨民，故俗多僞。受事以勞其心，宰物以役其神，已將自病，何暇治民哉！汝與頤與並音黨與之與，予從推與音，彼指仲尼，汝爾衆也。言仲尼之德，宜衆黨與推予養衆，誤試用之，未知可否？離實學僞，不若己之施政而欲民不忘其德，非無心也。雖負販之徒，尚有不望報者，況士君子乎！有惠有報，俗情所稱，無惠無報，神理所尚，因惠責報，刑害生焉。外刑金木，內刑動過，顯明幽暗，俱不可逃，是以作法者冰炭戰於內，犯令者斧鉞戮於外，上下俱失其和，何望乎平治哉！

## 察 行

孔子曰：凡人心險於山川，難於知天，天猶有春秋冬夏旦暮之期，人者厚貌深情，故有貌愿音願。《廣雅》云：謹慤也。而益，有長丁丈切。若不肖，外如長者，內不似也。有順或本作慎，古順字，殊閏切。理也。王本並江南古藏本並作慎，一本作循。懷音環。《三蒼》云：急腹也。王云：研辯也。外慎研辯，常務質訥。而達，有堅而縵，或半切。李云：內實堅外如縵也。有緩而鉅，胡旦切。又音干。急也。一云：情貌相反。故其就義若

渴者，其去義若熱，故君子遠使之而觀其忠，近使之而觀其敬，煩使之而觀其能，卒寸忽切。然問焉而觀其知，急與之期而觀其信，委之以財而觀其仁，告之以危而觀其節，醉之以酒而觀其則，法則也，或作側，不正也，一云：謂醉者喜傾側冠也。雜之以處而觀其色，九徵索也。索其人情。至，不肖人得矣。

此言山川之險可觀，人心之險難測；有貌謹嚴而情益傲者，有貌長厚而情不肖者，有貌順急而情疏遠者，有貌堅確而情散緩者，有貌徐緩而情急悍者，其內外相反若此，不可以一塗觀，故君子用九徵之法：忠者託遠而不變，敬者密邇而不慢，能者任繁而不敗，知者應變而不窮，信者守約而不渝，仁者臨財而不欺，節者固危而不易，則者酣飲而不亂，清者溷處而不汙。若不質之行事，而以風鑑取人，未足以盡君子小人之情實也。

## 真 德

正考父宋滑公之遠孫，弗父何之曾孫。成云：則孔子十八代祖，宋大夫也。一命而偃，紆矩切。再命而僂，力矩切。三命士一命，大夫再命，卿三命。而俯，循牆而走，孰敢不軌。如而夫郭云：凡夫也。者，一命而呂鉅，矯蹇貌。再命而於車上僂，三命而名諸父，孰協唐許。協，同也，唐堯、許由皆崇謙者也，言考父與而夫誰同於唐許也。賊莫大乎德有心而心有眼，及其有眼也而內視，內視而敗矣。凶德有五，中德爲首，何謂中德，中德也者，有以自好呼報切。也，而毗匹爾切。郭云：訾也。其所不爲者也。

文子曰：道有知則亂，德有心則險，心有眼則眩，有心謂憎愛是非，有眼謂馳逐景物，內視謂明察分別去取也。凶德謂眼耳鼻舌心，心主於中，自好自是而訾其不同己者，是謂內視，內視而敗矣。

## 必 達

窮有八極，極，至也。達有三必，必者，分之極也。刑有六府，府，聚也。美髯人

鹽切。長大，壯麗勇敢，八者俱過人也，因是以窮，緣循文云：不能行也。偃俠，於丈切。文云：胸出也。困畏不若人，文云：怯懦也。三者俱通達，文云：三者無用於人，不見任役，俱能達盡其生理者也。知慧外通，勇動多怨，仁義多責，六者所以相刑也。見劉得一本，舊闕。達生之情者傀，郭：呼乖切。大恬貌。達於知者肖，如字。似也。達大命者隨，達小命者遭。

凡勝物之極者久必窮，困畏不若人，久必達，此乘除之理。知慧而務外，勇動以招怨，仁義而不周，皆用失其宜，非所以全身也。故達生之情者大悟無係，達於知者肖似愚拙，達大命者隨順生死，達小命者遇則安之，何窮通之能累哉！

## 竊 祿

人有見宋王成云：宋襄王時，有庸瑣之人游宋，佞說宋王，錫車十乘也。者，錫車十乘，繩證切。下同。以其十乘，驕穉直吏切。李云：自驕而穉莊子也。成云：穉，後也，排莊子於己後，自矜先物也。莊子。莊子曰：河上有家貧恃緯蕭緯，織也。蕭，荻蒿也。織蕭以爲畚而賣之也。本或作葦，音同。而食者，其子沒於淵，得千金之珠。其父謂其子曰：取石來鍛丁亂切。謂槌破也。之。夫千金之珠，必在九重直龍切。之淵，而驪龍力馳切，黑龍也。文云：毒龍也。頷戶感切。下，子能得珠，必遭其睡也，使驪龍而寤，子尚奚微之有哉！今宋國之深，非直九重之淵也，宋王之猛，非直驪龍也，子能得車者，必遭其睡也，使宋王而寤，子爲螯子兮切。粉夫。音符。

業緯蕭而獲珠，何異不田而鶉生，幸遭其睡，亦險矣。

## 樂 生

或聘君以書幣詔之曰聘。於莊子，莊子應其使所吏切。曰：子見夫犧牛乎？衣於既切。以文綉，食音嗣。以芻菽，初俱切。芻，草也。菽，大豆也。及其牽而入太廟，

雖欲爲孤犢，其可得乎？

夫誇十乘而忘鰲粉之禍，却聘使而慕孤犢之生，其賢愚之操可見矣。

## 規 葬

莊子將死，弟子欲厚葬之。莊子曰：吾以天地爲棺槨，以日月爲連璧，桓譚《新論》曰：通曆數家算法，推考其紀，從上古天元已來，訖十一月甲子半朔冬至，日月若連璧。星辰爲珠璣，祈機二音。或云：王者諸侯之棺，以沙畫棺四時之色，左蒼龍，右白虎，上著金銀日月玉衣珠璧，以飾棺也。沙謂珠砂塗之也。黃疏云：圓者爲珠，不圓爲璣。萬物爲齋音資。送，吾葬具豈不備邪！何以加此。弟子曰：吾恐烏鳶以全切。之食夫子也。莊子曰：在上爲烏鳶食，在下爲螻蛄音樓。蟻魚綺切。食，奪彼與此，何其偏也。以不平平，其平也不平，以不徵成也，應也。徵，其徵也不徵，明者唯爲之使，神者徵之，夫明之不勝神也久矣，而愚者恃其所見入於人，其功外也，不亦悲乎！

璧玉珠璣，富者用以飾棺，今以日月星辰爲之，豈不備邪！任烏鳶螻蛄爲兩平，奪彼予此爲不平，以偏見平萬物，萬物何由而平，以偏見應羣動，羣動何由而應，分別爲明，明者受役，神則冥漠虛通，物無不應，分別有盡，冥漠無窮，是爲明不勝神也。而世之愚者，恃己所見，探彼隱情，奪爲我有，用功於外，而不知反，至人所以興歎也。



## 雜篇·天下 三十三

### 儒 道

天下之治方術者多矣，皆以其有爲不可加矣。古之所謂道術者果惡音烏。乎在？曰：無乎不在。曰：神何由降，明何由出？聖有所生，王有所成，皆原於一，不離力智切。下離性及下章離於同。於宗，謂之天人。不離於精，謂之神人。不離於真，謂之至人。以天爲宗，以德爲本，以道爲門，兆於變化，謂之聖人。以仁爲恩，以義爲理，以禮爲行，下孟切。章內同。以樂爲和，薰然許云切。溫和貌。崔云：以慈仁爲馨聞也。慈仁，謂之君子。以法爲分，以名爲表，以操七曹切。執也。爲驗，以稽音雞。考也。爲決，其數一二三四是也，數，術數也。《尹文子》曰：法有四呈，一曰不變之法，君臣上下是也。二曰齊等之法，能鄙同異是也。三曰治衆之法，慶賞刑罰是也。四曰平準之法，律度權量是也。此人君之所密用，羣下不可妄窺者也。百官以此相齒，領錄也。以事爲常，以衣食爲主，蕃音煩。息畜藏老弱孤寡爲意，皆有以養，民之理也。古之人其備乎，配神明，醇順倫切。天地，育萬物，和天下，澤及百姓，明於本數，係於末度，六通四闢，婢亦切。大小精粗，七奴切。卷內同。謂六氣不塞四時不閉也。其運無乎不在。其明而在數度者，舊法世傳之史，尚多有之，其在於《詩》、《書》、《禮》、《樂》者，鄒莊由切。孔子父所封也。魯之士、搢紳成云：搢，插笏也。紳，大帶也。先生多能明之，《詩》以導志，《書》以導事，《禮》以導行，《樂》以導和，《易》以導陰陽，《春秋》以導名分。扶問切。貴賤之名分。其數散於天下，而設於中國者，百家之學，時或稱而道之。天下大亂，聖賢不明，道德不一，天下多得一偏得一術。察焉以自好，呼報切。下同。察焉，小見貌。譬如耳目鼻口

皆有所明，不能相通，猶百家衆技其綺切。也，皆有所長，時有所用。雖然，不該不徧，音遍。一曲之士也。判天地之美，析萬物之理，察古人之全，寡能備於天地之美，稱神尺證切。下章同。明之容，是故內聖外王之道，闇而不明，鬱而不發，天下之人，各爲其所欲焉以自爲方。悲夫，百家往而不反，必不合矣，後世之學者，不幸不見天地之純，古人之大體，道術將爲天下裂。

天下方術，各成一家，以求有用於世，道惡乎在哉，言醇英已去糟粕徒存也。然神降明出由於有道，聖生王成非有二途。以窈冥爲宗，天人也；精粹而無雜，神人也；守真而不僞，至人也。若乃宗自然之理，本不德之功，行虛通之途，逃神妙之機，斯乃治世聖人居域中之大、統上三名者也。次論君子百官，以仁義禮樂治天下，熏然慈和，惠及萬物，立法以定職分，授名以表性行，觀操以驗才能，稽考以決黜陟，皆有術數存焉。道不足則用法，法不足則用術，術不足則用權，權不足則用勢，勢不足則反權，權反術，術反法，法反道，道則無爲而自化也。術者人君之密用，羣下不可妄窺，勢者制物之利器，羣下不可妄爲，君有術而臣得窺，非術之奧者，君有勢而臣得爲，非勢之重者，要在先正名分，不相侵奪，然後術可施而勢可專也。百官以事相齒，亦不出乎一二三四之序，法名操稽之目，用以教養萬民，使無失業而已。太古之時，無法而自備，非設法以備之也，配神明則鬼無靈響，醇天地則四時常若，育萬物則年穀常豐，和天下則人無夭惡，所以仁及草木，信及豚魚者，由乎明本數、係末度也。主無爲而尊，本數也，天道也，分守也；臣有爲而累，末度也，地道也，原省也；本末之分在審之而已。此道六通四闢而無礙，凡天地秋毫、神靈形器，推移轉徙，無有入於其間也。其在陰陽律歷《詩》、《書》、《禮》、《樂》者，其數散於天下，百家之學時稱道之，及其朴散時凜，世道交喪，察察以自好，不能相通爲用，故聖王之道不明，而人各爲其所欲爲，往而不反，日遠乎道矣！道術爲天下裂，學者之不幸也。

## 墨 教

不侈尺紙切。奢侈也。於後世，不靡於萬物，不渾於數度，以繩墨自矯，居表

切。厲也。而備世之急，古之道術有在於是者，墨翟、宋大夫，尚儉素。禽滑音骨。釐力之切。墨翟弟子也。不順五帝三王之樂，嫌其奢大。聞其風而悅之，爲之大過，已之大循，三本作順。作爲《非樂》，命之曰《節用》，《墨子》二篇名。又《非樂》謂斥樂之非，不令用樂，《節用》謂以儉節民用度。生不歌，死無服，墨子汜芳劍切。愛兼利化同己儉爲汜愛兼利。而非鬪，其道不怒，又好學而博不異，不與先王同，毀古之禮樂。黃帝有《咸池》，咸，皆也，池言其包容浸潤也。堯有《大章》，章，明也。舜有《大韶》，韶，紹也，言紹繼堯也。禹有《大夏》，戶稚切。言大承二帝也。二帝堯舜也。湯有《大濩》，音護。言救護民也。文王有辟音璧。雍《白虎通》曰：天子立辟雍，所以行禮樂宣德化也。辟者象璧圓法天，雍之以水，象教化流行。之樂，武王、周公作《武》。言以武功定天下也。古之喪禮，貴賤有儀，上下有等，天子棺槨七重，直龍切。《禮記》云：天子之棺四重，水兕華棺被之，其厚三寸，槨棺一，梓棺二，四者皆周。棺束縮二，衡三，衽每束一，栢棺以端長六尺。而葬五重八襲。鄭云：重栢木與茵也。今十重，以棺槨與栢木合爲十重也。諸侯已下與《禮記》多少不同，未詳也。《荀子》作天子棺槨十重。諸侯五重，大夫三重，士再重。今墨子獨生不歌、死不服，桐棺三寸而無槨，以爲法式，以此教人，恐不愛人，以此自行，固不愛己，末敗末或作未，敗或作毀。墨子是一家之正，故不可以爲敗也。崔云：未壞其道。道。雖然，歌而非歌，生應歌，而墨以歌爲非也。哭而非哭，樂音洛。下同。而非樂，是果類乎！其生也勤，其死也薄，其道大觳。苦角切。郭李皆云：无潤也。使人憂，使人悲，其行下孟切。章內同。難爲也，恐其不可以爲聖人之道，反天下之心，天下不堪，墨子雖獨能任，音壬。柰天下何？柰天下人不堪任墨子之事。離於天下，其去王也遠矣。墨子稱道曰：昔者禹之湮洪水，音因，又音煙。塞也，沒也。掘地而注之海，使水由地下也。引禹之險同己之道也。決江河，而通四夷九州也，名山三百，支川本或作支流。三千，小者無數，禹親自操七曹切。橐音託。囊也。司馬云：盛土器也。耜音似。《釋名》：耜，似也，似齒斷物。《三蒼》云：耒頭鐵也。崔云：耨也。司馬云：盛水器也。而九如字，又音鳩，聚也。滌見江南李氏本，舊作雜。崔云：所治水非一，故曰雜也。天下之川，《書》曰：九川滌原。孔安國曰：九州之川已滌除無壅塞也。腓音肥。無胈，步葛切。脰形定切。無毛，腓，脰臑也。臑，腓腸也。脰，腓腸前骨也。胈，股上小毛也。臑時充切。沐甚雨，崔本作湛，音淫。櫛側筆切。疾風，置萬國。禹，大聖也，而形勞天下也如此。使後世之墨者，多以裘褐戶葛切。爲衣，以跂其逆切。躋紀略切。李云：麻曰屨，木曰屨，屨與跂同，屨與躋同。一云：鞋類也。一音居玉

切。以藉鞋下也。爲服，服，用也。日夜不休，以自苦爲極，曰：不能如此，非禹之道也，不足爲墨。相息亮切。里勤司馬云：墨師也，姓相里，名勤。之弟子，五侯之徒，南方之墨者，苦獲、已齒、李云：二人姓字。鄧陵子之屬，俱誦《墨經》，而倍音佩。譌音決。不同，相謂別墨，以堅白同異之辯相訾，音紫。以綺紀宜切。成云：獨唱曰綺。《說文》：牛角，一俯一仰曰綺，不忤之辭如此也。偶不忤誤五二音。之辭相應，以巨子向云：墨家號其道理成者爲鉅子，若儒家之碩儒也。爲聖人，皆願爲之尸，冀得爲其後世，至今不決。墨翟、禽滑釐之意則是，其行則非也，將使後世之墨者，必自苦以腓無胈脛無毛，相進而已矣，亂之上也，治之下也。雖然，墨子真天下之好呼報切。也，將求之不得也，雖枯槁苦老切。不舍音捨。下章同。也，才士也夫！

墨氏之教，不侈靡，不暉耀，勤儉厲己，救世之急，但儉嗇太過，己能循而衆難遵，非樂節用，生憂死薄，可謂大拂人情，然而汜愛近仁，兼利近義，非鬪近禮，不怒近知，又好學而廣尚同，則亦異乎流俗也。其與先王不合者，毀古禮樂爲特甚，自《咸池》至作《武》；及棺槨之重數，皆古禮樂也，墨子則生不歌，況絲竹乎？死無服，況珠玉乎？以此自行固不情，以此教人亦太忍，終不免倍譌無倫之弊。人之歌哭笑樂，發乎本情，今一切非而去之，與世情不類矣。枯槁無潤，使人憂悲，衆皆不堪，而墨子能獨任，既不合天下之情，去王道遠矣。墨子宗禹勤儉，故稱其治水之功，九滌天下之川，謂九州之川滌除無壅，腓無胈至置萬國，皆載其粗迹，未造妙本，而後世效之，以自苦爲極，至有割肌膚斷肢節以徼福者，此又學墨之弊也。相里勤之徒，末敗墨子道者也，以辯博論大者爲師，遂至清談好勝之弊，以勤儉備急則是，以憂苦教人則非，後世效之，亂之上也，治何望焉。然而好學勤篤，無對於天下，強學立志，教侔仲尼，亦才士之美者也，但所行失道德之正耳。

## 明 治

不累於俗，不飾於物，不苟於人，不忤之鼓切。逆也。崔云：害也。字書云：狠也。於衆，願天下之安寧以活民命，人我之養畢足而止，以此白心。崔云：明白其心也，

或作任心。古之道術有在於是者，宋鉞、音形，宋人也，著書十八篇，師黃老。尹文崔云：齊宣王時人，著書二篇。成云：宋鉞、尹文並齊宣王時人，同遊稷下。聞其風而說之，作爲華山之冠華山上下均平，作冠象之，表己心均平也。以自表，接萬物以別彼列切。宥爲始，始，首也。崔云：以別善惡，宥不及者爲之首也。一曰：別，有區域也。始，本也。置立名教，應接人間而區別萬有，用斯爲本。語心之容，命之曰心之行，以聊音而。王云：和也。一云：調也，聊和萬物，合則歡矣。合驩，以道者物和而調之，合意則歡矣。以調海內，請欲置之以爲主，見侮不辱，救民之鬪，禁攻寢兵，救世之戰，以此周行天下，上說音悅。下教，上謂國主也，悅上之教下也。一云：說猶教也，上教教下也。雖天下不取，彊其丈切。聒古活切。謂彊聒其耳而語之也。而不舍，故曰上下見厭於黜切。而彊見也。雖然，其爲於僞切。下自爲同。人太多，其自爲太少。曰：請欲固置五升之飯足矣，先生恐不得飽，弟子雖飢，不忘天下。日夜不休，曰：我必得活哉！圖傲乎五報切。圖傲乎者，謂不圖傲也。救世之士哉。曰：君子不爲苛察，音河，一本作苟。不以身假物，以爲無益於天下者，明之不如已也。以禁攻寢兵爲外，以情欲寡淺爲內，其大小精粗，其行下孟切。又如字。適至是而止。

無情故不累，朴素故不飾，直道故不苟，因任故不忤，願天下安活而不過養，明白此心，如是而已。華山之冠，以表心之堅正，治如頂之均平，以區別賢愚，寬宥典法爲治本，而言行不虧也。法寬和則合民心，宇內稱美，樂推以爲君矣。忍辱止鬪，使民不爭，寢兵守慈，民尚雌靜，以此說天下，使民必從而願其安活，是爲人太多也；勤儉自苦，請日置五升之飯，猶推予先生，寧己忍饑，不忘天下，是自爲太少也。我必得活哉，言我思救人，天必活我。圖傲乎，言不圖傲也，豈圖夸傲爲救世虛名而已。不爲苛察，務克己也。不以身假物，力行以率物，凡無益於天下者不爲之，外以不爭和調物情，內以寡欲節抑己性，事有精粗不同，但去其非理者而爲之，斯治道之極也。

## 論 法

公而不黨，或作當。崔本作黨，云：至公无黨也。易以豉切。而無私，決然無主，趣物而不兩，不顧於慮，不謀於知，於物無擇，與之俱往。古之道術有在於是

者，彭蒙、齊人。田駢、薄田切。齊人，著書十五篇，有辭辯。慎子云：名廣。慎到趙人，著書四十二篇，三人並遊稷下。聞其風而悅之，齊萬物以爲首，曰：天能覆之而不能載之，地能載之而不能覆之，大道能包之而不能辯之，知萬物皆有所可，有所不可，故曰選則不偏，音遍。教則不至，道則無遺者矣。是故慎到棄知去己而緣不得已，冷音零。汰音泰。冷汰，簡練也。於物，以爲道理。曰：知不知，將薄知而後鄰傷之者也。謏戶禮切。《說文》：耻也。一曰：謏詬，小人怒也。髡戶瓦切。郭云：謏髡，訛倪不正貌。王云：謂謹刻也。無任，无所施任也。王云：雖謹刻於法，而猶能不自任以事，事不與衆共之，則無爲尚賢，所以笑也。而笑天下之尚賢也。縱脫成云：縱恣脫略，不爲仁義之德行也。無行，下孟切。下人之行同。而非天下之大聖。椎直追切。拍普百切。成云：笞撻也。輓五管切。斷，丁管切。成云：行刑也。王云：椎拍輓斷皆刑戮者所用。與物宛轉，成云：變化也。舍音捨。是與非，苟可以免，不師知慮，不知前後，巍然魚威切。成云：不動貌。而已矣。推而後行，曳而後往，若飄婢遙切。《爾雅》云：回風也。風之還，旋、環二音。若羽之旋，若磨末佐切。石之隧，音遂，回也。全而無非，磨石所剗，羸細全在人，其德全，无見非責時，言其無心也。動靜無過，未嘗有罪，是何故？夫無知之物，無逮己之患，江南本作逮，舊作建。無用知之累，動靜不離力智切。於理，是以終身無譽，故曰至於若無知之物而已，無用賢聖。夫塊苦對切。不失道，豪杰相與笑之曰：慎到之道，非生人之行，而至死人之理，適得怪焉，田駢亦然，學於彭蒙，得不教焉。彭蒙之師曰：古之道人，至於莫之是莫之非而已矣。其風竅况逼、火麥二切。向云：逆風聲也。然，惡音烏。可而言，常反人，不聚觀而不免於魀五管切。斷。丁管切，與上義輓斷同，謂刑也。成云：雖復立法施化，而未能太齊萬物，故不免於魀斷也。其所謂道非道，而所言之肆，於鬼切。是也。不免於非，彭蒙、田駢、慎到不知道；雖然，槩乎古愛切。成云：梗槩也。文云：節槩也。皆嘗有聞者也。

黨則不公，私則不明，無心則主不在己，以法治物則事無疑貳，故忘知而無擇，唯執法而行，天地無全功，聖人無全能，物有可有不可者，故有治法存焉，若舍法而用選施教，則事不周，理不至矣。道總包而無遺，有自然之法也。慎到以下四句，謂必如此然後可以無遺，冷汰猶揀鍊，以法揀鍊物之精粗，以扶天下之道理，用法雖非善，猶愈於無法，無法則道理不立，亂莫甚焉。薄知未免有心，有心不能無患，謏髡訛倪而笑尚賢之無倫，縱脫狂誕而非聖人之虛曠，斯法弊之所致也。椎拍敲斷，桎梏魀斷，刑截肢節，然

所施用宛轉，物情無是無非，苟可免禍，忘慮忘知，巍然安處，靜則推曳而後行，動若飄風與旋羽，無用知之患，若無知之物，雖神明降出，亦無所施爲，言其枯槁絕物，所以人皆怪之。三子皆以墨學立教，有教則有是非，今云莫之是、莫之非，如風窺然，有音無辨，是爲得不教焉。及其反於人情，又不免敲斲刑截，此所謂道非王道也。言其法雖是，而行之則非，三子皆不知道，然亦爲學而有聞於時，但其立教非正耳。

## 贊 老

以本爲精，以物爲粗，以有積爲不足，澹徒暫切。然獨與神明居，古之道術有在於是者，關尹、關令尹喜，字公度，著書九篇，周平王時爲函谷關令。老聃他甘切。老君也。聞其風而悅之，建之以常無有，主之以太一，以濡如寃切。弱謙下爲表，以空虛不毀萬物爲實。關尹曰：在己無居，形物自著，其動若水，其靜若鏡，其應若響，許丈切。芴音忽。乎若亡，寂乎若清，同焉者和，得焉者失，未嘗先人，而嘗隨人。老聃曰：知其雄，守其雌，爲天下谿，苦兮切。知其白，守其辱，爲天下谷。人皆取先，己獨取後，曰：受天下之垢。音苟。人皆取實，己獨取虛，無藏也故有餘。巋然去軌切。成云：獨立之謂。而有餘，其行身也徐而不費，芳味切。損也。無爲也而笑巧。人皆求福，己獨曲全。曰：苟免於咎，以深爲根，以約爲紀。曰：堅則毀矣，銳則挫矣。常寬容於物，不削於人。雖未至極，舊作可謂至極，江南古藏本作雖未至極者，謂言教也。言教乃老君、關令應物化人之粗語耳，未是極致之妙，極致之妙，豈可言哉。關尹、老聃乎，古之博大真人哉。

妙本之精，可以意致，有物之粗，可以言傳，以有積故不足，有餘者莫過乎大虛，獨與神明居，不欺暗室也。常無有道之用，太一身之主，冲虛物之宗也。至人無己，萬物皆我，動而無心，靜而能照，感而遂通，無常情也。若亡非無，若清非濁，和非合汙，失非喪己；不先而隨，後其身也；知雄守雌，謙以自牧；知白守黑，處昧而明；受天下之垢，能忍辱也；無藏故有餘，與人己愈有；躁則精神耗，巧則爲人役；苟免於咎，福何求焉；深根故未始出其宗，約紀故操之也易；寬容於物則廣慈，不削於人則博濟；此皆

真人涉世之粗迹，關尹、老聃之所勤行者也。

## 叙 莊

寂寞無形，變化無常，死與音餘。下同。生與，天地並與，神明往與，芒莫剛切。下同。乎何之，忽乎何適，萬物畢羅，莫足以歸。古之道術有在於是者，莊周聞其風而悅之，以謬悠謂若忘於情實者也。一曰：虛闊也。之說，荒唐謂廣大无域畔者也。一曰：孟浪也。之言，無端崖之辭，時恣縱而不儻，丁蕩切。謂倜儻之儻，不儻者謂守法度也。不以畸音羈。不偶也。見之也。以天下爲沈濁，不可與莊語，莊，莊子也。以卮音支。言爲曼衍，以戰切。已解《寓言篇》。以重言爲真，以寓言爲廣，獨與精神往來，而不敖五報切。倪音詣。成云：敖倪，驕矜貌。於萬物，不譴遣戰切。是非，以與世俗處，其書雖瓌古回切。瑋，於鬼切。奇特也。而連狝音藩，謂與物相從不違，故無傷也。無傷也，其辭雖參初林切。差，初宜切。文云：不常貌。而詡尺叔切。詭九委切。文云：異俗貌。可觀，彼其充實不可以已。上與造物者遊，而下與外死生無終始者爲友。其於本也，宏大而闢，婢亦切。深閔音宏。而肆，其於宗也，可謂調適而上遂矣。雖然，其應於化而解於物也，其理不竭，其來不蛻，音悅。又始銳切。一本作脫。芒乎昧乎，未之盡者。

寂寞無形道之體，變化無常道之用，生死道之化，天地道之常，神明道之迹，芒乎何之至莫足以歸，道之妙也。不儻謂中法度，不以畸見無偏也，莊語正大之言，南華著書以中正爲宗，而曼衍無窮，以重德爲體，而真實不僞，以寄托爲用，而廣施教導，與天地精神往來，而不傲倪於萬物，則侔於天而不暗於人。是以處人間世也，瓌瑋奇特，連狝相從，參差不常，詡詭可觀，其道充實，淵妙無窮，故能無心而一變化，廣大而極根源，調適物理，上遂化元也。夫道可以言論至極，則渾淪之精微何其粗也，可以意慮窮盡，則造化之冲漠何其淺也，故自古聖賢作述相繼而莫能已也。



## 評 惠

惠施多方，舊說不錄，其新義備載章句之下，此不復疏。其書五車，尺蛇切。又音居。其道舛川究切。駁，邦角切。其言也不中。丁仲切。歷或作麻。物之意，曰：至大無外，謂之大一，至小無內，謂之小一，無厚不可積也，其大千里，天與地卑，山與澤平。日方中方睨，音詣。物方生方死。大同而與小同異，此之謂小同異，萬物畢同畢異，此之謂大同異。南方無窮而有窮，今日適越而昔來。連環可解也。我知天下之中央，燕之北、越之南是也。汜芳劍切。愛萬物，天地一體也。惠施以此爲大觀古亂切。於天下而曉辯《字林》云：辯，慧也。者，天下之辯者相與樂音洛。之：卵有毛，鷄三足，郢有天下，犬可以爲羊，馬有卵，丁子有尾，火不熱，山出口，輪不蹶女展切。地，目不見，指不至，至不絕，龜長於蛇，矩不方，規不可以爲圓，鑿曹報切。不圍柅，如銳切。飛鳥之景未嘗動也，鏃子木切。矢鏃也。矢之疾而有不行不止之時，狗非犬，黃馬驪力知切。牛三，白狗黑，孤駒未嘗有母，一尺之棰，章藥切。日取其半，萬世不竭。辯者以此與惠施相應，終身無窮。桓團、塗丸切。公孫龍辯者之徒，飾人之心，易人之意，能勝人之口，不能服人之心，辯者之囿音又。也。惠施日以其知與人之辯，特與天下之辯者爲怪，此其柢典禮切。《說文》木根也，又丁計切。也。然惠施之口談，自以爲最賢，曰：天地其壯乎，施存雄而無術。南方有倚人如字。本或作畸，音紀宜切。李云：異也。焉曰黃繚，音了。李云：賢人也。問天地所以不墜、直類切。不陷、風雨雷霆音廷。之故，惠施不辭而應，不慮而對，徧爲於僞切。萬物說，說而不休，多而無已，猶以爲寡，益之以怪，以反人爲實，而欲以勝人爲名，是以與衆不適也。弱於德，強於物，其塗澳烏報切。李云：深也。矣。由天地之道，觀惠施之能，其猶一蚊音文。一蠱孟庚切。之勞者也，其於物何庸。夫充一尚可曰愈，貴道幾矣。惠施不能以此自寧，散於萬物而不厭，卒以善辯爲名。惜乎惠施之才，駘音殆。蕩舊云：駘者放也，放蕩不得也。而不得，逐萬物而不反，是窮響以聲，形與影競走也，悲夫。舊音義云：郭象之注，論其大體，真可謂得莊生之旨矣。郭生前歎膏梁之塗說，余亦晚觀貴遊之妄談，斯所謂異代同風，何可復言也。或曰：莊惠操濠梁之契，發郢匠之模，而云其書五車，其言不中，

何也？豈契若郢匠，褒同寢斤，而相非之言如此之甚者也。答曰：夫欲極有教之肆，神明其言者，豈得不善其辭，而盡其喻乎？莊生振徽音於七篇，列斯文於萬世，重言書涉玄之路，從事展有辭之叙，雖談元貴辯而教無虛唱，然其文易覽，其趣難窺，造懷而未達者，有過理之嫌，祛斯之弊，故大舉惠子之云辯也。

太虛無外而不二，秋毫無內而介然，可積則有厚，何止乎千里。自太虛觀之，則天地皆卑；從蒼蒼視之，則山澤悉平；交臂已失，日方中方睨也；俯仰陳迹，物方生方死也；物有貌像聲色，大同也；物以類聚羣分，小異也；由於一氣所化，畢同也；萬形種殊，畢異也。既定方所便有窮，今適昔來意先到，形可分，神可出，則連環可解，論術不論理也；燕北越南，自分中央，沖虛混合，未嘗間斷。惠子以此論大示於宇內，辯者樂之，同聲應也。卵本無毛，而化雛有毛；雞本兩足，數曰一二，即成三也；郢以建都為有天下，犬羊皆古人強名；以胎為卵，猶方言也；楚人呼蝦蟇為丁子，有尾謂為科斗；時海山火獸，不以火為熱；山突出為口，猶云溪口路也；車輪所輾謂之轍，則不言地矣；目非能自見，所以見者神；凡所指者指其不至之處，若至則境足相接，是不絕也；龜長於蛇，論壽不論形；規矩為方圓之法，非方圓之物；鑿枘亦假合會遇，理不相因；猶形影之獨化，飛鳥移而影未嘗移也；矢發則行而不止，落則止而不行；狗有懸蹄謂之犬，則常狗非犬也；黃馬驪牛三，離合同異如堅白石焉；若狗形白而目眇，則呼眇不呼白，或蹄蹙而形白，則忘白而命蹙；駒有母則不稱孤矣；方寸之地，朝夕施用、終刳莫盡；尺椀不竭之義，論道不論物也。與天下之辯者為奇，此其根柢也。天行健，地博厚，是其壯也。惠子恃其口談，欲以敵之，而不知守雌恬靜，以養天和，徒存雄而無術也。倚人欲倚仗古人以立說，不能自成一家之學，故問天地風雷之故，惠子徧為數說，既多且怪，自賢好勝，弱於德也，博辯尚異，強於物也。以天地之道，觀惠子之能，猶蚊虻耳，何足數哉！世所以貴道者，以其書傳也，惠子之書，充其一家之言，庶幾可矣。若雞三足已下所論，非備世之急者不知，大辯若訥，而分別糝糠，以困役其精神，漆園所以重嘆惜也。

上陳景元《莊子注》三十三篇，蓋先君於1948年據《正統道藏》中陳景元《南華真經章句音義》、《南華真經章句餘事》及褚伯秀《南華真經義海纂微》所引陳景元《注》重爲編次而成，詳所撰《校理陳景元〈老子注〉、〈莊子注〉叙錄》，此不贅述。《叙錄》於《莊子注》言：“念徒《注》不可以無《經》，而《章句》例同《釋文》，《經》亦不備，於紬繹殊不便，今《注》既爲新輯，不嫌重爲編次，因爲補入《經》文。”然現存稿本，除《天地》、《天道》、《天運》、《秋水》四篇外，皆無《經》文，且稿本眉端又時有批正處，是此稿本尚不得爲定本也。又稿本所夾付印計劃，除統計《章句音義》及《注》之字數外，並另統計《經》文字數，是《經》文當不可少；故今茲整理，將所闕各篇《經》文全部補錄。然陳本今已不可見，將何所據以補入？實費斟酌。案陳《叙》謂嘗以諸家傳本校國子監景德四年印本，不同者共三百四十九字，宜陳於《章句》及《注》中所稱舊本即此監本。以所稱舊本校之褚伯秀本，幾全相合，宜褚氏所用亦爲監本；宋監本《莊子》今亦不存，故逕據褚本補入，其經《章句》校改者，則改從《章句》，是陳本雖已不存，而此或近之也。又稿本各篇皆據《章句音義》分章，並另行標出章題，其《注》則據褚引。然褚書分章與陳或有不同，時有合陳書之二三章以爲一章者，而《注》文遂亦因之合而爲一；稿本於此則有《經》文從陳氏分章而《注》文則仍從褚氏合一者，此顯自亂體例，今茲整理，儘可能分解其合一者以附各該章之後。又按陳書之《注》原稱《章義》，則應逐章皆備，今褚書所引則有或闕者，不審爲陳氏原闕，抑爲褚氏失引，已不可考，亦唯仍之而已。又《天地》等四篇之《章句音義》全佚，稿本唯載據褚書輯出《注》文，眉端亦但據《章句餘事》之“分章篇目”批出章題，而於《章句餘事》所載四篇之《闕誤》則失批，蓋以他篇之《闕誤》已合入《章句音義》中，而偶忘此四篇之《闕誤》尚存也，是四篇之《章句音義》猶存其百分之四五，茲亦據以補入。又陳書之《叙》，原題《南華真經章句音義叙》，先君《叙錄》據褚書《序》引陳氏《莊子注序》數句與之全合，因疑《章句序》即後之《莊子注序》，故今茲逕題爲《莊子注序》，仍署碧虛子陳景元造。凡此數端，是否有當於陳景元著書之旨及先君重爲編次之意，尚祈讀者鑒之。

## 新校張清夜《陰符發秘》

### 新校張清夜《陰符發秘》序

吾友 文通，近治道家言，既哀集唐道士成玄英、李榮二家《老子注》、《義》校而行之，又得清自牧道人張清夜所著《陰符發秘》，並次其年譜，將刻以行世，文通之用力於此勤矣。因論禪宗爲中國自成之佛學，而宋人之理學因之，道家之全真教又繼禪宗及理學而起，此真能通三教之流別，吾不能易其言也。自牧道人晚出，宜不能無取於全真教，惟范宜賓《玄解》嗣《發秘》而作，其《序》則謂：“自牧道人居蜀，素明南宮之術，却於內丹成道。”蓋宋以後道家分南北二宗，北宗流爲全真派，而南宗則未必然。《發秘》所釋天人合發、日月有數之旨加詳，屢稱《參同契》、張紫陽之書，皆南宗所奉爲圭臬者也。是自牧道人之學不可專以全真派目之。《玄解》持論，則又似偏於南宗。要之，道家自黃老以後，每降愈卑，惟莊周博大，能明無待之至遊；魏晉崇玄虛，亦尚不信神仙之說；左元放、魏伯陽始言補導，張紫陽宗之，以爲南宗。王重陽雖近禪，然其徒所論修習次第，不免於志在冲舉。故南北二宗實皆方術，非古之所謂道術也。夫入於術，則其運用不離乎聲色形氣之間，或拘於陰陽度數之末，術愈精而道愈小矣。此道家之變也。然自牧道人之學，固有所受之，而發之於《陰符》，其書

甚爲當世所重，又烏可忽乎哉！因序《發秘》，略申余意，並質諸文通。時民國三十五年十二月謝無量序。

## 陰符發秘序

古聖賢書多據事以明理，惟《易》則空懸其象，而萬事萬理皆包孕其中。後世興亡治亂，即《易》之占驗也；古來經史子集，即《易》之注脚也。《陰符經》殆與《易》爲表裏者歟！是經也，不過四百餘言，而九天九地、無始無終、一本萬殊、大含細入，其旨歸所在，與《易經》貞下起元、靜中含動，無二理也。特其造語多奇，用字多險，後人遂於奇險處求之，致滋歧論而反晦其意。試平心靜氣、反諸吾身而通諸載籍，則釋氏之非空非色，老子之常清常靜，與儒者之無極太極，皆一以貫之矣。予鄉牧道人去儒服改黃冠，腹笥甚富，寓居成都二十餘年，於三教諸書外，深契是經之妙，所謂三盜五賊之用，殺機之發，奇器之秘，皆以身體力行者自寫其會心之處，而津津道之，較之以郭注《莊》，尤見實際。美矣道人之言曰：仁者見之謂之仁，知者見之謂之知，以《易》語序是經，始無遺蘊，而從前所稱兵法云云，皆掛一而漏萬。予於是經非素所熟習，今得之而不能讀，讀之而不能盡解也，則亦以讀《易》者讀之、解《易》者解之而已。

乾隆甲戌嘉平上浣，若谷沈裕雲書於錦城之石室。

## 自序

余少壯時，歷遊四方，洞悉人世蜉蝣。癸卯冬，得入蜀，見山水之險異，事物之變遷，益信造化之有有而無無也。己酉秋，即遁迹於蓉城之柏森森處，謝塵俗，習清虛，惟日夕展玩《陰符》。客曰：子何爲而好讀是經？予笑而不答。又曰：吾聞《陰符》黃帝所著，又云春秋時書，朱子謂戰國見道之人所作，今或目爲養生，或云王政，或云兵法，至於諸家注解，又紛然不一，請悉其詳。予曰：子之說皆是而皆非也。客憤起而責曰：子何誕乎？曰：非誕也。《易》曰仁者見之謂之仁，知者見之謂之知，則出世者目爲養生是也，爲政者目爲王政是也，師旅者云兵法亦無不是也，若執何者爲是，即非矣。惟其所莫能拘，莫能定，以之推及於萬事萬理而莫不至，當此其所以爲《陰符》。乃崆峒授受之文，爲墳典丘索三教百家經書文字之鼻祖，以天地幽明而原始要終，明夫人未生之前、有生之後，其所以生所以死之故，蓋天地與人參三才而一理，是以指天道而明人道，言簡而理該，義深而行易。總之，首以明機察物，繼以知動知時，而防剋防潰，其徹始徹終，不過以自然至靜爲工夫，以法天行健爲法則，審能如是而知之、防之、體之、行之，則可超乎有生有形之外，而至乎無聲無臭之鄉，生滅兩忘，與太虛一體，豈止養生、王政、兵法而已哉！春秋戰國之說無據，姑存而不論闕焉可也。因子執於分別，故曰皆是而皆非也。客曰：其旨既得聞矣，而子留心如是，自必有得之於心，蓋常道觀抄本作盍。授中書君發其所得之秘成一家之注，以公同志，何乃自秘其秘乎？余曰：噫！昔陸子靜先生云：六經注我，我安得又注六經耶！《陰符》亦然。客曰：不然，吾亦固知乎得象忘言、得理忘象，猶謂得魚而忘筌矣，而方將魚者可忘筌乎？余曰：雖然，非敢秘也，但以一得之愚，發之楮墨，則必不能免，其人之曰是也、非也，誠不能自知其爲是也、爲非也，而亦不自知其爲誕也。

乾隆甲戌仲春之望，長洲自牧道人張清夜序於紫陽洞。

## 陰符發秘 上卷

長洲八十老孩張清夜子還注

**觀天之道，執天之行，盡矣。**

注曰：天之道，冲虚静漠，不自生而生生；天之行，無私任運，不我化而化。其間氣機闔闢，日月交光，皆造化樞機，修身玄範，人能明此，又能體此，則《陰符》之能事畢矣。

**天有五賊，見之者昌，五賊在心，施行於天，宇宙在乎手，萬化生乎身。**

注曰：天有五賊者，即天地陰陽化生之子也，如色聲臭味觸之類也。五賊在心者，亦即天性所生之知覺也，如耳目鼻舌身之類也。此五者皆能吸攪情塵，徇私馳逐，顛倒執迷，至死不悟，如太上所云“五色令人目盲，五音令人耳聾”是也。若能識得破、看得透，不致認賊作子，便是施行於天也。施行於天者，一如天之無私無言，以五賊爲芻狗之意。審能如是，則六合一軀、萬年一念，身符造化、心統化機矣。

**天性，人也；人心，機也；立天之道以定人也。**

注曰：不被五行所賊的心，便是天性，即無思無爲、寂然不動之真體也。庸人之情，一遇聲色至前，便生出種種分別愛惡，即此分別愛惡，便是惟危之機心也。人苟息了機心，盡合天性，常道觀抄本作盡性合天。則心之與性、天之與人豈有二哉！曰立，曰定，乃確有卓見，無絲毫移易也。

**天發殺機，移星易宿；地發殺機，龍蛟起陸；人發殺機，天地反覆；天人合發，萬化定基。**

注曰：天地之發殺機者，無非言氣機潛動之意，夫寂然不動，生滅兩融，機動時行，芻狗萬物，故曰殺機也，即天地不仁之意。三辰右移，列宿左易，光明下照，所謂至陰肅肅，發乎天而交於地也。龍蛟起蟄，潛然上飛，氣騰物感，亦



謂至陽赫赫，發乎地而交於天也。人身，小天地也，其氣機旋動之時，周行六虛，坎離顛倒，非吾身之天地反覆耶！天人合發者何也？人在兩交之中，而氣機不能與天地同運並行者，蓋爲不能自作主宰，任爲五賊驅馳，遂與天道相睽、天行不符。今既云立天以定人矣，則天與人合一而不分，所以天地之發殺機而人與之俱發，人之發殺機則天地萬物莫不與之俱發矣。故曰天人合發。萬化定基者，於天人合發之際，奪盡天地冲和之運，奪盡陰陽化生之妙，始尅重胚太機，再立根元，而不生之生生毓於此，不化之化化樞於此也。此篇經旨，全歸在天人合發一句，爲一卷《陰符》之章旨也。

《陰符經》“陰”字，前人作暗字解，謬矣。昔稱分陰、寸陰，乃時字之義也。按《參同契》有拘蓄禁門、促迫時陰之旨，始知天人合發乃乘時下功盜奪也。何也？中篇云：食其時，百骸理，動其機，萬化安。足證此也。

**性有巧拙，可以伏藏，九竅之邪，在乎三要，可以動靜。**

注曰：聖人之性與天地參，衆人之性有巧拙之不同，雖曰不同，然皆可以伏藏。伏藏者，即退藏於密之謂也。如天漸發陽中之真陰伏於地，以醞真陽，而後能令肅肅赫赫之機往來升降，成高明博厚於無盡。人之所以不能悠久無疆者，只爲不解伏藏；其不能伏藏之故，只爲身中九竅之不謹耳。何也？九竅者，天性與五賊往來之門戶，故五賊無此，不能誘天性以隨邪，人心無此，不能通五行以擾性。又當知夫九竅中之最靈捷者，耳、目與口，謂之三要，此作聖工夫最喫緊處也。可以動靜者，言三要之動而外逸，爲入邪之首領，靜而伏藏，實爲辨道之津梁，所以三要之能動能靜，即吾人作聖作狂之樞關也。

**火生於木，禍發必剋，姦生於國，時動必潰，知之修之，謂之聖人。**

注曰：此節前四句乃變先天爲後天，化神奇爲怎鼻腐也。後二句乃返後天而爲先天，即鼻腐而仍化爲神奇也。其經旨全在時動知修四字。何也？火生於木者，心之原於性也；禍發必剋者，天性之變爲人心，即火之炎於上七竅也；姦生於國者，情之本於性也；時動必潰者，情之變爲精，即水之滴於下二關也。吁炎上而不返，潰下而不還，中宮有其空，舍何支乎？但時動二字不可全作必潰會。所以緊接知之修之一句何也？夫時動者，即天人合發之時也，故時之動介乎先天後天之際、作聖作凡之間。或因其時之動也，則情擾乎中，變先天爲後天，此時動必潰之誠也；或因其時之動也，能運我自然之殺機，可以返後天爲先天，豈非

萬化定基之始乎！至於知之者，即是知此時動之機也；修之者，即於機動之際及時下功行一得永得之道也。

紫陽真人有《真鉛銘》可以證之，《銘》曰：一念之非，降而爲漏，一念之見，守而成鉛，升而接離，補而成乾，陰陽歸化，是以還元，至虛至靜，道法自然，人能行之，飛昇而仙。此節經文止有二十四字，人能信而行之，誠有轉凡入聖之功，讀《陰符》者奚可草率看過。予幼時喜讀《陰符》，寒暑靡間，一日於無想無夢時，忽聞有人亦誦此經，至是節，字句大有不同，猶記其句云：心生於性，念發必剋，精生於氣，情動必潰。於時以爲改竄聖經，大爲不平，及醒而味之，頗覺微妙。可知五十年前，古聖先賢預知今日之有注《陰符》也。亦奇矣哉。

## 陰符發秘 中卷

長洲八十老孩張清夜子還注

**天生天殺，道之理也。**

注曰：篇中專為指明天人合發之真時，及人發殺機之定候，首章猶未陡然直下，故先言萬物以天地發生之時而敷榮，以肅殺之候而凋謝，此自然而然之理，猶太上所云“天地不仁以萬物為芻狗”。曰不仁者，言天本無私，何有於仁與不仁也。即經云天生天殺，道之理也。

**天地，萬物之盜；萬物，人之盜；人，萬物之盜。三盜既宜，三才乃安。**

注曰：天地以時之盛衰為萬物之新故，即上文天生天殺道之理也。惟人與萬物互相戕賊，如萬物適人嗜欲，便能賊人真性，故萬物人之盜也。又如人利用萬物而能摧殘萬物，故人為萬物之盜也。此皆三盜之不相宜也。若人能除五賊，識天符，順時觀化，則不但不為萬物所盜，且又能盜天地萬物之造化，豈非天地位而萬物育乎！

**故曰：食其時，百骸理，動其機，萬化安。**

注曰：食即得之者常似醉之意。動者即龍蛇起陸、人身之氣機也。此節頓接故曰食其時五字，可見前二節已伏有用之時義矣。夫食時動機者，聖人直指人用功之際，機動有時，時至神知，陰陽旋運，地髓天餓，咽歸五內，臟腑安舒，形神俱妙，與道為期矣。

**人知其神之神，不知不神之所以神。**

注曰：神之神者，靈異不測之謂也；不神神者，乃是極尋常最靈現、人人共見、而全不覺其為參天地贊化育之靈源也。若非此經當場直指，未免盡作揚子江頭渴死漢矣。此節本以啓下文日月小大之微旨，故先示人不神而神一語，以證神明之出正在於此不神也。

日月有數，小大有定，聖功生焉，神明出焉。

注曰：此承上文不神之中而聖功之所以生、神明之所以出也。試問日之升沈、月之盈虧，自少至耗、自古迄今，舉頭便見，不識其爲何物，殊不知超生脫死、一切神明變化正在於此也。此節四句，只有兩個字是經旨，上二句是大字，下二句是生字。蓋言聖功生者，定生於日月兩交之處也。何也？日月有數者，即日月行周天之數，如太陽每日行一度，太陰每日行十三度有奇，其與太陽望合會照，每月有六候，望前爲三陽，在卦爲震兌乾，望後爲三陰，在卦爲巽艮坤，總以日行五度、月行六十度，故曰月節有五六，經緯奉日使。又云：陰火息時陽火消，理分卧立順義爻，更隨黑白天邊月，六候方終晦朔交。此應人身一月之小周天也。太陽自冬至一陽來，復每月行三十度，三百六十日與太陰十二次交會，此應人身一年之大周天也。又論日月之小大有定者，專言天人合發造化之應時而動，在朔望前後各三日共二七日爲大，兩弦前後各三日共十四日爲小。今天機陰符應大而不應小，故大藥之發生必在會望之候也。經曰：兩七聚，輔翼人，此專指朔望前後日之各三日也。《玄脉心傳》曰：至人用功，契合日月，謂之火符。其故何也？凡一切人身天地之水與液，皆元氣所化，故炁稱水之母，殊不知太陰爲萬氣萬水之總持。即岐伯亦云：月廓滿則人身之氣血實，肌肉堅，月廓空則肌肉減，衛氣去，形乃獨居。即水族之爲物亦然，故月虛而魚腦減，月滿而蚌蛤實也。所以《陰符》大道準則日月，測候大小，依時下功，則天地人身之氣機自然牝牡相從，合符行中，謂之戊己，天符戊己者，晦日朔旦，月中坎水，流戊日中，離火就己，故曰天符。符火既浹，萬化旋萌，何慮功之不聖、神之不靈也耶！即純陽子所云：有人問我修行法，遙指天邊日月輪。此其證也。又云：地下海潮天上月，依此消長應圓缺。此即抽添進退機，便是虛空造化窟。不特此也，即大天地呼吸感應，無不以月之能力大處爲徵驗也。試觀朔望前後各三日，月之能力大而海之潮汐亦大，兩弦後各三日，月之能力小而海之潮汐亦小。崔奚範《天元入藥鏡》曰：天應星，地應潮。莫不本此。故曰小大有定。此解實爲《陰符》大道千古不傳之義蘊也。

其盜機也，天下莫能見、莫能知，君子得之固躬，小人得之輕命。

注曰：用不神之神，運無爲之功，合天人之候，契日月之符，潛修默奪，混俗和光，筋骨乃堅，神形俱妙，此君子得之固躬也。下士聞道大笑之，或得藉彼

神功，恃才妄作，直至喪身亡家，死而不悟，豈非藐天人之學於鴻毛，等性命之尊於塵芥，此小人得之輕命也。諺云：邪人得正法，正法悉皆邪，亦指此也。

## 陰符發秘 下卷

長洲八十老孩張清夜子還注

**聾者善視，瞽者善聽，絕利一源，用師十倍，三返晝夜，用師萬倍。**

注曰：篇之首章，復申明上經三要靜藏之機全在返源內伏，又以引起下文三要中而更有最神最要者以爲入聖之真樞也，故先言絕耳根之利，則兼倍於明，常道觀抄本明作聰。絕視司之利則兼倍於聰，常道觀抄本聰作明。何況三根盡返，而又能宵旦弗遑，其盜機克賊之功，可勝算哉？

**心生於物，死於物，機在目。**

注曰：耳目口三要之中，何以爲第一要耶？曰目是也。何以知之，曰原夫人生之初，一點元神，凝然中處，不識不知，朝成暮長，日漸知覺，元神變爲神識，則上遊兩目，心生愛惡，隨物生死，故曰意雖爲六識之主宰，眼實爲五賊之先鋒，若得此要返元，其餘九關三要返而自返矣。故曰心生於物、死於物、機在目。予聞佛典之六根六塵以眼爲先，太上有希夷微三者以視爲首，孔子四非之箴勿視爲先，至於帝堯之欽明、成湯之顧諟，《心經》之觀自在，《道德經》之觀有觀無，黃帝之三月內視，《陰符》之機在目，三教聖人之源，莫不以此爲轉機辨道之津梁也。

**天之無恩而大恩生，迅雷烈風，莫不蠢然，至樂性餘，至靜性廉，天之至私，用之至公。**

注曰：上章言冥目內觀即迴光返照之功，此節示聞響悟機乃聲入心通之妙也。世人營營事物，戀戀塵情，不知自己之本來真覺爲何物，苟非於無意間風霆一震，何能暫脫狂迷天真觀露乎？故曰天顯無恩之迅雷烈風，則一切之飛潛動植莫不躍然蠢動，惕然驚醒。時遇真心學道之人，自然直下承當。至樂者乃孔顏之樂，即西聖所謂禪悅法喜得未曾有之意。餘者，充然具足也。蓋言藉此一擊之

頃，則性之全體大現，見其涵容普徧，瀰漫六合，且又凝然清靜，胡能污染纖毫，故曰至樂性餘，至靜性廉也。吾意太空一震，不過二氣感觸，偶爾云然，又何有所謂公私之可議哉？然見性之功莫神此一擊也。故呂公有明明說向無消息，霹靂聲中自得根之語，即宗門家之敲金擊竹、棒喝拈椎，皆以顯此耳根圓通之妙用也。不特此也，即三身之妙諦亦不逾此，何也？迅雷烈風莫不蠢然者，聞聲見道，直下承當，蠢動含靈，皆證佛性，是名應化通身。至樂性餘者，遠離顛倒，身心安樂，性體含弘，遍周法界，是名圓滿報身。至靜性廉者，凝然湛寂，名不動尊，本無取捨，亦無污染，是名清靜法身。佛氏三身之說，無如此經之明了也。

### 禽之制在氣。

注曰：禽者飛揚之物，即天性之不能伏藏者也。炁者，太和氤氲之元氣，天人相應之秘機，獨能含情抱性、凝精毓神之至寶也。夫五賊未戕之真體，本以陰陽之妙合二五之精凝，曷用夫此氣制此禽乎？今也神既翱翔於紛華之域矣，氣隨陷溺於愛欲之場矣，所以聖人不得已而示以相制相成之妙旨。蓋神之與氣，猶男之與女、火之與薪也，今曰禽之制在氣者，猶用女以配男、用薪以傳火也，則天涯蕩子庶幾有鄉關之戀戀，不致於雲踪鴈迹也。但用氣之旨，聖經絕不言身中之氣，而必斤斤乎天人合發之機者，蓋以此軀為有形有質，皆屬於後天而不可用故也。

### 生者死之根，死者生之根，恩生於害，害生於恩。

注曰：萬物生皆死，故曰生生者不生，元神死復生，故曰未死先學死，其意云何？夫性體無搖，寂然常住，人何有去來生死之可議哉？無如人心向外馳騁，是須善用伏藏。伏藏者，未死先學死之道，即生之根於死也。苟不伏藏，便謂之生矣，生死維何？即心之生於物也，心既隨情著物，身自依時變滅，故曰生生者不生，即死之根於生也。恩生於害者，龍蛟起陸，根於霜雪之殘，雷動風行，昉於蟄潛之候；害生於恩者，姦邪蘊國，將成必潰之機，葉茂花明，實是摧殘之始。不獨此也，即人情世道，莫不皆然。所以斧斤鳩毒，每在衽席豆觴之間，彎弓下石，起於朝夕親暱之人，此太上所以有寵辱若驚之語，《火候圖》有刑德相負之機也，世出世間請事斯語。

### 愚人以天地文理聖，我以時物文理哲。

注曰：人見觀天察地之旨，以為《陰符》之學必在天星地文，幾至數繹分經，尋文理蹟，而不知奪神功改天命之道豈在茲乎？故以天地文理聖者，愚人

也。若夫時物文理哲者，即前文不神而神之謂也。時者即禍發機動之時，物者即物欲紛然之際，人苟能於禍發機動之時，不惟不令其有必剋必潰之勢，且能知之修之而又能返之，此時文之既明也。人又能於物誘紛紜之際，不惟不令其相殘相盜，且能回機內照，翕聚伏藏，此物理之且哲也。然此時文也、此物理也，豈非吾從朝至暮、舉足動念、觸著磕著，至親非外，至近非遙，只此極平常處，實是凡聖轉關之津要也。愚人捨此而他歧，豈非棄近而求遠乎？古人云：天然鼎爐，現成藥物，自然符火，此三語非聖人親行實證不能道此也。

人以愚虞聖，我以不愚虞聖，人以奇期聖，我以不奇期聖，沈水入火，自取滅亡。

注曰：聖人見素抱樸，和光同塵，俗人昭昭，我獨若昏，故人以愚測聖，則失之於卑下也，猶沈水也。宇宙在乎手，萬化生乎身，聖功生焉，神明出焉，此自然無爲之道也。世人以奇測聖，則失之於過高也，猶入火也，皆不足以語道者也。沈水入火，自取滅亡者，猶諺云仰面唾天、徒污己面之意。吾故曰且有真人而後有真知，庸知吾所謂聖之非人乎？人之非聖乎？詎知吾所謂不聖之所以聖聖、不神之所以神神乎？

**自然之道靜，故天地萬物生，天地之道浸，故陰陽勝，陰陽相推而變化順矣。**

注曰：此節上二句說先天，即不生而生生，以虛靜自然爲生天生地之根本；下二句說後天，即生生者不生，以陰陽化機之奉天應時而發育也。自然之道靜者，先天太極之體也，靜極則動，動極復靜，則天地之定位矣，於是而人物生焉。人物何以生？蓋以天地之道浸也，浸者如濕與乾之漸沁漸漬，無非形容氣機流動之象，即陰陽相勝之理如此。陰陽相勝者，即如陰之漸漸消一分，則陽亦漸漸息一分，陰之漸漸勝一分，則陽亦漸漸損一分，如是相推相盪，則變化順而人物得以遂其生矣。此明後天氣機之奉時而化育也。然《易》謂奉天時者，當知即此經所言天人合發之時、時動食時之時、日月小大之時，了無間義也，後真用火候二字，是知《易》之所謂奉天時者，乃火候之宗源也。

**是故聖人知自然之道不可違，因而制之，至靜之道，律曆所不能契，爰有奇器，是生萬物、八卦、甲子、神機鬼藏，陰陽相勝之術，昭昭乎進乎象矣。**

注曰：此承上文言先天聖人之道，天且弗違，而況於人乎？聖人由是而裁制一種至精至當之法，以盡其自然之道。但因而制之一句猶非定法，不過虛翕下文



爰有奇器一段經旨耳。聖人又復言：自然之道，廓然無象，冥然無蹟，既不可以音聲求，又何可以象數計乎？於是而奇器之制不得不逗漏焉。予節閱古今《陰符》解注，至奇器二字，無有不支離曲說、不暢經旨，殊不知經之首篇早已言之詳矣。經云立天定人，又曰萬化定基，此立字、定字、基字，皆奇器之伏脈也。亦即《易》之所謂正位凝命也。但奇器之名，古今不一：如《道德經》名曰玄牝，而《參同契》命爲鼎爐，《黃庭》謂之丹田，名乃異而用實同也。無非喻聖人之所以盜陰陽、藏造化，必有建立之基、經營之所。蓋奇者對偶之稱；器者受衷之府；故太極者，天地之奇器也；而奇器者，乃人身之太極也。此器不與天地並列而能生天地，不與萬法爲侶而能生萬象，超出萬靈，至尊無對，故曰奇器，實爲道之原炁之本，萬化之基，《陰符》之祖，聖人藉以下手施功之地也。發殺機於此器發，盜三才於此器盜，三要返於此，不神之神神於此。從此器而順育陰陽則生人生物，由此器而逆施造化則成聖登真，五行運而八卦生，兩儀旋而甲子布，合溯藏機，神迎鬼避，此統奇器之功能也如此。要知天地間本無萬物，只有萬象，本無萬象，只有卦爻，本無卦爻，只有干支，本無干支，只有八卦，本無八卦，只有五行，本無五行，只有四象，本無四象，只有兩儀，本無兩儀，只有太極，得其太極之元，則八卦自然內運，甲子自然進退，而陰陽自然升降矣。至功圓道備之期，則陰盡陽純而神明自然顯象，得其一萬事畢，其奇器之謂歟！既得奇器之真，則前所謂宇宙在乎手之奇，萬化生乎身之妙，今也見乎三要，充乎四肢，瀾漫六合，塞乎天地，歷歷分明，無有著現明顯於此者，故曰昭昭乎進乎象矣。嗚呼！三辰昭假，萬化現成，人亦何爲，而甘自棄乎！勉之哉！勉之哉！

## 《陰符經》經傳訂正

長洲八十老孩張清夜子還注

### 首卷

觀天之道，執天之行。

盡矣。

注曰：二字傳，贊辭。以蔽全經意。

天有五賊，見之者昌，五賊在心，施行於天，宇宙在乎手，萬化生乎身。

天性，人也；人心，機也。立天之道，以定人也。

注曰：十六字傳，釋文。天性人也，釋首二句；人心機也，釋五賊在心；立天之道二句，釋施行三句。

以上經文三十四字。

天發殺機，星辰隕伏；地發殺機，龍蛇起陸；人發殺機，天地反覆；天人合發，萬化定基。

性有巧拙，可以伏藏，九竅之邪，在乎三要，可以動靜。

火生於木，禍發必剋，姦生於國，時動必潰，知之修之，謂之聖人。

天生天殺，道之理也。

注曰：八字傳，釋文。經首段殺寓生；次段生寓殺；中伏藏、動靜，示修煉。天生天殺釋生殺道之理，示修煉。

以上經文共七十六字。凡一百一十字。

舊作上篇，而以傳文八字誤作中篇首句。

### 中卷

天地，萬物之盜；萬物，人之盜；人，萬物之盜。三盜既宜，三才乃安。故曰食其時，百骸理，動其機，萬化安。人知其神之神，不知不神之所以神，日月有

數，小大有定，聖功生焉，神明出焉。

其盜機也，天下莫能見、莫能知，君子得之固躬，小人得之傾命。

注曰：二十四字傳，贊辭。指盜機爲不神，神爲聖之隱。

以上經文六十八字，舊作中篇。

### 下卷

瞽者善聽，聾者善視，絕利一源，用師十倍，三返晝夜，用師萬倍。

心生於物、死於物，機在目。

天之無恩而大恩生，迅雷烈風，莫不蠢然。至樂性餘，至靜性廉。天之至私，用之至公，禽之制在氣。生者死之根，死者生之根。恩生於害，害生於恩。

愚人以天地文理聖，我以時物文理哲，人以愚虞聖，我以不愚虞聖，人以奇期聖，我以不奇期聖。

注曰：三十七字傳，釋歎辭。人見聖人絕利忘機，遂以爲愚，見聖人刑賞與奪，遂又以爲奇。

沈水入火，自取滅亡，自然之道靜，故天地萬物生。

天地之道浸，故陰陽勝，陰陽相推而變化順矣。聖人知自然之道不可違，因而制之。至靜之道，律曆所不能契。

注曰：四十二字傳，釋文。

爰有奇器，是生萬象、八卦、甲子，神機鬼藏。

陰陽相勝之術，昭昭乎進乎象矣。

注曰：此十三字傳，贊辭。

以上經文凡百二十四字，舊作下篇。

通共別出傳文百四十二字，得經文三百零二字。舊共四百四十四字，不分經傳，於三百字之數太溢，今辨其文義，經傳宛在。

友人鄧君少琴，得自牧道人張子還著《陰符發秘》於東川書肆敗紙堆中，以示余。道人住蜀青羊宮數十年，善書翰，兼工詩，相傳尸解去。所著書，舊無刻本，此鈔蠅楷差工，而訛奪稍多，兼以寫官無學，字句亦誤有增損，可慨也。《道藏輯要》中有瀋陽范宜賓《陰符玄解》一編，其序云：“得自牧道人所著《陰符發秘》一冊，其中秘密，道人已流露於前，則隱而未發之義，

不得不解之於後，以成上下符合，名曰《玄解》。”則范解實踵此注而作。今范書存於《道藏》，乃此編反沉蕕塵壤百餘年，世鮮知者，非少琴之勤於搜討，烏能得之。道人所爲注，皆靜中體認，會心自得之言，固非泛爾詮釋文句之比。余嘗論禪宗爲中國唐後自成之佛學，而宋人理學因之，爲唐以後更有深詣之儒學。全真教則爲繼禪宗理學而起，又非六朝唐宋往昔道教可比擬。於《陰符》此注，益信之也。融會唐後之儒釋而獨取其精，三教合一之然否，其故豈可以口舌論邪？原有沈裕雲序，及道人自序，稍有殘缺，審其文義上下，與范解序語義合，因取范文補之，以其爲說淵源固有同也，而字數乃適相當，道人序遂有完篇，事亦至奇。仲氏文敦旋得羅氏觀妙齋聚珍本，頗足是正，以校余據范文所補竟能合，洵足快也。羅本注文亦每有奪誤，幸抄本可以正之，抄本之失，則從羅本，其可兩從者，不徑改也。自牧道人書，於此有定本。書後有《玄門戒白》一篇，仍其舊亦校而存之。道人以經舊爲四百四十四字，不分經傳，於三百字之數太溢，重爲訂正，別出百四十二字以爲傳文。“愚人以天地文理聖”句眉注云：“六句乃岐伯贊詞。”是道人謂傳爲岐伯之作。而注經時仍未刊落，僅於卷後詳分別之，猶乎考異之作，則道人之慎也。而羅氏本佚之，誠棄所不當者也。稍整比其行列，仍附卷末，則幸此抄本之存，而道人書尚得爲全璧。又考李筌序言：“《陰符》三百言，百言演道，百言演法，百言演術。”此三百言之數也。然《李疏》實止“時物文理哲”，適足三百。舊爲注者，多止於此。後溢百一十二言，固非李本所有。《朱子語錄》間丘次孟謂：“《陰符經》自然之道靜數語，雖六經之言無以加。”楊道夫以爲《陰符經》無此語。此正楊所見爲李本，而間丘所言非李本，多少固不同也。不審道人何以從李氏三百言之說，而用非李氏三百之本，乃獨自出心裁，別其經傳，則非末學之所能知也。唐吳筠《守神篇》引《陰符經》曰：“經冬之草，覆之不死，露之見傷，火生於木，禍發必剋，精生於身，精竭而死。”今傳《陰符》惟火生於木二句，餘均不見。則即間丘之本，亦復少於吳筠所見者，遑論李氏，則《陰符》異本多矣。而道人所云，“聞人誦此經作精生於炁，情動必潰”，乃略與吳筠引合，亦足異哉？道人未必讀吳筠書，而聞人所誦，則固古本《陰符》也。山谷云“《陰符經》即筌之作”。清代四庫館臣以爲口實，亦未必然。以吳筠固非後於李筌者也，而本復不同。《神仙感

遇傳》言：“李筌號達觀子，居少室山，至嵩山得《黃帝陰符本經》。開元中爲江陵節度副使，御史中丞。筌有將略，作《太白陰經》十卷，又作《中臺志》十卷。”此明著筌爲開元間人，四庫館臣殆未考耳。《集仙傳》言“筌仕至荆南節度副使、仙州刺史”，正與《感遇傳》合。今傳《太白陰經》前有筌《自叙》及《進書表》，並有結銜，與《仙傳》殊異，而其爲一人固不疑也。《中臺志》十卷，見《郡齋讀書志》，倫敦卷子本又有《閩外春秋》十卷殘本，前有天寶二年筌自上表，又自稱少室山布衣，而本作李荃，筌、荃爲隸變之差，仕隱亦先後之別，固自瞭然，乃乾隆間爲《提要》者既失考於先，而嘉慶間修《全唐文》者又列兩李筌，復大謬於後，世之論者乃或踵之，益滋異說。是李筌其人既多參差之辭，而《陰符》之書復多不同之本，此論古之所以多誤解者也。抄本後復有《達磨胎息經》亦爲羅氏所無，後題子還作，胎息書傳自昔，而稱子還作，亦未審其故，則亦仍舊存之。別有青羊宮刻《陰符經》碑，後附道人跋文，與《自序》義亦合，並存卷末，以道人文傳者未多，不以複爲嫌也。陳清覺、張清夜、穆清風三人者，皆來自武當，今蜀之道冠，皆三家之法嗣，而自牧道人重開武侯祠、青羊宮兩道場，其迹更偉。今既得其書，三復校正，劉丈豫公謂宜付二仙菴刻之，收入《道藏》。因錄清本，俾顯其傳者得有以究其旨義，考求文獻者，固將有取於是也。

歲在丙戌九月十八日蒙文通校後記

上《新校陰符發秘》，係1946年先君子所校訂者，校竟寫有清本及《校後記》。並請謝無量先生爲新校本作序，楊潤六（正芳）先生爲作者作《自牧道人別傳》。謝序、楊傳及校後記並發布於《圖書集刊》第八期。今茲整理一據清本，唯清本僅載謝序，今補入校後記及楊傳。原抄本附有《胎息經》，清本未載，當以胎經傳自古昔，或人誤爲子還作而附於子還書後，寫校記之初擬“仍舊存之”，而寫定清本時乃予剔去，今依清本不附。

## 附錄一：玄門戒白乾隆丙寅

牧道人清夜於壬戌歲歸葬二親畢，不覺身世兩忘，倏然懸解。乃至明年癸亥復入蜀，棲息成都，往來於青羊宮、武侯祠之間。因念遭際之隆，益愧自修之淺，日夜兢惕，希累尺寸，以仰酬四重。奈既託蹟清虛，無由建白，惟有罄其所覺，以勸方來。於是大白於衆曰：皇天無二道，聖人無兩心，教象雖殊，制行惟一，乃知孝弟忠信爲三教之主宰，禮義廉恥實列聖之綱維，立基既固，冲舉何難！大本一虧，飛昇奚自？其他異端邪說，皆因傳者之訛，至若惑世誣民，蓋緣學之不正。且《道德》五千言，總以清靜爲宗，《金丹》四百字，惟期守真是務，《參同契》、《悟真篇》，並未及役鬼驅神，《心印經》、《青華錄》，何嘗是燒茅煉汞，無論功修內外，胥依德行淺深，若聖石《指玄篇》、崔公《入藥鏡》，字字專精似金碧，《龍虎經》、《銅符鐵卷文》，言言的確。只因心別公私，以致事有成敗，而乃歸咎先師，流浪塵劫，永無出期，寧不悲哉！今我發大慈悲，立洪誓願，直指真機，敷陳道要，披青作誓，敢希諦聽。夫自古拔宅飛昇者，無非功高德厚之人；凝神駁氣者，悉皆專心致志之士。故三千八百，立有程規，七返九還，著其定數，太乙含真之氣，蓋藉神而凝，不徒是咽精服氣，一陽初復之機。因無心而會，豈專在默坐頑空，似此腳踏實地，功到自然成，如彼捕風捉影，畢世何由覓？近世師愈多而道愈歧，德愈薄而心愈昧，或偏執一隅，至死不回，或首鼠兩端，終身罔濟，或藉瘋顛以欺人，踰閑蕩檢，或假黃白而蠱衆，滅理欺心。無怪牛毛學道，兔角成仙，甚至藁葬郊原，橫填溝壑，惡風相繼，舉世知非，仙派源流，於今幾絕。爲勸方來，各宜猛省，急早回頭。步步踏矩循規，事事敦倫飭紀，盡力乎孝弟忠信，黽勉乎禮義廉恥，須知大道出自綱常，綱常外無大道，廣行方便，多積陰功，庶幾修內丹者龍虎伏而鬼神欽，專爐火者魔障消而福緣湊。準是以求，得同操券；爰茲而取，易若探囊。謂不信者，請質心於三清聖人；如涉是誣，願投靈於四生別殼。謹白。

## 附錄二：青羊宮《陰符經碑》跋

世之論《陰符》者多矣，或曰廣成子所作，授之黃帝；或曰春秋時書；紫陽氏謂戰國見道之士所作；或又云養生、王政、兵法。諸家注解，紛然不一。余今以一言斷之曰：皆是而皆非也。何以故？《易》曰仁者見之謂之仁，知者見之謂之知，則出世者目爲養生是也，爲治者目爲王政亦是也，師旅者云兵法亦無不是也。若執何者爲是，即非矣。惟其所莫能拘、莫能定，以之推及於萬事萬理，而莫不至當，此其所以爲《陰符》。乃崆峒授受之文，爲墳典丘索三教百家經書文字之祖，以天地幽明而原始要終，明天人未生之前、有生之後，其所以生所以死之故，蓋天地與人參三才而一理，是以指天道而明人道，言簡而理該，義深而易。總之，首以明機察物，繼以知動知時，而防剋防潰，其徹始徹終，不過以自然至靜爲功夫，以法天行健爲法則。審能如是而知之防之、體之行之，則可超乎有生有形之外，而至於無聲無臭之鄉，生滅兩忘，與太虛一體，豈止養生王政兵法而已哉！春秋戰國之說無據，姑存而不論，故曰皆是而皆非也。今王來通以是經勒石於道院，其一片至誠堅確之心，不獨自行精進，實足以啓發後人者，余因欣喜而爲之跋。

長洲道人張清夜 并書

乾隆十六年辛未四月 穀旦 住持道人王來通敬立

## 附錄三：自牧道人別傳

楊潤六撰

張清夜字子還，號自牧道人。初名尊，江南長洲人，蓋生於清之康熙十五年丙辰歲。少爲諸生，博學工詩，書法顏魯公，東吳名士也。嘗遊歷四方，浩然有物外想。至武當太子坡，遂從余太源真人爲黃冠。雍正元年，歲在癸卯，時道人年四十有八。溯江入蜀，遍覽峨眉青城之勝，見山水之險異，察人事之變遷，益信事物有有無無之微妙。先後居蓉垣臨江寺、惜字宮，一琴一榻，蕭然自得。先是蜀撫憲德屢上書請事，未蒙朝允，幕僚咸憂之，道人爲點竄數字，更奏，事遂得行。蜀撫大異之，欲其出仕，不肯，乃請主武侯祠事。以上聞諸劉豫波先生。道人於雍正七年歲在己酉，時道人年五十四。秋，移住武侯祠，謝絕塵俗，涵習清虛，暇惟展玩《陰符》。復以餘力培園陵，植松柏，殿宇垣墉，煥然一新。祠之別院有池荷，道人所手種也。有軒曰藕船，藕船迤南爲道院，舊顏曰藏密，再南即紫陽洞，景物幽邃，去故啓新，胥道人之力。按乾隆四年己未，道人年六十四，所撰《青羊宮祖塋碑記》，自題重開武侯祠長洲道人張清夜。考安夏屬道人理青羊宮在乾隆八年，是時道人但爲祖塋作碑記，故自題云耳。乾隆七年，歲在壬戌，時道人年六十七。復於後殿補植柏林，據《成都陵廟志》。是年道人旋歸江南葬二親畢，不覺身世兩忘，翛然懸解，時年六十七矣。翌年時乾隆八年，歲在癸亥，道人年六十八。復入蜀。時華陽令安洪德、成都令夏紹新，既重新青羊宮，復其田畝，重道人之高隱，以青羊宮屬理焉。道人曰：此雖道教祖庭，爲吾分內事，然吾老無能爲也。郡守文公案舊志：時成都知府爲王時翔。又諄諄懇請，不克固辭，遂令其徒汪一萃任之。道人亦時往來於青羊宮武侯祠之間。越二年，乾隆十年，歲在乙丑，道人年七十。即於青羊宮創懸鍾板，接待十方，一時道衆聞聲雲集，清規復振，儼然一大叢林矣。乾隆十一年丙寅，時道人年七十有一。道人因念遭際之隆，日夕兢惕，乃罄其所覺，以勸方來，作



《玄門戒白》。辛未，時乾隆十六年，道人七十六。住持王來通以《陰符》勒石，道人親爲書之，並跋其後。甲戌，時乾隆十九年，道人年七十九。道人作《陰符發秘》成，題曰八十老孩。按是時道人實年七十九。若谷沈裕雲爲之序。己卯，時乾隆二十四年，道人年八十四。青羊宮增飾殿閣，次第告成，先後已歷十一載。勒重建青羊宮碑，安洪德爲撰碑文。乾隆二十八年，歲次癸未，道人無疾而逝，世壽蓋八十有八。道人鶴髮蕭疏，吐詞清妙，工書，著有《潭東草》。厥後瀋陽范宜賓於乾隆壬辰歲，時爲乾隆三十七年。得道人《發秘》，宜賓紹嵩山先生之傳，見道人秘訣，同出一途，其中秘密，道人已流露於前，則隱而未發之義，不得不解之於後，遂更作《陰符玄解》，其序云：“道人素明南宮之術，却於內丹成道，惜已尸解而去，不得面叩爲恨耳。”

謹按民國二十一年青羊宮住持劉教賓重建道人墓碣，其文頗略，《成都志》亦復不詳。友人蒙文通據安碑知乾隆己卯道人年八十四，因考各序記，得推論道人之年世生平如此，正芳因取以爲別傳，於尋道家統緒者，倘有裨焉。



[General Information]

书名=蒙文通全集 5 道教甄微

作者=蒙文通著

页数=689

SS号=13941762

DX号=

出版日期=2015.05

出版社=成都巴蜀书社